收容書目

夢之代

日本經濟叢書

卷二十五

日本經濟叢書刊行會

日本經濟叢書卷二十五目次

解題

夢之代

本書は天文・地理・神代・歷代・制度・經濟・經論・雜書・異端・無鬼及雜論の十一項に就き、著者の師事せる中井竹山及履軒兩人に聞き得たる事柄を、筆に任せて書集めたるものにして、其の次第は著者がその序文に告白する所の如し、然れども著者は後段に記るすが如く、非常の卓見家にして、固より毅然たる獨創の識力を有し、殊に經濟上の問題に至りては、中井兄弟の如く徒らに机上の空談を事とするものにあらず、自ら其の事に當りて實歷經驗したる所なれば、其の記述論評する所、頗ぶる肯綮に當り、之を竹山の草茅危言履軒の雜著等に比較すれば、却て大に見るべきものなきにあらず、然れども本書十二

巻中專ら經濟上の問題に涉るもの、第五（制度）及第六（經濟）の兩巻に過ぎずして、聊隔靴搔痒の憾なきにあらざるも、要する所本書全部を通讀玩味すれば、著者の社會經濟觀の尋常凡庸にあらざりしことを知るべきなり、但本書は全篇を十一項に分類しあるも、其の區別甚だ明瞭ならず、例へば上記制度の篇（第五巻）と經濟の篇（第六巻）とは、條目に於て截然と分類しあるも、其の內容は殆んど彼此混同して、二者の區別を見ること能ざるの趣あるも、凡そ斯くの如きは德川時代の著者に於て、殆んど皆免かれ難き通弊なれば、之を本書にのみ咎むべからざるは論なきなり

著者山片芳秀は、本姓長谷川氏、初名は有躬、字は子厚、後ち名を芳秀、字を子蘭と改め、蟠桃と號す、播州印南郡神爪村の人なり、著者の傳記は浪華人物志などに其の大概を掲げたる外には、海保靑陵の經濟談（本叢書第十八巻に收容せり）中に、升小談と題する一篇あり、（升小は升屋小右衞門の通稱なるべし）芳秀が非常の敏腕を揮つて、仙臺侯を初め諸大名の財政を整理したる

事蹟を記しあるも、其他には從來餘り多く世上に傳へられざりしが、去ぬる明治四十三年、文學士幸田成友氏が、大阪朝日新聞に升屋小右衞門と題して掲げられたる一篇は、著者の來歴を記して最も明細なりと云ふべし、今此にその二三節を摘錄すれば、左の如し

小右衞門の本姓は、長谷川氏、印南郡米田村大字神爪村長谷川安兵衞の弟で、延享三年に生れて居る、幼年の時から大阪に出て、今橋三丁目河内屋與兵衞といふ兩替店に丁稚奉公をした、天性讀書好で、其爲に肝要の用事に間に合はぬことが一二度のみで無いので、主人も我慢しかねて放逐したが、之を拾ひ上げたは、同業升屋平右衞門山片氏である、平右衞門は當事諸侯の金方(かた)を勸め、金廻り宜く、又懷德書院の門人であつた故、書物好の丁稚を引取て世話したものらしい、これが家業に出精し、段々出身して別家となり、本家の東隣に家を持ち、山片氏を名乘り、升屋を稱するに至つたので、彼は當主平右衞門重賢、其子平右衞門重芳、二代に仕へて忠節を

盡し、文政二年三月五日、幕府から町奉行所の手を經て、銀三枚の賞賜に與つた

彼は丁稚より身を起し、堂々たる大家の別家となり、梶木町即ち内北濱五丁目魚棚筋より、二軒目南側に家を構へるやうに出世した、先代平右衛門が死んだ時、當主は僅かに五歲であつたといへば、本家の維持には少からず心力を勞したのであらう、彼が文化の頃から眼病に罹り、遂に盲目となつたのも、或は之に原因したかも知れぬ、尤も文政二年以前にも、凶年に對する貯藏米の事を講じて、御褒美を頂いたといふが、其詳細は遺憾ながら判然せぬ、盲目は不幸とはいへ、七十二歲の老翁は二代の主人に對する忠節を幕府より認められたのである、錦衣故鄉に歸るべき時機に到着したのである、其處で朱塗の三組盃を作り、之を故村一軒別に贈物とし、且添ふるに小判一枚づゝを以てした、三組杯は現在神爪村の本派本願寺派覺正寺に存し、新年の祝酒を汲む時に使用せられて居る、小盃の表には幕府賞

賜の申渡書、裏には梶木町升屋小三郎同居小右衞門の十數字を金粉にて記し、中葉には柏の小枝を金銀粉にて、又大盃には記念として之を呈ずる由を述べ、「文政二といふとし、なにはにすめる山片よし飛でしるす」と金粉にて書いてある、小三郎は平右衞門の子芳達の事なるべく、芳秀は小右衞門の名である、彼は字を子蘭といひ、號を蟠桃、又は有躬といつたといふ、柏の小枝には葉が三枚ある、三柏が家の定紋であつたものだらう
小右衞門は、記憶力の强い人で、或年本家が火災に罹つた時、金銀出入の帳簿を失ひ、頗る當惑したるに、一々之を暗記し居りしため、容易に新帳簿を作るを得たと傳へて居る、而して彼は一方ならず、火災を恐れた爲往來より幾尺かを退けて新建築を爲し、中二階より容易に上り得るやう通路を開き、中二階には少からず鹽菰を備へ、事あれば直に是等の鹽菰を出して屋根を蔽ひ、火粉の燃え附くを防ぎ、かくして二度まで類燒の災を免れたといふ

文政四年二月二十八日は、彼の死亡の年月日である、法號を宗文といひ、遺骸を天滿の善通寺に葬つたが、墓石にはたゞ長谷川氏墓とのみある、故鄉神爪村の人々が、彼の德を稱して建てた墓石は、今も覺正寺にあつて、表には釋宗文墓、裏には長谷川安兵衞弟俗名山片小右衞門、右側には施主當村中謹建之、左側には文政四巳二月二十八日往生とある、今同村長谷川粂四郞氏といふのが、安兵衞の四代目に當る人だが、同氏も亦妻女も安兵衞の血統を牽いて居ず、小右衞門の玄孫三藏氏は、五年前東京にて沒せられ、小右衞門の家を相續して居られた小三郞氏も、七八年前沒せられたといへば、先づ長谷川家の血統は、全滅したものといつてもよからう

幸田氏の記する所、大要斯くの如くにして、著者の出身經歷略〻之を悉くせりと雖も、尙「浪華人物誌」には、其の爲人を賞揚し、「英邁にして智あり、學を好みて業を中井竹山に受け、旁ら麻田剛立に從て天學を學び、又蘭學を喜び、當時博學を以て聞ゆ、常に好んで經濟を談じ、身主家の事を管するに及

び、益〻諸藩國に廣く貸出し、諸侯に寵あり、竹山及弟履軒常に蟠桃の識量あるを稱す、故に中井門皆目して孔明と云へり、」云々と記し、又「桑名老侯松平樂翁、もと蟠桃の人と爲りを嘉せしが、「夢之代」を讀むに及び、益〻之を奇とせり、當時阪人市中の人物を評するに、必蟠桃を以て第一流と爲せり、」云云と云へるが如き、皆過賞の言にあらざるを見るべし、海保靑陵は、其の「升小談」に於て「升小ガ升平ノ家ヲ興シタルハ、家法ヲ立テタルガ始マリ也、今ハ升小ノ法ヲ諸家ニテ寫シ取リテ、鴻池、加島屋ヲ始トシテ、皆升小ヲ師トシテ法ヲ立ル事ナリ、」と述べたるを見れば、彼が當時如何に大阪に於て重ぜられしかは、推察すること難しと爲さず、著者は本書の外に、米價及一般の物價を論じたる「大和辨」なるものを著はし、文化年間、竊かに政府へ獻策したる事あり、其の書今現に某大家に收藏しあるも、祕して我々の閲覽を許さざるは、編者の遺憾とする所なり

本書は編者の收藏に係る寫本を底本としたるものなり、此の寫本は著者が生

存中他人に謄寫を命じ、十數部を製して友人に贈與したるもの丶一なりと云傳へたるものなれども、書中往々誤字誤寫ある事を發見せしかば、編者は曾て內閣文庫に收めある數部の寫本を對照し、且現存山片平右衛門氏、(著者の主家山片平右衛門氏の末裔)の家藏本、(是は正本の寫の由)をも借覽して、訛誤を訂正したる所少なからず、但憾らくは本書の未だ脫稿せざるに先ち、著者は不幸にして盲目となり、終卷の部分は其の子及門人等に口授筆記せしめたる位にて、固より著者自筆の正本などは、何處にも存せざることなれども、山片家所藏本の正確なることは、同氏が本書の發刊に付き編者に寄せられたる書面の一節に明記しあれば、參考の爲め此に揭ぐ

夢の代は、著者中途にて盲目と相成り、子芳達外門人に命じ筆記せしめ、後之れ讀ましめて、一々修正せしと聞及び居り候へ共、此稿本は著者の血族にも傳わりしとは承らず、最も正しきと思わるゝものは、子芳達の淨書して著者が手さぐりに序文を認めしものに有之、此書は著者の玄孫三藏な

る者、先年東京にて沒し、今何れにあるや詳かならず、小子所藏の書は右正本の寫しにて、匹田氏なる著者の血族、先年亡滅の際、家父の收めしものに有之、序文の字體振へ居るは、盲人の筆跡を其まゝに謄寫せし由に候右の次第にて、本書は未だ曾て出板發行せられたる事なく、其の寫本すら坊間に傳はるもの甚だ稀れなり、尤も本書十二卷の中第十卷（無鬼論の上）のみは、故内藤耻叟氏の編纂に係る「日本文庫第十二編」に、「無鬼論辨」として出板し、編纂者は其の解題中に、「無鬼論」の事を辨ずる頗直截痛快なりと云へり、斷篇零册猶且つ斯くの如し、本書全部の價値知るべきのみ

内閣文庫本の閲覽に付きては、其の時の内閣書記官長柴田家門氏の盡力に與りたること少なからず、又著者が本家の遺族山片平右衛門氏、（現在大阪に住し嘉納合名會社々員たり）は特に編者の爲めに、其の家藏本及卷首に揭げたる著者の筆蹟并に所用の藏印等を貸與せられたり、此に一言して關係諸氏の厚意を謝す

（附記）著者は本書未だ稿を脱せざる中、不幸失明して其の子及門人に筆授せしめたることは、本文所記の如し、然るに編者今之を出板發行せしむるに當り、偶〻眼病に罹り、自ら執筆すること能はず、書生に口授筆記せしめて、僅かに此の解題を草したるは、頗ぶる奇緣なりと云ふべし、讀者本書の紹介の不備なるを咎むるなくんば幸甚

大正五年六月　　瀧本誠一

解題終

山片芳秀眞蹟

文曰浪華山
片氏之印山
片芳達謹製

山片芳秀眞蹟

山片芳秀所用印
文曰蟠桃軒圖書

山片氏之印
文曰涙華山片氏之印山片芳逢謹製

夢之代

山片蟠桃著

自叙

夏の日の長きに倦みて、枕を友とし眠らむとせしが、忽ち思ふに、我すでに齢五十に過て、徒に稻を喰ひ布帛を衣て、枕にのみなづむは、口惜しきことにあらずや、然りと雖世敎に及び人を治むる事は、我輩如きの任にあらず、せめては我竹山・履軒二先生に聞たる事を書つらねおきて、子孫の敎戒ともせば、此上の本望ならむかと、硯にむかひて書そめしより、日々に眠萠さんとすれば、忽ちおしまづきによりて、筆をとり書付るのみ、其中には國家の事に及びし事もあるべきなれども、咎むべからず、唯これ一家の事のみ、他人の見る書にあらず、此卷の始は眠りを止めて書しまゝに、宰予の僕と題せしに、履軒先生難じて、夢の代とあらため題すといふのみ、享和二年歳星戌にやどる夏六月吉日、隱市の散人是をしるす

夢之代目次

引用書目

天經或問　天經或問注解　通德類聚　天文經緯問答
暦算全書　麻田先生暦法　同消長法　平天儀圖說
四餘暦　三才圖彙　萬用通書　徵私東太陽明界圖
暦象新書　歳藏七曜暦　天地二球用法記　晝夜長短解

地球圖　大明九邊萬國總圖　大日本輿地圖　唐土歷代沿革圖
三國通覽　伊豆七島圖　東街道圖　中山道圖
國圖（山城　大和　河內　和泉　攝津　近江　丹波　丹後　但馬　紀伊　播磨　美作　九州　京　江戶　大坂　南部　鎌倉　長崎　界　仙臺　姬路　平泉　松島）　大坂陣圖
二水分流圖　五畿內名所圖繪　但馬道中記　大明一統志
廣輿記　圖說　泰西輿地圖說　采覽異言
紅毛雜話　萬國新話　琉球談　昭代叢書〔一本作義恐誤〕
山海經　清俗紀聞　長崎聞見錄　五畿內志
雍州府志　難波舊地考　奧羽觀迹聞老志　東奧紀行
東遊記　西遊記　長明海道記　但馬考
淺間炎上記　異國來往記　無人島漂流記　安南漂流記
仲山傳信錄　主圖合結記　太田文　異稱日本傳
善隣國寶記　閱史約言　モヽシキ　舊事記
古事記　古語拾遺　日本紀纂疏　元々集
神皇正統記　古史通　舊事記僞書明證考　古事記傳
神代卷口傳　同口訣　同日蔭艸　神代正語　天淵記

大日經　普賢經　法華經　善光寺緣起
元亨釋書　聖德太子傳　三世相　親鸞和讃
蓮如文章　儒佛花見問答　儒佛論聞書　九山八海解嘲論
日本高僧傳　泰澄和尙傳　前王廟陵記　本朝六國史
日本書紀通證　本朝通記　本朝皇胤紹運錄　日本紀略
扶桑略記　和漢紀年錄　和漢帝王年表　和漢合運
年代記　日本王代一覽　大日本史　延喜式
明月記　百錬抄　令義解　本朝文粹
職原抄　江家次第　後三年畫卷辭　今昔物語
宇治拾遺　新撰姓氏錄　故實類聚　保建大記
拾芥抄　和名抄　源氏談　伊勢談
土佐日記　昔傳拾要　禁裏年中行事　朝野群載
日本人物史　長湫記　通語　保元物語
平治物語　平家物語　盛衰記　東鑑
太平記　三楠實錄　應仁記　室町日記

織田軍記　太閤記　伊達軍記　陰德太平記
甲陽軍鑑　松平實錄　德川記　烈祖成績
逸史　御年譜　三河後風土記　駿河土産
東照宮御遺訓　家忠日記　武家高名記　武家盛衰記
朝鮮太平記　老人雜話　慶元記　諸家興亡記
諸家深秘錄　武德大成集成　武德編年錄　藩翰譜
岩淵夜話　大坂軍記　武林隱見錄　落穗集
同拾遺　柳營秘鑑　寛明事迹錄　國朝舊章錄
本佐錄　武家和語〔一本作武家話〕　武家後證　武家故諺記
復讎論　大石物語　夜會の記　五事略
折焚柴ノ記　諸家知譜拙記　室町時代雲上鑑　雲上明鑑
武鑑　讀史餘論　國朝諫諍錄　制度通
金銀歷史　和漢錢彙　御成敗式目　度量考
政談　經濟錄　獨語　有問星
續有問星　華胥國物語　黑田如水公遺書　植柵茅議

集義和書　集義外書　大學或問　艸茅危言
新論判例　廳事秘錄　板倉政要　大岡忠相記
野芹　本朝軍器考　嚴秘錄　十三經
四書大全　五經大全　孝經刊語　論語徵
非物篇　非徵　中庸發揮　中庸定本
七經彫題　泰伯章講義　說文　字彙
正字通　玉篇　廣韵　唐韻
集韻　韵會　洪武正韵　康熙字典
淵函類鑑　韵鏡　文選　孔子家語
國語　老子　莊子　列子
說苑　楊子方言　古文眞寶　西京雜記
文苑英華　貞觀政要　文献通考　名臣言行錄
伊洛淵源錄　小學　近思錄　學蔀通辨
蒙求　世說　二程全書　語類
瑯琊代醉　事物紀原　楚辭　荀子

淮南子　孔叢子　事文類聚　風俗通
白虎通　五雜爼　大學衍義　鹽鐵論
帝範　臣軌　聖諭廣訓　六諭衍義
牧民忠告　靖献遺言　二十一史　十八史略
通鑑綱目　歴史綱鑑　元明史略　戰國策
呂氏春秋　家塵比事　瑣語　質義篇
四時言葉　甃庵先生和文集　不問語　和漢名數
儒林姓名錄　駿臺雜話　窓須佐美　中興鑑言
都鄙問答　訓蒙圖彙　職人盡歌合　好古日錄
好古小錄　桂林漫錄　內科選要　子玄子產論
六物新志　一角纂考　解體新書　養生大機
廣惠濟急法　養生訓　內外謠曲　徒然艸
觸耳集　雨夜之燈　珍書考　典讀接
柳子新論　山海名產圖繪　燕居偶筆　七不可三不治
治勞篇　萬國管闚　和蘭醫話　漫遊文艸
日本七福神傳　地理根源記　宇佐問答　三法方典

凡　例

一　此書ノ作ヤ他人ニ示スニアラズ、故ニ其言辭修飾スルコトナク、唯其心ニ浮ムマヽニ書ツラネタレバ、固ヨリ鄙陋ナルハ其所ナリ、又子弟兒女子マデニモヨマシメントス、故ニ尙サラ野鄙ヲバイトハズ、心ノ及ビ假名俗語ヲ以テス、經書ヲ引トキハ、止コトヲ得ズシテ漢書ヲ用ユ、故ニ他人コレヲ見玉フトモ、其鄙俚ヲ笑フコトナカレ

一　天文地理ノ部ニ於テハ、初メニハ謹シミテ古法ヲ述ブト雖、ツヒニハ當時制禁ノ地動ノ說ヲ主張シ、又ツヒニ存分ノ臆說ヲ發シ、視ル人ヲシテ迷謬セシム、コレ我ノ罪ナリト雖モ、コレモ亦心ノ浮ムマヽニ〱書及ボシタルナリ、アヤシムコトナカレ

一　神代ノ部ニハ、古往傳來ノ說ヲヤブリ、恐多クモ我皇祖ノコトヲ議シ奉ルコト、其罪ノガルヽニ所ナシ、歷代ノ部ニハ國史ノ謬誤語ヲ刺リ、ツヒニ我神祖ノ事ニ及ブ、カヘス〲モ恐ルベシ、故ニコノ書人ニ弘ルコトナカレ

一　制度經濟ハ、コレ亦其位ニアラズシテ其政ヲ議スルモノナレバ、恐ルベキモノカ、然レドモ徂徠・太宰二先生ノ經濟錄・政談・獨語ノ類アレドモ、世ニ行ハルヽヲ以テ見レバ、公ノ御心ハカクノゴトク

ソレ狹小ナラザルモノカ、寛仁ノ至リニ浴シテツヒニ大言ヲ吐クモノハ、上ヲ恐レザルノ甚シキナリト雖、幸ニシテ我罪ヲ免レシメヨ、金銀米錢ノコトヲタヽミ云フコトハ、當世ノ經濟ハコヽニ在故ナリ

一　經書ヲ議論シ古人ヲ褒貶スルコトハ、尙サラニ管見井蛙ノ小ナレバユルサルベキカ、異論ヲ排スルハ賢聖ノ遺敎ニシテ苟モ書ヲ讀モノヽ辭セザル處、無鬼ノコトニ到リテハ後人ノ議論ヲ恐ル、唯コレ聖賢鬼神ヲ敬シテ敎ヲ立ルノ義ニ背クナラント雖、聖人ノ敎ハ直道ヲ本トス、シカルニ神アラバ有ト云ベシ、無クバナシト云ベシ、何ゾナキモノヲ有トシテ人ヲ迷サンヤ、是ヲ以風俗ヲ敎道セントセバ、コレ佛家ノ方便トナンゾ撰マン、所謂五十步ヲ以テ百步ヲ笑フモノナリ、故ニ今佛ヲ排シ鬼ヲ退ケ、三代ノ直道ヲ以テ之ヲ辨ズ、スベテ鬼神ノ說ニ溺レテ往テ還ラザルモノヲ敎ユルモノナリ、必ズシモツヨク無鬼ノ論ヲ云立ツルヲアヤシムコトナカレ

一　古ヨリ唯一通リノ道ヲ論ズルトキハ、其語ユルヤカニシテ順正ナリ、不義ヲ排シ不道ヲ戒ムルハ、其論キビシクシテ圭角アリ、孟子ト雖圭角ナキコトアタハズ、如何トナレバ、此時楊・墨道ニフサガル、コレヲ開カントスレバ、其病ニアタル攻擊ノ劑ヲ施サズンバアルベカラズ、是ヲ以テスラ尙治セザルナリ、何ゾ溫順ノ語ヲ以テ其不義ニアタラン、孟子スデニシカリ、況ヤ後世紛擾タルヲヤ、ユヱニ其論ニイタリテ圭角多キヲ免レズ、必シモ太宰風ナリト非トスルコトナカレ

一　コノ書古ヨリアリフレタル議論ハ、ソレ〳〵ニユヅリテ擧ルコトナシ、只其新說發明ノコトヲ擧ゲ、又世間ノ謬リ來リタルヲ改正スルモノナレバ、ミナソノ古ク傳ヘタルヲ用ヒザルナリ、コレマタ奇ヲ好ムニアラザルナリ、スベテ中井兩夫子ニ聞コトアルニ與ルモノヽミ、余ガ發明ニモアラザルナリ、シカレドモ太陽明界ノ說、及ビ無鬼ノ論ニ至リテハ、余ガ發明ナキニシモアラズ、其說ハスベテ杜撰妄證多シト知ルベシ

一　鬼神ノ論ニオイテハ、始メニ經書ノ天命鬼神ニオヨブモノヲトリテ是ヲ論ズ、天ト云神ト云モノ同物ナルヲ以テナリ、又三代ノ尸ヲ立如在ノ祭リヲナスト雖、本コレ鬼神ノ性情ナキコトヲ示シ、後儒ノ過ヲ正シテ、儒家ノ鬼神ニナヅムモノヲ敎戒シ、次ニ我朝古ヘヨリ祭リ來リ誤リ來リテソノ實ヲ失ヒ、佛徒ニ妄弄セラレテ本地垂跡ノ說ヲ云ヒ、神體ヲトリ失ハレテモ、神託・靈驗・冥罰ノナキコトヲ書ツラネテ、愚民・兒女・媼婆ノ鬼神ニアヤマラルヽモノヲ禁諭ス、終ニハ狐狸其餘妖怪ヲ誤リ來リテ、心神ヲ惱マス者ヲ敎示スル者ナリ、スベテ正道ノ外ハ、鬼神怪異ノ變ニオイテハナキモノト知ベシト云コトヲ辨ズ

一　經書ノ論ハ十三經ヲ主トス、末ニ文字ノコトニ及ブモノハ、爾雅ニ附錄スルモノナリ

一　此書佛法ヲ排スルコト讎敵ノ如シ、何ゾ佛家ニ怨恨アランヤ、只カクノ如クナラザレバ、異端ノ害ヒラカレザルナリ、廐戸太子ノコトニ於ケル、一部ノ太子傳ミナ妄語ナリ、只其事實ニワタリ、國史

ニ出ルモノハ正トスベシ、又筆者ノ誣妄モ少ナカラズ、太子ノミヲ惡ムベキニアラザルナリ

一　竹山先生ハ我常ノ師ナリ、ユヱニ我論ズル所、ミナ先生ニ聞トコロノモノナレバ、別ニ師名ヲ題スコトナシ、其後履軒先生ニ校正ヲ請テソノ論ヲキヽ、書中ニ加ヘタルモノユヱニ、別ニ「履軒先生曰」ヲ加ヘテコレヲ分ツモノナリ

夢之代卷之一

山片蟠桃著

天文第一

一　天地ノ物サマ〳〵ノ論アリト雖、ミナ天造艸昧ノ世ノコトニシテトルニ足ラズ、盤古ノ死シテ後天地・日月・風雨・星辰・山海トナリ、混沌ノ中ニ國常立出生シ、諾冊二神日月・國土・艸木ヲ生ムノ說ハ措テ論ゼズ、素問岐伯云、地ハ天中ニ在テ大氣コレヲ擧グト、コレヲ渾天ノ始メトス、シカレドモコノ書僞作ナリ、堯舜ノトキニ羲和曆ヲ司ル、璿璣玉衡ヲ渾天儀ノ始トス、サレドモタシカナラズ、コノトキマデハ三百六十六日ヲ一年トシタルニヤ、閏月ヲ以テ四時ヲ定メ時ヲナシ、日月ノ交會ヲ以テ朔望ヲシルシタルハ曆ノ發端ナリ、ソレヨリ周髀蓋天ノ法アレドモ、渾天ノ法天ニ合セテ二術ハ傳ラズ、地球ノコトハ遙カニ後世ノコトナリ、春秋ノトキ日食ヲ測ルコトナシ、漢ヨリシテ後渾天ノ法定リ、日月ノ食ヲ測量シ、五星ヲ推歩ス、ソレヨリダン〳〵ニ開ケテ、ツヒニ恆星マデモ推歩スルニ至ル、此後オヒ〳〵發明アルベシ

二　漢土三代ノ間某ノ王・某ノ年ト云、然ルニ謚號ハ崩後ノコトニシテ、在位ノ間ハ諱或ハ號ヲ用ヒシ

ナラン、今ノ春秋ニテハ魯公ヲ主トシテ、隱公元年二年トアリタレドモ、コレ又諡號ナリ、孔子ハ後世ノ人ユヘ、カクノゴトク初ヨリ諡號ヲ用ヒランタルナルベシ、サレドモ已ニ哀公在位ノ君ナリ、然ルニ哀公ト云トキハ、コノ二字迹ヨリ入タル文字ナリ、然レバ哀公ノ間ハ何トシルサレタルヲ知ラズ、魯ノ何年トノミ記ストキハ、迹ヨリミテ證ナシ、本朝ニテハ神日本磐余彦御宇天皇何年ト云、神武ノ事ナリ、然ルニ上古ノ事ハシルベカラズ、コノ號モ諡號ノヤウニ聞ユルナリ、天武ノ諱ハ天渟中原瀛眞人天皇ト云テ、飛鳥淨御原御宇天皇ノ何年ト云、飛鳥ハ地名ナリ、淨御原ハ宮號ナリ、〔崇神ノトキ任那人來朝ス、垂仁ノトキ本國ニカヘル、天皇曰、汝本國ニカヘリテハ、我先皇ノ御名ノ御間城ヲ以テ國ノ名トスベシ、スナハチ任那トス、合考スベシ〕中世ハカクノゴトシ、後世年號起リテ地名・宮號ヲモ用ヌヤウニナリタリ、秦ノ始皇諡ヲヤメテ、始皇帝ヨリ二世皇帝、三世四世ヨリ萬々世ニ及ボスベシト定メケレドモ二世ニシテ滅ビ、漢ニイタリテ文帝又景帝ノトキニ、中元年・後元年ト改メタルコトアリ、元ヨリ無用ノ五行ノ言ニ迷ヒ、災異ヲオソレテ改タルナリ、武帝ヨリ年號起ル、コレヨリ後ハ即位シテ改メ、祥瑞妖孽ニヨリテ改ム、〔コノ初・中・後ノルイハ戰國ノトキヨリアルコトナリ〕其後サマ〳〵改革アリシニ、明ノ太祖洪武ヨリシテ、天子一代一年號トス、コレ改ムベキ字少ナク、正統・僞朝・夷狄ニ至ル、國々ニ元ヲ改メテ其數ヲシラズ、强識ノ人ト雖、古來ニアリヤナキヤヲ考フルコトアタハザルヲ以テ、カクノ如クナラザルコトヲ得ザルナリ、ソレヨリ淸モ亦コノ例ニヨル、古今ノ一快事ニシテ、萬世ニ卓越スト云ベシ、我日本ハ孝徳ノ大化ヲハジメトシ、齊明ヨリ持統ノ間カグルコトアリト雖、其後ハ絕ユルコト

ナシ、齊明・天智・天武・持統ノアヒダ、或ハ有、或ハナシ、白鳳・白雉・朱鳥ナドアリテ慥ナラズ、持統ハ天武ノ后ニテ、先帝崩後共宮ニ居玉フユヱニ、天武ト同ジク號ス下野ノ國國造ノ碑ニハ、「永昌元年己丑四月、飛鳥淨見原大宮」云々トアリ、コレハ唐ノ年號ニテ持統三年ナリ、コレニヨレバ、唐ノ正朔ヲ用ヒタルコトモアルヤ、如何ヲシラズ、ソノ後ハ年號ツヾキテタユルコトナシ、今ニ至リテ共例ニシタガフナリ、然ルニ西洋ハ昔ヨリ年號ナクシテ、「イタリヤ」國ノ元祖伯太祿（ペートル）元年ヲ始トス、則チ漢ノ平帝二年ニシテ、我垂仁帝三十一年ニアタル、コレヲ元年トシテ、今歳享和二年淸ノ嘉慶六年ハ、西洋ノ千八百二年ナリ、西洋ノ諸國ミナコレニシタガヒ、「ムスコビヤ」ト「トルコ」ノ强國ト雖、用ヒザルコトヲ得ズ、當時ハ「イタリヤ」ノ天子モ「ドイツランド」ニ都ヲウツス、スベテ西洋歐羅巴ハミナコレヲ用ユルナリ、煩シカラズシテ年ヲ數フルニ甚シキ益アリ、コレモ亦シラズンバアルベカラズ、ユヘニコヽニ擧グ

三　辛酉甲子改元ノコトハ、三善ノ淸行菅公ヘ奉リシ勘文ヨリ起ルカ、辛酉ハ延喜ニ始マリ、應和・治安・永保・永治・建仁・弘長・元享・永德・嘉吉・文龜マデアリテ、永祿四年・元和七年ニカケテ、其後天和・寬保・享和ニ至ル、甲子ハ康保ニ始マリテ、萬壽・應德・天養・元久・文永・正中・至德・文安・永正マデアリテ、永祿七年ニカケテ、　其後寬永・貞享・延享ニイタル、享和四年ニ至リテ又改マルベシ、シカルニ永祿ニ甲子・辛酉トモニ缺タルモノハ、天下擾亂ニヨリテコヽニ至ラザルナルベシ、元和辛酉ハ永祿ニナラヒテ缺タルナラン、同甲子ニイタリテ古例ニ復セラレメルナラン、然ルニ說者曰、辛酉ハ菅公左遷

ノ年ニシテ、三善清行スデニ勘文ヲ上ル、コレヨリ大臣ニ變事アリト云テ諸社ニ奉幣シ、元ヲ改メテコレヲ祓スト云、本朝文粹ニ曰、「清行頓首謹言、交深語淺者妄也、居レ今語レ來者誕也、妄誕之責誠所ニ甘心一、伏冀尊閤特降ニ寛容一、某昔游學之次、偸習ニ術數一、天道革命之運、君臣剋賊之期、緯侯之家、創ニ論於前一、開元之經、詳ニ說於下一、推ニ其年紀一、猶如レ指レ掌、斯乃尊閤所レ照、愚何言、但離朱之明、不レ能レ視ニ睫上之塵一、仲尼之智、不レ能レ知ニ篋中之物一、聊以ニ管見一、伏添ニ素篇一、伏見明年辛酉、運當ニ變革一、二月建卯、將レ動ニ干戈一、遭レ凶衝レ禍、雖レ未レ知レ誰、是引レ弩射レ市、亦當レ中ニ薄命一、天數幽微難ニ推察一、人間云爲、誠足ニ知亮一、伏惟尊閤、挺レ自ニ翰林一、超ニ昇槐位一、朝之寵榮、道之光華、吉備公之外、無ニ復與ト美、伏冀知ニ其止足一、察ニ其榮分一、擅ニ風情於煙霞一、藏ニ山智於丘岳一、後世仰視、不ニ亦美一乎、努々勿レ忽ニ鄙言一、某頓首謹言、昌泰三年十月十一日、謹々上菅右相府殿下政所、文章博士三善朝臣清行」云々、コレ術數家ノ言、何ゾ驗アラン、然レドモ智者ハ大テイ其人ノ性情、時ノ輕重ヲ以テ未然ヲシル、コノトキ菅公寵遇ヲ恣ニシ藤ノ時平。源ノ光ノ妬心目ヲソバダツルヲミル、旣ニ禍ノ來ラントスルヲシリテ、術數纖緯ニヨセテ諫ムルモノナリ、然ルニ清行ノ言ハコノ辛酉ノ年バカリヲ云ナリ、後代ノ辛酉ヲサスニアラズ、元來辛酉ハ神武ノ元年ナレバ、吉瑞ノ年ト云テモ然ルベシ、甲子ハ干支ノハジメナレバ尙サラニ然ラン、後世革令革命ヲ以テ諸社ニ奉幣シ、改元シテコレヲ祓ハントス、イカナルコトゾヤ、吾ハシラザルナリ

四　暦法ノコトハ、太古ハ艸木ノ花實ヲ以テ年ヲシリ、禽蟲ヲ以テシ、終ニ日月ノ南至・北至ニシルシテ一年ヲ定メ、日月ノ交會ヲ以テ月ヲ定メシナリ、尙書ニヨレバ、堯ノトキ三百六十六日ヲモツテ一年トスルコトミユレドモ、閏月モコノトキニ出來レバ、コレマデハイカヾアリシヤ知ルベカラズ、年ハミノルナリ、稻ノミノルヲ以テ一年トス。歲ハ星ノ名ナリ、五行ニ配シテ木星ト云、コノ星十二年一周ナリ、ソノ一ケ年ノヤドル所、三十度ヲ以テ十二支ヲ名ヅケ、子丑ヨリ戌亥ニイタル、シカレバコノ星ノ次舍方ヲモツテ子ト云、丑トイフナリ、歲次レ子トハ云ベシ、歲次ニ甲子トハ云ベカラズ、支ハコノ舍ノ名ナリト雖、干ハ舍ニヨリ所ナシ、サテコノ歲ハ星ノ名ニシテ、一年ノ名トモスルナリ、殷ニ祀トモ云、コレハ一年ニ一タビ祀ルヨリ出ルナラン、月ハ一月一周ニシテ、朔々日日會スルヲハカリテ一ケ月トスルナリ、舜旋璣玉衡ヲツクル、渾天儀ノコトナリト云傳フレドモタシカナラズ、凡似タルモノナルベシ、何レニモ漢土ハ日月ノ交會ヲ主トシテ暦ヲ造ル、會ヲモツテ朔トシ、二十四氣ヲモツテ其アヒダニハサム、日月ノ會スルヤ二十九日五十四刻ナリ、シカルニ日輪ノ平行三百六十五日二十四刻餘ヲ十二ケ月ニ賦與シテ三十日四十餘刻、月ト節氣ト差フコト、一月ニ九十餘刻、一年ニ十日餘ナリ、ユヱニ三十ニ三月ニシテ閏ヲ置テ、コノ奇零ヲ入合サヾルコトアタハズ、イハユル三年ニ一閏、五年ニ二閏、七年ニ三閏ナルモノナリ、麻田先生ノ歲實消長ノ法、十年前後ハ用ユベシ、十年ヲ過レバ少シヅヽノ差ナキコトアタハズ、（コノ十年消長ノ法ハ、日月トモニ活行シテ定法ヲ立ルコトアタハザルヲ見得タルナリ）其法イマ用ユル處歲周

三百六十五日二十四刻三三四〇五四朔策二十九日五十三刻〇五八四三、月本輪一周二十七日五五四五六九九八黄白交周二十七日三二二三八二、日本輪心每日平行〇度九八五本四六九五月距レ日每日平行十二度一九〇七五〇九八、月本輪心每日平行十三度一七六三九七九、黄白交周每日平行十三度二二九三四八七、黄赤大距二十三度四六七節策、三十〇日四十三刻六八六二氣策、十五日二十一刻八四三〇八二、節氣朔差九十刻〇四四三八十一、壬策十八日二十六刻二一一六九七、其餘コレヲ略ス、昔ヨリ漢土ニハ日月交會ヲ以テ月ヲ立ル故ニ、一年ニ十日ノ差（十日ノ差、即節朔ノ差）アリテ、寒暑成熟花實耕種ノ時混亂ス、故ニ追々考ヘ出シテ平均三百六十六日ヲ歳實トス、シカルニダン〱年ツモリテ差ヲ生ジ、ツヒニ三百六十五日二十五刻トスレドモ、亦差フユヘニ、歳差ノコトオヒ〱出來リテ綿密ナリト雖、ツヒニ差ハザルコトアタハズ、コヽニオイテ麻田先生歳實加減消長ノ法ヲ立テ、十年ヲ期トシテ法ヲ變ズ、ダン〱ニ加減スルモノナリ、我日本漢土ニナラヒテ朔望ヲ主トシ暦算ヲ立テ、二十四氣ヲソノ間ニハサム、氣朔ノ差一年ニ十日餘ニシテ、ダン〱ニ後レテ十五日節トナリテ、中氣ナキ月ヲモッテ閏トス、シカウシテ四時ヲ定メ、年ヲ成スニ至ルモノナリ、シカルニ歐羅巴諸國ノ暦法冬至後十一日メヲ歳首元日トス、正月三十一日、二月二十八日、（閏月ハコノ月ヲ二十九日トス）三月三十一日、四月三十日、五月三十一日、六月三十日、七月三十一日、八月三十一日、九月三十日、十月三十一日、十一月三十日、十二月三十一日、合一年日數三百六十五日、閏年ハ三百六十六日ナリ、（西洋ノ正月ハ日本ノ十二月ニアタル、カクノゴトクナレバ、暦ナクシテ事辨ズベキナリ）閏

ノ立方四年ニ一閏、百年ニ二十六閏、四百年ニ百三閏、節ヲ主トシテ朔望ヲハサム、コノ法萬代不易ノ法ユヱニ、游子六コノ法ヲ以テ天曆トシテ、後世コレニ從フモノアラント云、宜ナルカナ其曆ノ差ハザルヤ、今ノ曆法ニテハ、大抵ノ人タリトモ、多クハ日月ニヨリテ節氣ヲ問ハズ、何月幾日ヲ以テ寒暑成熟ヲ談ジテ、節ニヨルコト少シ、山中遠海ノ人ハ尚サラニ然ラン、故ニ今天曆ヲ假ニ作リテコレヲ述ブ、西洋法トハ亦少シク變ジテ、今立春ヲ以テ元日トシテ、夏ノトキニ從ヘバ俗ニ違フコトナクシテヨロシ、且ツ履軒先生ノ有間星ノ華胥曆ニヨルノミ

享保二年壬戌、天曆凡三百六十五日 晝夜百刻十二時、四方四隅皆吉、而不レ有レ凶矣

一 此曆、天經或問天曆之法也、雖レ背ニ官曆一、一世有下徒據ニ日月一、不下復問ニ節氣一、以愆中農期上、故作ニ此曆日一、雜ニ用官曆一、欲レ使下農期無中所ニ乖異一云

一 上段據ニ節氣一命レ日、凡各國農務之期、因レ地而有レ差、故當下據ニ此日一而斷上、一斷之後、年々用ニ其日月一而可也、下段空處、各國宜レ載ニ其期一

一 斗柄不レ差、正月實指レ寅、二月指レ卯、無ニ前卻一

一 無ニ閏月一而民不レ惑、氣不レ差、立春無ニ舊年新年之別一

一 寒暑溫涼、隨レ月而不レ差

一 五穀雜種、草木花實、無ニ遲速一、皆隨レ月而成熟、佳節祭祀之用備矣

一　一年三百六十五日、而四年之內、一年有ニ三百六十六日一也（是爲ニ閏年一）

一　一節三十一日爲レ大、三十日爲レ小（一月不レ曰レ月、而曰レ節）

一　中段書以レ朱者、官曆也、據ニ是日一以推ニ上段一可矣（點アルモノ朱ナリ）

一　世俗用ニ曆家之吉凶一、徙レ宅結レ婚、其害甚矣、故不レ記ニ吉凶一、使ニ人心無一レ所レ惑矣

一　古來曆法、主レ月而係レ氣、今主レ氣而係レ月、故朔望之日散出者、如ニ曆家節氣一、潮汐之干滿、宜下據ニ朔望一以推上レ之

一　如ニ十方暮八專一、皆無稽之談、天唯運動而已、陰晴風雷、是氣之聚散變化、豈可ニ端倪一哉、如ニ干支一、人之所ニ以目一レ日也、何因ニ干支一而有ニ陰晴一乎、吉凶亦倣レ之、方隅之吉凶亦同

寅ハ可ナリ壬ハ無用ノモノナリ

漢土ノ曆清ニイタリテ、祖宗及后妃ノ誕辰忌日、ソノ餘サマザマノコトヲ擧テ、煩雜云フベカラズ、コトニ下段ノ吉凶我曆ヨリ煩シ、イハユル文ニ過ルナリ、朔望ハ大抵ニ合ストイヘドモ、大抵ハ我京師ヨリ北京ニイタルノ直徑四五百里ノ東西度ヲ差ヘバ、

立春正月節大今夜子初二刻　壬寅　晝四十二刻餘夜五十七刻餘

元日	乙亥	正月小	三日
二日	丙子		四日
三日	丁丑		五日
四日	戊寅		六日

凡半時餘後ルヽコトハアタリマヘナリ、故ニ月ノ大小少シノ差ハアルベシ、合朔夜半前後ニアレバ差フコトナリ、然ルニ大小ハ日月ノ交會ヲモツテ朔ヲタツルユヱニクルヒアリ、朔策二十九日五十三刻餘ハ、日輪周二十七日餘ヲ以テ、氣策三十日四十三刻餘ヲトリ、合テ經朔ヲ立ツルトイヘドモ、日ニ盈縮アリ、月ニ遲疾アリテ、經朔ノトキニ會スルコトナシ、故ニ過ルヲヒカヘ、及バザルヲスヽメテ、或ハ加ヘ或ハ減ジテ、是ヲ合朔トシ大小ヲ立ルナリ、實ニコノ合朔ハ日蝕ノ食甚ナレバ、合ハザルコトアタハズ、望モ亦シカリ、然ルニ二十四氣ニ至リテハ、朔望ト同ク加減スベキコトナリト雖、日月ノ行歩、晝夜長短微少ノコトニシテ、其功大ナラズ、コトニ冬夏ニオイテ加減少ク、春秋ニオイテ加減多シ、最モ二八月ヲ甚シトス、然レドモ二日ヨリ多キコトナシ、二十四氣ハ歳周三百六十五日有奇ヲ廿四分シタル者ナリ、コレヲ以テ其大ガイヲシリテ可ナリ、加減ヲ審ニシテソノ精密ヲナスト雖、其寒暖氣候ハ其晴雨風徴ニヨリテ差

五日	己卯		七日	
六日	庚辰		八日	
七日	辛巳		九日	
八日	壬午		十日	
九日	癸未		十一日	
十日	甲申		十二日	
十一日	乙酉		十三日	
十二日	丙戌		十四日	
十三日	丁亥	望丑正刻	十五日	
十四日	戊子		十六日	日食四分半 初虧一更一且起ニ左方下方之間ニ四點甚ニ左方上ニ二更二點復ニ于上偏左ニ食甚巽宿七度
十五日	己丑		十七日	
十六日	庚寅	春分中申初初刻	十八日	
十七日	辛卯	雨水中寅正三刻	十九日	
十八日	壬辰		二十日	

フコトアレバ、其精密ヲ得タリトモ何ノ益カアラン、朔望交會食甚ノ徵アルニイヅレゾヤ、ユヱニ我邦ノ暦ハ朔望ニ密ニシテ節氣ニ粗ナリ、漢ノ暦ハ、朔望節氣共ニ密ナリ、又日月食ヲシルサヾルハ、孔子ノ食ヲシリ玉ハザルニ嫌アリ、後ノ世ノ人トシテ是ヲ知ルハ、孔子ニ賢レリトシ孔子ノ爲ニ忌モノナリ、是又何ノイハレゾヤ、殊ニ物々ニシテ一日々々トヒラクハ天地ノシゼンナリ、伏義醫藥・農耕ヲシラズ、神農文字ヲシラズ、黄帝暦日ヲシラズ、ナンゾコレヲ耻トセン、知ヲ知トシ、不レ知ヲ不レ知トスルハコレ孔子ノ語ナリ、今人ノ爲ス所多クハ孔子ノ時ニセザルコトナリ、然レバソレヲ一々ニクリ出シミレバ、ミナ孔子ニマサルモノナリ、何ゾ是ヲイマン、然ルニ我暦ニモ亦無用ノコト多シ、ソレ〳〵ニ辨ズルコトナリ、西洋ノ暦年號ヨリ省キテ、閏ヲハブキ一月ノ日數ヲ定メソノ餘日用ノコトニオイテ省クベキハ省キ、詳ニスベキハ詳ニス、スベテ我意ナキナリ

日	干支	記事	
十九日	癸巳		廿一日
二十日	甲午		廿二日
廿一日	乙未		廿三日
廿二日	丙申		廿四日
廿三日	丁酉		廿五日
廿四日	戊戌		廿六日
廿五日	己亥		廿七日
廿六日	庚子		廿八日
廿七日	辛丑		廿九日
廿八日	壬寅	二月朔未初四刻大	朔日
廿九日	癸卯		二日
三十日	甲辰		三日
三十一日	乙巳		四日

啓蟄二月節小　巳初四刻　癸卯

晝四十七刻餘夜五十二刻餘

日	干支			
一日	丙午		五、日、	
二日	丁未		六、日、	
三日	戊申		七、日、	
四日	己酉		八、日、	
五日	庚戌		九、日、	
六日	辛亥		十、日、	
七日	壬子		十、一、日、	
八日	癸丑		十、二、日、	
九日	甲寅		十、三、日、	
十日	乙卯		十、四、日、	
十一日	丙辰		十、五、日、	
十二日	丁巳	望戌正一刻	十、六、日、	月食四分半 初虧一更一點、起二于左方下方之間一、四點、甚二于左方上一、二更二點、復二于上偏左一、食甚翼宿七度

十三日	戊午		十ヽ七ヽ日ヽ
十四日	己未		十ヽ八ヽ日ヽ
十五日	庚申		十ヽ九ヽ日ヽ
十六日	辛酉	春分中申初刻	廿ヽ日ヽ
十七日	壬戌		廿ヽ一ヽ日ヽ
十八日	癸亥		廿ヽ二ヽ日ヽ
十九日	甲子		廿ヽ三ヽ日ヽ
二十日	乙丑		廿ヽ四ヽ日ヽ
廿一日	丙寅		廿ヽ五ヽ日ヽ
廿二日	丁卯		廿ヽ六ヽ日ヽ
廿三日	戊辰		廿ヽ七ヽ日ヽ
廿四日	己巳		廿ヽ八ヽ日ヽ
廿五日	庚午		廿ヽ九ヽ日ヽ
廿六日	辛未		三ヽ十ヽ日ヽ

日	干支		
廿七日	壬申	三月朔小子正一刻	朔、日、
廿八日	癸酉		二、日、
廿九日	甲戌		三、日、
三十日	乙亥		四、日、
清明三月節大		戌正一刻	甲辰 晝五十二刻餘夜四十七刻餘
一日	丙子		五、日、
二日	丁丑		六、日、
三日	戊寅		七、日、
四日	己卯		八、日、
五日	庚辰		九、日、
六日	辛巳		十、日、
七日	壬午		十一、日、
八日	癸未		十二、日、

九日	甲申		十、三、日、
十日	乙酉		十、四、日、
十一日	丙戌		十、五、日、
十二日	丁亥		十、六、日、
十三日	戊子		十、七、日、
十四日	己丑	土用子正二刻	十、八、日、
十五日	庚寅		十、九、日、
十六日	辛卯		二、十、日、
十七日	壬辰	穀雨中丑初二刻	廿、一、日、
十八日	癸巳		廿、二、日、
十九日	甲午		廿、三、日、
二十日	乙未		廿、四、日、
廿一日	丙申		廿、五、日、
廿二日	丁酉		廿、六、日、

廿三日　戊戌　廿七日、
廿四日　己亥　廿八日、
廿五日　庚子　廿九日、
廿六日　辛丑　四月朔小巳正三刻　朔日、
廿七日　壬寅　二日、
廿八日　癸卯　三日、
廿九日　甲辰　四日、
三十日　乙巳　五日、
三十一日　丙午　六日、

立夏四月節小　卯正三刻　己巳　晝五十七刻餘夜四十二刻餘

一日　丁未　七日、
二日　戊申　八日、
三日　己酉　九日、

日	干支	節氣・望	日
四日	庚戌		十、日、
五日	辛亥		十、一、日、
六日	壬子		十、二、日、
七日	癸丑		十、三、日、
八日	甲寅		十、四、日、
九日	乙卯		十、五、日、
十日	丙辰	望子初三刻	十、六、日、
十一日	丁巳		十、七、日、
十二日	戊午		十、八、日、
十三日	己未		十、九、日、
十四日	庚申		二、十、日、
十五日	辛酉		廿、一、日、
十六日	壬戌	小滿中午正初刻	廿、二、日、
十七日	癸亥		廿、三、日、

十八日	甲子		廿、四、日、
十九日	乙丑		廿、五、日、
二十日	丙寅		廿、六、日、
廿一日	丁卯		廿、七、日、
廿二日	戊辰		廿、八、日、
廿三日	己巳		廿、九、日、
廿四日	庚午	五月朔大亥初三刻	朔、日、
廿五日	辛未		二、日、
廿六日	壬申		三、日、
廿七日	癸酉		四、日、
廿八日	甲戌		五、日、
廿九日	乙亥		六、日、
三十日	丙子		七、日、

芒種五月節大　酉初一刻

丙午

晝五十九刻餘夜四十刻餘

日	干支	
一日	丁丑	八日、
二日	戊寅	九日、
三日	己卯	十日、
四日	庚辰	十一日、
五日	辛巳	十二日、
六日	壬午	十三日、
七日	癸未	十四日、
八日	甲申	十五日、
九日	乙酉	十六日、
十日	丙戌	十七日、
十一日	丁亥	十八日、
十二日	戊子	十九日、

日	干支	記事	日
十三日	己丑		二、十、日、
十四日	庚寅		廿、一、日、
十五日	辛卯		廿、二、日、
十六日	壬辰	夏至中戌正二刻	廿、三、日、
十七日	癸巳		廿、四、日、
十八日	甲午		廿、五、日、
十九日	乙未		廿、六、日、
二十日	丙申		廿、七、日、
廿一日	丁酉		廿、八、日、
廿二日	戊戌		廿、九、日、
廿三日	己亥		三、十、日、
廿四日	庚子	六月朔小巳正四刻	朔、日、
廿五日	辛丑		二、日、
廿六日	壬寅		三、日、

日	干支	
廿七日	癸卯	四日、
廿八日	甲辰	五日、
廿九日	乙巳	六日、
三十日	丙午	七日、
卅一日	丁未	八日、

小暑六月節大

寅初三刻

丁未

晝五十九刻餘夜四十刻餘

日	干支	
一日	戊申	九日、
二日	己酉	十日、
三日	庚戌	十一日、
四日	辛亥	十二日、
五日	壬子	十三日、
六日	癸丑	十四日、
七日	甲寅	十五日、

八日	乙卯		十六日
九日	丙辰		十七日
十日	丁巳		十八日
十一日	戊午		十九日
十二日	己未		二十日
十三日	庚申	土用事辰初四刻	廿一日
十四日	辛酉		廿二日
十五日	壬戌		廿三日
十六日	癸亥	大暑中巳初二刻	廿四日
十七日	甲子		廿五日
十八日	乙丑		廿六日
十九日	丙寅		廿七日
二十日	丁卯		廿八日
廿一日	戊辰		廿九日

日	干支	記事	日數
廿二日	己巳	七月朔大子初四刻	朔、日、
廿三日	庚午		二、日、
廿四日	辛未		三、日、
廿五日	壬申		四、日、
廿六日	癸酉		五、日、
廿七日	甲戌		六、日、
廿八日	乙亥		七、日、
廿九日	丙子		八、日、
三十日	丁丑		九、日、
立秋七月節大	寅正一刻	戊申	晝五十七刻餘夜四十二刻餘
一日	戊寅		十、日、
二日	己卯		十、一、日、
三日	庚辰		十、二、日、

四日	辛巳		十三日
五日	壬午		十四日
六日	癸未		十五日
七日	甲申	望子初四刻	十六日
八日	乙酉		十七日
九日	丙戌		十八日
十日	丁亥		十九日
十一日	戊子		二十日
十二日	己丑		廿一日
十三日	庚寅		廿二日
十四日	辛卯		廿三日
十五日	壬辰		廿四日
十六日	癸巳	處暑中戌初二刻	廿五日
十七日	甲午		廿六日

日	干支	記事	日	記事
十八日	乙未		廿七日	
十九日	丙申		廿八日	
二十日	丁酉		廿九日	
廿一日	戊戌		三十日	
廿二日	己亥	八月朔大申初三刻	朔日	日食九分 初虧申初二刻、起二于左偏下一、申正四刻、甚二于左偏左一、酉正初刻、復二于左偏上一、食甚張宿一度
廿三日	庚子		二日	
廿四日	辛丑		三日	
廿五日	壬寅		四日	
廿六日	癸卯		五日	
廿七日	甲辰		六日	
廿八日	乙巳		七日	
廿九日	丙午		八日	
三十日	丁未		九日	
卅一日	戊申		十日	

白露八月節小　子正二刻　己酉

晝五十二刻餘夜四十七刻餘

日	干支	備考	日
一日	己酉		十一日
二日	庚戌		十二日
三日	辛亥		十三日
四日	壬子		十四日
五日	癸丑		十五日
六日	甲寅	望未初三刻	十六日
七日	乙卯		十七日
八日	丙辰		十八日
九日	丁巳		十九日
十日	戊午		二十日
十一日	己未		廿一日
十二日	庚申		廿二日

十三日	辛酉		廿、三、日、
十四日	壬戌		廿、四、日、
十五日	癸亥		廿、五、日、
十六日	甲子	秋分中初正初刻	廿、六、日、
十七日	乙丑		廿、七、日、
十八日	丙寅		廿、八、日、
十九日	丁卯		廿、九、日、
二十日	戊辰		三、十、日、
廿一日	己巳	九月朔大辰正三刻	朔、日、
廿二日	庚午		二、日、
廿三日	辛未		三、日、
廿四日	壬申		四、日、
廿五日	癸酉		五、日、
廿六日	甲戌		六、日、

日	干支	記事	日
廿七日	乙亥		七日
廿八日	丙子		八日
廿九日	丁丑		九日
三十日	戊寅		十日
寒露九月節小	午初一刻	庚戌	晝四十七刻餘夜五十二刻餘
一日	己卯		十一日
二日	庚辰		十二日
三日	辛巳		十三日
四日	壬午	望申正四刻	十四日
五日	癸未		十五日
六日	甲申		十六日
七日	乙酉		十七日
八日	丙戌		十八日

日	干支	記事	
九日	丁亥		十、九、日、
十日	戊子		二、十、日、
十一日	己丑		廿、一、日、
十二日	庚寅		廿、二、日、
十三日	辛卯	土用事申初二刻	廿、三、日、
十四日	壬辰		廿、四、日、
十五日	癸巳		廿、五、日、
十六日	甲午	霜降申正二刻	廿、六、日、
十七日	乙未		廿、七、日、
十八日	丙申		廿、八、日、
十九日	丁酉		廿、九、日、
二十日	戊戌		三、十、日、
廿一日	己亥	十月朔小丑初二刻	朔、日、
廿二日	庚子		二、日、

日	干支	注	日數	備考
廿三日	辛丑		三、日、	
廿四日	壬寅		四、日、	
廿五日	癸卯		五、日、	
廿六日	甲辰		六、日、	
廿七日	乙巳		七、日、	
廿八日	丙午		八、日、	
廿九日	丁未		九、日、	
三十日	戊申		十、日、	
立冬十月節小		亥初三刻	辛亥	晝四十二刻餘夜五十七刻餘
一日	己酉		十、一、日、	
二日	庚戌		十、二、日、	
三日	辛亥		十、三、日、	
四日	壬子	望寅初三刻	十、四、日、	

五日	癸丑		十五、日、
六日	甲寅		十六、日、
七日	乙卯		十七、日、
八日	丙辰		十八、日、
九日	丁巳		十九、日、
十日	戊午		二十、日、
十一日	己未		廿一、日、
十二日	庚申		廿二、日、
十三日	辛酉		廿三、日、
十四日	壬戌		廿四、日、
十五日	癸亥		廿五、日、
十六日	甲子		廿六、日、
十七日	乙丑	小雪中丑四刻	廿七、日、
十八日	丙寅		廿八、日、

十九日	丁卯		廿、九、日、
二十日	戊辰	十一月朔大中正刻	朔、日、
廿一日	己巳		二、日、
廿二日	庚午		三、日、
廿三日	辛未		四、日、
廿四日	壬申		五、日、
廿五日	癸酉		六、日、
廿六日	甲戌		七、日、
廿七日	乙亥		八、日、
廿八日	丙子		九、日、
廿九日	丁丑		十、日、
三十日	戊寅		十、一、日、
卅一日	己卯		十、二、日、

大雪十一月節小　辰正一刻　壬子

晝四十刻餘夜五十九刻餘

日	干支	記事	
一日	庚辰		十、三、日、
二日	辛巳		十、四、日、
三日	壬午	望申正三刻	十、五、日、
四日	癸未		十、六、日、
五日	甲申		十、七、日、
六日	乙酉		十、八、日、
七日	丙戌		十、九、日、
八日	丁亥		二、十、日、
九日	戊子		廿、一、日、
十日	己丑		廿、二、日、
十一日	庚寅		廿、三、日、
十二日	辛卯		廿、四、日、

十三日	壬辰		廿、五、日、
十四日	癸巳		廿、六、日、
十五日	甲午	冬至中未初二刻	廿、七、日、
十六日	乙未		廿、八、日、
十七日	丙申		廿、九、日、
十八日	丁酉		三、十、日、
十九日	戊戌	十二月朔小卯正三刻	朔、日、
二十日	己亥		二、日、
廿一日	庚子		三、日、
廿二日	辛丑		四、日、
廿三日	壬寅		五、日、
廿四日	癸卯		六、日、
廿五日	甲辰		七、日、
廿六日	乙巳		八、日、

日	干支	記事	
廿七日	丙午		九、日、
廿八日	丁未		十、日、
廿九日	戊申		十、一、日、
三十日	己酉		十、二、日、

小寒十二月節大　酉正三刻　癸丑

晝四十刻餘夜五十九刻餘

日	干支	記事	
一日	庚戌		十、三、日、
二日	辛亥		十、四、日、
三日	壬子	望辰初四刻	十、五、日、
四日	癸丑		十、六、日、
五日	甲寅		十、七、日、
六日	乙卯		十、八、日、
七日	丙辰		十、九、日、
八日	丁巳		二、十、日、

九日	戊午		廿、一、日、
十日	己未		廿、二、日、
十一日	庚申		廿、三、日、
十二日	辛酉		廿、四、日、
十三日	壬戌	土用事亥正四刻	廿、五、日、
十四日	癸亥		廿、六、日、
十五日	甲子		廿、七、日、
十六日	乙丑	大寒中子	廿、八、日、
十七日	丙寅		廿、九、日、
十八日	丁卯	癸亥正月朔	朔、日、
十九日	戊辰		二、日、
二十日	己巳		三、日、
廿一日	庚午		四、日、
廿二日	辛未		五、日、

廿三日	壬申	六日、
廿四日	癸酉	七日、
廿五日	甲戌	八日、
廿六日	乙亥	九日、
廿七日	丙子	十日、
廿八日	丁丑	十、一、日、
廿九日	戊寅	十、二、日、
三十日	己卯	十、三、日、
卅一日	庚辰	十、四、日、

天暦ノ法ヲ以テ節氣ヲ主トシテ立ルヿ此ノ如シ、中段ニ朱書（朱書ノ代ニ、ヲ附ス）シタルハ當時ノ官暦也、コレニ引合セテ其ノ不差ヲシルベシ、夏正寅ノ月ニシテ、立春ヲ元日トスル故耳目ヲ驚スコトナシ、漢ノ暦法ハ日月交會ヲ見テ作ル所コレ先入ヲ主トシテ、此ノ法ノマサルヲ知ラザルナリ、西洋ハ節氣ヲ主トシ作ル故ニ、寒暑・溫涼・耕作・花實ノ正ヲ得ルナリ、コノ法ヲ以テミレバミナソノ月ニ隨フユヱニ、山中海島トイヘドモ時ヲ失ハザルナリ、（節氣ノ加減用ナシ、朔望ハ日月蝕ヲミルユヱニ加減スベシ、大小モ亦用ナシ、況ンヤ節氣ニオイテチヤ、耕種栽培日月ノ行度ニカヽハルコトナシ、歳實三百六十五日二十五刻ヲ廿

四ニワケテ出スナリ、西洋人ハ天文ヲ明白ニシリテ、是ヲ略シ、廿四氣ヲ立テ是ヲ一月トシ、其上日數ヲ自由ニ改メテ閏ヲ置ズ、是ミナ天ヲツカフナリ、漢人ハ天ニ合シテ道理ニ苦ム、是天ニツカハル、ナリ、西洋人ハ天ニサキダチテ、天差ハザルナリ、漢人ハ天ニ後レテ、天ノ時ヲ奉ズルナリ、コレ安ンジテ行フト、困シンデ行フト、其位ノ差フコト一級、彼ノ漢人ハ日月ヲ推歩シテ朔望ヲ考ヘ出ザレバ、來年ノ大小節氣ヲシルコトアタハズ、西洋人ハ毎年ノ大小節氣、女子小兒ト雖ヨクシリテ、何百十年ト雖前知明ラカナリ

今暦ハ三年ニ一閏ヲオキテ一月ヲマシ天ニ合ス、天暦ハ常ニ合スルユヱニ、閏ヲ置ニ及バズ、只四年ニ一日多キアルノミ、コレヲ閏年ト云、彼岸・半夏生・八十八夜・二百十日ノ類ハ、皆天暦ヲ用ユレバ用ナシ、今暦ハ節氣クルフ故ニ、コレヲ置テ耕耘ノタヨリトスルモノナリ、彼岸ハ二八月ノ中ナリ、八十八夜ハ三月ノ二十七日ナリ、二百十日ハ七月二十七日ナリ、半夏生ハ夏至ヨリ見合シテヨシ、タトヘ今コレヲシルスト雖、暖國寒國山中海濱ノ差別アリテコレニ合ヌコトナリ、故ニ天暦ヲ以テ節氣ニ隨ヒ天ニ合セ置バ、其國々ノ寒暖、山海ノ氣候ノ差ヒニカマヒナクシテ、其地々々ノ氣候ニテ、何月何日ニ何ノ種マク、何日ニハ植ル苅ル、何々ノ花實ハ何月何日トシテ違フコトナク、外ニクダ〳〵シク日ヲ記ニ及バズ、況ヤ今ノ暦ニテ、ソノ氣候諸國ソレ〳〵合ザルモノヲヤ、今ノ暦ニテ下段ニ田ウヱヨシ、種マキヨシナド無用ノコトナリ、中原ノ地ヲ以テコレヲシルス、何ゾ諸國オナジカラン、今淸ノ暦法日本ヨリモ混雜ス、帝王后妃ノ忌日誕生ヨリ、サマ〴〵ノコトヲシルス、和漢同日ノ論ナリ、節氣ニ加減スルハ却テ煩ニ失ス、日蝕ヲシルサヾルハ、孔子ノ知リ玉ハザルヲ回護スルモノカ、又ハ人主ノ警戒ノ爲ニカクノゴトキカ、唐宋以來モ日月ノ食ニハ、天子謹愼アリテ直言ヲ求ム、告朔ノ餼羊ノ類ナルベシ、スベテ虚禮ナリ、今推歩ヲ以テ知ルモノナレバ、シルシテ人ニ示シテ然ルベシ、ス

ベテ天文ノコトハトリワケテ年々歳々發明スルモノナレバ、古法ニ泥ムベカラザルモノナリ

五　彼岸ハ佛說ニ弘誓（グゼイ）ノ船ニノリテ、彼岸ヘ至ルト云語ヲトリタレドモ、氣候ニアヅカルコトニアラズ、佛家ニ彼岸會トナヅケテ供養スルヨリ始ルナルベシ、コレハ二八月ノ中ニテ事スムコトナリ、甲子・庚申ハ祭リ日ナリ、十方暮・八專ヲ以テ晴雨ヲトストイヘドモ無稽ノモノナリ、又ツチト云コトアリテ、大抵六十日ハ十方グレ、八專ツチニテ塞ル、三十雨ノ候トス、シカルニ五六十日百日モ雨ツヾクコトアリ、大旱ノコトアリ、此三ツノモノニヨラザルナリ、スベテ干支ハ人間ニテ日ヲカゾヘル符牒ナリ、天ニ於テ今日ハ何ノ日ナルヲ知ラズ、何ゾ干支ニ於テ雨フランヤ、天一天上ハ尙サラノ妄談ナリ、中段ノ建（タツ）除（ノゾク）滿（ミツ）平（タヒラ）是モ亦用ナシ、何モナキ空日故シルシオキタルヲ、黑日ナリト云テ忌コト、ナリ、又年德・金神・八將神コレ亦妄中ノ妄ナリ、スベテ干支日ノ善惡、方隅ノ吉凶、天ノシラザル處ナリ、ナンゾ煩ハシク天ニコレヲ賞罰センヤ、男女相性モ亦シカリ、世俗コレガ爲ニ、スベテ善期ヲ失シ好仇ヲ過マル、哀シムベキカナ、詩ニ云「桃之夭々、其葉蓁々、是子于歸、宜二其家人一」ト、コノ詩三月ノコロ、桃ノ盛ンナル時ヲ婚期トス、スベテ春陽スデニメグリテ永日トナリ、四民寬隙アルニ乘ジテ婚ヲナシ冠ヲ服スルニヨロシ、然ルニ月ヲ忌ミテ用ヒザルコソ淺ハカナレ、男女交婚ハ、トリ分ソノ人ノ德不德ヲコソ議ルベシ、ナンゾ方隅・日時・相性ヲ論ゼン、是等ノコトハミナ太宰氏ノ論アリトイヘドモ、曆術ノ序ニ論ジテ、世俗ノ惑ヲ解ントスルノミ

六 初月ヲミテ其月ノ晴雨ヲ辨ズルコトアリ、人多ク曰、立タルハ雨ナリ、スクヘバ晴ナリト、殊ニシラズ月ハ日ノ光リヲ受テヒカルモノナレバ自光ナシ、ユヱニ日ノアル方半分ヲテラスナレバ、春秋ハ日正面ニアリ、故ニスクフナリ、夏ハ日北ニアリ、故ニ立ツ、冬ハ南ニアリ、ナンゾ陰晴ニアヅカラン、スベテ風雲・虹霞・冷暖・暈霧ニヨリテ、陰晴ヲミルコトハ在ベシ、既ニ雨フラントスレバ、其キザシ此ルイニアラハルユヱナリ、方隅・干支・月星・地震ナドニテ、陰晴ヲ云コトハ妄ナリ、地震ヲ以テ晴雨ヲシル歌ナド、取ニ足ラザルコトナレドモ、大ティノ人コレヲ以テ實トス、アヤマルカナ、スベテ二八月ハ風多シ、四五月ハ雨多シ、梅雨ハ大抵五月ヨリ土用前ヲサスナリ、梅ノ黄バムヲ以テ云、其時節ナレバナリ、攝津八部郡ニ五月ニ水ノ出ル井アリ、其主人ヲ栗花落(ツエリ)氏ト云、栗ノ花モ此時節ニ落ルナルベシ、何ナリトモ時ノモノヲ以テ名付クベシ、柳子ノ詩ニハ三月梅天トアリ、コレハ南國ニテ作ルナリ、元來餅ヲヤクガ如シ、茶ヲイルガ如シ、陽氣イリテ一旦ハ溫トナリ、ソレヨリ乾キテ熱トナルモノユヱ、陽氣トホリテ雨多キナリ、然レバ入梅ト云テ、今日ヨリ梅雨ニ入ルト云コトハアルマジキナリ（暖帶ハ日天頂ニ來リテ日々雨フル）詩ニ、月畢ニ離(カヽ)レバ雨フルトアリ、スデニ孔子モコレヲ宣フト云ハ虛說ナリ、孔明長雨ヲシルト、七星壇ニ風ヲ祈ル、ミナ妄作ナリ、雨ヲ禱ルコトハ古聖賢ノ代ヨリモ例格アルコトナレドモ、畢竟ハ無益ノコトナリ、アル人荀子ニ問テ曰、雩シテ雨フルハ何ゾヤ、荀子云、猶雩セズシテ雨フルガ如シト、コノ一言ニテ諸人惑ヲハラスベシ

七　星隕テ石トナルハ經ニ出ルト雖、大抵ニミルベシ、天ニアル星ハ小ト雖、水星ヨリ小ナルハナシ、又隕ベキノ理ナシ、コレハ其云タル人ノ見謬リナリ、夜中ニ丸キモノオツレバ、星ト云モ宜ナリ、蓋シコノ火氣モ地中ヨリノボル濕雲ニツヽマレ、アツマリテ星ノ如クニナル、其上ル氣土ヲオビテユク故ニ、土火ニ焦レテ石ノ如クニナリ、重キニヨリテ落レバ聲アルベシ、其形狀金嚢ノゴトクニシテカロシ、石ト云モムベナリ、甲斐ノ國アタリニ多クアリ、星嚢ト云、コノモノ地上ニ隕レバ災ナシ、屋上ニ隕レバ災ヲナス、コレ天火ナリ、又晝オツルトキハ光ヲミザル故ニ、春秋ニモオツル石アリト云、星ト云ハザルナリ、又螢ノ如キ蟲數百千聚リテ飛ブモノアリ、竿ニテ敲ケバクダケテ散ナリ、コレヲ人魂ト云、ヨバイボシハ地氣ノ上ル小ナル者ナリ、（文王ノ武吉ノ命ヲ司トル星ヲミル、孔明ノ我ノ命ヲ司ドル星ヲミテ死ヲシルノルイ、ミナ誣ナリ、文王孔明カクノゴトク愚ニハ非ナリ）高天ニ至ルニアラズ、夫雷電トナルモノハ至テ激厲スルモノナリ、ソレカクノ如シ、天火・風雲・天變ノ類、人間ノ吉凶ニアヅカルコトナシ、一國一人ノ小ナル、天ナンゾコレガ爲ニ吉凶ヲシメサンヤ、日・月・星ノアル天ハ、幾億萬里ヲシルベカラズ、霧・雲ハ地上二三里ノ間ニアリ、タトヒ三千世界一時ニ風雷震動ストモ、日月ノ天ヨリコレヲミレバ、九牛ガ一毛トモミルベカラズ、コレヲ喩ラズシテ唯目ニ見ル處ヲ以テ、同ジ天ト思フハ謬ナリ、コレ遠近ニタトヘテイハヾ雲霧ノアル天ハ隣村ノゴトシ、日・月・星ノ天ハ天竺ノ如シト雖猶未ナリ、然ルニ天竺ニ大變事アリテ、隣村ナンゾコレヲシラン、東家ノ子西家ノ子ニ問テ云、天竺ニ變アリト聞、ナンヂ天竺ニ近シ、コレヲ知ルベシト云バ、西家ノ子

手ヲ拍テ笑フベシ、何ゾコレニコトナラン

八　十干十二支ノ字ヲ甲乙丙丁戊己庚辛壬癸、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥ト、直ニヨミワケルコトニアラズ、十干ハ元日ヲカゾユル字ナリ、コレ五行ヨリ出テ十字ナリ、十二支ハ元ヨリ月ヲカゾユル字ナリ、十二ヶ月ニ配當ス、又歳星ノ次リニモ用ユ、コレハ十二ノ數ニシテ西洋ノ立方ナリ、日ヲカゾユルニ十干バカリニテハ、月ニ三度回リテ紛ラハシキユヱ、干支トリ合テ六十日ニマハルヤウニコシラユルナリ、干ハ幹ナリ、木ノミキナリ、支ハ枝ナリ、エダナリ、然レバ則チ干ハ本ニシテ支ハ末ナリ、皆木ニカタドル、干ニ五行ノ意ナシ、支ニ生類ノ意ナシ、然レバ初メ製スルノ意ニソムク、皆後世ノ附會ナリ、十干ノ内丙ノ字火ノ因アリ、ソノ他木火土金水ノ因ナシ、十二支ノ内一字モ鼠牛虎兎龍蛇馬羊猿雞犬猪ノ因ナシ、後世五行十二畜ヲ以テ論ズルモノトルニ足ラズ　此干支ノ文字モ日本ヘハ應神ノトキ渡リタレバ、ソレマデ干支ハナキコトナリ、日本ヘ渡ルヤイナヤ、「キノエ」「キノト」「ヒノエ」「ヒノト」ノヨミハワリツケタルナリ、十二支ハ漢土ニテハ月ノ名ニコシラヘタルニ、木星ノ次リヘウツシ、又西洋ノ渾天儀・天球・地球等ワタリテ、ソノ地平儀ノ方隅ノ印ニ、鼠牛虎兎龍蛇馬羊猿雞狗猪ノ形ヲ畫タルニヨク合タルユヱニ、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥ノ字ヲ當テタルナリ、數ノ同キニヨルノミ、何モ義理ハナシ、ソレヨリ例シテツヒニ尾鰭ヲ付テ、道理モアルヤウニ思ヒテ、ツヒニハ子ノ神ハ鼠ナリ、丑ノ神ハ牛ナリト云テ、子丑寅卯トタヾチニヨミツケタルナリ、ミナ妄説ヨリ起ル、西洋ノ鼠牛ハ實ニ目印ノ符ナリト云コトハカツテ知ラザルナリ、ソノ後方隅ヲ二十四ニワケテ、ソレヲ詰ンガ爲ニ、十二支ノ外ニ十干ノ内八字ヲ用ヒ、四隅ニハ八卦ノ内ノ四字ヲトリテ廿四名トスルハ、言語ニタヘタル拙キ

コトナリ、コレラハ漢ノ暦法家ノ淺陋ナルモノ、スルコトナルベシ、甲乙丙丁ハ十干ニテスムベキニ、五行ニ配シテ兄弟（エト）ト云コトヲ云出ス、イハユル「キノエ」ハ兄ナリ、「キノト」ハ弟ナリ、シカレバ和語ニ「エト」ト云ハ、干支ヲサスベシ、十二ノ「エト」ト云コトハアルマジキナリ、又十干ノ文字ニ木火土金水ノ緣ナシ、今偏傍ニ酉ヲ「日ヨミノトリ」ト云、外ノ字モカクアルベケレドモ殘ラザルナリ

九　七十二候ト云フモノ、月令ヨリ出タルモノナリ、コレ亦煩ニ失スルコト多シ、竹根蟬ニ化スト云ハ、根ニ生ズル「キリウジ」ト云蟲ノコトナルベシ、腐艸螢トナルハ虛ナリ、前年ノ螢ノ生ミ付ケ置タルガカヘルナリ、雀ノ蛤トナルコトハアルベシ、毛蟲ノ蝶トナルハ、羽ノ生ズルニテ化生ニアラズ、薯蕷ノ鰻トナルハマノアタリミタル人アリ、水中ニイデタル根ニカギルナリ、孑孑ノ蚊トナルハ、コレモ亦羽ヲ生ズルナリ、其外コノタグヒ多シ、皆コレ太陽ヲウケテ化生スルモノナリ、七十二候ノ內虛實相半ストイフベシ

十　「ナクトケイケル」ヲ以テ天ヲ望ム「ゾンガラス」ヲカクレバ、日輪ヲモクハシクミル、全體ヲミルベカラズ、大抵十分ノ一ヲミルナリ、グル〳〵トマハシテ全體ヲミル、太陽ノ大サ凡徑一丈バカリニ見ユルナリ、數々ノ小星アリテ日ヲメグル三十餘アリト云、日ノ前ニアレバ點スルナリ、三五七箇常ニミル、金水ノ二星ハソノ中ノ大ナルモノ、同ジク日ヲメグル、月ハ地ヲ心トシテメグル、サマ〳〵

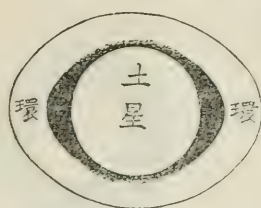
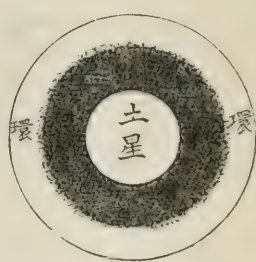
ノモヤウアルハ、山谷河海ニシテ世界アリト云、火星木星モミナ三四寸ニミル、木星ニ四小星アリ、土星ハ其光リウスク小ナリ、外ニ環アリ、圖ノ如シ、又五小星アリ、土・木ノ小星ハミナ木星ヲ心トシテメグルナリ、地ノ爲ノ月ノ如シ、ユヱニ西洋人之ヲ月ト云、恒星ハ日ガネニテモカハルコトナシ、其天ノ高キコトシルベシ、天漢及昴鬼ノ二星、アザヤカニ星ナルヲミルナリ、モツトモ土星ノ形狀ハ何トモアヤシキモノナリ、ユヱニ圖ヲアラハス

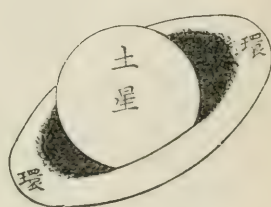
横面ノ圖

欹面ヨリ七年ニシテ横面トナル、又七年ニシテ欹面トナル

一周廿九年

欹面ノ圖

土星
環
環

正面ノ圖

星環ノ間ダヨリ恒星ヲ見ル

側面ノ圖

厄兒日、土星一周期一萬〇七百五十九日餘、十字徑十二萬二千里、星面ヨリ現裏面ニ至ル二萬千里、環幅モ亦二萬千里、中心太陽ヲ去ルコト十五億五千五百二十萬里、ユヱニ日光ニ遠ク光明ヲウクルコトウスシ、コノ天ヨリ下ヲ明界トシ、上ヲ暗界トス、日光ノトヾカザルユヱナリ、ソノ餘篇末「ウイストン」ノ圖ニクハシ

十一　日月地五星ノ大サ、天經或問ニ云、日ハ地ヨリ大ナルコト百六十五倍、月ハ日ヨリ小サキコト六千五百三十八分ノ一、月ヨリ大イナルコト三十八倍ト、日ハ天地ノ主宰ニシテ、萬物コノ一物ニヨツテ成生ス、唯コノ一陽ニテラサレテ、萬陰コレガ爲ニ和合シテ、コレニ對スルモノナシ、古ヘヨリ日月ヲ以テ相對スト雖、是ハ目ニミル處ヲ以テ云ノミ、對スルモノニアラザルナリ、七曜ノ天各自行ルハ人ノ知ル所ナリ、恒星天ニ自行ナシ、ユヱニ一日一周シテ差ナシト云、シカルニ又恒星モ二萬五千四五百年ヲモツテ一周スレバ、百年ニシテ一度四十六分ニシテ、一年ニ一分四十六秒ノ自行トナル、シカルニ土星天ノ三十年ニ一周ヲ九天ノ最トモ高キトスレバ、コノ恒星天ノ高キコトシルベシ、シカルニコノ天モ亦自行アレバ、同ジク黄道ニツレテ旋ルモノユヱニ、赤道トハ筋違ノコト、ナル、赤道極北極

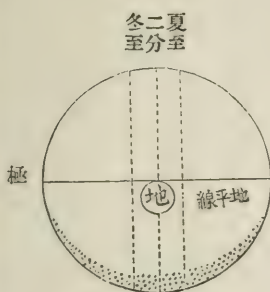
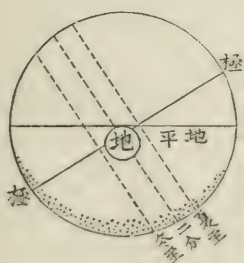
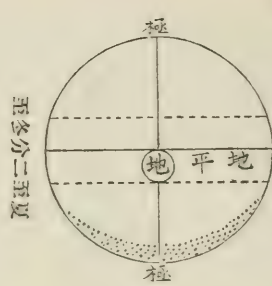
ニ星ナシ、ソノ傍ナル星ヲ以テ極星トスルモ、コノ星黄道極ヲ去ルコト二十四度一十分半、今享和年間北極ヲ去ルコト二度三十五分、以來二千年ニハ極ニイヨ〳〵近付キテ、相距ルコト〇度二十六分半、ソレヨリダン〳〵離レテ一萬二千七百年ヲ經レバ、極星北極星ヲ去ルコト四十七度二十九分半トナル、シカルトキハ四象限ノ半ニアリテ、今ノ北斗ノ在所ヨリハ外トナルベシ、其時ニイタリテハ、イマノ北極星ハ名ヲウシナヒテ、ソノ時ノ極ニ近キ星ヲ以テ極星トスベシ、コノ星ニカギラズ、紫微垣中ニアル諸星ミナ天頂ニ來リ、又垣外ノ諸星垣中ニイルベシ、天ヲ學ブモノコレヲシラズンバアルベカラズ、恒星トイヘドモ、コレモ亦一天ニハアルベカラズ、各天アリテソレ〳〵ノ自行アルベシ、觜ノ如キ以テ證スベシ、天經或問、歲ノ差ノ說モ闇ニコレニ合テ、コノ恒星ノ自行ヲ言ハズ、後世ダン〳〵ニ發明スルヲミルベシ、或問歲差ノ章、帝堯甲辰冬至初昏昴中ス、日虛ノ七度ニ纏フ、崇禎癸未箕ノ四度ニアリ、ソノ間三千九百二十年トモニ五十八度ヲ差フトキハ、六十八年ヲモッテ一度ヲ差フ、ユヱニ二萬五千四百年ニシテ、トモニ三百六十五度餘ヲ差フテ元界ニ復纏スト、コレマデハ歲差トスルノ說ナリ、シカルニ徒ニ歲差ニアラズシテ恒星ノ自行ナリ、太陽ノ遲速ニアラズシテ宿星ノ移ルナリ、四千年ノ久シキ、天學ノ名手數輩出ルトイヘドモ、コレヲ喩ラズシテ歲差トス、漸ク西洋ノ說ヲ以テ恒星ノ自行ヲシル、蓋月天ヨリシテ七曜ノ天各自ニ右行ス、月ノ十三度ヨリ日ノ一度ヨリ、火木土ノ三星ダン〳〵ニ自行減ジテ、恒星モ亦少シノ自行アラザルコトヲ得ザルナリ、コレ六十八年ニ一度ノ

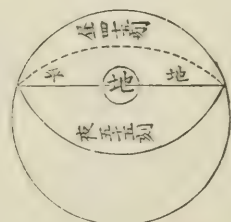
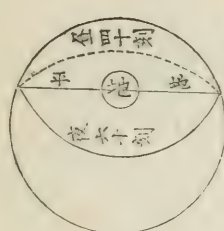
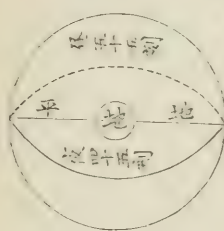
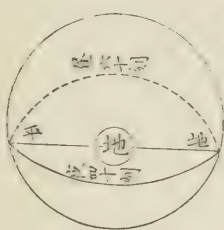
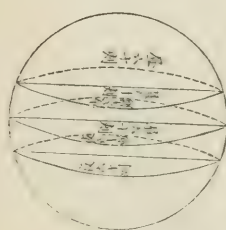
歳差ト云モノハ、恒星ノ自行ニシテ、積リテ二萬五千四百年ニシテ一周ス、シカルニ赤黃ノ兩極差フコト二十三度餘、コレ以テ星ノ移ル處ナリ、終ニハ赤黃ノ二道モゼン〳〵ニシマリテ、寒著モナキニ至ルベシ、コレモ亦シラズンバアルベカラズ、爰ヲ以テ麻田先生消長ノ法ヲタツル、定數ヲタテズシテ、十年ニ至リテ歳實ヲ加減シテ天ニ合ス、是モ亦朔望節氣ノ加減ノ意ナリ、先生ノ法ハ四千年來ノ未發ト云ベシ、中古七曜各推步シテ七曜曆ヲ作ル、終ニハ恒星モ亦推步スベシ

十二　南北極下、半年夜ニシテ、半年晝ナルコトハ、天學ヲスルモノ知ラザルハナシ、然ルニ只半年晝夜ノコトノミヲ知テ、三百六十日晝夜アルヨリ半年晝夜ニ至ルマデ、移轉スル步ミヲシル人稀ナリ、タトヘバ葺不合尊ノ八十三萬年長壽シテ、其皇子神武帝ノ百二十七歳ニテ崩ズルハ、父子ノ間ニシテカヽル壽夭ノ差アルニ察ヲ入ザルガゴトシ、粗ト云ベシ（コレヨリ北極下ノミヲ云ナリ、南極下コレニナラヘトシカイフ）南北極ノ眞ノ下ニアル地ハ、春分ヨリ日初テ出トイヘドモ、半月バカリハ曉天ノ如クニシテ、十二時（百刻）一周、グルリ〳〵ト旋リテダン〳〵ニアガリ、九十日ニシテ夏至ニ至リ最高トナルコト、七ツ時ノ日ノアリ處ノアタリマデアガリテ、ソレヨリ又ダン〳〵ニ下リ旋リテ、九十日ニシテ秋分ニ至リ、沒シテ出ザルコト百八十日（秋分前三五日モ日入カヽリテグル〳〵トメグリ、又入リテ半月バカリモ日暮レノゴトシ、亦春分前半月バカリハ曉天ノゴトク、ソレヨリ日ノ出カヽリナカバニ旋ルコト三五日ニシテ出ベシ、夫ヨリ秋分マデハ出テ入コトナシ、百八十日ノ間グル〳〵ト遶ルベシ）ソノ間地下ヲメグリテ、又春分ヨリ出ルナリ、ユヱニ秋分ヨリ春分マデヲ夜トシ、春分ヨリ秋分マデヲ晝トス、（コノ法ヲ以テ晝夜長短即測儀ヲツクル、別ニ用法圖解アリ）然レドモソノ百八十日ノ間ハ、日ハ天ヲ百八十周シテ、地平上ノ山

際ヲメグルコトナリ、シカルニ暖帶ノ間ハ日夜ノ長短少クシテ、正帶日本等ノ地ハ又長短多シ、ソレヨリ半年晝夜ノ地ニ移ルハ、忽然トカク俄ニナルニハアラザルナリ、大抵日本三都ハ北極ノ出地三十五六度ノ地ニシテ、四十度マデノ地ハ日本ニ比スベシ、五十度ノ地ニ至リテハ、夏至ノ晝七十刻、夜三十刻、冬至晝三十刻、夜七十刻、立春・立冬晝四十刻、夜六十刻、立夏・立秋晝六十刻、夜四十刻、春秋分ハ何地ニテモ晝夜等分ナリ、北極出地六十度ノ地ニ至リテハ、夏至晝八十刻、夜二十刻、冬至晝二十刻、夜八十刻、立春・立冬晝三十六刻、夜六十四刻、立夏・立秋晝六十四刻、夜三十六刻、春秋二分ハ等分ナリ、北極出地七十度ノ地ニ至リテハ清明晝五十八刻、夜四十二刻、穀雨晝六十七刻、夜三十三刻、ソレヨリダン／＼ニ日長ク夜短クナリテ、小寒ヨリ芒種ニイタル百五十日ノ間ハ長短アリテ、立夏晝七十五刻、夜二十五刻、ソレヨリダン／＼日ノ出入斜ニナリ、艮ニ出デ乾ニ入、小滿ノ晝八十七刻晝夜十三刻、芒種ヨリ日沒セズ、晝ノミニナリテ夜ナシ、夏至ヲコエテ小暑ニ至マデ三十日ノ間、太陽地上ヲメグリテ一晝トス（コノ三十日晝ヨリ百八十日ニ至ル、日輪山邊ヲ周リテ、南ニ高ウ北ニ低シ、極下ヨリ北ヘマハレバ、北ニ高ク南ニ低シ）正午ノトキ南ニテ地ヲハナル、コト四十三度、北ニテ地ヲハナル、コト二十六度、小暑ヨリ晝夜出來リテ、大暑晝八十七刻、夜十三刻、立秋晝七十五刻、夜二十五刻、白露晝五十八刻、夜四十二刻、ソレヨリダン／＼夜長クナリテ、秋分ハ晝夜五十刻等分トナル、ソレヨリ大雪ニ至ルマデ、又夜長ク晝短ク、大雪ヨリ夜ノミトナリテ晝ナク、太陽沒シテ出ザルコト、冬至ヲコエテ小寒ニ至ルマデ三十日ノ間、太陽地下ヲメグリ

テ一夜トス、小寒ヨリ晝夜出來テ、芒種ニ至ル前ノゴトシ、北極出地八十度ノ地ハ、清明晝七十五刻、夜二十五刻、穀雨ヨリ太陽出テ沒セズ、雨水ヨリ穀雨マデ六十日ノ間、晝夜アリテ、二十五晝、穀雨ヨリ夏至ヲコエテ、處暑ニ至ル百二十日ノ間一晝トス、太陽南ニテ、正午ノトキニ地ヲハナル、コト三十三度、ツヒニダン〳〵ト下リテ、處暑ヨリ霜降マデ六十日ノ間晝夜アリテ、霜降ヨリ冬至ヲコエテ、雨水ニ至ルマデ百二十日ノ間一夜トナル、雨水ニ日初テ出、晝夜アルコト前ノゴトシ、八十度ヨリ九十度ニ至ルマデハ、ダン〳〵ニ晝夜アルコト三十日バカリニシテ、夏百五十日ハ晝トナリ、冬百五十日ハ夜トナリ、百六十七十日ヨリ終ニ極下ノ半年晝•半年夜ノ地ニ至ル、九十度ハ極下ナリ、シカルニ晝夜アルノ地ハ、スベテ春秋二分ハ晝夜等分五十刻ナリ、極下夏至ノ日、太陽地ヲ出ルコト二十三度半、冬至ノ夜、地ニ入コト二十三度半、ソノ餘推シテ知ルベシ(圖中····線ハ原本朱書以下傚之)

赤道下ノ圖

極出地四十五度之圖

極下之圖 極ヲ天頂トシテ、赤道ヲ地平ニミル

又圖晝夜長短 春秋二月八月分

雨水正月中
霜降九月中

冬至十一月中

處暑七月中
穀雨三月中

夏至五月中

二至二分混圖 餘氣ヲ略ス

赤道下晝夜長短同圖解

此圖ハ實ハ地ノ中心ヲ心トシテ、平地ハ外ヨリ下リテ、ソノ地ノ中心ニアタルト雖、月天ニハセマク、日天ニハヒロシ、ソレヨリ上天恒星天ニ至リテハイヨ〳〵ヒロシ、然ドモマギラハシキ故ニ、略シテ地平ヲ地上ニオクモノナリ、以下コレニ倣フ

五帯之圖

北極出地五十度之地

同

極高キホド晝夜長短イヨ〳〵多シ、コノ地蝦夷ノ赤布山、及ビ砂漠北高海紅毛ノ南邊ニアタル

極高キホド晨昏ノ出入ナ、メニシテ長ク、冬夏ハイヨ〳〵長シ

六十度八十度ノ地コレヲ略ス、ダン〳〵北ヘヨルホド長短甚ダシク、ツヒニ六十度ヨリ北ハ三十日ヲ一日一夜トシ、五十日百日ヨリ半年夜半年晝ノ地ニ至ル

コノ地冬三十日ヲ夜トシ、夏三十日ヲ晝トス、ソノ間三百日ハ晝夜アリ、長短ハ前ニ論ズ、シカルニ春秋二分ハ何地ニテモ晝夜平分ナリ

コノ地「ダッタン」「モンガリヤ」「シビリヤ」「モスコビヤ」「スウエイデン」ノ北海邊ニアタル

北極出地六十六度半以上ヲ寒帯トス、コレヨリハダンダンニ晝夜長短甚ダシク、冬至前後夜トナルコト三十日、五十日ヨリ百日百五十日ニ至リテ、ツヒニ半年夜トナルニ至ル

コノ地七八十度ノ間ヨリ、冬ハ氷リテ船通ゼズ、「クルウンランド」「エイスランド」ハコノ中ニアリ、大寒國ナリ、八十度以北ハ人畜草木モ生ゼズ

夏至

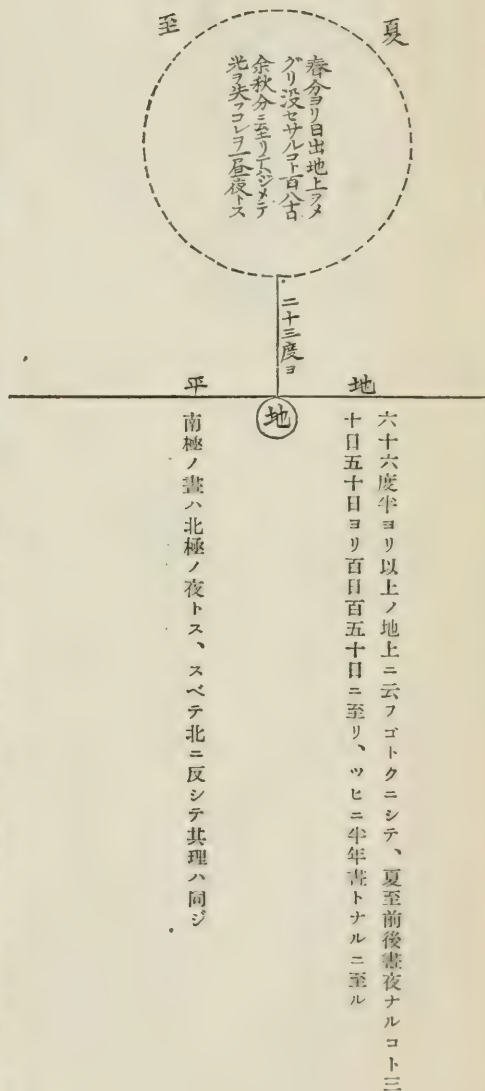
春分ヨリ日出地上ヲメグリ没セサルコト百八十日余秋分ニ至リテハジメテ光ヲ失フコレヲ一昼夜トス

二十三度ヨ

地平

地

六十六度半ヨリ以上ノ地上ニ云フゴトクニシテ、夏至前後晝夜ナルコト三十日五十日ヨリ百日百五十日ニ至リ、ツヒニ半年晝トナルニ至ル

南極ノ晝ハ北極ノ夜トス、スベテ北ニ反シテ其理ハ同ジ

十三　上古日食ヲ大變トシテ、王者徳ヲ失フノ警アリ、イカサマ俄ニ白晝クラクナリタラバ驚クベキナリ、春秋ノトキマデモ其測算ノ術ナク、山崩河竭ト同ジクシルサレタルナリ、ソノトキマデハ大白吉ヲ示シ、熒惑凶ヲシメス、近世マデモ彗星ハナホ凶ナリトシタリ、前漢ヨリ推歩ハジマリ、日食ヲ推測リツヒニ五星ヲ推歩スルコトトナル、是西洋ノ暦法支那ニ入タル始メナリ、シカルニ彗星ハ近キコロヨリ推歩ノ術起ル、コレモ亦變ニアラズ、天球渾天ノ法ハ早クシルト雖、地球ノコトハ甚晩シ、地球ハテマリノゴトクニシテ、ソノグルリニ山海國土アリテ、外ヲ上トシ内ヲ下トシテ、百八十度差

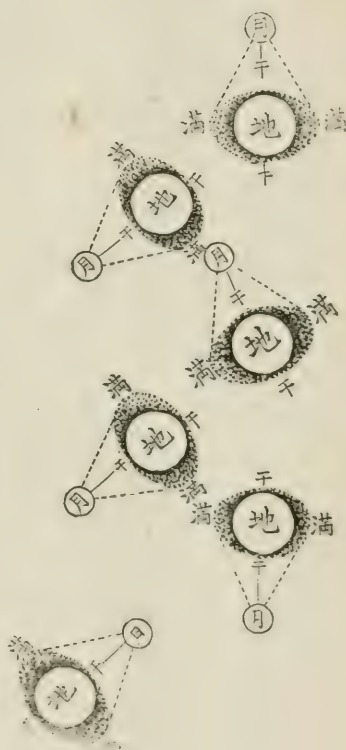
ノ國ハ、逆ニナリテ足ヲ合セテ立ナリ、水モミナグルリトメグリテ外ヲ上トス、淺智ノ肯ハザルコトナレドモ、カクノゴトクナラザルヲ得ズ、コノ理明カニ行ハレテヨリ、月食ノ推步地影ノ說モ起ル、天文地理ハ年々歲々ニヒラクコトナレバ、古說ニ泥ムコトアルベカラザルナリ、西洋ノ人ノ諸藝ニ精シキハ、和漢ノ人ノ及ブ所ニアラズ、一器ヲツクリ一術ヲ工夫ス、ミナ官ニ訴レバ直ニ其家ニ祿ヲ與ヘ、費用ヲソナヘテ到ラザル處ナシ、病ヒニアヘバ子或ハ弟子ニ讓リテコレヲ訴レバ、又其嗣ヲ奉ズルコト前ノ如シ、ユヱニ三代五代ヲ歷テモトゲ得ザルコトナシ、天文地理ニ於テハ、萬國ニ往來スルニハ船ヲ給シ、費用ヲソナヘテアルユヱニ、往ザル所ナクシテ、工夫ヲ極メルナリ、其餘醫術ヲハジメ諸藝ミナシカリ、和漢ノ人其志アリト雖、口ヲ糊スルニ苦シム、故ニ遂得ルコトアタハズ、ソノ術ノ精粗由テ差フ所ナリ、然ルニ紅毛ナドノ國ハ、國王元ヨリ商賈ノ大將ナリ、萬國ニ奔リテ天文地理ヲ究ムルハ、其起リハ通商ノ爲ニシテ、航海スレバ天文ヲ知ラザルコトヲ得ズ、又其內ニ弱國アレバキリトラントト謀ル、衆人ノ命ヲ惜マズ、萬國ノ往來スルハ、其身ニトリテハ無用ノコトナリ、和漢ノ人ハ幸ニシテ其賜ヲウケテ居ナガラ、天文地理始メ醫藥名物ヲ得ルコトナレバ、是ヨリ幸ハアルマジ、萬國ニ艤スルニ及バズ、外國ヨリ持來ルコト、是我國ノ貴キヲシルベシ

十四　雷ハ必上ヨリ落ルニ限ルベカラズ、雷ハ俗ニ云、陰陽ノ闘ナリ、又水火ノ闘ナルモノ皆シカリ、陰雲陽霙トビチガヒ縱橫奮激スルモノナリ、天地ノ氣一年ニシテ一呼吸ス、夏至ヨリ冬至マデ百八十日ノ間、北極氣北ヨリ推テ南ニ行、故ニ常ニ西北ノ風吹、日輪モ其氣推シ、段々南ニ移ル、スベテ物皆隨フテ推移サル、天地ノ一呼ナリ、ミ此突ク息百八十日ニシテ盡レバ引息ト成、冬至ヨリ夏至マデ百八十日ノ間、南極氣南ヨリ推テ北ニ行、故常ニ東南ノ風吹、日輪モ其氣

ニ推レテ段々ト北ニ移ル、物皆隨ツテ推移ル、是天地ノ一吸ナリ、都合一呼吸備ハル、一年トナリ、如レ此南北ヨリ强ク推ス事故ニ、丸キ天地左右ヨリ推シテ遂ニ轉ズ、故ニ天ノ運行常ニ東ヨリ西ニ轉ジ、左旋シテ不レ息、如レ此天地ノ中ニ生ズル物、皆左旋セザルコトヲ得ズ、金銀ノ蔓モ東西へ延、スベテ蔓草アサガホ・葡萄・忍冬ノルイ、皆左旋シテ陰莖マデモ左旋ノ姿ナリ大抵ハ斜ニ撃ツモノナリ、元コレ火氣ノ奮激ユヱ斜ニ落ル、其勢シカリ、其内大抵ハ地マデ落ルハ少シ、ユヱニ寺塔・城樓ノ高キモノヲ撃コト多シ、其撃ヤハカルベカラズ、夏武乙震死ス、其無道ナル幸ヒナリ、雷ノ人ヲコロス、ナンゾ其人ノ善惡ニカヽハランヤ。文武周孔ト雖、頭上ニ落カヽルトキハ免ルベカラズ、佛氏ノ因果ヲ說ト雖、釋迦・達摩・空海・小角ト雖免レザルナリ、況ヤ雷ヲ生ドルト云コトヲヤ、又雷ノ形容ヲ實ニ見タルト云ハ、火ノ玉ト云ヲ實トス、獸類ノ說ハミナ虛說ナリ、皆虛說者ノ附會ナリ予ライチ見タリ、實ニ火ノ一塊ナリ、又スグニ落ルニ非ズ、他ヨリミルニ斜ニトビユク如ク、ミユルヤイナヤ一聲ト共ニラクライスル也

十五　日ヲ朔日ヨリ二日・三日トカゾヘルハ、後世ノコトナリ、漢土ハ三代ノトキ皆甲子ヲ用ヒ、二日三日トイハズ、故ニ父母ノ忌日終身ノ憂ト云モノハ、ミナ甲子ニシテ、六十日ニ一日アルナリ甲子ニテクルヨリハ、今ノ二日・三日トクルヲ便トス日本紀ノ甲子ハ皆長曆ヲ用ヒテ入タルモノナリ、コノトキハ乙卯ノ朔壬申ナドヽ云テクリテミレバ幾日トナレドモ、今ノゴトクニ何日トイハザルコトユヱ、クルニモ及バズ、干支ヲ以テ通用スルナリ、今ハ二日・三日トクルユヱニ、甲子ノツヾキハ覺エガタシ、八專・庚申ヲミルニハ、日ヲクルニ及バザルナリ、後世日ヲ用ヒテ二日・三日ト云ユヱニ忌日ノ六十日メニ至ルコト當ラズ、ユヱニ一歲一日トナル、佛家ハ每月トス、コレハ供養シテ錢ヲトル爲ノコシラヘゴトナリ、梵・漢ニナキコトナリ

十六　潮汐ノ月ノ出入ニ隨フ事何ノ謂ヲ知ズ、コレモ亦一奇ナリ、潮ハ廣韻ニ直遙切、集韻韻會並ニ馳遙反、並ニ音晁、」皇極經世書ニ曰、「海潮者、地之喘息也、隨レ月而消長、早曰レ潮、晩曰レ汐、」朝ニ潮ト云フタニ汐ト云フノ論ナシ　東海漁翁海潮論ニ曰、「地浮與ニ大海、隨レ氣出入、地下則大海之水入ニ於江、謂ニ之潮、地上則江潮之水、歸ニ於滄海、謂ニ之汐、汐廣韵・集韵・々會・正韵、並祥亦反、音席」ト、コレミナ地球ヲシラザル古昔ノ論ナリ、日ハ陽ニシテ火ヲ主リ、月ハ陰ニシテ水ヲ司ドルト云ハ陰陽家ノ説ナリ、日ハ太陽ニシテ諸火コレニヨリテ生ズ、地・月・五星ソノ餘ミナ陰ニシテ獨立セズ、太陽ニ蒸立ラレテ溫氣ヲオビ、陰陽和合シ共生ヲ遂ルナリ、月ヲ水ト云ベカラズ、土ナリ、木火土及衆星ミナ土ナリ、ミナ世界ナリ、賴ミヨルモノハ唯一太陽ノミ、ユヱニ太陽ニチカク向フモノハ熱シ、太陽ニ遠ク背クモノハ寒ル、天地アヘテコレニ對スルモノナシ、日月トナラベ云モノハ、目ノ見ル處ニシテ然ルノミ、實ハ雲泥ノ差ナリ、シカルニ潮汐ハ月ニ隨ヒテ干滿ス、何ノ謂ヲシラザレドモ、其ユカリナキニシモアラズ、月ハ地ヲ心トシテメグリテ間斷ナシ、尤モ地ニ近シ、ユヱニ其力ヲ以海水ヲ推スナリ、月ノ正面ニ向フ處ノ海水、月ニオサレテ四方ヘ分ル、コレニヨッテ月ノ直下ハ、海水減ジテ其外ニ溢ル、シカレバ地ノ表バカリヲ推スベキニ、表裏共ニ推スコトコレ不審ナリ、月地下ニアリテモ干ルヲ云、岩橋氏ノ平天儀ノ圖說ニ云、潮ハ月ニテ推スノミニアラズ、日ニテモ推スナリ、然ルニ日ハ遠キユヱニ月ヲ甚シトス、朔望ノ前後ハ潮平日ヨリ干滿甚シ、コレ日ノ力ヲ添ルナリト、コレモ亦然ランカ、干滿ノ圖左ノゴトシ

月下表裏トモニ潮干ル圖

月ノ出入ニツレテ、潮ノ干滿スルコトハ圖ノ如シ、天經或問ニ、一年ニ一度、或ハ三五度、又ハ一日ニ三五度ノ干滿ヲ云ヘドモ其虛實ヲシラズ、數年海上ヲ得タル船司ニ求テ、潮ノ干滿ヲキクコトアリ、左ニシルス　潮汐晝夜二度ノ外チ云ハ皆杜撰ナリ、コノ月ノ出入ト云コトハ四時ノ差ヒ、又遲速九道ノ差アリテ、大ニ遲速アルコトナリ、月天頂ニ至リテ干ルコトハ差ナシトシルベシ、タトヘバ五月望、晝六十刻夜四十刻、日ハ夜半ヨリ半夜分ニテ二十刻ニ出ル、是チ卯ノ正刻トス、月ハ二十ヽ刻ニ入ル、コレ辰ノ初刻ナリ、サテ日ハ八十刻ニ入、コレチ酉ノ正刻トス、月ハ七十五刻ニ出ル、コレ酉ノ初刻ナリ、冬ハコレニ反ス、ソノ上ニ月ニ九道アリ、遲遲アリ、又南道・北道行アリ、ユヱニ今世俗汐ノ干滿、及月ノ出入ナクルコトハ大キニ差アリ、只朔望チ卯酉ノ正一刻トシテ、ソレヨリ一時ナ十刻トシテ一日ニ四刻ヅヽ退クトス、ユヱニ出入ニシタガフコトハ差多シ、天頂ニ中スルトキハ差ナシ、然レバ中ト干トハ合スベシ、出入ト滿トハ合ハズ

一　汐ハスベテ東ヘ流ル、コレヲ本トス、其外シナ〲アレドモソレハ本流ニアラズ、行當リテ激

スルモノナリ

一　大坂川口ハ月ノ出入ニ、八分位ノサシ汐ナリ、大汐ノトキ増減凡ソ五尺計リ、シカルニ四季月月ニ少シヅヽノ差アリ

一　淡路・明石ノ湍戸（セト）ハ、月ノ出入ニサシ汐二分計リ、滿ハ西ニ流レ、干ハ東流トナルナリ

一　苫ガ島ノ湍戸ハ島三ツアリ、三ツトモニ汐ノサシ引、月ノ出入ニ一二分バカリ滿ハ北ヘ入ル、干ハ南ヘ出ルナリ

一　播磨路ハ月ノ出入ニヤウヤク滿カヽル、沖ハ明石ニ同ジ、鳴戸ノ汐ト和シ、ソレヨリ讃州箱ノ岬ニ至ル、鳴門ノ汐ハ月ノ出入ニ滿カヽル、コノ處ハ滿ニ船ヲ入レテ干ニ出ス、備中マデハ東海ノ汐來ル、コレヨリ西海ノ汐來タル

一　備前・備中・讃州ノ間ハ、月ノ出入ニサシ汐二三分、四季月々差アリ、三四月ノ長日ニハ、月ノ出入ニ滿カヽル、何地ニテモ少シノ差アリ、日ノ長短ニヨル、備中・備後ノ沖、讃州高松ノ邊ヨリ下ハサシ引多シ、大汐ノトキサシ引増減一丈バカリ、四季ノ差アリ、コレハ東西ノ汐行逢ユヱニ高シ

一　藝州尾ノ道ヨリミタラヒマデ、又豫州西條・今治沖・來島沖（來島ハ伊豫ノ國ナリ、豐後ノクルシマニアラズ）ノセトノ汐ハ、月ノ出入ニ滿カヽル、大汐ノトキ増減八尺バカリナリ

一　豐後佐伯邊ノ汐ハ、月ノ出入ニ滿カヽル、又佐賀ノ關ト伊與ノ間ハ半滿ナリ、コノ間ワヅカ十

里餘ニシテ、カクノゴトク差アリ、ソノ上二十里ノボレバサシ汐三分計リ、又十里バカリ上ハ二分計リ佐賀ノ關大汐ノトキ、サシ引增減五尺計リ、四季ノ差アリ、コノセトヨリサシ汐東西ヘ分ル、東ハ讃州箱ノ岬ニ至、西ハ下ノ關ヨリ筑前山鹿ノ岬ニ至ル、コレヨリ西ハ西海ヨリ來ル

一　下ノ關ノ汐ハ、月ノ出入ニ滿カヽル、大汐ノトキ九尺計リ、四季ノ差アリ

一　下ノ關ヨリ長門ノ角島マデサシ引アリテ、ソレヨリ北海ハ夏ハ少シヅヽ干滿アリ、冬ハ甚ダ少シ、但北風ハ減ジ、西南風ニ增ス、角島沖ハ北ヘナガルヽコト至テ早シ、月ノ出入ニ暫ク上リ汐アレドモ時刻定マラズ、スベテコノ邊ヨリ北海ハ汐丑寅ヘナガル、越後出羽マデハヱルクシテ、出羽ノ男鹿ノ岬ヨリ東ハ至テハヤシ、夏ハ尙早シ、南部タツヒノ岬ト松前ノ間ハ、マス／＼急流ナリ

一　紀伊ノ國ハ月ノ出入サシ汐二分バカリ、大汐ノトキ增減四五尺、ソレヨリダン／＼東ホド減ズ、伊豆下田ヨリ相州浦賀ノ邊ハ二分バカリ、ソレヨリ武藏神奈川邊ハ五尺餘、四季ノ差アリ、東海ハ日和ニヨリテ增減多シ

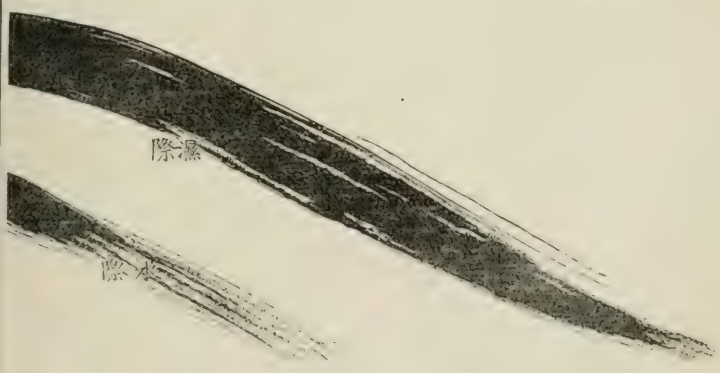
一　四國沖ヨリ東海ノ間ハスベテ東ヘ流ル、紀州大島沖ハ至テ早シ、故ニ汐ノ岬ト云、朝夕ハ少シユルシ、日中程早シ、此汐常ニ東流スト雖、時ニヨリ西流スルコトアリ、シカレドモ二三年ニ一度ナリ、コノ沖ヨリ東ヘ流ルヽヲ黑潮ト云、大キニ早キ汐ナリ、コノ汐スヂニトラルヽ船ハ、暫時ニ大東洋ニ流サル

一　勢州大王崎ト云岬アリテ、コレヨリ尾張・伊勢ノ内海ヘサシ込ナリ、干汐ハ南出ス、月ノ出入サシ汐二三分、又ハ七八分、コレハ内海ユヱ所々カハルナリ、大王岬五六里モ、沖ヨリ大熊野並ニ遠江灘ト同ジク東流ス、コレモ時ニヨリテ一夜ノ間ニ變ズルコトモアリ、大汐ノトキ増減三四尺、ソノ外東ヘ行ホドスクナシ

一　毎月十四日ヨリ十七日マデ、二十七日ヨリ三日マデヲ大汐ト云、十三日廿六夜ヨリ増スコトナリ、三日十八日ヨリハ減ズ、尤中汐・長汐・小汐ノ分アレドモ、船中ニテハ大汐ノ外ハ小汐ト云、スベテ十二月ヨリ正・二月ハ干満少シ、八・九月ハ干満多シ、三月ハ干汐多シ

一　汐ノサシ引所ニヨリテ緩急アリト雖、満潮ハ勢强シ、干汐ハヨワシ、タトヘバ満潮ニ船ヲ流セバ三里行テ、干汐ニハ二里行、然レドモ鹽飽路ハ干満トモニ早シ、スベテ何方ニテモ巳午ノ風フケバ満汐多ク、干汐少シ

凡聞書斯ノ如シ、スベテ日本ノ東南ハ國ナシ、西ハ漢土ヨリ交趾・安南・眞臘・太泥ヘツヅキテ、南ヘサシ出テフサガルユヱニ、一概ニ論ズベカラズ、北海ハ西ニテ肥前・壹岐・對馬ノ間ヨリサシ込、北ニテハ蝦夷ノ「ソウヤ」「カロフト」島ノ間ワヅカニ七八里、東ハ松前・津輕ノ間モ七八里故ニ、サシ引少クシテ干満高シ、右三方ノ口ハセマシト云ドモ、海ノ濶サハ五六百里凡北高海ノゴトシ、サテ南大海ノ如ハ暖帯ノ間國ナシ、西ヘ巡リテハ呂宋・渤泥等ノ國アリ、東ハ四五千里ニシテ「アメリカ」國アリ、南北

熱際ハ日天ノ上下ニシテ至ツテヒロシ
熱際
熱寒濕際之圖
寒際ハ至ツテ少シ、濕際ハイヨ／＼少シ、水際ハ纔ニ三間或ハ五六間ノコトナリ
濕際
水際

熱際
熱際ハ論ニオヨバズ、濕際ハ日ノ陽氣地ニアタリ、ムシ立テ濕氣ヲ帶ルモノナリ、故ニ平野海面ハ高下ナシ山ノ高下淺深ニヨリテ、寒濕ノ際昇降ス濕氣ハ地氣故ニ、地ニツレテ昇降ストイヘドモ、高深ノ山ハ寒際ヲツラヌキ、地ノ割合ニアタラズ、水際マタシカリ、高山ノ山頂ハ水氣上リ得ズ、山下泥下ハ水至ッテ近シ、此寸分ヲ見テ工夫アルベシ
雲霧ハ寒濕際ノ界マデ上リテソレヨリハ上ラズ大テイ地ヨリ二三里ノ間ナリ、ソレヨリ上ハ雲靄ナシ、萬古晴天ニシテ、曇天ハナシトシルベシ
丘陵
中山
濕際
水際

熱際

日氣地濕ヲムシテ陽氣立ノボリテ、寒際ニ至リテ止リツヒニ雨トナリテ下ル、タトヘバ釜ノ蓋ニ湯氣タマリテ、露トナリ垂ガ如シ
濕際
水際

熱際

高山

高山ノ頂ハ寒際ニ入ル故ニ寒シ

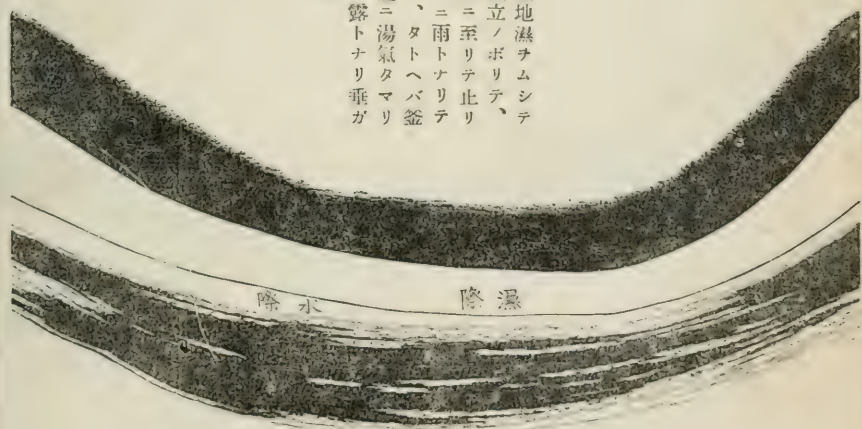
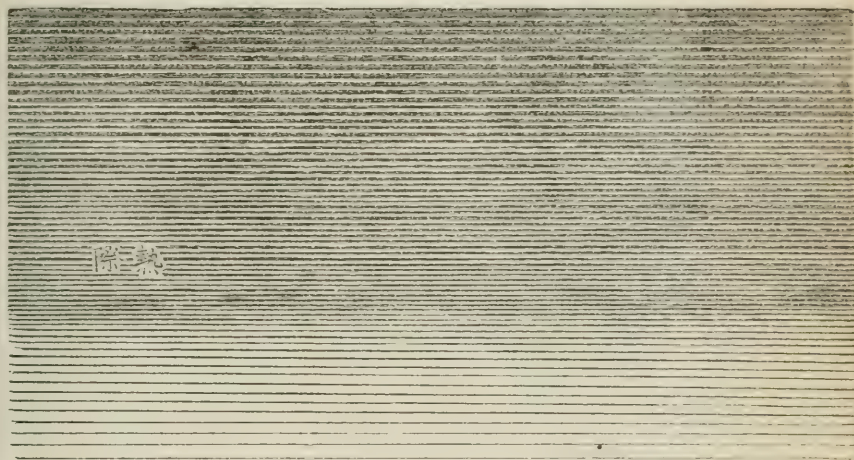
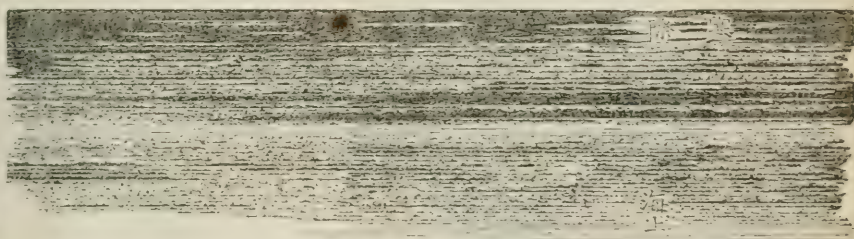
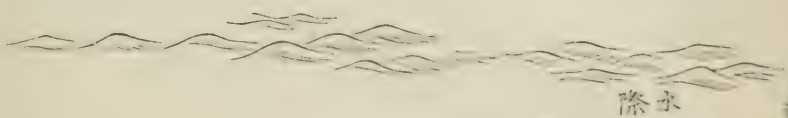
濕際

氷際

熱際

海上

溫際

氷際

へ横タハル、コノ處ニテ東行ノ汐行アタリテ南北ヘ分レ流ル、西洋人ノ圖スル地理ニハ箭ヲ畫キ、汐ノ流ル、方ヲシラシム、コレヲ以テ知ルベシ

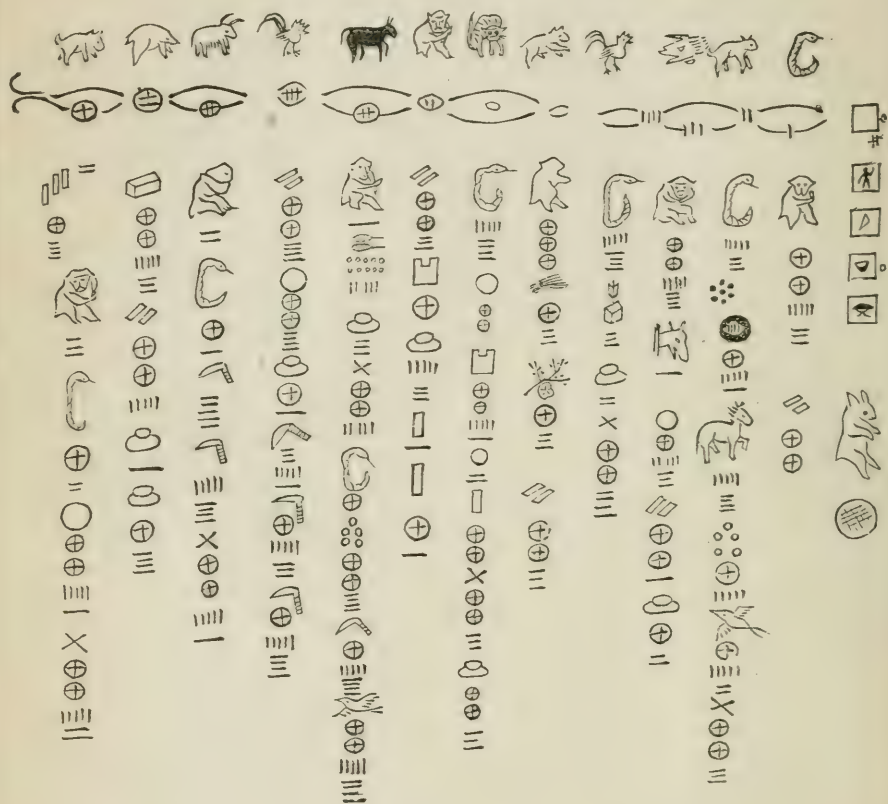
十七 日天ヲ熱際ト云、コノ熱ダン〳〵ニ消シテ冷トナリ寒トナル、コレヲ寒際ト云、又日熱地ニアタリテ激シ、陰ニ和シムシ立、冷暖アルヲ濕際ト云、熱際十ノ八ニ居リ、寒際十ノ一五ニ居リ濕際ハ二十ノ一ニ居ルベシ、シカルニ同ジク地ニアタルモノユヱ、平野ハ寒際低ク、高山ハ高シト雖平地ノ割ニアラズ、山低シト雖深山ハ陰氣多クシテ寒際下ル、濕寒ノ際ハ地ノ高低ニヨルト雖、熱際ハカカハルコトナシ、海上ハ又寒際低シ、大洋ニ至リテハ雨ナシ、雲起ラザル故ナリ、又水際ハ泥土沙石ノ異ルアリト雖、水際ハヅレテ高ク、平野ハ亦低シ、然レドモ突兀タル山ハ乾キ、低キハ濕多シ、山下ハ水氣多シ、山ニ遠キホド下ル、井ヲホリテシルベシ

天ノ三際、地ノ水際、臆度ヲ以テ圖スルモノナレバ、ソレイカンヲ知ラザレドモ、大抵差ハザルニ庶幾カランカ、冬夏・寒暑・冷暖・梅雨中ノ水氣多キシナ〳〵アレバ、又必ズコレニ限ルベカラズ、夏至ニ日輪最北スト雖、ソノ熱ノ徹リタルトキハ、イリ茶、乾餅ヲヤクガ如ク、一旦ハシメリフクレテ、其濕氣ヲ拂ハザレバ、實ノ暑熱トナラズ、ユヱニ夏至前後ハ霖雨多シテ、土用ヨリ立秋トナリテ暑熱甚キナリ、冬至ハコレニ反ス、理ハ一ナリ、又水際ハ古人ノ云ハザル處ナレドモ、名ノ下スベキ方無クシテ、假ニ名ケテ水際トス、井ヲ掘テ水ノ有ル界ノコトナリ

十八　花山帝位ヲ遁ル夜、安倍晴明天象ヲ見テ、天子位ヲ去ノ象アリトテ急ニ參內ス、是ハナキコトヲ書タルモノカ、又實事ナラバ、誰ニテモ告知ラセタルナラン、天子位ヲ去ル、ナンゾ天コレヲシラン、天斯ノ如ク煩シカラザルナリ、漢土ニテモ文王天文ニ見テ吉ヲハカリ、孔明星象ヲ見テ自ラ死ヲシル、ソノ外虛言ノミ、コレヲ云人ノ虛カ、又ハ自ラ僞ルカ、天下ノ罪人ナリ

十九　鬼門ト云コトハ、最澄比叡山ヲ開カン爲ニ云出ス處、アヽ憎ムベシ、山海經ニ曰、「東海度朔山有二大桃樹一蟠屈三千里、其東北曰二鬼門一萬鬼所レ聚也、有二二神一曰神荼、曰欝壘、黃帝象レ之立二桃枝於戶一」ト、コレ鬼門ノ始ナリ、史記顓頊本紀ノ註ニモコノコトヲ云、最澄桓武帝ヲアザムキ、王城ノ鬼門ヲ守ト云テ比叡山ヲ創立ス、殊ニシラズ東海度朔山ハ、碣石ノ東海ニシテ日本ヨリ西ナリ、其山ノ桃樹ノ東北ノ門ト云ヲ、何方ニテモ東北トス、日本ノ東北ニアラザルナリ、佛氏己ガ爲ニスルコト至ラザル處ナシ、叡山ノ堂舍ナンゾソレ盛ナル、王家ヲ護ラズシテ害ヲナシ、ツヒニ大師ノ號ヲ受ケ、王子ヲ法嗣トシ、萬世祭ヲウク、王家ノ耻辱云ベカラズ

二十　奧州ハ古ヘハ蝦夷ナリシニ似ズシテ名所多シ、却テ事多クシテ都ヨリモ往來シゲク、任國又ハ哥枕修行ト號シテ下リシ人少ナカラズ、ユヱニ其名勝ヲ題トシテ、奧地ノコトヲヨム歌多シ、ユヱニソノ地名自然トヤサシクキコエテ玩ブベシ、シカルニ戰國ノ間中原ト雖文ヲ學ブ人少ク、況ヤ東奧ヲヤ、國初ノトキハ士大夫ダニモ文ヲシラズ、百姓ノ如キハナホシカリ、殊ニ仙臺ヨリ南部・津輕ノ地ハマ

南部曆　天明三壬卯歳

タイヤシク、南部ニハ官曆ヲヨミ得ズシテ、方俗ノ見安キタメニ作レル曆アリ、是ヲ南部曆ト云、ソノ野部云ベカラズ、サレドモ斯ノ如クナラデハ俗ニ通ゼズ、今持來ル處ノ曆ヲココニ附シテ參考ヲ博クスルノミ

上ノ畫ハ朔ノ十二支ナリ
次ノ紐結ビタルハ大、ワカレタルハ小ナリ

南部暦譯解

○ハ子ノ印北ナリ　ハアキノ方ナリ　ハ大サイムカヒテ木ヲキラズ　ハ大ヲンサンヲセズ　ハサイセツ種マカズ　ハサイセツ嫁トラズ　ハ卯ナリ、卯ノ年　ハ歳ナリ、　ハカノヘ申ナリ　ハ八專ナリ　ハ天一天上ナリ　ハ月蝕ナリ　ハ初午ナリ　ハ社日ナリ　ハ彼岸ナリ×十方グレナリ　ハ未詳○ハ天シヤ日ナリ　ハ種マキヨシナリ　ハ八十八夜ナリ　ハ夏至ナリ　ハ入梅ナリ　ハ地火ナリ　ハ半夏生ナリ　ハ初フクヨリ三フクナリ　ハ二百十日ナリ　ハ稲刈ヨシナリ　ハ冬至　ハ寒ノ入ナリ

此暦今ニ用ユル所ナリ、山中無二暦日一ト云フ詩ニ思ヒ合スベシ、カヽル文盲ナルコトナリシニ、今ハ奥州モダン〱ニヒラケテ、名所古跡ニホコリ古歌ヲ詠ズ、シカレドモ山中ニハ尚此暦ヲ用ユルヨシナリ

二十一　世ニ雷ヲ恐ルヽ人アリ、ソノ根元ハ臆病ナリ、實ハ命ヲトラルヽガ怖ロシキナリ、幼少ノ時フト此病ツケバ年々ニ甚シクナル、奇麗好ノダン〱ニ甚シクナルト同ジ、予ハカヽル癖アリト生付ノヤウニ思ヒ、自ラ許シテ曰ク、人ハ雷ヲ恐レザル故シラザルナリ、中ニ雷ノ畏ベキハ平人ノ知ルコ

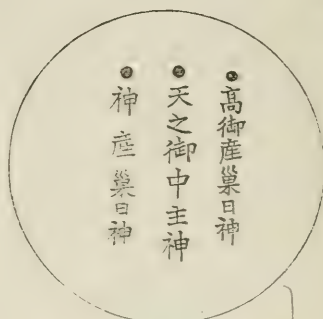
トニアラズト云テ、耻ヲカキテモタシナミ懲ルヽ意ナシ、故ニ年々其病長ズルナリ、然ルニ此病根ヲ生ズルコト、自ラナスノミニアラズ、大抵ハ父母ノシワザナリ、或ハ乳母僮婢ナドヲシヘテ怖レシムルニ始マルナリ、此雷キラヒノ人老後大聾ニナリタル人アリシガ、雷聲耳ニ入ラザレバ、曾テ恐ルヽコトナシ、スベテ蜘蛛・芋蟲ヲ怖ル、ソノ外ミナ同ジ類ナリ、然レドモ雷ノ落ルコトハ一定セズ、野ニ在テ免ルアリ、家ニ居テ撃ルヽアリ、タトヘ山ヲツンザク勢アリトモ、頭上ニ落カヽルトキハ遁ルベカラズ、王公・大人・聖賢・君子・佛菩薩ト雖、觸ルルモノハ免ルベカラズ、豈方寸ノ木札・加持・祈禱ノシルコトナランヤ、殷ノ武乙震死ス、コレヲ無道ノ因果トス、シカレバ桀・紂・武烈ナンゾ震死セザル、王・董・安・史（王莽、董卓、安祿山、史思明）ハ天コレヲイカン、清貫・希世何ノ罪カアル、皆コレ偶然ナリ、天何ゾ手ヲ雷ニカラン、熊澤先生曰、雷ヲ恐ルヽ人ハ惡人ナリ、雷聲ハ物ノ留滯ヲトキ通ズルモノ故ニ、雷ヲキケバ氣血流行シテ、針灸ヲシタル迹ノ如クニ快キモノナリ、其鳴コトノ少キヲ惜ムナリ、盜賊ヲ戒メノ爲ニ辻番ヲ置夜回リヲスレバ、常人ハヨロコブト雖盜賊ハ是ヲ厭フ、只惡心アルユヱニ雷聲ヲキヽテ畏ルルナリ、此言ヨク通ズルヤウナレドモ、上ニモ云如ク雷ニ善惡ノ差別ナシ、辻番ハ惡人ヲトラヘテ、善人ニカヽハラズ、故ニ惡人ハ畏レテ、善人ハ畏ルヽコトナシ、雷ニ善惡ノ差別ナケレバ、巖墻ノ崩ヤスキト同ジコトナリ、天命ヲシル人ハ巖墻ノ善惡ノ差別ナキヲシル、ユヱニ其下ニ立ザルナリ、雷ノ落ヤスキト同ジト雖、其處ヲ定ザレバ、何ホド恐レタリトモ、何處ヘ落ルモシルベカラズ、然レバ

命ニユダネテ恐ザルニシカザルナリ、小人ハ天命ヲシラズ、ユヱニ唯是ヲ恐ル丶ノミ、後光明帝克己復禮ノ章ヲヨム、謝注ノ己ニ克テ禮ニ復ルハ、最モ克ガタキ處ヨリ克去ベシト云ニ至リ、奮激シテ曰ク、吾常ニ雷ヲ怖ル、近日雷アラバ先コレヨリ試ムベシノ玉ヒテ、雷ノトキニ至リ庭上ニ立テ動キ玉ハザリシトナリ、カ丶ル勇氣アリテコソ、共ニ道ヲ語ルベシ、筋モナキコトニ恐ル丶人ハ、孟子ノ所謂餒ルナリ、ナンゾ浩然ノ氣ヲヤシナハン

二十二　電ハ鳴時ニ光アリ、近キニ落ル雷ハ、光ル則鳴ル、光リテ間アルモノハ遠キナリ、秋ニ至リテ山際ニ光ルハ、電バカリニテ聲ナシ、スベテ光リハ遠近一時ニ見ユルモノナリ、聲アルモノハ、來リテ耳ニ入マデノ路程アリテ遲ク聞エ、余此岸ヨリ彼岸ニテ杭ヲウツヲミル、其打ヨリ聲ハヨホド遲ク聞ユルコト實ニ見聞ス、スベテ雷ハミナ、火ナリ、ユヱニ撃ル丶トキハ燒ク、土石ノ上ニ落ルトキハヤカズ、宮舍ハヤケザルコトナシ、消シオホセザンバ大火トナル、恐レザルベケンヤ（イギリス學者尼通（ニウトン）云、雷ハ韜ヲ損ジテ劍ヲ損ゼズ、又ハ我劍ヲ損ジテ韜ヲ損ゼズ、又衣ヲ損ジテ身ヲ損ゼズ、我身ヲ損ジテ衣ヲ損ゼズ、其餘サマ〴〵ノコトアリ、一ニナヅムベカラズ）

二十三　古事記傳附卷三大考ニ載ス、天地國土ノアリカタ其ナレル初ノサマ、外國ノ說ドモハ、佛ニモアレ、聖人ニモアレ、ミナ己ガ心ヲ以テ智ノ及ブダケ考タルモノニテ、無用ノモノナリ、唯我皇國ノ古傳ニヨリテ十箇ノ圖ニカキアラハス、其圖

第一圖

高御産巣日神
天之御中主神
神産巣日神

此輪ノ内ハ大ゾラナリ、輪バカリニ圖スルナリ、皆實ニコノモノアリト云ニアラズ、以下ミナシカリ
天地ノ初發ニ、高天ノ原ニテ成神ノ名ハ、天ノ御中主ノ神、次ニ高御産巣日ノ神、ツギニ神産巣日ノ神

第二圖

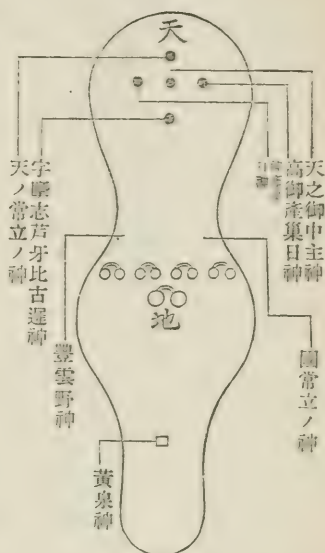
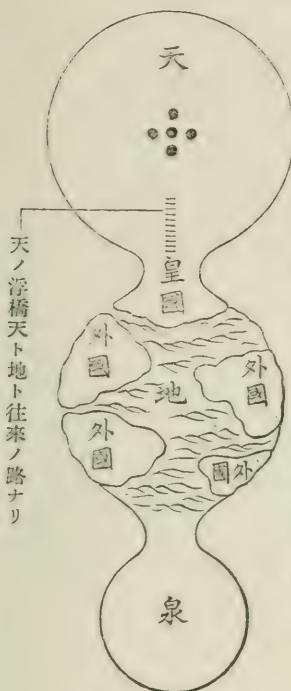
一物

輪ノ中ノ∴ハ一ノ圖ノ三神ナリ、天地初テワカレ一物在ニ於其中ニ圖

第三圖

宇方志芦牙比古遅神
天之常立神
一物

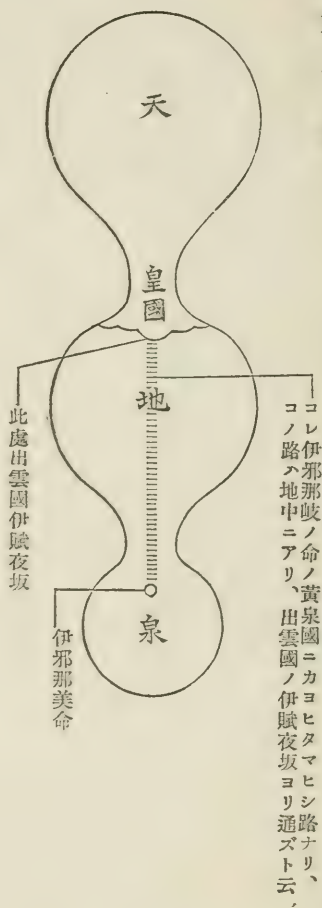
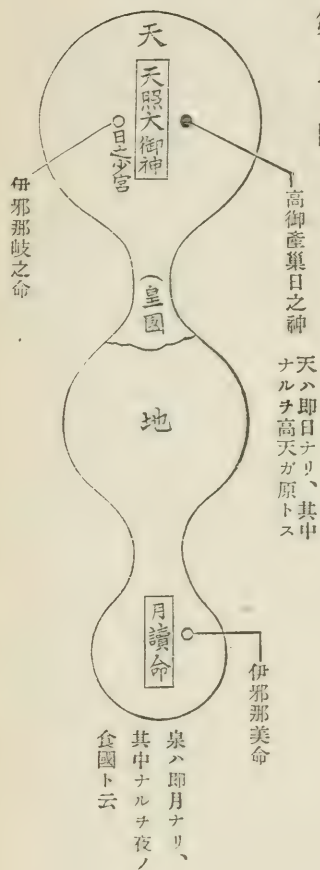
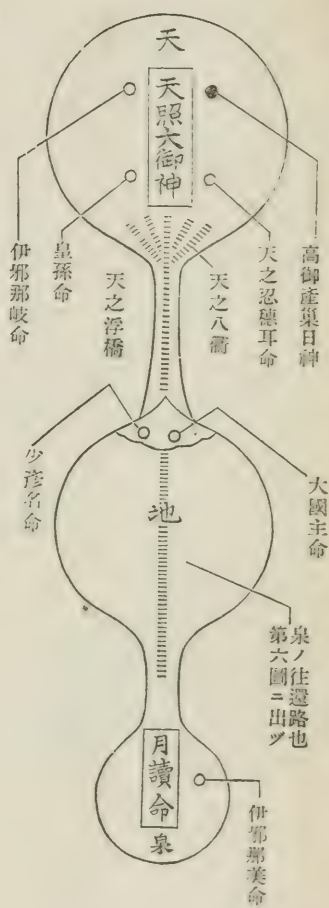
國稚シテ浮脂ノ如ク、クラゲナスタヾヨヘルノトキ、芦牙ノゴトキモノアリテ、成ル神チ宇麻志芦牙比古遅神トス、次ニ天ノ常立ノ神

是ヨリ以下ノ圖、ミナ輪チハブク、●ハ身チカクスノ神ナリト云

第四圖
天
天之御中主神
高御産巣日神
宇摩志芦牙比古遲神
天ノ常立ノ神
地
豐雲野神
國常立ノ神
黃泉神
宇比地邇神
須比智邇神
角杙神
活杙神
意富斗能地神
大斗乃辨神
游母陀琉ノ神
阿夜訶志古泥神
伊邪那岐神
伊邪那美神
第五圖
天
皇國
外國
地
外國
外國
外國
泉
外國トモノ在
處カヽハラズ
コノ圖ハ二神ノ國ヲ
生ミ玉ヒシ圖ナリ
天ノ浮橋天ト地ト往來ノ路ナリ

第六圖
天
皇國
地
泉
コレ伊邪那岐ノ命ノ黄泉國ニカヨヒタマヒシ路ナリ、
コノ路ハ地中ニアリ、出雲國ノ伊賦夜坂ヨリ通ズト云、
此處出雲國伊賦夜坂
伊邪那美命
第七圖
天
天照大御神
日之少宮
高御産巣日之神
伊邪那岐之命
皇國
地
天ハ即日ナリ、其中
ナルチ高天ガ原トス
月讀命
伊邪那美命
泉ハ即月ナリ、
其中ナルチ夜ノ
食國ト云

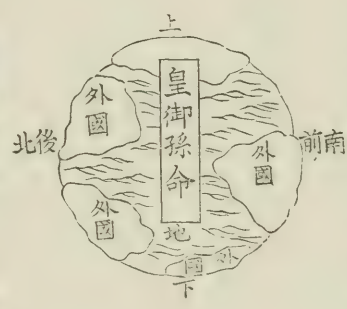
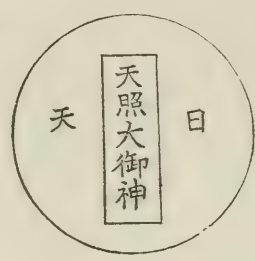
第八圖

第九圖

天
天照大御神
皇御孫命
地
月讀命
泉
少彥名命
大國主命

コレマデハ天ト地ト浮橋ヲ以テ通ヒシニ、皇孫彥火瓊々杵ノ命天ノ浮橋ノ下ニタヽシテ、日向ノ國高千穗ノ嶽ニ降リ玉ヒシヨリ、

天地道タエテ通路ナシ、コノ浮橋初ノホドハ、天ト地トノ間近クミエシガ、皇孫命天降リマストキハ、甚ダ遠クキコエテ、漸々ニ遠ザカリタルナリ、浮橋ハ天ト地トツヾキタル帶ニテ、天地ダン／＼遠ザカリユクニ隨ヒ、コノ帶モダン／＼ニ細ク微クナリ、ツヒニ斷離レテ永ク天地ノ間往來ヤミタリ、コレナモノニヨソヘテ云バ、兒ノ臍ノ帶ノ如シ、胞衣トツヾキタルガ、已ニ生レテ切離ルヽガ如シ、又菓ノ熟スレバ帶ノ落ルガ如シ、故ニツヒニ斷絶シタルナリト云々

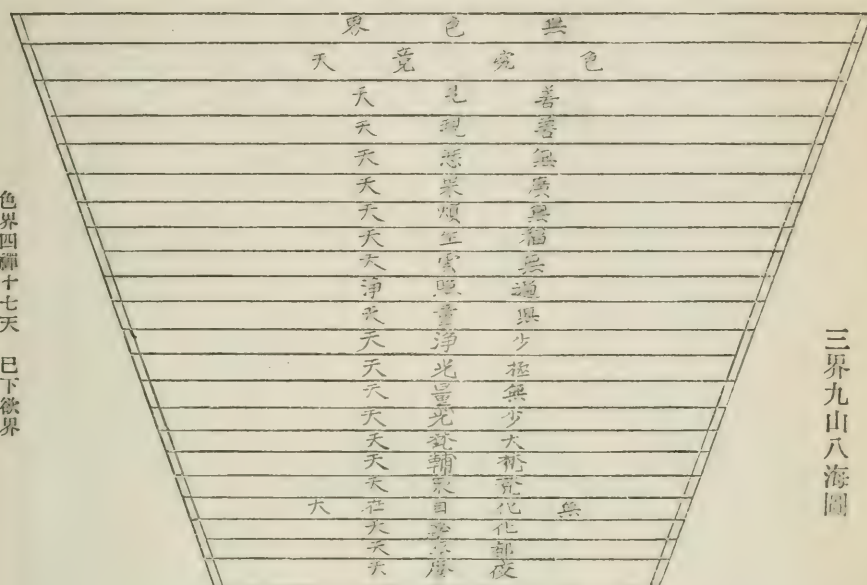
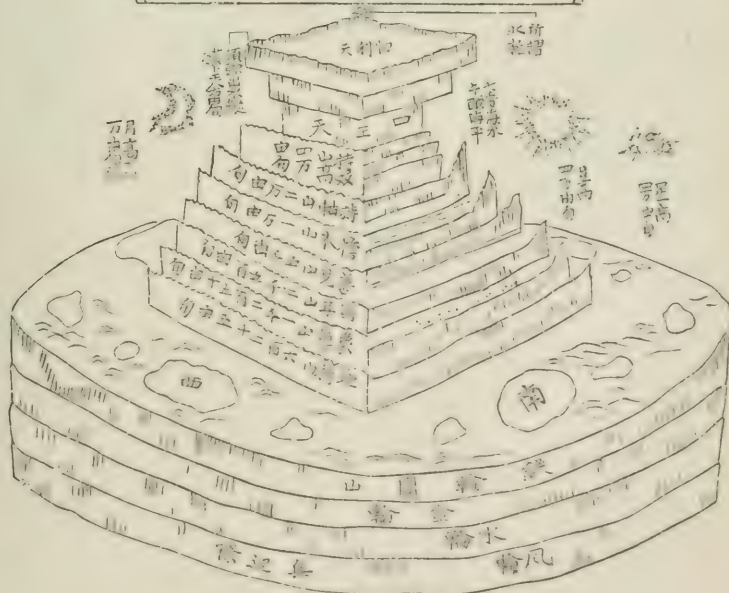
第十圖　天地泉ノ大サ相去ノ遠近ハ、必シモ圖ニカヽハルベカラズ

是ハ天地泉ノツヾキタルガ、帶キレハナレテ、天モ泉モ絶ル圖ナリ

此圖ハ本居氏ノ門人服部中庸畫シテ、古事記傳ニ附スルモノナリ、本居氏ノ跋アリテ大キニ稱譽ス、黃泉ノ圖ナルモノツヒニハ地ヨリ下リテ、天・地・泉ト三ツニ分レタルナ、又轉ジテ月天トス、珍說古今ニ類ナシ、其知及ベシ、其愚及ベカラズ

二十四　釋氏沒シテ二千七百年、天眼通ヲ以テ天地ヲ洞視シ、神通力ヲ以テ知ラザルコトナシトス、其通力ヲ以テ須彌山ヲツクル、天頂ヲ北極トシ、日月星辰ヲ横ニ遶ラス、三十三天及九山八海、東西南北ノ四州ヲ造リコレヲ一世界トス、千須彌ヲ一千小世界トシ、二千須彌ヲ二千中世界トシ、三千須

三界九山八海圖

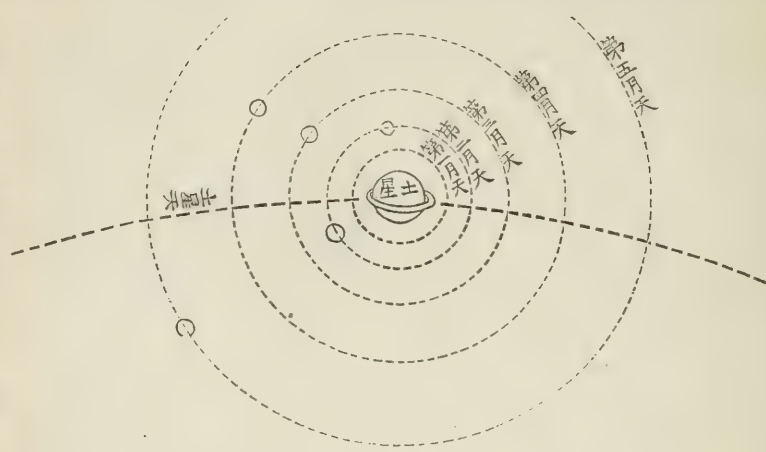
無色界
色究竟天

色界四禪十七天　巳下欲界

コノ東西南北ヲ四州トス

彌ヲ三千大世界トス、元來天文ノ開ケザルマヘハ、盤古王死後日月山川トナルガ如シ、二尊ノ國土ヲ生ミ玉フガ如シ、ソノ國々ニテ我國アルコトヲシリテ、外國アルコトヲシラザレバ、ミナカクモ在ルベシ、然ルニ只其憎ムベキハ、天眼通神通力ニアリ、今須彌ノ圖ヲアラハシテコヽニ擧グ

天竺ノ里程漢土ノ十六里ヲ一由旬トス、千六百里ヲ百由旬トシ、千由旬ハ一萬六千里、一萬由旬ハ十六萬里、四萬由旬ハ（四萬由旬ハ日本ノ六萬四千里、八萬由旬ハ日本ノ十二萬八千里）六十四萬里、八萬由旬ハ百二十八萬里ナリ、須彌ノ圖サマザマアリト雖、此圖ハ京師了蓮寺文雄書ク所ナリ、其外ノ俗本ニ人壽ナドヲ書ルモノ在、皆出次第ノ方便ナレバ眞顏ヲ以テ辨ズルニ足ラザレドモ、又此佛ニ陷ル人ヲ諭サンガ爲ノ一助ナキニ非レバ、爰ニ識シテ其妄說ヲ顯スノミ

二十五　右神佛ノ二說、ソノ古昔ハ天學ヒロカラズシテ、人ミナ渾天地球ノ實ヲシラズ、左モアルベシ、當時天學明カニシテ、盛世ニ生レテ古ヘノ道ニカヘリ、古法ヲ云出シ祖師ノ謬誤ヲ回護セントスレドモ得ベカラズ、古書ヲ註解セントスレバ、古ヘ天學ノ開ケザル先ノ論ナリト云テスムベシ、强テ其語ヲ實ニセントスレバ、サマ〴〵ノ遁辭僞說ヲナサヾルコトアタハズ、コレ時ヲシラザル人ナリ、ナンゾカヽル淺ハカナルコトヲ云テ、其不智ヲ世ニ售ンヤ、古書ノ解ニ於テハ、又ヨリ處モアルベシ、然ルニ三大考ノ如ク、今又更ニコレヲ作リ出スコトヲヤ、アヽ悲ムベシ、其見識ノ鄙劣愚ナリト云ベシ、然ルニ漢土ニテモ、天文地理ノ開ケザル已前ハカクノ如シ、盤古ノ死シテ後日月•國土•風雨トナ

ルノ說、周髀蓋天ノ說、鄒衍ガ赤縣・神州ノゴトキ、ソノ餘莊子・列子・淮南子・三五曆・山海經・列仙傳・神異經・搜神記・述異記等ノ如キ、ミナ天地怪異ヲ記シテ、泰然トシテ鼻モ動カサヾルハ實ニシラズシテ作ルモノニアラズヤ、スベテ天文地理ノコトハ一日一日ニ開ケテ、古ヘノ足ラザルヲ知ルハ、今ノ發明ニアルナリ、シカレバ則天竺須彌山ノ說、日本ノ神代ノ卷ノ說ヨリ漢土ノ諸說ハ、ミナ天文ノ開ケザル前ニシテ、居ナガラ天地ヲ測ルモノナリト知ルベシ、其國ノ目ノ及ブ所ノミニシテ、管ヲ以テ天ヲ窺フガ如クナルコトヲ、漢ノ世ニ至リテ西北大ニ開ケテ、天竺アルヲシル、イマダ西洋ニ及バザルナリ、ユヱニ山海經ノ如キ一目一脚・大臂長脚・大人小人・三首三身、數臂數脚・穿胸無腹・人面蛇身・羽民狗國、ソノ外怪說ニ至リテ、アゲテ計フベカラズ、見ルベシ今ニシテカヽル異形ノ國々アリヤ、右ノ諸書ミナ古書ナルユヱ、ソレヨリシテ三才圖繪・訓蒙圖彙等ノ諸雜書ニ出シテ世ニ行ハレ、幼學ニ膾炙シスベテ童蒙ノ惑トナル、如何トナレバ、梵天和漢ミナ詐僞虛妄ヲ禁ゼズ、詭言ハ云ニ任スルユヱナリ、西洋歐羅巴ノ國々ニオイテハ、ソノ實地ヲ踏ザレバ、圖セズ云ハズ、天文ノ如キハ海外諸國ニ往來シ、測量試識シテコレヲ云ユヱニ、大舶ヲ艤シテ萬國ニ抵リ、天文地理ヲ正スコトナリ、ユヱニ梵漢我國ノ如キ虛妄ノ說ハナシ、コヽヲ以テ其說ヲ信ズベシ、又其學ニクハシキコトハ、極メ盡サザレバ措ザルナリ、二百年バカリ以前、地谷多錄梅ナド豪雄出テ、ツヒニ地動儀ノ說ヲ發明ス、ソノ術日輪中央ニ位シテ永靜不動、五星及地ヨリ恒星諸天、ミナ日ヲ心トシテ西ニ旋ル、ソノ月ナルモノハ地ヲ

微私東(ウイストン)太陽明界圖　本圖詳密ナリトイヘドモ略シテシルス

土星周天ノ期二十七年百六十七日十一時、乃萬〇七百五十九日三時三十六分二十六秒、土星ノ五月土星ヲ心トシテ旋ル

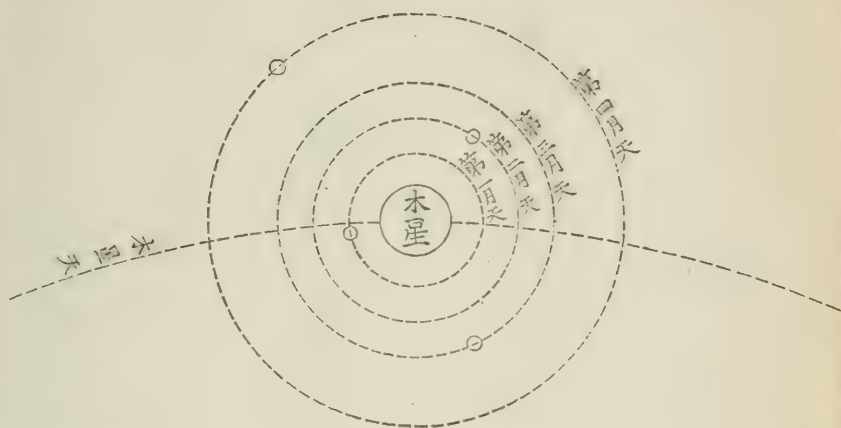
太陽ノ熱氣光明ヲウクルモノ

水星六分、金星二分、地球及月一分、火星一分弱、木星二十七分ノ一、土星九十分ノ一、土星ノ外ハ熱氣光明達セズ、恒星ノ明ハ各ソノ自光ナリ、彗星ハ自光ナシ、土星以外ノ暗界ヲ旋ルトキハ光ナシ、土星以内ノ明界ヲ旋ルトキハ光アラハレテ人コレヲミルナリ

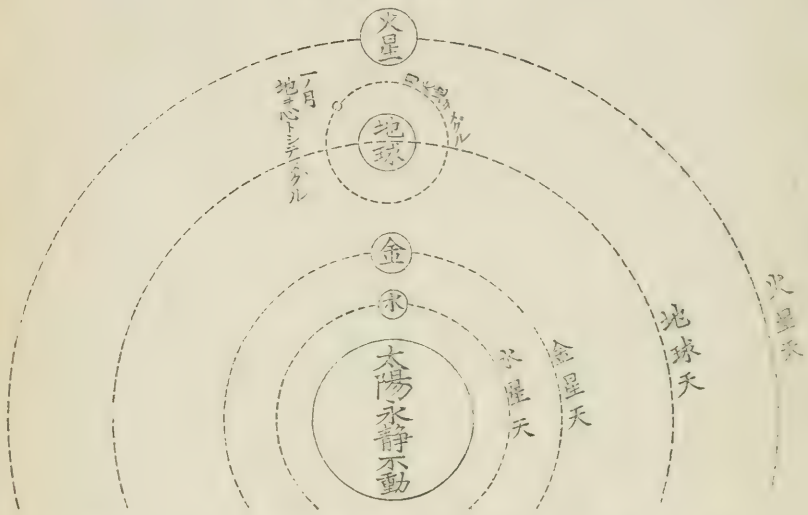
木星中心ヨリ土星中心ニ至ル七億〇七百二十萬里、太陽中心ヨリ土星中心ニ至ル十五億五千五百二十萬里

土星一時ノ歩三萬六千里、十字徑十一萬二千里、土星面ヨリ平環裏面マデ二萬千里、環巾二萬千里、コノ星、日ニ遠キユヱ其光ウスシ、日光トヾカザルユヱナリ

五月周天土星

第一ノ月	一周一日十時四十分	離土星心	二十九萬二千里
第二ノ月	一周二日四時九十分	同	三十七萬四千里
第三ノ月	一周四日六時八十分	同	五十二萬六千里
第四ノ月	一周十五日十一時七十分	同	百二十萬里
第五ノ月	一周七十九日十一時六十分	同	三百六十一萬里

木星周天ノ期十一年三百十四日六時、乃四千三百三十二日六時二十分二十五秒
木星ノ四月木星ヲ心トシテ旋ル
木星一時ノ歩四萬八千里　十字徑十六萬二千里
木星ニ帶アリ

四ノ月周天

第一ノ月　一周一日九時五十六分　離木星心三十萬里
第二ノ月　一周三日六時八十八分　同　七十三萬六千里
第三ノ月　一周七日一時百分　同　百十六萬里
第四ノ月　一周十六日八時六十分　同　二百萬里

火星周天ノ期　一年三百二十一日十一時五十七分、乃六百八十六日十一時五十七分三十秒、十字徑八千八百里未詳、一時ノ歩九萬里

金星周天ノ期　二百二十四日八時五十分、十字徑一萬五千八百里、一時ノ歩十四萬里

水星周天ノ期　八十七日十一時四十五分、十字徑八千四百八十里、一時ノ歩二十萬里

地球周天ノ期　三百六十五日三時、十字徑一萬五千九百四十里、一時ノ歩十一萬二千里

大陽中心ヨリ水星中心ニ至ル　六千三百十萬里

金星中心ニ至ル　一億千九百五十萬里

地球中心ニ至ル　一億六千三百萬里

火星中心ニ至ル　二億四千八百四十萬里

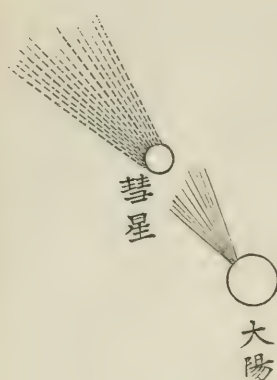
地ノ月地心ヲ一周スル二十七日三時八十分、一時ノ歩十字徑四千三百四十里

月モ亦地ナリ、尼通曰、山海江河風雲アルコト游氣ニテアラハル、コレヲ以テミレバ、人ノ住スルコト疑ナシト云々、月スデニカクノゴトクナレバ、火星木星モ亦シカラン、水金ノ二星ハ陽ニスグベシ、土星ハ陰ニ過ベシ、ソレイカンナシラズ

心トシテ旋ル、木星土星ノ如キモ、ミナ月四五アリテ各其本星ヲ心トス、此説出テイヨ／＼マス／＼天文精微トナル、前説ノ如キハ小兒ノ戯ニモ及バザルナリ、西洋人ニ見セタランニハ、三歳ノ小兒ト雖腹ヲカヽヘテ笑フベシ

歐羅巴ノ天學ニ精シキコト、古今萬國ニ類ナシ、殊ニ萬國ヲ廻視シテ、ミナ實見ヲ以テ發明スルコトニシテ、誰カコレニ敵セン、ソノ上「ボウレン」國ニ「ヘイコツホイリン」ト云人、地動儀ノ説ヲ盛ンニス、今ニ至リテスデニ三百年ニナル、其發明ノ書ヲ翻譯シテ崇禎曆書ト云、又弟子「コーペルニキユス」是ヲ增補ス、其書ヲ譯シテ曆象考成後篇ト云、シカルニ太陽ハ動カズ、地球周天スト云コトハ誰カ是ヲ肯ン、難ジテ曰、コノ地球飛旋ルモノナラバ、山川・草木・家屋ミナ崩レ倒ルベシ、ナンゾ海水モコノマヽニアラント、コレ尤ノコトナリ、歐羅巴ニテサヘモ初ハ合點セザリシニ、ツヒニ其術理ニ落着シタルヨシナレバ、急ニハ中々合點ナルマジ、今ソノ法ヲ以テ算ヲ起シテ密合スレバ、ナンゾ是ヲ疑ハン、皆彼我ノ差ニシテ、我ハ不動ニシテ他曜ハ旋ルト云トキハ、ソノ星ニナリテミレバ同ジコトナリ、太陽ハ天地ノ主ナリ、地ハ主ニアラズ、太陽動カズシテ、他曜ノ動クハ其處ナルベシ、今ニモ歐羅巴ノ人ハ大船ニノリテ地球ヲ巡リ、ソノシラザル所ヲ發明スルコト、萬國ノ及ブ所ニアラズ、サレバ天地ノコトハコレニ任ジテ、其糟粕ヲナムルノ外ハアルベカラズ、必シモ西洋ノ術ヲ疑フコトナカレ、アツク信ジテ從フベキモノナリ、ユヱニ梵・漢・倭ノ井蛙ノ愚術ヲ出シテ、總ルニ西洋ノ地動ノ

術ヲ示シテコレヲ證シ、愚蒙ノ人ヲサトスノミ

二十六　堯ノトキ義仲ニ命ジテ出日ヲ賓シ、和仲ニ命ジテ納日ヲ餞ス、コノトキイマダ渾天ノコトヲ知ラズ、日ハ東ヨリ出テ西ニ入ルトス、ユヱニ迎送ノコトアリ、山海經ニ、日出ル處ニ近シ、日入ル處ニ近ト云ヲ以テミレバ、コノトキイマダ地中ニ出入スルト思ヒシナリ、ユヱニ春秋ノ時日蝕ヲ變事トシテ是ヲ書シ、曾子問ニ、日食ニ遇テ倉卒ニ政事ヲ止ルノ説アルナリ、渾天ノコト明白ナルハ、前漢ノ劉向・劉歆ニ始ル、夫ヨリ年々歳々ニ日月ヲ推歩シ、ツヒニ五星ヲ推歩スルニ至ルト雖、彗星ノ推歩イマダ起ラズ、西洋ニ於テ地動ノ説行ハレテヨリ、彗星ヲ推歩スルニ至ルナリ、土星天ノ外ニ至リテ、日光トヾカズシテ暗界トナル、土星天ノ内ヲ明界トス、彗星ノ如キハ土星ト行ヲ異ニシテ、其自行ナヽメニカヽリテ明暗ノ界ヲ出沒ス、ユヱニ明界ニアラハレ暗界ニ入レバ隱ル、アラハルレバ人コレヲミテ、カクルレバ人是ヲ見ルコトナシ、此星日ノ光ヲウケテ、其餘光日ニ背クノ方ニ長ジ、星ヲ以テ頭トスレバ、餘光ヲ以テ柄トス、故ニ「ホウキ」ノ名ヲ得タルモノナリ、ソノアラハルヽモノヲ云ニ、「ウイストン」ノ圖解ニ云

彗星近世土星天内ニ現ス年記

西洋		我
千三百三十七年	天秤宮	暦應元年
千四百七十二年	天秤宮	文明五年
千五百三十二年	双魚宮	天文二年
千五百五十六年	獅子宮	弘治三年
千五百七十七年	磨羯宮	天正六年
千五百八十年	寳瓶宮	天正九年
千五百八十五年	天蝎宮	天正十四年
千五百九十六年	白羊宮	慶長二年
千六百十八年	天秤宮	元和五年
千六百五十二年	人鳥宮	承應二年
千六百六十二年	双魚宮	寛文二年
千六百六十五年	天蝎宮	寛文六年
千六百七十二年	人鳥宮	延寳元年
千六百七十七年	磨羯宮	延寳六年
千六百八十二年	天蝎宮	天和二年
千六百九十八年	金牛宮	元祿十二年
千七百八十九年	双魚宮	寛政二年

土星木星天之中界ニ現ス年記

千六百八十四年　巨蟹宮　貞享二年
千六百八十九年　磨羯宮　元祿三年
千七百三十三年　天秤宮　享保十八年

木星天中ニ現ス年記

千六百八十年　金牛宮　天和元年

コノ後二千二百五十年ニコノ宮ニ現ハルベシ、「ウイストン」推テシルスナリ

木星火星天之中界ニ現ス年記

千四百五十六年　陰陽宮　長祿元年
千五百八十一年　陰陽宮　天正十年
千六百　七年　陰陽宮　慶長十二年
千七百五十八年　陰陽宮　寳暦八年　コレハ「ウイストン」推テシルスナリ

文化八年未七月ノ末ヨリ彗星西北ニアラハル、八九月ノ間ダンダン高ク南ニ上リ、十月西南ニ見エズ

西洋ノ「ウイストン」ノシルス處カクノ如シ、然ルニ我史ニヨルモノ、康暦元年千三百七十九年應永九年千四百一年永享十一年千四百三十八年應仁二年千四百六十七年文明三年千四百七十年永正三年千五百五年享祿四年千五百三十年天文六年千五百三十六年天正五年千五百七十六年天和四年千六百十七年元文元年千七百三十六年寛保三年千七百四十二年此現ハルヽコト我彼合ザルモノハ、五十餘度ノ地ト我ノ三四十度ノ地トノ差フ處カ、又ハ見ル處ヲ失

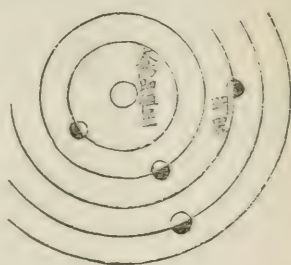
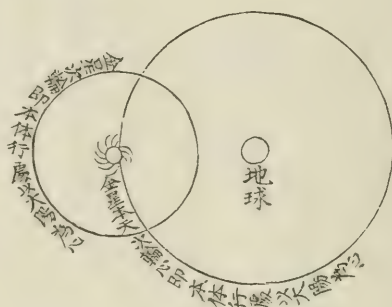
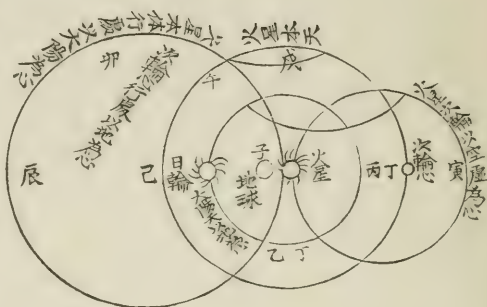
フカ、又シルベカラズ、然ルニ近キモノハ、我國ノアタリニミル所ナレバ誣ベカラズ、ソノ餘行度ノ圖アリト雖コヽニ略ス

彗星考

夫天ハ晴夜ノ廣野ノゴトシ、其中ニ一火アレバ明カニナリテ、其火光ノトドクダケハ、五間四方或ハ十間四方明ラカナリ、是ヲ明界トス、此明界アルガ故ニ、ソノ餘ヲ晴界トス、火即太陽ナリ、コノ明界ノ內ニ物アレバ、太陽ノ光リヲ受テ其半ヲ照ス、我居ル處ノ明界中ニ、大物六箇・小物十箇アリ、物即星ナリ、六大物ヲ五星トシ地球トス、ミナ世界アリ、十小物ヲ月トス、地ニ屬スルモノ一ツ、木星ニ屬スルモノ四ツ、土星ニ屬スルモノ五ツナリ、亦ミナ世界アリ、其餘ノ星ヲ恒星トス、ミナ太陽ナリ、數萬億ノ星ミナ太陽ニシテ、闇夜ニ數多ク火ヲ見ルガゴトシ、コレヲ各明界トス、數萬億ノ明界アリ、其明界中ニ陰星アレバ其太陽ノ光ヲ受テ世界トナルベシ、サテコノ我明界ニテミレバ、太陽ノ勢ヒサカンニシテ、明界中ノ陰物ヲ引付ル、琥珀ノ塵ヲ吸フガゴトク、磁石ノ鐵ヲ吸フガゴトシ、故ニ五星地球ミナ太陽ニ引付ラルヽトイヘドモ、陰星モ又ソレゾレノ自力アリテ引付ラルヽコトナクシテ、ツヒニコノ太陽ヲ遶ルナリ、シカルニ太陽ニ近キホド引付ツヨクシテ、ソノ遶ルヤマス／＼疾シ、遠キ程ヤウヤク緩クナリテ、土星ニ至リテ大キニユルシ、月ハ地ニ近クシテ小ナリ、故ニ地ニ吸レ引付ラレテ地ヲメグル、木星ノ四月、土星ノ五月、ミナカクノゴトク其本星ヲメグルナリ、シカルニ彗星タ

ルヤ、暗界ニアリテ時々明界ニ出沒ス、闇界ニアルヤメグルコト緩クヒロシ、故ニ數十年暗界ニアリ適明界ニ入ルトキハ彼太陽ニ引付ラレテ、太陽ヲメグラザルヿ能ハズ、故ニ斜ニ太陽ヘ引付ラレメグルヿ一般、又暗界ニ出ルナリ、其圖左ノ如シ

今年ノ彗星西南ヨリ來リテ、日ノ東ヲ北ヘマハリテ西北ニ沒スベシ、ツヒニ春ニ至リテ歸路日ヨリ西ヘ遠ザクトキハ、曉天東北ニ見ルベシ、然レドモ其遠ルコト、推歩スルコト能ハザレバ、見ザルコトアルベキナリ、文化四年（西洋千八百七年）八月末ヨリ彗星西南ニアラハレ、太陽ヲハナル、コト五六十度、ソレヨリ北ヘメグリテ十月ノ頃西北ニミエズ

暗界

二十七　太陽動カズシテ地ウゴクト雖、又此處ニイハレアリ、五星トモニ次輪・均輪・本輪アリテ、次輪心ノ行ヲ以テイヘバ地ヲ心トス但次輪心ハ實ハ均輪周ヲ行キ、均輪心ハ本輪周ヲ行キ、本輪心乃本天ヲ行テ地ヲ心トス、シカレドモ本輪・均輪ハ次輪ニ比スレバ甚小ニシテ、五星小不平(盈縮)ノ行ヲ算スル處ニシテ、次輪ノ大不平(遅速)ノ行ヲ算スル處ナルニ比スベキニアラザルガユヱニ、シバラク是ヲ略シテコヽニ混説セザルナリ、見ル人一概ニ論ズルコトナカレ　其本體ノ行ヲ以テイヘバ太陽ヲ心トス、暦象考成ハ次輪心ノ行處ヲ本天トス、故ニ本天皆地ヲ心トス。但上三星ノ次輪心ハ空虚ナリ、下二星ノ次輪心ハ即太陽ナリトス　若シ今其體ノ行ク處ヲ本天トセバ、本天ミナ太陽ヲ心トセン考成ハ次輪心ノ行處ヲ本天トス　太陽天ト火星ノ地輪ト等大・同形・同時ニシテ一周ス、太陽甲ヨリ乙ヲ經テ丙ニ至レバ、火星モ子ヨリ丑ヲ經テ寅ニ至ル、故ニ太陽ト火星ト互ニ不動ヲ見ル、猶太陽常ニ甲ニ留リ、火星常ニ子ニ留ガゴトシ、シカレバ太陽ヨリミレバ、火星次輪周ノ行アルヲミルコトナシ、火星本體ノ行處ノ天ト、其本天ト等大・同形・同時ニシテ一周ス

火星次輪心丁ヨリ戊ヲ經テ己ニ至レバ、本體モ子ヨリ卯ヲ經テ辰ニ至ル、ユヱニ次輪心ハ地ヲ心トシテ一周スレバ、本體ハ太陽ヲ心トシテ一周ス（木火同ジ）金星ハ太陽天ヲ本天トス、ユヱニ本天ノ行ハ地ヲ心トシテ毎年一周ス、是ソノ次輪心ノ行ナリ、本體ニ至リテハ又常ニ太陽ヲ繞ル（水星同ジ）タトヘバ火星次輪心丁ヨリ本天ヲ行テ己ニ至レバ、次輪周ヲ行テ未ニ至リ、

太陽ハ甲ヨリ本天ヲ行テ丁ニ至ル、午未ト甲丁ト等長ニシテ同形ナリ、ユヱニ丁未ト甲午ト亦等長ニシテ平行ナリ、恒星天スデニ最遠シ、丁ヨリ未ヲ見ルモ、甲ヨリ午ヲミルモ、列宿ノ間ニアリテハ異ルコトナシ、ユヱニ太陽ヨリミレバ、唯火星ノ子點ヨリ行テ午ニ至ルヲミルノミ、コレ常ニ太陽ヲメグルコト金星ノ行ト異ナラザルナリ、金水ニ限ラズ、スベテ五星本體ノ太陽ヲ繞ルノ圈ヲ次輪トシ、（コノ次輪ハ、モトヨリ各星各異ナリ）太陽ノ地ヲ繞ルノ圈ヲ本天トセバ、五星次輪同外大小各相異ナルコトヲ得テ、ソノ本天皆同一ナルコトヲ得バ（ミナ太陽天ヲ本天トセン）コノトキ五星ノ體ハ次輪周ヲ行キ、次輪心ハ即太陽ニシテ本天ヲ行

クナリ、火星ハ太陽本天ノ行ヲ見ズ、太陽ハ火星次輪ノ行ヲ見ズ前ニ太陽火星互ニ不動ヲミルト云ノ理ナリ、コノ條ニ云處ノ本天次輪ノ名ハ曆象考成ト一ナリトシルベシユヱニ火星ヨリミレバ、却テ地球ノ太陽ヲ遶ルヲ視ルコト、猶地ヨリ金星ヲミル如クナラン、又火星ハ自己ノ本天ノ動ヲミルコトアタハザレバ、太陽地球ノ火星ヲ遶ルヲミルコト、亦猶地ヨリ太陽金星ノ地ヲメグルヲ見ルガゴトクナラン但太陽ノ火星ヲメグルノ圈モ、火星本天ト同ジク地球ハ太陽ヲ遶リ又太陽ニ從ヒテ火星ヲメグルナリ金星モ亦自己ノ次輪ノ行ヲミルコトアタハズ、却テ太陽ノ金星ヲ遶リ、地球ノ次輪ヲ周行スルヲミルコト、猶地球ヨリ太陽本天ノ行ト火星次輪ノ行トヲ見ルガ如クナラン、但太陽本天ト地球次輪ト同ジシカレバ是レ火星ノ地球ニオケルハ、地球ノ金星ニオケルガゴトク、金星ノ地球ニオケルハ、地球ノ火星ニオケルガゴトクナルモノナリ、然バ木星ノ火星ニオケルモ、水星ノ金星ニオケルモ、其コトマタ推テシルベシ、今五星ノ太陽ヲメグル圈ヲ本天トシ試ニ太陽ヲ不動トシ、地球ヲ每歲太陽ヲ心トシテ本天ヲ繞ルトセバ、五星ミナ次輪ナクシテ内外遠近遲速ミナ次序アルコトヲ得、五星地球本天一周ノ方數トソノ太陽ヲハナル、立方數ト相比例スルコトヲ得ン、コレモ亦一說ナリトセンカ實ニ眞理ヲ得タリトセンカ西洋ノ新法ハ五星皆回轉スルヲ以テ、天ノ左旋ハ地ノ回轉ニ生ズトシ、恒星ミナ不動ニシテ、火體ナルコト太陽ニ同ジトス、歲差ハ地輪ノ變動ニ生ジ、地輪ノ變動ハ地輪ノ南北ニ偏ナルニ生ズトシ、地球ノ偏ナルハ又回轉ノ勢ヨリ生ズトス、コレラノ測術ソノ精密ヲシルベシ、梵・漢・倭ノ及ブ處ニアラズ

二十八 歐羅巴洲「暗厄里亞（アンゲリア）」國ノ人「奇兒（ゲル）」ト云者曆象新書ヲ著ハス、コレマデノ天學ハミナ地ヲ不動トセシニ、コノ書ハ天ヲ靜トシ地ヲ動トス、且地星ノ外ニ許多ノ世界アルノ理ヲ云、按ズルニ、近世西洋ニ行ハルヽ天學ハ、其本ハ亞夫利加州「厄日多（エヂプタ）」國ヨリ起リテ、「厄勒祭亞（ケロシヤ）」ノ帝歐羅巴洲上古「亞祭利亞」「伯兒祭亞

（「厄勒祭亞」「伊多利亞」コレチ四代トス、「伊多利亞」帝ノ元年ヲ暦元トシテ千八百餘年ニ至ル、「羅瑪」ニ都ス、今ハ「ドイツランド」ノ「ウエネン」ニ都ス、「ゲロシヤ」ノ世ハ二千年ニ及ブ、今ハ「イタリヤ」ト「トルコ」ト「オロシヤ」ト三國ナリ、何レモ都ハ歐羅巴ニアリトイヘドモ、亞細亞洲・亞弗利加洲チダン／＼ニ取ヒロゲタリ）ノトキノ學士「比多古刺私（ヒタコラフ）」ト云人、彼國ニ至リ學ビ得テ歸ルトイヘドモ、亞ミナ舊説ヲ固ク執リテ行フコトアタハズ、ツヒニ千年餘ヲ經テ、暦數千二百三十年（寛喜二年）ニ至リテ、亞夫利加ヨリ「イタリヤ」ニ傳ヘテ飜譯シ、世ニ行ハルヽコトニナリ、又千四百七十三年（文明五年）ニ「古伯爾泥喜須（コヘルニキス）」（コハルニキス（割白爾））出生ス、コノ人天文ニ達シ、舊説ノ非ヲ辨ジ、明證ヲ引キ確論ヲ立テ、千歳ノ大疑ヲ決ス、近世ニ至リテ「ケフレル」「ニウトン」ナドノ達人「地谷（ヘイコツホ）」「割白爾（ハリンコヘルニキス）」ノ後ニツヾキ出ヅ、千七百四十年（元文五年）ニ「奇兒（ゲル）」ト云モノ暦象新書ヲアラハシテヨリ、天學ニオイテハ遺憾ナカルベシ、然レドモ數百年ノ後ハ、五星殘ラズ世界ナルコトイヨ／＼確説出デ、恒星ノ火ナルコトモ分ルベシ

二十九 長崎中野忠雄曰、西説ニヨレバ恒星ミナ太陽ニシテ皆不動ナリ、五星ト地球トハスベテ太陰ニシテ、各太陽ヲメグリテ自ラ旋轉スルガ故ニ、地ノ周行ハ太陽ノ右旋ヲナシ、地ノ回轉ハ天體ノ左旋ヲナス、是全ク西人ノ發明ニ出デ、古今和漢ノ所説ニ異ナリ、天ハ陽ナリ地ハ陰ナリ、動ハ陽ニ屬シ、靜ハ陰ニ屬ス、今地球ヲ動物トシ、太陽ヲ不動トスレバ、陰陽乾坤ノ性情ニ反スルガ如シト雖、古人何ゾ動靜陰陽ヲシラザラン、後人イマダソノ所説ニ達セザルノミ、宋ノ刑昺ガ爾雅ノ疏ニ云ク、地ニ升降アリ、冬至ヨリ夏至ニ至ルニ、降ルコト三萬里、夏至ヨリ冬至ニ至ルマデ、升ルコト三萬里ト云、（コレハ最高最卑チ地ノ昇降トスルナラン）然レバ一日昇降大約百六十餘里ナリ、然ルヲ地上ノ人コレヲ覺セザルハ何ゾヤ、列

子曰、「天地密移」ト、タレカ覺セン、コレラミナ西人ニ先達テ地動ヲ說モノナリ、只西人ハ勞シテソノコトヲ究メテ、後ニソノ理ニ通ズルガ故ニ、其言ノ中ルコトアレドモ、亦只天ノ筋骨ヲ說得ルノミ、古人ハ坐ナガラ妙理ニ達シテ、末事ニオイテハコレヲ略ス、ユヱニソノ言簡略ナレドモ、說處眞ニ天ノ精神ニアリ、コヽヲ以テ異ナルノミ、地ノ升降一日ニ百六十里ヲ、我國ノ道里ニシテ纔二十里バカリ、シカレバ其動ヲ覺セザルモ宜ナリ、モシ實ニ西人ノ言ノ如クバ、地球一日ノ行スデニ我五十萬里餘トナルヲ、我モ人モ覺セザルハイカント云ニ、百億萬里ト云トモ覺セザルコトアラン、凡物ノ動クモノ其行和順ニシテ擾亂スルコトナキトキハ、人自ラソノ動ヲ覺セズ、タトヘバ氣血ノゴトシ、ソノ運行一息ノ間斷ナケレドモ、ソノ人自ラ知覺セザルハ、和順ニシテメグレバナリ、和セザルトキハ轉筋・耳鳴・頭痛・疾病ノ類ヲナシテ、ヨクソノ人ヲ覺セシム、又船ニノリ海ヲ渡ルガゴトシ、風浪靜ナルトキハ、百里ヲ走ルトモ身體尙安泰ナリ、風浪暴ナルトキハ纔ニ數十里ノ間ニシテ寢食ヲ安ゼザルニ至ル、コレミナ移動ノ疎密ニヨリテ、神氣ニ順逆ヲナスガユヱニ、覺ト不覺トノ異アルモノナリ、コノユヱニ昔時後醍醐帝ノ御宇ニアタリテ、佐々木鹽冶判官高貞ヨリ、龍馬ナリトテ月毛ナル馬ヲ献ズ、今朝卯ノ刻ニ出雲ノ富田ヲ發シテ酉ノ刻ニ京着ス、行程七十六里、鞍上閑ニシテ靜坐スルガゴトシ、然レドモ旋風面ヲ撲テ堪ズト奏スト太平記ニ見エタリ、コレ即チ馬ト人ト動ヲ同ジクシテ、ソノ移ルコト密ナルモノナリ、シカレドモ人馬ノ行ト風ノ行ト同ジキコトアタハズ、故ニ風靜ナレドモ其面ヲウツコ

トハゲシキナリ、地球ノ動ノゴトキハ實ニ龍馬ノ類ニアラズ、上ニシテハ雲霧風雨、下ニシテハ山海土石、中ハ人畜魚蟲、及ビソノ精神氣血、ミナ其行ヲ一ニシテ其運旋ヲ同ジウス、山坂ノ嶮ナク、風浪ノ暴ナク、遮ルモノモナク、礙ルモノモナク、至密ナリト云ベシ、コノ故ニコレヲキクニ聲ナク、コレヲミルニ象ナシ、イカンゾヨク是ヲ覺セン、シカラバ則地球ノ不動トノミ云ンモ、イマダ理ニ達セザルナラン、夫天ハ形體ノ限リナシ、一物北ヨリ南シテ一尺ヲ移スコトアリトモ、天ハコレガ爲ニ一尺ヲ北ニマサズ、一尺ヲ南ニ減ゼズ、サレバ動モ猶靜ノゴトシ、然レバ一物東行スルヲ以テ、外物ミナ是ガ爲ニ西行スト云ンモ可ナリ、タトヘバ太白右ニ進ミ、歳星左ニ退クヲ見テ、衆星ト歳星ト太白ノ爲ニ左行シ、衆星ト太白ト歳星ノ爲ニ左行スト云ンモ亦可ナリ、今我ト天地・日月・五星ト共ニ其行ヲ同ジクシテ、常ニ疾行スルコトアランモ知リガタシ、抑亦地球實ニ不動ニシテ、天上元來彼ラノ變動アランモ亦シルベカラズ、岸ニヨリテミレバ舟行ナリ、舟ニノリテ見レバ岸移ルナリ、馬ニヨリテ見レバ、風來リテ面ヲ撲ナリ、風ニヨリテミレバ、面來リテ風ヲ撲ナリ、天ニヨリテ見レバ地轉ジ、太陽ニヨリテ見レバ地周ルナリ、地ニヨリテ見レバ、天モ太陽モ動カズト云コトナシ、凡ソ全動ハ全靜ニ異ナラズ、專靜ハ尙專動ノゴトシ、コノユヱニ靜ト靜トモ靜ナリ、動ト動トモ靜ナリ、一動一靜ニシテ、而シテ後ニ動トス、タトヘバ奇ト奇トモ偶ナリ、偶ト偶トモ偶ナリ、一奇一偶ニシテ、而後奇タルコトヲ得ルガ如シ、サレバ動ハ動靜ノ間ニ生ズルモノナリ、是ヲ地ニアリト云ンモ可ナリ。

天ニアリト云ンモ可ナリ、天動ノ說ナンゾ非トスベキ、然ラバ則チ地動天動ノ說、イヅレヲカ是トシ孰ヲカ非トセン、岐伯云、「地在ニ天中一、大氣擧レ之」ト云リ、五星地球ノ如キハ天ニアルモノナリ、ミナ星ト云ベシ、山岳丘陵ノゴトキハ地ニアルモノナリ、皆地ト云ベシ、天ニアルモノハ動ヲ常トシ、地ニアルモノハ靜ヲ常トス、太陽ノ回轉シ五星地球ノ運行センモ、亦皆天上ノ動ニコソアレ、山岳丘陵互ニ移ラマシカバ、實ニ地ノ動クトモ云ベシ、然レドモ地球動靜ノコトハ、一概シテ云コトアタハズ、今京師ニ在リテイヘバ、近江ヲ東トシ、大阪ヲ西トシ、奈良ヲ南トシ、丹波ヲ北トス、然レドモ江戸ヨリコレヲミレバ、ミナ西ニアリ、長崎ヨリ是ヲ見レバ、ミナ東ニアリ、漢土ヨリミレバ、ミナ東ニアリ、蝦夷ヨリミレバ、南ニアリ、是ヲ以テ昨日ノ是ハ、今日ノ非ナリ、今日ノ不可ハ、明日ノ可トナル、此ニテ動トスレバ、彼ニテ靜トシ、此ニテ靜トスレバ彼ニテ動トス、何ゾ得テ一定セン、一定シテ論ズベカラザルコソ、天ノ天タル處ナラン、程子曰、「天地莫ニ適非一中」ト西人モ亦視者ノ眼心ヲ以テ天地ノ中トスト云リ、カノ是ト非ト、可ト不可ト得テ定ラザルガ如シト雖、又時々ニ一定ノ是アリ、一定ノ可アリテ違フベカラズ、此ユヱニ禪家ニ「本來無ニ東西一、何處有ニ南北一」トハイヘドモ、轅ヲ北ニシテ越ニ行ベカラズ、「色即是空、空即是色」トハイヘドモ、西施ヲ醜トシテ嫫母ヲ姸トスルコトアタハズ、我ハワガ父ヲ以テ父トスレドモ、他人ヨリ見レバ道路ノ人ナリ、君子豈コレヲシラザランヤ、シカルニ父ヲ愛敬スルモノハ、命アレバナリ、我ハ地球ヲ以テ不動トスレドモ、他星ヨリ見レバ動物ナラン、古人豈

是ヲ知ラザランヤ、シカモ地ヲ以テ靜體トスルモノハ、我命アレバナリ、コレ思慮辨論ノ及バザル處ノ道理アルコトナルベケレバ、我輩ノ得テ知ルベキコトニアラズ、サレバ地ハ處リ、天ハ運ルトイハンコソ、天下ニ通ジテ正平ノ論ナルベケレ、但西人地動ノ說、固ヨリソノ理ナキニシモアラズ、イカントナラバ、太陽ニ時中シテ論ズレバ、地球ノ動カズシテアランヤハ、且ソノ說奇怪ナルニ似タリト雖、コレニヨリイヨ〳〵彼上天ノ妙用神變不測無究ナルコトヲ尊信スルニ足ルベシ、サレバ地球ノ全體不動ナリトノミハ云ベカラズ、古ヘハ觀二天文一、察二地理一ト云リ、天象ハ動キ地象ハ靜ナリ、天運ト云ヘルハ、觀象ノ言ナリ、今天體ヲ論ズルモノハ、天ニオイテモ理ヲ察ス、地動クトイヘルハ、察理ノ言ナリ、觀象ノ言ハ性命ヲ主トシ、察理ノ言ハ形體ヲ主トス、コノ故ニソノ言ノ同カラズ、宜ク察知スベキ處ナリ、吾初テ此書ヲ見ル、ソノ外數條アリト雖、煩雜ヲイトヒテヤミヌ、只此地動ノコト、我ガ居ル處ナルガ故ニ、最屓ノ心ヲ以テコノ地ガ動キタラバ、家室モ崩レ、棚上ノモノモ落ベシト思ヘドモ、スデニ八曜ノ內日ヲ大トシ、木星ヲ次トシ、土星ヲ次トシ、火星・地球・金星・月・水星トダン〳〵ニ小ナルコトハシルベシ、シカレバ地ヨリ大キナル太陽・木・土・火ノ四曜ノ動クコトハ怪シマズシテ、四大曜ヨリ小ナル地球ノ動クヲ怪シムハ、イカナル心ゾヤ、我ノ饑渇ヲ苦シミテ、人ノ饑渇ヲアヤシムガ如シ、コノ心ヲ以テ七曜ヲ恕スルトキハ、地動ノコトモ亦怪ムベカラズ

三十　西人ノ地動ヲ言ノ基キ、又諸天五星ヲ視察シ、測量スル處ノ基ハ引力・重力ニアリ、引力ハ其一星

へ引トルノ氣ヲ云ナリ、重力ハ源ヲ造化不測ノ中ニウケテ、用ヲ世間萬事ノ表ニ施ス、天ハ是ヲ得テ淸ク、地ハコレヲ得テ濘ク、水火是ヲ得テ昇降シ、山澤コレヲ得テ氣通ジ、人類萬物是ヲ得テ安泰ナリ（天アリテ太陽アリ、ソノ重力最ツヨシ、故ニ六曜吸トイヘドモ、六曜モ亦力アリ、ソノ上ニ遠シ、故ニ引付ルコトアタハズ、ツヒニ太陽ヲ遶ルナリ、金水最近シ、ユヱニ遶ルコト早シ、遠キホド遲シ、ユヱニ月ハ太陽ニ遠クシテ地ニ近シ、故ニ地ニ引カレテメグル、木星ノ四月土星ノ五月ミナシカリ）凡上下位ヲ分チ、高卑ノ品ヲ分ツモノ、ミナ此力ニヨラズト云モノナシ、天地ノ形渾珠ノ如シ、上面ノ窪キモノハ河海トナリ、突物ハ山岳トナリ、平ナルモノハ田野トナル、シカレドモ山谷ノ餘地ニオケルハ、タトヘバ波瀾ノ海面ニアルガゴトシ、大地渾圓ノ形ヲ妨グルニタラズ、地圓平ナラズト云コトナク、國平ナラズト云コトナシ、其圓其平ミナ重力ニヨレリ、重力ノ勢ヒ萬方ヨリシテ均シク爭競スルガ如ク、ミナ地心ニムカフテ輻湊スルガユヱニ、カクノ如ク渾圓ナルコトヲ得タリ、萬物ハ地面ニ住ス、亦皆地心ヲサシテ下トス、故ニ地球ノ四面ハスベテ人居ニアラズト云コトナシ、若シ然ラズンバ、天下萬國ノ中ニ於テ、或ハヨク天ニ向テ落ル處アルベシ、天ニ向フテ落ルノ國アルコトヲキカズ、則地心萬國ノ下ナルコト明ナリ、地心ニ遠キヲ高キト云、近キヲ卑シト云、高キヨリシテ卑ニオモムクヲ降ルト云、專ラ重力ニヨリテ直降スルコトヲ落ルト云、凡物ノ昇降浮沈人力ニヨラザルモノハ、ミナ重力ノスル處ナリ、イカントナレバ、金ハ氣ヨリ重ク、又水ヨリモ重シ、故ニ氣中ニアレバ落チ、水中ニアレバ沈ム、木ハ氣ヨリ重ク水ヨリ輕シ、ユヱニ氣中ニアレバ落テ、水中ニアレバ浮ム、ソノ浮ムハ水ト重力ヲアラソヒテ勝ザルナリ、水分ニ火氣ヲ吸テ伸テ、氣ヨリモ輕キニ至レバ、

降リテ雲霧トナリ、聚合シテ氣ヨリモ重ニ至レバ、降リテ雨雪トナル、其昇ルモ亦氣ト重力ヲ爭ヒテ勝ラザルナリ、是ミナ重ニヨラズト云コトナシ、重力ハ大地ノ萬物ヲ引ニオコルモノナリ、大地ヨク萬物ヲヒクノミニアラズ、萬物亦ヨク大地ヲヒク、ソノ實ハ萬物ノ實氣ト地ノ實氣ト相引モノナリ、唯小ナル物ハ引力微ニシテ其動ハ著ナリ、大ナルモノハ引力盛ニシテ其動ハ微ナリ、コヽヲ以テ大地金木ニ落ズシテ、金木ハ大地ニ落ツ、其實ハ大地ト金木トアヒ落レドモ、大地至微ノ動ハ覺知スルコトアタハザルナリ、タトヘバ小舟ト大船トアリ、海上相去ルコト百一間ナリ、小舟ノ重サ一萬斤、大船ノ重サ百萬斤ナリ、一人アリテ纜ヲ傳テ舟船ヲ一所ニ會セシムルニ、小舟ハ動クコト百間、大船ハ動クコト一間ニシテ、一處ニ會スルニ至ル、棹ヲ以テ是ヲヒラクモ、小舟退クコト一丈ナレバ、大船退クコト一寸ナリ、今地上ニアリテ一丸ヲ落スニ、其丸下行スレバ、大地ハ上行ス、ソノ丸ヲトリテ上ニ投ズルトキハ、丸上行スレバ大地ハ下行ス、其理舟ト船トノゴトシ、然レドモ丸ヲ以テ大地ニ比スレバ、至微ナリ至小ナリ、ユヱニ大地ノ動ヲ以テ丸ノ動ニ比スル、亦至微至小ナリ、地面ニアリテ重力ハキハメテツヨシ、地體至近ニシテ、實ハ氣ヲ以テ是一方ヨリ引ガユヱナリ、モシ地中ニ入ルコト數百里ナラバ、重力漸ク減ズベシ、實ハ氣上下ヨリ引ガユヱナリ、地心ニ至レバアヘテ重力ナカルベシ、同ク萬方ヨリ引クガ故也、モシ又天上ニ升リテ、地心ヲ走ルヿ地球ノ全徑ニヒトシキ處ニ至ラバ其重力地面極强ノ力ニ比スレバ、四分一ナベシ、地球ノ全徑一箇有半ニ等キ處ニ至ラバ、極强ノ力ニ比スルニ、九分ノ一ナルベシ　相近キトキハ相引ク力强ク、相遠キトキハ相引ノ力ヨワシ、屈伸變化ハ引力ノスル處ナリ、引力ト重力ト二用ナレド、ソノ實ハ一根ナリ、地ニ落ルニオヨビテハ重力ト云、精氣微質ノ上ニテハ

引力ト云リ、ソノ餘彈力・吸力・求心力ト云モ、ミナ引力ノ別名ナリ、或ハ伸ビ或ハ屈ム、皆引力ニヨルナリ、重力ハ遠ク及ビ、引力ハ至近ノ際ニ於テス、磁石ノ鐵ヲ吸フガゴトシ、琥珀ノ塵ヲ吸ガゴトシ、至近ノ引力ハ網ヲ以テ物ヲ挽ク如クスルモノナリ、是ヲ以テ考フルトキハ、地面ノ氣ハ琥珀ノゴトシ、萬物ヲ吸フ七曜、斯ノ如クミナ引力アリ、是ヲ以テ見レバ、太陽ハ七曜ヲ引テ強ク、七曜ハ引力互ニ強弱アリ、月ハ地ニ引カレ、木星ノ四月、土星ノ五月、ミナソノ本星ニ引カル、各曜ミナ外ヲ天トス上トス、人畜魚蟲萬物ミナ地ニ引レテ、其引處ヲ下トセザルコトアタハズ、八曜皆天中ノ氣ニアゲラレ、ソノ氣ハミナ各曜ニ吸ハルヽユヱニ、近キモノハ皆引レテ、七曜ト雖太陽ニ引レテソノ餘ハ互ニ相引ニ引カレテヨルコトアタハズ、ユヱニ各天ニ懸リテ落ルコトナシ、コレラノ理ヲヨク辨ヘテ後天ヲ語ルベシ、奇ナル哉西洋ノ說ヤ、天地ノ大論コヽニ盡ス、梵・漢・和ノ管見ノ及ブ所ニアラザルナリ、拳々服膺シテヨク〱思惟スベキコトナリ、スベテ人ノ德行性質ノコトニ於テハ、古聖賢ヲ主トシテ是ヲ取ベシ、天文・地理・醫術ニオイテハ古ヘヲ主張シ、是ヲトルモノハ愚ナリト云ベシ、西洋人發明ニ發明ヲカサネ、和漢ト雖オヒ〱ニ是ヲ開論スルコトナレバ、今日ニシテ古ヘノ非ヲ知リヌルコト實試シテミルベシ、然レバ亦コノ後ダン〱ト未發ノ試測出來リテ、後ヨリ今ヲ見レバ、又其非ヲシルベシ、ソノ後ノ人ヲシテ、亦此後ノ非ヲシラシメン、然バスナハチ古ヘヲ論ジテ、何ノ益カアランヤ、此古今ノ是非得失ヲ考ヘズシテ、徒ラニ書ヲ信ズル人ハ君子タラザルモノカ

三十一　天地ノ事ハスベテ引力ニカヽレリ、引力モ元來造化不測ノ裏ヨリ出タリト雖、辨ジテ知ルベキコトナレバ、不測中ノ不測ニ非ルナリ、凡人皆知ザルヲ以テ不測トシ、知ルヲ以テ不測ニ非ズトス、然モ其未知ラザルモ不測ニ非ズ、其已ニ知ルモ亦マス〳〵不測也、不測ノ非ルト、益不測ナルト合セテ又愈不測ナリ、恒星天ノ外何物カアル、天漢何ガ故ニカク周環セル、六合ノ外限アリヤ、限無ヤ、宇宙何レノ處ニカ始マリ何レノ時ニカ終ル、是皆不測ニ非ズヤ、然レ共萬物一體ニシテ、一陰一陽對待ノ道ヲ離レザレバ、天外モ亦剛柔ノ二體ノミニシテ、生有バ死アリ、有涯ナレバ無涯有ベキノ理ヲ推サバ、其不測モ亦不測ニ非ルニ似タリ、凡天上天下惣テ不測ニ非ハナシ、誰カ宇宙ヲ建立シ、誰カ元氣ヲ造制セル、誰カ天地ヲ生ジタル、誰カ諸星ヲ生ジ、常動常靜ノ規ヲ定メ、引力强弱ノ矩ヲ定メテ、大小ノ諸星ヲ綱維推行スル、誰カ引力ヲ作テ、元氣ヲシテ屈伸變化セシメテ、合織シテ水火トナシ、金木トナシ、亦其五行ヲ合織シテ、物ヲ生ジ人ヲ生ジ、眼・耳・鼻・舌ヲ造リ、五臟・六腑ヲ營ミ、精神・性情・魂魄ヲ與ヘテ、視聽・言動・思慮・分別シテ、天地ノ道理ヲ辨ゼシムル所ノ物モ不測也、辨ズル所以ノ物モ亦不測也、不測ヲ以テ不測ニ合セテ、亦愈不測也、然ト雖人ノ靈妙不測ノ神ハ非ズト云所ナクシテ、シカモ必心ヲ以テ都トス、天ノ靈妙不測ノ神モ在ラズト云コトナクシテ、即太陽ヲ以テ都トス、是ヲ以テ一身ノ用ハ悉ク心ヨリ出、一家ノ務ハ悉ク父ヨリ出、一國ノ事ハ悉ク公府ヨリ出、天下ノ政ハ悉ク朝廷ヨリ出、天地造化ノ妙用ハ悉ク太陽ヨリ出此故ニヨク其身ヲ修シテ、ヨク其父ニ孝アリ、其君ニツカヘテ神妙不測ノ

天命ヲ畏レ愼ムハ、我心ヲ以テ太陽心ニ冥合ス、コレゾ宇宙ノ至尊ニ奉ズル所ナルベシ

三十二 凡致知格物ノ大ナルハ天學ナルベシ、大抵理ヲ究メ性ヲ盡ス、其極ニ至ルコト多シト雖、天地ノ大ナル何ゾ究メ盡スベキ、日々月々歳々ニツクストモ、究ルコトアタハザルナリ、シカルニ亦不急ノ察ト云コトモアレドモ、己ヲ脩メ人ヲ治ルヨリ、家國天下ヲ平ニスルヲ人事ノ大トスト雖、堯舜禹ノ治ル天下ヨリハ、殷周ノ天下ハ大ナリ、秦漢ヨリ唐宋明ニ至ル又大ナリ、淸ニ至リテ又大ナリトス、然ドモ今ノ「トルコ」「ヲロシヤ」ニ及バザルコト遠シ、天地ノ大ヲ盡シ知リテ、其要ヲ撮ミテ又四海ニ達ス、ナンゾソレ小ナラン、古ヘ三代ノ天文地理ニオケルヤ、今ノ西術ト合見ルベシ、ソノ能否イカンヲシルベシ、然レバ則盡ストモ究ムルコトアタハザルハ天學ナリ、「奇兒(ケル)」「微私東(ウイストン)」ノ近世ノ發明ハ、未發ノ妙ヲ得ルト雖、亦是ニ止ラザルナリ、竟ニハ五星十月ノ世界ナルコトモ知リテ、恒星ノ陽火タルヤ否モ亦明ナルベシ、前ニ「ウイストン」ノ太陽明界ヲ略シテコレヲ修ムト雖、亦後ニ云所ノ恒星ノ陽火ナル、又暗界ノ限際モコヽニ發明シ、アラハシテ弟子ニ示ス、シカレドモ此圖ハ受ル處アルニモ非ズ、又必トスベカラズ、サレドモ須彌•浮橋ノゴトキ杜撰ニハアラザルナリ、ユヱニ此大抵此圖ソレ差ハザルニ庶幾カランカ、今ソノシルス所ノ圖、是マデノ天學トハ異ナルコトナレバ、信ズル人モ亦少カラン、ヨク／＼コレヲ得心シテ後ニ天ヲ談ズベキモノナリ、苟モ我居ル處照サルヽ處ノ天地ノ根元ヲ知ラザレバ、井蛙管見ヲ免レズ、日月ノ照ス處、草露ノ霑ル處、シリ盡サヾレバ、君子ト云ベカ

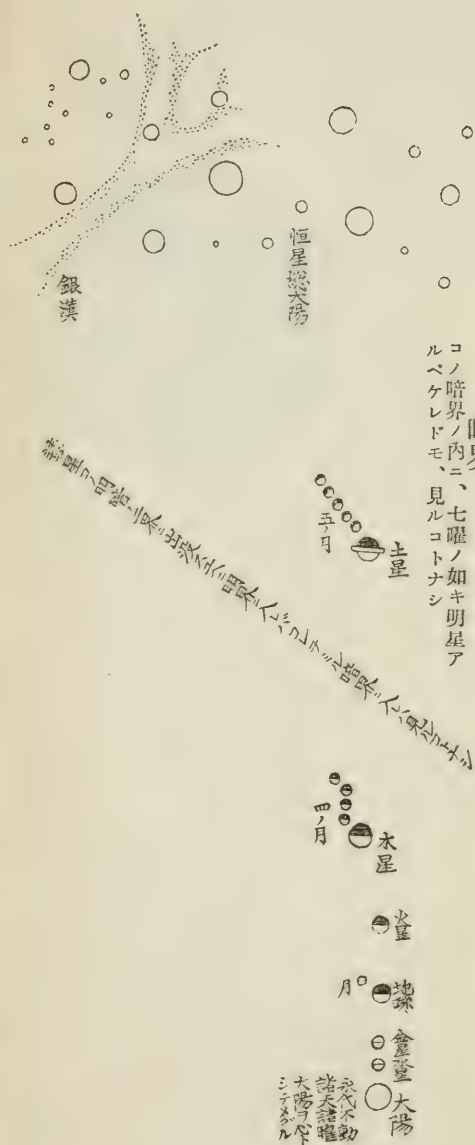
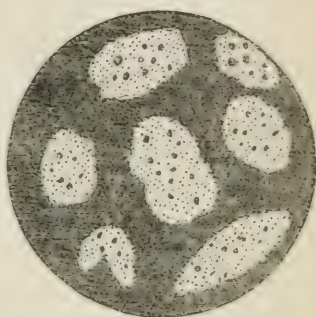
ラズ、古ヘ我國アルコトヲシリテ、他國アルコトヲシラズ、各ソノ國ノタメニ日月アリトス、スデニ二十八宿ヲ九州ニ分配ス、狹小甚キモノニアラズヤ、日月蝕ヲ變トシ、客星ヲ以テ吉凶ヲ云、漢ニ至リテ渾天ノ事ヲシリテ日月蝕ヲハカリ、唐宋ニ至リテ五星ヲ推歩シ、歳差ノ論カマビスシク、回々人來リテ地球ヲモツクルアリ、崇禎暦書・天經或問ト雖、地球ヲ以テ不動トシ、日月五星ヲ運行シテ九天ノ論アリ、然ルニ地動ニシテ太陽不動ノ説、西洋ニハ二千年前ニ起ル、二三百年ノ前ニ成就スレドモ、我國ニ來ルコト二十年ニ及バズ、次ノ圖ヲ以テミルベシ、ダン／＼渾天廣大ニナリテ、地球ノ小ナルコトヲシル、コレ古ヘノ非ヲミルニ足レリ

近世地動儀明暗界新説發明之圖

明界

五星地球十月合テ十六曜、ミナ陰星ニシテ自光無シ、太陽ノ光明ヲウケテ光ル、乃西洋語ニ、五星地球ヲ大惑星ト云、六星ナリ、月及木土ノ小星ヲ小惑星ト云以上十星ナリ

暗界

コノ暗界ノ内ニ、七曜ノ如キ明星アルベケレドモ、見ルコトナシ

三十三　天學ヲ以テ大ト云所ノモノハ、天アリテ後地アリ地アリテ後人アリ、人アリテ後仁義禮智忠信孝悌アリ、ミナ人ヲ治ムノ道ナレバ、コノ件々ハ天アリテ後ノコトナリ、然レバ則ソノ元ハスベテ天ニアリ、シカルヲ上古日本ニテハ神代ノ始、支那ニテハ三皇五帝ノトキ、天竺ニテハ釋氏以前、ミナ日月ハ我國々ノミノ爲ニ造爲スル處ノモノナリト思フコトハ、コノ三國ニ限ラズ、萬國皆然リシニ、

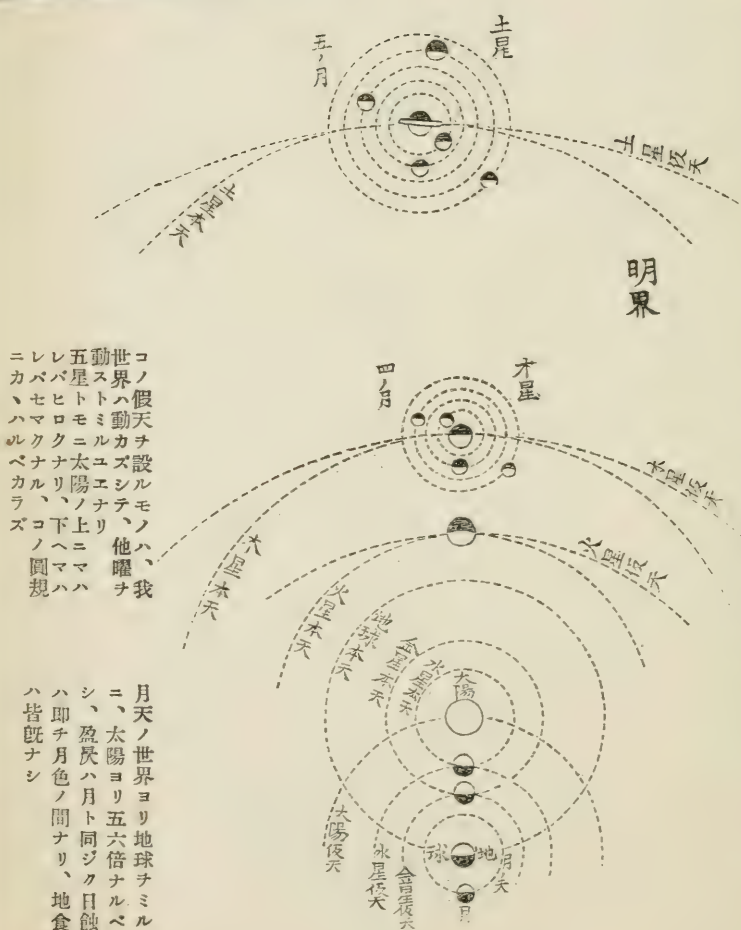
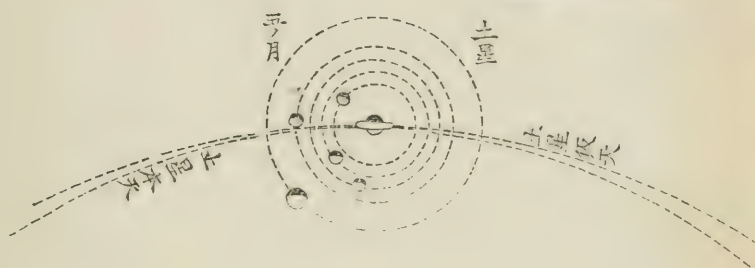
白明界
黒暗界
大標

西洋ノ國々ノ學ニオケル、致知格物至ラザルトコロナシ、コノ賜ヲ以テ天地ノコトヲ弘ク開アルニ與ルコトヲ得ルモノナリ、シカレバトテ我皇國ニテハ、外國ノ事ハ唯「ホルランド」人ノ言ヲキクノミナレドモ、西洋ノ國々ニハ、我日本ノ地理風俗ハモトヨリ、歴代沿革ノアリサマ、一々微細ニ知ラザルコトナシ、コレ則チ天文地理ノ格物ヲ最トスルユヱナリ、西洋ノ人萬國ニ商船ヲ出シ、有ヲ以テ無ニカヘ利ヲ得ル、其ツイデニ天學ヲ校正スルコトナリ、コノ行ヒヲ學ブベシト云ニハアラズ、幸ニ「ホルランド」人ニ學ビテ、其書ヲ譯シ、其學ヲ博クスルモノアラバ、勞セズシテ功ヲ得テ、天下ノ幸甚シカラン哉

三十四　コヽニ客アリテ、予ガ書スル處ノ明暗界、及ビ恒星ノ圖ヲ難ジテ曰、恒星ノ太陽ナルコト左

モアルベシ、其論ズル所明界ノ外暗界アリ、暗界ノ外恒星天ニシテ、其天惣テ明界トスルニ似タリ、予思ヘラクシカラズト、恒星スベテ太陽ノ如クナルトキハ、一星一星ノ間、光明ノ及ブ處ハ即明界ニシテ、其一明界ノ中ニ、各自七曜ノ如キモノアリ、ソノ太陽ノ大小ニヨリテ、諸星ノ多少アルベシ、我居ル處ノ太陽ノ明界モソノ一ナリ、ソノ明界ト明界トノ間ハ即暗界ナリ、今地球ヨリ望ムトキハ、恒星地球ヲ去ルコト遙遠ニシテ、恒星ノ間ハ尤近狹ニミユレ共、恒星ト恒星トノ間モ亦懸隔ニシテ、即地球ヨリ恒星ヲノゾムニコトナラズ、恒星ノ一明界ヨリ我太陽ヲミルコト、又恒星ノ中ニミユルナリ、其中太陽ノ大小ニヨリ、明界ノ廣狹アルベシ、明界ト明界トノ間ニモ遠近アルベシ、天漢ノ微星トイヘドモ、其間相去ルコト地球ノ太陰ヲ離ルヽ程モアラン、太陽小ナル故ニ明界モ亦小キナリ、ヨツテ是ヲ推スニ、大極中太陽ノゴトキモノ、幾百萬ト云コトヲシルベカラズ、我ミル太陽ノミ諸太陽ト懸隔スルニアラズ、同ジク其中ニ排列スルナルベシ、タトヘバ柚ヲ割テミルガ如シ、全體ヲ大極トシ肉ヲ暗界トシ、核ヲ明界トシ、其中ニ諸曜アリ、核ノ中ノ心ヲ太陽トス、核ト核ト相去コト少シキ遠近アレドモ、大ニ隔リタルモノナシ、我居ル明界モソノ中ノ核ナリト、即圖ヲアラハスヲ左ニシルス、コノ説モ亦ソノ理アリ、ユヱニ予コレヲ取リ附錄スルモノナリ、イカサマ客ノ説ノ如ク、諸恒星同明界ニ列スルモ、今少シ穩カナラズ、ユヱニ恒星ノ內ノ一星ヲ、我居ル如キ一明界トシテ、ソノ中ニ五星ノ如キ、月ノ如キハ、ミナソノ本星太陽ヲ繞ルトシテ圖ニ潤色ス、前論ノ如ク引力ノ說ニヨレバ、

スベテ一明界ニアル諸星、其太陽ヲ心トシテ、其太陽ヲ繞ルコト、コレ引力ニヨルナリ、太陽明界中ノ諸曜ハ、ミナ太陽ニ引レテ離ルヽコトアタハズ、又自力ヲ以テ引付ラレモセズシテ、只モノメグルコト地ノ月、土木星ノ月ミナ同ジ、是ソレ〳〵ノ明界ニアリトスルノ論ナリ、憶フニコノセツ爰ニチカヽランカ、前圖ハ西洋ノ說ニヨリテ圖ストイヘドモ、恒星ミナ同一天界ニアルコトアルベカラズ、又此圖ニヨレバ、暗天ハモトヨリ繞ルコトナシ、諸星ミナシカリ、唯其一明界ニアル諸星、スベテ太陽ノ力ニヒカレテ、亦自力ト爭フテ、ツヒニ太陽ヲメグル、コノ陰星ハミナ世界ナリ、又ソノ星ノチカキニ有星ハ、ソノ大星力ニ引レテ又メグル、地土木ノ十月ノゴトキコレナリ、然レバ則チ暗界ハ天ノ元ニシテ、ソノ中ニ幾千萬ノ陽星、幾千萬ノ世界アゲテ計フベカラズ、暗界中ノ陰星ハ繞ルコト無シ、又世界ナシ、明ナシ、目ニ見ル所ノ恒星ハ、ミナ太陽ニシテ繞ルコトナシ、恒星ノ內トイヘドモ、大星ニ近キ星ハ、大星ニ引カレテメグルナリ唯我地球ノメグルニヨリテ、他ノ陽星ヲ繞ルト思フナリ

暗界
土星
五ノ月
明界
木星
四ノ月
月天ノ民諸曜ヲ望ム圖並天動假天水星以上ヲ略ス
コノ假天ヲ設ルモノハ、我世界ハ動カズシテ、他曜ヲ動ストミルユエナリ五星トモニ太陽ノ上ニマハレバヒロクナリ、下ヘマハレバセマクナル、コノ圓規ニカヽハルベカラズ
月天ノ世界ヨリ地球ヲミルニ、太陽ヨリ五六倍ナルベシ、盈昃ハ月ト同ジク日蝕ハ即チ月色ノ間ナリ、地食ハ皆既ナシ

暗界
恒星各明界ナリ
其中陰星ニハ人民アリ

地球ノ民諸曜ヲ望圖並天動假天

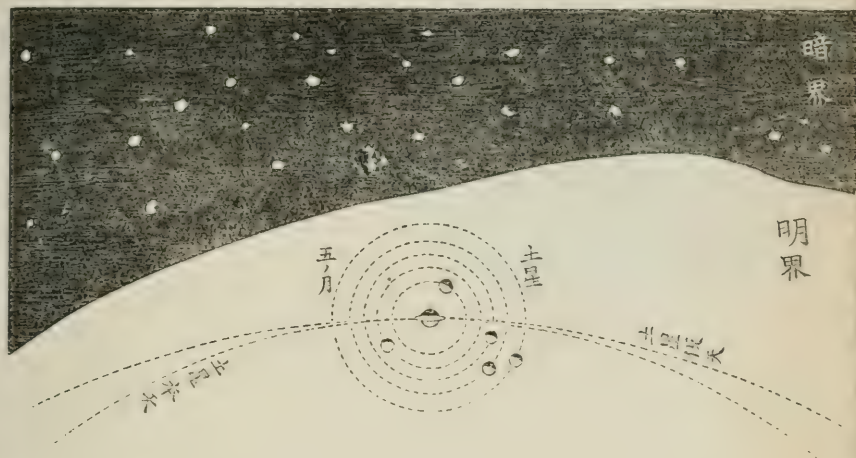
コノ圖中央イハユル七曜天ナリ、恒星宗動ノ二天ヲ加ヘテ九天ト云、地動儀ニヨリテハコレハ假天トス

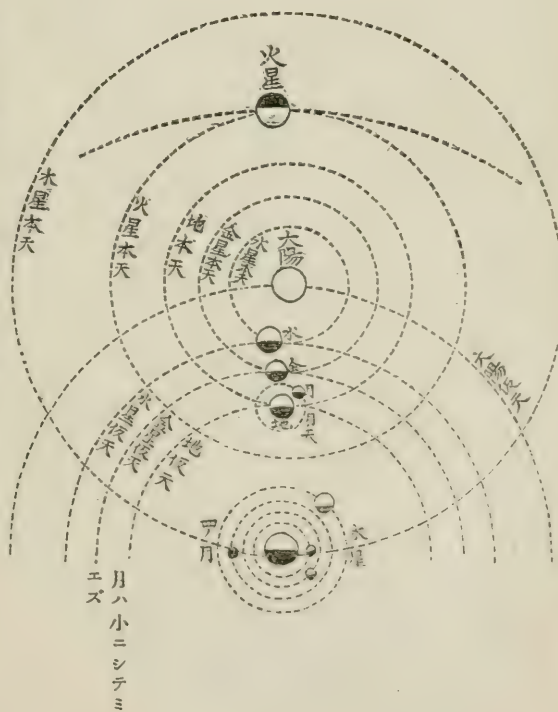
コノ假天ヲ設ルモノハ、世界ハ動カズシテ、他曜ノ動クトミルユヘナリ

土星ノ民諸曜ヲ望ム圖並天動假天

土星世界太陽ニ遠キユヱ陽氣少シ、五ノ月及環ミナ人民アリ、此五ノ月ヨリ木星及環ヲ見ルコト、猶月ヨリ地ヲミルガゴトクニシテ、又環ノ形容ハ怪シキモノナルベシ、月ヨリ金水二星ノ假天ヲ立ルハ互ニ四ノ月ヲミルモ又同ジト雖、小ニシテ見エザルベシ

暗界

明界

木星ノ民諸曜ヲ望ム圖並天動假天

木星ノ世界ヨリ四ノ月トモニ人民アリ、四ノ月ヨリ木星ヲミルコト月ヨリ地ヲミルガ如クナラン、亦月ヨリ五ノ月ヲミルモ同ジ

火星ノ世界同理ナル故ニ略ス、金星水星ハ日ニ近ク陽ニコガサレテ人民アルマジ

月ハ小ニシテミエズ

コノ説西洋ノ説ニモアラズ、唯或客ノ臆説ナレドモ、コレ亦差ザルニチカヽランカ、コノ説大杜撰ノ説ナリトイヘドモ、幸ニ發明シテ面白キガユヱニコヽニ附ス、必シモ是ニ泥ミ信ズベカラズ、然ドモ太古二帝三王ノ時ヨリ、須彌山或ハ我神代ノ天浮橋ニ立テ天ニノボルノ説、周髀蓋天ヨリ渾天ニ至リ地球ノ説出デ天ヲ九重トシテ、崇禎曆書、天經或問ヲ以テ、古今天地ノ事ハツクシタリトセシニ、ツヒニ西洋動地ノ説起リ、恒星ハ晤界ノ上ニアリテ、天體イヨ〳〵博廣トナリタルヲ、今コノ説ヲ出セバ、マス〳〵天體廣大トナリテ、ツヒニ説盡スベカラザルニ至ル、後ノ君子オヒ〳〵西洋ノ新發明モ出デタラントキニ、ナホコレニ合スルコトモアラバ、黄泉ノ歡ビナラズヤ

三十五　コノ發明ノ術ニヨレバ、地ヨリ諸曜ヲノゾミ視ルコトハ本ヨリナリ、月ノ世界及ビ火木土、及ビコノ九月ノ世界ヨリ諸曜ヲノゾミ視ルコトモ亦同ジコトナリ、唯ソノ世界ノ高下大小ニヨリテ差異アルノミ、ユヱニ臆度ノコトトイヘドモ、今ソノ圖ヲアラハス、ツギニ又金水ノ二星ハ、日ニ近クシテ人民在マジキナリ（金水二星ニ人民アルマジキト云モノハ、太陽ニ近ク熱スルヲ以テナリ、シカレドモ豊後別府ノ温泉ニ魚アリテ、此魚ヲ水ニハナテバ一日ニ死ス、シカレバ熱中ニ人民アルマジキニモアラズ）恒星ハ、ミナ一明界ニシテ、各我居ル處ノ明界ノ如クナルベシ、凡コノ地球ニ人民艸木アルヲ以テ推ストキハ他ノ諸曜トイヘドモ、大抵大小我地球ニ似タルモノナレバ、ミナ土ニシテ濕氣ナルベシ、蹴鞠又ハ紙張ノゴトクニアラザルナリ、シカレバ則太陽ノ光明ヲウケテ和合セザルコトナカルベキヤ、スデニ和合スレバ水火行ハレテ、艸木ノ生ゼザルコトナシ、又蟲ハ本ヨリ生ズベシ、蟲アレバ魚貝禽獸ナキ

コトアタハズ、シカラバ則チ何ゾ人民ナカラン、ユヱニ諸曜ミナ人民アリトスルモノ、我ノ有ヲ以テ擴充推察スルモノナレバ、妄ニ似テ妄ニアラズ、虛ニ似テ虛ニアラズ、佛家神道ノゴトク無稽ノ論ニアラザル也

夢之代卷之一終

夢之代巻之二

地理第二

一　渾天ノ説尚シト雖、地球ノ説亦更ニ新也、地天中ニ浮ムノ説尚シト雖、四方人居ノ説亦更ニ新也、唐宋以來月食ノ地影ニ掩ハルヽコトヲシルトイヘドモ、四方人居ノ説イマダシラズ、明ノ崇禎ノ時（崇禎暦書）利瑪竇（リメトウ）ト云者來リテ暦書ヲ譯ス、ソレヨリ天經或問出デ、後地球ノ四方ニ人ヲ立セテ、外面ミナ上ニシテ、四方六合皆人ノ立タルヲシルス、職方外紀史ノ書アリテ、圖説トイヘドモ本圖アルコトナルベシ、サレドモ國禁ナルユヱシルコトナシ、新井氏采覽異言ヲ作ル、此書ニ因ナラン、コレヨリ萬國ノ事明ラカナリ、ソレマデノコトハミナ妄説ナリ、太秦國ヲ日ノ入ル處ニ近シトシ、扶桑國ヲ日ノ出ル處ト云、日本ノ名モコレヨリ起ル、地ハ本ト球ナリ、ナンゾ日輪地ヨリ出ルナラン、ミナ日ノ見ル處ニシテ、東ニ出デ西ニ入ルヲ以テ、東國ヲ以テ日出ノ國トシ、西國ヲ以テ日沒ノ國トス、ソノ國ヘ往テミルニ必シモ出入セズシテ、亦同ジコトナリ、ムベナル哉地ハ球ニシテ平ナラズ、日ハ中天ヲ旋リテ、必シモ地ヨリ出ザルナリ、然レバ則中古マデ日ノ出入ヲ以テ名ヅケタル説、ミナ虚説ナルコトヲシルベシ

二 山海經ニ云處ノ萬國、ミナ虛妄ノ說ナリ、アヘテ取ルベカラズ

三 扶桑國ノコトハ歷代ノ篇ニ出ス、日本ノ事ナリ、君子國ナド皆是也、漢土ヨリ東海ニアリト云モノミナ日本ニシテ、ソノ外ニアルコトナシ、漢書三國志ヨリ歷史ニ出ル處ノ風俗土產ヲ以テ、我ニ有無ヲ論ズルコトアルベカラズ、彼書ハミナ傳聞ノ誤ナリ、虛妄ナリ、虛說ナリ、ソノ虛說ヲ以テ我實事ニアテヽ、扶桑國ハ我國風土ト異ナレバ、日本ニ非ズト云ガ如シ、ソノ說ク處ミナ訛妄ノ說ナリ、（扶桑ノ說歷代篇ニアリ）ナンゾ我ニクラベテ是ヲ證セン、後儒只漢人ノ書ヲ信ズ、故ニ斯ノ如シ、ソノ云所ノ說ミナ實ニアラズ、ヨクヽヽ辨ズベシ、徐福日本ニ到ルノコト、又夷州澶州ノ說ミナ妄說ナリ、（徐福日本ニ來ラバ文字ナ弘ムベシ、文字弘メザルハ、コレ來ラヌノ證也）徐福スデニ始皇ヲ欺キ、財寶及童男童女ヲ奪ヒ去テ再ビカヘラズ、ソノ終ル處ヲシラズ、其止マル處ヲ云ハ皆虛說ナリ、是ラノコトヲ正サズシテ無稽ノ書ニ依リ、又ハ妖僧ノ虛說ヲ聞テソレヲ實トス、我ハ信ゼザルナリ

四 古ヘ大內裏ノトキ、今ノ千本通ハ朱雀大路ニシテ、京師ノ中央禁城南門ノ正面ナリ、今ノ寺町通ハ東ノ京極通ナリ、朱雀ヨリ西モ亦同ジク町數アリテ、其西京極ヲ亦西ノ京極通トス、北ハ一條ヨリ起リ九條ニ到ル、每一條ニ四街アリ、內裏ハ一條ヲウラ門トシ、二條ヲ南門トス、此間ニ限リテ十街アリ、堀川ヲ東ノ御溝水トシ、今ノ紙屋川ヲ西ノ御溝水トス、此間ニ禁裏ヲ建ツ、朱雀大路ヨリ東ヲ左京トシ、西ヲ右京トス、スベテ洛中ト云、延喜式ニ曰「南北一千七百五十三丈、北極並次四大路廣各

十丈、宮城南大路十七丈、次六大路各八丈、南極大路十二丈、羅城外二丈、（垣基市三尺、犬行イヌハシリ七尺、溝廣一丈）小路二十六、廣各四丈、町三十八、各四十丈○東西一千五百八丈、通計東西兩京、自二朱雀大路中央一至二東極外畔一七百五十四丈、朱雀大路半廣十四丈、次一大路十二丈、次二大路各八丈、東極大路十二丈、小路十二、各四丈、（一路加二堀川東西邊一、各二丈）町十六、各四十丈、右京準レ之○朱雀大路廣二十八丈、自二垣畔一至二溝邊一各一丈八尺、（垣基三尺、犬行一丈五尺、溝廣各四尺）兩溝間二十三丈四尺○大路各十丈、自二垣畔一至二溝邊一各八尺、（垣基三尺、犬行五尺、溝廣各四尺）兩溝間七丈六尺○宮城東西大路各十二丈、自二宮城畔一至二湟外畔一三丈八尺（自二傍町垣畔一至二溝外邊一一丈二尺）○大路廣各八丈、自二垣畔一至二溝邊一八丈（垣基三尺、犬行五尺、溝廣四尺）兩溝間五丈六尺、○小路廣各四丈、」ソノ餘コヽニ略ス、京ノ水ニ圖アリ、コレヲ見テ今ノ衰ヘタルコトヲシルベシ、然ルニ都城ノコトハ王家ノ盛衰ニヨル、市街ノコトハ人力ノ及ブベキニアラズ、京師ノ地理ヲ考フニ、西南ハ平地ニシテ、市街ヲヒラクニ宜シカルベキニ、左ナクシテ平地ノ方ハダン〱衰ヘ、東北ノ山ノ方盛ンニナルハ、自然ト神祠佛閣ノ繁昌ニ引附ラレ、就テハ大津伏見ノ驛口ナルヲ以テナリ、ユヱニソノ商賈ノ便ニマカセテダン〱ト店ヲ移シ、東ハ盛ンニ西ハ衰フモノナリ、ソノ内多クハ東南ノ伏見街道ニカタヨルナリ、スベテ市街ノ勢ハ、陸路ノ街道或ハ通船ノ便ニヨリテ、其方角ヘ〱ト移ルモノナリ、今京師ノ市家古ヘノ半ニモ及バズ、中央ノ朱雀トイヘドモ、三條ヨリシテ外ハ野外ニアリ、又八條九條ノカケタルヲ見レバ、凡古ノ六分ヲ減ズベシ、其補ヒニ東ハ河原町、木屋町川東ニ潤クナル、二條ヨリ北ニテ市街、朱雀ヨリ西ヘ殘リタルハ、

天滿宮及其餘ノ寺社アルユヱナルベシ、豐臣家伏見ニ城セシヨリ伏見繁榮ス、コレヨリシテ西ハイヨイヨ衰ヘシナリ、江戸ハ中央ニ都城アリテ、諸侯ノ邸第次第ニ建出シタルユヱ、四方トモニ榮フトイヘドモ、最一ヲ西國ノ入口品川トス、千住・板橋コレニ次グ、ソノ外四ツ谷・青山・青梅口アリ、大抵長キヲタチ短キヲ補フテ三里四方ナリ、大阪ハ西ヲ海口トス、運漕ニ便アリ、故ニ盛ンナリ、東南北ハ漸々ニ衰フトイヘドモ、北ニ天滿宮アリ、東ニ府城アリ、南ニ天王寺アリ、戲場アリテ、今ヨリハ衰フコトアルベカラズ、京街道紀州口ハ又熾ンナリ、三都トモニ富豪ノ大賈ハミナ中央ニ居ル、出口々々ハミナ小賈ナリ、スベテ豪雄ノ居ル處ハ繁昌ス、是モ亦一時ナリ、ソノ餘ノ城下市驛アリト雖、多クハ街道ナリニ長クナリテ横ハ狹シ、又ハ本城ノ近邊、大祠大刹ノ門前ハミナ盛ナリ、コレ皆自然ノ勢ヒニシテ、人力ノ及ブ所ニアラザルナリ

五　京師ノ坊名一條ヨリ九條ニ至ル、其街路四ツヅヽナリ、一條ハ內裏ノ裏門通ニシテ、表門通ヲ二條トス、ユヱニ八街アリテ、北四街ヲ一條トシ、南四街ヲ二條トス、外ニ二街アリ、ソレ〳〵ニ名アリテミナ雅名ナリ、其餘ハ四街ヲ一坊トス、此坊名ノワリハ、大路（一條二條ヨリ九條ニ至ル、本通ナリ）ノ南側ヨリ次ノ大路ノ北側ニ至ル、又街名ハ大路ヲ一條通ヨリ九條通トス、其中路ヲ坊門トス、二條坊門・三條坊門ト云、又其間々ニ小路アリ、姉ガ小路・錦ノ小路ナドヽ云ナリ、是ハ東西ノ通リナリ、南北ノ横ノ通リハ、東京極ヨリ朱雀大路ニ至リテ、左京ノ間ソレ〳〵ニ名アリ、マタ朱雀ヨリ西京極ニ至ルマデ、殘ラズ

同名ニシテ、東西ヲ被ブリテ是ヲ分ツ、ソノ名ミナ文雅ノ正名タリシヲイツノコロヨリカ、スベテ坊門通小路ノ名ヲハジメ、南北通ハ猶サラニ異名ヲ立テ、本名ヲ廢シ、今ハ丸太町・竹屋町・蛸藥師・寺町・新町・堺町ナド、醜名ヲ用ユルコト、口惜キコトニ非ズヤ、又中古五條ノ橋ヲ六條坊門通ニ遷シテヨリ、橋ノ通リヲ五條通ト云、古ノ五條通ヲ今ハ松原通トヨブ、是ヨリ混ジテ四條ヨリ五條ノ間六街トナリ、五條六條ノ間二街トナル、竟ニ京極ヲ寺町ト云、朱雀通リヲ千本トス、此二大路ハ京城大切ノ街ナルヲ、コレスラ異名ニ易フ、ソノ餘ヲシルベシ、京師ノ市街古ヘ雅名アリテ、斯ノ如ク今醜名トナル、況ヤ江戸大阪ノ古佳名ナキヲヤ、奥ノ松島ノ洲々共名至ツテイヤシキアリ、長久保先生紀行ニ云、我路ニ此國ニアタラバ、先ヅ此名ヲ改ムベシト、宜ナル哉京師ノ坊名（此町十街アリ、内一條ヨリ南二街ヲ北ノ邊ト云テノゾキ、土御門ヨリ中ノ御門今ノサハラキ町一條四街ヲ桃花坊トス、中御門ヨリ二條通マデ二條四街通ヲ銅駝坊トス、其餘之ニナラフ）

一條ヲ　桃花坊（一條ヨリ南ヘ二街ヲ北ノ邊ト云、是ヲ除キ、土御門門ヨリ中ノ御門マデヲ云）

二條ヲ　銅駝坊（二條ヨリ北ヘ四街ヲ云、是ヨリハ皆本通ノ北ヲサスナリ）

三條ヲ　朱雀ヨリ東　教業坊　朱雀ヨリ西　豐財坊

四條ヲ　同　永昌坊　同　永寧坊

五條ヲ　同　宣風坊　同　宣義坊（今ノ松原通ヨリ北ヲ云）

六條ヲ　同　淳風坊　同　光德坊

七條ヲ　同安寧坊　同毓財坊
八條ヲ　同崇仁坊　同延嘉坊
九條ヲ　同陶他坊　同開建坊

桓武帝今ノ京城ヲ開キ平安城ト名ク、佳名ト云ベシ、然ルニ中世右京ヲ洛陽トシ、左京ヲ長安トス、漢土ノ地名ヲ擬シタルコト、文物ヲシタヒ過シテ拙ナシト云ベシ、今長安ハ亾ビテ洛陽ノミトナル、是ヲ洛中ト云モコノ略ナラン、心アル人ハ平安ト書テ、洛陽トスマジキコトナリ、然ルニ昔ハ是程ニマデ漢土ノ文物ヲ慕ヒシニ、今ハ又餘リ鄙陋ニナリテ、街名ヲ醜クキモノトス、亦本意ナキ事ナラズヤ（一條二條ハ中央ニ内裏アレバ、坊名ヲ分ツベシ、三條ヨリ以下朱雀ヲ堺トシテ分チ、一二ヲ分タズ、何ノ故ヲシラズ）

六　王代ノ時ハ國々ニ國造アリ、ソレヨリ國司アリ、中世國造ハ（古ノ國造ハ諸侯ノゴトシ、ユヱニ封建ノ世ニ同ジ）祭ヲ司ドリ、國司ハ政ヲ司ドル、ユヱニ自然ト國司ノ權勢ツヨクナリテ、國造ツヒニ廢ス、國司ノ治所ヲ國府ト云、一國中ノ府ナルヲ以テナリ、和名抄國ゴトニ國府何郡ニ在ト云、山城大和トイヘドモ國府アリ、攝津ニハ職ヲ改テ國トスト云テ、國府ノ在處ヲ云ズ、按ズルニ、日本紀天武紀六年、攝津職ヲ置、承和十一年、攝津國ト云、去ヌル天長二年、承和二年勅シテ河邊郡伊奈野ヲ定テ國府ヲ立ツ、然ルニ國ツヒヘ民ツカレテ役ニタヘズ、鴻臚舘ヲ以テ國府トスベシト、鴻臚舘ハ今ノ安倉村ナリ、（安倉村、鴻池トモミナ伊丹ノ北ニアリ）其傍ニ鴻池村アリ、又荒府ノ池アリ、大鹿村ノ地ナリ、昆陽（コヤ）ノ池ヲ大池ト云、荒府ノ池ヲ小池ト云、鴻荒

府皆國府ノ訛ナラン、然レバ則國府ノ池國府ノ池村ナリ、スベテ國毎ノ國府多ク廢シテ、皆訛リテ本名ヲ失フ、古ノ風俗ヲ知ラザルコト、ヲシムベキニ非ズヤ、然ルニ曾根ノ好忠・藤原ノ家隆モ、歌ニ荒府ノ池ト詠ジタレバ、誤ルコト久シキナルベシ、和泉ノ國ニハ今ニ府中ト云テ、名泉モ今ニ猶存ス（上古河内國ニ名泉アリ、故ニ泉郡トス、後世ニ至テ、河内國泉郡・大鳥郡・日根郡チ割テ泉ノ國トス）其外ノ國々ノ國府ハオキテ論ゼズ、聖武帝ノ時國毎ニ國分寺ヲ立ル、國分ノ二字ヲ以テ、國界ニアルカト思ヘバ左ニモ非ズ、又國分ト國府ト取チガヘタルモノ多シ、後世一國ノ府ヲトナヘテ多ク府中ト云、今明ニ存シテ府ナルモノ、常陸・駿河・甲斐・對島・長門・豐後ナリ、府ナラズシテ存スルモノハ泉ナリ、筑前太宰府ナリ、其内長門ニ長府ト云、豐後ニ府内ト云、ツヒニ地名トナリタリ、（長府ハ長門ノ國ノ府ナリ、駿府・甲府ト云ガ如シ、然ルニ長門國ノ長府ト云、アマリツタナキコトナリ）古ヘハ地名ニアラズ、都ト云ガゴトシ、長門ニハ慶長中萩ノ城ヲ築レテヨリ、萩ヲ以テ府トシテ、今ノ長府ハ古名ニ復スベシ、無ケレバ新名ヲ命ゼラルベキニ、府中ヲ地名トコヽロエタルヨリ、其マヽニアルモノナラン、本城ヲステヽ支城ヲ府トス、其名正シカラザルナリ、其外ノ國々ニモ府名ノ存スルモノアルベケレドモ未考得ザルナリ、王代ノ國府ハ大抵其國ノ中央ニアリ、是國中ヲ檢スルノ便ヲ以テナリ、太宰府ハ則筑前ノ國府ナリ、太宰ノ帥ナル人筑前ノ守ヲ兼ヌルナリ、ソレヨリ九州ヲ探題スルナリ、是ヲ太宰ノ帥ト云也（太宰府ノ外ニ國府アリシモシルベカラズ、サレドモ和名抄ニ別ニ出サズ）陸奧ハ亦同ジカラズ、聖武・孝謙ノ時、大野ノ東人（アヅマンド）・藤原ノ朝獦（アサガリ）等、東海・東山ノ節度使、陸奧・出羽ノ按察使ニシテ、鎮守將軍ヲカネテ、宮城郡多賀城ヲ府トス、其碑ヲ以テシルベシ、奧州ハ古俗六丁ヲ以テ一里ト

ス、（是ヲ小道ト云、大道三十六丁ナリ）碑面ニ蝦夷國界ヲ去ルコト百二十里トアレバ、大道二十里ニシテ、今ノ（大日本史蝦夷傳一千百二十里トスルハ誤）平泉・衣ノ關ノ傍ヲ國界トスベシ、然レバ王朝ニ屬スルモノハ岩井郡ヲ限リテ、膽澤・江刺ヨリ北ハ、南部・津輕ノ地ハミナ蝦夷ナリ、和名抄ニハ國府宮城郡ニアリ、鎭守府膽澤郡ニ在トス、鎭守府ハ鎭守將軍（後世鎭守府ノ將軍ト雖、將軍ノ居所ユヱニ府ト名ヅク、然レバ府ノ守ハ官名ニアラズ、府ノ守ヲツクレバ、府ヲ守ル將軍ナリ、コレハ奧羽ヲ鎭守スル將軍ナレバ、府ハツクベカラズ、碑面ニモ其外ニモ、ミナ鎭守トアルナリ）居ル處ナリ、國府ハ國司ノ居ル處ナリ、聖武・孝謙ノ時ヨリ源ノ順ノ時（源ノ順ハ和名抄ノ作者ナリ）ニ至ルマデ凡二百四五十年、奧州ノ地ハ坂ノ上氏ノ東征ニ後レテ、安倍ノ賴時イマダ出ズ、此時ハ鎭守將軍ト陸奧守ト別ナルコトアリ、又兼ルコトモアリ、賴時ニ向ヒシ賴義・義家、ミナ陸奧守ニテ鎭守將軍ヲ兼ル、又清原ノ武則鎭守將軍トナリ、子武貞・孫眞衡ツヾキテ鎭守將軍トナリテ、岩井郡平泉ヲ府トス、義家陸奧守トナリテ奧ニ下ルトキ、眞衡コレヲ郊迎ス、此トキハ將軍ト國司ト別ナリ、コレヨリ後三年ノ戰アリテ、竟ニ藤原清衡鎭守將軍トナリ、其衡・秀衡ヨリ泰衡マデ相續ス、皆平泉ヲ以テ府トス、此トキ陸奧守アルコトナシ、此頃マデハ毎國ミナ國司アリテ、奧ニ鎭守將軍アリ、出羽ニ秋田城之助アリ、筑紫ニ太宰帥アリ、コノ外ハ皆毎國ニテ守介アリ、職原抄ニ曰、大國ノ守ハ二町六反、介二町二反、掾一町六段、目一町二段ト、是諸司職ノ分田ナリ、ソレヨリ上國・大國・中國・下國・小國ノ分田各差アリ、スベテ守ヨリ以下ノ役ミナ國府ニアリ、社祠戸口簿帳ヲ掌ドリ、百姓ヲ養ヒ農業ヲスヽメ、所部ヲ正シ孝義ヲ擧ゲ、田宅・良賤・訴訟・租調・倉廩・徭役・兵士・器仗・鼓吹・郵驛・傳馬・公私馬牛・寺僧尼ノ名籍ノコトヲ掌リシナ

リ、上總・上野・常陸ノ大守ハ親王家ノ任ニシテ、介タル人諸國ノ守ト同格ニシテ事務ヲ司ドル、下ニ權ノ介ヲ置テ、又諸國介ニ同ジ、源賴朝總追捕使ヲ賜ハリテヨリ、守護地頭ヲ置、國司ノ威オトロヘ、竟ニハ止テ守護代官トナリ、足利氏以後ハイヨ／＼變ジ、戰國ニイタリテ英雄國々ニ割據シテ、ツヒニ自然ト元ノ封建トナリタリ、上古ノ國造ハ大抵諸侯ノゴトシ、封建ト云トモ然ルベシ、中世漢土來往ハジマリ、漢土ヲ學ビテ、國司ヲ置テ郡縣トス、故ニ國司ハ今ノ諸司代・城代・町奉行ノ如シ、六十六國ニ六十六人アリテ國務ヲ治ム、一任ヲ四年トシ、交代シテ京官トナリ、又外任トナル、大國上國ノ守トナルヲ榮トス、鎭守・太宰ノ職ハ最モ武幹才略ヲ擇ムナリ、是ヲ以テ古ヘト今ノ風俗時勢ノ變リタルヲシルベシ、故ニソノ國府ト云モノハミナ國々ニアリ、何郡何邑ヲ府ト云コトシルベキナリ

七　多賀城ノ碑ニシルス所、「去㆑京一千五百里、去㆓下野國界㆒二百七十里、去㆓常陸國界㆒四百十二里、去㆓蝦夷國界㆒百二十里、去㆓靺鞨國界㆒三千里」トアルハ、ミナ六丁ヲ以テ一里トスルナリ、今ニテモ大抵國人是ヲ用ヒ、小道一里トス、六里ヲ用ヒテ大道一里トス、今ノ里數ニ約スレバ、京ヲ去ルコト二百五十里、下野國界ヲ去ルコト四十五里、常陸國界ヲ去ルコト六十九里、是ハ古ヘ多賀・久玆ノ二郡奥ニ屬ス、然レバ是ト合ベシ、蝦夷ノ國界ヲ去ルコト百二十里ト云コト、按ズルニ上古ハ東夷ヲ指シテ蝦夷ト云、尾張ヨリ東ハ服セザリシヲ、日本武尊東征ヨリダン／＼ニ開キ、（日本武尊已前ハ尾張ヨリ東ハエゾナリ、東征ノ後ハ、關東ヨリ東北ヲエゾトス）仁德ノ時ニ田道スデニ雄鹿郡ニセメ入ル、利仁・田村麻呂等ニ至リテ、ダン／＼ト奥ニ入ナリ、

天平ノ時ハ坂上氏イマダ出ズ、此時宮城郡多賀ニ城ヲ築、是ヨリ二十里ナレバ、大抵岩井郡衣之關ノ古迹ナルベシ、シカレバ此時蝦夷界コヽニアレバ、膽澤江刺ヨリ奥ハイマダ伏セザルナリ、安倍ノ賴時ハ蝦夷ノ種類ナリシニ、源ノ賴義ニ滅ボサレ、淸原氏・藤原氏相ツヾキテ鎭守將軍タリシ間ニ、ダン〳〵ト北ヘ伐入ツテ、ツヒニ津輕ニ至リ、海內一統シタルナラン、然レバ義經ノ遁ル、處ハ、今ノ津輕カ松前ナルベシ、靺鞨ヲ去ルコト三千里トイヘバ、今ノ五百里ニシテ、蝦夷・肅愼ヲサスベシ、然ルニ此時南部・津輕ノ地イマダ伏セズシテ、今ノ蝦夷ヲ距テ遠ク肅愼ヲサスベカラズ、大抵ヲ以テ三千里ト云タルナラン、今蝦夷トサスモ、彼ノ地名ニアラズ、日本始リテ以來、東國ノ王化ニ伏セザル民ヲサシテ蝦夷ト云、其蝦夷ガダン〳〵ニ服シテ、海外ヘ追出シタル心ナリ、然レバ靺鞨ト云ハ、今ノ蝦夷ナラン、遣唐使エゾ人ヲ引テ唐ニ入、此時名ノル所ノモノ曰、飽多(アタキ)エゾ、津輕エゾト、コレヲ以テ考フベシ、蝦夷ト云ハ種類ノ名ニシテ、地名ニハ非ザルナリ

八　備前吉井川ノ石堰ハ、津田左源太ノ興ス處ナリ、兩堤疊々トシテ馬踏三間バカリ、左右ヘ低ルルコト二十間餘リニシテ、勾陪至テユルシ、タトヒ洪水陂ヲコユルコトアリトモ、崩壞スベカラズ、石堰ナヽメニシテ長百間バカリ、其幅二十間餘龜背ノゴトクシカリ、河水アフレテ踰下ルユヱニ洪水ノ憂ナシ、堰ノ上下石ヲシキ、皆鉛鐵ヲ流シテ是ヲツナグ、故ニ堅キコト石ノゴトシ、堰頭ニテ十間バカリアケテ通船ノ便トス、右堰スベテ四所ニシテ國中ニ通ズ、故ニ天旱ノ憂ナク、兩陂堅キコト甚

シク、石ヲタヽミテ門樋トス、前後ミナ鉛ニテツナグ、コヽヲ以テ旱ニアタリテハ、全水皆樋ニ入リテ溝洫ニ流レ、洪水ニアタリテハ、樋水龜甲ヲコヱテ流ルヽユヱニ溢ルヽコトナシ、溝洫ハ常水ナリ、ア、盛ナルカナ、此功ヲ以テ備前ノ國ハ水旱ノ憂ナキヲシル、民萬世ノ賜ヲウクト云ベシ、ソノ外國中ノ池溝ノ備ヨクトヽノフ、ア、西國ノ士大夫ツネニ此國ヲ往來シテ、一言此コトニ及バズ、心ヲ用ユル人少ナキヲシルベシ、木曾川・利根川ノ水ヲ始メ其餘ノ諸水、年々洪水ノタメニ崩潰シ、其害ヲナスコト空歳ナシ、ナンゾコレニ倣フテ治メ玉ハザルヤ、遺恨ト云ベシ、然ルニ吉井川今日ニテハ、カクノゴトク成敗ヲ以テ論ズルナリ、マヅコノ事ヲ興サントス、此費用イクバクヲシラズ、此費ノ償ヒイツヲ限リニ補フベキ、モシ金藏ニ蓄積シテスベキナケレバ、徒ニ利ヲ貪リテ民戸ニ貸ンヨリハ、カカル大造ヲオコスベシ、息ヲ出シテ借金シテハ無用ノコトナリ、又利根川其餘ノ年々ニ崩壞スル水ハ、年々歳々諸侯ニ課セテ役センヨリハ、一大業ヲオコスモ然ルベシ、心ヲ用ユルコト此際ニアルベシ

九　河内ノ國千破劒ノ城趾、金剛山ノ西麓ニアリ、南北共ニ高山ニテ、西ハ谷口千破劒村ナリ、四面斷崖孤島ノ如クシカリ、東高サ百丈バカリ、西七八十丈、南モ亦同ジ、北ハ谷淺クシテ三十丈バカリナリ、三方ノ山並ビ立ト雖、連續セズシテ深谷絕壁特立ス、東南一隅ヨヂノボルベシ、五六十間ニシテ平地アリ、凡二三畝竹林アリ、又升ルコト五六十間ニシテ峯ニ至ル、濶サ三十畝バカリニシテ平ナリ、西ヘ長シ、西ニ小丘アリ、城門ノアトアリ、丘下ニ五小祠アリ、楠公ノ立ル處ナリ、又西ニヤウ

ヤク下リテヤ、潤シ、秘水ハ丘南ノ岸下ニアリ今ハ涸ル、初メ此城ヲ築ク時ニコノ水ヲ得ル、一晝夜ニ十石ヲ汲得、ユヱニ軍用ニタレリトス、實ニ天造ノ嶮ナリ、楠公八百ノ兵ヲ以テ天下ノ大勢ト戰ヒ、頡頏シテ屈セズ、寔ニ故アルカナ、山下周圍一里バカリ、山上東西百二三十間、南北二十間餘、或ハ十間五間東北隅ノ嶺モツトモ近シ、東兵雲梯ヲカクル處ナリ、正面ハ宇都宮公綱山ヲホリ城樓ヲコボツノ處ナリ、思フニ此城タトヘ楠公再生ストモ、今ノ世ニアリテハ保ベカラズ、イカントナレバ、後世炮銃ノ制サカントナレバ、三方ノ嶺上ヨリ火器ヲ以テコレニ迫ラバ、一日モサヽユベカラズ、此時イマダ火砲アラズ、弓箭トヾカズ、谷ヘ下リテ攻上ラントスレバ、石木ヲナゲ下シ、煎砂ヲフラセテ是ヲ禦グ、アラカジメ計テ楠公ノ籠ル處ナリ、シカレドモ八百ノ兵ヲ以テ籠城シ、數十萬ノ敵ヲ眼下ニ見下シテ物ノ數トモセズ、アヽ偉ナル哉、眞ノ英傑ト云ベシ、此城趾其マヽニテ今ニ存ス、大阪ヨリ纔ニ八九里程ナリ、武家タル人々往テ見ズバアルベカラズ

十　寛政九年癸巳ノ春余奥州ニ下ル、探勝ノ暇ナシト雖、三月六日仙臺ヲ發シ、多賀城ノ趾鹽竈ヲ經テ松島ニ至ル、鹽竈ヨリ松島マデ舟ニテ洲々（シマジマ）ヲ繞ル、其勝景イフベカラズ、瑞岩寺ハ巨刹ナリ、松島ヨリ石ノ卷ニ至リ淹留三日、寺池一ノ關ヲ經テ山ノ目ニ至リ、十三日中尊寺ニ抵ル、曉ニ山ノ目ヲ發シ、二十町餘右ニ柳ノ御所アリ、（御所ノ號何如ナレド俗ニ從フ、其餘準レ之）三五町北ヲ東ニ轉ジ小丘アリ、是高館ノ御所ノ古跡ナリ、中段ニ新山權現アリ、其上ニ物見ノ亭ノ趾アリ、北上川其下ヲ流ル（北上川ノ源南部ヨリ出ル、又來神川トモ云）東ヲ見レ

バ高山アリ、東山ト云、古ヘハ東稲山ト云、西行ノ歌ニ「陸奥ノタバシネ山ノ櫻花、吉野ノ外ニカヽルベシトハ」安倍ノ頼時此山ニ櫻木ヲ多ク栽シヨリ、今ニ至リテサクラ多シ、北上川古ヘハ此山下ヲ流レシ故、花ノコロハ花チリタルヲ以テ櫻川トモ云、コノ間ニ嘉樂ノ御所ノ跡アリ、物見ノ亭ヨリ一町バカリ、山上ヲユキテ義經ノ像アリ、甲冑ヲ帶シ胡床ニカヽル、小祠ニ安置ス、白旗大明神ト號ス、高舘ヲ下リテ本道ヘ戻リ、二三町樹木森々トシテ山路嶮シ、是古ヘノ衣ノ關ナリ、辨慶松・鈴木松・龜井松アリ、西ニ躋リテ中尊寺アリ、辨慶堂ニ像ヲ安置ス、長六尺二寸、龜井六郎ガ笈アリ、高三尺バカリ、幅二尺バカリ、深サ一尺餘、ミナ金物ナリ、棚三段皆兩扉ナリ、ソレヨリ別當ノ宅ニ至リ客殿ニ憩、見下セバ北上川東ニアリ、衣川西ヨリ流レテ北上川ニ入ル、ソノ絶勝云ベカラズ、金色堂ニ至ル、其彩色七寶螺鈿ヲ施シ、柱扉ミナ金箔アツシ、扉隅ノハゲメヨリ是ヲ見ル、壇上ノ中ハ清衡、左ハ基衡、右ハ秀衡三人ノ棺ヲ收メ、泉ノ三郎ノ首函アリ、此堂古ヘハ遠キヨリ見テ光耀ス、ユヱニ俗ヒカリ堂ト云、今朽腐ニヨリテ、外堂ヲ以テ是ヲ覆フ、白山堂ノ後ニ老婆杉アリ、周圍三丈五尺徑リ一丈二三尺、三方ニ皮アリテ中ハ空虚ナリ、一方ノ口廣シ、中ニ四五疊ヲシクベシ、二三十人ヲ入ベシ、然ルニ枝葉繁茂ス、ソレヨリ奥ニ物見ノ亭趾アリテ衣川ヲ見下ス、金商吉次ノ舊居白鳥ノ柵・琵琶ノ柵ノアトアリ、琵琶ハ泉ノ城ナリ、忠衡ノ居處ナリ、巨鐘アリ、龍頭ナシ、古物ナリ、ソレヨリ衣ノ關ヘモドリテ、又西轉シテ金鷄山ノ麓ヨリ、毛越寺・喜祥寺・圓隆寺ノ舊迹ヲミル、皆礎石アリ、是マデ

ヲスベテ平泉ト云、淸衡ヨリ泰衡ニテ至テコヽニ住シ、奥羽ヲ鎭シ驕奢ヲキハム、寺塔ノサカンナル、第宅ヲ御所ト稱シ、平泉ヲ都ニ比シ、東西ヲ東山トス、ソノ餘ノ繁榮古ヘニナラブモノナシ、保元・平治ノ亂ヨリ平氏熾ナリト雖、威令コヽニ及バズ、ツヒニ義經ヲ迎ヘテ賴朝ト爭フニ至ル、ソノ威望以テミルベシ、コレヨリ達谷ノ窟・五串ノ瀧ヲ見テ、山ノ目ニカヘリテ宿ス、ソノ餘奥ノ勝景アリト雖ココニ略ス

十一　大井川・安倍川ハ渉(カチワタリ)ニシテ天下ノ難水ナリ、洪水ノ時ハ、其水激流シテ大石流レ、其滿定(セ)ルコトナシ、故ニ夏秋ニハ五日七日、或ハ十日二十日渡リヲ絶シ、イカントモスベカラズ、諸侯・大夫・士庶人ハ勿論、タトヘ公用トイヘドモ、コヽニ留ラルヽコト數日ニシテ急務トイヘドモ渉ルコトアタハズ、天下ノ大難コヽニ究ル、然ルニタトヒ何程ノ洪水アリトモ、渉ラント思ヘバ渡ラザルコトヲ得ズ、ナンゾ一水ニ沮マレン、萬一對軍ノコトアリテ、洪水ニ隔ラレ隙ドル內ニ、敵ヨリ謀計ヲメグラシ河ヲワタリ襲擊バ、忽ニ勝利ヲ得ベシ、スデニ大久保氏ニモ此コトアリ、大井川ノ險タル、小水ノ時ハ膝ヲスギズ、其最深キ處トイヘドモ、モヽニ至ニ及バズ、大抵其深處ト雖五六七尺、又甚シキニ到リテ一丈ノコトモアルベシ、サレド是ハ一日二日ノコトナリ、凡乳ニ至レバ馮リテ留ルコトナリ、然ルニ其最深ノ處ト雖纔ニ一二所ニシテ五七間ノ間ナリ、然ラバアラカジメ其處ヲハカリテ、此深キ處ニ石橋ヲカケテ、洪水ノトキハ大石流レテ滿定ルコトナシ、橋ナタモツコト不レ叶ト云ン、然ルニカクハ有ベカラズ大造ニ事ヲ決シテ一擧アラバ、遂ゲ王ハザルコト

アルベカラズ、此深湍一二所ヲ橋トシ玉ハヾ、其餘ハ淺湍ニシテ、大洪水ノトキト雖乳マデハアルマジ、又少水ノトキハ橋下バカリニ水アリテ、其餘ハ足モヌラサズシテワタルベシ、天下ノ勢ヒ寛大ニシテ、今ハ却テ下ニ制セラレ玉フ、大井川ノ東岸ヲ島田トシ、西岸ヲ金谷トス、此兩驛ニアラユル川越ノ馮夫(カチフ)ト號スルモノ幾百人、コノ者ドモ數百年來此川ノ馮夫ヲ以テ、世ヲ渡リ妻子ヲ養フ、然ルニ今此川馮リヲ止ルトキハ、此者ドモ飢渇スベシト、アア是ハ婦人ノ仁ナラズヤ、一ヲコロシ百ヲ活ス、中人スラ是ヲスベシ、況ヤ天下ノ諸侯此川ニ苦シムコト測量スベカラザルモノヲヤ、關西ノ諸侯ニ命ゼラレテ石橋ヲカケサセラレ、又馮夫ノ數ヲ點シテ、年々此者ドモニ養料ヲ給ハランカ、又ハ一人扶持ヅヽ賜ラバ、餘ハ耕作シテ食フベシ、只此費ヲ苦シミ給フユヱニ、皆下ニ制セラレ玉フナリ、又ハ一人ニ百金ヅヽ賜ハルトモ、何ゴトカアルベキ、扨又コノ川ヲ天下ノ關所ト云コト古クシミワタリテ、何ントモ救ヒガタシ、然ルニ此事ハ猷廟御上洛ノトキ、駿大納言ノ御馳走トシテ、此川ニ舟橋ヲ掛ラレ、陸路ノ如クナシ玉フ、此時ノ台命ニ、此川ハ天下ノ關所ナリ、カク自由ナルコトアルベカラズトアリシヨリ起レリ、然ルニ此コトハ納言ノ驕肆ヲオサヘラレン爲ノ御一言ナリ、然ドモ此事アルニヨリ、猶サラニ廟議決セザルコトアラン、惜ムベキカナ、此川長明海道記ナドニモ、播豆藏ノ宿ヲスギ大堰川ヲワタル、此川ハ川中ニ渡リ多ク、又水サカシ、流ヲコエ島ヲ隔テ、瀨々方々ニ分レタリト書テ、馮(カチ)ワタリノコトナシ、スベテ古ヘハ水ノ自然ニ任セテ人作ヲ加ヘズ、故ニ大水ノトキ渡ラレ

ザルコト多ク在ベシ、常水ノトキハ旅人自ラ馮ワタリテ、馮夫ヲソナフコトナシ、今ハ諸侯ノ官道トナリタレバ、ソノ爲ニ馮夫ヲ備ヘ置ナリ、驛處ノ馬夫ノゴトシ、馮夫ドモ少水ニハ錢ヲ得ルコト少シ、故ニ夜中忍ビテ川底ノ石ヲ揚ゲテ、所々ニ深陷ヲナシ、旅人ヒトリハ涉ラレヌホドニ作リテ、常水ニテモ日々錢ヲ得ルヤウニ奸惡ヲナス、大罪ナリ、此奸慝ヲ縱ニシテ年中行旅人ヲ煩ハシムルハ、官吏ノ心違ナルベシ、今ヲ以テミレバ、夏秋ノ間大雨アレバ、忽チ此川渡リヲ止ルコト五七日、東西兩都ノ使者トイヘドモ、何程ノ大用アリテモ渡ルコトアタハズ、萬一不虞ノコトアリテ、其事ヲ達シ玉フトモ、コヽニ支ラレテ達スベカラズ、又叛逆ノコトアランカ、コヽヲ以テ關トスルコトアルベカラズ、箱根・新井ノ關アレバナリ、ネガハクバ關西ノ諸侯ニ命ゼラレ、土石ヲ起シテ橋ヲ架シ玉ハヾ、萬代ノ幸ナルベシ、履軒先生曰、大井川ノ土石ヲ引ナラシ、行水ヲヨク考テ、高下無カラシメバ、大水トイヘドモ廣キ川ニ平漫シテ股ヲ過ベカラズ、又東西兩岸ノ內ニ渠ヲ通ジテ、コヽニ短キ橋ヲカクベシ、石ニテモ木ニテモヨカルベシ、川上ニテ白鷺洲ヲ造リテ、圭頭ニスレバ水兩方ニ分ル、雨水ノ後ゴトニ役夫ヲ驅テ、川中ノ砂石ヲ引ナラセバ、行路ノ難ナカルベシ、モシ此策ヲ行ハンニハ、マヅ馮夫ノ數ヲ改メ、一生ノ間ノ扶持ヲ賜ハリ安堵サセ、當前土砂引ナラシ、且ハ橋ノ造作、雨後ノ役夫等ニ用ヒテ、ダン／＼減ズレバ、其內ニハソレ／＼ノ業ニ本ヅクベシ、又此費用ハ西諸侯ノ此川ニテ年々賓メラルヽ代リトシテ、割付テ出サセシムベシ、然レバ天下ノ用足リ、諸侯・大夫・士庶人マデモ歡ビヲ

ノベテ、此馮夫モ難アルマジキナツト云フ

追考　文化八年ノ春予東奥ニ下ル、往返トモニ東海ニ道ヲ取ル、往ハ渴水ニシテ水脛ニ止ル、返リハ富士川ニ一日、大井川ニ八日留ル、其窮云ン方ナシ、然ルニ河初テ開クトキ、馮夫ノ賃九十四錢、此トキ七湍トナル、内四湍ニハ板橋ヲ架シ、殘ル三湍ヲ馮トス、中央最甚シ、其深キ所馮夫ノ腮ヲ浸スニ至ル、流急ニシテ水深シ、能堪ルト云ベシ、詩ニ曰、深則厲シ、淺則掲スト、一定ノ法アルベカラズ、淺川ハツマカラゲシテ渉リ、深川ハ裸ニテ渉ル、コヽヲ以テ天下萬事ノ處置、輕重淺深機ニ臨ミ變ニ應ジテ、一定ナラザルコトヲシルベシ、東街道水多シトイヘドモ、深キヲ天龍川・富士川・馬入川トス、淺キヲ大井川・安倍川・酒匂川トス、上ノ三川ハ元ヨリ深キヲ以テ、初ヨリ船ナリ、次ノ三川ハ淺キ故馮トスルナリ、然ルニ舟シテ後大水ナラバ渉ヲ止ムベシ、馮シテ後大水アラバ、舟スベシ、ソノ上ニ水増トキハ、渉ヲ止ムベシ、本文ニサマ〴〵論ヲ立ト雖、今實見シテ後其說ヲ得タリ、此法ヲ用ユルトキハ、一金ノ費ナク、又馮夫ヲ煩ハシムルニ及バズ、只驛舍ノ利ヲ得ザルノミニテスムコトナリ、其法イカント云ニ、此川馮ナラデハ叶ハズト固ク執トキハ、イカントモスベカラズ、已ニ攝州武庫川ヲ始メ其餘ノ川口、皆平日ハ板橋ニテ通ル、水出レバ馮トシ、又マセバ舟トス、是詩ノ辭ト同ジコトナリ、大井川ニテモ此法ヲ用ヒ工夫セバ、今日ヨリ渉リヲ止ト云トキハ、深キ湍ヲハカリテ舟ニテ渡スベシ、其外ハ馮ナルベシ、賃ハ元ヨリ九十四錢ナルベシ、然レバ

馮夫ハ勞少シテ賃ヒトシ、舟賃ハ別ニ定ムベシ、旅人ニテハ舟ノ賃ホド多ク出スヤウナレド、數日滯ルヨリマシナルベシ、此一端舟トスルトキハ、タトヘ其上ニ二三尺マストモ、流レ渡ニスレバ難ナシ、タトヘ二端三端深クトモ、皆斯ノ如クナルベシ、此法ヲ官ヨリ命ゼラレナバ、大井川止ルコトハアルマジ、有トモ一日二日ナルベシ、外ノ二川及沖津川モコレニナゾラフベシ、サテ富士川ト雖、今ノ渡口ハ波高ク惡所ナリ、川下ノ渡カロキ所ニテ渡スベシ、里程ハ同ジコトナリ、舟渡ニテ此上ニ止ル川ハセンカタナシ、然レドモソレハ一二日ノコトナリ、天龍川ヲ以テミルベシ、是始ヨリ深ケレバナリ、馮ノ三川ニオイテハ、マヅハ一日ノ難モアルマジキナリ、是始メヨリ淺ケレバナリ、駿大納言ノ船橋ヲカケラレシ故智ヲオソヒテ、大水ノトキ舟ヲ數十艘ツナギテ、第一ノ深キ處ニワタシテ、其餘ハ馮ワタリニスレバ、イカホドノ大水ナルトモ、渉サザルコトアルマジキナリ、スベテ江戸・京ニ大變アルトキ、此川ユヱニ通ゼザルコト多クシテ、大ニサシツカユルコトアリ、イカニシテモカクアリタキモノナリト雖、何ヤウニモ川役人・馮夫・及驛宿トモニ川ヲ止テ、旅人ヲ滯ラセ錢ヲ取ントスルコト故ニ、此者ドモニツカハレテ、官ノ自由ニナラザルコト、口惜キコトナリ、然ルニ此川ニ石橋・舟橋ヲ造ルトモ、馮夫ドモ川ヲ深フシ舟ヲ切流シテ、竟ニハ此コトナラザルト云ンカ、其トキニハ川下ニ伊呂ト云處アリ、コヽニ至リテハハヾヒロク水アサシ、故ニ渉ルコトヤスシ、相良ノ往還ナルヲ以テ、俗ニ田沼街道ト云、是ヲ開キテ通サルベシ、然ルニコレハ間道ナレバ、公

ヨリ御免ナクテハナラザルナリ、大井川止リタルトキハ、此道ヲ通ルベシト雖、命アリテ宿驛ヲ定置ルヽトキハ、馮夫ドモ及兩驛ノ者ヨリ、他ノ街道ヘトラレテハカナフマジト、ナルタケセワシテ川ヲ止メザルヤウニスベシ、コレ積冢ノ牙ノ要街ナリ、スベテ一所ニ我儘ニ利ヲアミスルモノ、二ツニ分テ爭ハシメテ、互ニキソハシムレバ、自然ト利ヲ貪リテ、一所ニタクマシクスルコト能ハザルナリ

十二　天明三年癸卯五月ノ末ツカタヨリ、信州淺間ノ岳常ナラズ、炎上ツヨク地中雷鳴シ、日々甚クナリテ、六月末ニ至リテイヨ〳〵強ク、（中右記曰、「天治元年七月廿一日、淺間峯猛火燒二山巓一、其烟屬レ天、砂礫滿レ國、煨燼積レ天、國內田畠依レ之已以滅亡」天治元年ヨリ天明三年ニ至ル六百年）七月五日ヨリ黑煙雲ヲツキ、雷電空ニハタメキ、烟中ノ炎アカクナリテ、モユル石ムラガリ降リ、雨トオボユルハ灰ト砂ナリ、風ニ順ヒ吹ナビキ、地ハ大キニフルヒ、空ハ炎火カヽヤキナガラ、灰雲ニフサガレテ日夜ヲシラズ、七日ト云ニハマス〳〵強ク、カノ山奥ニ萬座山ト云アリ、其山ノ土モ石モ火ヲフルレバ燃ルトテ、常ハ火ヲ嚴ニ戒ルコトナルニ、燃エタツ石灰ミダレ落テ、此山盡火トナル、近麓ニヒロキ沼アリ、コノ沼ヨリ泥ワキ上リテ、山間ナル吾妻川ト云谷川ニ崩レ出デ利根川ヘ下ル、一丈バカリモアルベキ、高汐ノ溢ルヽヤウニ流レ下リ、五科ト云所マデ二十里餘、四五十ケ村ヒタ流ニ押下ル、矢川ヨリモ泥ネヂ上リテ杢ノ關。天神山ナド突ナガス、材木家庫幾百萬燒々流ル、家ニ居ナガラ流ルヽモアリ、遠クノガレテ火石ニ燒レ、走獸ニ突レテ死スルモアリ、風多ク西風ナリシカド、沓掛。

追分・輕井澤ナドハ、火石フリテ大半ハヤケ死ス、凡二十里四方ハミナ同ジ、人ダネ、獸ダネ、草木皆盡ス、漸ク少シユルミテ日光ヲ見タルハ、八日ノ晝頃ナルベシ、其外近國ハ皆灰フリテ、加・能・越及關東八州・陸奥ニ至ルマデ、毛ノ如キモノ多クフリタリ、上野ヨリ武・總・常ノ國々、利根川スヂ人畜家財オシ流シテ、イヤガ上ニ重リテ海口ヘ流レ出ル、人ハ首バカリ、或手足チリ〳〵ナル多シ、此秋灰降タル國々ニ限ラズ、其餘ノ諸國モ大ニ飢饉ス、寔ニ未曾有ノ凶歳ナリ、サテ又信濃・上野ノ兩國ヨリ武藏ヘカケテ石灰ノフリタル地、漸クニ領主・代官・村主ヨリ命ジテ、遁レタルモノヲ引モドセドモ、幾バクモアラズ、マタ居所モナシ、アヤシノ小屋ニテモ、ツクロヒ住スレドモ、田畑ハ埋レテ耕スベキモノナシ、アヽ時ナル哉、然ルニ此山ノ變ハ三代實錄ニアレドモ、ソノ後ハシカトキカズ、寶永ニ富士山ノヤケタルハ、幸ニシテ燒ケヌケテ、今ハ烟モ立ザルヤウニナリタリ、奥州ノ藏王ケ嶽・不忘山ナドノ燒タルモ奥羽志ニミユ、薩摩ノ櫻島ノ變ハ近キコトナリ、大隅霧島山ハ常ニ烈シクシテ、臨時ノ變ヲキカズ、肥後ノ阿蘇山ハヨリ〳〵ニ變アリ、近キ寛政四年子三月、肥前溫泉ケ嶽ヤケ出シテ、竟ニ四月朔日大地震津浪ニテ、島原並十八村沒入シ、洋中ニ小山出ル、肥後海邊二十四村又沒ス、スベテ死スル人二萬人ニ及ブ、然ルニカヽル硫黃山ニ近キ國々ハ兼テ心得アリテ、常ヨリモ烈シク燃ルヲミレバ、早ク用意シテ身ヲ逃ルヽ工夫アルベシ、故ニコヽニ記シテ後人ヲ戒ムルノミ、淺間山ヲ以テ鑑トスベシ

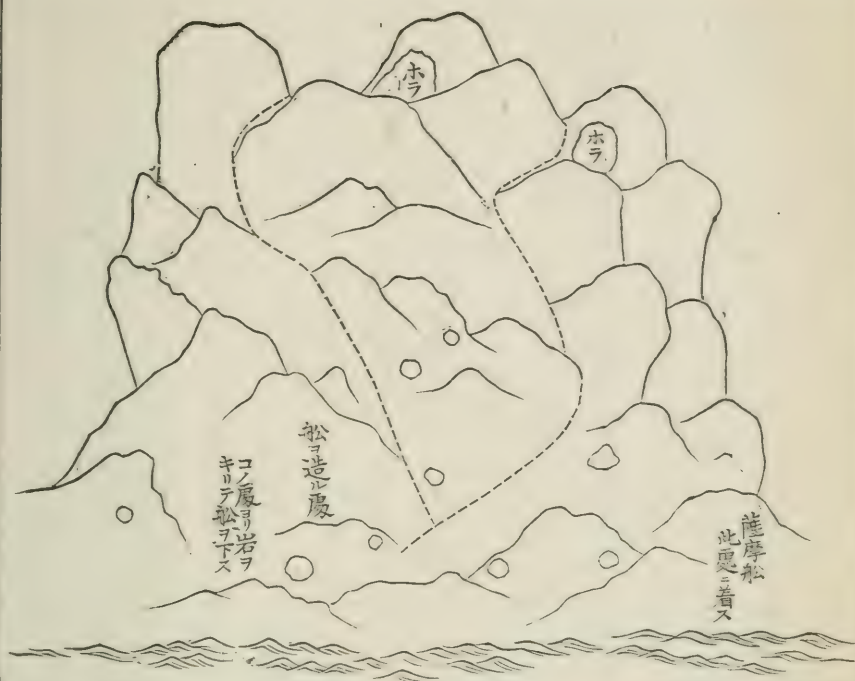
十三　天明五年巳正月、土佐國鏡郡赤岡浦ノ水主長平ト云モノ、同輩三人ト難風ニ逢ヒ、無人島（コノ島ハ小笠原氏ノ見出シタル無人シマニアラズ、ソレヨリ百里バカリ東北ナルベシ、八丈ヨリ靑ケ島ヘ三十里、ソレヨリ東南百里ニアリ）ニ漂着ス、船ハ破テ只四人此島ニ止ル、島ニ人ナシ、食物ナシ、水ナシ、火ナシ、貝ヲヒロヒ鳥ヲトリテ喰フ、二年ノ間ニ三人死ス、長平是ヲ葬リテ墓印ヲ建テ祭ル、東西南北大洋ニシテ、外ニ物ナシ、孤島ニ獨居シテ命ヲツナグト雖、只アケクレ古郷ノミヲ慕フ、海ニ投ゼントスルコト幾度ナレド、思ヒ直シ貝ヲヒロヒ鳥ヲトリテ喰ス、世ニハ天狗ト云モノアルヨシ、我ヲツカンデ日本ノ地ニツレ行ヨカシ、怪物ガナアレカシト思ヘドモ、何一ツアヤシキコトナシ、島ニアルコト三四年、後ハ空々トシテ年月モ辨ヘズ、然ルニ天明八年申二月朔日、大阪堀江龜次郎ト云モノヽ回船、奥州御城米ヲ積ンガ爲ニ下ル、難風ニアヒ此島ニ着ス、船ハ破レ、艪四挺・釜一・火打ノ器ヲ島ニ取テ山ニノボル、其數九人食ナクシテ亦同ク貝ヲ拾ヒ鳥ヲトリテ、人アリヤト山上ヲ廻ルニ長平ニ遇フ、共ニ始末ヲカタリテ涙ニムセビ、岩穴ニ住テ始テ火熟ノ物ヲ食フ（火打ノ器持上リシユヱナリ）又寛政二年戌二月、薩摩國志布子浦三右衛門ト云モノヽ、廻船永右衛門・水主五人トコヽニ漂流ス、ミナ〳〵出テ是ヲ助ケ、破船ノ内ノ道具少シヅツ引上ル、其後二人死ス、殘ル處ノモノ十四人、コノマヽニ死センヨリハト議シテ、日々ニ水汀ニ下リテ流レ木ヲヒロフ、コノトキ破船ヨリ揚置タルモノ、鋸一・斧一・鑿三・鉋二・曲尺一・山刀一・庖丁一・ヤスリ折二・古脇差一、右九品ノ器ヲ用ヒテ、寄木ヲ以テ小船一艘造リ立、十四人打ノリテ、北ヲサシテ走ルベシト議ス、一人鍛冶ノ隣家ノモノアリテ見オボエタルユヱ

ニ、流レ木ノ金釘ヲトリテ釘抜・金槌・錐・墨壺ヲコシラヘ、菰ヲ以テ船ノ雛形ヲツクリ、コレヲ手本トシテ三年ノ間ニ漸ク小船ヲ造リ、日ノ出ヲ以テ方角ヲ正シ、西北ヲ心ガケテ漕出ス、是寛政九年巳六月八日ナリ、運ニ叶ヒテヤ十三日ト云ニ青ケ島ニ着ス、島ノ役人介抱シテ慰労シ、七月八日ニ島人二人其舟ニノリソヒ出船シ、同日八丈島ノ八重根濱ヘ着船ス、島吏コレヲ改メ、上陸サセテ旅宿ヲ命ズ、ソレヨリ八丈船ニノセテ九月四日出帆シ、七日ニ豆州須崎ニ入、下田ノ改ヲウケテ十七日浦賀ニ入、ソレヨリ江戸ヘ送ラレ、小石川馬場御代官ニ寓ス、ソレ〳〵ノ領主ヘ渡サレテ歸國セシトナン、無人島凡高サ十七八丁、回リ二里バカリ、其峰中高ク、西東少シ低ク、六七合ニ平地アリ、夫ヨリ山三ツトナル、谷二ツアリテ長四五丁、北ノ方ニ洞アリ、濶サ廿四五間深二十間、其外ニ小洞數々アリ、東ノ方ニ碑ヲ建テ、後難ノ人人ノ心得ヲ書殘ス、大暖地ナリ、冬ト雖單物・繻絆・嚢ニテ居ル、白鳥アリ、大サ兩翼ヲヒラキテ凡七八尺、人ヲ恐レズ、夏ノ間ハ飛去テ居ラズ、捕ヘテ食トス、又油ヲ取テ燈油トス、鶯・目白多シ、鳥最多シ、雁鴨ハ少シ、乙鳥（ツバクロ）多シ、サヽ魚・鮫・赤魚多シ、釣テ食ス、貝類ハサマ〳〵アリ、蚊蠅亦多シ、此島ヲ無人島ト云ハ、此漂民ドモ人ナキユヘニ無人島ト云、八丈ヨリ百七八十里南ニアタリテ島アリ、是モ人無キユヘニ無人島ト云、明暦ノ頃小笠原氏ナル人コヽニ渡リ、碑ヲ立細見シテ還ル、故ニ小笠原島トモ云、ソノ第一ヲ北ノ島ト云、周回十五里、第二ヲ南ノ島ト云、周回十里、其次ニ中ナルモノ四、小ナルモノ四、其餘八十餘島アリト云、今コノ三船ノ漂着シタルハ

別島ナリ、寛政九年巳十一月、薩人大阪邸ニ着ス、二十七日余服部氏・永井氏・牧氏ト同ジク難民ヲ訪フ、是公裁ヲ經テ國ニ歸ルノ途中ナリ、船頭永右衛門五十三歳、十次郎五十九歳、甚右衛門五十六歳、八五郎三十七歳、ミナ肥フトリテ、艱難ヲ經タル人々トモ覺エズ、予地圖ヲ出シ指示シテ曰、ソノ島ヨリ他島ヲ見ルコトナケレバ、小笠原島ニハアルマジキナリト、曰、ツヒニ他洲(シマ)ヲ見ルコトナシ、東南ノ風ヲウケテ、六日ニ青ケ島ニ至ル、大抵百里バカリナルベシ、青ケ島ヨリ東南ナレバ、小笠原島ヨリハ又百里バカリ東北ノ方ニアリ、コレ洋中ノ孤島ニシテ、人ノ至ラザル處ナリ、島多キユヱニ鳥島ト云ノミ、初長平一人ノトキ火ナシ、生肉ノミヲ食フ、ツヒニ三人ハ死シテ、長平一人トナルトイヘドモ、眼光アカク黒白ノ玉ナシ、大阪舟來リテ火熟ノ物ヲクラヒ、二三月ニシテ常眼トナル、其後三人死シテ十四人トナリ、病モナク一人モ死セズト雖、泣クラシ居ルノミ、薩船來リテ鍋釜アリ、鳥魚ヲ煎テクラフ、品々ノ道具ヲ得テ、寄木ヲトリテヨリ、古郷ヲ思フ心シキリニ萠シテ、ツヒニ舟ヲツクルニ至ルナリ、青ケ島ハ長一里半、幅一里、初ハ四五百人アリシニ、山燒ケテ殘ラズ八丈ニノガル、其後十四五人渡リテ開ントスルニ、二三年八丈ヨリ船來ラズ、八丈ヘ海路三十五里、海上アシク渡海カタクシテ、出船ミナ〳〵難船ス、故ニ食物アルコトナシ、此漂着ヲ幸ニシテ、二人案内トシテ、八丈ニ渡リテ急ヲ告ルモノナリ、スベテ大島ヨリ小島ヘ渡ルハ難シ、目ザス針一分差ヘバ、大海ヘソレテ島ヲハヅス、小島ヨリ大島ヘ渡ハヤスシ、針差フトイヘドモ目當大ナルユヱ、何レノ浦ヘナリトモ着

モノナリ、八丈人此告ヲ聞テ大キニ驚キ、コレマデ渡シタル數船ノ屆カザルヲ知ル、ユヱニ食物ヲトトノヘ船ニ積テ、男女十二人ノセテ青ケ島ヘ渡ス、此船モ亦漂流シテ、紀州ニ着シ破船ス、ソノ上十一人痘ヲウレヘテ死シ、殘ル二人紀州ヨリ江戸ニ送ラルト云、今八丈島ニ殘ル所ノ青ケ島人七八十人アリ、青ケ島ニハワヅカ九人アリシ內ヨリ、二人ハ八丈ニワタリテ、此十一人ノ內ニアリテ死スト云、漂流人八丈島ニ至リテ初テ粒食ス、島人制シテ多ク與ヘズ、然ルニ少シク食シテ腹充チ、味ノ美ナルコト言語ニノベガタシ、魚鳥ノ肉ヨリ重キヲ覺フ、竟ニ病ヲナストイヘドモ、江戸ニ至ル頃ハ平癒セリ、黑汐ノコトヲ問フニ知ザルナリ、夏ノ間ハユルシトアレバ、左モアルベシ、此汐紀州沖ヨリ起リテ、八丈ノコナタヲ流テ大東洋ニ至ルナリ、薩人ニ問フニ、薩琉ノ間ニアルコトナシイヘハ、此汐四國紀州ノ間ヨリ起ルナルベシ、山ノ性石ニ非ズ、土ニアラズ、土石ノ間ノモノニテ堅シ、ユヱニ小島トイヘドモ逆浪中ニ獨立ス、草木モ生ジ、穴ヲ掘ルニモヤスシ、伊豆ノ七島無人島ノミニ非ズ、關東ヨリ奥州ノ山々ミナシカリ、奥ノ松島百餘ノ島々皆斯ノ如シ、常州平潟ノ湊モ亦コレナリ、八丈ハ伊豆ノ正南ナリ、下田ヨリ六十里、古ノ女護ノ島、又羅刹國ナリ、周回二十里、東西七里、南北三里、南大石濱アリ、岩石多シ、西ニ亦フジ山アリ、此山ハ昔ハ平地ナリシガ、永正ノコロ燒出シテ、竟ニ高山トナル、今西山ト云、蝮多シ、松材・蘇鐵ノ大木アリ、五村、曰神立、曰三津根、曰末吉、曰中之郷、曰大鹿ノ郷ナリ、戶七百餘、人口八千餘、流刑ノ人ヲ分チ預ル、婦人眉ヲソラズ、齒ヲソメズ、椿ノ油

ヲツケテ髮ヲ結ブ、痘疹ナシト云、絹ヲ織ニハ日々ニ垢離ヲカキテ織ル、商絹ハシカラズ、西ノ方ニ小島アリ、二村六十戸バカリ爲朝ノ祠アリ、其外小島多シ、公船二艘、凡六百石バカリ、貢船二艘、其外漁舟多シ、八丈ヲ出テ御藏島ニ着ス、回三里、徑一里ニスギズ、二村二十六戸、百四十口、八丈ヨリ正北四十一里ナリ、ソレヨリ五里新島ニ至ル、東西一里、南北三里、回七里、二村、曰本郷、曰若郷、三百四十戸、二千口アリ、南一里バカリニ敷根島アリ、人ナシ、ソレヨリ七里三宅島ニ至、東西二里、南北四里、周圍八里、五村、曰伊ガ谷、曰神着、曰伊豆、曰阿古、曰坪田、二百七十戸、千六百五十口アリ、正德ノ頃ヨリ今ニ至リテ、山燒テ消ルコト無シ、是ヨリ十三里伊豆下田ニ着スト云、因ニ曰、伊豆ノ七島・御藏・新島・三宅ノ三島ハ、海路ニテスデニシルス、東ニ大島アリ、伊豆ヨリ十八里、東西二里半、南北五里、周圍十二里、五村、曰新島・曰岡田・曰差木地・曰泉津・曰野增・五百十八戸、二千三百口アリ、役ノ小角配流ノ岩穴アリ、近年此島モ燒テヤマズ、神集島ハ大島ノ南、三宅新島ノ東ニアリ、東西二里、南北一里、周圍五里、一村百七十戸、九百餘口アリ、利島ハ三宅・新島ノ西ニアリ、經二十町餘、圍二里、一村八十六戸、三百二十二口アリ、水乏シ、泊島ハ新島ノ西ニアリ、周回一里、一村スベテ是ヲ七島トモ云、或ハ八丈ヲ加ヘ、泊島ヲ除キテ唱フルトモ云、スベテ島々皆名主、及神主並ビテ是ヲ支配ス、八丈島ニハ代官ノ下役船頭アリ、役人菊地恒八・同左內・同左平次・神主奧山右京・同山城・船頭服部源五郎・名主秀五郎・帶刀人高橋長左衞門・同政之助・御船方高橋安松。山下與兵

無人島西北面之圖（本名島島）

山中材アレドモ、大木ハナシ、道ノツキタルハ、萱ナカリテ道ヲ作リタルナリ、本圖ニ島ノ字多ク書キ、萱ナド書キタレド、今コ、ニ畧ス○ハ皆洞穴ナリ、是ハ土州水野氏ノ寫ス所ノ圖ナリ

衞・同與三右衞門、ソノ外役人アリ、靑ヶ島亦是ニ屬ス、名主三九郎今ハ八丈ニアリ、總テ江川太郎左衞門君ノ支配ナリ、土佐ノ長平大坂ニ至リ候邸ニ滯留ス、邸吏水野氏ナル人、開書及島圖ヲシルス、今此島ヲ無人島ト云コトハ、遠島ノ人無キ處ニ至レバ、先是ヲ無人島ト云ハ、左モアルベシ、後ニ鳥多キヲ以テ鳥ケ島ト號ト云、是漂人ノ命ズル處ナリ、鳥ケ島及七島ノ圖次ニシルス

無人島八丈島並七島伊豆安房接壤之圖

仙臺林氏水戸長久保氏ノ圖ヲ參考シテコレヲ圖ス

無人島本名小笠原島

八丈ヨリ九百八十里

為朝明神

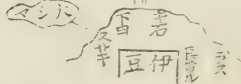
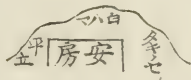
八丈島

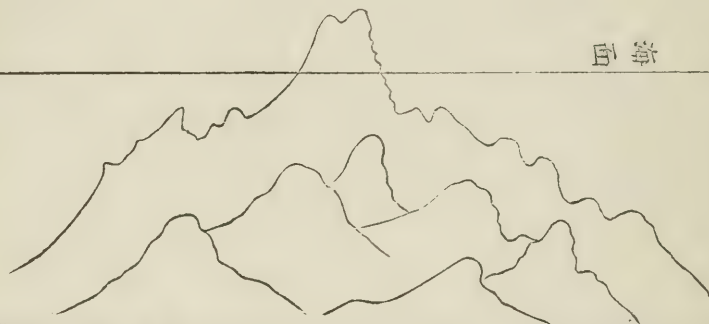
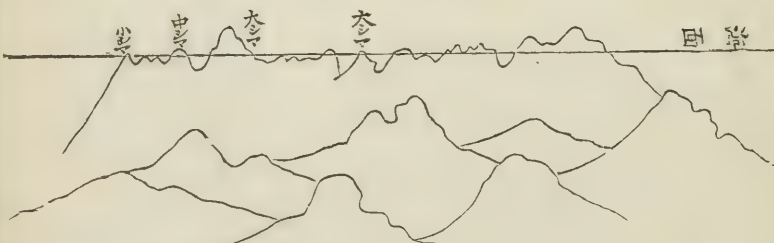
伊豆

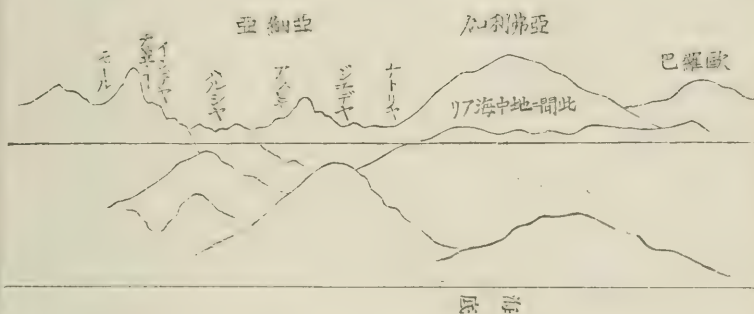
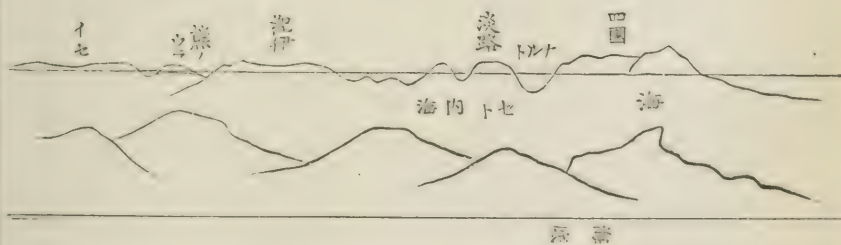
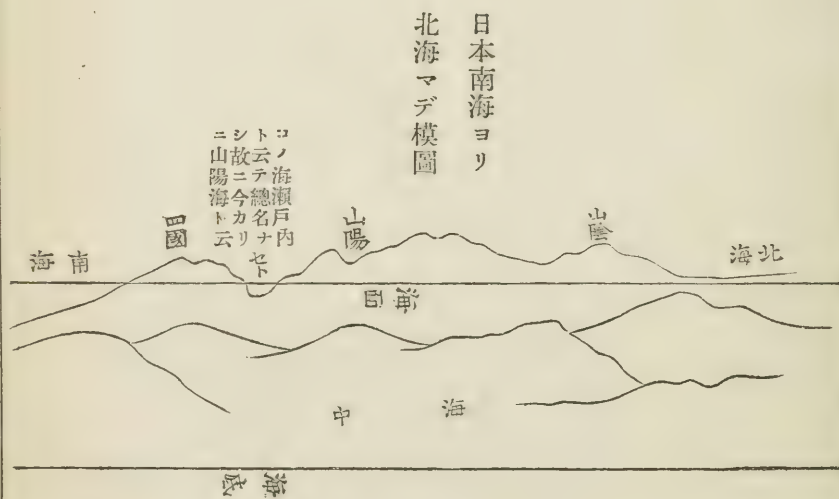
下田

安房

黒汐又クロセト云、幅二十丁餘、大急流ナリ、東ヘナガシ夏秋ハユルク冬春ハ早シ心得ナクシテ此汐ニ乘入レバ一時ニ大東洋ニ流サル

今度漂流スル處ノ島ハ此邊ナルベシ、八丈ハ西北ニアリ、小笠原島ハ西南ニアリ、イヅレモ百里餘ユヱニ見エ難シ

十四　海中ニアル處ノ島ハ皆山ナリ、地(ツチ)ニアラズ、土砂ニテハ浪ニウタレテ持ベカラズ、鳥島ノ如ク、カヽル大洋中ニ孤島ノアルコトハ不審ト云ベシ、海底ヲ平地トミレバ、數千丈ノ海底ヨリ一峯突忽トソビユベカラズ、底ヨリ出ル處ハ多ク大キナル山ナレドモ、ミナ海中ヨリ水上ニ浮ムコトアタハズ、ソノ中ニ一峯最高ナルモノ、水上ニ高ク出ルモノナリ、故ニ五十丈七十丈ノ下ニハ多クノ峯アルベシ、海水是ニ激シテ、島ノホトリハ必浪高キコト、大洋ヨリ甚シキモノナリ、鳥島ノ如キハ富士山・大山・比叡・愛宕ノ如ク、一峯衆山ノ中ヨリ拔萃シタル物ナリ、小笠原島及七島ノ如キハ、箱根・木曾・淺間ノ如ク衆山ナラビ連リテ、中ニモ最高ノ物ヲ大島トシ、中ハ中島・卑ハ小島トナルガ如シ、海底ハ皆連リタルモノナリ、即チ圖ヲ以テ見ルベシ、又島ノ字島ニ从ヒ、山ニ从フ、本性ハ山ナリ、然ルニ鳥ノ海上ヲ飛モノ、山ヲ見付テ羽ヲ休ム、故ニ孤島ニハ鳥多キモノナリ、古人ノ字ヲ製スルコト、其意ヲ見ルベシ、元來地ハ圓球ナリト雖、凸凹アルコト柚ノ如シ、低ハ海トナリ、中ハ里トナリ、高ハ山トナリ、高處多ク連タルハ、「亞細亞」「歐羅巴」「利未亞」ノ如キ長キ地ツヾキトナルナリ、低キ處多ク連リタルハ大洋トナル、故ニ大抵ソノ洋中ニ高キ山アレバ是ヲ島トス、必石ナリ、土砂ナレバ崩レ、浪ニウタレ崩壞シタル殘ナレバ、皆石ナリ、其島中ニ土砂アリテ水氣ヲ含ミ耕作ヲスルモノハ山上ノ土砂ナリ、廣東ノ南・安南ノ東ニ萬里ノ長砂ト云洲アルハ、（一説コノ萬里長沙ハ一大島アリシガ、陷イリテ海トナリタリ、ユヱニ海中ニ樹木ナハジメサマザマノモノアリト云フ）淺瀨ノ土砂吹ヨセテ、島トナリタルナリ、故ニ長大洲ナリ、孤島ニアラズ、其近邊數十里ハ又遠淺ニシ

トリ島之圖
小シマナキハ、一峯高クソビエタルナリ
海面
海底
小笠原島之圖
小島多キハ、皆山ツヾキナリ
海面
海底

歐羅巴亞弗利加亞細亞ニ亞墨利加接壤海底ノ圖
歐羅巴
亞弗利加
亞細亞
此間ニ地中海アリ
ナトリヤ
ジュデヤ
ハルシヤ
海底
日本南海四國淡路紀伊之圖
イセ
紀伊
淡路
ナルト
四國
トセ内海
海
海底

亞墨利加
コレヨリ東ハ
歐羅巴ヘモトル
日本
大東洋
大明海
支那
漢土ナリ
海面
中
海
海底
日本南海ヨリ
北海マデ模圖
コノ海瀬戸内
ト云テ總名ナセト
シ故ニ今カリ
ニ山陽海ト云
四國
山陽
山陰
南海
北海
海面
中
海
海底

日本九州ヨリ朝鮮ニ至ル接圖

海水今ノ水ヨリ二三町高ケレバ、河内和泉攝津ハ海中ニアルベシ、山城・大和・北攝ハ里ナルベシ、ソノ圖

地球凸凹柚之如キ圖

高キハ山トナリ、中ハ里トナリ、低キハ海トナル、自然ノ理ナリ、然ルニ平圓ノ小圖故ニツクスコトアタハズ、漸ニ圖トシテ示スノミ

夜國ト云ハ半年晝ニテ、半年夜ナリ、又イロ〳〵アルヲ云、全ククラキニアラザルナリ

コノ圖北極ヲ中心トシテ、日本ヲ上トシタル圖ナリ

コノ圖ハ赤道ノ下ボルネルヲ中心トシテ、メカラニカ南極ヲ上トシ、北極ヲ下トス

地球如柚

白峯

ノウハホルラント

テ常ノ島トハ意ヲ殊ニスルナリ、又按ズルニ、無人島ニ大材多シ、往テ取ベシト云ハ誤ナリ、小島ヨリ大國ヲ目當ニスルハ、針狂フトイヘドモ、何レナリトモ着ベシ、大國ヨリ小島ヲ目當ニスルコトハ危キモノナリ、イカントナレバ、針クルフトキハ毫釐ノ差ヒ、謬ルニ千里ヲイタス、アニ愼ザルベケンヤ、無人島ヲ目當トシテ伊豆ヨリ船ヲ出スニ、何レニ針ヲ立ベキヤ、マヅハ午ノ方ナルベシ、コヽニ毫厘タガヘバ、島ヨリ百里ノ外ヲ大南洋ヘトラルベシ、ソノ針ノ立方寸分ノ差ヒナク誰有テ立ベキ、ユヱニ必漂流セザルコトヲ得ズ、小利ヲハカリテ大損ヲナス、君子ノセザル處ナリ、今コヽニ海島ヲヨビ萬國ノ接壤ヲシルシテ、兒輩ノ爲ニ示スノミ、ヨク〳〵味フベシ

十五　寛政六年甲寅七月、奥仙臺名取郡上（ユリアゲ）村彦十郎・回船大乘丸船頭淸藏・水主十五人、同國石之巻ニオイテ、南部米積受江戸ニ發ス、八月二十三日難風ニアヒテ、荷ヲハネ楫ヲ折リ、海上ニ漂フコト五ケ月餘、閏十一月二十二日ニ小島ヲ見ル、寄ラントスルニ波浪ツヨク、竟ニ船ヲ破テミナ〳〵岸上ニ飛上ルニ、島小ニシテ人迹ナシ、一葉ノ漁舟ノ來ルヲ見テ、手ヲ上テ招キ、近ヨリテ說話スルニ言通ゼズ、米ノ送リ状ヲ出シテ示シ、日本人ト地上ニ書テ見セケレバ、「ニヤホン」カト云、其時何國ト書ケバ安南國ト書ク、ツヒニ船ニノセテ二里バカリコギテ、西山ト云ニ至ル、是漁人ノ居ナリ、暫アツテ吏二人來ル、奴僕二十人バカリ兵器ヲモタセ、鉦鼓ヲ鳴シ廳所ニツレユキ、色々書ヲ以テ糺問ス、粥ヲスヽラセ食ヲ給ス、十二月朔、淸藏病ニヨリテ源三郎ヲ舟ニノセテ、河水ヲ泝リテ三日安南王都

ニ至ル、王ニ謁シテ書ヲ以テ委細ヲ云、後王出デ軍ヲ閱ス、七八丁四方ノ馬場アリ、王椅子ニ倚テ、王子及諸臣從行ス、石火矢・鳥銃ヲ備ヘ、ダン〱ニ放ツ、竟ニ止テ歸ル、皆無刀ナリ、同五日、吏二人・通辭一人（名ハ「テンクワン」南京ノ人ニテ、長崎ヘ度々渡リタル故ニ、此國ニテ役チ勤ム）醫一人・從者八人西山ニ來リテ、殘ル十五人ヲ船ニ乘テ、王都ニ至リ王ニ謁ス、ソレヨリ一室ニオキ、通辭番人アリテ用ヲ辨ズ、出ント云ヘバ、人ヲツケテ何方ヘモ往シム、病アレバ醫是ヲ療ス、藥大服ニシテ水多ク入、煎ジツメ多ク服セシム、故ニ濃クネバシ、大抵日本ノ五六貼ノ嵩ニシテ、日ニ五六貼ヲ服セシム、十二日、松兵衞ト云者死ス、監者來リ屍ヲ檢察シ、翌日長四尺横二尺バカリノ棺ヲモチ來リ、衣類手道具マデ入テ、永長寺ト云ニ葬ル、地ヲ掘ツテ深ク埋メ、土ヲ高ク封ジテ經ヲ讀コトモナシ、ソレヨリ與五郎・宗八・久之丞ツヾキテ死ス、葬ルコト前ノ如ク、殘ル十二人王都ニテ新年ヲ迎フ歲乙卯ナリ、大日本ノ寬政七年、淸ノ乾隆六十年、安南ノ景興五十六年西洋ノ千七百九十五年ナリ、此年淸藏・藤吉死ス、又同寺ニ葬ル、スベテアシラヒ厚シ、兼テ廣東ヘ送ラントスレドモ便ヲ得ザルナリ、此國廣東ヨリ二百里バカリ（日本ノ里數）南ニアタリテ、北極出地十四五度ヨリ十七八度ニ至ル、古ヘノ交趾ニテ「莫臥兒（モウル）」「東京」西北ニアリ、「古城（チャンパン）」「眞臘（シンロウ）」「東埔寨（カボチヤ）」「南ニツヾキ、「暹羅（シャムロ）」「滿剌加（マルカ）」西南ニアリ、東海中ハ南ヲ「渤泥（ボルネナ）」中ヲ「ハラユム」「ミンダノ」トシ、北ヲ「呂宋（ロソン）」トス、東北ノ海島ヲ「阿瑪港（アマカハ）」ト云、其北「廣東（カントウ）」ナリ、去年コヽニ來リテヨリ、正月ニ至リテ雨フラズ、布一重ヲ着シテ暑氣甚シ、二三月太陽天頂ニ至リテ梅雨ノゴ

トシ、日々大雨フリ大雷ヒヾキ、日ヲ見ザルコト四五十日、少シ涼氣ヲ覺エ、夜ハ袷ヲ着テ、晝ハ單衣ヲ服ス、日天頂ニアリテ暑熱甚シカルベキニ、却テ雨ニヨリテカクノゴトキカ、四五六月ノ間太陽ヲ北ニ見ル、影南ヲサス、暑甚シ、八月ヨリ太陽ヲ南ニ見ル、二月ニ至ルマデ日南ニアリテ又暑シ、稻粱三度熟ストイヘドモ其性アシヽ、常ニ西瓜(スイカ)・舍瓜(マクワ)・胡瓜(キウリ)・茄子(ナスビ)・小角豆(サヽゲ)・芹(セリ)・夕顏・甘藷芋(サツマイモ)・蕃椒(トウガラシ)・韮(ニラ)・葱(ネギ)・筍(タケノコ)アリ、魚類ハ鯉・鮒・鰡・赤鱝(アカエ)・鰤アリ、鷄・鴨・家猪(ブタ)アリテ常ニ食ス、象四匹ヲ見ル、二人ヅヽ乘テ出ル、長三丈アマリ、高一丈五尺、牙二尺五寸、鼻長三尺、尾二尺五寸、又牛馬アリ、孔雀・鳶・烏・雀アリ、竹ノ丸サ三四尺バカリナルヲ見ル、檳榔・椰子・胡椒ノ木多シ、山少ナシ、檳榔ハ（檳榔ハ蒲葵ナリ）蘇鐵ノ如シ、大キナル葉アリテ、二ツニサキテ人家ノ屋根ヲオホフ、或ハ壁又ハ莚ニモ用ユ、スベテ諸用ニ備フナリ、王城ハ石垣ヲツキ上ゲ、塀ニ石火矢ヲ掛並ベ城門ノヤウス嚴重ナリ、然ドモ城地大ナラズ、壯麗モ大抵ノ屋形ノゴトシ、市中ト雖皆丸木柱ニテ疊ナク、土間ニ瓦ヲシキ、床几ヲ置テ腰ヲカクル、スベテ屋根ハ檳榔ナリ、一軒ミナ一間ニテ仕切ナシ、佛寺鳴居ナシ、飯ハ床几ニカヽリテ食フ、酒・茶・醬油・酢アリテ多クハ淸ヨリ來ル、味噌ナシ、砂糖多シ、金銀アリ、錢ハ小ナリ、政和・天曆・至元ノ通寶アリ、ミナ年號ナルベシ、男女トモニ色黑シ、王公冠ナシ、鉢卷ノ如クニククルナリ、王公ハ絹ナリ、庶人ハ木綿ナリ、女ハ髮ヲムスビ、紅白ノ絹ニテ頭ヲマキ、耳ニ輪金ヲカケ、袖長シ、ミナ徒跣ナリ、節分ノ夜關帝ヲ祭リ、雞・家猪ヲ供ス、肩輿ハ長七八尺、幅二三尺ノ網ノ兩端ニ、象牙ノ横木ヲ付テ柄

ニムスビ付、ソノ柄ヲ中高クク丶リテ頭ヲ入ルニ便リス、二人ニテ擔フ、文字ハ華字ナリ、年號ハ別ニ立テ、今ハ景興ト云、自立ノトキ安南ト稱シ、華ニ服スレバ交趾トス、四月「マツカヲ」ト云所ノ船來ル、長ヲ「ガボウ」ト云、阿蘭陀人ナリ、是ニ附シテ「マツカヲ」ニ渡リ、王ヨリ船中粮米トシテ、三斗バカリ入ル袋ニ白米十六袋ヲ賜フ、並ニ錢五十貫文、及書附ヲ以テ廣東ニ達ス、「ガボウ」ハ外ニ用アリテ留ル、四月二十一日安南ヲ發ス、水主ミナ猥藉ニシテ食物ヲアタヘズ、自ラ炊キテ喰ス、五月五日「マツカヲ」ニ至ル、萬國是ヲ西洋ト云、實ハ「アマカハ」ナルベシ、男女色白ク尺長シ、衣ハ羅紗ノ類筒袖ニシ、兩肩ノ前ニ金銀ノ總ヲ下ゲ、胸ヲボタン付ニス、袴ヲ着シ帽子ヲ被ル、士吏ハ劍ヲ帶シ杖ヲ引、家作ミナ華麗ナリ、士庶人ノ家樓閣アリ、瓦ブキナリ、柱壁石ヲ用ユ、庭ハ多ク石疊ナリ、山上ニ城廓アリ、石門石壁火炮ヲ備フ、スベテ華美ナリ、此國西洋諸國互市ノ國ニシテ、阿ラダン人是ヲ掌ル、ユヱニ諸蕃ノ入込ナリ、「モール」人ハ色黑ク、總髮又髡首モアリ、頭ニハ木綿ヲ卷テ白木綿ヲ着シ、袖長シ、裾ヲ引、胸ハボタン付ナリ、單衣ヲ着シ、帶ヲシメ、袈裟ヲカク（コノ國ナ「マツカナ」ト云、紅毛人ニ糺ニシラズト云、是ハ實ハ「アマカワ」ナルベシト推量ス、然ルニ日本ヘハ仇アリ、我ヨリハ切支丹ヲ禁ジテ通ゼズ、故ニ諱ムモノカ）「マネラ」人ハ色白ク、風呂シキヤウナルモノヲ着シ、上ハ木綿ニテ阿蘭陀人ニ似タリ、袴ヲ着シ黑キ笠ヲキル、阿蘭陀人ハアマネク人ノ知ル所ナレバコ丶ニ略ス、紅毛館至ッテ美麗ナリ、コノ國古ヘ日本ニ通商セシニ今禁ゼラレテ不和トナル、又耶蘇宗ヲタツトム、ユヱニイヨ／＼通ゼズ、ユヱニ和人ヲコバミテ陸ニアゲズ、ソノ船ニステオキ

食物ヲアタヘズ、五月ヨリ七月ニ至リテ、食ツキテ餓死セントス、幸ニシテ安南ニテ賜ハル處ノ米ヲ以テ、粥ヲツクリテ食ス、スデニシテ「カボフ」後レテ來ル、コレモ亦自宅ニ上リテカヘリミズ、イロ〱ト其家ニ至リテ歎キケレバ、廣東省ノ屬島香山ヨリ巡見トシテ來リタル吏一人、從者二人ヲ頼ミ附屬ス、コノ人許諾シ、七月十六日ニ舟ヲ出シ、十七日ニ香山ニ着ス、泊ルコト三日、又舟ニノセテ二十日廣東ニ到ル、コノ日清之丞死ス、ソノ所ニ葬ル、殘ル九人ヲ一室ニオキ番ヲ付ル、アシラヒ懇切ナリ、太守ニ謁シ、委細ヲ告グ、治城廣大ニシテ海口廣ク、大船數十艘ツナギ泊ス、「紅毛」「マツカヲ」「モトル」ソノ外萬國ノ船多ク、商賈ミナ美麗ナリ、陌々(マチ〱)切石ヲシキ、市店ノヤウス日本トヒトシク、利ヲ爭ヒ交易ス、婦女ハ農家ニテハ見レドモ、市街ニテハ見ルコトナシ、スベテ貴婦ハ出ザル故ナリ、男子ハ皆芥子坊主ニシテ、髮ハ三ツ組ニシテ後ヘタルハ、黑キ帽子ニ銹リ付タルモノヲ被ル、女子ハ總角髮(アゲマキガミ)ニシテ丸マゲ花ヲ簪トス、士人輿ニノリ從者多シ、アルヒハ馬上モアリ、家ハ瓦ブキ樓造リ粉壁、土間ニ石ヲシキ床ヲ置腰ヲカク、戸ハスベテ開扉ナリ、士人ノ家ハ門ヨリ堂ノアリサマ、日本ノ寺ノ如ジ、市中村家ト雖草ブキナシ、城廓・壕・石垣凡日本ノゴトシ、城門ハ丸ク石門ニテ麗ナリ、廣東ハ北極出地二十三度、夏至ニ日天頂ニアリテ、日中影ナシ、加フルニ南海ヲウケテ山陽ニ居ル、大熱國ナリ、稻粱ヨク熟シ、田畑豐饒ナリ、七八月ト雖著ツヨシ、八月十二日江西ニ送ラントス、太守ヨリ衣服十八銀錢四枚ヲ賜フ、吏二人・從僕六人護送ス、十三日湟水ニ舟ヲ浮メ泝ル、ソノ船美

麗ナリ、一艘ハ吏人・一艘ハ難民ナリ、旗ニ「奉レ旨護ニ送日本難民歸レ國」ト大字ニ書シ、鉦太鼓ヲ打テ船ヲ行ル、十四日三水縣、十六日清遠縣、十九日韶州ノ英德縣ニ至リ、二十三日曲江縣ニ着ス、コレ即韶州府ニシテ廣東ニ隷ス、二十六日始興縣ヲ過ギ、二十八日保昌縣ニ至ル、コレ南雄府ナリ、亦廣東ニ隷ス、コヽニテ船ヲ下リ、輿ニ乘ル、長五尺バカリニ幅三尺餘、中ニ床几アリテ腰ヲカク、其柄二本ナリ、前後ヲトンボウノ如クシテ、肩ヲ入テ是ヲ舁グ、四方障子ニシテ眺望便ナリ、九人ミナ是ニ乘ル、是廣東ヨリ乍浦ニ至ルマデ、マヅ命ヲ傳ヘテ備フル所ナリ、コレマデヲ廣東省ノ屬縣トス、コレヨリ江西省ニ隷ス、九月朔太庾嶺ヲコエテ大庾縣ニ至ル、是南安府ナリ、此山ヲ越テヨリヤヤ涼風ヲオボユ、二日南康縣ヲスギテ、五日再ビ舟ニ乘ジ章江ヲ下ル、萬安縣・泰和縣ヲスギテ、八日盧陵縣ニ至ル、コレ吉安府ナリ、同日吉水縣ヲヘテ、九日峽江縣、十日新淦縣ヨリ清江縣ニ至ル、是ヲ臨江府トス、十一日豐城縣ヲ經テ南昌縣ニ至ル、是江西省ナリ、コヽニ淹留スルコト三日、大抵廣東省ト同ジ、然ルニ舟ヲ下ラズシテ泊スルユヱニ、ソノ市街ヲ見ルコトナシ、城北ニ鄱陽湖アリ、是古ヘノ彭蠡ナリ、然ルニ章水ヨリ遠クシテ、湖水モ亦ミルコトナシ、只川ノヒロキヲ見ルノミ、是ヨリ臨江ヲ遡ル、十四日ヨリ十五日餘干縣ヲスギ、十六日安仁縣・盧溪縣、十七日弋陽縣ニ至リ、船ヨリ下リテ河口縣・鉛山縣ヲヘテ、二十日上饒縣ノ廣信府ニ抵ル、二十二日玉山縣ニ至ル、是マデヲ江西ノ屬トス、是ヨリ浙江省ニ隷ス、又舟ニテ二十四日西安縣ニ至ル、是衢州府ナリ、二十五日龍游縣、二

十六日蘭陵縣、二十七日建德縣ニ着ス、コレヲ嚴州府トス、二十八日桐廬縣、二十九日富陽縣ヲ過ギ、西湖ヲ眺望シテ、晦錢唐縣ニ至ル、コレ卽浙江省ナリ、古ヘ楊州ノ地春秋ノ越都ニシテ、宋ノ高宗南京ヨリ金兵ヲ避テコヽニ都シ、臨安ト號ス、富饒ノ地ナリ、十月朔石門縣ニ至ル、雨フリテコヽニ宿シ、四日嘉江縣ニ至ル、是ヲ嘉興府トス、五日平湖縣ヲヘテ乍浦ニ着ス、コレ南京浙江ノ海口、萬國輻湊ノ地ニシテ、長崎ヘ來往ノ舟モコヽニ艤スルナリ、故ニ諸國ノ商船コヽニ集リ互市ス、富饒繁花ノ地ニシテ、天下ノ寶貨コヽニ集ル、奉行難民ヲ見テ安撫シ、戯場ヲ催シ、慰スルコト八日、衣服珍器ヲアタヘ、饗接至ラザル所ナシ、龍臣ト云通辭付ソヒ用ヲ辨ズ、其外慰勞ネンゴロナリ、陸明齋ト云モノアリ、數年船主トナリ長崎ニワタリ交易シ、其名高ク、大ニ富テ今ハ退隱ス、コノ漂民ヲ見テ大ニアハレミテ曰、スデニコヽニ來ル上ハ日本ト同事ナリ、歎クベカラズ、我貴國ノ風ヲ以テ饗スベシト、奥ノ室ヘ請ズレバ、家作一々日本材ヲ以テ日本流ニ營ム、天井・敷居・鴨居・書院・障子・襖・手水鉢・樹木ニ至ルマデミナ和産ヲ用ヒ、漢物ヲマジヘズ、莚席ハ疊ヲ用ヒ、烟盤・烟管・茶碗・酒器・飯菜ノ器物・膳部スベテ和物ニシテ、魚肉菜羹是又和産ニシテ、漢産ヲ用ヒズ、一盛事ト云ベシ、コヽニオイテ九人始テ心ヲ安ンジ、歸國シタル思ヒヲナシテ歡ヲツクス、コヽニ淹留三十日ナリ、廣東ヨリ江西ニ至ル、日本里數ニシテ二百五十六里、江西ヨリ浙江ニ至ル同百十七里、浙江ヨリ乍浦ニ至ル五十里、通計四百二十里、八月十三日廣東ヲ發シ、十月六日乍浦ニ着ス、五十三日ニ三省・十五府・三十六縣ヲ經テコ

コニ至ルナリ、十一月七日日本渡海ノ商船二艘ニ便船シナ、一艘ハ同二十二日長崎ニ入ル、一艘ハ難風ニアヒテ薩摩片浦ヘ漂着シ、十二月十四日長崎ニ引入ル、ソノ漂難ノ人數ノ內、船頭清藏・水主宗八・與五郎・久之丞・松兵衛・藤吉六人ハ安南ニテ死シ、清之丞ハ廣東ニテ死シ、源三郎ハ長崎ヘ歸リテ死ス、安南已來ノ地圖、其外見聞ノ次第書ツラネテ日記ニアム、長崎ニテ清書シ、衙公ヘ上ゲル、草稿トモニ召上ラレ、ソノ上記憶シタル源三郎死タル故、傳フルコトナシ、寔ニヲシムベシ、然ルニ幸ニシテ長崎ニオイテ上ルトコロノ寫ヲ得タリ、又大阪ニオイテ漂民ニアヒテ書シオクモノナリ、歸國ノ者ハ清造(船頭ト別人也)忠吉・幸太郎・門次郎・平五郎・兵吉・巳之松・周藏八人ナリ、寬政七年乙卯ノ冬九人長崎ニ着シ、官衙ニ召レテ委細ヲ達ス、衙公中川君悉ク糺シテ江戶ニ聞ス、ソレヨリ仙臺ヘ命ゼラレ國ヘ迎シム、其間ニ源三郎長崎ニテ病死ス、殘ル八人ニ食ヲツギ費用ヲ給セラレ、月ニ三日ノ暇ヲ賜ヒ、數年ノ勞ヲ慰ス、然ルニ寬政八年丙辰四月朔、廣東省新寧縣大澳港ノ漁船陳受合ノ船頭陳世德水主十三人トモニ出船シ、同六月七日仙臺領本吉郡十三濱大室ニ漂着ス、村主太郎右衛門ト云者ノ家ニ偶居サセテ仙臺ニ達ス、姓名、船頭陳世德・林光裕・林元江・陳讓光・林招聲・陳阿猪・陳之合・陳阿嬚・林阿松・朱阿高・林隆輝・陳阿厦・陳阿意・陳賢生以上十四人ナリ、(此ノ名ノ音ハスベテ廣東ノ韻ナリ)船ニ「廣州府新寧縣大澳港漁船戶陳受合大字十七號」ト刻ス、錠ニ「怡來損謙陳世德書」トアリ、儒臣志村士轍船ニ至リテ說話ス、其略ニ云、(志問)爾等何國人、(陳答)弟等是廣東省潮州府澄海縣北門之人、船戶是陳受合、船是澄海港之

船、過レ港以ニ廣州府新寧縣之牌一矣、志問廣東至ニ五月中一、則日中不レ見レ影如何、陳答午時人影、照在ニ本身上一、志曰貴國年書中所レ書、今年清明夏至冬至、是何日麼、有レ所レ記則書レ之、陳曰今年清明三月十二日冬至十一月二十三日、志問米一斗價幾錢、陳答今米一斗、價以ニ三百二三文一、志曰廣東敎レ兒、先習ニ何字一、先讀ニ何書一、陳答先習「是上大人孔乙巳化三千七十士示小生八九子住作可知也上士居山水中仁坐竹木平至自在志王子本留心」、先讀是大學之冊、是四書之内第一本、是爲ニ大學一、第二本是中庸、第三本是論語、第四本是先進、第五本是上孟、第六本是下孟、志曰傳聞、大淸商客到ニ長崎港一、與ニ本地人一說、韃靼人不レ奉ニ中國之命一、大淸帝命ニ官府一、欲ニ以レ兵擊レ之、然而中國東南之地、亦有下不レ奉ニ中國命一者上、惹ニ出事一來大鬧了、故海上多ニ盜賊一、商船之來往、大不レ便了、兒等在ニ本國一之日、聞レ有ニ此事一麼、陳答弟等在レ鄉之日、少聞レ有ニ此事一、未レ知ニ其詳一」此外ダン／＼問答アレドモ是ヲ略ス、侯ヨリ物ヲ給フ、其謝書曰、「國王之大恩、官府之大力、先生之大愛、鄉老先生引レ船入レ港之恩、我衆人之大恩、無ニ物報レ恩、我衆拜ニ謝國王一如レ天、拜ニ謝官府鄉老先生一如ニ泰山一、拜ニ謝鄉老先生一如ニ父母一」云々、其外日用ノ食物給セザルコトナクシテ、仙臺ヨリ江戶ニ聞達アレバ、船ニノセテ長崎ニ送ラレ、幷ニ安南漂流ノ民ヲ召連歸ルベシト下知セラル、コヽニオイテ艤シテ是ヲ護送ス、卽チ護送監志村勘右衛門・勘定官野澤駒之丞・同古山順次・通辭志村篤次・醫官竹中道穩・外科勝田壽閑・小人五人・足輕五人・及太郞右衛門其外僕從等、十月二十九日大室ヲ發シテ石之卷ノ港ニ入ル、是ヨリ浦賀マデノ間凡百八十里、港

アシク至難ノ海ナリ、十二月初出帆シテ、十五日相州浦賀ニ入、二十日出帆シテ遠州洋七十五里ヲ經、順風ノ處、三崎ノ邊ヨリ俄ニ雲飛風起リテ、雨甚シク船中驚躁ス、龜島沖ニシテ後ヨリ大船一艘突キ來リ、舳サキヲ以テ我艫ヲ破リ、スリ切リテ通ル、闇夜大雷ノ落ルガ如ク、岩石ノ崩ルガ如ク、船中ノ人々何タルコトヲ辨ヘズ、タヾ命コヽニ終ラントス、二十八日亥ノ刻ニ、恙ナク志州鳥羽ニ入、コレヨリ先キ公命アリテ、仙臺ヨリ長崎ニ至ルマデ、津々浦々ニ引舟ヲソナヘテ待トイヘドモ、コノ時逆風雨暗ク咫尺ヲワキマヘズ、鳥羽侯ノ引舟モイデズ、港ヘ入トイヘドモ、何國ノ舟タルコトヲシラズ、ヤウヤク灯ヲミテ驚キコレヲ迎フ、數百ノ舟コヽニアリテ亦是ヲシラズ、港ニ入ノ後他船ヲ拂ヒテ、吏人出デ慰問ス、其破損ヲ修シ、此所ニテ新年ヲ迎フ、今年丁巳ニシテ寛政九年ナリ、船中ノツレ〴〵ニ和漢人ヨリ〳〵テ詩聯ヲ催シ、又處々ニテ作アリト雖コヽニ略ス、志村士轍問テ曰、貴國ノ音イクバクカアル、陳世德答テ曰、中國大抵正音、廣東有二廣音一、有二正音一、有二白音一、有二客音一、有二鳥語音一、有二尖音一、有二蛇子音一、各州各府有二郷語一、官府皆是正音、廣東通辭之人、各州各府各蕃語共曉得、客音・鳥語・蛇子・是深山之人、」正月十一日ニ鳥羽ヲ發シテ紀州熊野所々ニ泊ス、二月十二日攝州兵庫ニ到ル、野澤氏ハ數年京師浪華ニ在番セシ人ナリ、故ニ船ヲ下リテ十里浪華ニ來リ、打ヨリテ船中ノ儔ヲ散ジ酒ヲクム、我主人山片氏ヨリ水筆ヲ送ル、陳世德扇面ニ詩ヲ書シテ是ヲ謝ス、曰、「浪花山片仕、見レ惠二水筆五對於陳世德一、賦レ詩謝レ之、「憐君彩毫賜、偏慰遠人情、羞將二揮灑拙一、添得墨華生、」此外扇面詩多ク送

ル、漢人ハ漁者トイヘドモ斯ノ如ク文アリ、我國人耻ベキコトナリ、ソレヨリ山陽ヲ經テ風波ヲシノギ、播磨洋・水島洋・周防洋・玄界洋・松浦潟ヲヘテ、四月十日長崎ヘ入、衙公平賀君コレヲ慰シ、十一日廣東人ヲ引渡ス、衙公命ジテ曰、速ニ安南ノ漂民ヲ渡スベシ、サレドモ又來ルコトアルベカラズ、シバラク遊歷アルベシト蠻淸ノ邸ヲ一見ス、淸館ニ護送ノ人々ヲ招キ饗應ス、珍味ヲツクス、席上珍菓ヲ列スルコト四十餘種、石ダヽミニオキテソノ間ヲ通ヒトリ食フ、ツヒニ館中ヲ巡視ス、又紅毛館ニ到、是又酒饌ヲソナフト雖、悉口ニ入レ難シ、又昆崙奴（クロンボ）ヲヨビテ舞シメ樂ヲ奏ス、其音律和諧セズ、皆蠻夷ノ樂ナリ、（コノ春余仙臺ニ下ル、ユヱニ下船ノトキアラズ、コノ前ニ歸阪ス）二十四日國人ヲ請テ、二十五日陸路ヲ發シ、筑豐ヲ經テ赤間關ヨリ中國路ヲ登、五月二十日浪花ニ着ス、二十一日余八軒家ノ旅舍ニ至リ、志村・野澤・古山ノ三氏ニ謁シ、漂人ニ逢ヒ話シテ、ツヒニ平五郎・兵藏ヲ伴ヒ歸リ、異國ノ事ヲ具ニ問フ、又翌日旅舍ニ到リ將來ル所ノ書畫ヲ募リ、借テ其寫ヲバ左ニ列ス、數多ニシテ悉ク難レ寫（此寫帖未業チ遂ズ）故ニ略ス、漢土街路ノコトハ源三郎ノシルスコト多シ、平五郎モ少々ヅヽハ覺エテ、口ヅカラ是ヲ傳フ、書シテコヽニ殘ス、廣東人仙臺ニ漂着シ、仙臺人廣東ニ漂着シテ同シク慰勞シ、トモニ護送シ國ニ歸ルコトヲ得ルハ、天下太平ノ効驗、四海一轍ノ政事、イハズシテ心ヲ同ジクス、盛事ニアラズヤ、シカルニ漢人ハ日本ニ來リテ、漁者ト雖儒士ト對シテ詩賦ヲナス、日本人ハ他邦ニアリテ、唯默々ト悲泣スルノミ、耻ベキニアラズヤ、斯ノ如ク一同ニ往來アリテ、トリカヘルモノモ亦偶然ナリ

十六　西洋人天下ヲ巡リテ、見出ス所ノ大洲三ツ、曰亞細亞洲、曰歐羅巴洲、曰亞弗利加洲、後又二ツ、曰亞墨利加洲、曰墨瓦羅爾加洲、是ヲ五大洲ト云ナリ、ミナ西洋人ノ見出ス所ニシテ、五大洲トスルモ、又國々ノ名ヲ付ルモ、ミナソノ命ズル所ナリ、故ニ天竺トイヘドモ、漢土トイヘドモ、我大日本トイヘドモ、皆是西洋人ニ名ヅケラレテ、印度トシ、支那トシ、「シヤツパン」トス、耻ベキニアラズヤ、後「アメリカ洲ヲ分テ南北トス、然ルニ「アメリカ」ハ離島ニシテ、限界明ラカナリ、「メカラニカ」ハ北邊バカリニシテ、南方ハ今ニ分ラズ、初三洲ミナ地續ニシテ、一トストモ、二トストモ、三トストモ心ノマヽナリ、是ヲ三洲トシテソノ限界ヲ分チ、西紅海地中海ヲ以テ「アフリカ」「アジヤ」ノ界トシ、北高海墨海ヲビ河ヲ以テ「エーロッパ」「アジヤ」ノ界トシ、コノ國ハ「アジヤ」ニ屬シ、コノ國ハ「エウロッパ」ニ屬スト、ソレ〴〵ニ命ズルコト、ホトンド天帝ノ命ノ如シ、然バ「エウロッパ」一人ハ宇宙ノ柄ヲニギルコト斯ノ如シ、ミナコノ命令地名ヲ「エフロッパ」一人ニ正サルヽコト、如何トモスベカラズ、タトヘバ日本ノ如シ、此名ハ我國ノ本名ナリ、シカルニ漢土ヨリ倭ト云名ヲ付ル、我國人心アルモノハコレヲハヅルトイヘドモ、漢文字ヲ用ユル國人ニ向テハ、倭ト云ハザレバ通ゼザルナリ、又西洋及萬國人ニ對シテ、日本ト云テハ通ゼズ、然レバ「ヤーパン」ト云ザルコトヲエズ、今西洋人ノ名ツケシ國々ニモ、ミナソノ國々ノ本名アレドモ、萬國ニ對シテ夫ハカクレテ、ミナ西洋人ノ付タル名ナラデハ通ゼズ、口惜キコトニアラズヤ

然ト雖天下萬國ヲ巡リ、通商シテ天文・地理ヲ明メ、地球ヲ圖シ限界ヲ定テ、他ノ國ヲ以テ我ヨリ名ヲ命ズト雖、夫々ノ國主ニ謀テ名ヲ命ズルニ非ズ、唯其國ノ目印符牒ニ付來テ號スル者也、譬バ赤道・黃道ノ如シ、本ヨリ共名非レ共、赤・黃ヲ以テ印トセシヨリ、竟ニ用テ名トスル也、西洋人ノ自國ニテ圖シテ、夫々假ニ名付置シモ、漸々ニ用來テ、竟ニ共名ヲ用ザルヿ能ハザル樣ニナリタリ、然レバ諸國此名ヅケラレタル名ヲ用テ、用辨セザルヿ能ハズ、故ニ今是ヲ用ヒ、又漢字ヲ入テ、アラマシ是ヲ記ス

亞細亞洲

大日本　漢名倭、蠻名ヤッパン

支那　蠻名ナリ、自ラ華夏ト云、中國トス、歷代國號ヲ改ム、日本ヨリ漢土ト稱シ、又唐明ト云

韃而靼 漢ノ北ニアリ

女直 朝鮮ノ北ニアリ

莫臥兒 漢ノ西ニアリ、五天竺ノ内、四天竺皆「モウル」トナル

回々 天竺ノ西北ニアリ、「モウル」ニアハセラル

安臘皮亞 ハルシヤノ西ニアリ

那多利亞 如德亞ノ西ニアリ、地中海ニツキ出ス

齊狼 南天竺ノ南海中ニアリ、靈鷲山此島ニアリ

暹羅 雲南ノ西ニアリ、舍衞國大佛アリ、山田仁左衞門大臣トナル

占城 安南ノ南ニアリ

眞臘 占城ノ南ニアリ

太泥 「マロカ」ノ南ニアリ、漢土・天竺・莫臥兒ヨリコレマデノ國々、南海ヘサシ出テツヅク

瓜哇 又「ジヤガタラ」紅毛人是ヲトル「ソモタラ」ノ南海中ニアリ

食力百私 「ボルネヲ」ノ東ニアリ

泯太腦 「マロコ」ノ北ニアリ

呂宋 福建ノ南海中ニアリ、「イスパニヤ」ニ屬ス

朝鮮 日本ノ西北ニアリ

滿洲 女眞ノ北ニアリ、大淸ノ出處ナリ

天竺 蠻名「インデヤ」、又「インド」印度・應帝亞ト書ス、今南天竺ノミナリ、五天竺アリ、

百爾西亞 天竺ノ西ニアリ

如德亞 ハルシヤノ西北ニアリ

度兒格 ソノ本國歐羅巴ニアリ、亞細亞ノ西邊、亞弗利加ノ北邊ミナ屬ス

榜葛剌 天竺ノ東ニアリ

安南 交趾ナリ、廣東ノ南ニアリ

東埔塞 占城ノ南ニアリ

滿剌加 眞臘ノ南ニアリ

蘇門答剌 太泥ノ南海中ニアリ、以下海島ナリ

渤泥 「ジヤガタラ」ノ北ニアリ

馬路古 「セレベス」ノ東ニアリ、諸島ノ總名ナリ、以上三島赤道ノ線下ナリ

阿瑪港 安南ノ東北ニアリ、「マツカテ」ト云

大宛 タカサゴ島ナリ、又ホルモウザ

琉球日本サツマノ南海中ニアリ　野作日本ノ北ニアリ

右大抵亞細亞洲ノ國々ナリ、韃靼ノ西北廣大ニシテ、其種類ヲ委クセズ、

天地二球用法記ニ記スルモノ

大日本・蝦夷・琉球・呂宋・亞甘・ヒリペイン諸島・幽安・亞警邏・巴那意・泯獨兒・巴刺護亞・泯太腦・盜島・浡泥・食力百私・及祿々・新爲匿亞・曷耳祿乎・新スコロニンヤ・新ブリタラニヤ・新ニベリニヤ・ヲウイヘイ・カレドニヤ・新ゼイランニヤ・モリクストウ・設蘭・花島・亞蘭・キユムバハ・瓜哇・咬𠺕吧・蘇門太刺・滿剌加・支那・高麗・臺灣・萬里長城・占城・交趾・東京・萬里石塔・東埔寨・暹羅・琵牛・西蠟敦・阿瑪港・榜葛刺・莫臥兒・應帝亞・齊狠・マルテビス・モスコビヤ・韃靼・支那・小韃靼・アシヤ都兒ナトリヤチ云フ・格里亞・泊爾西亞・亞臘比亞・由數別部・列古午無・的譯・アシヤリユスシア

海名　西紅海・東紅海・東大洋・應帝亞海・榜葛刺海・西臘及亞海・伯爾齊亞海・大南海・新ホルラント海・北高海　「ソモタラ」「ボルネチ」ノ國々赤道直下ニアリ

歐羅巴洲

意太里亞「ヱウロツパ」ノ總帝ナリ、地中海へ出ル、仝「ドイツランド」ニウツル　莫斯哥未亞帝號、西洋ノ東極ニアリ、「アジヤ」ノ北邊ミナ屬ス、「チロシヤ」ト云、又「ユスランド」ト云

度兒格帝號、「ヱウラッパ」「アジヤ」「アフリカ」多ク屬ス

右ヲ西洋ノ三帝トス

以西把尼亞「ホルトガル」ノ東ニアリ
玻爾都瓦爾西洋ノ西極ニアリ
度逸都蘭土「ホルランド」ノ南ナリ、十州ヲ云、「イタリヤ」ノ都「チチステインレイキ」ニアリ
思罕入那喜亞又「ゼルマニヤ」、又「デーネマルカ」ト云、「ドイツランド」ノ北ニアリ
波羅尼亞「ドイツランド」ノ東ニアリ
額勸濟亞「チンガリヤ」ノ南ニアリ「トルコ」ノ都ヲ「コンスタンチノツポレン」ト云
雪際亞「ディネマルカ」ノ北ニアリ

漢人蘭土「チランダ」ノ北海中ニアリ、「イギリス」ト云、「スコツトランド」「イヽルランド」ニ屬ス
佛良察「イスパニヤ」ノ東北ニアリ
涅迭爾蘭土「ホルランド」、阿蘭陀ナリ、「ドイツランド」ノ内北七州ヲ分ツ
蘇厄祭亞「イタリヤ」「フランス」ノ間ニアリ
翁加里亞「ドイツランド」ノ東南ニアリ
魯西亞「モスコビヤ」ノ國ノ總名ナリ「モスコビヤ」ハ都ノ名ナリ
諾而勿亞「スウエイデン」ノ北ニアリ大寒國ナリ

右共大抵トス、此外小島「グルウランド」「エイスランド」ノ如キハ北海夜國ノ界ニシテ大寒國ナリ、地中海「コルシカ」「サルジニイ」「シヽリヤ」「ローデス」「マルタ」「ミノルカ」「マヨルカ」「エイヒカ」「ホルメンテラ」「モンテコリブレ」等ノ如キハ、小島ニシテ擧ルニ暇アラズ

臥兒狠德・尖山島・氷島・新增力・莫斯哥未亞。ヌリユス・蘇亦齊・諸耳勿又亞・波羅泥亞・勢爾駐尼亞・イトツランドホルラント意多里亞・佛朗機亞・伊斯波爾亞・波爾杜亞・可齊亞・諳尼利亞・喜百利尼亞・都兒格一名エフラツパ也紅哈力里・莫禮亞・祭玻里甘弟亞・西齊利亞・各爾西加・沙示地泥亞・密納兒加・馬絢利加・意喜加

海名、氷海・白海・黑海・東海・多島海・地中海・大北海

亞弗利加洲又利未亞州

阨入多「アラビヤ」ノ西ニアリ、地中海ノ南ナリ

弗沙「ハルバリヤ」ノ内

亞毘心城東ニアリ、「エジツト」ノ南ナリ

西爾得

井巴

聖多默島

聖老楞佐島一名「マタカスカル」ニ「ガツバリヤノ」東海中ニアリ

皮爾獨兒傑立篤「バルバリヤ」西方ナリ亞太臘山コヽニアリ

尼及立西亞「サアラ」ノ南ニアリ西海ニムカフ

皮亞婆羅「ダイネヤ」ノ東南ニアリ

亞約亞東海邊ニアリ

木訥摸機「エシヨビヤ」ノ南ニアリ

葛髮利亞「利米亞」ノ南ノ出崎ニシテ、西東三方チツヽム

馬遲可「バルバリヤ」ノ内

奴米弟亞

馬拿莫大巴者「モノモキヰ」ノ南ニアリ

工鄂

福島亞大臘山ノ西海中ニ七島アリ、其一ナリ、諸蠻コヽニ集リテ互市ス、故ニ名ヅク

意勤納島

襪爾襪里亞地中海ノ南畔西ノ方ナリ、「トルコ」ニ屬ス

沙刺「バルバリヤ」ノ南ニアリ

爲匿亞「ニギリツシヤ」ノ南ニアリ西南海ニムカフ

謁西郁肹亞「利米亞」ノ中央ニアリ

刪孤謁襪爾「アヤアナ」ノ南ニアリ

易叺布刺大洲ノ南ノ岬ナリ

亞弗利加洲ハ通ズル人少シ、ユヱニクハシクセズ、「カツバリヤ」ノ岬ヲ「ホツテントツテン」ト云、大難海ヲ渡リテミナ此港ニ入ル、ユヱニ華人譯シテ喜望峯ト云、「ヱウロツパ」ヨリ福島ニテ交易シ、

船ヲ出スニ、暖帯ヲスギテ南ノ正帯ニ入ルハ、此岬アルユヱナリ、是ヨリ瓜哇ニ至ルマデ、大洋ニシテ國ナシ 海名、大西洋 エシビヤ海

南亞墨利加洲

孛露(ペロウ) 洲ノ西邊ニアリ

知加(チカ) 洲ノ極南ナリ、即長人國邊大温也、今「メガラニカ」ノ地

坡巴牙那(ホホカナ) 洲ノ西北ノ極ナリ

鄂度臘(ホンテイラス)「北アメリカ」界ニアリ

哇的痲刺(ウツテマラ) 北ノ洲ニアリ、上三國並ニ同ジ

伯西示(ハラシル) 洲ノ東邊ナリ、又(マタ)「フデンシリヤ」ト云

金加西臘(カスティラテルラゴ) 洲ノ北ニアリ「北アメリカ」ニツヾク

巴大温(ハタコラス) 知加ト同ジ、又火地

路草堂(ルカダン) 上ニ同

伯西兒(ブラシリヤ) 洲ノ東汀

其餘ハシルベカラズ、南北「アメリカ」トモニ踈ナリ 「テルラヒルマ」「コイアナ」「ハラシル」「アマリネン」「ペトロウ」「バラクイ」「トクマン」「チイソー」「答跋嶋(タバコ)州ノ北ニアリ、小島ナリ、初此地ヨリ烟草ヲ出ス

北亞墨利加洲 ラホラボル・テルラノウハー・カナダ、テリステナ・ホクショ・ナンショ・キユムペランド・アラスコ・新アンゲリヤ・新スコシヤ・ビルシニヤ・フロリダ・新ガラナダ・新メクシコ ボニヤ・メクシコ・アンテルレ・ホルトリコ・イスハニヨラ・ルカイス・キユバ・ヤマイカ・サロモンス・海名東紅海・メストー・北大海・大東洋

墨是加(メキシカ)「イスパニヤ」ノ都

新拂良察(ノウヘフランス) 一名加拿太、洲ノ北ノ大國ナリ

農地(ノウチ) 新「フランス」ノ北ニアリ

新亞比俺(ノウアビエン)

花地(クワチ)「テルラフロリダ」ノ南ニ向フ

拔革老(ボツカクロン) 洲ノ東ノ岬ナリ

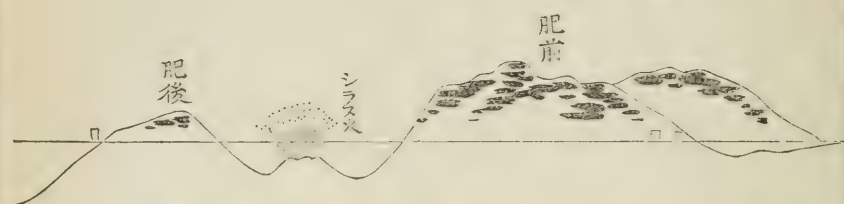
旣米臘(キメイラフ)「メキシコ」ノ内

加里伏爾泥亞(カリフルニヤ)

新伊斯把爾亞 洲ノ南界ナリ
諾龍伯耳瓦 新「フランス」ノ東南ニアリ
亞八加爾 「モコサ」ノ西ニアリ
大入耳 南海ヨリ北山ニ至ル
小伊西把爾亞 古巴ノ東ニアリ
亞墨瓦蠟泥加州 此洲ノコトハクハシカラズ、故ニ略ス

新瓦剌察 新「イスハニヤ」ノ西北ニアリ
莫可沙 「ノランヘカ」ノ西ニアリ
亞伯耳耕 大入耳ノ東ニアリ
古巴島 花地ノ南海中ニアリ
角利勿爾尼亞 西南ノ海中ニアリ

往古ヨリ地球ノコト未知リヤスカラズ、蓋シ往昔「イスパニア」ノ人、西ニ船ヲ出シテ國ヲ見ル、コノ人ヲ「アメリカ」ト云、ユヱニ其名ヲ以テ「アメリカ」ト號ス、又阿蘭陀人南遊シテ國ヲ得ル、ソノ人ノ名ヲ用ヒテ「メガラニカ」ト名ク、是其因テ來ル所ナリ「メガラニカ」ヲ見出シテ名ヅケシ地ハ、即南「アメリカ」ノ南極ニシテ知加ヲ云、今コノ地ヲ「サラニカ」ト云ナリ、南ノ方ヲツクサズシテ、大地ナリトオモヒテ、ツヒニ一洲トス、然ルニ大洲トスベキ地ニアラズ、ユヱニ近世南「アメリカ」ニ附ス其外西洋人ダン／＼ト萬國ヲ巡リテ、發明スルコトシルベカラズ、萬國圖ハ地球アリ、近キ頃東都ノ司馬江漢ト云人銅板ノ圖ヲ出ス、又浪華曾谷氏ナル人圖ヲ造ル、故ニコレニ讓リテココニ略ス、各國ノ開ケ始メシヨリ、ミナ我國ノコトヲ海島深山ノコトハシラズシテアリシニ、後世ニ生レタルモノハダン／＼ニ發明シテ、其智遠キニ及ビテ、天地ノコト明ニ、殘ル隈モナクシルシタルヲ、居ナガラニ論説スルコト、幸ニアラズヤ

十七 火山ノ事我國ニ多シテ漢土ニ少シ、高山、富士・淺間・阿蘇・霧島・雲仙・由布、奥ニテハ藏王・不動・

鳥海・月山・越ノ立山等ナリ、富士ハスデニ寳永ノ變ヨリ烟モタタズナリヌ、又其餘ハ今ニタエズ炎上時々ニアリ、海島ニテハ櫻島アリ、伊豆ノ七島・八丈・青ヶ島ニ至ルマデミナ火アリ、前ニシルス鳥島ノ如キモ燒タル迹アリト云、然ルニ大抵按ズルニ、高山ニ多シ、平地ニハアルコトナシ、地續ニ少ク、孤島ニ多シ、亞細亞・歐羅巴・亞弗利加ト連續シタルヒロキ國ニ少クシテ、日本ニ多ク、又其中ニモ海島ニ多シ、是ヲ以テ見ルトキハ、海中ノ孤山ハ周圍水ニツツマレテ、陽氣內ニ伏シ、上ノ方ヘ發スルモノカ、伊豆七島ノ如キハ、火ノ無キ島ノ無キヲ以テ見ルベシ、肥後ノ不知火ハ、海中ヘ沈タル山ノ火氣ノ海面ヘアラハルルナラン、又中國ノ間、遠・濃・加ヨリ西長門ニ至ルマデ火山ナシ、高山トイヘドモ大山・白山・大峯・比叡・愛宕・木曾・日光・那須ノ如キハ火氣ナシ、然レドモ火氣アルハミナ高山ナリ、ココニオイテ發明スベシ

十八　漢土雲南省ニ鷄足山アリ、釋氏衣鉢ヲ迦葉ニサヅク、此山ニアリテ禪ヲ修ス、二十八代シテ達磨ニ至リ、ツヒニ梁ニ來リテ武帝ニ謁ス、此時マデハ天竺ノ內ナリシニ、イツノ頃ヨリカ、漢土ダン〳〵ニヒラケ

テ、今ノ十五省ノ内トナル、漢土ノ廣クナリタルヲ見ルベシ

十九 地理ノ事ニオイテハ、古ヘサマ〱ノ說アリテ、ミナ妄說ナルコト、今ヲ以テ引合セシルベシ、鄒衍ガ赤縣神州ヨリ、ソノ外經史ニ載ル所、後世ニ合フコト稀ナリ、漢ノ張騫西域ニ通ジテ見ル處ノ國々ハ、實ニ踐處ナリト雖亦杜撰多シ、況ヤ山海經ノ如キハ一モ取所ナキヲヤ、其大荒海外ノ經ハ妄作スルコトモアルベシ、四方山經ノ如キハ、漢土九州ノ内ニアラズヤ、況ヤ亦中山ヲヤ、皆其人物鳥獸ノ異形是ヲ何トカ云ン、郭璞ハ晋人ナリ、コノ時ノ人コノ書ヲ見テ、ヨク作リ並タリト笑フテ過ベシ、然バ今ノ源氏・伊勢ノ類ナリ、今淨瑠璃ト云本ヲ見テ、畠山ノ重忠實ニ阿古屋ヲ琴責ニシ、鹽谷判官ノ臣大星由良之助、實ニ高ノ師直ヲ討テ仇ヲ復セシト云ガ如シ、シカルニ後儒山海經ヲ引テ、扶桑國・君子國・倭國ノ我風俗ニ異リナドト、不審ヲ起スガ如キハ、イカナル見ナルヤ、實ニ兒女ラノ淨瑠璃ヲ信ズルガ如クナランカ、夫西洋諸國、梵天和漢ノ文盲ト違ヒ、又杜撰・妄說・詐僞ヲ禁ジ、實地ヲ踏ザレバ書スルコトナシ、ユヱニ此學ヲ以テ正トスベシ、西洋ノ物理ニ通ジタルコトハ、ダン〱ト云ツクセリ、歐羅巴洲古ヘ王タル者ヲ亞祭里亞(アシリヤ)ト云、次ヲ伯兒齊亞(ヘルシヤ)ト云、次ヲ尼勒祭亞(ケロシヤ)ト云、其後如德亞(ジュデヤ)ノ人伯大祿(ヘートル)ト云人伊多利亞ニ都ス、又是ヲ元年トシテ、今年我文化二年ヲ歐羅巴ノ千八百五年トス、中ゴロ伊多利亞ノ羅瑪(ロウマ)ノ都ヲ、「ドイツランド」ノ「ヲヲステンレイキ」「ウエネン」ニ移シ、今ニ至リテ盛ナリ、ソノ千四百五十三年ニ度兒格(トルコ)王翁加里亞(ランガリヤ)ノ「コンスタンチノツポレン」ヲトリコヽニ都ス、

歐羅巴ノ東邊、亞細亞ノ西邊及ビ利未亞ノ北邊ヲ從ヘ威ヲ震フ、又ソレヨリ先千三百二十五年ノ時、魯西亞ノ「モスコビヤ」ニ「ビーテル」氏出デ、帝位ニ即キテ、歐羅巴ノ東北ヨリ亞細亞ノ北邊、韃靼ノ半ハミナ是ニ屬シ、ツヒニ東方「カムシカツトカ」ノ地ニ至ル、コレハ蝦夷ノ千島ノ西ニアリテ、「エゾ」ヨリ「カムサスカ」ト云、古ヨリ「ダツタン」ノ北方、北海極下夜國ノ方ヘサシ出タル國アルニヨリテ、北海ヲ東ヘ巡ルコトアタハズ、ユヱニ西洋地圖ヲ見ルニ、蝦夷ノ地方ニオイテハ略シテ疎ナリ、又日本船ノ彼地ヘ漂着セシモキクコトナシ、長崎ヘ出入スル處ノ蠻船ノ互市モ、諸蠻ヲ停止アリテ、漢土・阿蘭陀ニ限ルノ後ハ、唯「ホルランド」ノミノ語ヲキヽテ其外ヲ聞ズ、「モスコビヤ」ノ事ハ四百八十年以前ノ開國ニテ、後醍醐帝嘉暦元年ニアリトイヘドモ、コノ國アルコトヲシラザリシニ、百年バカリコノカタ、上品ノ獸皮ワタリテ、コレヲ「モスコビヤ」ト云、大テイノ人ハ獸ノ名ト思ヒシナリ、シカルニ八九十年以前ダン〳〵ト東略シテ、ツヒニ「カムサスカ」ノ地マデ取リテ、蝦夷千島ノ内「ラツコ」島「エドロフ」「クナジリ」等ノ島々ニ來リ互市シテ、蝦夷地ノコトヲ精密ニシテ、彼地圖ニノスルヤウニナリタリ、ソレヨリシテ我國ノ漂船「カムサスカ」ノ邊リ、ソノ奥ヘ着シタルハ、スベテ「モスコビヤ」ニ達スルユヱニ、陸路ヲ以テ王都ニ召テ、風俗地理ヲキクコト精ナリ、彼致知格物ニオケル、到ラザル所ナシ、トリ分天文地理ヲ第一トシテ遠略ヲツトム、諸國ニ通商シテ、ソノ内ニ手ニ合國アレバ、奪ヒ取ラントス、コレマデ取テ己ガ有トシ、且遠島ニハ守禦ヲ置イテ是ヲサメ、通商ノ便トス、

其國々ニハ西ハ歐羅巴中ナレバオイテ論ゼズ、南モ亦然リ、サレドモ「トルコ」ノ地ヲ爭闘シ、或ハ奪ヒ或ハ失フコト多シ、ツヒニ亞細亞ノ如德亞「アラビヤ」回々・北天竺ノ北邊ヲ略シ、小韃靼(ネータルタリー)ヨリ「アソブ」「キリム」「ユカイネ」「サボロニセコサツケン」「ブラヌラウ」「キヲウ」「ヒユルトウ」「バチユリン」ヨリ、東「ドニセコサツケン」ヨリ、大韃靼(ゴロタルタリー)・沙漠(サンドウトスト)ノ北ハスベテ其有トナリ、北海中氷海(テイスゼイ)ノ島々ノコラズ服從セシメ、「カムサスカ」ヨリ滿洲(即清ノ故國ナリ)ノ邊マデミナ內屬シテ、蝦夷ノ西北ハスベテ「モスコビヤ」ノ地トナリ、又ダン〳〵蝦夷ノ島々ヨリ本地ニ至リ、ソノ地理クハシクシテ、我奧地ニ近キコトヲ諳知スルコトナリ、近年白子浦ノ幸太夫、仙臺ノ平五郎等カノ地ニ漂流シ、我國ノ風俗ヲ一々ニ告知スベケレバ、イヨ〳〵精密ニナリテ、ツヒニ我國ヘ商船ヲ通ゼンコトヲ願フテ、漂流人ヲ送リテ我國ニ媚ブ、其內心ハ計ルベカラザレドモ。言辭ヲ卑クシ信ヲカタクシテ來ルコトナリ、此般ノ使臣本國ヨリ西ヘ船ヲ出シテ、阿蘭陀通路ヲ往ズシテ、西「アメリカ」ノ東畔ヲ南ノ岬ヘ遶リ、南極寒帶ノ海ヲ廻リテ、「アメリカ」ノ西畔ヲ北ヘ廻リ、ツヒニ「カムサスカ」ニカヘリテ、ソレヨリ再艤シテ蝦夷ノ東海ヨリ奧州八丈ノ洋ヲ通リ、薩摩・琉球ノ間ヨリ島原ノ洋ヲ漕テ長崎ニ入ル、コレ先年蝦夷ニ來リテ通商ヲ請シトキ、長崎ニ來ラバ裁判アルベシトノ信牒ヲ賜リシユヱニ、今ココニ來ルモノナリ、コノ度ノ「アメリカ」ヲ遶リ、一旦「カムサスカ」ニカヘリテ、又我東南海ヲ來リシヲ見レバ、彼萬國三千世界ヲ胸中ニ諳ジテ、隣家ニ通フガ如クスルコト易キヲシル、我輩ノ湖水ニ舟ヲ泛メテ、膽ヲ冷シ恐怖スルト同日ノ論ニアラ

ズ、ソノ大膽不敵イカナルモノゾヤ、纔ニ七八十人ノ從卒ヲヒキヰテ萬國ヲ巡リ、使命ヲ辱メザルモノ、孔子ノ所謂四方ニ使シテ君命ヲ辱シメザルモノニ比スレバ、隣國ノ性情ヲ知タル地ト、知ザル地ト天地懸隔ス、我士人カヽル外遠ノ國ニ至ラバ、恐怖イカヾアラン、コレヲ以テ西洋人ノ智術ノ逞シキヲ知ルベシ、ムベナル哉和漢ノ人ハ、始ヨリ字學ヲナセドモ、一生國字ヲ知盡サズ、ソノ外佛學・詩歌・茶ノ湯・謠曲・舞樂ヲ始メトシテ、無用ノ稽古藝術ニ日ヲ費シ、マタソレ〳〵ノ生業ノ爲ニ、サマ〳〵ノ諸藝諸行ヲナシテ、實ニ忠孝仁義ヲ學ビテ、身ヲ修ムルコトモナシ得ズ、況ヤ天文地理ソノ外ノ義理ニ通ジヽ知ヲイタシ物ニ格ルヲヤ、故ニ淫亂不正ノ業ヲナシテモ是ヲ愧ルコトナク、王公大人ト雖學ブコト少ケレバ、スベテ物理ヲ知ラズ、釋迦老仙ノ泥ニ酔テ悟ルコトモナクシテ、天下萬國ノ大體ヲモシラズ、唯我國ノ風俗今日ノアリサマヲ是トノミ心得テ、天變地妖外國ノ變事アレバ、何モ分ラズ驚怖スルバカリニテ、世ヲ過スコソ口惜ケレ、西洋歐羅巴ノ人々ハ天下萬國ニ渡リテ、天文ヲ明ラメ地理ヲ察シ、世界ノ大キナル全體ヲ辨ヘ、忠孝仁義ノコトハ本ヨリ、致知格物ノコトノミニ耽リテ、諸藝諸術ノ無用ノコトニ日ヲ費スコトナク、文字ハ纔ニ二十六字ノ眞行草ト、ヨセ字・方字・數字等ニテ百字バカリナレバ・十歳マデニハ國字ヲ學ビ盡シテ、知ヲ致シ物ヲイタスニカカルコト故ニ、ソノ智術ノ弘キコトシルベシ、ユヱニ萬國ヲ巡リテ大洋萬里ノ間ニ、イカナル天變妖怪アリテモ驚クコトナク、始メテ到リタル國人ニ對話ストイヘドモ、顔色變ゼズ平生ノゴトシ、況ヤ自國中ニオイテヲヤ、シカレドモ其外國ニ心ヲ用ヒ

遠略ヲツトメ、珍物ヲ得テ諸國ヲ屬セシメントスルモノハ過タリト云ベシ、必斯ノ如キノ後ハ災蕭墻ノ內ヨリ起ルベシ、コレヲ學ビタシト云ニハアラザレドモ、諸藝諸術ヨリ鬼神佛觀ノ無用ノコトニ心智ヲ費ヤスコトヲ禁ジテ、上下ノ萬民ニ致知格物ヲナサシメ、忠孝仁義ノ道ヲ志サシメ、外國ヲトルコトハ、イラザルコトナレドモ、セメテハ外國ヨリ我國ヲ侮ラヌ備ヘコソ有タケレ、唯我民ハ生業ニイソガハシキ故ニ、不正ノ業ヲナシテナリトモ、今日妻子ヲヤシナフモノヲ是トシテ恥辱ヲシラズ、不智不才ナル故ニ、鬼神佛觀ノ徒ニ欺カレテ無用ノ費ヲイタシ、ソレヲ補ハンガ爲ニ不正ノ業ヲナシテ唯利ノミニ走ルヨリ、イヨ〳〵マス〳〵文盲トナル、ア丶悲イ哉」文化來貢ノ時ニ云ユル屬國「キウ」ニ「ウラテイミル」ニ「ノブゴロード」ニ「カサン」「ヤスタラカン」ニ「シペリイン」ニ「タウリヤン」ニ「ケルソネース」「ブルスカフ」ニ「ソモレンスカ」ニ「ウメルソニイ」「ホトウ」「エイスランド」「リイフランド」「グルフランド」「セシカリエン」「サモギテイエン」「ユレリエン」「ウリアツトカ」「エコリエン」「テエハニコブ」「ヘルヨエン」「ニソーセンラント」ニ「レテヱルニコブ」ニ「リヤオン」「ホロツカ」ニ「ロストー」ニ「アロスロー」ニ「コーヱリレヱン」「カルタリニヱン」「カワルテイニスランド」ニ「イルウヱンケン」ニ「スレスーイキホルステイン」ニ「ストルマレン」ニ「スルカシセン」ニ「テイトマルセン」ニ「エウエリエン」ニ「シルカシセン」ニ「チルテ」「ユルクコ」ニ「シユルシユン」ニ「ヘロセルスコ」ニ「ウートルスーカ」ニ「ヨブトルスカ」「チトフスカ」ニ「ヌテスイラカ」ニ「以上四十六國、」(仙臺四人ノ難民トモニコノ國々ヲメグル、コノ來路ハ日本ノ東南ヲメグル、歸路ニ「エゾソーヤ」ノ海ヲワタルナリ、)(文化二年「モスコビヤ」人國ニカヘル、コノトキノ進退、漢ノ匈奴ニオケル、五代ノ契丹ニオケルガ如シ、コレヲ恐ル、トキハ方量ナシ、然ルヲ一介ノ使ヲ以テ、應對シテ國ニカヘシ、再ビ來ルコトヲユルサズ、故ニ來ルコトナシ、ソノ信服スベシ、其文玩フベシ、ア丶我國ノ古ヘ元ニ待ス、今「モスコビヤ」ニ接シテ、斷絕シテ其法ヲ得ルモノナリ、コノ回ノ良策奇計、古今ニ通徹シテ動ザルモノ泰山ノゴトシ、廟堂ニ人アリ、子路司馬公ニマサレリ、ソノ時ノ行人遠山與內郞ト云、)(我國ノ加藤・小西ノ朝鮮ニオケルガ如キハ、匹夫ノ勇ヲ以テ彼ノ弱拙ヲシリテ行フモノナリ、小野妹子ソノ外遣唐使ノ人々ハ、我彼ヲ虛セザルヲシルモノ、隣國ニシテヨク消息ヲ知ル、數萬里ノ遠界不知案內ニシテ、ヒトリコレヲ恐レザルモノハ、ヨク地理・風俗・性情ヲシリタルユヱナリ、シカルニ彼ヲ強トシ、我ヲ弱トシテ、人氣ヲクジキ敗ヲトルモノハ、齋藤實盛ノアヤマチナリ、ユヱニ外國ヲ稱美スルハイカヾナルベケレドモ、亦敵ヲ侮リ自ラ誇リテ、敗ヲトルモノモ少カラズ、故ニ他ヲ揚ゲテ自ラオサヘテ、教戒ヲ示スモノナリ、シカルニ又北條氏ノ元人ニオケル、夷狄ニ處スルノ善法ナリ、萬古コノ法ヲ用ユベキナリ、)(天文地理ヲ知ルモノハ、釋迦ノイハユル須彌山・三十三天・四洲・西方・極樂・淨土ノ說ニ惑ハズ、理外ノ妖怪アラザレバ、人外ノ仙人アルコトナシ、忠孝仁義ノ道ヲ學ビ、物ニ格リ知至ルトキハ、父母ニ孝ナラズンバアルベカラズ、長幼愛敬スベシ、已レ正シク

スベシ、淫亂不正ノ業ナスベカラズ、コレヨリシテ身修リ家齊ヒ、治國平天下ナルベシ、)(紅毛ハ二十八字學ビテ足レリトス、故ニ童女匹夫タリトモ無筆ナシ、アニ便利ナラズヤ、)(人生レナガラニ知ルモノハ萬人中ノ一人ナリ、ソノ餘ハ學ザレバ愚ナリ、シカレバ學ビテ知ヲ明ニスレバ物ニ惑ハズ、今ニゾ人ヲ見ルニミナ愚ナリ、其中ニ一人知アル人モアルベシ、サレドツヒニ知アル人ヲキカズ、萬國ノ人ニオイテカハルコトナシ、タヾマナブト、マナバザルニヨルナリ、人ソレ學バズンバアルベカラズ、遊藝ニ魂ヲ奪ハルヽハ、ヲシキコトナラズヤ、イカホド愚ニ生レツキタリトモ、學バヽ業ヲナシ得ザランヤ、只學ブベキモノハ文武ノ外、天文地理ト醫術ナリ、猿樂・茶ノ湯益ナキノミナラズ、害ヲナスコト亦多シ

二十 西洋ノ人國々ヨリ諸外國ヲ伐トリテ、我屬國トシタル國々ニハ、ミナ代官ヲ置テ諸國ヘ通商ノ便トス

「ホルトガル」屬國ハ「チロシヤ」ノコトハ前ニ云ヘリ

「アフリカ」ノ内「マサノガム」ニ「ロアンタス」ニ「モサンビクエ」ニ「カホヘルシセ」ニ「マデラ」

「アジヤ」ノ内「ゴウ」ニ「ヂユ」ニ「マカヲ」「アマカハ」ノコトナリ今「マツカヲ」ト云

「アメリカ」ノ内「ブラシフランリイン」ニ「アフリセ」

「ヒスハニヤ」ノ屬國ニハ三百年來「イスハニヤ」ヨリ「南アメリカ」ノ諸國ヲトリテ、金銀産物ヲ自國ヘオクルコトアゲテカゾフベカラズ

「アフリカ」ノ内「セウタ」ニ「マルサルクエーヒル」ニ「メリツラ」ニ「ヲラン」ニ「カナアリヤ」諸島

「アシヤ」ノ内「ヒリピインセ」ノ諸島「ロソン」ノ諸島「サロモニセ」ノ諸島略諸島ヲ略奪ス、日本ノ東南「アメリカ」ノ西海中ニアリ

「アメリカ」ノ内ニ多シ

「フランス」ノ屬國ニハ

「アメリカ」ノ内「ノウ（新）ハフランス」ノ諸島

「アンゲラント」ノ屬國ニハ

「アフリカ」ノ内「ギユイネア」

「アジヤ」ノ内「ソモンタラ」ノ海岸

「アメリカ」ノ内「カナダ」「ヒルキニイン」「テルレネエブ」「ヤマイカ」ノ諸島「バルバドス」

「ホルランド」ノ屬國ニハ

「アメリカ」ノ内「アサダ」「ヒルキエイシ」「クエルラツサウ」「ベルヒセ」

「アフリカ」ノ内「グイネヤ」ノ海岸「カツペルス」ノ海岸

「アジヤ」ノ内「クエシカン」「マラヲバル」ノ海岸「コロマンデル」ノ海岸「マラツカ」「ジヤガタラ」

「セイロン」ノ内ノ國々「モリユクセ」ノ諸島「ロソン」「ミンタノ」ノ近島

カクノゴトク、歐羅巴國々ハ外國ヲ奪ヒ屬國トシ、代官ヲ置テ是ヲ治メ、諸國通商ノ便トス、今專ラ我國人ノ知ルモノハ「ホルランド」ノ「ジヤガタラ」ヲトリ、城ヲ築キ守ルガゴトキナリ、是ヲ以テソノ底意ヲ考知ルベシ、恐ルベキニアラズヤ

二十一「ホルランド」人「ケンフル」ノ說世界ノ行程ヲ測ル（「ケンフル」ナルモノ日本ノ圖說ヲ作リ、鎖國ノ論ヲソナヘ大ニ我ヲ稱讃ス「ヲロシヤ」人コノ書ヲ尊ミ我ヲシトウ）（エンゲランド（「イギリス」ノコト）里六十里、トイツランド里十五里、大日本里二十五里）是ヲ地ノ一度トス、日本ノ一里「ドイツランド」ノ十五丁ニアタル、「エンゲランド」ノ二里十四丁半ニアタル、次ノ里數ハ日本里三十六丁里、一度二十五里ヲ以テス

我大隅ノ西南角ヨリ 陸奥東北ノ角ニ至ル	里程　十五度二十六分 海陸三百八十五里
漢土北京ヨリ 廣東ニ至ル	里程　十九度五十九分 陸四百九十九里
魯西亞「ペイトル」城ヨリ 東「カムサカ」ニ至ル	里程　五十七度七十六分 陸千四百三十里
日本江戸ヨリ 「カムサスカ」ニ至ル	里程　二十二度二十四分、海陸五百五十九里 （蝦夷ヨリ大テイコノ半ミチナリ）
長崎ヨリ 「カムサスカ」ニ至ル	里程　二十八度 海七百里
平戸ヨリ 北京ニ至ル	里程　十度〇五分 海陸二百七十一里
北京ヨリ 魯西亞ニ至ル	里程　三十五度二十四分 陸八百八十四里
北京ヨリ 「チロシヤ」ノ都「モスコウ」ニ至ル	里程　五十度〇三十五六分 陸千二百六十三里
平戸ヨリ 「ジヤガタラ」ニ至ル	里程　四十五度十三分 海千百二十九里
平戸ヨリ「ホルランド」ノ都 「アンステルダム」ニ至ル	里程　五十四度五十七分、海陸千八百七十二里 （海路「アメリカ」マワリテ七千三百里）
長崎ヨリ 浙江乍浦ニ至ル	里程　五度十八分 海百三十里
「アカラ」紅毛ノ都ヨリ 「イスハニヤ」ニ至ル	里程　二十一度三十分 陸五百三十七里
「イスハニヤ」ヨリ 「モスコウ」ニ至ル	里程　二十四度 陸五百九十九里
「イスハニヤ」ヨリ 「ドイツランド」ノ都コンスタンチノツホレンニ至ル	里程　二十二度十三分 海陸五百五十五里
「コンスタンチノホレン」ヨリ 「モスコウニ」至ル	里程　十六度十二分 陸四百〇五里

「モスコウ」ヨリ「ドイツランド」ノ都「ウヱネン」ニ至ル　里程　十六度九分　陸四百〇三里
「コンスタンチノホレン」ヨリ「ウエネン」ニ至ル　里程　十一度五分　陸二百七十七里
「モスコウ」ヨリ「アムステルタム」ニ至ル　里程　二十一度五分　陸五百二十七里
「ウネン」ヨリ「アムステルダム」ニ至ル　里程　十三度五十三分　陸三百四十六里
「アムステルダム」ヨリ「フランス」ノ都「パレイス」ニ至ル　里程　三度五十八分　陸九十九里
「アムステルダム」ヨリ「イギリス」ノ都「ロンドン」ニ至ル　里程　三度七分　海七十八里

長崎　東徑百四十三度三十分　北緯三十二度三十六分　浙江乍浦　東徑百三十八度　北緯三十度

右　六尺五寸　一間　六十間　一丁
　　三十六丁　一里　廿五里　一度

二十二　「グルウランド」ハ極規ノ中ナリ、夏至ノ前後四五十日ハ、太陽地上ヲ巡リテ臼ヲヒクガゴトシ、冬至前後四五十日ハ夜ナリ、コノ地北方氷海ノ魚ヲトリ、魚ノ圖下ノ如シ其油ヲ藻ニスリテ乾カシ、冬ノ食トス、魚ノ大キサ二三尺バカリ、其名ヲ「ウンコタマール」ト云、冬ハ穴ニ入テ出デズ、夏ハ氷解テ海上ニ浮ム、大ナルハ島ノ如シ、夏ノ比晴天ナク雨多シ、モシ雲破レテ日光直チニ地ヲ射レバ、忽チ雷鳴ヲ發シ、氷破レテ飛ビ奔リ、人ヲ損スルコト大カタナラズトイヘリ暖帶ノ雷ハ左モアルベシ、寒帶ニテ斯クノ如シ理外ノ理ナリ

二十三　耶蘇宗ヲ「キリスタン」ト云、莫臥兒(モウル)宗ヲ「マゴメッテ」ト云リ、「エジット」「ホルトガル」「イ

スハニヤ」等多是ヲ信ズ、天竺ノ邊及「ペグウ」、其外諸宗ノ內ニ此法最ヒロシ、「アビス」ハ牛ヲ供養シ糞ヲ尊ム、「モウル」宗ヨリ切支丹ヲヨビテ狗子トシ、切支丹ヨリ「モウル」宗ヲ桎梏トシ、佛ヲヨビテ像法トシ、聖人ノ敎ヲ俗學トス、日本ニテ淨土宗ヲ法華ヨリシテ念佛無間ト云ガ如シ、取上テ論ズベキコトニアラズ、何レモミナ其國風ニシテハヤリモノナリ、今日本ニ天滿宮ヲ信ジ、稻荷ヲ信ズルガ如シ、叉新法ノ僧巫ヲ信ズルモ同ジ、然ルニ聖人ノ敎ヲ俗學ト云コト甚シキ高論ナリ、本ヨリ萬民ヲ治ムルハ俗ナラズシテ何ゾヤ、俗學ヲ以テ俗ヲ治ム、是ヲ得タリトス、ヨク人ノ情ヲツクスベシ、夫宗旨ヲ立、敎法ヲ立ルモノハ、ミナ俗ニ違ヒテ新法ヲ敎ユ、ムベナル哉天下ノ治マラザルヤ、聖人ノ敎ハ天下ヲ治ムルノ法ニシテ、誠意正心修身ヨリシテ、國天下ヲ治ルニ至ル、唯一法ヲ以テコレヲ貫ク、夫レ厩戸太子ノ佛ヲ弘ムルヤ、王法・佛法並行フト云、ソノ並ベ行フモノハ二ツナリ、スベテ佛ヨリシテ宗法ヲ云モノハ、ミナ高遠ヲ說キ、輪廻奇怪ヲ說ク、アニ俗ヲ以テ治メ、五常ヲ以テ五倫ヲ序デ、孝悌忠信ヲ以テ君父朋友ニ行ヒ、的實正直ナルモノト同日ニ語ルベケンヤ

采覽異言「モウル」ノ末ニ云、「ロウマ」人說ク天下ノ敎法三曰、「キリステン」曰「ヘイテン」曰「マゴメタン」ソノ「キリステン」ハ我大西敎ナリ、「マコメタン」是ハ「モウル」法ニシテ、今亞細亞及「トルコ」ノ諸國ミナコレニ從フ、「ヘイテン」ハ二敎サカンナルニ及ビテ衰フ、「インド」ノ浮屠ノ法、是マタオトロフカク、ノ如シ、支那ニ一種アリ、曰儒敎ナリ、我ヨンデ是ナ「ソウヨシウ」トス、其敎ノヨルトコロマタスデニ久シ、支那モト東南一隅ニ居テ、其化ナホイマダ其域中ニ行フコトアタハズ、亦ナンゾアヘテ他ニノゾマンヤ、況ヤイマ擧國ツヒニ「ダツタン」トナルチヤ、カクノゴトキハ小敎アリトイヘドモ亡ガコトシ、天下ノ敎トスルニ足ラズト、白石氏是チ引テ辨ズルコトナシ、何ノ心ゾヤ、林氏ノ神社考ト同ジクヨムモノニ惑チオコサシムルナリ、コノ語西洋人ヨリ俗學ト云ニ同ジ、法華ヨリ念佛無間ト云ニ同ジ、天下ノ敎法現世チステ、來世チ云コトアルベカラズ、ツヒニ死シテ土トナル、ナンゾ來世アラン、孝悌仁義チ以テ天下國家チ治ルノ外ニ、敎ト云モノナキナリ、切支丹「マコメテン」佛法ミナ是邪敎ナリ、聖人ノ敎ハ天下チ治ムルノ道ナリ、儒ト名ヅクルハ、學者チサスノミ、是敎チサスニアラズ、莫臥兒ノ「マゴ

メテン」ハ回々教ヲ云ナリ、按ズルニ佛法天竺ニ始マリテ、是ヲ用ユルハ南天竺ノミ、他ハミナ「モウル」宗トナル、漢ニハ少シクアレドモ、本儒法アルユヱニ、信ズル人少シ、今サカンナルハ日本ノミ

二十四　亞細亞洲ノ人ハ粳米ヲ以テ常食トシ、大麥ト稷ヲマジヘ食トス、「アメリカ」人ハ「マイス」ヲ以テ食トス、豆ノ類ナリ、「ハツケリス」近國ハ肉ノミヲ喰フ、又人ヲ食フ國多シ、西洋人ハ小麥ヲ以テ常食トス、イハユル麥團子ナリ

二十五　「アメリカ」人ハ極メテ愚ナリ、「エウラツパ」人ハ奸智多シ、「エウロツパ」ノ人「アメリカ」ニ往テ、案内モシラズシテ到リ其地ニ糧ヲ乞、人夫ヲカリ荷物ヲ運バセ、國王ヲ質トシ案内者トシ、直チニ財寶多キ地ヲエラミテ、ソノ地ヲ横領ス、ミナ其時々ノ即智ヲ用ユ、「アメリカ」人防グアタハズ、時ニヨリ國人大ニ群ヲナシ、謀ヲメグラシ、是ヲ取カヘスコトアリ、スベテ西洋人ハ利ヲ以テ重トシ、邪宗ヲ以テ其次トシ、己ガ命ヲ輕シトス、スベテ「アメリカ」ノ貴人トイヘドモ、西洋人ノ奴僕ノゴトシト、是ヲ以テ考ルニ、今ノ蝦夷人ノ愚ヲ以テ思ヒ合スベシ、大テイ學バズシテ禮ナキトキハ、禽獸ト唯一級ノ差ヒノミ、學ビテ道ヲシリ禮ヲシル、コヽニオイテ始メテ人ト云ベシ、邪蘇モウル佛法ミナ邪宗ナリ、聖人ノ教ノ外ナシトシルベシ）（日本明應六年、西洋ノ千四百九十七年、「イスパニヤ」ノ人「アメリカ」ト云モノ、ハジメテ「アメリカ」ニ至ル、ユヱニソノ名ヲ以テ地ニ名ヅク、享和二年ニイタリテ三百五年ナリ、始テヒラキシハ南「アメリカ」ニシテ、ソノ地スベテ金銀多ク、ユヱニ歐羅巴人オヒ〳〵ニヒラキテ、國人ヲアザムキテ或ハオビヤカシ、又ヲシヘテ此國ヲ奪ヒ、金銀寶貨ヲ歐羅巴ヘ運漕スルコト數多ヲシラズ、ツヒニ北「アメリカ」スベテ歐羅巴人ノ有トナルナリ　暹羅人ノ妻ヲ漢人ニ與ヘテ却ツテ是ヲ誇リ、八丈島ノ婦女日本人ヲシタフノルイ、ミナ外國ノ愚ヲシルベシ、コレヲ以テ按ズルニ、漢ノ聖人大中至誠ノ教ヲ立ル、三千世界ニ中立シテ動カザルモノナリ、是ヲ大智トスベシ、是

ヲ學ブ國々大抵ソレニ次ベシ、西洋人ハ奸智ナリトイヘドモ、博識强記、知巧ニオイテハ及ブベカラズ、シカルニ武ヲ以テ國ヲ治メ、大國ニ侵レザルモノハ「イギリス」ト我日本ノミ、コヽヲ以テ天下ニ敵ナシ、加フルニ我金銀・銅鐵・米穀ノ多キヲ以テス、ユヱニ萬國我ヲシタヒ、互市通聘ヲ乞トイヘドモ、免許ナキハ古今ノ良計ト云ベシ

夢之代巻之二終

夢之代卷之三

神代第三

一　日本書紀ハ舍人親王、及太ノ安麿等ノ五臣ニ勅シテ著ス所ニシテ、本朝第一ノ正史也、淺學ノ兒輩ナンゾ是ヲ議セン、然リト雖疑シキハ疑ヒ、議スベキハ議ス、即チ天下ノ直道ニシテ、我私ニ非ズ、殊更ニ此書ミナ古說ヲ用ヒ、又側ラ一書ニ曰ヲ以テ諸說ヲ引キテ參考ヲ博クス、然レバ皆是其受ル所アルノ說ニテ、自ラ作リ玉フニモアラザル也、舊事紀ハ厩戶太子、及馬子等ニ詔シテ作ル所ト云傳フ、又馬子ノ序文アリト雖、コノ書後世ノ僞作ナルコト明カナリ、日本紀「推古二十八年、皇太子及島大臣（馬子ナリ）共議レ之、錄二天皇紀及國紀、臣連伴造國造百八十部、幷公民等本紀一」ト云、コノ書太子ノ薨ニ筆ヲ絕ト雖、ミナ僞書ナリ、推古紀ニ錄スト云テ、舊事本紀ト云書ヲ撰ストイハズ、馬子ノ序文アリト雖、崇峻紀ニ「馬子宿禰使下東漢直駒弑中于天皇上」トシルス、イカニ賊臣ト云トモ、自ラ天皇ヲ弑スト書スベカラズ、又國造本紀ニハ、和銅・靈龜・弘仁等ノ年號ヲシルス、日本紀・古事記ヲ大略ニヌキ出シテ作リタルモノ多シ、コノ書入鹿ノ亂ニ燒亡ビタルコトモ明證ナシ、信ズベカラズ、古事記ハ太ノ安麻呂ノ撰スル所ニシテ、序文ニクハシク論ズレバ云ニ及バズ、安麻呂ハ日本紀ノ撰者中ニアリト雖、古事記ノ撰ハ其マヘニアリ、近歲本居宣長ノ古事記傳ヲ作リテクハシケレバ、就テミルベシ、シカルニ安

麻呂ノ古事記ハ古言ヲ其マヽ用ヒ、據ナキ處ナラネバ漢文ヲマジヘズ、日本紀ハ舍人親王總裁シテ、スベテ漢文ヲ用ヒ、史記左傳ノ歷史ニ倣ヒ、漢文ヲ主トス、然レドモ神代卷ハ亦文法異ナリトイヘドモ、スベテ漢歷史ニ倣ヒ、古事記ノ古言ト大キニ異ナリ、殊ニ舍人親王ハ佛ヲ信ジ、漢文ヲ貴ミ玉フ故、神代皇國ノ古意ヲ失ヒ玉フコト多シ、然モ亦上古ノコト、コノ書アルヲ以テ存スルコトアリ、コノ書ニヨラズシテ何ニカヨラン、然ドモ後世ノ和學者神道學ヲ唱フル人々、唯日本紀ヲ金科玉條トシテ回護黠粧シ、句ヲ逐テ註解ヲナシ、一句一字ニ穿鑿義解、支蔓繁衍至ラザル處ナシ、一字ノ疑惑ヲ生ズルコトナキハイカン、古ヘヨリ神代ノ卷ヲ講ズル人々多ク、中世ニハ博士家ノ業トナリテ侍講セシコトナリ、ユヱニ私記多ク、竟宴ノ歌ナドモアルナリ、ソノ後北畠准后親房公・一條禪閤兼良公ヲハジメ、渡會延佳・山崎垂加・白井宗因・多田義俊・加茂眞淵、當時ニオイテ本居宣長ソノ餘ノ人々、妄說牽强至ラザル所ナシ、中ニモ一條禪閤ノ纂疏ヲ見ニ、通篇ミナ佛說ヲ以テ是ヲトク、元々集古語拾遺モ亦シカリ（忌部濱成古語拾遺）吉田ノ兼延ハ兩部神道ヲ說出シ、山崎垂加ハ佛ヨリ出テ儒ヲ學ビ、朱學ヲ信ジテ博物ノ士ナリ、老年ニ至リテ神學ヲトナヘ諸書ヲ註ス、此人ノ學力ニヨリテ、千載ノ妄說ヲ掃蕩シ、正直ノ神道ニ歸スベキ處、思ノ外回護ノ說ヲナシ、土金ノ傳ナド新說ヲ出シ、佛語ヲ以テ自ラ垂加ト號ス、此人スデニカクノ如シ、況ヤソノ他ノ學者ヲヤ、ミナ此毒ニアタリテ、彌以テ誤リヲ傳フ、惜ムベキ哉（「吉田氏ハ神學ノ家ニシテ、兩部ト云コトヲ云出ス、是天下ノ賊臣ナリ、」）（倭姫世紀ニ日、「神垂以二祈禱一爲レ先、冥加以二正直一爲レ本」コノ元ハ佛語神垂ハ神明垂迹ノ異ナリ、冥加ハ冥慮加護ノ略ナリ、コレ兩部ノ神道習合ノ語ナリ、コノ人五部ノ書ヲ信

ジ、名モ垂加トス、コノ書ノ僞作タルモ辨ゼズ、コノ語ノ佛語タルヲモシラデ號セシヤ、倭姫ノ時ニ佛語ヲ用ヒシ謬ヲモ知ラズ、ア、愚ナルカナ、盲ナルカナ、吾ナ貝テコレヲ見レバ、小兒ノゴトシ、何ゾソレ博學奇才ト稱センヤ、實ニ名ヲヌスムノ賊ナリ多田ノ義俊五部ノ秘書ノ妄ヲ知リ、神道家ノ過ヲ正シ、前世ノ神學者ニ卓越スト雖、神代ノ卷ヲ解スル一字ノ疑ヲ生ゼズ、回護穿鑿ノミヲ云テ煦々タリ、歎ズベキ哉、古事記ノ書タル、太(オホ)氏ノ骨髓特筆ノ妙アリ、日本紀・舊事紀ノ妄說ノ類ニアラズ、本居氏ハ傳ヲ作ル、古言ニ於テ誤ヲ正シ、佛ヲ退ケ儒ヲ排シ、漢籍ノ理ヲ以テ神代ノ奇靈神妙ヲ論ズルヿ勿レト罵リテ、天照大御神ハ天津虛空ニ坐(マシマ)ス日輪ノヿ也ト云、又大神物イヒ動キ働ラカセ玉ヒ、人事ノ所爲シ玉フヿヲソレ〴〵ニ委ク註ス、天照大神ハ高天ケ原ヲ知ラシムベシ、日ノ神ト云、天ノ磐戶ニ閉ラセ玉ヘバ、天下闇トナルヲ以テ云ヿハ、此說ヲ以テ漢土ノ盤古氏ノ如ク、又琉球ノ天孫氏ノ如ク、天竺ノ阿彌陀ノ如ク、日ノ化身ナリ共云テ、其天孫ナリト云ンハ、我日本名譽ナリト雖、本居氏云、（本居宣長古事記傳卷十五三十八丁ニ有）其伊勢ノ大宮ハ日輪ニ坐シマセバ、皇國人ハ更ニモ云ハズ、高麗・唐土・天竺其餘モ天地ノ裏ニアラユル國々ノ王ドモヲ始メ、國民ドモ迄遙ニダニモ拜シ奉リテ、限ナキ御德ヲ謝奉ルベキ理ナルニ、今ニ至ル迄外國ノ人等ハサル理モ知ズシテ過ルヿハ、イト淺マシキヿナラズヤト云々、其餘牽强附會至ラザル處ナシ、伊弉諾ノ尊・伊弉册ノ尊實ニ大八洲・國土・山川・草木ヲ生ジ玉フトシ、天照大神ヲ日輪ナリトシテ、又古事記ニ云ザル大神ヲ女體トス、コレハ下ニ辨ズベシ、アヽ神道ヲ學ビテ其博學ト見ユル人モ、此處ニ至リテハ、何故ニ斯ノ如ク愚ニナルヤ、又佛ヲ學ブ者モ同ク三世因緣ノ虛妄ニ惑ハサレテ愚トナラザルハナシ、其中ニ大中至誠ニシ

テ動カザルモノハ、儒ニ如クハナカルベシ、コレ余ガ輩儒ヲ學ビ漢土ビイキヲシテ牽强スルニ非ズ、三代ノ直道ト、正直ノ頭ニヤドリテ論ズルノミ、ア、和學者博覽强識至ラザル所ナシト雖モ、只仁義ナキノミ、故ニ智ノ用ヒ方ヲ知ラズ、佛學者モ亦是也、只神代ノ卷ト三部經ヲ金科玉條トシテ信ジ、其他ヲ知ザルニアリ、（佛學者トバカリ云テハイカヾ、三部經ヲ立ニスルハ淨土ノミナリ）神代ノ卷三部經、及ビ其外ノ書ハ老莊諸子ノ如シ、學・庸・論・孟ノ誠實確言ト同日ノ論ニ非ズ、神學者曰、儒者漢學ヲナシテ神道ヲ蔑如ニス、佛說ヲ以テ說クニシカザル也、漢ヲ學ビテ日本ヲ學バザルハ日本ノ罪人ナリト、然ニ漢ヨリ遠ク且僻ナル梵法ヲ學ビテ神ヲ習合ス、日本ノ罪人是ヨリ大ナルハナシ、諺ニ曰、自糞ハ臭カラズト、笑フベシ、願クバ神敎ノ如ク正直ノ頭ニヤドリ、知ハ知ルトシ、知ザルハ知ザルトシテ、神代ノ直道ヲ以テ行ヒタキヿナリ、余不敏ト雖、神代ノ卷ニ疑ヲ入レ、神學者ノ妄說愚陋ヲ正サントス、左ニ云フ

二　日本ヘ文字渡リシハ、應神天皇ノ御宇ニテ、ソノ後ノコトハ事實明白ナリ、ソレマデノコトハ、口授傳說ニシテ實ヲ得ベカラズ、神代ノ文字ト云コト聞及ベド、如何ヲシラズ、然バ應神・仁德ノ時ヲ、漢土ノ堯舜ノ時ト同ジク見ルベシ、コレヨリ後ハ文字アリテ、說ノ據ベキアル也、ソレヨリ古ヘ遡リテ神武天皇マデヲ、堯舜ヨリ已上黃帝ノ時マデト見ベシ、天造艸昧ノ時ニテ、神代ト云モノハ漢土三皇ノ如キト見ルベシ、何ゾ始メテ交合シテ國土・山川・艸木ヲ生ゼン、何ゾ目ヲ洗ヒ鼻ヲナデ、ヤス川ニ誓ヒ迦俱津知ヲ斬テ、子ヲ生ズルノコトアラン、古今一轍ノ人ナク、地神五代數十萬歲ノ壽アルベ

カラズ、葺不合ノ尊八十三萬六千四十二歳ニテ崩ズ、其時神武ノ御年四十五歳ナレバ、葺不合ノ尊ノ八十三萬五千九百九十八歳ノトキノ御子ニシテ、神武ハ第四ノ子ナリ、嫡五瀬ノ命トイヘドモ、大抵紀中ニテ考フニ、各別ノ老人トモ思ハザルナリ、八十三萬歳長生ノ神ナラバ、一萬歳ノトキノ子ニシテモ八十二萬歳ノ御子アルベシ、然ルニ漢土ニテモ、盤古氏ノトキヨリ伏羲神農ノ間カクノゴトク、亦數萬歳トナシテ怪事ヲ云コト多シ、ミナコレ古ヘ文字ナクシテ云傳ヘタルノミヲ、其儘ニダン〳〵ニ傳ヘタルモノナレバ、漢土ノ三皇日本ノ神代ノコトハ存シテ論ゼズシテ可ナリ、スデニ大史公（大史公スデニ心アリテ史ヲ作ル、コレヲ補フモノハ本意ヲ失フナリ）ノ史記ハ黄帝ヨリ始マリ、源義公ノ大日本史ハ神武ヲ始トス、見ル處アリテシカリ、然ルニ後世史記ニ三皇本紀ヲ附スルモノハ、コレヲ知ラザルナリ、日本書紀ハ三皇ヲ附シタルヲ見テ書出シタルモノナリ、神代ノ間年數ミエザルニ、神武紀ニ、「天皇曰、天祖降迹以迨二于今一一百七十九萬二千四百七十餘年」トアルヨリ穿鑿ヲ加ヘテ、倭姫命世紀・元々集ナド、「瓊々杵尊治二天下一三十一萬八千五百四十二年、彦火々出見尊治二天下一六十三萬七千八百九十二年、葺不合尊治二天下一八十三萬六千四十二年、合一百七十九萬二千四百七十六年」（神代ノ壽ハ短シ、王代ニハ長シ）ト、コレハ神武ノ言ニヨリテ割付タルナルベシ、シカルニ古事記ニ、彦火々出見尊五百歳ニテ崩ズトアルヲ、本居氏木花咲屋姫ノ父神ノ詛ニヨリテ斯ノ如クナレバ、葺不合尊モ短命ナルベシ、其子神武モ百三十七歳ナレバ、コノ年數ハ瓊々杵ノ尊ノ一代ニ百七十九萬年餘ノ壽アリテ、後二代ハ短カシ、シカルヲ倭姫世紀ニカク割ツケタルハ無稽

ナリ、八十三萬歳ノ御子ニテ、俄ニカク短命ナランヤト云々スルコトハ、亦ソノ神武ノ語ト、開屋姫ノ父神ノ詛ト、五百八十歳ノ古事記ノ語ヲ信ジタルモノナリ、神武ノ語ヲ妄説トミレバ、外ノ穿鑿ニ及バザルヲシラザルハ愚ト云ベシ、又中根元珪曰、天照大神即位甲寅ヨリ大永三年癸未ニ至ルマデ二百三十四萬四千六百五十年ト、天照大神即位ト云モヲカシ、小兒ト雖此年數ヲ信ゼンヤ、（コノ年數ノコトシルベカラズ、何レヨリ出タル妄説ゾヤ）然ルニ和漢同日ノ論アリ、漢書律歴志ニ云、「三統上元至ニ伐レ桀之歳一、十四萬千四百八十歳」ト、春秋緯ニ云、「従ニ開闢一至ニ于獲麟一、三百二十七萬六千歳、分為ニ十紀一、凡世七萬六百年、」史記ノ一説ニ云、「天皇氏十二頭、各一萬八千歳（コノ一萬年八千年トアルコトハ、一萬八百年ニシテ邵子ノ語ニ出タル一元ノ數ナリ）地皇氏十一頭、亦各一萬八千歳、人皇氏九頭、凡一百五十世、合四萬五千六百年」ト、ミナコレ漢土ニモカヽル無稽ノ事ヲ云コトアリ、草昧ノ世天地開闢ヨリ何ホドノコトヲシラズ、唯文字アリテ後事實傳ルノミ、漢土スデニ孔子ノ語ト雖、五帝ノ異説アリ、況ヤ三皇ヲヤ、春秋運斗樞ニハ、伏羲・女媧・神農ヲ三皇トス、秦ノ博士、天皇氏・地皇氏・人皇氏トス、尚書大傳、燧人氏・伏羲氏・神農氏トス、禮號謚記、祝融・伏羲・神農トス、我天神モ亦シカリ、日本紀ニハ、天地未剖ノ時、葦牙ノ如ク化シテ神トナル、國常立尊ト云、次ニ國狹槌尊、次豊斟渟尊、コノ三神ハ純男ナリ、次ニ泥土煑尊、沙土煑尊次ニ大戸之邊尊・大苫邊尊・次ニ面足尊、惶根尊次ニ伊弉諾尊・伊弉冊尊、此八神男女ヲナス、此ヲ神世七代ト云、又古事記ニハ、高天ガ原ニ成神ヲ天ノ御中主（ミナカヌシ）神ト云、次ニ高御産巣日（タカミムスビ）神、次ニ神産巣日ノ神、次ニ宇麻志阿斯訶備比古遅（ウマシアシカビヒコヂ）

神、次ニ天ノ國常立神、此五柱ハ別天神、次ニ國之常立神、次ニ豐雲野神・宇比地邇神・須比遲邇神、次ニ角杙神・活杙神、次ニ意富斗能地神・大斗乃辨神、次ニ淤母陀流神・阿夜訶志古泥神、次ニ伊邪那岐神・伊邪那美ノ神、上件國常立神以下ヲ神代七代ト稱スト、舊事紀ハ日本紀古事記ヨリ剽竊シタル僞書ナリト雖、コノ書ニハ高天ガ原ニ化成一神ヲ、天讓日天狹霧國挾霧尊ト云、次ニ天御中主尊・可美葦牙彥舅尊ヨリ倶ニ三十九神ノ名ヲカヽゲテ、七代ノ天神八代ノ天神、並ニ天降之神トス、カクノゴトク三書トモニ小同大異ニシテ、又日本紀ニハ一書ヲ引テ、諾冊ノ二神ノ陰陽交合ノコトヨリ左巡右巡ノコトミナ異ニシテ、山川草木ヲ生ノ後ニ、二神議シテ曰、吾已ニ大八洲ノ國、及山川草木ヲ生メリ何ゾ天下ノ主タルモノヲ生ザランヤト、コヽニ於テ日之神ヲ生ム、コノ子光華明彩六合ノ内ニ照徹ル、二神喜テ曰、吾息多シト雖カク靈異ノ子アラズ、久シクコヽニ留ムベカラズト天ニオクリ、授クルニ天上ノコトヲ以テス、次ニ月神ヲ生ム、其光彩日ニ亞グ、日ニ配シテ治スベシト亦天ニオクル、次ニ蛭兒ヲ生ム、次ニ素盞烏尊ヲ生ムト云、又一書ニハ、左ノ手ニ白銅鏡ヲ持チ日ノ神ヲ生ム、右ノ手ニ白銅鏡ヲ持チ月ノ神ヲ生ム、首ヲ廻シテ顧眄ノ間ニ素盞烏ヲ生ム、又一書ニ、伊弉冊ノ尊崩ジテ黃泉平坂ヲスギテ、小戶橘檍原ニ祓除シテ、伊弉諾尊少童神、及住吉三筒ノ神等ヲ生ミ、（三筒ハ底筒男、中筒男、表筒男ナリ）然テ后ニ左眼ヲ洗テ日神ヲ生ミ、右眼ヲ洗ヒテ月神ヲ生ミ、鼻ヲ洗ヒテ素盞烏ヲ生ムト、古事記ニモ、（彼ヲ是トスレバコレ非ナリ、コレヲ是トスレバカレ非ナリ、センズル所ミナ非ナリ）檍ガ原ノ祓除ノ后、眼鼻ヲ洗ヒテ三神ヲ生ム、舊事紀ニハ、二神議シテ天下ノ主

ヲ生ント云テ、三神ヲ生ミテ祓除ノ后ニ、眼鼻ヲ洗ヒテ三神ヲ生ムト、蛭子ハ三書國土ヲ生ム前ニモアリテ、又三神ヲ生ムノ後ニモアリ、古來未決ノコトヲ云ニモ、多クハ一定シテコレヲ云、古事記ハ、大抵一定シテ云ト雖、日本紀ニハ、煩ハシク諸書ヲ引テ一決セズ、ソノ本文ト一書トノ差別アリト雖、其中ニオイテ取所アラバ、一ヲ執ッテ餘ハ捨ベシ、天下古今ノ國史ヲ撰ム、何ゾ疑惑シテ筆ヲ下サンヤ、舊事紀ノ書ハ取ルニ足ラズ、日本紀ニオイテハ疑ナキニアラズ、已ニ疑惑アリテ決斷ナクンバ、大史公ノ史記・源義公ノ大日本史ノゴトク、鴻荒ノ世ハ存シテ論ゼズシテ然ルベシ、本ヨリ天造草昧ノ時、天地開闢ノ始ノコト、誰アリテコレヲ見ン、タトヒ見シ人アリトモ、文字ナケレバ書ノコスベカラズ、播磨國石ノ寶殿縁起ニ曰、少彦名命大己貴命議シテ寶殿ヲ營ム、天ノ邪鬼ニ命ジテ一夜ニ造ラシム、邪鬼其勞ニタヘズシテ早ク曉天ヲ告グ、コレニヨリテ營造ヲ止ム、ユヱニ成就ヲ缺リト、其石四方三間半、棟二丈六尺、實ニ天下ノ奇物ナリ、二十丁バカリ西北ニ高御位ト云山アリ、山上ニ石屑多シ、ソノ時ノ切屑ナリト、然ルニコノ石寶殿ヲミルニ、イカサマニモ大造ノ物ナリ、思フニ上古石棺ヲバ造リ、功ヲ竟ズシテ廢シタルモノカシルベカラズ、余スデニ此説ヲ信ゼズ、論ズルコト本文ノゴトシ、然ルニ文化中ダン／＼ニ丹波ノ龜山ニ遊ブ、桑田郡、及船井半郡ノ水保津、（山家集ニ、西行「氷ワル筏ノ棹ノタユケレバ、持ヤコユマジホツノ山ゴエ」トアレバ、コノ已前ヨリ筏ハ下リシナリ、（天正十一年大閤御朱印保津十五人山本十五人宇津廿五人右三村諸役御免ナリ、慶長八年角倉了意村士五郎兵右衛門山中難所ヲ切ヒラキ船ヲ通ズニ至リテ、龜岳嵐山ノ間戸谷中ニ入、激流シテ嵯峨ニ下リテ、大井川桂川トナセ淀川ニ入ル、谷中ニアリテ雨川又戸無瀬川菊野川ト云、古ヘ龜ノ尾戸ナセノ二瀧ソノ外岩石ソバ立テ、水ハ逆マキ流レ、筏ハ下スト云ヘドモ、舟楫ノ功ヲナスコトナシ、慶長角ノ倉了意、及田村氏ナルモノ此谷ヲ疏鑿シ、二瀧ヲノゾキテツヒニ舟ヲ通行ス、ア、二人ノ功禹ニツグト云ベシ、里人云、古昔コノ國ハ湖海ナリシヲ、鍬崩神ソノ余ノ神々、保津山ヲ砂ニテ水ヲ決リ玉ヒシヨリ、今ノ如ク國トナリタルナリト、ア、ナンゾ但馬ノ説ニ似タル、

コレニヨリテ予ツラ〳〵考フルニ、古來相傳ノ說アナガチニ廢スベカラズ、后人附會多キ故ニ信ゼザルナリ、夏ノ禹ト云聖人レキ〳〵トシタル人故、水ヲヲサムルノ功歷然タル、我國ノ古ヘ文獻不足ノ時ニアマリテコノ淵アリシヲ、鐵山ノ神ヲ始メ、其外ノ神々コレヲ所通シテ、山城國ニツ、ゲ玉ヒシ故ニ、二郡平地トナリタルナラン、故ニソノ神功貴ミテ里人コレヲ祭リタルナリ、后ニハ角倉田村氏、民ニモ上ニモ其功ヲ追トイヘドモ、文獻タリタル后ユヱ、顯然トシテ其功德アラハレ子孫繁榮ス、ユヱニ神トハ祭ラザルナリ、此國ノ地勢功ヲ實見スレバ顯然トシルベキナリ、桑田ノ郡名モ、滄海變ジタルヨリ出ルモノカ、但馬ノ國モ但馬川ノ流レ津山及セトノ海コフサガリクル時ハ、イカントモスベカラズ、潮水トナルノ外ナシ、五社ノ神々コレヲ爲ヒラキ逐ヒシユヱ、平地トナリタルナラン、カノ二所ニ限ラズ、カヽル處大小イクラモアラン、箱根日光ノ潮水ニハ、切落スベキ處ナキユヱカクノ如シ、近江ノ潮水モ瀬々兼ヲ切リヒラキコヘナバ、半分ハ平地トナルベシ、木曾川信濃川大クマ川野川ナド、ミナ陸ヨリ切リ通シタルモノナリ、ナンゾ天然カクノ如クナラン、長流ノ中ニ石山ヨリコタワリタラバ潮トナルベシ、但馬ノ國モ垂仁ノトキ、新羅ヨリ天ノ日矛來リテ、是ヲ五社ノ內出石明神トスレバ、神代ヨリ后ノコトナリ、コレハ古說ニナヅムベカラズ、然ルニ但馬ノコトハ傳會多シ、大テイカヽルモノナリ、ソノ實地ヲ踏デソノ勢形ヲ考ヘ、古今ノ變革ト人情風俗マデコト〳〵ク觀察シテ、附會ノ說ヲ明ニスル人ハ、何ゴトヲカ考得ザラン　又但島ノ國豐岡湯島ノ間ニ石山アリ、コノ石五角ニシテ臼ノゴトシ、其形ヲ斯ノゴトシ、徑七八寸ヨリ一尺四五寸、高五六寸、疊々重リテ一本ノ柱ヲナス、綿密ニ並ビテ材木ヲ立タル如ク、一山ヲナスコト幾千萬本ヲシラズ、此石ヲ取テ隣鄉ノ礎石トシ、石垣或岸岐石トス其迹ハ窟ヲナス、幅十五六間、高深共二十間餘、鑿ヲ以テ一ツヅヽカキ取ルコトナリ、コレ亦天下ノ奇石並ブモノナシ、アタカモ人作ノ如シ、然ルニ里人云、太古但馬ノ國ノ海ナリシニ、五社ノ神瀬戶ノ山ヲ斫リ開キテ北海ニ決ル、其時隣國ノ神々ヨリ贈リ玉ヒシ餅ノ、重リ化シテ石トナリタルナリト、又丹後ノ國ニ元伊勢アリ、コレ豐受大神ニシテ、大神宮ノ神託ニヨリテ、雄略二十二年今ノ外宮ニ移ス、事ハ五部ノ秘書ヲハジメ、ソノ餘ノ神書ニクハシ、然レバ豐受ノ宮ノミニテ有ベキヲ、外宮內宮天ノ岩戶ヲコシラヘタルハ、ミナ今ノ伊勢神宮ノ繁昌ヲ慕フテ似セ設タルモノナリ、元ヨリイセノ岩戶ハ、天文年中古墳ノアバケタルヲ思ヒ付テコシラヘタルモノナルヲ、夫ニ引カヘ

テ此岩戸ハ、深谷岩石ノ上ニ祠ヲ立、上ノ山ヨリ飛下リ玉フト云、シカレバ岩戸明神ト云神ナリ、伊勢ニアルモノハ大神ノ岩屋ニ閉籠リ玉フト云、シカレバ岩戸ノ神ノ神體ハナク、ヤハリ大神宮ナリ、ソノ餘天下ノ諸寺諸社ノ縁起由來ミナ此類ニシテ、市童村老ノ云傳ヲ取用ヒタルモノナリ、然ルニ愚夫愚婦コレヲ信ズルト云ドモ、大テイノ書ヲヨムモノコレヲ信ズルハナシ、コノ類日本ニ限ラズ、漢土ニテモコレアリ、事物紀原ニ、「天地開闢シテ萬八千歳ニシテ盤古死、」帝王五運歴年紀ニ曰、「盤古死後、左目爲レ日、右目爲レ月、嘘爲二風雨一、吹爲二雷電一、開レ目爲レ晝、閉レ目爲レ夜、又曰、骨節爲二山林一、左手爲二東岳一、右手爲二西岳一、腹爲二中岳一、首爲二南岳一、足爲二北岳一、腸爲二江海一、血爲二淮瀆一、毛髪爲二草木一」又風俗通ニ曰、「天地開闢、未レ有二人民一、女媧（女媧ハ伏羲ノ妹ナリ、伏羲女媧ハ人民ナラズヤ）摶二黄土一爲レ人、」淮南子ニ曰、「黄帝生二陰陽一、上駢生二耳目一、桑林生二臂手一、」又曰、「突生二海人一、海人生二若菌一、若菌生二聖人一、聖人生二庶人一、凡庸者生二於庶人一、突人之先、此人之始也、」通典曰、「燧人氏始有二夫婦之道一、」遁甲開山記ニ曰、「麗山氏産出谷肇分」云々、カクノ如ク漢土ニテモ虚妄ノ説ヲナス、山海經・列仙傳ノゴトキ、必學者タルモノ、目ニフルヽコトナカレ、シカルニ虚妄ノ説、凡書ヲ讀ムモノ信ズルコトナシ、佛經ハステヽ論ゼズ、我日本イカナレバ神代ノ卷ヲ信ジ、サマ〴〵ノ説ヲナスヤ、天照大神ヲ日輪トシテ、皇胤ハ天孫ナリト云フコトハ可ナリ、（天照大神日本ヲノミ、フミナラシ玉フハウタガヒナシ、ヨリテ日本テラシ玉フト云ベシ、ナンゾ萬國ヲテラシ玉フト云ハン、コレミナ神學家ノ私シノミ、日本人ニモカギラズ、スベテカク日輪ヲトリテ云コト多シ、佛氏ノ大日如來モ日ヲ云ナルベシ、ミナソノ國人ノ私言ナリ、取上テ論ズルニオヨバズ）諸冊ノ二尊大八洲ノ國ヲ生ム、盤古漢土ヲ生ム、日本漢土ハ小

國ナリ、スベテ亞細亞・歐羅巴・利未亞ノ三大國ヲ合セテ一トツヾキトナリタルハ、誰ガ生ミタルヤ、天照大神日輪トシテ萬國ヲ照シ玉フ、盤古ノ左ノ目ノ化シタル日輪ハ何レノ日ゾヤ、兩說ヲ合セ信ズレバ、天照大神ハ盤古ノ目玉カ、然ドモカク論說スルトキハ、際限アルベカラズ、神學者トイヘドモ、但馬丹後播磨ソノ餘ノ愚蒙ノ傳說ハ信ズベカラズ、而シテ神代ノ卷ニオイテハ、露塵程モ疑ヲイレズシテコレヲ信ズ・スデニ神代ノ卷ノ書中ニ、國土開闢ノ時生ルヽ神ヨリ神世七代ノ立カタ、本文ト一書ノ差大イニシテ、日神月神ノ生ルヽニモ、二神ノ議シ生ムトシ、左右ノ目ヲ洗ヒテ生ムトシ、又白銅鏡ヲ持チテ生ムトスレバ、一定ノ說ハナキニアラズヤ、コレヲ以テ傳聞ノ信ズベカラザルヲ知リテ論ゼザレバ可ナリ。一々ニソレヲ辨ジテ說ヲ付ユク時ハ、ツヒニハ遁辭ヲナシテ、ツマル處ハ漢學ノ理ヲ以テ云ベカラズ、神代ノコト奇妙測ルベカラズト云ノ外ナシ、アヽ神學者流神代ノ卷ヲバ信ジテ、丹播ノ說ニハ疑フ、彼ニ信ジテ此ニ疑ヒ、此ヲ實トシテ彼ヲ虛トス、風ヲ捕フガ如ク、影ヲ繫グガゴトシ、其トル所ナキヲ知ルベシ、古來相傳ノ說ト雖、神武ノ語ニテ百七十萬年ノコト、ナンゾ傳言セン、神武ヨリ神后マデノコトタリトモ、文字ナケレバ知ルベカラズ、又日本紀ニ神武已來ノ歲ヨリ甲子ヲシルストイヘドモ、是又信ズベカラズ、スデニ文字アリテノ後ト雖、文獻足ラザレバ事朧氣ナリ、況ヤ文字ナキトキヲヤ、故ニ曰、文字ノ出來ルハ國ノ開クルナリ、國ノ開クルコト、大國ハ早ク小國ハオソシ、後世ヨリ見レバ、文字アレバ早シ、ナケレバオソシ、只文字出來タルヲ開ビヤクトスベシ、如德亞開ビヤクヨリ六千年、漢土四千年、天竺三千年、日本千五百年、ソレヨリノ以前ハ云次第ナリ、書次第ナリ、證トスベカラズ、右ノ三國ニ比スレバ、日本ハハナレ島ナレバ、ヒラクコトオソカルベシ、

又文字ヲ製スルコトナク、三韓ヨリ始メテ渡リタルヲ見レバ、イヨ〳〵オソキヲシルベシ、然ルニ無リニ引ノバシ古クセントス、何ノ益ゾヤ、二十一史略ノ頭書笑フベシ、何レノ國ニテモ、人民ハ太古ヨリカクノゴトクナレドモ、文字ナキユヱニシレザルト云コトヲシラズシテ、シヒテ説ヲ設ケタルナリ、今ノ書入ヨミ本・浄ルリ本トカハルコトナシ、ナンゾ論ズルニ足ラン文字無キハ國ノ開ケザルナリ、今ニテモ文字ナキ國モアルベシ、ソノ國々ハ二代三代ノ前ハ、口碑シテ知ルベシ、ソレヨリ前ノコトハ知ルベカラズ、已ニ以テ見ルベシ、豐臣太閤ノ威名天下ニ敵ナシ、父ヲ彌右衞門ト云、又筑阿彌ト云テ、其祖父ハ誰某ナルヤシラズ、今日我々ノ身ノ上ニテ知ルベシ、タトヒ幼ニシテ父ニ別レ孤獨ナリト雖、母ノ大政所アルニアラズヤ、然レバ祖父母高曾父母ノコトハ、母ニ問テモシルベシ、定メテコレヲ聞テ、太閤ハ知リ玉フベケレドモ、書殘サヾレバ知ル人ナシ、太閤ノ前ニ三代シレザルコトナカルベシ、サレドモ卑賤ニ相違ナキユヱ、諱テ云ザルナルベシ近ク二百年ノ前ニシテ、古今ニ類ナキ豪雄ノ人ニテモ斯ノ如シ、況ヤ神武ヨリ神后マデ千年ホドノ長キヲヤ、況ヤ神代ノコトヲヤ大テイニ見過テシカルベシ、我聞ク如徳亞國文字ヲ製シテ六千年、書籍足リ滿テアリト云ヘリ、漢土文字ヲ製シテ四千年、日本文字渡リテ千四五百年、ソレヨリ前ハ知ルベカラズ、然ルニ神代ノ卷ハ舍人親王ノ撰ニシテ、是ヲ知リ玉ハザルニアラズ、只太古ノコト聞マヽニ筆シテ、一書ト云テ博ク傳フルノミ、是ヲ知ラズシテ、サマ〴〵ノ註釋回護ノ説ヲナシ、一句一字ニオイテモ、方便教訓ヲ加ヘテ、尾鰭ヲ付テ解ヲナスモノハ、後人ヲ惑ハスモノナリ、佛者ノ心ト何ゾ擇マン、史記モ黄帝ニ始マルト雖、事實ハ堯舜ヨリトルベシ、日本紀神代ノ卷ハ取ルベカラズ、願クハ神武已後トテモ大抵ニ見テ、十四五代ヨリヲ取用ユベシ、然リト雖神功皇后ノ三韓退治ハ妄說多シ、應神ヨリハ確實トスベシ、我日

本太古ヨリ神ヲ祀リ、秡除ヲ以テ事トス、神託靈異ヲ云コト、ミナソノ云人ノ語ニテ實ニアラズ、是我國ノ一風俗ナリ、スベテ艸昧ノ世ノナス所トシルベシ

三　山崎氏曰、「吾神道四焉、造化・氣化・身化・心化、造化心化無レ形也、氣化身化有レ體也、此學ニ神代ニ者、所レ當レ知也、玉水翁曰、造化神乃日月・國土・草木・山川之靈氣、化神乃三五之精妙合而化生、身化神乃男女搆レ精、以胎化者、心化神乃神人有レ事所レ感、而凝之靈、共奉レ封レ之、同稱而爲レ神也、」（コノ四化ヲ以神道ノ總號トスルニ似タリ、ソノ四ノ者ハ神ノ出所四ツアリ、曰云々ト云ベシ、ナンゾ是ヲ以テ神ノ大道トセンヤ）山崎氏大儒ニシテ老テ神道ヲ學ブ、其直道ヲ行ズシテ、カカル附會ノ說ヲナス、好ム處ニ阿ルモノカ、又諱トコロアルカ、何ゾ回護ノ甚シキヤ、言ザレバヤマン、言バ理ヲ正スベシ、此人ニシテカカル說ヲナス、ユヱニ諸儒コレニ迷ヒテ、イヨ〳〵マス〳〵コレヲ信ズ、アヤシムベキカナ、此說ニヨレバ日神・月神・蛭兒・素戔烏ミナ氣化ノ神ナリ、然ルニ目鼻ヲ洗ヒ、鏡ヲ以テ生ズトイヘバ、心化ノ神也、又日神・素戔烏、天ノ安川ニ誓テ忍穗耳ノ尊ヲ生ト云モ、心化ノ神ナリ、アヤシムベキ哉、氣化神三五之精妙合而化生者トハ、何ノ謂ヲシラズ、抑天下ニオイテ、男女精ヲ搆サズシテ生ズルノ子ナシ、然ル時ハ吾神道ハ一而已、又山崎氏吾神道四焉ト云テ端ヲ發ス、イカナル妙說カ云ント思ヘバ、子ヲ生ズルノコトノミ、天下ヲ生ズルヲ以テ道トスルヲキカズ、萬物ヲ生々スルハ第一ノコトニテ捨ベカラズト雖、本是嗜欲ヨリ出ルモノニシテ、自然ノコトナリ、（周子ハ妙合而凝ト云ノミ、二氣五行ノ始ヲ云ナリ）孟子曰、「飽食煖衣、逸居無レ敎、近於ニ禽獸ニ」ト、カノ禽獸ノ道ハ色食ノ

二ツノミ、人トシテハ五倫五常忠孝ノ道アリ、山崎氏朱子ヲ學ビテ心學ヲ貴ビ、カカル言辭ヲ發スルハイカナルコトゾヤ、コレモ神道ヲ學ビテ愚ニ歸リタルモノカ可レ憐

四　天照大神ノ女體ト云フコト、我是ヲ疑フコト數年、アニ女體ニシテ天下是皇祖トセンヤ、コレ怪シムベシ、天明中ニ浪花生玉ノ社僧持法院ノ聖應ト云モノ、神道辨惑ヲ著ス、コノ書ニハ大神宮ヲ男體トス、度會延經ナル者、男體考證ヲエランデ專ラ男體トシ、又度會常彰ナルモノ女體ナルコトヲ辨ジテ、男體考證ヲヤブルト云、聖應曰素尊ト日神トハ夫婦ナルベシ、諸冊ノ二神スデニ兄弟夫婦ナリ、シカレバ素尊日神姉ト弟ト夫婦ニナリ玉フコト、ナンゾ難ゼン、然レドモソレニテハ后世ヘツタヘガタキ故ニ、玉ト劍ヲトリカハシ、盟約ノ中ニ五男三女ヲ生トアルモノナルベシト、是モ亦一說ナリ、ソノ后仁德帝妹ヲ以テ后トス、コレハ宇治ノ太子ノ遺言ナリ、又敏達用明ノ二帝モ妹ヲ后トス、推古帝ハ敏達ノ妹ニテ后ナリ、シカレドモツヒニ貶議ナシ、兄妹夫婦トナラザルハ漢土上古ノ禮ナリ、同姓メトラザルハ周ノ禮ナリ、コレ天造ニアラズ、人作ナリ、シカレドモ天照大神ニオイテ是ヲ諱モノハ、天子ノ始祖ナレバナリ、何レニモ女體ニシテ太祖タルノ理ナシ、父母ナクシテ子ヲ生ノ理ナシ、又神代ノコトハ確據ナシ、口ヅカラツタヘタルコトヲ千年ノ後ニシルシテ、ソノ書ヲ證トシテ評ヲ立ルモノハ、夢ニ死タル人ニアヒタリト云ヲ、ソノ筈ハナシト辨ズルゴトシ

然ルニ正德ノコロ野ノ宮黃門定基卿神代ノ卷ヲ疑ヒ、大神ノ女體ニアラザルコトヲ辨ジ玉フト雖、惜ムベシ、其說家ニ秘シテ出スコトナシ、我中井兩夫子コレヲ傳聞シテ、其弘マラザルヲ歎ズ、其說廐戶ノ太子ノ姦計ヨリ起ル、其コトノ著シルシキハ徂徠文集擬ニ家大連檄一ノ文ニ詳ナリ、煩ハシクココニ擧ズ、然ニ文事實ニオイテ大ニ齟齬ストイヘドモ、其ノ文ヲトルノミ、辭ヲ以テ意ヲ害スベカラズ、太子佛ヲ信ジテ馬子ニ黨ス、馬子ハタヾ權ヲ震フト佛ヲ信ズルノミ、天位ニ望ハナカルベシ、天位ヲ願フハ太子ナリ、ユヱニ馬子ニ諂ラヒ阿ネリテタヾ其心ニ從フノミ、故ニ佛ヲ信ゼズ馬子ニ悖ル守屋ヲ亡シ、又崇峻帝ヲ弑スルニモ預カル、コノトキ馬子ハ太子ヲ天位ニノボセタクハアルベケレド、用明ノ兄弟多クアリテ立難キユヱニ、敏達ノ后ヲ立ル、コレ推古ナリ、コレヨリ推古ノ意ヲ用ヒテ廐戶ヲ太

子トス、ミナ馬子ト太子ノ姦計ナリ、シカルニ女帝ヲ立ルコト、開闢以來ナキコトナリ、コレハ仲哀ノ崩後、神功皇后三韓ヲ伐テ庶兄ヲ誅シ、應神ヲ立テ垂簾ノ政ヲキヽ、玉フヲ言トス、推古ハ敏達ノ后ニシテ妹ナレバ、人心モマヅハ服シタルナリ、シカレドモ一時ハ衆心伏スレド、サスガ例無キ女帝故ニ、マチ〳〵ニ謗議オコル、馬子太子コレヲ畏レテ、鎮靜ノ術ヲハカル、コヽニ於テ國史ノ論述始マリ、日神ヲ陰體ナリト稱シテ諸臣萬民ヲ誣フ、此ニテ上下怗服ス、コレ全ク太子ノ姦計ナリ、コレヲ舊事本紀ト云、神功皇后ハ攝政ニシテ帝ニアラズ、コレヲ代數ニ入テ、女帝ノ例トシ推古ヲ立ルナリ、スデニ大神陰體ノ例アラバ神后帝位ニ即ベシ、シカレバ例ノナキヲ見ルベシ、源義公コヽニ見アリテ、代數ヲ省クトイヘドモ、太子ノ姦ヲシリ玉ハズ、コレヨリクバリテ太子ノ惡ヲウガチ出スモノナラバ、至ラザル處ナシ　シカルニ此書ハ竟ニ廢シテ傳ハラズ、今ノ舊事紀ハ後世ノ僞作ナリ、サテマタ太子始メハ佛道ニヨリテ馬子親附シ、竟ニ太子トナルニ至ル、馬子ハ十分ニ志ヲ得テ、天下ノコトヲ掌リ、我意ヲフルヒ、太子ハ攝政ノ名アルノミニテ、國政ニ預ルコトナク、唯佛法ヲ興隆スルコトバカリヲナス　コノ時太子ノ子二十五人一度ニ毒死スト云々　然ルニ思ヒノ外ニ推古長命シテ、禪位ノサタモナク、馬子ハ太子ノ英明ヲ憚リテ、國政ヲ授クルコトヲネガハズ、太子モツヒニ待兼、又ハ馬子ノ驕暴ヲソロ〳〵ト惡ミテ不和トナル、ツヒニ馬子太子ヲ毒殺ス、コノコトハ河内國下ノ太子ニフルキ緣起ノ卷物アリテ、太子吐血、母妻子四人一時ニ毒死ノ圖アリ　當世ヲ欺カンガ爲ニ、皇祖ヲ僞リ萬世ヲアザムク、コレ太子ノ大罪ナリ　僧徒等此コトハ秘スト雖、四人同日ニ死シタルコトハ、何クニテモ云コトナリ　四人吐血ノ事ハ河内ノ國下ノ太子ニアリ　大神ヲ陰體トスルコト、太子ノ姦計ニ出タリトシルベシ、太子天位ヲノゾミテ、大切ナル皇祖ヲ陰トシ萬代ヲ欺ムキ、素餐ノ僧ヲコシラヘ、天下ニ寺院

ヲ建ルコト數十ニシテ（太子ノ建立スル寺四十八處ナリ）ツヒニソノ弊ヲ天下ニノコシ、後世ヲ蠱惑スルニ至ル、然レバ太子釋迦ノ爲ニハ忠ナリト雖、我國家ノ末代ノ害ヲ殘シ、不忠不孝不智不仁不義不禮不信ノ罪ノガル、處ナシ、林羅山太子ヲ論ジ曰ク、佛ヲ好ムノ心ヲ以テ聖人道ヲ學シメバ、王道興ルベシト云、然レドモ未コノ論ニ及バズ、（自ラノ爲ニシテ君ノ爲ニセザルハ不忠ナリ、三世因果ヲ云ハ不孝ナリ、是父母ヲナミスルユヱナリ○虚僞ノ說ヲサトリナガラ、興立シテ人ヲ惑ハスハ不仁ナリ、正ヲトラズシテ邪說ヲトルハ不義ナリ、神國ニ生レテ異國ノ佛ヲ尊信スルハ不禮ナリ、正言忠孝ノコトヲイハズシテ邪說ヲス、ムルハ不信ナリ、）太子ノ心ハ天位ヲ望ムニアリテ、佛法興隆及ビ天下ノ爲ニハアラズ、梁武帝ノ佛ヲ好ムハコレ又佛ヲカリテ北朝ヲ亡ボサントス、ミナ是妖賊ト云フモノニシテ、天下萬民ノ爲ニモアラズ、亦實ニ佛ニ溺ル、ニモアラズ、唯我身ヲ立ンタメ佛ヲカルノミ、彌以テ憎ムベシ、孔子五百年ノ後ニ、泰伯ノ至德ヲ稱シテ天下コレヲシル、我千年ノ後ニ、太子ノ姦惡ヲシル、ア、天下人ナシ哀ムベシ（太子傳ニ云、二十九年辛巳二月五日、太子命レ妃沐浴セシメ、太子モマタ沐浴シテ、妃ニ謂テ曰、吾今夕遷化矣、子可二共去一、服二新潔衣裳一共ニ臥、明旦太子並妃久シテ而不レ起、左右開二殿戶一、乃知二遷化一云々、コノ書太子ヲ觀音トシ、夫人ヲ勢至トシテ、ソノ外サマ〴〵文ヲ飾ト雖、ナンゾ夫婦同時同床ニ死スルコトアラン、コレヲ諱テアラハニ言ズトイヘドモ、變死タルコトシルベシ、禮ニ曰、男子不レ死二婦人之手一、婦人不レ死二男子之手一、漢土ノ風然リトス、太子聖人ノ道ヲ學バズト雖、夫婦同床一時ニ死ス、ナンゾソノ謂アラン、コレ同日ノ死ヲ蔽ンタメニ、前日ニ其死ヲ知ルノ說ヲナスハ、ミナ回護也、佛家輪回ヲ云ト雖、男ノ女トナリ、女ノ男トナルヲイハズ、四十八願ノ內ニ變生男アレド、勢至ハ女子ト生レ、觀音ハ太子ト生レ、夫婦ニナルコト古今ノ趣向ナリ、近松氏モ恐ルベシ）

五　伊弉諾・伊弉冊ノ二神スデニ國土・山川・草木ヲ生テ、次ニ天下ノ君タルベキモノヲ生ント云テ大日孁貴ノ尊ヲ生ム、其子光華明彩六合ノ內ニ照リ徹ス、亦曰、宇宙ノ珍子ヲ生ム、二神歡テ云、此子高天ケ原ヲシラシムベキナリ、次ニ月讀ノ尊ヲ生ム、其光彩日ニツグユヱニ日ニ配シテ治スベシト云々、

一書ニ曰、左手ニ白銅鏡ヲ持テ日ノ神ヲ生ム、右ノ手ニ白銅鏡ヲ持テ月ノ神ヲ生ム、左ノ目ヲ洗ヒテ日ノ神ヲ生ミ、右ノ目ヲ洗ヒテ月ノ神ヲ生ム云々、二神天下ニ君タルベキモノヲ生ント云テ日ノ神ヲ生ムトキハタトヒ光華照徹スルトモ、宇宙ノ珍子ト歡ブベカラズ、天下ノ君ヲ生ゼムト欲セシニ、女子ヲ生タリト歎ジ玉フベシ、又一書ニハ左リト云、右ト云、月ト云、陰陽オノヅカラ分テリ、漢以上ハ右ヲ貴トミ左ヲ賤トス、スベテ右ハキ、腕也、陰ナルベカラズ、左ハキカズ、陽ナルベカラズ、スデニ歐羅巴ハ右ヲ陽トス、然ドモ舍人王左ヲ尙ブノ說ヲ用ヒ玉フベシ、是ラハミナ舍人親王舊事紀ノ說ヲトリテ女子ノ意ヲ以テ書玉フコトナレドモ、コノ所マデハ行屆ズシテ古說ヲ書玉ヒシナルベシ、何レノ書ニモ、コノ神ヲ女體トコトワリタル處ナシ、唯素盞嗚尊根ノ國ニ行ントスルノトキ、天上ニ昇リテ姉ト相見テ後往ントノ玉フ所ノミニテ姉ノ一字ノミ女體ノ證ナリ（コノ二神日ノ神ヲ生ミテヨロコビ玉フコトヨリ終リニ至ルマデスベテ女子ノコトナシ、素盞嗚ノ姉トノ玉フノミナリ〇日本紀舊事紀トモニ、コノアネノ一字ヲ除テ見レバ、外ニ女クサキコト少モナシ、古事記ニハ姉ノ字ナクシテ、天照大御神ニ相見テト云テ、女ノコト無、然ルニ本居氏陰體ヲ以テ論ズルコトハ、本文トハ違フナリ、古說ニナヅミテ深ク考ヘザルナリ、ア、疎ナル哉）シカレバ前ノ數條ハ太子馬子モ改ルコトアタハズ、スデニコヽニ至リテ一字姉ノ字ヲ用ヒタルナルベシ、又素盞嗚尊ノ神上天ノトキ、日神男子ノ粧ヲカリテ出立玉フト云モ信ズベカラズ、又天ノ安川ニ誓ヒテ、素神大神ノ五百箇ノ御統ヲ乞トリ、天ノ眞名井ニソヽギテ正哉勝勝速日天忍穗耳尊ヲ生ム、大神曰、コノ子汝ガ生ム處ト雖、物ノ種我ヨリ出ル故ニ、我養フテ子トセント云ニテミレバ、忍穗耳ノ尊ハ素神ノ子ニシテ、大神ノ養子ナリ、シカレバ實ノ皇統ハ素尊ノ裔ニシテ、大神ノ

神孫ニ非ズ、（人ノ神代ヲ論ズルヲ無益トシ、笑ヒナガラ、自ラ是ヲ論ジテ狂人ノ迹ヲフミ、皇統ヲ素尊ノ孫トスル推量ニアラズシテ何ゾヤ）ミナ太子馬子ノ姦計ノ作ノ眞ノ舊事紀ニヨリテ日本紀ヲ編セラレシ誤リナリ、國土草木ヲ生ミ、次ニ天下ノ君ヲ生ムホドノ通力自在ノ神ニシテ、コヽニ於テ女子ヲ生ミ玉フコトハ、十分ナラザルコト也、今サラニ此駁ヲ擧ルトキハ、一々辨ゼズトモスムベキコトナレドモ、マヅハ心ニ浮ムマデ斯ノ如クニ書ツラヌルモノ也、イヅレニモ此卷ヲヨム人ハ一段々々ニテ、卷ヲ掩ヒテヨク味フベシ、紛紜錯綜トリシメナキコトヲシラン、必ズ耳ヲ貴ンデ目ヲ賤ルコトナカレ

六　直指ニ云、「人之識ニ先祖子孫一者、亦原ニ其物種一也、雖ニ所レ生爲レ母、而其種在レ父、故同姓族、皆父祖之種也、夫禽獸則知レ母、而不レ知レ父者、不レ原ニ己物根一也、不レ知ニ祖先一、不レ原ニ遠物根一也、今按、施者天也、成者地也、資始者乾之道也、資生者坤之道也、夫根系統脈在レ父、而不レ在レ母、如ニ五男一則日神猶レ父也、素尊者猶レ母也、物根固出ニ于日神一、非ニ日種一而何耶」云々、コレハ日ノ神素神天ノ安川ニ誓ヒテ、素神日神ノ御統ヲ乞テ吹出シ玉フ、忍穗耳ノ尊及ビ四神ヲ解スルノ說也、アヽコレ混雜困窮ノ說、何ノ謂ゾヤ、日神男子ナラバ、コノ論ニ及ブベカラズ、强テ日神ヲ女子トス、ユヱニ左ヘモドリ右ヘノガレ說ヲナス也、父母ナクテ、ナンゾ子ヲ生ゼン（神代ノ卷、ソノ外神學教數百家ノ論說、一言以テコレヲ蔽フ、日神ハ陽體ノミ、日本紀・舊事紀ヲヨマズシテ、始メテ古事記ヲヨミテ見ヨ、天照大神ハ卓然タル男體ニシテ、女クサキコトナシ、シカルニ本居氏古來相傳ノ糟粕ヲナメテ、始メヨリ陰ヲ以テ解ク、本文ニナキコトナリ）神代ニハ氣化心化ヲ云テ。父母ナキ子多シ、コノ所ミナ論ヲナスハ不可ナランカ、五神モトヨリ文面ニテハ素神心化ノ子ナリ、御統ヲ物根トシテ

日神ノ子トス、此所サヘ紛ハシキニ、又支蔓ヲ生ジテ、女ヲ父トシ男ヲ母トス、忍穗耳ノ尊素神ヲ父トスレバ、父ヲシリテ母ヲシラズ、日神ヲ母トスレバ、母ヲシリテ父ヲシラズ、コレ尊ヲ以テ畜獸トスル也、又左ヲ陰トシ、右ヲ陽トシ、日ヲ陰トシ、月ヲ陽トス、女ヲ君トシ、男ヲ臣トス、天下ノ大祖ニシテ陰陽上下ミナ轉倒ス、アヽ一人ノ姦惡天下後世ヲ惑亂ス、悲シムニ堪ズ、又重遠曰、此神始生、然後天地得レ位萬物各明也、故三名皆以レ日奉レ稱、「コノ三名ハ日神・天照大神・大日孁尊ノ三名也、女子ニシテ日ヲ以テ名ヅケ君トス、ナンゾ天地位ヲ得ン、コヽニオイテ安麻呂ノ古事記泰然トシテ獨立ス、素神上天ノコト、天照大神ニ請テ罷ントスト云テ姉ト云ハズ、又一百七十九萬年ノ數モアルナリ、淮南子ノ語モ引ズシテ、漢文ヲ用ヒズ、和文ヲ用ヒテ義理確然タリ、仲哀ヨリ直ニ應神ニ受、神后ヲ代數ニイレズ、コレコノ安麻呂天下古今ノ大忠ナリ、神學者是ヲシラズシテ、先入ニヨリテ妄解ヲナス、本居氏ト云モノ少シクコレヲ知リテ、古事記ノ傳ヲツクリ、日本紀ノ非ヲ始メテ擧ト雖、又日本紀・舊事紀ノ說ニ迷ヒテ大神ヲ陰體トシ、一百七十九萬年ヲ實トス、ソノ餘ノ訓解多ハ口訣日蔭草ノ說ニヨリテ、萬葉集ノ歌ヲ證トシテ解スルコト多シ、スベテ太子ノ姦計ノ毒ニ醉タル人々ノ語ヲ用ヒタルハ、此垢ノトレザルユヱナリ、古事記ト雖、舊事紀ノ毒ト稗田ノ阿禮ガ傳聞ノ誤リニ迷フタル語モ多カラン、然リト雖本居氏ノ卓見ハ、神學者ノ翹楚ト云ベシ、親王ノ撰ヲ刺リ、佛ヲ用ヒザルハ是ナリトス、唯其聖人ヲソシリ皇國ニ夸ルモノ、天下ノ忠ト雖其實ヲ失ヘリ（是甚ダシキ僻說ナリ、其國ニ生レテ其祖ヲ貴シトスルハ、自然ノ人情ナリ、我國ヲ賤シメ異邦ヲ貴

トスル何ゾヤ、儒者ハ理ヲ以テ解ス、人ノ智ハ限リアリ、天地ノコトハ計ルベカラズト雖、亦ミナ一己ノ私智ヲ用ヒテ僻說ヲナスハ、神學者ノ僻ト云ベシ、近キコロ長井定宗ガ本朝通紀ニ、神武曰、(上略)我天神高皇產靈尊(尊ハ天ノ御中主ノ子、天孫ノ外父ナリ)大日孁尊ト云フ、祖母トイハズシテ祖父ト云、心アル哉、神武以來大神ヲ宮中ニ祭ル、崇神ニ至リテ神威ヲオソレ、大和ノ國笠縫ノ里ニ宮ヲ造リテコヽニ祭ル、垂仁ノ皇女大倭姬ノ命コレヲ奉ジ、諸國ニ求メテツヒニ伊勢ノ國五十鈴ノ上ニ祭ル、ソレヨリ今ニ至リテ天下ノ祖廟トナル、シカレバ我日本ノ太祖ニシテ陰體ナルベカラズ、崇神垂仁ヨリ崇峻用明ニ至ル代々ノ天子必ラズ陰體ヲ以テ祭ルベカラザル也、カヘス〲モ天上天下唯我獨尊ノ皇祖ノ神ヲシテ陰體ナラシムルハ、口ヲシキコトニアラズヤ、コレ余ガ發明ニアラズ、野々宮公ノ說ニオイテ我中井氏ノ判ニ成リ、徂徠ノ文通紀ノ語ニ正シテカク云ノミ、ヒトヘニ予ヲ罪スルコトナカレ

七 神代ノ卷卷首ニ云、「古天地未レ剖、陰陽不レ分、渾沌如ニ雞子一、溟涬而含レ牙、及ニ其淸陽者、薄靡而爲レ天、重濁者、淹滯而爲レ地、精妙之合摶易、重濁之凝揭難、故天先成、而地後定」云々、淸陽ヨリ後定ニ至ルハ、淮南子天文訓及ビ三五曆ノ語也、天文曆術ノ文ニハコレヲ引クベケレド、我大日本國史ノ首ニ、諸子ノ中ノカヽル語ヲ引クコト屑トセザル所アリ、安麻呂ノ古事記ハ漢文ヲ用ヒズ、ミナ萬葉ガナニテ書ス、親王ノ日本紀ハカク漢國ノ書中ニテ經書ニモアラズ、遠ク諸子ノ語マデモ引用セラルヽコト、イカヾト云ベシ、漢土ハ盤古氏ノ死後、目ハ日月トナリ、息ハ風雨トナルト云テ、二十

八宿ヲ九州ニ配當シ、天ハ西ニ周リ水ハ東ニ流ル、ナドト、外國ノヿハシラズシテ、上古ハ萬國ミナカクノ如クナレバ、我日本モ我國ノ爲ニ、天地開ケテ清ルモノハ天トナリ、濁ルモノハ地トナリ、其中ニ一物アリテ國常立ノ尊ト云、ソレヨリ伊弉諾・伊弉冊ノ二神國土草木ヲ生ミ玉ヒ、ツヒニ日月ヲ生ミ玉フト云ガゴトシ、日本國常立尊、漢土ノ盤古氏、天竺ノ阿彌陀シナ〳〵コシラヘタルモノニテ、存シテ論ゼザルベシ、然ルニ神代ノ卷ヲ信ジテ回護ノ説ヲナスコト無用ノコトナラン、神武紀云、「及ニ年四十五歲一謂ニ諸兄及子等一曰、昔我天神高皇產靈尊大日靈尊、舉ニ此豐葦原瑞穗國一、而授ニ我天祖彥火瓊瓊杵尊一、於レ是火瓊瓊杵尊闢ニ天門一披ニ雲路一、駈ニ山蹕一以戾止、是時運屬ニ鴻荒一、時鍾ニ草昧一、故蒙以養レ正、治ニ此西偏一、皇祖皇考、乃神乃聖、積レ慶重レ暉、多歷ニ年所一、天祖降迹、以逮ニ于今一一百七十九萬二千四百七十餘歲、而遼遠之地、猶未レ霑ニ於王澤一、遂使ニ邑有レ君、村有レ長、各自分レ疆用相凌躒一、抑又聞ニ於鹽土老翁一曰、東有ニ美地一、青山四周、其中亦有下乘ニ天磐船一飛降者上、余謂、彼地必當レ足下以恢ニ弘天業一光中宅天下上、蓋六合之中心乎、厥飛降者、謂ニ之饒速日一歟、何不ニ就而都上之乎」云々（饒速日ノ命百七十九萬歲ノ昔ニアマクダリテ、今岩舟ニノリテ飛降ス、鹽土老翁ハ彥火々出見ノ尊ニ龍宮ヲヲシユ、ミナ此處ヘヨビ出サレタルハ、近松氏ノ作ニマサレリ）

コレヨリ東征シ筑紫ヲ經、宇佐ヨリ安藝ニ到リ、吉備ヨリ浪華ニ至リ、長髓彥ヲ誅シテツヒニ天下ヲ得テ、大和國橿原ニ都ス、コノ時年五十歲ナレバ、コノ間ヲ九年トス、コノ本文ヲ以テ味フベシ、スベテ漢文ニシテ、歷史ノ文例ナリ、事實ノコトハ漢文ナリトモ、梵語ナリトモ用ユベシ、スデニ祝詞ノ

語ト宣命トハ、後世ニテモ和語ヲ用ユルニアラズヤ、神武ノ時、「鴻荒草昧、蒙以養レ正、乃神乃聖、恢弘」等ノ語アランヤ、コレ即神武ノ語ナリ、又十五立テ太子トナル、又皇帝ノ位ニ即クナドノ語ミナコノ時ノ事ニアラズ、サテ謂フニ天神七代・地神五代ミナ天下ノ君ナリ、殊ニ天神天下ヲシテ、瓊々杵尊ニサヅク、三代ニシテ其ノ太子神武軍ヲオコシテ東征ス、三代天子ナレバ、葺不合尊崩ズレバ、太子（太子四十五歳ニシテ、日向ニテ即位シ、ソノ後東征スレバ、コノ歳ハ神武十年ナリ、父帝崩ジテ翌年即位シテ、後ニ長スネビコヲ征スルトキハ、名正シク言順ニシテ天下官軍ニ従フベシ）位ニ即ベシ、而シテ後東征スベシ、シカルニ長髄彦ヲ誅シテ後、辛酉年春正月、庚辰朔、天皇帝位ニ橿原宮ニ即ク、是歳ヲ天皇ノ元年トス、正妃ヲ尊ンデ皇后トス云々、コノ文ヲ以テミレバ、コレマデハ天子ニテハナクシテ、長髄彦ヲ誅シテ後、帝位ニ即キ玉フ、文ニテハ三代ノ間ハ、日向國ニテ西偏ヲ治メ玉ヒタルバカリニテ、神武東征ノ後、天下ヲ得帝位ニ即セ玉フ事、日本紀文上ニテ明カニ知ル丶コトナリ、シカレバ天神・地神ト號スルノ間ハ、ミナ空論ニテ事實ノナキヲシルベシ、伊弉諾・伊弉冊及素盞嗚・其外ノ神々、畿内中國山陰ナドニアル古迹ハ、ミナ實迹ニアラザルナリ、一百七十九萬ノ年數ハ、コノ時イマダ暦術ナク、年ト云カ（阿彌陀經ニ出タル、西方十萬億土ト云ガゴトクナラン、十萬億土ハ十萬億里カ、一萬里カシルベカラズ、コノ百七十九萬モ亦シルベカラズ）日ト云カ、又是モシルベカラズ、百七十九萬日ト見テモ凡五千年ナリ、又日數ヲヨム人モアルマジ、又正月庚辰ノ朔モ、元日ニ即位スルノ例モアルマジ、甲子ノ名モアルマジ、ミナ後世ヨリノ杜撰ナリ、神武ヨリ以下二十代前後ノ間、暦術ナケレバ干支モアルマジ、推古ノトキニ暦ノ博士來朝スルニテシルベシ、スベテコレラヲ以テ見レバ大カ

タメ親王ノ手ニナリタルモノニテ、古來ノ傳言トテモ斯ク委シクハアルマジキナリ、古ヘハ上ニ立タル人ハ、ミナ上(カミ)ト云、文字渡リテノチニ、神ノ字ヲ入タルナリ、又「ミコト」ト云ミハ御ナリ、ヌツトム言ナリ、コトハ事ナリ、シカレバ御事ト云ノ意ナリ、古ヘハミナ御ヲミト云、山姥ノ謠曲ニコレニマシマス御事(ミコト)ハト云ニテシルベシ、今云旦那樣ノ意ナリ、天子公卿通ジテ貴賤アルナシ、文字渡リテ後天子ニ尊ヲ用、臣下ニ命ヲ用ヒタレドモ（古事記ニハスベテ命ヲ用ヒテ尊ヲ用ユル事ナシ）イマダ謚號ナク、神日本磐余彥天皇、神渟名川耳天皇（コノ二名モ亦謚號ナリ以下コレニナラヘ）ト云シナリ、ユヱニ日本紀撰述マデモコノ號ヲ用ユ、神武・綏靖・安寧・懿德ナドノ謚號ヲ用ユルコトハ後世ニ定メラレシコトナリ、ユヱニ神武ヨリ千年ホドノ間ハ神代ノ名殘ニテ、史ニハイカニ載セタリトモ、ミナコシラヘゴトナリ、勿論神代ノコトハ尚サラニ夢ノ如ク、讀ズシテ然ルベキヲ、アマリ神學者サマ〴〵ニ論ヲ立ル故ニ、止ムコトヲ得ズシテカク云ノミ、スベテ日本紀ノ文ヲソレ〴〵ニ味ヘバ、イヨ〳〵以テ作リゴトナルヲ知ルベシ、又神武ノ言ニ、鹽土老翁ニキク、東ニ美地アリ云々トスルモノハ、天皇ハジメテ中原ノ事ヲ翁ニ聞玉フナリ、二神日神素尊ノ間ニ中原ノ王トナリ、淡海ノ多賀、淡路ノ少宮ニ隱レ玉フ、或ハ出雲ノ國ニハ素盞烏ノ大蛇ヲ平ラゲ玉フ、大己貴ノ出雲ヲ獻ゼラル、天ノ橋立ヲ天ノ浮橋ナリト云語ナド、ミナ實アルコトニ非ザルヲシルベシ、古史通ニ天神七代ノ間、神名ヲ多ク常陸ノ地名ヲ以テ附會ス、マスマス甚シト云ベシ、後世源賴朝以後ハ、武家ノ天下トナリタルニ泥ミテ、義朝ヨリ上六孫王マデヲバ將軍家ノヤウニ思フト同日ノ論

ナリ、二尊始メテ夫婦トナリテ國土草木ヲ生ム、又目ヲアラヒ、或ハ誓ヒテ子ヲ生ズ、古ヘモ人ナリ、今モ人ナリ、魚虫禽獸トイヘドモ、ミナ男女ノ道ハ教ヘズシテコレヲ知ル、何ゾ鶺鴒ヲ待ン、マタ豈此道二尊ニ初マランヤ、神代ニハ人トシテ國土草木ヲ生ミ、マタ父母ノ交リナクシテ子ヲ生ムコト小石ヲヒラフガ如シ、然ルニ天孫瓊々杵尊大山津見ノ神ノ女鹿葦津姫ヲ娶リ、一夜ニシテ娠アリ、天孫信ゼズシテ曰、天神ノ女ト雖豈一夜ニシテ娠コトアランヤ、必我子ニ非ルナリト、ア、天孫一夜ノ幸ニシテ子ヲ娠ヲ疑フ、是ヲ以テ見レバ、交合セズシテ子ヲ生ムコトナキヲシルベシ、天孫ノ父ハ忍穂耳ノ尊ニシテ心化ノ神ナリ、ソノ子トシテコノ言アリ、一是一非トリシメナキヲミルベシ、然ルニ説者曰、神代ノ巻ノ語ハミナ陰陽五行ニ配シ、後世ニ教戒ヲ示スモノナリ、理ヲ推テ論ズベカラズト云、アヤシキ文ヲ作リ却テ後世ヲ惑サンヨリ、無寧言ザルニ愈ルベシ、ソノ上サマ〴〵ニ附會シテ、無稽不急ノ察ヲツクス、何ノ益カアラン、萬物ノ中ニ人ハ唯靈才アリテ他ノ生物ヲ駈使スベシ、故ニ天命ヲ受テ是ガ君トナリ、コレガ師トナリ、臣トナリ、ゼン〴〵ニ備リテ後、君臣・父子・夫婦・長幼・朋友ノ五倫アリテ、五常五教ノ道立テ萬古不易トナル、何ゾソノ外ニアヤシキコトアランヤ、斯民ヤ三代ノ直道ヲ以テ行フ民ナリ、今ヲ以テ古ヲ知ルベキナリ

八　舊事紀ニ云、忍穂耳ノ尊、思兼ノ命ノ妹千々姫ノ命（日本紀ニハ天御中主ノ子、高皇産靈ノ女栲幡千々姫ノ命ト云）ヲ娶テ饒速日ノ尊ヲ生ム、日ノ神コレニ十種ノ寶物ヲアタヘ、高皇産靈尊三十二神ヲソヘテ天降ラシム、饒速日命天ノ磐

船ニノリテ河内國河上哮峯ニ降リテ、大和國鳥見ノ白山ニ遷坐ス、ツヒニ長髄彦ノ妹御炊屋姫ヲ妃トシテ、イマダ産セズシテ饒速日ノ命神去玉フ、遺腹ノ子ヲ宇麻志麻治ノ命ト云、後世神武東征ノトキ、長髄彦コレヲ奉ジテ皇師ヲ防グ、宇麻志麻治ノ命長髄彦ヲ誅シテ歸順ス、物部氏ノ祖コレナリ、シカルニ饒速日ノ命ハ瓊々杵ノ尊ノ御兄ナリ、河内ノ國ニ天降リ、大和國ニ往テ長髄彦ノ妹ヲ娶リ玉ヒ、ソノ妃子ヲ娠ミ、イマダ産セズシテ命薨ジ玉フヲミレバ、各別ノ高年トモミエザルナリ、宇麻志麻治ノ命成長シテ神武ニ歸順シ、物部氏ノ祖トナル、コレモ亦老年トモスベカラズ、長髄彦ノ年トテモ各別ノコトモアルマジキナリ、シカルニソノ後、饒速日ノ命ノ御弟瓊々杵ノ尊日向ノ國ニ天降リ玉フ、四代ノ天孫神武ニ至リテ東征シ、長髄彦ヲ滅ボス、ソノ前ニ神武曰、我天祖降迹ヨリ百七十九萬餘歲ト云、シカレバ長髄彦ハ饒速日ノ命ノ妃ノ兄ナレバ、大テイ同年トミテモ、神武ト戰フトキノ年齡ハ百七十九萬歲ナルベシ、又饒速日ノ命神去玉ヒテ、ソノコト天上ニ聞エ高皇産靈尊カナシミ玉フコトアリテ、ソレヨリ瓊々杵ノ尊ヲ日向ヘ下シ玉ヘバ、饒速日ノ命ノ薨ハ天孫降臨ノ前ニアリ、シカレバソノ時胎内ニアル宇麻志麻治ノ命ノ歲モ、神武ニ歸順ノトキハ百七十九萬歲ナルベシ、コレヲ以テ算ヲ立ルトキハ、百七十九萬ノ年數忽チ破ルベシ、宇麻志麻治ハ天孫ノ甥ナリ、神武ハ天孫ノ四世ノ孫ナリ、ソノ齟齬スル所以ヲミルベシ、ソノ系譜左ノ如シ

天照大神ノ御子

正哉勝々速日天忍穗耳命（マサヤカツカツハヤヒ）

河内國川上ノ哮峰ニ天降リ、長髄彦ノ妹ヲ娶リ姙身シテ未ダ產セズシテ命薨

天火明櫛玉饒速日命

宇麻志麻治命胎中ニ父命薨ズ、長髄彦コレヲ奉ジテ神武ト戰フ、ツヒニ命長髄彦ヲ誅シテ歸順ス、コレ物部氏ノ祖ナリ

天津彥々火瓊々杵尊

日向國高千穗ノ峯ニ降ル、治二天下一三十一萬八千五百四十二年、日向ノ可愛山ニ葬ル

彥火々出見尊

治二天下一六十三萬七千八百九十三年、日向ノ高屋山ニ葬ル

治二天下一八十三萬六千四十二年、日向ノ吾平山ニ葬ル

彥波瀲武鸕鷀草不合尊（ナギサタケ）──神日本磐余彥尊（カンマトイハアレヒコノ）──神武天皇

日向國ヨリ東征シ、大和國橿原ニ都ス、治二天下一七十六年壽百二十七歲

八十三萬歲長壽神ノ御子ニシテ百二十七歲ノ夭死アヤシムベシ

コノ三代ノ年數合百七十九萬二千四百七十七年

宇麻志麻治ノ命歸順ノトキ、大テイ百歲トシテモ、天祖降迹ヨリ百年ナリ、ソノ間ニ鹽土老翁モアレバカヽルモノナルベシ、シカルニ天祖ノ降迹ヨリ三代ナレバ、神武ノ話モ立テ、萬ノ一字ヲ誤トミレバ、百七十九年トシテ、サツパリト何方モスムベシ、然レドモソレニテハ宇マシマ治ハ百八九十歲トナルナリ

コレヲ以テ算ヲ起シ三國史（三國史ヘ日本紀、舊事紀、古事記也）ノ文ヲ考ヘ其妄ヲ知ルベシ、歷々ノ神學者此百七十九萬年ヲ實ナリト心得、又實ニ山川草木ヲ生ミ、日ヲ洗ヒ鏡ヲモチテ子ヲウム事アリシト思フ、イマダ國土モシカト生得ルヤ得ザル內ニ、天ノ浮橋・天ノ瓊矛・白銅鏡ノアルハ（天ノ橋立ハ水ニ浮ム所カクノゴトク、長二千二百餘丈巾十丈バカリアリト雖、海底ヘタレテ虹ノゴトシ、橋立ト云ニ合セテ、浮タルモノトス、ソノ處ヘ行テミルベシ、倚切ニシタル圖カクノ如シ、神道者ノ日本ノコトヲ言島々ノコトヲ論ズル、ミナ水ヨリ上ヲ以テ云テ、ソノ底ヲシラズ、アサハカナル哉）イカン、大工鍛冶鑄物師ノ先ニ生レタルヤ、ソノ銅鐵ハ何レノ山ヨリ掘出セシヤ、コレラノコトヲ辨ゼズシテ、徒ニ不急ノ禁

無用ノ辨ヲナス、アヽ愚ナル哉、一條禪閤ノ纂疏、天ノ浮橋ハ丹後國天ノ橋立ナリ、長二千二百二十九丈、廣九十九丈或ハ二十丈也云々、本居氏曰、コレハ梯階ノ立テアリシヲ、神ノ御寢坐間ニ橫タハリタルナリト、又曰、天ノ浮橋ハ天ト地トノ間ヲ、神タチ登リ降リ通ヒ玉フ道ニカケタル橋ナリ、又倭ノ國天ノ香具山、播磨國賀古郡益氣ノ里ノ八十橋、コレラミナ上古ノ天ニ往來シタル橋ナリ、神代ニハ天ニ昇リ降ル橋コヽカシコニアリケン云々、天ノ梯立ハ木ニ非ズ、石ニアラズ、土ナリ（丹後風土記ニ云、「與佐郡有二速石里一、北里之海有二長大石一、前長二千二百五十丈」ナリト、此說ニテハ石ナルベケレドモ、我モ行テ之ヲ見ルニ、松樹深深タルニ、地ハ小石土砂ナリ　本居氏曰、天ノ瓊矛ナド天ト云ハ、ミナ天ニテツクリシモノナリ、後國ニテソレヲナラヒテツクリ出スモノ多シト、是モマタ天ニ鍛治アリトスルカ、マタハカミノ靈異奇妙ニテ作リ玉フカ、）古ヘ土ノ橋天ヘ向ケテ立テアリシトハ、腹スヂヲヨリテ笑フベシ、瓊矛ハ纂疏ニ云、天神ノ寶戈ナリ、刺レ賊ノ具也云々、又八股ノ大蛇尾ニ寶劍アリ、コレヲ以テミレバ、此トキスデニ天地開闢ヨリ星霜ヲ經タルコト知ルベシ、天地此トキニ開ケタルニ非ザルナリ、唯神代卷ノ說ハ古來相傳ノ說ニシテ、丹州播州ノ說ト同ジク見テ讀捨ベキコトナリ、又禪閤ノ佛說ヲマジヘテ解スルモノハ、見ルモ中々イトフベキコトナリ、ユヱニ論ズルニ及バズ

九　日神月神蛭子素盞ノ四神ハ、諾册ノ二神初メテ夫婦トナリテ生ズル處ノ子ニシテ（コノ章ノ駁ハ、實ハ神代ノトキハ鴻荒ニシテ、政刑トヾカザレバ山賊ナドモアルベシ、ソレハ勿論ナリトイヘドモ、二神ハジメテ夫婦トナルト云コトナイハザレバスムコトナリ、二神ハジメテ交合スルニ、同時代個地ニ又夫婦アリテ數子アリ、山賊アリテ婦女ヲカスム、シカレバソノ前ヨリ交合ノ道アルコトハ

シルベシ、後ニ始メテト云、コヽニ婦女ナカスムト云ヲ敗スルナリ、始テ夫婦トナルノ語傳ナシルベシ〻（天神七代、二神ノ代、日ノ神ノ代、日向ニ天降リノ後、神武ノ國初三四代八九代十一二代神功ノ代、大キニ時代カハル、シカルニ本居氏コレヲ僉トク、アヽ謬ナル哉）天下ノ子ノハジメナリ、素盞ノ出雲ニ行キ手摩乳足摩乳ニ逢フ二人曰、コレハ吾兒稻田姫ナリ、先ニ生ム所ノ七女ミナ八岐ノ大蛇ニトラルト云、同時代ニ遠地ノ夫婦ニ數子アリ、二神初メテ夫婦トナルニアラザルナリ、弘仁私記ニ云、大蛇ハ賊ノ號ニシテ、實ニ大蛇ヲ云ニアラズ、（多田義俊此語ヲ引）神武紀ノ土蛛トアルモ人ナリ、天子ヲ龍ニ比スルコト易ニアリテ、日本ニモ自然ト是ヲ稱スルナルベシ、ユヱニ山賊ホコリテ天子ニ擬シ蛇ト云ナリ、後世ニテイハヾ、平將門ナドガ東國ニ內裏ヲ造リ官員ヲ設ケシゴトクナラン、大勢ノ臣ドヲ具シテ朝敵トナルナリ、近國ノ婦女ヲカスメ財寶ヲ奪フナリト云、素尊ノトキカクノ如ク、朝敵山賊ノ婦女ヲ掠ムルコトイブカシ、スデニ二神ヨリ初メテ夫婦ノ道アリ、洪荒ノ世ニカカルコトアルベカラズ、スベテ本居ニテモ神代ノ書ヲトクトキニ、上代ハカクアリシト云コトハ、ミナ王代ノ中古ノコトナリ、天地開闢ソノハジメトハ、王代ノトキトハ大キニ事カハルベシ、何ゾ王代ノ國アリト時ノ風ヲ以テ神代ヲ解シ、山賊ノ說モ猶コレナリ、龍宮ノコトヲ本居氏實ニ海底ニ國アリトス、然ルニ海中ニ井アリ玉アリ、玉ノ瓶ヲ以テ水ヲ汲ム、ヨク〳〵思ヒ合スベシ、宮殿樓閣ハ措テ論ゼズ、水中ニ井アリテ、又ツルベニテ水ヲ汲コトハ何ノ謂ヲシラズ、スベテ此類ナリ

十　國ノヒラクルハ文字アルヲ以ナリ、文字ナケレバ、國アレドモ無ガ如シ、今王公豪姓ノ姓氏系譜ソレ〳〵ニ分明ナリト雖、匹夫庶民ノ姓氏ハ二三代アルヒハ四五代ノ前迄ハ知トイヘドモ、ソレヨリマ

ヘハ知ベカラズ。書ノコシオケバ明白ナリ、殘ザレバ明白ナラズ、然バ文字アル國ト雖、書殘サヾレバ文字ナキガ如シ、其祖先イカンヲ知ザルナリ（日本神代ト云モノ、空虚ノ論ニシテ云ニタラズ、大テイ神武ノ東征以後ヲ實トスベシ、神武ヨリ三五代マヘハ、日向ノ國人ナリ、中原ニハ長髓彦アリ、ソレヨリ外ニモ人口アルベシ、ソレヨリ國々ニ主アルベシ、ソノ間イク千年モアルベシ、今處々ニワケモシレザル冢穴ナドアルハ、ミナ神武以前ノ古墳ノ古迹ナラン）文字アリテスラ斯ノ如シ、況ンヤ文字ナキ太古ヲヤ、今ノ諸侯ト雖、織田・豐臣ノ家ニ興リタル家々ハ其系圖正シキアリ、マタ正シカラザルアリ、スデニ以テ彼太閤ノ祖父ヲ知ラズ、是何ガ爲ゾヤ、先祖ノ法號忌日、又ハ系譜ヲ書ノコストキハ、ソレヨリ連綿トシテ分明ナリ、殘サヾレバ知ルコトナシ、俄ニ侯伯トナリ、或ハ富豪トナリテ系譜ヲ正ストモ得ベカラザルナリ、日本應神ノ世ヨリ文字渡リテ、今ニ至リテ千四五百年ノコトハ事實明ラカナリ、ソレサヘ傳ハリカヌルナリ、舊事紀本書ノゴトキ以テ見ルベシ、神武ヨリ應神マデ千年ノコトハ、聞傳ヘ言傳ヘタルマヽニテ、書籍ナケレバ知ルベカラズ、タトヒコノ言傳フトモ、三代五代ノ事也、五百年七百年ニ至リテハ、何ヲ以テカ之ヲシラン、今ヨリクリ上テ保元・平治ノ時代ノコト、書ヲ讀モノハ知ルベシ、ソレトテモ遠海深山ノコトハ知ルベカラズ、ワヅカ二百年ニ足ラズシテノ今ノ天下ノ大義ニカヽハル大坂戰爭ノコトニテモ、紛々トシテ分ラザルコト多キナラズヤ、シカレバ天神七代地神五代ノ說アリト雖、ナンゾ是ヲシラン、中原ニハ長髓彦アリ、ソレヨリ以前幾千萬年、盛衰沿革治亂興亡アルベケレドモ、書ナキ故ニシルコトアタハズ、コレ以テ見レバ、文字ノ出ルハ國ノ開クルナリ、文字ナキ間ハ、國アレドモ無ガ如シトシルベシ、然リト雖モ君臣・父子・夫婦ノ道、

世業ノコトハアルベキナリ、漢土ヨリ天竺「ハルシヤ」「アラビヤ」「ジウデヤ」「ナトリヤ」「韃靼」ヨリ西洋「アフリカ」ヘツヾキテハ、ソノ徑リ凡四五千里ナリ、カヽル地ツヾキアルベカラズ、中ニモ「ジウデヤ」ハ六千年ノ前ニ文字ヲ製ス、漢土ハ黄帝ノトキヨリシテ四千年餘、天竺釋迦ノトキスデニ文字アレバ、凡三千年ナラン、日本ハ千四百年、ソレヨリ小島ニ至リテハ遲ク開ケ、文字モオソク製スベシ、イマダ文字ノナキ國モアルベシ、已ニ以テ蝦夷國ヲ見ルベシ、ソノ餘今ニ文字ナキ國アラバ、二三代ノ間ハ傳ヘ見タル人ハ知ルベシ、ソノ外ハシルベカラズ、シカレバ國ノ開闢ハ書ニヨルモノトシルベシ

十一　天照大神ヲ呉ノ泰伯（ミノ、國クロ讖ノ渤書ト云モノ、眞ノ舊事紀ナリトノ、シリテアラハス處ノ書、呉ノ泰伯トス、林氏コレヲ取、ソノ證トスル處ミナ無稽ナリ）ト云コト無稽ノコトニテ、論ズルニ足ラズト雖、近年コノ說ヲ主トシテ書ヲツクル人モアレバ、辨ゼズンバアルベカラズ、一ヲ以テ知ルベシ、泰伯スデニ文字ヲ知ル、日本ヘ渡リテ國ヲ開クモノナラバ、何ゾ文字ヲヒロメザルヤ、天下ノアラハルヽハ文字ニヨル、文字シリテノ後ハ、イカニ韜晦ストモ得ベカラズ、殊ニシラズ史記ニ泰伯死シテ子ナシ、弟虞仲繼グト呉ノ世家ニクハシキヲヤ

十二　伊勢神庫ニ五部ノ秘書ト云テ、神宮第一ノ書アリ、イハユル倭姬命世紀・寶基本紀・鎭座本紀・鎭座傳記・鎭座次第記ナリ、此書ミナ後人ノ僞作ニシテ、佛說ヲ多ク取用ユ、然ルニ當時サカンニ神學ヲ唱フ人、マヅ此書ヲ校正セズシテ、徒ニ神代ノコトヲ云、神德ヲ汚ス、ナゲクベシ、コノ書中古マデ

ハ秘シテ出サヾリシニ、往々寫シ取リテ今專ラ流布ス、抑カヽル大切ノ書ニテ、佛ニ混ズルコトハイカナルコトゾヤ、スベテ上古ノ神託靈異ト云モノ、ミナ佛ニ似タルコト多シ、ソレユヱツヒニハ時ノ天子ノ陷惑ニ付込、行基・弘法ノ族コレヲ習合シ、本地因緣ヲ立テ、汚穢セシムルモノナリ、始天照大神々鏡ヲ以テ瓊々杵ノ尊ニ授ケ、コノ鏡ヲ見ルコト猶我ヲ見ルガ如クスベシトノ玉フユヱニ、代々ノ天子コノ神鏡ヲ內殿ニ祭リテ怠慢ナシ、崇神ニ至リテ神威ヲ畏レ、大和ノ國笠縫ノ里ニ宮殿ヲ營ミ遷坐シ玉フ、此所ニ坐スコト三十四年、ソレヨリ丹後ノ國與謝ノ宮ニ四年、大和ノ國伊豆加志ニ八年、紀伊ノ奈久佐ニ三年、吉備ノ名方ニ四年、大和ノ宇多ニ四年、伊賀ノ隱市ニ二年、同穴穗ニ四年、同敢都美惠ニ二年、淡路ノ甲賀日雲ニ四年、同坂田ニ二年、美濃ノ伊久良川ニ四年、伊勢ノ桑名野代ニ四年、阿左迦ノ藤方ニ四年、同飯野ニ三年、伊勢ノ伊蘇ニ三年、コレヨリ同國度會五十鈴川ノ上ニ鎭座シ玉フ、實ニ垂仁帝ノ二十五年ナリ、(初崇神ノ皇女ヲ以テ齋宮トス、コノトキ豐鍬入姫命ヲ退ケ、倭姫命ニ代ラシム) 崇神六年、ソレヨリ同國度會ニイマスコト八十九年也、コノ諸國遍歷ノコトハ、何ノ爲ナルヤ知ルベカラズ、(コノ諸國遍歷ノコト五部ノ書ニ出デ、日本紀ニ見エザレバ、コノコトモ正實ナルヤシルベカラズ) 然ルニ他ノ宮未考、マヅ丹後ノ與佐ノ宮ハ、初ヨリ豐受大神ノ坐ス宮ナリ、等由宇氣大神ハ神代ノ卷ニミエズ、古事記・舊事紀・並ニ伊弉冊ノ尊病ニ臥テ化生スル、神稚彥靈神子豐宇氣比女神コレ也、コレハ日ノ神高天原ニ坐ス時、御饌食ヲ奉リシ神ニシテ、御饌(ミケ)食津神ト云(コヽニ御饌食ノ神豐受大神トアレバ、膳神ナリ、天ノ御中主國常立ノ尊神ニナンゾ御食物ヲ司ドラシメン、本文ニハカクアリテ、外宮神體ノ條ニハ、國常立トシミギトス、アヤシムベシ、)(日本紀雄略二十一年二年ニコノ事アルナシ) 又保食神トモ云、鎭座

傳記、本紀・次第記・寶基本紀・倭姫世紀並ニ曰、國常立ノ尊也、鎭座又瓊々杵尊ヲ相殿トス、又天ノ御中主ノ尊ナリト雖、何レニモ分ツベカラズ、然ルニ秘書並ニ云、雄略天皇二十一年丁巳冬十月朔、倭姫ノ命夢覺玉ヒテ宣ハク、皇太神吾一所ニ坐ネバ、御饌モ安ク聞シ食ス、丹波ノ國與佐ノ郡小見比沼ノ眞名井ノ原ニ坐ス御饌都神。止由氣皇大神ヲ我坐ス國ヘト欲スト誨覺シ玉フト、則チ大若子ノ命ヲ以テ奏上ス、天皇モ亦同ジク夢ミ玉ヒテ、ソレヨリ山田ガ原ニ宮ヲ營ミコレニ鎭坐ス（外宮ヲ營ン爲ナラバ、垂仁ノトキ內宮造營ニツヅキテ作リ玉フベシ、ソレガ爲メニ五百年ノ長壽モ又チカシ）シカルニ此大神ノコトウヤウヤシク五部ノ書ニミエテ、日本紀ニ見ルコトナク、古事記・舊事紀ニハ、國常立天御中主トハ別神ナリ、又外宮末社ニ酒殿ノ神ヲ御饌食神トス、本居氏是ヲ辨ジテ委シ、コレハ案ズルニ山田ノ原ノ宮ハ御饌ノ神ヲ迎ヘテ、內宮ノ御旅所ノゴトク營ミ玉フナルベシ、然ルヲ年々歲々ニ外宮ノ神主等神威ヲ尊クシ內宮ニ擬センガ爲ニ、五部ノ書ヲ作リテ人シレズ神庫ニ納メ置タルモノナルベシ、天下ノ宗廟ニシテ其神體ノ分明ナラザル何事ゾヤ、コレミナ前ニ云如ク、唯文字ナクシテ口ヅカラ云出シタルコト故、カクノゴトクナランカ、シカレドモ雄略ノ時ハスデニ文字アリ、イカンヲシラザレドモ、大抵後世外宮ノ神主ノ僞作ニ違ヒアルマジキナリ、コノ倭姫ノ命垂仁ノトキヨリ今ニ至リテ、五百歲ノ壽ヲ得玉フコトコソ不思議ナレ、コレモ亦同名異人ニテ、一人ナルベカラズ、既ニ雄略廿一年夢ノ告アリテ、二十二年ニ遷坐アリ、ソノ十一月ニ新嘗會アリテ、其夜倭姫ノ命二所大神ノ託宣ヲ神主物忌等ニ告ヲハリテ、自カラ尾上山ノ峯ニ退キテ薨ジ

玉フモ不審ナリ、シカレバ此外宮ヲ營ンガ爲ニ長生シテ、モハヤ其功ヲハリテ、其年ニ薨ジ玉フモ不審ナリ、サテ又大神宮モスデニ內宮鎭坐ヨリ四百八十三年ヲ經テ後、豐受大神ヲシタヒ玉フモヲカシ、何レニモコレラノコト、イヨ〳〵合點ノ行ザルコトナリ、五部ノ秘書ハウルサキホド書レドモ、又文獻タラズシテ書モ亦缺文アリ、コレラノコトサトスベカラズ、シカルニコノ書ノ內ニ題シテ曰、豐受皇大神宮御鎭坐本紀。伊勢二所皇大神宮御鎭坐傳記。天照坐伊勢二所皇大神宮御鎭坐次第記。造伊勢二所大神宮寶基本紀、カクノゴトク長ク題シタルガ、天照ニ坐ストイヘバ天照ヲ地名トスルナリ、本紀ニ豐受皇ト云、ソノ餘ハ二所ト云、造伊勢ノ題號モ亦六カシキナリ、イヅレニモ此書淺學ノ作ナリ、スベテ上古ノ神神ハミナ神ヨリ乞テ祭ラル、コトヲ求ム、三社ノ託モ亦シカリ、コノ書猶サラ甚シ、鎭坐本紀ノ終ニ書ス「于レ時大佐々命乙乃古ノ命蒙ニ勅宣一奉記。己酉歲乙乃古命二男大神主飛鳥記レ之」ト云、大佐々命ハ雄略ノトキノ神主也、飛鳥ハ繼體ノトキノ神主也、然レバ佛法ノ渡リタルヨリハルカ前ナリ、シカルニ佛法ノ息ヲ屛ケヨト云ハイカニ、又佛ヲ忌詞ノ內ノ七言外ノ七言ヲ製ス、ナンゾ此トキニ佛法ヲ屛ケイマン、又忌詞アルカトスレバ、傳記ハ輪王。龍神。日天子。月天子。日天。月天。夜叉神ノ福田。天象。地輪。地大。水大。風大。火大。金剛神。龍王。寶樹。廣大。慈悲。八大龍王ノ語アリ、ミナ佛語ナリ、大日靈貴女ノ註ニ、爲レ度ニ衆生一ノ句アリ、多賀ノ宮ノ註ニ、左ノ目ヲ洗ヒ日天子ヲ生ム、是大日靈女貴ナリ、右ノ目ヲ洗ヒテ月天子ヲウム、是天ノ御中主ノ尊ナリ、コレハ月ヨミノ命ト

御中主ノ尊ト誤リタルアリ、御中主ハスデニ古事記ニ、國常立ノ前ニアリテ、伊弉諾册ノ子ニアラザルナリ、實基本紀ニ曰、「沈ニ生死之長夜闇一、吟ニ根國底國一、因レ茲泰レ代ニ西天神人一、以ニ苦心一誨諭、敎不レ修レ善、隨レ器授レ法」ノ文アリ、日神釋迦ニ代リテ誨諭スト云テ、ツヒニ其語ヲ聞カズ、ソノ餘拙文部句附會妄説云ベカラズ、大佐々ノ命飛鳥ノ販書アレバ古キ書ナルベキニ、却テ多ク日本紀・舊事紀・古事記ノ文ヲトリテ、ソノ外サマ〴〵ノ語アリテ、皆倭姬ノ造語カトオモヘバ、ソレダニ時世ニ應ゼズ、悉皆後世ノ僞作リノ臆説ノミ噫（豐受大神ヲ天ノ御中主尊又ハ國常立ノ尊ト云フコトハ古書ニナシ、唯五部ノ書ニアリ、ソノ外五部ノ書ハ外宮ノコトヲ重クカキタリシカバ、コノ書外宮ノ神主ノ作ナルベシ）（後世ニ御カゲマイリト云コト二十年三十年目ニハヤリ出スコトアリ、ホトンド狂ノゴトシ、ナンゾ天照大神ニシテカクノゴトク時々ニ發シ玉フヤ、コノ時モ亦カクノゴトシ、四百八十年スギテ俄ニ豐受大神ヲシタヒ玉フモイブカシ）

十三　伊弉諾伊弉册ノ二尊始メテ夫婦ノ道ヲナシテ、國土草木ヲ生ム、ソレ迄天神六代ノ間、地神三代ノ年數ニテ見レバ、幾千萬年ハカルベカラズ、シカルニ六代九神及ソノ餘ノ神々ハ、虛空中ニ居玉ヒシナルベシ、二尊始メテ國土ヲ生ミテ後、ソノ國土ノ君タルベキモノヲ生ゼント云テ、日ノ神・月ノ神・蛭兒・素盞烏ヲ生ム、コレ交接ニヨリテ子ヲ生ズル始ナリ、シカレバコノトキイマダ萬民ナカルベシ、ソレ臣アリテ後君アリ、臣民ナクシテ誰レカ是ヲ君ト云ハン、自カラ稱シテ君ト云フベキヤ、コノ時マデ夫婦ノ道ナケレバ、二尊ノ外ニ夫婦アルナシ、四神ノ外ニ子ナカルベシ、父母兄弟シメテ六人ナリ、卷中ニアル神々ハミナ造化氣化ノ神ナリ、然バ則君アリテモ治ムベキ民ナク、食フベキ小人ナシ君トシテ何ヲカシリ、何ヲカ治メン、詩ニ云、「天生ニ烝民一、有レ物有レ則」、書ニ云、「天降ニ下民一、作ニ

之君一、作二之師一、」孟子云、「君爲レ輕、社稷次レ之、民爲レ重、」コレ民アリテ後君アルナリ、作ハ作爲ナリ、民アリテノチ君ヲコシラヘヲサムルナリ、國土アリテ生物アリ、人ハコレガ長タリ、シカレドモ教モナク禮モナケレバ禽獸ニチカク、飽食逸居シテ爭鬪ヤムコトナシ、ユヱニ衆人ノ中ヨリ仁智アルヒトヲ君トシ師トシ、能アルモノヲ臣トシ、コレヲシテコレヲヲサム、君師臣民ノヨッテオコル所ナリ、ソレヨリシテノチアルヒハ受禪シ或ハ放伐シテ君トナル、コレ自然ノ勢ナリ、シカレバ則チ民アリテノチ君ヲタテ師ヲ立ルナリ、民ナクシテ誰カ君トイフベキ、コノ時イマダ民ナクテ天下ニ君タルモノヲ生ゼントノタマフベキヤ、シカラバ始ヨリ民アリ、ユヱニ君ヲ生ムナリ、凡國土アリテノチ人アリ、人アリテノチ君アリ、コレ順ナリ、君アリテノチ人アリ、人アリテ後國土アリトイフハ、子アリテノチ父アリトイフ如シ、コレ逆ナリ、順ハアルベシ逆ハアルマジキナリ、スベテ神代ノ卷ハ逆ナリ、物ノ初ハ上下ノ差別ナシ、ユヱニ自々各々心々ニシテアラソヒテヤマズ、君ヲ立テコレヲヲサメザレバ得ベカラズ、ソレヨリシテ君ヲタツル、コレ自然ノ理ナリ、按ズルニワガ日本神武東征ノムカシ、上代ノコト幾千萬年ヲシラズ、大八洲ノ國々、ミナ當今ノ蝦夷ノゴトクニシテ、君ナク長ナク、自々オノ〳〵爭ヒテ過行キシニ、ダン〳〵ニ沿革アリテ長髓彦ノトキニイタリテハ、神武ノ語ノゴトク邑ニ君アリ、村ニ長アリテ相シノグヤウニナリタルナラン、コノトキ日向ノ國ニ坐ス神武帝、東方ニ國アルコトヲシリテ征伐シ、天下ヲ得タマフナリ、コレヨリ外ニ說アルベカラズ、神代ノ卷ハミナ

訛言ニテ、イヒツタヘタルコトヲ引上テ書タルノミニテ、皆其祖先ヲ聞ツタヘテ書王ツモノナリ、神武ノトキニ文字アラバ記錄アルベキニ、ソレヨリ千年ノ後ニ文字ワタリタルユヱ、マタ千年ノノチヨリ書キ記スコトユヱ、何ゾ實ヲ得ベキ、スデニ孝靈ノトキ、近江ノ湖水。駿河ノ富士一夜ニ出タリトイフコトハ、神學者ハイガヾ判辨スベキ、決シテ無キコトトスベシ、文字渡リテ四五百年ノ前スラ此如ク、况ヤ千萬年前ノコトヲヤ、神代ノ卷ヲ實トシテ論ズル人ハ、此湖水富士モ實トスベシ、丹播ノ話モ亦同ジ、然レバナンゾ煩シク神代ノ事ヲ一々ニ擧テ論ジ、嫗婆兒童ノ見識ノ人々ト爭ハン、オトナゲナシト雖、歷々ノ輩クビソラシテ、誠シヤカニ論ジテ衆人ヲ迷ハス人ノ爲ニカクノゴトク呶々スルノミ、苟クモ余ヲ譏ルコト勿レ

十四　和學者多ク上古ノコトニ、義理敎訓ヲ加ヘテ論ズ、神代ノ卷ノ煩ハシク理ヲ云テ、天神地神ノ神々ヲ一々ニ五行ニワリ付テ、無理ニ相生相克ノ理ニ引付ントス、又ハ其名ニマデモ理ヲ付ル、ナンンゾソノ神々ノ先代ハ木德ナリ、コノ次ハ火德ナラデハ生ル、コトナラザルナド煩ハシク巧ミテ化生センヤ、モシヤ五行ニ配當シテ、人ノ思フトホリニ化生スルモノナラバ、イヨ〳〵以テソノコシラヘタルモノヲ辨ズベシ、コノ神々ハ實ニ形體アル神ナラバ、尙サラ生レナガラノ神ナリ、名モソノトキニ二郞トナリトモ、三郞トナリトモ號ズベシ。ナンゾカヽル淳朴ノトキニ義理穿鑿シテ五行ニ配シ、或ハ後世ノ反切熟字ヲ吟味スル如クニアランヤ、吾スデニ金神ヲ生ム、此次ハ水神ヲ生ベシトノ

意ハアルベカラズ、生ルヽ子ハ生ルヽマヽナリ、男女賢愚父母ノマヽナルベカラズ、スデニ二尊日ノ神。月ノ神ヲ生ム、次ニハ不具ノ蛭子、無状ノ素尊ヲ生ムニアラズヤ、ナンゾ此時ニ一々後世ノ教戒ニナルヤ否ヤヲ考テ、或ハ名ヅケ、或ハ行ハンヤ、鴻荒ノ世カク煩ハシカラザルナリ、伊勢ノ宮居ハ儉ヲ示ス、土器磁器ヲ用ヒ、三杵半ノ飯ヲ用ヒ、荒木作リノ柱ヲ用ユルノルイハ、後世ノ教戒ニアラズ、ミナ其トキノ風俗ナリ、イセノ宮居ハ垂仁帝ノトキニ作リシナリ、ソノ時ハ天子ニテモ、一代一代ニ遷都アルヲ見レバ、質素ノ殿造リカネテシルベシ、時ノ風ヲ以テ宮ヲ造ル、ソノ後古式ヲ改メズシテ、ソノ儘ニ造營スルハ亦日本ノ風ナリ、コトニ右ノ宮居ハ天子ノ詔ヲ以テ造ルナリ、大神ノ好ノミニアラズ、時ノ風ナリ、スデニ足利時代ノ衣服器物ヲ以テミレバ、今日トハ大ニ疎ナリ、コレモ亦儉ヲ示スヤ、神明ノ宮居モ仁徳時代ノ質素ヨリミレバ、ズイブン美麗ノ宮ナルベシ、古式ヲ用ユルハ日本ノ風ニシテ、後世ノ宮廟ハミナ其時代々々ノ風アレド、又ソノマヽニテ造營スル故ニ、後世ノ新祠ホド美麗ナルナリ、後世ニ古式ヲ用ヒラルヽヲ以テ、儉ヲ示スト云ハヾ可ナランカ、古ハ手ニテ食ヒ、木ノ葉ニ盛リ、穴ニ居シヨリミレバ、萱葺土器磁器ハ結構ト云ベシ、シカルニ其萱葺土器磁器ヲ以テ、今ニオイテ大禮ニ用ヒラルヽハ、コレコソ儉ヲ示サルヽナリ、有ガタキコトナルベケレ、上世ニ御心ヲ用ヒテ儉ヲ示サルヽト云ハヾ、古聖ヘ對シテ忠言ナルベケレド、ソレニテハ最屓ノ引ダホシニナルナリ、仁徳ノ宮室ハ時ノ風ナリ、三年ノ貢浪華ト菟道ト互ニ讓リ玉フコトヨリ、漁師ノ苞苴ヲ途中ニナゲテ

泣タルコトナド思ヒ合スベシ、今時ニテハ千石ノ武家ニテモナキコトナリ、コレラノ事モ仁德ノ後世ヘ示サン爲ニ、ワザトナシ玉フニハアラザルナリ、古ヘハ先帝崩ジ、太子其自宮ニテ位ニツキテ、ソノマヽ都トス、百官モマタソノ都ヘ移ルモアルベシ、近キハソノマヽ通フナルベシ、其質素斯ノ如シ

十五　多田義俊字ハ政仲、進藏ト稱ス、又左門、又兵部、後ニ姓ヲ桂ト改ム、春塘、又秋齋、南嶺子ト號ス、多田氏ノ問、神書ヲ講ジテ、伊勢ニアリテ神庫ノ秘書ヲ見テ、ツヒニ宮川日記ヲアラハシテ、ソノ非禮非義ヲ極メ云コト明白ナリ、五部ノ書ノ非ヲ擧、岩戶ヲ近年コシラヘタル根元ヲ云、一時ノ豪ト云ベシ、シカルニ神代ノ卷口義ニ至リテハ、亦附會虛說至ラザル所ナシ、宮川日記トハ大ニカハレリ、秋齋間話・南嶺子舊事紀僞書考・獸肉論ノゴトキハ、ミルベキアルナリ、スベテ神學者流神代ノ卷ヲ實トセザルハナシ、返ス〳〵モヲシキコトナリ、故ニクリカヘシ云ノミ

十六　盤古ノ昔神代ノ古ヘ、イマダ天地ノ渾圓ナルヲシラズ、故ニ目ニ見エタル所ヲ以テ云フノミ、親王ノ述作ノトキハ、渾天ノコトハシルトイヘドモ、地球ノコトハイマダシラズ、淮南トイヘドモ又然リ、淮南王ノトキヨリヤウ〳〵天ノ渾ナルヲシリテ、日月食ヲハカル、オヒ〳〵五星ヲ推歩シテ、天文ヒラクルト雖、地球ノコトヲ知リ漢ニシルハ三百年バカリノミ、淮南王ハ漢ノ諸王ニシテ凡二千年ニ及、スデニコレヨリ前ニ、易ニ曰、天ハ圓ニシテ地ハ方ナリト神代ノトキハイヨ〳〵以テ漢土天竺アルコトモシラズ、三韓ヲ知ラザルニテ考フベシ、中古ノ如キハ地ノヒロサハシルト雖、地球ノコトヲシラザレバ、天ハ上ニアリ地ハ下ニアリ、四方ハハテナキモノト心得タルユヱニ、淸陽ハ天トナリ、重濁ハ地トナルノ說アルナリ、中世日本漢土天竺ノ地ツヾキノ

コト分リタラバ、大八洲ヲ生ム、日月ヲ生ムノ說ハ自然ト虚ナルヲシルベシ、渾天地球ノコト分リタラバ、イヨ〱明白ニシテ、佛家須彌ノ說モソノ妄ヲシルベシ、然ルニ今ニオイテ古說ヲマモリサトラザル人々ハ、三歳ノ癖カナシムベシ、二神スデニ大八洲ヲウム、ミナ名アリ、四國九州ハトリワケ神ノ名ナリ、スデニ國ヲウム、ユヱニコレヲテラスノ日月星辰ヲ生ムベシ、コレ生ムト云ハ字ヲカルナリ、造爲シコシラヘルナリ、九州四國ニ神名アリトイヘドモ、生テ働クコトナシ、日月モ亦シカリ、日月ノ所業ヲナシテ萬國ヲテラスベシ、何ゾモノ云働キテ、子ヲ生ジテ國ヲ治メン、ソノ本ハ天命ト云ニ歸シ、天子ト云ヲ實ニスルノミ、然ルニ理ヲ付スゴシテ、或ハ神トシ日輪トシ、遂ニ陰體トスルニ至ル、莊子ノ寓言ノゴトク、日月星辰山海草木禽獸ニ物イヒハタラカセ、ソレ〱ノ理ニオトスコトハアルベケレドモ、日ヲ以テ陰トシ、月ヲ以テ陽トスルコトハ、予イマダ前聞セザルナリ、シカルニ神代ノ巻コノ所ニ差謬アリテ、本體スデニ失ス、ユヱニ右ヘ解トモ左ヘ說トモ、詖辭・淫辭・邪辭・遁辭イタラザル所ナシ、ヨク味ヒテ工夫スベキノミ

十七　素戔烏尊ノ爲行(シワザ)也、甚無狀(アヂキナシ)、天照大神發レ慍、乃入ニ天石窟一而幽居焉、故六合之內、常闇而不レ知ニ晝夜之相代一、于レ時八百萬神會合、計ニ其可レ禱之方一、天兒屋命・太玉命掘ニ天香山五百箇眞坂樹一、天鈿女命則手持ニ芽纏矟(チマキホコ)一、立ニ於天石窟之前一、巧作ニ俳優一、天照大神乃以ニ御手一、細開ニ磐戸一窺レ之、時手力雄命則奉ニ承天照大神之手一而奉レ出レ之」云々、此段ヲ以テミルベシ、日輪ナクンバ天下常闇ナルベシ、コレヲ以

テミレバ、天照大神ハ日輪ナリ、然ドモ日輪ニ何ゾソノ弟、ソノ臣アランヤ、今ノ世ニテモ天下國家ノ大切ナル人死スレバ、天下國家ハクラヤミナリト云コトアリ、此語ハ常語ニシテ何トモ咎ムルコト無シ、シカルニ此段ニトク處コノ語ヲ表シテ云モノカ、又闇君佞臣亡ビテ明君出ルトキハ、夜ノアケタルヤウナリト云モ同ジコトナリ、然ルニ是モマタ口授傳語ニシテ書ツタヘザレバ、必トスベキニモアラズ、何レニモ伊勢內宮天照大神ヲ中央トシ、前坐手力雄ノ命・千々幡姫ノ命、後坐天ノ兒屋ノ命・太玉命合テ五座配享スルハ、千々幡姫ノ命ニアラジ、鈿女ノ命ナルベシ、然レバコノ磐戸ノトキ功アル四神ヲ祭リシナリ、後世後坐二神ヲ外宮ヘ移スナラン、コレヲ以テ磐戸ノ段ノ意ヲシルベシ

夢之代卷之三終

夢之代巻之四

歴代第四

一　景行紀ニ曰、十八年秋七月、筑紫ノ國御木(ミケ)ニ到リ、高田ノ行宮ニ居ル、時ニ僵樹アリ、ソノ長九百七十丈、百僚其樹ヲフミテ往來ス、古老ニ問フ、曰、コレ歴木(クヌギ)ナリ、イマダタホレザル先キハ、旭日ニハ杵島山(杵島山肥前ニアリ)ヲカクシ、夕日ニハ阿蘇山(阿蘇山肥後ニアリ)ヲオホフト、天皇勅シテ曰、コレ神木ナリ、コノ國ヲ御木ノ國ト云ベシト云々、(離騷曰、摠二余轡乎扶桑一、折二若木一拂レ日兮、注曰、扶桑木、名日出二其下一也」ト屈原ノ時代者、我孝安・孝靈ノ代也、景行ノ時ニイタル四百年、扶桑イマダ僵レザル前ナリ、ユヱニコノセツアルナリ)九百七十丈ヲ、今六尺五寸歩六十間丁ニテ約スレバ、千五百間ニシテ、二十五丁ナリ、俗說富士山ヲ屹立十九丁ト云傳フレバ、六丁高シ、コノ木ヨリ富士ハ四分ノ三ニ居ル、高シト云ベシ、シカレバ日本ニオイテ外國ニホコルベキハ、コノ二ツノミ、履軒先生曰、コレ扶桑也、木ノ名漢人ハルカニ名付ル處ニシテ、我國元ヨリコレヲシラズ、扶桑ノ名初メテ離騷ニ出ヅ、久シイ哉、蒼頡ノ字ヲ製スルヤ、木ノ下ニ日アルヲ杳(ヨウ・クラシ)トシ、中ニアルヲ東(トウ・ヒガシ)トシ、上ニアルヲ杲(カウ・アカシ)トス、皆コノ木ヨリ出タル字義也、扶桑ハ榑ナリ、桑ニアラズ、漢土ヨリ東望シテ、日中ノ木ヲミル桑ニ似タリ、ユヱニミダリニ命ジテ扶桑トス、旭日コノ木ノサヘギルヲミテ、國アルコトヲシリテ、扶桑國ト云、又月モ同ジ、他國

ヨリミテ月中ノ桂トス、實ハ一ナリ、又コレニ止マラズ、奥州山中箒木アリ、夕日西ニノゾメバ、枝葉蓬々然タルヲミル、山ニ入テ尋ルニ、得ルコトナシ、ユヱニ歌人多ク用ヒテ、箒木ノアリトハ見エテ尋アタラザルヲ云、コレ亦コノ扶桑ナリ、モトヨリ西紫東奥遠シト雖、蜻蛉ノ尾宛屈シテ甚遠カラズ、故ニ夕陽コレヲ射テ、障ナキ高山ヨリミタルモノ也、奥ハ遠ニヨリテ又コレヲミル、中國ハ近キニヨリテミザルナリ、今筑後ノ國三池郡ニ三池ノ地アリ、蓋シ御木ノ國ノ訛ナリ、三池トシ郡トナルナリ、城外ニ高泉村アリ、田畝ニ高田ト字スルアリ、即行宮ノ迹也、コノ左右數里井ヲホリ溝ヲホルニ、朽株ニアヒテ困シム、今池溝ニアラハルヽモノ多シ、高田ニ化石アリ、周回里餘、ケダシ樟地上ニアレバ、化シテ石トナリ、土中ニアレバ化セザルナリ、土人扶桑ノ名ヲシラズ、唯大楠ト云、樟楠ミナクス也、朽株今ニ樟香アリ、中古高田ノ材ヲ以テ佛堂ヲ造ルモノ三ツ、其二ハ燒亡ス、一ハ豐後國ニアリ、大堂ト稱ス、其他民屋小祠アゲテ計フベカラズ、扶桑ノ偃ルヽコト二千年ノ前ニアリテ、其長大斯ノ如クナレバ、其歷年測ルベカラズ、アニ二尊瓊矛ノ雫ニメグミ初タル國ナランヤ、按ズルニ月桂・箒木・扶桑同物ノ論、ソレ差ハザルニチカヽランカ、百里ノ外ハ望遠鏡トイヘドモミルベカラズ、然ルニ日月ノ光リヲ覆フ時ハ見ズンバアルベカラズ、ユヱニ漢土ヨリ是ヲ見テ扶桑トシ桂トス、彼邦東海ノホトリ東ニサヘギルモノナシ、ユヱニ扶桑ノアル處ヲサシテ國アリトス、又東奥ヨリノ里程凡漢土ト同ジカルベシ、近ク筑紫ニオイテハ、目ノアタリニミルニヨリテ異說ナシト雖、中

國ノ間ハカヘリテ山ニサヘギラレテ見ルベカラズ、却テ東奧ノ遠ニ至テ、衆山ミナ低ク下リテ、忽突タル樹ヲ西方夕日ノコナタニ見ル、紫ノ扶桑トハ思ヒモヨラズ、又コノ時ハイマダ草昧ニシテ、紫奥通ゼズ、ユヱニ西邊ニ大木アリトシテ、京師マデノ間ニテ求ムトイヘドモ得ザル也、コヽニオイテ箒木ノ說アリ、コノ扶桑二千年ノ物ヲ以テ、萬國ニ誇張スベキモノナランカ

二 神功皇后三韓ヲ征シテヨリ、カハル〳〵王子ヲ以テ日本ニ奉仕シ、年々貢物ヲ獻ズ、百濟王最モ勤ム、我朝家コレヲ待スルコト蕃臣ノゴトシ、天智ノ時、百濟滅亡ス、ソレヨリ新羅・高麗トモニ漸々遠ザカリ、竟ニ交リヲ絕ス、其後唐國ヘ聘使ヲ遣ハシ、又我國ヘモ來ル、宋ノ世ニ至リテ竟ニ止ム、後ニ元ノ寇アリト雖、其後イヨ〳〵棄絕ス、元トイヘドモツヒニ寇セズ、禪僧ヲシテ伺ハシムコト數度、トドメテ返サズ、士ノ來ルモノハ悉コレヲ殺ス、ヨク夷狄ニ處スルノ法ヲ得タリ、林羅山曰、本朝ニ義戰ナシ、只義戰ハ神功皇后ノ三韓征伐ト、日本武尊ノ東征ノミト、閑齋筆記是ヲ難ジテ曰、夫征ハ以テ人ノ不正ヲ正ス所也、當初新羅我國ヲ伺ニアラズ、又元臣從ニシテ後ニ反スルニアラズ、其民ヲシテ倒懸ナラシムルニアラズ、其國財多キガ故ニコレヲ伐ツ、義何ニカ在ルヤ、儕テ思フニ、東照神君ノ小牧ノ援兵、恐クハ是本邦ノ義戰ナルベキカト云々、サテ又神代ヨリシテ神託靈異ノコトサマデモナカリシニ、此時ニ至リテ初ニ神アリテ、寶國ヲ取レト云ヨリ、干珠滿珠ノ玉ヲ以テ潮ヲサシ引シ、弓弭ヲ用ヒテ日本ノ狗ト書シ、ソノ石今ニアリト云、（コノ今ト云モノ、舍人親王ノ今ナルカ、後世コノ名アルコトヲキカズ）凱軍マデ皇子

ノ誕生ヲ緩クシ、ソノ餘住吉・廣田・長田ノ神託奇怪亦盛ナリ、ミナ妄言ノミ、ツヒニ遺腹ノ皇子ヲ奉ジテ庶兄ヲ伐テ天下ヲ有ス、天武永樂ノ帝ト同ジク、逆取順治ノ語アリト雖、勝テハ賢主ニシテ負タラバ叛人ナリ、後世成敗ヲ以テ事ヲ論ジ、其詳ナルハ知ルベカラズ、シカレドモ治世ノ後天下平安、應神久シク儲貳ニアリテ、母子ノ間嫌隙ナシ、感ズベキモノカ

三　白石先生ノ讀史餘論ニ、天下ノ大勢ヲ論ジテ九變トス、其說寔ニ精確也、今其略ヲ擧テイハヾ、上古有道ノ間ハ、文武ノ差別ナク天子自ラ干戈ヲヲカシ玉フ、其元ハ神武ノ東征ニハジマルナリ、堯舜ノ禪讓ト違ヒ、神武ハ武力ヲ以テ天下ヲ得玉フニヨリテ、我日本ハ文少ナクシテ、武勝ノ國ナリ、大抵神武ヨリ應神マデハ、質朴淳素ニシテ、兵力强シ、景行・仲哀諸國ノ賊ヲ伐チ怠ルコトナシ、神后三韓ヲ征シ、應神・仁德垂拱シテ天下安シ、ソレヨリ內亂ハ少シヅツアリト雖、顯宗・仁賢草茅ヨリ出デ帝位ヲ蹈ミ、雄略・武烈ノ惡逆アリト雖、皇祚動クコトナキハ、廟堂人アルガ故也、欽明ノ皇子多クアリテ、代リ〲立ヲ爭フ、其間ニ(一變)物部氏滅ビテ蘇我氏時ヲ得タリ、是他ナシ、推古厩戶ノ力ヲ添ル所ニシテ、コレヨリ佛法起リテ上古ノ風俗大ニ變ズ、蘇我氏ノ亡ブハ藤原氏ノ起ル元ナリ、齊明ハ女帝ニシテ百濟ヲ救ハンガ爲ニ西國ニ幸ス、天武・大友ハ自カラ干戈ヲヲカス、況ヤ大臣ヲヤ、神武國初ノ大臣ヲハジメ、武內・金村ノゴトキ、守屋・入鹿ノ亂ミナ大臣コレヲ爲ルナリ、(二變)藤氏權ヲ弄ブニ到リテ、王公ハ唯文ノミニシテ、軍事ハミナ武官ニ任ズ、ユヱニ文ハ貴ク上ニ佚シテ、武ハ賤シク下ニ勞

ス、ソノ中ニ田村麿・小野好古・藤原保則等ハ、文武兼備ノ人也、嵯峨ノ平城ニ於ル、武臣ニ任ゼザルコトヲ得ズ、蝦夷ヲ征スルヨリ、將門・純友ヲ討チ、前後奥州ノ亂武臣ニ任ジ、藤家攝關ニアリテ權ヲ恣ニシ、上ニアリテ勞セズ、ツヒニ軍事ハ源平ノ武臣ノ手ニ握リ、源家三代東國ニ事アリテ、武威ヲ關東ニカガヤカシ、東國ノ武士ハ多ク源家ノ奴僕トナル、後世武家ニ迂ルハコヽニ萠スモノナリ、此時ニアタリテ、藤氏ノ權威マス〳〵熾ニシテ、皇家ノ心ニ任セズ、鳥羽帝ハ一時ノ英主也、是ヲ歎キテ位ヲ太子ニユヅリ、剃髮シテ法皇トナル、コレ法皇ノ始ナリ、シカルニコノ髮ヲソルコト、元佛法ヲ信ズルニアラズ、法體ニテハ禁中ノ諸儀ニハナレ神事ヲ修シエズ、カクノ如ク暇ヲアゲテ政事一偏ニナリ、院中ニテ事ヲ行ヒ玉フ、本意ハ藤家ノ權ヲトリカヘスニアリ、コノ時藤氏ノ人々皆游惰ノ愚人ナリケレバ、忽チ御心ノ如クニナリテ、天下ノ萬事思召ノマヽニナリヌ、コノ時マデノ(三變)藤家ノ勢ヒ言語ニモノベガタシ、宇多・後三條帝コレヲ押ヘルノ心アリトイヘドモ遂ゲズ、鳥羽ニ至リテ大抵ハ遂ルトイヘドモ、悲ムベシ美福門院ヲ寵シテ、崇德ヲ退ケ近衞ヲ立テ、ツヒニ保元ノ亂ヲ引出シ來ル也、（唐玄宗、日本ノ鳥羽・後醍醐ミナ英明ニシテ、天下ヲ中興スルノ勇氣アリトイヘドモ、ツヒニハ色ニ溺レテ遂ルコトアタハズ、アヽヲシイ哉）此ノ時王室大臣トモニ骨肉ノ爭ヒニテ、自ラ干戈ヲトルコトアタハズ、武人ヲ憑ミテ勝敗ヲ分ツ、共アリサマ兒婦ノ道路ニ賊ニアヒテ、奴僕ニヨリ賴ムガゴトシ、內ニ參ルモノハ平清盛。源義朝、院ニマイルモノハ源爲義ニシテ、隱退ノ身也、諸子多ク且ツ爲朝アルヲ以テ敵對スト雖モ、內ノサカンナルニハ及バザルナリ、竟ニ院方敗レテ爲義及諸子殺サ

ル、崇德上皇モ讃岐ニ遷サレタマフ、平治ニ至リテ干戈亦オコル、ツヒニ源氏ホロビテ平家時ヲ得テ、(四變)清盛權ヲ弄ビ、王公ヲクルシムルコト藤氏ニ過タリ、竟ニ自ラ太政大臣トナリテ、天下諸國多ク子弟從族ノ領地トナル、ユヱニ天下ノ諸源ツヒニ賴朝ヲオシ立テ平家ヲ亡ボス、ソレヨリ源氏又興ル、平治ヨリ後ハ後白河帝ノ馭ヲ失フヨリ亂ル、元來此帝英思ニシテ清盛ニキシル、習坎ノ時ニシテ治マルベカラズ、ユヱニ清盛・義仲・義經ニ惱マサレ、賴朝ノ權ニヲカサレ、ツヒニ武家ノ天下トナル、自然ノ勢ニシテ如何トモスベカラズ、コノ時ニアタリテ平氏ノ餘類義經ノ遺族、諸國ニ忍ンデ天下穩ナラズ、領家地頭ノ手ニ合ザレバ、諸國ニ守護ヲ置テ兵ヲ領シテ追捕セズンバアルベカラズ、ユヱニ賴朝コレヲ請テ免許セラルル也、コレヲ總ルモノハ賴朝ナレバ、(五變)總追捕使大將軍ヲ賜フノミ、然ルニコレヨリシテ守護ノ職重ク、權威强クナリテ、オノヅカラ武家ノ有トナリ、封建ノ勢再ビ成ルモノナリ、コノ時王室ハ春秋ノ周ノ如ク武家ハ晉ノ覇タルガゴトシ、夫ヨリノ後大將軍モ虛位トナリテ、家臣北條氏ヘ權移リ、(六變)陪臣ヲ以テ國命ヲ取リ、天子ノ廢立國郡ノ予奪、皆ソノ有タルコト百餘年、此初ハ後鳥羽帝・順德帝ノ承久ノ亂ヨリ起リ、後ハ北條泰時・時賴ノ謙遜、政事ニ精シキヲ以テ其治ヲ得タリ、後醍醐帝ニ至ツテ、高時ノ逆意ヲ憤リ、コレヲ征シツヒニ北條ヲ滅ストイヘドモ、程ナク足利尊氏興リテ、再ビ武家ノ天下トナル、建武中興ノ時、封建郡縣雜用ノ政アリテ、漢ノ初ノ如キコトアリト雖、ワヅカノ年數ニテ、天子吉野ニ移リ玉ヒテ南朝ト號シ、足利氏モ亦別ニ天子ヲトリ立テ北朝ト云、シ

カルニ武家ヨリ立ラレタル天子故ニ、天下足利氏アルコトヲシリテ王家アルコトヲシラズ、ツヒニ南北一統シテ足利氏(七變)（義滿ノトキヨリ公方ノ號アリ）ニ歸スト雖、諸國穩カナラズシテ應仁ノ亂起リ、天下戰國トナリテ、將軍家ノ勢ヒオトロヘ、英雄割據シ、爭奪スルコト晉末十六夷狄唐末五代ノ亂ノ如シ、中ニモ織田信長ハ足別義昭ヲタスケテ、公方家ヲ復ストイヘドモ、義昭愚ニシテ嫌隙ヲ生ジ、信長ツヒニ義昭ヲ逐ヒ、王室ヲ守護シ三公ニ登リテ、天下一統ノ勢ヒアリト雖、逆臣明智光秀ニ弑セラレ、豐臣秀吉西國ヨリ登リテ、光秀ヲ伐テ織田氏ニ代ル、(八變)ツヒニ諸國ノ豪雄ヲ征伐シ、始メテ干戈戢(チサマ)リ萬民太平ヲ謳フ、玆ニ於テ秀吉關白職ニオシナツテ天下ヲ有ツ、秀吉歿シテ嗣子幼昏ニシテ、天下逋逃ノ主トナリ、牝鷄晨ニ鳴テ蟷螂ガ斧ヲフルヒ、ツヒニ滅亡ヲマネク、天下翕然我神君ニ歸シテ(九變)、至治隆盛コヽニ二百年、弓箭ヲ袋ニシ、甲冑ヲ櫜ニス、此以後萬々歳ニシテ干戈起ルベカラザル也、初平淸盛武家トシテ太政大臣ニ昇リ天下ヲ指揮セシヨリ、滅後ソノ權鎌倉ニウツリ、ソレヨリシテ再ビ王家ニ復スルコトナシト雖、天子ノ號ハ失ヒ玉ハズ、武家トイヘドモミナ位階任官シテ奉崇シ、神武以來二千四百年動ザルモノハ是日本也、寔ニ萬國ニ秀デ、尊ムベキ所カ、新井氏ノ論ニ天下ィ九變トシ、武家ヲ五變トス、ソレニ戻ルニモアラザレド、亦是ヲ略シ、少シノ意ヲ用ヒテ論ヲナスノミ

四　日本ニ城アルコト古ヘニキカズ、王城スラ時々ニ迁サレタルヲミレバ輕キコトナルベシ、桓武天皇ノ平安城ノ大内裏ヨリ後ハ迁都ナシ、コレ大造ニ過テ迁シ難キヲ以テナリ、上古ハ王城スデニ斯ノ

如シ、其外ニ城アランヤ、中古守屋大連、稲ヲ積テ城トス、ソレヨリ蝦夷征伐ノ爲ニ、奥ニ多賀城ヲ築ク、次ニ羽州秋田ノ城有、コレヨリ所々ニ見ユト雖、ミナ館舍又ハ柵ノ類ナリ、將門・忠常・頼時ノ反スルヨリ、壘ヲ高クシ堀ヲ深クシタルナルベシ、奥州前後ノ亂ニ、衣川ノ柵・琵琶ノ柵ナドノ如キ、急ニカマヘタル陣屋ノゴトクナルベシ、平家八島（コノ島沖ヨリ見レバ屋ノ棟ノゴトシ、故ニ屋島ト號ス、八島ニアラズ、イハンヤ寺ヲ屋島寺ト云フヲヤ）一ノ谷ニ城ヅクコトハ、人ノシル處也、頼朝ノ鎌倉ニ館スルモ城ニアラズ、我曩ニ鎌倉ノ圖ヲ見ルニ、頼朝ノ館アト、北條・和田・畠山ノヤシキアトヽ云、ヨソ〳〵シキコト也、今ヲ以テ是ヲ見レバ、御所御館トカクベキコトナリ、コレヲ以テソノ狹小ヲ知ルベシ、足利家室町ノ館モ、亦町名ヲ以テ稱スルヲミレバソノ小ヲシルベシ、元弘ノ前ニ安田越智ガ反スル時ニ城アリ、イカンヲシラズ、楠赤坂ノ城ハ倉卒ニ城クトコロユヱニ、長ク保ベカラザルヲシリテ、夜ニマギレテノガル、千破劔ハ四面壑ナレバ、石垣ニモ及バズ、堀モナシ、十萬ノ兵ヲ受テ防グコトハ、楠公ノ方寸ニアリテ、他人ノ及バザル所ナリ、ソレヨリ諸國ノ豪酋國々ニ城ヅクコト其數ヲシラズ、織田氏安土ニ城キショリ、始メテ殿守ヲカヽグ、一說ニ云、織田氏耶蘇ヲ信ジテ、殿守ニソノ神ヲ祭ル故天主ト云、天主ハ耶蘇宗ノ本尊ナリト、是ヨリ所々ニ天守ヲ擧グルコトハナリタル也、然バ則城ノ廣大ナルハ、戰國以後ノコトニシテ、三四百年ノコトナルヲシルベシ

五　堯舜三王命ヲウケテ天下ニ王タリ、然ルニ天諄々然トシテ是ヲ命ズルニアラズ、只行ト事トヲ以

テ示スノミ、秦漢以降命ヲマタズシテ奪ヒ爭フ、我國神武帝命ヲウケテヨリ以來アラタムルコトナシ、其嗣ハ行ト事トヲ以テ纔ニ及バズ、父兄ノ讓リヲ以テシ、或ハ繼體ニシテ大臣ノ補導ヲ以テスルモアリ、コレヲ用ヒザルハ只天武ノミ、然ドモ亦他姓ニアラズ、中古藤氏ノ威權サカンナリト雖、亦弑奪ノ心ナク、保元・平治・壽永ノ亂ト雖、亦他姓ヨリ伺フニアラズ、鎌倉以來武家ノ有トナリテ、政刑王家ニアラズ、北條氏亡テ足利氏興ル、織田・豐臣ノ二家相續テ天下ヲ有チ、ツヒニ我神祖ニ至ル、然ルニ鎌倉ノ代々足利・織田・豐臣トイヘドモ、命ヲ受ルニアラズ、亦行事ノ示シアルニアラズ、唯勢力智權ヲ以テコレヲ得ルナリ、然ルニ命ヲモ受ズ、又行事ノ示ナシト雖、淳々然トシテ勅命ヲ以テ是ヲ受ケ、任官宣下ノ式アルトキバ、父兄ノ讓リヲ受クルガ如クナラン、然ルニ我神祖幼ニシテ今川氏ニ質トシ、漸ク長ジテ古國ニ歸ルト雖、幾程ナクシテ今川義元敗死シ、其子氏眞ハ惰弱ニシテ、共ニ議ルニ足ラズ、故ニ織田氏ニ和平シ玉フトイヘドモ、不幸ニシテ信長モ明智ニ弑サル、秀吉智謀權勢ヲ以テ織田ノ子孫ヲ郤ケ、自立セントスルユヱニ、神君・信雄・信孝ヲ援ケ、秀吉ト小牧ニ戰フ、シカルニ信雄柔弱ニシテ姦計ニ陷リ、ツヒニ秀吉天下ヲタモツ、コノトキニアタリテ、諸國ニ英雄割據シ、天下ノ擾亂沸ガゴトシト雖、ミナコト／＼ク秀吉ニ併サレ、或ハ滅ビ或ハ降リテ手ニ立モノナシ、唯天下ニ秀吉ノ憚ルモノハ、神君ノミユヱニ、長子秀康卿ヲ養子トシ、妹ヲ以テ神君ニ嫁セシメ、ツヒニ母ヲ以テ質トシ平ヲ求ム、神君ノ秀吉ヲ畏ルヽニ非ザレドモ、天下蒼生ノ苦シミヲ恐レテ、コレニ和シツヒニ上洛

シ玉フ、秀吉ノ姦雄ト雖、常ニ崇敬シテ賓客ノゴトシ、死期ニ臨ンデ孤ヲ托スルニ至ル、神君一度孤ヲ寄ラレ、豈是ヲ奪ノ心アランヤ、只行ト事トヲ以テコレヲ示シ、謳歌獄訟秀頼ニユカズシテ神君ニユク、加ルニ石田ノ反ヲ以テス、止コトヲ得ズシテコレヲ退治シ玉フ、ソレヨリ天下ノ諸侯ミナ命ヲキヽ江戸ニ朝シ、淳々然トシテ勅命下ル、コヽニオイテカ天下ノコト神君ヲステヽ誰ゾヤ、浪華ノ役ト雖其願ヒ玉フ所ニアラズ、庶クハ秀頼母子ノ改ンコトヲ、然ル時ハ長ク天下ノ賓トナリテ、周家ノ宋趙、宋ノ柴氏ノゴトク、諸侯ノ上ニ位シテ百萬石ノ地ヲタモツベキヲ、是其ネガヒ給フ所也、然ルニ天下ハ秀頼ノ私スベキニアラズ、此トキ秀頼ニ譲リ玉ハンニハ、天下再ビ亂ルベシ、ユヱニ命ヲ請テ天下ヲ有タセ玉フコトハ、スナハチ湯武放伐ノ心ナリ、況ヤ秀頼ト君臣ニアラズ、位三公ニ居ルモノヲヤ、アニ匹夫匹婦ノ諒ヲ以ル如クナランヤ、古ヘヨリ天子トシテ天下ヲ有ツモノハ、天命行事受禪ノコトナクンバアルベカラズ、我日本中世ヨリ武家ノ天下トナリテヨリ、王家ハ天命ノ出ル處トナリ命ヲ出納ス、ユヱニ行事ノ示ヲマタズ、天子ヨリ淳々然トシテ命ジ玉フハ一ツノ幸ト云ベシ、然リト雖義仲・光秀等ニモ迫ラレテ、命ヲ下シ玉フトキハ、又賴ベキコトニモアラズ、畏ルベシ〳〵、唯我神君ノミ天命行事カネツクシテ、一生其意ニミタズシテ、願望アラズシテ天下自然ト流レ込ムモノハ、其信義ノ顯著武徳ノ盛ナルモノカ、織田・豐臣ノ兩豪カツ慶長ノ奸賊、ミナ神君ノタメニ驅ルモノト云ベシ

六　日本ニテ名臣功臣ヲ數フルニ、國初ノ功臣多シト雖、クハシク傳ルコトナシ、武內大臣功名高シ、大友金村コレニ繼グ、大織冠ハ才德兼備シテ入鹿ヲ滅ボシ、天智ヲ取立テ再ビ位ヲ讓ラシム、コノ君臣ノ德ハ仁德ノ次ニ出ベシ、薄葬ノ遺言其賢ヲ知ベシ、太子ノ遺言ト實ニ雲泥ノ差ナリ、基經公ハ廢立ノ宜ヲ得タル人カ、吉備公ハ才アリト雖、孝謙ノ淫朝ニ立テ、仲麿・道鏡ヲ退ルコトアタハズ、弓削ノ守屋、中臣ノ勝海ハ功ナラズトイヘドモ、社稷ノ臣ト云フベシ、蘇我ノ赤兄コレニツグ、村國ノ男依等ハ、天武ノ忠臣ニシテ、社稷ノ逆臣ナリ、藤原ノ百川、成敗チ以テスレバ忠臣ナラン、坂ノ上田村麿・武德チ以天下チ鎭ス、チシイ哉ソノ佛ニ惑フヤ、大忠臣變ゼザルモノハ和氣ノ清麻呂ノミ菅公ハ時ヲ得テ登庸セラル、宇多帝元ヨリ藤氏ノ威權ヲ憂ヘ、コレヲ舉トイヘドモ、讒ニ遇テ配所ニ薨ズ惜ムベキ哉、其後ニ人ナシ、元弘ニイタリテ、藤ノ藤房卿アリ、楠中將アリ、コノ二人ノ言用ヒラレナバ、南狩ノコトナカルベシ、武家ニテハ北條泰時・時頼アレドモ、才バカリニテ德ナシ、然ドモ式目ヲ作リ、政事ニ心ヲツクシ、陪臣ニシテ天下ヲ泰山ノ安キニ置モノ、二臣ノ功ト云ベシ、足利ニ至リテ、細川頼之髣髴トシテ微ナリ、織田・豐臣ノ間ニハ、小早川隆景王政ニ與リシコト無ト雖、其處置ミルニ足ル、ソレヨリ我德川家ノ興リ玉フヤ、名臣アゲテ數フベカラズ、井伊・本多・酒井・榊原・大久保・板倉・土井・安藤・阿部・奧平・肥後侯・伊豆侯ノゴトキ、列ヲナラベテ明君ヲ輔佐ス、與ラザラント欲ストイヘドモ得ベカラズ、近世ニ至リテ、越中侯有、萬民升平ノ久シキニ淫溢シテ、泰否所ヲカヘントスルノ世ニアタリテ、泰ノ九二ニ引戻サル、功勞才德カネ備ハル、ア丶盛ナル哉、當朝ノ人ヲ得サセラル丶コト、萬古類ナキヲシルベシ

七　倭奴國ノ稱、漢ヨリ命ズル所ニシテ、我邦ノ本名ニアラズ、後世我ヨリ是ヲ用ヒテ、奴ノ字ヲ除キ、倭ノ一字ヲ用ヒ、ヤマトト訓ズ、日本・大倭・大和トカキテミナヤマト、訓ズル也、略シテ和ヲ用ヒ、ツラネテ和漢ト云、今ノ大和國古ヘヤマトヽ云、山迹・山戶・山止ノ出處、サマ〴〵ノ論ヲナセドモ、代々ヤマトノ國ニ都アルヲ以テ、天下ノ總號トスルモノナリ、後ニ和ノ字ヲ用ユルコトハ、音似タルヲ以テカヘタルモノナラン、スデニ倭ハ漢ヨリ命ズル處ニシテ、我ノ本名ニアラザレバ、自カラ倭ト云ベカラズ、スベテ漢人外國ノ名ヲ口ヅカラキヽ、（コレソノ國ニ文字ナキ故ニ、口ヨリキクナリ、文字アレバ書テミルユヱ差違ナシ）文字ヲ入ルル時ハ、必其音ヲ以テ、醜字ヲ入ルヽハ常癖ナリ、コレ我國ヲタツトミ、他ヲ賤シムルノ術也、匈奴・倭奴ミナコレナリ、抑我國ノ號ハ二神始メテ日本(ヤマト)浦安ノ國ト云、饒速日(ニギハヤヒノ)尊虛見日本(ソラミツヤマト)ノ國ト云又、細才千足(ホソホコチダル)ノ國・豐葦原中國(トヨアシハラチカツクニ)・千五百秋(チイチアキ)瑞穗(ミヅホノ)國ノ名アリ、神武帝大和ニ都シ玉ヒテ後、豐秋津洲(トヨアキツシマ)ノ名ハジマル、其外扶桑國・君子國・姬氏國・黑齒國（此扶桑・君子・姬氏・黑齒ノ四國ハ、漢土ヨリ東海中ニアリトス、シカルニ扶桑ハ日出ニ木ノサヘギルナミテ、國アリトスレバ、日本ナサスナリ、外ノ三國ハミナ例ノ杜撰ナレバ、論ニ及バザルナリ、カレノ夢中ノ論ナンゾ信ゼン、況ンヤ東海中ニ外ニナキヲヤ）倭奴國ハミナ外國ヨリ云名ニシテ、我自名ニアラズ、タトヘバ我ノ名ヲ自カラ名ヅケテ太郎トスルニ、外人異名シテ三郎トヨベバトテ、自カラモ三郎ト名ノランヤ、君子タルモノ必シモ外國ヨリ命ズル處ノ名ヲ以テ書スベカラズ、又漢ヨリ論ジテ曰、日本ハ古ノ倭奴國也（倭ノ字、說文・玉篇・唐韵於爲切、音煨トスレドモ、イ也、唐韵・集韵・韵會・正韻烏禾切トスルハ、初ハイドトキキタレドモ、後人ワドト云ヤウナルユヱ、後ノ字書ニハワノ音ニカヘタルナリ、詩ノ小雅、倭遲ノ倭音威ニシテ、逶邐委威ニ通ズレバ、ミナ音ハイナリ）自カラ其名ノ醜キヲキラヒ、日出ル處ニ近シト云テ、自ラ日本ト改タムト云、シカルニ天明四

年甲辰二月廿三日、筑前ノ國那珂郡滋賀島ノ土中、巨石ノ下ヨリ黄金印ヲホリ出ス、方八分、厚サ二分五厘、重サ二十九錢、其文ニ曰、漢委奴國王ト、好古日録ニコレヲシルスト雖、委倭ノ謬ヲ正サズ、音切ヲ正スト雖、ツヒニ委倭通ズト云ノミ

抑按、中井先生曰、倭ハ本音委ユヱニ、字書ニ於爲反トス、日本怡土郡ノ人、始テ漢ニ入、怡土ト云タルヲ、倭奴ト文字ヲ入タルナリ、ソノ後訛リテワノ音ニキコエタル故ニ、後世ニハ烏禾反トシタルナリ、コレハ冒頓ヲノチニボクトツトキヽ、又ホルランドヲバ、阿蘭陀トキヽテ、字ヲ入タルガ如シ、スデニ江戸ノ人、「クワ」ヲ「カ」ト云ヒ、「マ」ヲ「メ」ト云ガゴトシ、同國尚シカリ、況ヤ異國ヲヤト、コトニ倭ノ字外ニ用ナシ、ユヱニ字書多ク國ノ名云、倭ハ我國ノ名ニアラズ、漢ヨリ入タル字ニシテ、又彼ヨリサシテ國ノ名トス、ハヘヌキノ名ノゴトシ

說文ニ曰、「倭从レ人从レ委、委聲於爲切、」玉篇ニ曰、「倭烏禾反、」法隆寺所レ藏法華經義疏題下、大委國ヲツクル、醍醐地藏院古記ニモ、亦大委國ニツクルト云、コレミナ寫誤ナランカト云ニ、履軒先生曰、凡漢人外國ノコトヲシルス、妄說訛傳十ニ八九也、同域ノ人ト雖、百里ヲ隔ツレバ、或ハ妄說多シ、世百載ヲ經レバ必訛傳アリ、況ヤ海外萬里ヲ隔テ、言語通ゼズ、譯シテ相語ルヲヤ、後漢書東夷傳ニ云、倭凡百餘國、武帝朝鮮ヲ伐テ、漢ニ通ズルモノ三十許國、ミナ王ト稱ス、世々統ヲ傳フ、其大倭王邪馬臺國ニ居ル、光武中元二年、倭奴國奉貢ス、使人自カラ大夫ト稱ス、光武印綬ヲ賜フト云々、コレ妄說訛傳也、中元二年ハ、我垂仁帝八十六年、時尚鴻荒ニテ文字アラズ、何ゾ王公大夫ノ稱アランヤ、日本ノ諸國ツヒニ王ヲ稱スルモノナシ、コヽニ三十許國ミナ王ト稱スト、誣ルカナ、我國此時漢字ワタラズ、王ト云フコトイマダアルコトナシ、況ヤ大夫ヲヤ、ミナ彼ヨリ云コトニテ、我ノシラザルコトナリ亦誰カヨク表啓ヲ作

ランヤ、其三十許國、皆我西埵ノ民交易トシテ往モノ、ミナ朝貢ト稱スルハ、唯委奴一國ノミ、故ニ印綬ヲ賜ヒ、以テ寵異スルナリ、ソノ朝貢ト稱スルモノ、實ハ利ヲ貪ボル也、漢人一地ノ名ヲ聞テハ、卽チ國ト號ス、ソノ大小ヲ擇マズ、一地ノ主必王ト稱ス、唐宋已来尙シカリ、只漢土ノ天子柔遠ノ聲ナヲ貪リ、其威德ヲ後世及ビ外國ニ焜耀セント欲スルナリ、天竺諸國ノ例ヲ見ル、民戶千ニ充ザル處ニテモ、猶國ト號シ王ト稱ス、カノ貝多横行ノ文字、ナンゾ國ノ字アランヤ、又王ノ字アランヤ、此委奴國王ノ印ハ、筑紫怡土郡ノ人漢ニ到リ、光武ノ中元二年、コレヲ授カルモノ明カ也、日本紀ニイハユル伊都縣主・魏志ニイハユル伊都國ミナコレナリ、ケダシ筑前怡土郡ノ酋長ヲ、委奴國王ニ封ジタルナリ、此時ニシルシタル書ヲ誤リ傳ヘテ、人扁ヲソヘテ倭奴トスルモノナラン、コノ訛傳ヨリ倭奴ヲ以テ全國ノ名トシ、又單ニ倭ト稱シ、大倭小倭ト云ノルイ、並ビ起ルナリ、魏ノ世ニ至リ、封爵ニ入テ親魏倭王ノ印ヲ授ク、陳壽范曄史ヲ作ルニ及ンデ、イヨ〳〵コノ訛ヲ襲ヒ、我モ亦コノ訛傳ヲウケテ、倭ヲ以テ自カラ稱ス、是自ラ辱シメテコレヲシラズ、惑ヘル哉ト、按ズルニ、文字ナキ以前ハ唯口ヅカラ云傳フ、筑紫怡土トイヘドモ、イドトノミ云テ、ソノ文字ナシ、漢土ニユキテイドト云ヲ、漢人キキテ委奴ノ字ヲイルヽノミ

委奴ハコノトキ漢土ニテ入タル字ナリ、伊都ハ漢書及魏志ノ字ナリ、伊覩ハ我國上古ノ文字ナリ、コレヨリ怡土トシ糸トス、スベテ並ニイドト訓ズ

今日本ニテ外國ノ名ヲ聞テ、假名字ニテシルスガゴトシ、文字通ゼザル國ハミナシカリ、古ヘ日本國

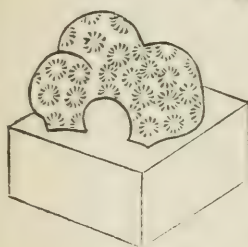
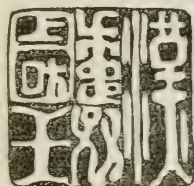
國ニ造有テ王ト云モノ無シ、王ハ漢土ノ爵名ナリ、日本ニテハ王ノワケヲシラズ、ナンゾ王トイハン、又大夫モシカリ、コレ彼國ヨリシヒテ云ノミ、後世文字渡リテ、皇帝・王・公・卿・大夫ノ字ヲシリテヨリ用ヒ來ルノミ、垂仁ノ世ニハ、イマダシラザル也、魏志ニ云、對馬韓海末盧(マツラ)國ヲスギテ、伊都國ニ到ル、官ヲ爾支(ニシ)ト云、副ヲ世謨觚(セモコ)柄渠觚(ヘイキヨコ)ト云、千餘戸アリ、世々王アリ、ミナ女王國ニ統屬ス云々、コレヲ以テミレバ、伊都國則チ委奴ニシテ、誤テ倭奴トスルモノ、皆女王國ニ統屬スト云ヒ、委奴世々王アリトイヘバ、委奴國王ハ伊都ノ君ヲサシテ云ノミ、コレ怡土郡ノ君長ナルコト、決シテ疑フベカラズ

中興西洋人「ホルランド」人來ル、我邦人ソノ國ノ名ヲ問フニ、「ホルランド」ト云ヲキヽタガヘテ、ヲランダト假名ニテシルス、其後又紅毛ノ字ヲ用ヒ、漢土ニテハ又キヽタガヘテ、法蘭ト入ル、ミナ「ホルランド」ノキヽアヤマリナリ、又「ランド」ハ國ト云ガ如シ、シカルニ法蘭ノ一字ヲトリテ、蘭人又蘭學・蘭書ナド卜云コトハ、ミナ同日ノ論也、我邦ニテ漢ヨリ付ラレタル間違ノ倭ヲ用ヒテ、自カラ稱スルヲ以テミレバ、「ホルランド」人自カラ紅毛法蘭ヲ、ヲランダト稱スルガゴトシ、「ホルランド人」、ナンゾカク稱センヤ

ソレヨリダン〳〵國々ヲ經テ野馬臺國ニ至ル、女王ノ都スル處トイヘバ、明ラカニイドトヤマトノ王

倭奴國王印

同　鈕

親魏倭王印

都ト別ナルコトシルベシ、垂仁ノトキ、我ト漢ト通ズルコトナク、コノトキ越前ヘハジメテ任那(ミマナ)人來ルコト有ドモ、三韓ト往來モナシ、マス〳〵伊都ノ君ノ使ナルコトヲシルベシ、ソノ印綬ノ文(前ニ出ス、)又魏志ニ曰、「明帝景初三年六月、(景初三年ハ、神后三十九年)倭女王遣二大夫難斗米等一、詣レ郡求下詣二天子一朝獻上、太守鄧夏使三吏將送詣二京師一也、」又「正始元年、(正始元年ハ同四十年、同四年ハ同四十三年、)遣下建忠校尉梯携等、奉二詔書印綬一、詣中倭國上、復使下大夫伊聲者掖邪約等八人上獻上」云々(晉世記泰始二年ハ、神后六十六年也、起居注ニ曰、十月倭女王遣二重譯一貢獻スト)コノコト我正史ニ見エズ、コレモ亦西埵ノ商賈ノ交易ノタメニ詣リタルコトニシテ、王都ニシラザルコトナリ、難斗米伊聲者掖邪約ノ人名、我國ニアルコトナシ、漢人ノ我國ニ來リシコトモキカズ、コレミナ西埵ノ民漢ニ至リタルヲカク書シタルモノニシテ、彼土ノ史冊ニアリトイヘドモ、我ニシラザルコトユエニ、日本書紀コノ三事ヲ細書シテ、本文ニ列セズ、漢ノ書ニアリテ、我國史ニ無キ故也、(日本紀考證、コノ三事削ルベシト云、得タリトス、シカルニ一說ニ、日本紀ノ本書ニ此コトナシ、後世點ヲナシテ印行スルトキ、細書シテ入レタリト云、是モ亦アルベシ)然ルニ是モマタ闕デ可也、ナンゾ他國ノ謬傳ヲ引テ、覺ナキコトヲ我正史ニ書センヤ、我史ニアレバ他ノ謬ヲ實ニスルナリ、彼國ノコトハ彼ノ史ヲ正トスベシ、他ノ謬ヲ用ヒテ我ノ正史ニノスルハ、我ノ謬ナリ、古事記・舊事紀ニ書セザルハ、得タリトスベシ、大日本史コノコトヲ本文ニ列ス、過ト云ベシ、和漢紀年錄ニ、コノ三事ヲ我ノ部ニシルス、亦過ナリ、彼ニシルセバ可ナリ、我ニシルスハ不可ナリ、ヨキカナ太宰氏ノ年表ニハ、彼ニシルシテ我ニシルサズ、得タリトス、長井氏ノ本朝通記、本文ニ「三十八年遣二使於魏一」トシルシテ、註文魏志ヲ引テ曰、「倭王因レ上表、

答ニ啓詔書一、又献ニ倭錦一」トアルヲ論ジテ、表ト錦トヲ疑ヒ、我ノ備ハラザルヲ惜ム、コレモ亦彼ヲ信ジテ我ヲ信ゼザルナリ、コノ時イマダ文字ワタラズ、表ヲ上ルトアルハ、漢人ヲタノミテ書テモラヒタル也、錦ハ呉織ノ四女イマダワタラズ、倭錦ト云モノアルベカラズ、朝鮮ニテ求タルナラン、ミナ王都ノシラザル處也、考フベシ、履軒先生ノ筑紫人ノ彼土ニイタルノ說、漢人我民ニカハリテ表ヲツクリ王ニ上ルノ論、ソレ掌ヲサスガ如シ、二千年ノ疑コヽニ解ス、我輩カヽル論ヲキヽ、コノ印ヲホリ出ス後ニ生レテ、發明ヲ得ルコト幸ト云ベシ、抑我日本神武ヨリシテ、仲哀ニ至ルマデ、日本アルコトヲシリテ、漢土アルコトヲシラズ、垂仁ノトキ、任那人來ル、コレ外國ニ通ズルノ始也、（垂仁ノトキ、筑紫伊都國人スデニ漢ニ通ズレバ、山ニノボリテ西北ヲノゾムニ及バズ、コレモ又知ルベカラズ、漢人ノ追テシルスモノカ、又ハ伊都人ノ私ニ漢ニ入タルモノユヱニ、イミテ云ザルモノカ）神后三韓ヲ伐ツ、ソノ始財オホキ國ヲ得ルト云、此時イマダ三韓アルコトヲシラズ、山ニノボリテ西北ヲノゾム、遙ニ國アリトミル、コレヲ以テシルベシ、コレマデイマダ三韓ヲシラザルナリ、況ヤ漢土ヲヤ、シカルニ垂仁ノトキニ、伊都郡ノ人漢ニ至リテ、印綬ヲウケテコレヲイハズ、思フニ秘シテ云ザルナルベシ、神后三韓ヲ伐ツノ年ニ到リテ、百四十五年ニ及ブ、コレヲ以テ其誤リヲシルベシ、漢ト我國ノ史ニ出ルモノ、アラマシコヽニシルス

漢光武中元二年、（垂仁八十六年）奉レ貢賜ニ印綬一、安帝永初元年、（景行十六年）倭王帥升等、献ニ生口百六十人一（又垂仁ノトキ新羅ヨリ天ノ日矛來リテ但馬ノ〃名ニ住ス）

魏景初三年、（神后三十九年）遣ニ難斗米貢献

正始元年、（同四十年）奉ニ詔書印綬詣倭

同四年、（同四十三年）貢献

晋泰始二年、（神后六十六年）貢献

南宋永初二年（允恭十年）倭王讃修貢

元嘉二年（允恭十四年）讃（讃ハ履中諱去來穗別（イサホワケ）、コノサホチ訛リタルナラン、珍ハ反正ノ諱瑞齒別、瑞珍字似タリ、ユエニナマルカ）又遣ニ司馬曹達奉表献ニ方物、讃死、弟珍立、遣使貢献、自稱ニ使持節都督倭百濟新羅任那秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭國王、詔除ニ安東將軍倭王、

同二十年、（允恭三十二年）倭王濟遣使奉献、封ニ倭王、（濟ハ允恭諱雄朝津間稚子ノ津チアヤマルカ）

同二十八年、（允恭四十年）加ニ六國諸軍事

大明六年、（雄略六年）奥（奥ハ安康ノ諱穴穗ノ誤カ）封ニ倭王

昇明二年、（雄略二十二年）倭王武（武ハ雄略ノ諱大泊瀬幼武チトルナリ）奉貢、封ニ六國諸軍事安東將軍倭國王

右上世ノコトニシテ、彼ノ史ニ出デ我ノ史ニナキモノナリ、此後隋唐ノ往來ハ、互ニ史冊ニアフル、隋・唐・宋ニ至ルマデ同ジ、元・明ノ如キハ、日本ヲ倭王ニ封ジ、詔書ヲ出シテコレヲ賜ルトイヘドモ、彼ニアリテ我ノ知ラザル處ナリ

應神三十七年晉ノ光照元年遣二阿知使主都加使主於呉一、求二縫工女一
仁德五十八年、東晉大和五年呉國・高麗國幷朝貢
雄略六年、南宋大明六年呉國遣レ使貢獻
八年、同八年遣二自挾村主青檜隈民使博德一使二於呉國一
十二年、同泰始四年遣二使於呉一
十四年、同泰始六年呉使來朝、獻二手末才伎漢織呉織及衣縫兄媛弟媛一

右我ノ史ニ出テ、彼ノ史ニナキモノ也、兩國互ニ貢獻トシ來貢トス、我ヲ尊ビ彼ヲ賤シムルナリ、人情シカリトス、カナシイカナ、我儒士ヤ、唯漢土ヲ信ジテ、我ヲ信ゼズ、彼ノ夸張ノ筆ニ心ヲツケズシテ、スベテ彼ノ詞ヲ以テ我ニ引トイヘドモ、物ニヨルベシ、我ノ實迹ヲステテ、彼ノ虚文ヲ證トス、アヽカナシムベシ、我ノ歴史ニ彼ノ文ヲトリテシルスモノナラバ、彼ニモマタ我ノ歴史ヲトリテシルスベキニ、終ニシルサヾルナリ、コレ我儒士ノアヤマリナリ、事實ヲ正サズシテ、徒ニ我ノ耻ヲシラズ、居ナガラ君命ヲハヅカシムルモノカ　然ニ呉ノ國ト云モノイカンヲシラズ、應神三十七年ニハ、三國ノ呉亡ビテ二十七年、ソレヨリ仁德・雄略ノトキハ、十六夷狄起リテ、漢土大キニ亂ル、又呉ノ國ナシ、思フニ神后三韓ヲ伐テヨリ、新羅ニ日本府ヲオキ三韓ヲ下知ス、ソノ將互ニ爭フテ和セズ、コノ間ノコトナレバ、コノ府將ヨリ何ヲカ云ヒ遣シヤシルベカラズ、倭王ニ封ズルコトナドハ、皆我國ヘ通ゼザル處也、我ヨリシテ呉ト稱スルモノハ、何ノ國ヲサスヤシルベカラズ、又遼東渤海ノ邊ニテ、我ヨリ呉ト云ニノリテ、ソレニ雷同シテ、利ヲ貪リシモ亦シルベカラザルモノナリ、合セ考フベシ

右上世ノ往來カクノゴトシ、我ニアルハ彼ニナシ、晉宋ノトキニ奚ト稱シ年暦アリト雖、彼ニハ何レノ國ニ我使ヲウケシヤシルベカラズ、又彼ヨリ來ル處ノモノ、自カラ奚ト稱スルモノ、イブカシキ也、スデニ我國ヨリ新羅ニ日本府ヲ置テ將ヲツカハシ軍事ヲ掌ル、其威隣國ニフルフベシ、五國ミナ我ニ臣服ス、何ノ爲ニ彼ニ向フテ臣ト稱シ、封爵ヲウケンヤ、コレマデハ各々史書ニシルシテ、互ニ證ナシ、ソノ證トスベキハ、推古ノ遣隋使ヲ立シヨリシテ、唐宋ニイタリテミナ證アリ、推古十五年小野妹子ヲ隋ニ遣ハス、國書ニ曰、「日出處天子、致ニ書日沒處天子ニ無レ恙云々」ト書トキハ等輩也、隋史唐書ニ書クトキハ、疑フベキニアラズ、スデニ允恭・雄略ノトキ、臣ト稱シ、封爵ヲウケテ、今日ニ至リテ百三十年、コノ書贈ルベカラザルナリ、シカレバイヨ〳〵マス〳〵封爵上表ノコトハ、ミナコレ彼ノ夸張ノ語實事ニ非ルヲシルベシ、元ノ世祖・明ノ太祖倭王ニ勅スル書アリトイヘドモ、彼ニテ書シタルバカリニテ、我ニ來ルコト無シ、推古十五年ノ紀ニ、國書ヲシルシオカザル故ニ、彼ノ史ニシルス、十六年ニ妹子歸ル、隋ヨリ裴世清送リ來ル、ソノ國書我ニシルス、曰、「皇帝問ニ倭皇ニ使人長吏大禮蘇因高（妹子ヲ云テ蘇因高トス）等至、具レ懷、朕欽承ニ寶命ニ云々」又妹子ヲシテ裴世清ヲ送ラシム、其國書ニ曰、「東天皇敬白ニ西皇帝ニ云々」、コノ書ヲ以テ見レバ、我ノ使者ハ外夷ノ使ニ異ナリトシルベシ、唐宋ノ間、遣唐使來往シ、宋ニハ學僧多ク渡ル、彼ヨリモ使ヲ送ルコト、互ニ正史ニノス、杜撰ノコトナシ、シカルニ時時ノ遣唐使ニ、國書ナキコトアルベカラザルニ、國史ニシルサズ、本朝文粹ニモアルコトナシ、アヤ

シムベシ、シカレドモ彼ノ史ニモ國書ノコトミエザレバ、本ヨリナキニヤ、文苑英華ニ、日本ニ贈ルノ書、張九齡ノ草アリ、曰、「勅ニ日本國王主明樂美御德ニ」ト云、スメラミコトハ、我ノ皇尊ヲサスナレバ、我ノ尊號ニ隨フテ彼ヨリ王ニ封ゼザルヲシルベシ、隋唐ミナ我ヲサシテ皇トシ、スメラミコトヽス、我ヲ侮ドラザルナリ、シカルニ元來漢土ハ大國ニシテ、諸蠻夷ミナ來貢ス、我ヨリモソノ文物ヲシタヒテ至ルユヱニ、其外夷ノ使者ト同ジク、朝ニ出テ思ハズモカレノ夸張ニ怖サレテ、自然ト服セザルコトアタハズ、ユヱニ彼ヨリハ代々倭王ニ勅スルノ書ヲ送ルナリ、シカレドモ明ニアリテハ足利氏ヲ日本王ト稱シ、太閤モ王ニ封ズルノ勅書ヲ贈ル、コレヲ以テミレバ、王號ヲ以テ將軍家ヲ稱スレバ、天子ハ其上ニアルコトシルベシ

又朝鮮征伐ノトキニ、明國ニテ議シテ曰、日本元ヨリ天皇アリ、國王姓ヲ平名ヲ秀吉ト云トアレバ、コレ天皇ト王トアルヲシルコト明ラカナリ、コレヲ以テヨク考フベシ、萬古倭ノ號及我ヲ鄙シミタルコトアヤマリタルモノ也、委奴國王ノ說、確然易ベカラズ、山海經ノ南倭北倭ハ屬ノ燕ト云、纂疏ニ吾國ヲ云ヤト云ノ上ノ一字ヲトリテ名付タル、王充ガ論衡ニ、「周時天下太平、越裳獻ニ白雉ニ、倭人貢ニ鬯艸ニ」ト、其ノ外後世ノコトハ云ニ暇アラズ、コレラノ書訛傳マス〳〵多シ、スベテ天下ノ事前世ハ粗ニシテ後世ハ精ナリ、古書ヲ以テ是トシ證トシ、亦ハ外國ノ書ヲ實トシテ、我ノ自國ヲ論ズルコトナカレ、今我ノ弟ヲ他人ヨリ兄トイハヾ、アニ肯ンヤ、我ハ兄ニシテ彼ハ弟ナルコトヲ辨ズベシ、

外國ノ人ニ我國ノコトニ精シカランヤ、松下氏ノ異稱日本傳（善隣國寶記亦同ジ）ヨク辨ズトイヘドモ、其ノ訛傳ニ心付ズシテコレヲ實トシテ論ヲナス、ユヱニ誤リ少カラズ

八　上代ノ天子土蜘蛛ヲ亡スコト多シ、ミナ盜賊ニシテ二人三人ト云、山腹ニ穴ヲホリテ住居シ、夜中村里ニ出テ財物ヲヌスミ、婦女ヲカスム、ユヱニ土蜘蛛ト云、源頼光病ニ臥シタルトキ、土蜘蛛ナルモノ病床ニ來リテ、千筋ノ繩ヲ以テ縛ラントスルトキ、名劍ニテコレヲ斬リタルヲ以テ、ソノ劍ヲクモキリ丸ト云、又コノ血ヲ逐フテ北野ノ塚窟ニ至リ、大キナル土蜘蛛ヲ斬ルト云々、コレ名ニ泥ミテ、附會スルモノ也、スデニ日本紀ニ土蜘蛛二人三人トアリ、俗本ニモ前々太平記ニハ人トアリテ、前太平記ニハ實ノ蜘蛛トス、疎ナル哉、今伊勢路ニテハ、山賊ヲ護摩ノ灰ト云、大阪ニテ小賊ヲ昔鳶ト云、道中ノ無宿モノヲ蜘蛛助ト云、又雲助ナランカ、何レ身輕キヲ以テ云ナルベシ、其外野史俗書ニ出ルモノ、百合若ノ勇力、大友ノ眞鳥九州ニ反スルヲ、兼遣ト云モノコレヲ伐ツ、鈴鹿山ノ鬼魅ヲ田村麿ノ伐ツコト、大江山千丈ガ岳ノ酒呑童子、茨木童子ヲ、源頼光ノ討トルコト、實ハ盜賊トアレドモ、是モマタ國史ニ見エザレバ知ルベカラズ、渡邊ノ綱羅城門ニ鬼魅ノ腕ヲ斬タルヲ、其鬼叔母トナリテ來リ、腕ヲ奪ヒ破風ヲヤブリテ迯タル故、今ニオイテ渡邊氏ニハ破風ナシト云ナド、妄説ナルカナ、スベテ其比ハ鬼ト云コトノ流行シテ、カリソメニモ鬼出テ人ヲ取リシト云ニノリテ、盜賊ノナスコトナルベシ、都ノ良香ノ學者スラ、羅城門ニテ「氣霽風梳二新柳髮一」ノ句ニ、鬼ノ次ギタルト云説ア

リ、今昔物語ナドハ大カタ鬼魅ノコトナリ、又芦屋道滿・安部ノ淸明ノ術アラソヒナド、ミナ此比ノ怪說ナリ、取ベカラズ

九　上古貴人ヲサシテミコト、云、天子ニ尊ヲ用ヒ、臣下ニ命ヲ用ユルコトハ、神代ノ部ニスデニ云ヘリ、古ヘハ御ノ字ヲントイハズ、（ゴハギヨノ呉音ナリ）是ヲミト云、又門ヲカド、云、後世ハ門外ヲカドト云、門ヲモント云、ミカドハ御門也、大炊ノ御門・土御門ニテシルベシ、門ノ名ナリ、ユヱニ天子ヲミカド、云ハ、御門ヲサシテ云ナリ、階下殿下ト云ハ、禁內ヘ近ク入テノ言也、外ヨリシテ御門ト稱スルハ、尊ムノ至リナリ、門トカドノコトハ、和泉式部ノ哥ニ「門ノ外ノリノ車ノコヱキケバ」ト云ニテシルベシ、ミハ（ミハ神代ヨリ以來尊稱ノ詞）崇敬ノ詞ナリ、文字渡リテ後ニ、御ノ意ニ合セタルナリ

十　古ヘヨリ空言浮虛ノ說ヲカキテ、無キコトニ顯然タル存在ノ人ノ名ヲ入テ、艸紙ヲ書出スコトアリ、中世流行ノ甚シキモノナリ、スベテナキコトモ面白ク云マハシ、神祇・釋敎・戀・無常ノコトヲ實情ニツヾリ出スコトニアリ、又最モ實ナキモノハ、竹取物語天稚彥ノ類、及ビ狹衣ソノ外數十部、今ニ存シテ流行ス、源氏物語ハ紫式部ノ作ナリ、文中唯源氏ト云テ誰タルヲ云ハズ、說者光源氏ト云ヘドモコレモ亦明白ナラズ、シカレドモ式部ノ意ニハ、指ス所アルナリ、仁明ノ皇子ニ光アリテ、源姓ヲ賜フ、コノ人ハ藤ノ時平公ニ黨シテ菅公ヲ讒シ、直ニ其ニ代リテ右大臣トナル人也、シカルニコレトモミエズ、伊勢物語ハ業平ノ自記ニ付添テ作リタルモノナランカ、松風・村雨ノコトナドハ、元來行平

須磨左遷ノコトナシ、立ワカレノ歌ハ因幡ノ守ニテアリシトキノ哥也、中興謠曲ニサマ〴〵ノコトヲ作リ出セシヨリ、ソレニヨセテ又オヒ〳〵ニ附會スルコト多シ、中ニモ伊勢源氏ノ艸紙ヨリ出タルコト多シ、海士•鉢ノ木ナドハ、人口ニ鱠炙シテ甚シキモノナリ、ソノ後小野ノ阿通ト云モノ、淨瑠璃姫ノコトヲ書テ、源氏十二段ヲ作リシヲ初トシテ、淨瑠璃ト云コト始マリテ、近世專ラニ是ヲ玩ブコトトナル、ミナ虛談ヲ作テ其時ハ僞作ナルコトヲ人ハシレドモ、ツヒニハ愚蒙ノ人々女子小童オヨビ遠鄙山海ノ人ハ、實事ト心得タルモ亦多シ、已ニ今時ノ淨瑠璃ハ作リモノナルコトヲ、人モ知リテ實事トセザレド、謠曲ハ事實ナリトスル人多シ、ソレニノリテ後人ノ附會巫僧ノ奸ニヨリテ、古器古迹ヲ作リテ、人ヲ欺キ利ヲ得ントス、トリ分謠曲ハ大抵佛者ノ作ナリ、過半ハ死靈ノコトニテ、ソノ餘ハ神祠ヲ佛ニ習合シタルコトノミナリ、ソノ外佛語ナラザルハナシ、又海士ノ謠ニ云、今ノ大臣淡海公ノ妹ハ、唐ノ高祖皇帝ノ后ニ立セ玉フト云コトハ、虛談ナルコトハ人モシリタレバ、ソノ餘モミナ虛ナリトシテ捨ベキニ、興福寺ニ華原磬泗濱石面向不背ノ玉ヲコシラヘ、讃州志度寺ニハ、藤氏ノ古物ヲ作リ、海人ノ墓ヲコシラヘ、二刹トモニ明ラカニ緣起ヲツクリテ、是ヲ披露ス、コノコトハ允恭帝ノ十四年九月、天皇淡路ニ獵ス、赤石ノ海ニ大鰒アリ、神アリテコノ眞珠ヲ求ム、男狹磯ト云海人ヲ入レテコレヲ取ラシム、男狹磯コレヲ取ルトイヘドモ、浪ノ上ニ死ス、墓ヲツクリテ厚ク葬ルト、日本紀ニアルヲ本トシテ、作リ出セルナルベシ、小町（小町ト云名多シ小野小町ニ限ルベカラズ）ノコトハ尙サラニ明證ナシ、ソ

ノ外ノコト數フルニ暇アラズ、今スデニ浪華福島ノ松ヲ逆櫓ノ松トスルガゴトシ、後世淨瑠璃ノ新作ウサリテ、又艸紙ノ風カハリタラバ、淨瑠璃ニアルコトミナ實事トスベシ、和漢トモニ僞作虛妄ノコトヲミナ誇リテ著述シ、浮華ノ文ニ泥ムヨリ、コノ惡風出ルナリ、今サラニイカントモスベカラズ、セメテ遲クトモ虛妄ノ文ヲ禁ジ玉ハヾ、シカルベシ

十一 土佐日記ハ、紀ノ貫之土佐ノ守トナリテ、任ミチ十二月二十一日乘船シ、二月七日難波ノ川尻ニ入テ、十六日歸洛マデノコトヲシルシタル日記ナリ、シカルニ土佐日記ト題スレバ、土佐在任ノ間ノコトヲシルスベキニ、歸路ノコトノミヲシルセバ、紀行也、コレハ長キ船中ノツレ〴〵ニ、用モナキコトヲ書出ス也、ユヱニ女ノスル日記ナド丶云ヘリ、シカルニ此書貫之ノ自筆ナルコト、定家卿ノ序文ニミユ、サテ二月七日ニ難波川尻ニ入テ、淀川ヲコギノボル、水少キニヨリテ所々ニテ滯リ、十四日ニ山崎ニ到リ、十五日車ヲ京師ヘトリニヤリテ、十六日歸洛ス、遲緩ナルコトナリ、十日ノ行程今ハ一夜ニ往來ス、古人ノ從容迫ラザルコトミルベシ、又川尻ニテノリ替ノコトミエザレバ、海船ノマヽナリシヤ、シカルトキハ船ノユカザルモ宜ナリ、菅公左遷ノトキハ、川尻ニテ乘カヘノコトアレバ、山城ヨリ出タル船ユヱ、川舟ニテ海船ニノリカヘ玉フナルベシ

十二 小野ノ篁ハ宏才ノ人也、シカルニ今世俗ニ篁ノ哥字盡ト云テモテハヤス書アリ、其哥ノ拙キコト云ベカラズ、責テハ哥ハ拙クトモ、兒輩ノ教訓トモナリテ、文字ヲシルコトナラバシカルベキニ、

コノ書文字ノ本體ヲ失ヒタルコト多シ、イカナル文盲人ノ作ナルヤ、篁コソ迷惑ナレ、一二ヲ云ハヾ杉ノ字ヲ枚トコヽロエテ、百ハカヤ白キハカシハ公ハ松久シキスギニ合ハヒノキゾ 百會トモニワケアレドモ論ゼザル也、樂樂樂(ラクガクガウ)ノ字ミナ同字ナルヲ、ラクガクガウハ白自日ナリ コレハ附會ノ甚シキモノカ、スデニ上オノレハ下ニツキニケリミハミナハナレツチハミナツク コレヲ以テ其餘ヲシルベシ

十三 仲哀帝長門ニ崩ジ、皇后喪ヲ秘シテ三韓ヲ征シ、皇子ヲ筑紫ニ生ミテ歸ヘラントス、庶兒鹿耳(カゴ)坂(サカ)・忍熊(オシクマ)ノ二皇子作リテ山陵ヲ赤石ニ營ントト、石ヲ淡路ニ取ルト號シテ、皇后ヲ防グ事ナラズシテ二皇子ホロブ、シカルニ赤石ノ東垂水ニ石浮屠アリ、相傳フ仲哀ノ陵也ト、又側ニ瓶ヲフセタルモノ多クアリ、俗千瓶(センツボ)ト云、日本紀ニテ見レバ、聲言シタルノミニテ、實ニ陵ヲ營ニアラズ、又コノトキイマダ佛アラザレバ浮屠塔アラズ、後世ノスル處明カナリ、シカルニ千瓶ノコト亦擬スベキニアラズ、外人ノ墓ナルベシ、況ヤ仲哀ノ山陵ハ、皇后軍ニカチテ後、河内國長野ニ造ルヲヤ

十四 昔ヨリ軍ニ臨ンデ命ヲ惜ムモノハ敗レ、惜マザルモノハ勝ツ、自然ノ理ナリ、死物狂ニ中軍ニ駈入リ、大將ヲ目ガクルトキハ、旗本ノ備ヘトイヘドモ、崩レ立ヒラキナビキテ、本陣ニ至ルコト多シ、コレ何ノ故ゾヤ、手ヲ負テモカヘリミズ、僕從ミナ討レテモカヘリミズ、討死ト前後ナクハタラクユヱナリ、其ヒラキナビク人々ノ其人ヨリ弱キニアラズ、シカルニ一人大將ノ大事ナリ、イザヤ馬前ニテ死スベシト覺悟シテ立向ヘバ、又防ギオホスベシ、市街ニテ隣街ノ狗迷ヒ來リタルニ、四五疋

ノ犬トリマキテ爭フ、迷犬齒ヲムキ牙ヲカミテ取テカヽレバ、四五疋ノ犬ミナ逃チルナリ、コレヲ以テ見レバ、罪人ヲ召捕モ亦コノ類也、天正ノコロ神祖織田氏ヲ援ケテ、尾州小牧ニ陣ス、秀吉額田ニ（ヌカダナリ樂田トスルハ誤ナリ）陣ス、池田勝入岡崎ヲ攻ントス、神祖小幡ニ入ラセタマフ、コノトキ池田父子討死ス、秀吉キヽテ十萬ノ勢ヲ卒シテ小幡ニ向フ、本多氏小牧ニ留守ス、小幡ノ陣ノ未ダ整ザルヲハカリテ、秀吉ヲトヾメテ其行ヲユルメントス、余一人死セバ一二刻ハ遲々スベシト、唯一人僅ニ歩卒三百ヲ率キ、追附テ並ビ行キ、ヤヽモスレバ秀吉ノ旗本ニ斬入ベキ勢ナリ、其大膽不敵云ベカラズ、コノ時ニアタリテハ、敵五萬モ十萬モ目ニカクルコトナシ、唯吾敵ヲ禦止スベキノミ、カナハザレバ死スベシ、ソノ内ニハ神君小幡ノ城ニトクト引入玉フベシト、其外ニ念ナシ、其志天下ニ敵ナシ、秀吉コレヲ感推シテアシラヒ行ク、ツヒニ其ヒマニ神君ソナヘヲ立テ、小幡ニ入玉ヒ、秀吉ツヒニ引返ス、一人志ヲ立タルハ萬夫奪フベカラズ、ユヱニ敵ニ勝ツコトハ力ニアラズ、志ニアリ

十五　後三年ノ戰ヒ、事ノ起リハ出羽ノ秀武ナリ、眞衡（清原武則子武貞・武衡・武貞子眞衡・家衡・直衡養子成衡）ノ無禮ヲ怒リテ、家衡・清衡ヲカタラヒ、眞衡ト戰フ、義家陸奥守トナリテ、眞衡トトモニコレヲ攻ム、然ルニイツノ間ニカハ、武衡・家衡合體シ、清衡・秀武、義家ニ屬シ、眞衡同子成衡等ノ終リヲシラズ、清衡ツヒニ亂平ギテ鎮守將軍ニ任ジ、六郡ヲ領ス、清衡ハ賴時ノ婿亙理經清ノ子ニシテ、母ニ從フテ武貞ニ養ハレシ人ナレバ、ヨク〳〵ノ大功ナクテハ、鎮守將軍ニハ任ゼラレマジキナリ、又武衡ハ功臣清原ノ武則ノ子

ニシテ、家衡ハ孫ナレバ、將軍ニモ任ゼラルベキニ、コノ二人ハ朝敵トナリテ、ツヒニ淸衡ノ有トナリテ、ソノ子基衡ソノ子秀衡（淸衡ハ藤原經淸ノ子ニシテ、家衡異父同腹ナリ）トツヾキテ、タメシナキ大藩トナルコト、スベテ書卷物ノ辭ヲ主トシテ、外ニ正シキ書無キ故、考ル處ナシ

十六　大塔ノ宮ハダイトウノ宮ト云ナルベシ、宮奈良ノ般若寺ノ經櫃ニ隱ル、京師ヨリ追來リタル卒、櫃ヲサガシテ得ズ、則曰大塔ノ宮ハオハシマサデ、太唐（ダイタウ）ノ三藏ヲ得タリト云ヲミレバ、ダイタウナリ、三藏法師ヲ大唐（オホトウ）トハ云マジキナリ、シカルトキハダイトウノ宮ニチガヒナカルベシ、又コノ大唐ノ三藏ト云シコトモ、今日ニテ歷々ノ佛ヲ信ズル人ニテモ、三藏天竺ヘ渡リテ經ヲトリ來リ、飜譯シタルナド云コトハ知ルマジキニ、コノ賤卒ラコノ言ヲ發ス、古風ノノコリタルコトシルベシ、コノ宮ヲダイ塔ト云フコトハ、玄惠法印太平記ヲ作リシトキニ、當世目ノアタリノ人ユヱニ、オホ塔トハ云マジキニ、後世太平記ノカナヲ附ルトキニ至リ、オホ塔トシタルモノ也、夫ヨリ受テ淨瑠璃ニモ、オホ塔トスルモノカ

十七　太平記ハ玄惠ノ作ト雖、亦他ノ筆モアリ、正成天王寺ニテ未來記ヲヨムコトナドハ、ソノトキノ計策カト思ヘバ、左ニモアラズ、義仲ノ八幡ノ寄進、信長ノ熱田ノ告ナドハ、士卒ヲハゲマス計略ナリ、正成ノ未來記ハ唯作者ノ妄意ナルベシ、徒ニ先知ヲ慢スルノミ、コノ記實ニアルナラバ、平城・崇德・後鳥羽・後醍醐ノ諸帝ナンゾコレヨリ先ヘ視テ、ソノ必勝ヲ決シテ事ヲ擧ザルヤ、又厩戸太子明

日ノコトモシルベカラズ、況ヤ數千年ノコトヲヤ、其外佛者ノ書出ス記ニハ、カヽルコトノミ多シ、必佛ニ泥ムノ書ハ讀ベカラズ、只方便因果ノミヲ云テ事迹ヲ辨ヘザル也、又楠公湊川ニテ戰ヒ疲レ、民家ニ入テ弟正季トサシチガヘテ死セントス、曰生々世々人ニ生レテ、朝敵ヲ滅スベシト云、然ルニ兄弟從類ミナ死シテ、誰カコノ語ヲ告グル、コレミナ作者ノ意也、左傳猶サラニカヽル語多シ、スベテ古來神託ト稱スルモノ、ミナソノ受タル人ノ託也、倭姬ノ神託モ、亦倭姬ノ語也、行基ノ伊勢ノ託宣モ、亦行基ノ語ナリ、阿蘇丸ガ八幡ノ神託ヲ宣ル、淸丸ノ同神ノ託モ、亦皆其人々ノ心ヨリ出タリ、シカルニ阿蘇丸ガ道鏡ヲ帝位ニ即シムルト云ハ、僞ニシテ淸麿ノ語ハ實トスルコト、其時ニオイテハソレニテ押付タルユヱニ然ルベケレドモ、後世ヨリコレヲミレバミナ僞ナルコトシルベシ、邪正忠佞是非得失ハ明白ナレドモ、邪佞非失ヲ虛トシテ、正忠是得ヲ實トスルハ、中人以下ニオイテハソレニテスムベシ、君子ハシカラザル也、其外カヽルコトヲ一々ニ辨ズルトキハ、際限アルベカラズ、唯ソノ心ニヨリ考ヘ得テ、書ヲ讀ベキモノナリカシ

十八　朝野群載ニ游女ノコトヲ云、津ノ國神崎ニハ河菰姬ヲ長者トシ、菰蘇宮子力命小兒アリ、江口ニ觀音ヲ祖トシ、中ノ君小馬白女主殿アリ、蟹島ニ宮城ヲ宗トシ、如意香爐孔雀立牧アリ、是ヲ以テミレバ、西行ノ出合シ普賢ト云モ、游女ノ名ナルベシ、名ニヨリテ附會セシモノナラン、宗盛ノ妾モ熊野ナリ、ユヤニアラザルナリ、長秋記ニハ游女久萬乃トアリ

十九　赤穗ノ敵討ト俗ニ云フラスト雖、コレハ復讐ニアラズ、室・淺見ノ二先生、傳ヲツクリ論ヲ立、忠臣トシ、義人トシ、或ハ其自裁ヲ過刑トスルモノアルニ至ル、抑赤穗侯一時ノ憤ニ忍ブコトアタハズ、吉良侯ヲ傷ク、死ニ至ラズト雖、不敬コレヨリ大ナルハナシ、國除カレ死ヲ賜フ、コレ其所也、其臣大石氏ヲハジメトシテ、城ヲ渡シテ流浪ス、ツヒニ四十七人黨ヲ結ビテ、吉良公ヲ襲ヒ殺ス、本ヨリ赤穗侯ハ吉良公ニ殺サルヽニアラザレバ、讐トスベカラズ、赤穗侯ヨリ吉良公ヘ斬カケ玉フナリ、公裁ヲ以テ死ヲ賜フハ、其刑ニ行ハセラルヽナリ、シカレバ讐トシミル處アルベカラズ、ユヱニ徂徠氏ハ四十七人ハ、其君ノ邪志ヲ繼グモノ也、義トスベカラズト云、太宰氏モ亦四十七人ヲ不義也ト云、公ヲ恨ミテ城ニ籠リ、天下ノ兵ヲ引受ケ斬死スベシ、吉良公ヲネロフハ非也トノヽシル、五井先生コレヲ駁シ、大石氏ハ其君ノ吉良公ヲ殺遂ゲザルコトヲ恨トス、唯コノ志ヲツギテ吉良氏ノ首ヲ斬テ、亡君ニ地下ニ奉ルコレノミ、ソノ上ハ從容トシテ義ニ就クモノ也、大石氏ノ心ヲヨク推察スベシ、公ノ吉良氏ヲ怒リ刄ヲヌキテ斬ラントス、少シノ疵ヲ蒙リテ逃ノビ、ツヒニ刺スコトアタハズ、ツヒニコノ無念ヲハラサズシテ死ヲ賜フ、臣タルモノ君ノ心ヲ察シ、徒ニコレト共ニ天ヲイタヾカンヤ、其刺トゲザル處ノ吉良氏ヲ殺シ、其首ヲ亡君ノ墓前ニサヽゲテ、公ノ怨恨ヲ解クノミ、其外ニ心無シ、コレ大石氏ノ志ナリ、野公臺氏復讐ノ論ヲツクリテ、諸先生ノ說ヲ斷ジ、王安石・柳宗元ノ論ヲ加ヘテ、佐藤先生ノ上ヲ陵グノ一言ヲトリ召忽ノ忠トシ、無學ヲ以テコレニ歸ス、アヽ豪雄ナル哉、諸先生ト

雖ソノ論偏頗スル所アルナリ、室・淺見ノ人々ハ唯其志ヲ感ジテ、上ヲシノグコト、及ビ仇ノ目アテノ差謬ヲイハズ、物部・太宰・佐藤ノ人々ハ、朱學ニモトルヲ歡ビ、人ノ隱過ヲ穿チテ訐テ以テ智トシ、道ヲシルモノハ唯吾ノミト云ニアリ、野公臺氏ト雖モ、五井先生ノ穩當ノ駁ニ及ンデハ、察ヲイル、コトアタハズ、是ヲトルト雖本ヨリ物學者ナレバ、コノ宗祖ノ説ヲ奉ジテ陵上無學ノコトニ云及ボサザルコトヲヲシム、履軒先生復讐ノコトヲ論ジテ、除元慶ガ父ノ讐ヲウチタルヲ論ズルコト詳密ナリ、又太宰氏ノ上ヲ陵グト云モ亦議スベキアリ、大石氏ノ吉良公ヲコロスハ君ノ怨ヲトク也、上ヲ陵グニアラザル也、赤穗ニオイテ受城使ニ敵タイ亂ヲナストキハ、是上ヲシノグ也、太宰氏陵上ノ二字ソノ竅ヲ失ス、赤穗ノ論ニオイテハ俗説ニカヽハラズ、諸儒ノ議論ヲステヽ、卷ヲ掩フテ沈潛反覆シテ、其蘊奧ヲ極メ、大石氏ノ心志ヲヨク探リ得ルモノアラバ、其得ル處アルベシ

二十 當時二條家ニ限リテ、關東ノ御諱ヲ贈ラルヽコトハ、神君ノ御時二條家ニテ昭實公關白トシテ、各別ニ御親ミ深ク、諸政皆御判談アリシ故ニ、御子ニ御諱ヲ乞玉フト云、夫ヨリ二條家ハ別トシテ武家ニ御親ミ厚ト、然ニ神君ノ御謙遜、餘ノ四家ヨリモ御望アリシカド用ヒ玉ハザリシナリ、然ルニ今世人此コトヲシルト雖、元來足利ノ時ヨリ將軍家ノ諱ヲ贈ラレシコトヲシル人少シ、コノコト二條家ニ始リ、九條家コレニ繼ギ、ソレヨリ三家ニ至ル、然ルニ一條家ハ唯一代ノミ、二條家ニ限リテ連綿トシテ今ニ至ルノミ、御當代ニ始マラザルヲシルベシ

足利

將軍家	近衛家	九條家	鷹司家	二條家	一條家
尊氏公					
義詮公					
義滿公		滿家公（初滿教 後滿輔）		滿基公	
義持公				持基公 持通公	
義量公					
義教公					教房
義勝公					
義政公（初義成）	政家公	政基公	政平公	政嗣公	
義尚公（後義昭）	尚通公	尚經公		尚基公	
義植公（初義材 後義尹）	植家公	植通公		尹房公	

將軍家奔二阿波一

				織田	豊臣	御當家御諱不レ擧					
義澄公（初義高）	義晴公	義輝公（初義藤）	義昭公	信長公	秀吉公						
晴嗣公（後前嗣又前久）				信尹公（初信基又信輔）							
				信房公							
			昭實公			康道公		光平公	綱平公	吉忠公	宗照公

宗基公	治孝公	齊信卿	

コレヲ以テ將軍家ノ權勢攝家ノ衰ヘタルヲシルベシ、余室町時代ノ知譜記ヲミルニ、攝家近衛家・九條家・二條家・一條家・室町家・土佐一條家ヨリ、清華四條家・日野家・勸修寺家・閑院家・北畠家・源家・平家・菅家等ノ次ニ、鷹司家ヨリ諸家ヲ擧グ、コレヲ以テミレバ鷹司家ノ攝家タルハ近代ノコトナルベシ、二條家ハ室町ノ時ヨリシテ、武家ニ親シミアリ、ユヱニ御當家ヘモツヾキテ親ミ玉ヒシニヤ

廿一　元ノ世祖十萬ノ兵ヲ起シテ、我ヲ伐トイヘドモ、難風ニアヒテ海ニ沒ス、其後我ヲ招クトイヘドモ應ゼズ、ソノ使人ヲコロス、鎌倉北條氏ノ時ナリ、ユヱニツヒニ禪僧ヲ渡ストイヘドモ、留メテ反サズ、ヨク夷狄ニ處スル善ヲ得ト云ベシ、ソレヨリ明淸ニ至リテ通聘ノコトナシ、彼ヨリハ倭王ニ勅スルノ書ヲ出スト雖、我ニ來ルコトナシ、南朝ノ皇子筑紫ニ在リテ、明ニ通ズルコトアリ、足利義滿明ニ請テ日本國王ニ封ゼラル、コレ耻ベキ也、皇家ヘ對シ不忠ト云ベシ、イハユル二君ニ仕フルモノカ、豐太閤ノ明ノ封ヲ受ザルハ一快ナランカ、抑應仁ノ亂ヨリ我敗軍ノ將卒、明ノ東南海濱ニ至リテ猖

藉甚シ、明人コレヲ和寇ト云テ大ニ恐怖ス、ソノ頃周防ノ大内氏等通商シテ、勘合ノ印符ヲ取カハス、ソレヨリシテ明國及南蠻ノ諸國ト互市シテ相通船ス、對馬・壹岐・平戸・五島・肥前・薩摩ノ地ニ入舶多シ、ツヒニ泉ノ堺ニモ來ルト云、太閤ノ朝鮮ヲ征スルヤ、猛虎ノ羊群ヲ銜ガゴトシト雖、明ノ援兵ニ對シテ大ニ勝敗アリ、ツヒニ太閤薨ズルニ遇フ、コレニヨリテ軍ヲ班シテ朝鮮再生ス、我神祖命ヲウケテ宗ノ義智ニ命ジ朝鮮ニ和シ、ツヒニ來聘ス、初ノ程ハスベテ手輕キコトナリシニ、後々ハ毎聘ダン〳〵ニ重クナリ、應接至リテムツカシク、諸侯コレガ爲ニ騷亂シ、百姓コレガ爲ニ震動シ、國用ヲ費シ農桑ヲ廢スルニ至ルコトトナル、新井氏ノ五事略・折タク柴ノ記ニ委シケレバ、コノ論ハアグルニ及バズ、シカレドモ新井氏モ亦其弊多シ、コノ二書ノ如キニハアラザル也、ユヱニ有德大君コレヲ廢シ、再ビ前規ニ復セラル、履軒先生曰、夷國ヲ蕃臣トセザルハ、關東ノ美意ナリ、謙光ノ大德仰グベシ、日本ノ將軍ヲ以テ外國ノ王ト敵對スレバ、朝鮮ハ即チ天皇ノ外臣ナリ、豐臣ノ跡ニテ干戈ノ起ラザルヤウニ取鎭メ玉フハ良法也、來聘ノトキ天下ノ憂トナルコトハ、後々ニコノ取ハカラヒカタ上下トモニアシキ故也、三都ヲハジメ諸國驛々通リ筋ノ家々ニハ、金屏風ヲ立塀壁ノ上塗ヲセヨ、聚觀ノ男女トモニ美服ヲカザレト云命令モアリ、日本ノ富ニ誇リタキノ意上ニアル故、下亦コレニ應ジテワケモナキ費ヲナスユヱニ憂トナルコト也、コノ仕方ヨキホドニスレバ憂ハナキ也、スベテ漢唐以來ノ過失ハ朝家ノ聲譽封爵正朔ヲ受シメ、反スレバ征討ノ名正シク言順ナリト、此三條ニアリ、大キニ

夷ニ待スルノ禁忌也、コレヲ欲スルハ惡事ニアラズシテ、大キナル害ヲ招クナリ、漢唐以來此三條ニヨリテ、中國ヲ疲ラシ夷狄ニ奉ジ、ソノ果ハ天下ヲ夷狄ニ奪ハル、三韓ノ如キ我國ニ屬スルハ百濟也、吾國ノ勢ニテソノ王ヲ立タルコトモアレドモ、封爵ヲ授タルニモアラズ、彼モ元ヨリ百濟王ナリ、國亂レテ王ナキ故ニ、ソノ王子ヲ任子ニシテ此國ニ在シテ送リカヘシテ位ヲ嗣シムルノミ、漢唐ノ任子ヲ送リテ匈奴ノ單于トスルガ如シ、濊貊酋長ヲ立テ渤海王トスルト同ジカラズ、漢唐ニテ夷狄ノ任子ヲ寵シ、禁衛ノ高官ヲ授ケ榮祿ヲ與フ、何ノ用ゾトイヘバ、元會ノ立杖明堂封禪ノ鹵簿天下ニ焜耀シテ外夷ニ誇ルノミナリ、外夷コレヲ見テ慕テ來ルモノマスマス多シ、ソノ費甚シキノミナラズ、ソノ來ル任子ト云モノ、十年モ二十年モ中國ニ住ナレテ、ソノ衣食ヲ甘美トス、ソレヨリ歸國シテハソノ國ノ衣食諸事ミナ心ニカナハズ、ツヒニ中國ヲ攻取リテ住タキ心キザシテ、邊禍マスマス起ル、晉代ノ劉元海ソノ餘ノ夷狄ノ中國ヲミダスガゴトキコレナリ、吾國ニテハ外ニ焜耀スベキ方ナシ、我民ニ焜耀スルノミ、即我民ハコレニヨリテ迷惑スル民ナリ、焜耀ノカヒナシ、聲譽ト云フモノ誰カ聞テ誰カ譽ルゾ、迷惑ノ民ハ譽ルコトモアルマジ、支那人紅毛人ガ聞テ譽タリトモ無用ノコト也、ユヱニ聲譽ハ我國ニイラザルコト也、萬々一此聲譽ヲ慕フテ來貢ヲ乞夷狄アリトモ、今ハ納ザルコト必定ナリ、夷ト夷ト攻戰ハ犬ト犬トカミ合ガゴトシ、吾ヨリカマフコトナシ、若夷ト雖カネテ封爵ヲ授ケ正朔ニ通ジタル夷ガ、外ノ夷ニ攻圍マレ難儀スルトキハ、左ナガラ見捨テハオカレマジキ時宜ナリ、天智帝前

後モツトモコノ禍ヲ被レリ、初ヨリ夷狄ハ征伐セヌモノト定メタラバ、名ノ正不正ハ貪着ナシ、言ノ順不順モイラズ、中國ノ夷ヲ禦グハ蚊ヲフセグガゴトシ、地合ヨキ蚊帳ヲツリテ、其中ニ寢テモツトモ破綻ナキヤウニ心ヲ付テ出入ヲツヽシムベシ、ソレニ尙入來ラバ打殺シ燒コロスベシ、恤ニタラズ、詩ニ曰、「薄伐ニ玁狁(ケンイン)ニ至ニ大原ニ」コレ蚊帳ノ中ナリ、破タル蚊帳ヲツリ或ハ一隅ヲアケ、其內ニ酒ヲマキチラシ肉物ヲナラベテ、己モ赤裸ニナリテソノ間ニ臥シ、夜更ケ目ヲサマシ、蚊ガ多クテ寢ラレヌト怒ルハ愚人也、コレヲ以テミルベシ、スデニ周公ノコトヲ頌シタル詩ニ「戎夷是膺、荊舒是懲」ト云、膺ヲウツトヨムハアシヽ、アタル也、常ニ嚴重ニ拒ミ禦グノ意也、夷狄ハ嚴ニ禦グベシ、近ヅクベカラズ、又蹈込テ征伐スルモ本ヨリ善事ニアラズ、我日本中古蝦夷ヲ征シタルハアタリマヘナリ、此コトヲ得ザル時ノコトナリ、履軒先生ノ說ノ如ク、自カラ護リテヨカルベシ、朝鮮ノ來聘ニ巡視淸道ノ旗ヲ立ツルハ無禮ナリ、巡視ハ巡狩ノ意アリ、日本ヲ巡視セラルヽコトハナキハヅナリ、淸道ハ無禮也トイヘドモ、大テイ大將タル人ノ先拂ニ立ルコトニテ、明朝ヨリノ儀法也、然ドモ道ヲ淸ムルニテ實ハ謙退ノ意ハアラズ、シカルヲ國初ヨリコノ旗ヲ載(タツ)ルハ朝鮮モ何心ナク持渡リ、吾國ニテモ朝鮮ノ禮儀ノ行列カ、又ハ標的ノヤフニ思ヒテ過シタルハ文ナキユヱナリ、白石氏大キニコレヲ拒ムハコトワリ也、又朝鮮ハ太閤ニ惱サレタル後ニ、淸ノ興リタルトキ、マヅ朝鮮ヲ伐ツ、ソノ時モ同ジク王城ヲ奪ハレ、ソノ身モ擒ニセラルヽ、王ノ名ハ李昖(リキン)、一生ニ再ビカヽル大難アルコト不幸ナラズヤ、然ドモツヒニ淸ニ內

屬シテ腹心ノ臣トナル、元・明・清ミナ北京ニ都スルユヱ朝鮮ニ近シ、ユヱニ今ハ內服ノ諸侯トシ、日本ヘ渡ルコトハ清ニ於テハ巡視ノ心ヲ以テシ、聘使カヘリテ直ニ日本ノ强弱・治亂・風俗・賢否ヲ微細ニ清ニ告ルコトナレバ、マス／＼コヽロ得ベキコト也、コヽヲ以テ白石氏禮典ヲ變ジテ、コレヲ待トイヘドモ聘使肯ズ、刧スニ兵ヲ以テシ、ツヒニ階ヲ下リテ拜スルニ至ル、ユヱニ聘使ハ歸國ノ後遠流セラルトナン、隣好ニ於テ無道ノ至リナラズヤ、コレニヨリテ朝鮮ノ貢ハ絶タリシヲ、享保ニ至リテ古法ニ復セラレシユヱニ、又來貢スルヤウニ、ナリタルナリ、然ルニ明和ノ初メ、來聘ダン／＼增長シテ、ソノ本意ヲ失ヒ徒ニ驕侈ヲ見セ、大切ニアシラヒ夸張ノ種トセラルルコト也、士民オシナベテ貧儉ナルハ國ノ耻ト心得テ、カザリタテントスルノ情タヘズ、驛次ヲ馳走トシテ諸侯ニ命ゼラルヽニ、ミナ數萬金ヲ費シテコレニ奉ズ、コレヨリ天下ノ諸侯大キニ苦シミタリ、ユヱニ寬政ニ至リテ、我國ノ饑饉窮迫ノコトヲ告テ來貢ヲ留メ、對州ニテ應接アルベシト命ゼラレテ、今ニ其コトナシ、コノ外國來聘ノコトハ、實ニ我ニ服從シテ來ルコトナレバ、大抵ニ接待アリテシカルベシ、ナンゾカクノ如ク天下ノ憂トスルニ及バン、ユヱニ今留ラレタルハ古今ノ一快事ナリ、スベテ外好ハカクアリタキモノカ、寬永ノ耶蘇ノ亂後ヨリ、萬國ノ渡海ヲ禁ゼラレ、漢土ト紅毛ノミトナリタルヨリ外國ノ憂ナシ、「ヲロシヤ」我ニ通商ヲ望トイヘドモ、希クハ絶チタキモノカ、當世ノ「ヲロシヤ」ノ勢ヒ恐ルベシト雖、コレ亦漢世ノ匈奴ノ如シ、兎角相手ニナラザルコトコソ然ルベケレ、相手ニナリカヽリテハ、紅毛人ノ

如ク唯命ニ從フテハ居ルマジキナリ、然ル時ハ悔トモ及ブマジキナリ、斷切テシカルベシ、萬一入寇スルコトアラバ、ソノ時ノ處置アルベシ、マヅハ蝦夷松前ヨリ津輕・南部・仙臺・出羽・越後ノ海邊ニ軍備ヲナシ、兵粮ヲソナヘテ待ベキモノカ、今世ハ「カムサスカ」ヨリ船ヲ出シ、五七日ニハ南部・仙臺ノ地ニ至ルベシ、シカレバ亦油斷ナラズトシルベシ、シカレドモ地ツヾキニアラザレバ防ギ方ハイロイロアルベシ、渠モ亦容易ニハ來ラザルナリ、恐ベキニアラズ漢土ノ代々コノ入寇ヲ恐レテ、弱キハ和親シ強キハ征討シ、深ク入ルコト、ミナソノ道ヲ失フ、蚊帳ノ説ノ外ハナキナリ、幸ニ我ニ武備アリ、ナンゾ恐ルヽニ足ラン

廿二　神代ニ龍宮ト云ハ琉球ノコトナリト云ハ、音ヲ以テ云ナラン、ソノ上日向ヨリ方角ヲ近シトスレバ、尤ト思ハルヽコトナレドモ、神后ノ時ニ近キ三韓ヲ壹岐對馬ヲコエテ凡百里シラザレバ、二百里ノ遠キ琉球ニ通ズベカラズ、況ヤ婚ヲヤ、コレハ屋久島・種ガ島ノ内ナルベシ、日向ノ都ノトキ、中土アルヲシラズ、イハンヤ琉球ヲヤ、屋久島トイヘドモ來朝スルコトオソシ、何レニモ畿内・山陽・山陰ハ神武始テ東征スルヨリ開クナリ、シカルニ神代ノ古迹宮廟ノ中土ニアルモノハ、ミナ後世ノ拵ヘモノナリ、出雲・伊勢・紀伊・淡路ト云モノミナ誤リナリ、白石氏古史通ニ、神代ノ地名ヲ多ク常陸ノ國ニテ證ス、誤中ノ誤ナリ古ヘ奥羽ノ民ノ王化ニ服セザルモノヲ蝦夷ト云、コレソノ賊ノ名也、地名ニアラズ、ツヒニコレヲ平服ナサシメ、古ヘノ靺鞨トサシタル地ヲ蝦夷トス、然バ屋久島・種ガ島ナドヲ古ヘ琉球ト云シヲ、ツヒニ内屬シテソノ外ノ國ヲ以テ今ノ琉球トシタルナルベシ、元ハ吾屬國タルコトイト古ク、又彼國ノ説ニ、我鎮西八郎ヲ祖トスト云バ、イヨイヨ我ニ親シキナリ、然レドモ此國亂レテ久シク通路ナカリシニ、薩ヨリコレヲ伐チ降服シタルハ慶長中ノコトナリ、始テ支那ニ通ジタルハ、明ノ洪武中ノコトナレバ、薩ヨリ

遙ニ前ナリ、明ヨリ琉球ヘ冊封使ヲツカハシ、王ニ封ジ正朔ヲ頒ツ、薩ニ降服シテモ支那ノ奉貢絕ガタキユヱニ、冊封使モ受サセタルナリ、（考フルニ、琉球ノ薩ニオケル、猶吉川氏ノ毛利ニオケルガゴトシ）シカレドモ全ク琉球ハ薩ノ臣タリ、關東ヘハ自カラノ嗣位ト關東ノ賀儀ニ聘使ヲオクルコトナリ、シカレバ陽ニ支那ニ屬シ陰ニ薩ニ屬スルヤウナレドモ、コレハ大國ノ間ニハサマレテセンカタナキ故ニ、兩屬スルコトニシテ薩ヨリモコレヲ許シオクモノナリ、シカレバ兩屬ノマヽニテ關東ヨリ改メテ琉球ノ守ト云受領ヲ與ヘ玉ハヾ、名分モタヾシク薩ノ臣ニテ關東ノ陪臣タルベシ、然バ我ヘムキテハ中山王ノ署位ヲ用ヒズ、薩州ノ臣琉球ノ守ニテシカルベシ、薩摩守內中山王モスマヌモノナリ、加州ニ守號ノ臣アレバ薩ニアリテモヨロシキ也、ユヱニ支那ノ冊封ハ貪着セズシテ、琉球ノ守ナレバ彼モ悅ビ服スベシ、（明淸ヨリ王ニ封ズルコトハ、我ノ貪着アラザレバ、封ゼサセテオクベシ、我ニオイテハ薩ノ附庸ナレバ、琉球ノ守ニテヨロシ、書翰ニ我文法ヲ用ヒ、執職ヘアテルトハイヘドモ、中山王某トアルハアタラザルカ）初明ヨリ通ジタル時、言語文字不通ユヱニ、明ヨリ十八姓ノ人ヲワタス、コノ子孫ヲ以テ明ヘ使者ノ職トス、淸ニ至リテモシカリ、今ノ淸ヨリハ冊封使ヲワタシ、琉ヨリハ聘使ヲワタスコトニシテ、又學生ヲ歲々ニ遣ハスコト也、コノ外ニ薩ノ往返多シ、スベテ薩ノ下知也、（中山傳信錄ヲミレバ、ソノ應接嚴重ナリ、コレハ勅使ノアシラヒナリ、朝鮮ノ我ニ來ルハ是ニ異ナリ）朝鮮ノ聘使願ハクハ琉球ノ例ニ潤色シテシカルベケレドモ、今亦カクモナルマジ、對州ニテスムコトナラバ、コレニシクハナカルベシ、マタ通商ノコトハ淸ト紅毛ニ限ラセラレタルハ、古今ノ大快ナレバ減ズベカラズ、又增ベカラズ、外好ハ北條氏ノ古例ノ外ハアルマジ、「小不レ忍則亂二大謀一」コヽニ忍バズシテ後ノ禍ヲ引出サン

ヨリハ、外國ノ使ヲ追カヘスベシ、肯ハザレバ殺スベシ、蚊帳ヲツリテヨク守ラバ寇スルトモ防グベシ、然レドモ「ヲロシヤ」人ハ紅毛漢土朝鮮ノゴトキニハアラズ、カヘス〲モ侮ルベカラズ、又恐ルベカラズ、漂流ノ民ヲ恤ミテ大害ヲ引出シ騷ニ及ボスコトナカレ、俗諺ニ曰、靑海苔ノ答禮ニ、太々神樂ヲ打ツト、「ヲロシヤ」ノ計策ハ伊勢ノ御師也、欺カルヽコトナカレト云

夢之代卷之四終

夢之代卷之五

制度第五

一　帝王皇ノ文字モト階級尊卑ナシ、皆天下ヲ有ツノ號也、三皇トシ、五帝トシ、三代ニ王トス、說者曰、禹之德堯舜ニ劣ル故ニ謙讓シテ王トス、是後世王號劣ルヲ以テ云ノミ、朕制誥ノ如キ皆通用セシヲ、秦ノ頃ヨリ天子ノ語ニ限ルヤウニナリタリ、王ハ周マデハ天下ニ君タルノ名ニシテ、外ニハナキコト也シニ、楚子王ヲ稱シ、吳越コレヲ僣ス、楚ハ蠻夷ノ國ニシテ周ノ封爵ヲウケズ、今日本ニ云一本寺ノ如シ、故ニオカシテ王ト稱ス、卽周ノ天子ト同位ノ心ナリ、經曰、天ニ二日ナシ、地ニ二王ナシト、コレヲモツテ知ルベシ、吳越楚トモニ蠻夷也、故ニコレヲ僣スルコト前ニアリ、戰國ニナリテ七雄トナレバ楚ハ王トナリ、六國ハ矦ナリ、故ニ皆自ラ王ヲ稱シテ爭奪アクコトナシ、後ニ齊秦ツヒニ西東ニ帝タラントス、魯仲連ノ議論アリテ止ム、此時自然ト王號輕クナリテ帝ヲ稱シテ、王ノ上ニ位セントスル也、コレマデニ周室帝ヲ稱シ、吳越楚ミナ帝ヲ稱スルハ王ヲ上ニオクベシ、コレモマタハカルベカラズ、秦始メ六國ヲ滅ボシ、皇帝ヲ併セ稱ス、漢與テ六國ノ末モダン〳〵ニ起リ、ミナ王ヲ稱ス、項羽楚ヲ立テ帝トシ、自ラ覇王ト稱ス、コレヨリ漢ノ世天子ハ皇帝ト稱シ、同姓ヲ王ニ封

ジ、異姓ヲ公侯ニ封ジ、蠻夷ノ歸順スルモノヲスベテ王トス、又君ト云コトモ天下ニ君タリ、一國ニ君タリ、一家ニ君タリトイヘバ、皆ソノ處ノ主ヲサスコト也、然ルニ七國ノ王ヲ僭スルヤ、其ノ大夫ヲ卿トスルコトハ勿論ナレドモ、ミナ臣ナレバ公侯トシテモ然ルベケレドモ、何トヤランシガタキコトアリトミエテ、スベテ君ヲ以テ稱ス、孟嘗君平原君信陵君ノ如キ是ナリ、衞侯國ヲセバメラレテ自貶シテ君ト稱ス、然レバコノ時公侯ノ下ニ君一位デキタルモノナリ、シカルニ漢以後ハ此コトヤムナリ、秦ニハ穰侯ナドノ號ヲ僭シテ、大抵諸侯ニ擬スルナリ、漢書魏志ニ日本ノコトヲ云フテ、諸國皆王ヲ稱シ、使人ミヅカラ大夫ト稱ストイヘドモ、其時イマダ字書ナケレバ、王大夫ノ號日本ニシルコトナシ、コレヲモツテ漢史杜撰ヲシルベシ、我日本ノ上古王公貴人ヲミナ御事ト號シ、又上ミト唱フ、今人云旦那樣ナリ、後世文字渡リテ天子ヲ尊トシ、大臣ヲ命トシ、又スベテ神トス、シカレバ卽チ尊命ハミコト也、神ハ上也、漢土ヨリ稱スル倭奴扶桑卑彌呼(ヒミコ)王大夫ハ、ミナ彼ノ方言ニシテ我ノシラザルコトナリ、後世ニテモ小野妹子隋ニ使ス、彼ヨリ名ケテ蘇因考トスルガ如シ、漢人ミダリニ人名ヲ恣ニス、憎ベシ、然ルニ其時ハスデニ文字ノ譯アリ、何ゾ自ラ辨ジテ妹子トセザルヤ、自ラ辱ムルモノト云ベシ、我ガ邦人唯漢土ノ文物ヲ慕ノミニシテ、其是非ヲ辨ズルコトナシ、歎ズベシ

二 漢土ノ上古ハ封建ニシテ後郡縣トナル、日本中世漢ニナラヒテ郡縣トストイヘドモ、上古ハミナ封建也、大抵ノ人ハコノ日本ノ上古封建ナルヲ辨ヘザルハ疎ト云ベシ、說者曰封建ハ聖人ノ意ナリ、

郡縣ハ聖人ノ意ニアラズト、是モ又思ハザルノミ、夫上古草昧ノトキ、五十人百人千人ト集リ居テ、或穴居シ、或巢居ス、シカルニ人ハ萬物ノ靈ニシテ、禽獸ト異ナリ、夫婦アリテ後父子アリ、兄弟朋友アリ、敎ズンバアルベカラズ、齊ズンバアルベカラズ、コレ君師以テ興ル處ナリ、コレヲ敎ヘコレヲ養フ、爭訟アレバコレヲ判ジ、罪アレバコレヲ刑ス、コレヲ君ト云、ソレヨリゼン〳〵ト居ヲ定メ、鄕ヲ分ツ、或百家或三百家コレヲ邑トス、三村五村コレヲ鄕トス、村ニ長アリ鄕ニ君アリ、ソレヨリ郡トシ國トス、一國ヲ司ルハコレ侯也、漢ニ侯トシ、我ニ造トス、コレ後世ノ國司郡吏ノ類ニアラズ、子孫ニツキテ卽諸侯也、神武帝以前スデニ九州ニソレ〳〵ノ長アリ、故ニ神武曰、邑ニ君アリ、村ニ長アリ、各自ニ疆ヲ分テ相凌躒セシムトソレヨリ天下一統ノ後、各國ニ國造アリテ分領ス、舊事紀僞書也ト云ヘドモ、國造本紀ミルニタル、中世漢土ニ往來シ、諸制度コレニ習フヨリシテ、國司ヲオキテ自然ト國造衰フルモノ也、漢土ノ其時制ヲ學ビタル也、前ニ云如ク天下ノ封建ハ自然ノコトニシテ、初ヨリ二法アリテ何レヲ用ユベキヤト評シテ極メタルニアラズ、封建ハ天下ヲ治ルノ道也、郡縣ハ秦ノ始皇ニ初リテ私ノ法ナリ、封建ノ天子ハ德ヲ脩メザレバ諸侯服セズ、無道ナレバ諸侯ノ內ヨリ放伐ノ心オコルベキヤノ恐アリ、又我マヽナルコトアタハズ、驕奢スルコトアタハズ、郡縣ノ天子ハ兵權ミナ我ニアリテ、不服放伐スルノ諸侯アルベキ氣遣モナク、我マヽニシテ、驕奢四海ヲツクス、故ニ皆コレヲ希フ也、郡縣ノ世ノ天子ハ封建ノ世ノ天子ニ比スレバ、ソノ富數百倍ナリ、封建ハ富ヲ諸侯

ニ頒チ郡縣ハ天子ヒトリ富也、シカルニ封建ニテ亂レタル時ハ、瓦解トナル、王威衰ヘタルユヱ也、郡縣ニテ亂レタルトキハ土崩トナル秦末ノ如シ、封建ノ天子ハ財用不足スベキ也、三代ニコノコトモキコエズ、郡縣ノ天子ハ財用アマルベキニ、ミナ不足ナリ、是何ゾヤ、宮室衣服宮婦ノ奢靡禁衛卒伍ノ數及其餘ノコト、ミナ封建ノ天子ヨリミレバ、郡縣ノ天子ハ甚シクシテ、漢唐以來ノ天子イヅレモ財用不足ヲ苦シム、此時姦佞ノ臣進デ刻剝聚斂ヲナシテ竟ニ亂ヲ致ス、郡縣ノ害コレ也、天子恭儉ナレバ萬乘ニテモ富ミ、奢侈ナレバ數百萬乘ニテモタラズ、封建ハ君子多ク野人少シ、郡縣ハ君子少ク野人多シ、孝德ノ御宇ニカ漢風ヲ移シテ、郡縣ヲ定メ玉フ、守介ナド京ヨリ下レドモ事ニナレズ、土人地官多ク事ヲ司ドル、昔ノ酋長タルベシ、後ハ守介目代ミナ國ニ就テ事ヲ掌ルコトヽナル、又賴朝ヨリ守護土地ヲ押領シ、眞ノ封建トナル、初國造ノ勢衰ヘタリト雖、其子孫國々ニ殘リテ、多ク地官酋長トナリテアリシニ、元弘建武ノトキヨリ諸國騷亂シテ戰國トナリタルモ、亦コノ國造ノ子孫モ多クアルベシ、應仁以來豪雄マス〳〵興テ弱ヲノミ、衰ヲ奪フテ諸國ニ割據スルニ至ル、此時將軍家ト云トモ、山城河內攝津ノ內ニ、ワヅカニ十七ケ處ノ地ヲ領ス、王家ハマス〳〵衰ヘテ搢紳ノ人々京師ニアルコトアタハズ、國々ノ諸侯ヘ緣ヲ求テ寄食スルニ至ル、織田氏撥亂ノ功アリト雖、中途ニシテ廢シ、豐臣氏ツヒテ功ヲヲサム、ツヒニ敵スル者ハ征討シテ、降ルモノハ地ヲ減ジ功アルモノハ加增ト號シテ、古地ヲ轉ジ新ニ朱印ヲ與ヘ、功臣ヲ封ズルニ大國ヲ以テシ、因循シ御當代ニ到ル、慶長ノ亂ヨリ兇賊ヲ滅亡シ

テ天下ミナ歸順ス、故ニ止ムコトヲ得ズシテ天下ヲ得玉フ也、其歸順ノ諸侯ニハ本領安堵ナサシメ、又宗族功臣ニ國ヲ與ヘ、ツヒニ芽出タキ封建ノ世トハナリタルナリ、是和漢郡縣封建ノ大較也、然ルニ封建ハ諸侯一國ヲ有ツユヱニ、百姓ヲ恤ムコトモ厚ク、諸政ヨク融通ス、郡縣ハ國司代官ノ類遠キヨリ下知シ、又總政ヲ京ニキク故、百姓ヲ恤ムコトモ薄ク、諸政融通シガタシ、封建ハ天下自然ノ大道ニシテ、王者ノ好ム所也、郡縣ハ後世作爲ノ私法ニシテ、覇者ノ好ム處ナリ、故ニ封建ニ弊少ナク、郡縣ニ弊多シ、封建ノ周ハ自然ニ弊ル、然ドモ東周衰ヘテ二百年ヲ有ツモノハ封建ナリ、此餘德ナリ、郡縣ノ秦ハ俄然ニ滅ブ、然ラバ暴秦變テ、三年ヲ有タザルモノハ郡縣ノ餘殃也、漢起テ宗室ヲ王トシ、功臣ヲ侯トシ、其餘ヲ郡縣トシテ、二法並ベ用ユ、三國六朝唐宋元明何レモ沿革サマ〲ナレドモ、ミナ郡縣ノ法ニシテツヒニ封建ニ復スルコトナシ、明清北京ニ都シテ、十三省ニ吏ヲ置テ、天下ヲ領チ支配シテ、コレヨリ帝都ニ奏ス、今ノ京大阪奈良堺長崎ヨリ江戸ニ奏スル如クナラン、コレヲ以テミレバ、漢土ハ初メ封建ニシテ後郡縣トナル、日本ハ初ヨリ封建ノ制變ゼズシテ、中世ト雖未全ク消セズ、ツヒニ元ノ封建ニカヘル、美ト云ベシ、租稅ノ法ハ品々アレドモ、周ノ助法十一ノ稅其元也、井田法モ平地ニテハ立ベキニ、高低アル地ニテハイカヾ立ラレシヤ、コレ亦シルベカラズ、春秋ノ時ニ井田ノ法イマダ破レズ、公田ノ外私田ニオイテ、又十一ノ稅ヲトルユヱニ十ガ二トナルナリ、後世ダンダンニ厚稅ニナリテ、民困シムト云ドモ、公モ亦取ズンバ有ベカラズ、我邦沃穰ノ地ナレバ四五ノ稅

過ルトモ云ベカラズ、聖人復起ルモ十一ニ泥ムベケンヤ。イヅレニシテモ封建ヲ愈ルトスベシ、郡縣ヲ劣ルトスベシ、ア丶封建ノ外ハアルベカラズ

妹子ハ和訓ニテ漢音ニ通ゼズ、故ニ因高ト云ナラン

蘇ハ蘇我ノ一字カ、然ルニ妹子蘇我氏ニアラズ、此時蘇我氏大ニ盛也、故ニ是ヲオカスモノカ、然ルニ妹子ト字ニ書ク時ハマイシトヨムベシ、文上ニテハシカルベシ、サレドモ言ニハソムク故ニ、イモコト云タル故ニ因高トカキタル也

伊茂古ト書クハヨキコトナリ、紅毛加比丹ノ名ヲカクガ如シ、通ジガタキモノナリ

三　周ノ國ヲ立ルヤ、百里ヲ以テ大國トシ、七十里ヲ中トシ、五十里ヲ小トス、方百里ノ大國ヲ千乘ト云、兵車千乘ヲ出スヲ以也、天子ノ地方千里ナレバ、大國百里ノ百倍也、然バ十萬乘ナリ、萬乘ニアタラズ、萬乘ナラバ三百十里四方也、然ドモ畿內ノ地ニテ公卿大夫ノ采地ヲトレバ、又廣カラザルコトヲ得ズ、其餘諸王子及功臣ヲ封ズルニ地ナカルベシ、周ト云モ叔虞ヲ晋ニ贏、疲子ヲ秦ニ、友ヲ鄭ニ封ズルガ如キ、此時ハ缺國アルナラン、後世ハ其地アルベカラズ、代々ミナシカラン、然ルニ戰爭ノ功アル臣ニオイテハ地ヲ以テ賞スベシ、治世ノ功臣ハ又處置アルベシ、ヨキカナ黑田如水君ノ遺書ニ云、治世ノ褒美ハ金銀ニシクハナシト、コレヲ以テ考フベシ、限アル地ヲ以テ限リナキ功臣ヲ賞スレバ、末代ニ至リテ公入ノ地アルベカラズ、國初ノ君ハ地ヲ取人也、功アレバ頒ツベシ、昇平ニナリ

テハ地ハ恪ムベシ、然ルニ今日本ノ諸侯臣族多キニ苦シムモノハ、養子ノコトアル故ナリ、養子ヲ以テ家ヲ立ルハ實ニ仁慈ノ政ナリト雖、他人ニ祭シムベキニアラズ、實子無ハ天也、兄弟其餘ノ血脈アラバ嗣シムベシ、他人ヲ以テスベカラズ、萬一血脈ナクシテ國除セラル丶モノナラバ、妻子親族ニソレゾレノ手當アリテ飢シムベカラズ、此所ニオイテ行届モノナラバ、他人養子ノコトハ禁ゼラレテ然ルベシ、然ラバダン／＼缺國缺地アリテ功アルニ與フベシ、又公入ニ困シムベカラズ、然ドモ國初ノ風ヲ見習ヒ大祿ヲ與フベカラズ、唯諸侯治世ノ憂ハ奢侈ニアリ、タトヒ奢ラズトモ天下ノコト自然ニ華美ニナリ、諸品ノ價ヒ古ヘニ十倍シテ國用ニクルシムトモ、地ヨリ生ズルモノハ古ヘニカハルコトナシ、許多ノ新田少ノ米價ノ差ヲ以テ補フベキニモアラズ、シカレバイカン、只マス／＼恭儉ニアルノミ、此外ニ術アルベカラズ、カヘス／＼モ此外ニモトムベカラズ

四　井田ハ百歩ノ田ヲ九ツ合シテ九百畝、此内中ノ百畝ヲ公田トシ、八人力ヲ合セテコレヲ耕ヘス、其入ヲ公ニ上ル也、孟子曰、君ハ卿ノ祿ヲ十ニス、卿ハ大夫ヲ四ニス、大夫ハ上士ニ倍シ、上士ハ中士ニ倍シ、中士ハ下士ニ倍ス、下士ハ庶人ノ官ニ在モノト祿ヲ同クス、其祿ヲ以テ其耕ニ代ルニ足ルト、シカレバ卽チ百姓ハ耕シテ食ヒ、下士ハ耕サズシテ井田一ツヲトル、是民ト同祿ニシテ耕スト耕サヾルトノ差アルノミ、然バ下士ハ一井、中士ハ二井、上士ハ四井、大夫ハ八井、卿ハ三十二井、君ハ三百二十井也、此君ノ祿ト云モノハ、諸臣ノ祿ハ本ヨリナリ、其餘大抵除テ邸中暮シ方ノ高ノミ也、故ニ

三百二十井ニシテ富厚トス、不足ナキ也、カヽル良法アリトイヘドモ、國々此算當ニカヽハラズシテ量レ入爲レ出ノ制度モナク、ツヒニソノ國用足ラズシテ、百姓ヲ虐シ、大賈ニカリテ用ヲ辨ジ、其果ハ償フコトアタハズ、歎ズベキカナ、賢君上ニアレバ仁義ヲ本トシ恭儉ヲ行ヒ、世祿中ニテ賢ヲアゲ、不肖ヲ黜ケ才能ヲ拔用スレバ、諸侯以下皆見傚フテ、各ソノ身ヲ愼ミ才ヲ勵ム、恭儉風ヲナセバ自ラ貧困窮家ナキヤウニナルベシ、諸侯恭儉ノ風アレバ賦歛自ラカロクナリテ、萬民蘇息スル也、近來此風行レテ、諸侯中ニ勝手方ヨクナリタルモノ少カラズ、賢者ヲ擧ルトキハ公卿ヲ師トス、今世ニテハ此師トナル賢者ハ、官職ノ役ニハ立ヌモノナリ、タトヒ廣ク求ルトモ、學者ノ中ニ公卿ノ位ニ登テ國家ノ益ニナル人ハ少カルベシ、然ニヨク學ビタル人ヲ師トシテ、一家中ヲ學バシメ、庠序學校ヲヲサメテ、諸吏ミナ道ニ志アレバ忠孝仁義ノ政ヲ行ヒ、國中ヨク治マルベシト云ノミ

五　養子ノ法ハ仁政ニ似テ仁ニアラズ、天下ハ天下ノ天下也、アニ一人ニ私センヤ、與ルモノヲオコシ、衰フルモノヲ廢ス、自然ノ勢也、ミダリニ平家ヲヒイキシ、判官ビイキヲスルハ婦人ノ仁ニシテ大仁ニアラズ、今ノ天下諸侯トモニ養子ノ法ナクシテ國ヲ治ムルトキハ、乏ヲ憂ザル也、他姓ノ養子ノコトヲ云也、同姓ノ養子ハ有ベキコトナリ、他姓養子ハ古今ノ惡法也、仁政ト云ニタラズ、今忽ニコレヲ禁ジタラバ不仁ニ近キヤウニアルベシ、ソレモソノ處置ノ宜キアルベシ、三ケ年行フナラバ不仁ノ疑ナフシテ、本道ニカヘリ正シクナルベシ、諸侯ハシバラクサシオキテ、士大夫ノ家ヲ以テ論ゼンニ、

一國ニテ先代ニ功德アリテ厚祿ナル家ハ、必支子蔓延シテ別ニ家ヲ立ルモノ多シ、宗家ニ子ナケレバ支子ノ家ヨリ入テ繼ベシ、カヽルタメニカネテ別家ヲ立置コトナレバ、其トキ別子ノ家斷絶ハ苦シカラズ、モシ宗家ニ遺ル寡獨ノ內ニ不良ノ心有リテ、不睦ノ恐アレバ彼ノ別子ソ家ニ入カヘテ、其身ヲ終ラシムベシ、且恤俸ノ法ヲ立置テ、コレラモ恤俸ヲ與フベシ、ソノ身ニ止リテ迹ヲ立ルコトナカレ、モシ別家ナクタトヒアリテモ他姓ノ胤ナラバ、コレハ無ト同ジ義ナレバ入繼ニ及バズ、斷絶スベシ、カカル家ハ厚祿ニハ稀ナルモノ也、此ノ遺ル寡獨ハ恤俸ヲ付テ親族ニ預リテ身ヲ終ベシ、老人病人寡婦モミナシカリ、女子ハ嫁スル年マデニシテ、後レタルハ二十歲ニテ恤ヲ止ベシ、我先祖ノ庶子ノ他姓ヘ養子トナリタル子孫アラバ、取テ繼シムベシ、コレハ他姓ニハアラザルナリ、我身及父祖他姓ヨリ來テ繼ギタルハソノ家ノ先祖ノ血脈ヲ尋求メテ繼シムベシ、コレホドニマデ術ヲツクシ求テモ血脈ノナキ家ハヨク〳〵天ニ棄ラレタルモノナリ、斷絶ハ惜ムニ足ラズ、然ドモタトヒ養子ナリトモ、當主ノ實子アルモノハ其マヽ相續スベシ、此諸法皆當主ニ實子ナキトキノ術也、恤俸ノ法タトヘバ、千石ノ家ノ絶タルニハ、遺ル寡婦一人ニ十人扶持ヲ與フベシ、其已下石高ニヨリテ降殺シテ、一人扶持ニ止ル、又千石ヨリ上ハ稍增テ二十人扶持ニ止ル、ワヅカニ十年カ二十年ノ間ノコトナレバ厚キニ從フベシ、カヽレバ妻子眷屬饑寒ノウレヘナシ、祭祀ノ絶ルハ是非ナキコト也、他姓ヲ養子ニシテ祭祀ヲ行ヒタリトモ、亦絶ニ違ヒナシ、是ヲ相續ナリト思フハ、大俗凡夫ノ志ニアリ、女子ニテ繼セタルモ

半相續ト云ベシ、且其女子ノ一代限也、女子ノ末ハ尋ルニタラズ、履軒先生曰、凡養子タルモノハ憂患多キニ定リタルモノ也、故ニ志操才氣アリテ、何ニテモ一分ニ仕出スベキ器量アルモノハ、必養子ニハユカズ、ユクモノハ必愚不肖ナリ、然バ養子ト云惡法ハ愚不肖ヲ多クシテ、尸位素餐ヲ長ゼシムル道ナリ、別子ノ家斷絶シテ本家ヲ相續スルコト明ナル道理也

養子ニユクモ、何ゾ必シモ愚不肖ナラン、ソレ己ガ子ナクシテ人ノ子ヲ取テ我先祖ヨリ讓リアタヘタル家財田祿ヲ、血脈ニモアラズ同姓ニモアラザル他人ニ、惜ゲモナク是ヲ讓ルハ、豈其人ヲ選ザルモノアランヤ、多クノウチヨリ擇テ人品才藝シカルベキモノヲ得テ之ヲ讓ルハ、堯ノ舜ニユヅリ舜ノ禹ニ讓ルノ意ナリト云ベシ、ソレ人ノ家ニ娘子ニユキテ人ノ田祿家財ヲ、己ガ功勞ナクシテコレヲ得ルノモノ、亦不才無藝放蕩無賴ノ愚不肖ニテ得ベケンヤ、愚不肖者是ヲ得ント欲ストモ、ソレ誰カ是ヲ養子トセンヤ、サレバ養子ニユクモ亦才能ナクンバアルベカラズ、唯身ノ利益ニトリテハ養子ホドウマキモノハナシ、己ガ力ニテ一家ヲ興サントセバ、百石ニナルコト甚カタカルベシ、養子ナレバ五百石千石ノ祿ニモアリツクベシ、世ニ養子ホド利益ナルハナカルベシ、サレドモ己ガ親兄弟ヲハナレテ他人ノ父ヲ父トスルコト、孝子ノ心ニハイカヾアルベキ、親イクタリモアリテハ孝子ノ心純一ナラズシテ、誠ノ孝ハツクシガタシ、サレバ親ニ孝心アル人ハタトヒ小祿ニテモ自身ノ才力ニシ出シテ、他人ノ家ニユクマジキナリ、タトヘ千石ノ身トナリトモ、他人ヲ親トシテ我親ニ事

ルコトナラヌ身トナランヨリ、十石二十石ノ小身ニテモ自己ヨリシ出シテ、我親ヲ親トスルコソ子ノ心ナルベケレ、サレバ孝心フカキ人ハ必養子ニユクマジキモノナリカシ

今人ハ甚是ヲ嫌フ、何故ゾヤ、商家ナドハ本家衰微シテ、別子繁昌スル者多シ、本家嗣子ナク別子其繁昌ノ產ヲ持參シテ、本家ヲ繁昌サスコソ本意ナルベケレバシカスベシ、然ニ他姓養子ニシテ衰產ヲ繼シム、其衰產ヲシテ來ル養子ナレバ必愚不肖ナルベシ、紅葉ノ風ニアヒタル如ク、眞ノ斷絕ニ及ブベシ、然ルヲ繁昌ノ別子袖手傍觀スルハイカナル心ゾヤト云々、然ルニ余思フニ仕官ノ人々ハ、養子ヲシ家ヲ續ノ願ヲ達スルトキハ、公ヨリ聞屆アルマジキコト勿論也、商家百姓ハ公俸アルニ有ザレバ、自耕自食ス、又其家ノ遺財アレバ親類眷屬分ケトルベシ、夫ヲ取ラズシテ議シテ他姓ノ人ニ繼シムト雖、公ニ抱ハラザルコトナレバ、其儘ニテモスムベシ、只其俸祿ノ家ハ公ノ指揮タルベシ、又此法無クシテ徒ニ財用ノツヾカザルヲ悲ム、コレモ亦古法ニアリテイカントモスベカラズ、シカルニ今ノ諸侯ニ實子ナクシテ他姓ノ養子ヲスルトキ、半俸ヲ賜フアリ、コレ法トスベシ、中道ヲ得ルト云ベシ、今コノ法立トキハ、諸侯ノ貧ナルコトアルベカラズ

六　同姓不娶ノ法ハ周一代ノ良法也、然ドモ此法ハ封建ノ時諸侯ヲ主トシテ立タル法ナレバ、周代ノ外ハ守ルニ及バズ、世代遠ク隔リタルハ避ルニ及バズ、大抵五等ノ親ツキテ忌服カヽラザレバ避ズシテ可也、元來諸侯ノコトナレバ、庶人ニ及ブベキニモアラズ、コレラノコトヲシラズシテ、タヾ周公

ノ制也トシテ、尊奉スルノミ、愚ニ近シト云ベシ

七 科擧ノ法及ビ及第賢良方正孝廉茂才直諫ノルイ、漢ニアリテ良法トス、天下ノ賢ヲ擧テ用ル此上アルベカラズ、然ルニ唐宋以來コノコト、惡法ノミ出來テ無用ノコト也、然ルニ今ノ法ハ亦イカントモスベカラズ、セメテハ賢者ヲ擧テ、旗本役ノ諸役人グラヰニハ用ヒタキモノナリ

八 風ヲ移シ、俗ヲ易ルハ樂ヨリヨキハナシ、アヽ旨イカナ此言ヤ、今アル音樂ハ隋唐ノ俗樂也、コノ時雅樂アリ、郊廟ニ用ユルノミ、宴樂ニハ奏セズ、雅樂ト云モノハ三代ノ古法ヲ撰テ、無理ニオシ付タルモノユヱ、キヽテモ面白カラズ、コレ亦實古法トハ云モノヽ、古ノ音聲節奏ハツユモノコラズ、斑固以來ノ陋儒ガ黍ヨ竹ヨト理屈オシ付ノ制作ニテ、耳ニカマハズ、口ノ味ニカマハズ、七五三ノ料理ノ如シ、流行セヌモ宜也、故ニ吾國ニ渡ラズ、ツヒニ俗樂ヲツタヘ來リタル也、俗樂ニハ淫ナラヌモアルベシ、只當時ノ人ノ耳ヲ喜バス處ヲ作リテ奏スル故ニ、時人涎ヲ流シテ觀聽スル也、コヽニ理屈ラシキハ少モナシ、我國ニ渡タルトキモ人ミナ涎ヲ流スベシ、其後堪能ナル人モ多クテ其調ニ依テ和樂ヲ作リソヘタルモアリ、胡蝶按摩ナド是也、嘗テ淡薄ノモノニ非ズ、凡事久シク聽ナレタルモノハ珍シゲナシ、新ナルハ興アルモノ也、今樣ナドハ賤者ノ作リタルモノナレドモ自然ト貴人ノ玩トモナルハ理屈ナクシテ人ノ耳ヲ悅バスノミニ作リタレバ聽人喜ブハヅ也、コレヲ興シテ後ハ、唐樂ハサスガヨソノ國ノ玩物ナレバ、此國ノ耳ニハ十分ナラズ、ダン〳〵流行ヤミタリ、ハヤラネバ樂人モ下

手トナル、且今樣ハ女ノ歌ヒ舞フモノナリ、歌ハ耳ヲヨロコバシ美女ノ舞目ヲヨロコバス、唐樂ノ歌ナク女ナキトハ大ニ違フコトナリ、然ドモ人ノ好尙ヨリ衆存シテ、遽ニ唐樂ヲヤメズ、儀式ニモ用ユルナリ、其後亂世ニナリテ樂ドコロニアラズ、應仁ノ後京師ノ上下皆逃散ス、信長ノ時ヤヽ治リテ、ソロ〱歸住アリ、諸事廢闕ノ中ニモ樂尤甚ト也、此時全ク殘リタルハ、越天樂等ワヅカニ三調也シト云、樂工等是ヲ悲ミ、諸記譜錄等ヲ取アツメ、理屈オシニ節奏ヲ定メ、古樂ト稱ス、皆右三樂ヲオシヒロゲ、數千百ノ樂ヲ奏スルナリ、ナキコトヲ設テ譬トスルニ、後世ニ散樂廢絕シテ、後一人ノ老工アリテ、高砂井筒舟辨慶三番ヲヨク記臆ス、此三番ヲオシヒロゲテ三百番ヲ奏スベシ、知ラヌ人ハカヽルモノナリット思フベシ、凡食物久シタ貯オケバ味ヌケテ旨カラズ、夏ノ粽ヲ冬マデオケバ堅クシテ味ナシ、冬ノ人是ヲカミテ夏ノ人ハ是ヲ喰カト怪ガ如シ、韶武モ其時ハ善美甚シキコトナルベシ、玉樹後庭花ハ淫ノ極ニシテ哀音甚シ、陳ノ後主是ヲ奏スレバ牆外ノ行人コレヲキクモノ皆涙ヲ落シタリト云、今此二曲樂家ニ存スト云、試ニ奏セサセテ聽ベシ、涙ハ一滴モ落マジキ也、散樂ハジメノ程ハ鄙褻妖冶ナリシヲ、代々上手出テダン〱古質ニ近キヤウニ持アゲタリト聞、此類昔ヲ慕ヒ今ヲ憎ム心ヨリ强說ニ陷ルコト多シ、戒ムベシ、明人家訓ノ書ニ、閨中ノ女子ニ學バセマジキモノハ琵琶三絃也ト云リ、淫聲ノ極ナル故也、今世ハ琵琶ヲ古質ナルモノト思フ、曲ノ廢ニアラズヤ、今ノ琴ト云モノハ箏也、和名筑紫琴ト云、ソレヨリ胡弓三絃トナル、其淫樂云ベカラズ、是ヲキヽテ其心ヲ考フベ

シ、笙磬ノ音ヲキケバ心シマリテ感ズル意アリ、散樂鼓聲ヲ聞時ハ殺伐ノ心ヲ生ジ、胡弓三絃ヲキヽ女樂ヲ見レバ、心トロケテ止ル處ヲシラズ、故ニ樂ハコレ風ヲ移シ俗ヲ易フルモノナレバ、ツヽシンデ正樂ヲスヽメテ淫樂ヲ禁ズベキナリ、其音バカリニテ如レ此、況ヤ美女ヲシテ舞シメ、色ヲ以テ導クヲヤ、トロケズンバアルベカラズ、今專ラ風ヲカヘ俗ヲ變ズルモノハ戲場淨瑠璃ノ類ナリ、哥舞妓ヲ以テ最甚シトス、其悠容淫媟戲慢到ラザル處ナク、誠ニ以テ見ルニ耻ベキコトナルニ、親子兄弟引ツレテ是ヲ見ル、中ニモ婦女尤是ヲ嗜ム、女子ノ類ニハ見セマジキコト也、其中ニ婦女ノ形容ヲ勤ルモノ最甚シク、平生ノ身持ヨリシテ婦女ノ風ヲナラヒテ、トリ分ソノ藝中粉黛衣飾ノ好ミヨリ、頭髮櫛笄ノ粧ヒ競テ新シキヲ好テ、我一ト發明シ出シ來ルコトニテ、此風俗娼妓歌妓ニウツリテ、ソレヨリ市中ニ流行シ、ツヒニハ官家宮婦ニ移ル、其時ニハ老婦ノルイハイミ憚リテコレヲマネズト雖、三年前ノ風ハツヒニ古風トナリ、又新風行ハルヽニ付テハ今ハ三年前ニイナミタル風モ、ツヒニハナレテ自然トコレヲスルニ到ル悲ムベキカナ、故ニ爰ニオイテ制度禁戒ナクシテハ、天下ノ風俗コレガ爲ニ何等ノ處ヘツレ行ルヽモシラズ、故ニ往古五百年七百年ニテ變ジタル風俗モ、三百年二百年トナリ、百年五十年ヨリ二十年トナリ、三年五年ニテ變易スルヤウニナリタリ、履軒先生曰、凡風俗ノ漸靡スルハ三四年ニテ、コレハト氣ノ付コトモアリ、十年ナルモアリ、皆小移ナリ、此小移ヲツミテ五七十年或百年ニテ大移トナル、コヽニテ變ト云ベシ、又善政時勢ニヨリテ移ルコトモアリ、干戈天災ニヨリテ速

ニ變ズルモアリ、升平ノ變易ハ漸靡怠惰ヨリ移シ、コヽニ制度ナクンバイヅクマデ流ルヽモシラザルナリ、惜イ哉、寛政ノ初ヨリ奢侈ヲ禁ゼラレ、質儉ノ風行ハレシニ、イツノ程ニカ又奢靡ニモドル、ミナ正樂スタレテ淫樂ノ行ハルヽヨリ起ル、悲ムベシ、コレヨリ五十年百年ノ後イカガナルベキモシラズ。明人ノ琵琶ヲ淫聲ト云タルハ、サスガ漢土ニテ古ヘノ遺音アル故ナルベシ、然ルニ今世ハ琵琶ヲ古質ナルモノト思フ、吾國ニテハ絃上ノコトアリ、蟬丸コレヲ嗜ミ、平家ノ音聲ハミナ琵琶ニシテ、サマデ淫樂トモ思ハザルニ、明人是ヲ淫ト云シ、コレハ昔ノ淫聲ハ中古ノ正トナリ、中古ノ淫聲ハ今ノ正トナル、自然ト其時勢ニテ、耳目モ又古今アルナリ、今デハ專ラ箏ヲ以テ閨中女子ノ常藝トス、其唱歌皆淫亂ノ文也、三絃ハ一向ニ初ヨリ淫ニシテ、天下ノ淫聲コレヨリ甚シキハナシ、箏トイヘドモ其哥ハ同ジ、トモニ女子ニ學バセマジキナリ、今アル歌曲ノ内ニテ、淫ナラザルモノ二三十番ヌキ出シテ、ソレノミヲ學バシメ、淫中ノ正ト云ベシ、今ニテハ古樂散樂ハ其制キハマリテ動クコトナシ、唯劇場三絃ノミ漸々ニ新淫曲ヲ出シテトリトヾムル處ナシ、是ニ制度ナキトキハ、末々イカヾアルベキヲ知ラズ、アヽ歎ズベシ、然ルニ三代ノ禮樂秦漢ヨリシテ廢タルニ、其後聖賢ノ天子ナクシテ、禮樂オコラズシテ、孔子秦漢ノ後ニ出テ、尊位ヲ得玉ハヾ、禮樂ヲ作ラデヤムベカラズ、然レバ即禮樂ノ興ラザルハ聖天子ノ出ザルユヱナリ、今ヨリノ後聖君上ニ出ルトキハ、禮樂刑政日ヲ逐テ興ルベキナリ、聖人世ト推ウツルモノナレバ、アナガチニ今世ノ風ヲ以テ移易スルコト叶ハズトモ云ベカラ

ズ、聖君ダニ出ルトキハ、天下ヲ治ルコト掌ヲ反スヨリモヤスカルベシ、亦何ヲカ愁ヘン
俳優ノ始ハ周ノ世、晋ノ献公ノ時優者アリ、太子ヲ譏ス、楚ノ莊王ノトキ優孟アリ、コレハ賢者ニテ面白クヲカシク云テ君ヲ諫ム、齊ノ魯公夾谷ノ會ニ、俳優侏儒ノ舞ヲナス、孔子コレヲ誅ス、魏ノ文公齊ノ宣王ミナ俗樂ヲ好ム、又齊ヨリ女樂ヲオクルコトアリ、秦漢ニ優旃アリ、北齊ノトキ散樂アリ、隋ノ文帝コレヲ禁ズ、煬帝ノトキヨリ又盛ナリ、唐ニ梨園ト云、宋ニ華林戲ト云、元ニ昇平樂ト云、ミナ俳優ノコトニテ、俳遊戲ノ樂ナリ、後唐ノ莊宗俳優ヲナシテ天下ヲ失フ、後世ノ殷鑑トスベシ、我日本ニテハ、火闌降（ホノスソリ）ノ命ノ弟彥火々出見尊ノ御爲ニ、俳優トナルコトアリ、大織冠ノ入鹿ヲ殺スノトキ、俳優ニヲシヘテ劍ヲトカシム、奈良ノ時ヨリ雜樂有、江家次第ニ狛犬散更ノ樂ノ事アリ、中ニ一足高足ノ樂アリ、コノ散更ハ散樂ノコト也、一足高足ハ田樂ノコトナリ、源氏物語ニサルガウトアリ、江談抄・古事談・著聞集・源平盛衰記等ニハ猿樂トアリ、藤ノ明衡ノエラマレシ新猿樂記アリ、ミナ正樂ニアラズ、淫戲樂ナリ、其後變ジテ田樂トナル、白川上皇叡覽アル、カマクラ時代大ニ流行シ尙高時コレヲ好ム、足利ノトキ尊氏モ亦コレヲ好ム、四條大橋ヲカケル爲ニ、川原ニテ勸進セシコトアリ、義滿公ノトキヨリ田樂ヤミテ、猿樂流行ス、東山ノ時ニ四座ノ名定リ、此世ニ謠曲ヲ作ルト云ドモ、ホドナク亂世トナリ、スタレタリシニ、豐太閤朝鮮征伐トシテ、筑紫在陣ノトキ、初テ猿樂ヲ催シ自ラ舞玉フ、コレヨリシテ諸侯オノ／＼自ラ舞フヤウニナリタリ、凡

古ノ俳優猿樂ト云フ者ハ、今ノ能トハ大イニ違ヒ、狂言ヤウノモノニテ頗作多シ、今ハ能ト狂言二ツニナリタリ、能ハダン〳〵ニ行儀ヨクナリ、狂言ハソノマヽナルベシ、正ト淫トヲ分チヌルヤウニナリ、今ニテハ能ハ正樂トナリテ祭祀ニモチヒ宴樂ニモ用ヒラル、劇場三絃ノ類トハ異ナリ

九 古ヘヨリ舊家名家功臣ノ末ナリトモ、當主ニ罪アレバ其身刑セラレ、其國除セラレ減地降秩トナル、タマサカニ其中ニ祖先ノ功ヲ以テ小祿ヲ給ハルモアレド、ソレハマレナリ、今有チ治ムル處ノ家國ハ、ミナ祖先ノ家國也、祖先ハミナ天下ニ功勞アリテ爵土ヲ賜リ、ソノ由緒ヲ以テ子孫ニ繼テ、祖先ノ功勞アル人ハ祭ヲ奉ゼラルヽ也、然ドモ嗣子ナケレバ其國改易アルハ勿論ノコト也、又當主ニ罪アレバ改易スルコトモ、理ノ當然ナリ、已ニ祖先ノ功勞ニヨリテ賜リタル家國ダモ、其子孫ニ罪アレバ家國改易アルニ、寺僧ニオイテハ然ラズ、當住ノ僧ニ罪アリテ、其身刑セラルヽト云ドモ、寺ハ其マヽニテ立オカレ、法嗣ヲ立ラルヽハイカナルコトゾヤ

(評文)

罪ノアル在家ノ人ハ、其家ノ主ナレバ改易アルハヅナリ、僧ハシカラズ、當時ノ住僧ト云トモ、寺ハアヅカリモノナリ、然レバ住僧ニ罪アリトモ、其子孫ノ殘ルニアラザレバ、寺ノカヽハルベキニアラズ、マタ勅願所將軍家ノ菩提處ノ外ナリトモ、凡寺院ト名ヲ被ルモノ、一ツトシテ由緒ナキモノアランヤ、寺ト在家ト同ジコトニ論ズルハ、イハユル杓子定木ニテ、癖見偏志ト云ベシ、スベテ此

書初ノ一巻二巻天文地理ノ條ニモ神モ佛モ儒モ一々ニ惡口シテ、漢土天竺ハサラナリ、我日本ヲサヘ愚人ノミトシテ、只西洋人バカリヲ譽テコレニ伏從ス、イカニモ天文地理ニオイテハ、西洋人クハシ、然ドモ又天球地球ノ新說ハヨウヤク明ノ末ニ始テ渡ル處ニシテ、ソレマデノ曆法ハコト〳〵ク梵曆ヨリ出タリ、今時ニテモ用ユル曆ハミナ梵曆ノ法ナリ、只流儀ノ違バカリニテ、飯ヲ喰テモ餅ヲ喰ヒテモ、飢ヲシノグニ二ツハナシ、梵曆ノ法ヲ知ラズシテ慢リニコレヲ訕ルモノ、實ニ井蛙ノ見ト云ベシ、書ヲヒロク見ザルノ過失ナリ、普門律師ノ曰、天球地球ノ說ヲオコシテ、梵曆ヲ破ラントスルモノ、新法曆書ト名ヅケテ一百二十巻アリ、其ノ書ノ題下ニ曰、極西耶蘇會士羅雅谷撰トアリ、ト云々、モト天文ノ新說ハ、耶蘇ノ徒ガ始ル所ニテ、慢ニ是ヲ信ズルモ愚ノ至リナリ、故ニ地動ノ說ハ今御公儀ヨリ停止セラル、此書ノ作者ヒタスラ西洋人ヲ尊ミ「ヲロシヤ」「イギリス」「ムスコビヤ」等ヲ慕フ心ナルハ、甚タイブカシキコトナリ、又前ニ佛曆ヲ訕ルトキ、ワヅカニ須彌山ノ圖ヲ出ストイヘドモ、一ツモ梵曆ノ法意ヲアゲザルハ、其法ヲシラザル故ナリ、笑フベシ、呵々

勅願所且將軍家、搢紳家ノ菩提所カ、又ハ靈地本山ノ類ハ廢セラルベキニ有ネドモ、由緒モナク又祖師ノ國家ヘ功勞アルニモアラズ、徒ニ軒ヲナラベタル數萬ノ寺院ニ於テハ、當住ニツミアリテ刑ヲ加ヘラル丶トキハ、俗家ト同ジク改易アリテモシカルベシ、天下ニ功勞アル人々ノ家國ハ改易アリテ、何ノ功モナキ寺院ヲ改易ナキハ、偏頗ト云ベシ、故ニ人ニヨリテハ、財ヲ拋テ寺ヲ建立シ、先祖ノ祭

祀ヲ寺ニ託シテオケバ、タトヒ家國ハ亡ブトモ、祭ハ奉ズベキト計リテ、寺ヲ建ルモノアリ、コレニヨリテ年々歳々寺院增加ス、近代ハ是ヲ禁ゼラレテ、新寺ヲ許シ玉ハズ、シカレドモ古刹廢寺ヲ取立ルコト多シ、寺僧ノ中ニハ五逆ノ罪（五逆ハ君父母師夫ヲ弑スヲ云）人謀反徒黨ノ族モアルベシ、當時禁ゼラルル宗旨ニ似タルコトナド仕出シテ、重罪ニ行ハルヽモマタ多シト云ドモ、ミナ其身一人ニ留リテ、寺僧ニオイテハ本寺ヘ引渡サレテ法嗣ヲ立ル、コレイツノトキヨリノコトナルヤシルベカラズ、コトニ知ラズ今ノ寺僧ハ、陽ニ五戒ヲタモチ、陰ニ女犯肉食スルモノ十ニ八九ナリ、元ハ名モナキ庶人ノ子ニシテ、天子公卿ノ師ニモ至リ、諸侯大夫ノ上ニ位シ、驕奢ヲ極ルコトハ道德高ク言行誠實ナルユヱニアラズヤ、然ルニ何ノ德モナク、行ヒモアシクシテ榮華ヲキハメ、タトヒ罪アリテモ其身ニ留マリ、寺地ノ恙ナキコトハ寛優ノ政ト云ベシ、故ニ我モ〱ト出家シテ榮華ヲ貪ル也、アヽ功勞アリシ侯伯ノ國、其嗣子ノ罪ニヨリテ改易セラルヽコト數十百家、旗本陪臣ニ至リテハ幾百千ヲ知ラズ、寺院ニ於テハコレ有ヲ聞カズ

（評文）　コレ表ニハ僧ヲソシルトイヘドモ、裏ニハ公ヲソシル意アリ、又曰、理外ノ理ヲ知ラズ、無用ノ用ヲシラズ

今數百萬末派ノ寺々ニ天下ニ於テ何ノ功勞カアル、又當時ニ於テ何ノ益カアル、歎息スルニ耐タリ、神祠ノ巫祝ハ此ニ異ナリ、今時淫祠多シト雖、大抵ハ神代ノ祭リ來ラセ玉フ神多シ、巫祝ノ罪ニヨリテ

其祠ヲ廢スベキニモアラズ、其身ニコレラハ止マルベキコトニヤ、巫祝罪アレバ其人ヲ刑シ、更ニ巫祝ニ命ゼラレンカ、寺院ハ勅願所ヨリシテ、武家又搢紳家ノ菩提所、其外大地ノ分ハ大抵神祠ノ巫祝ト同意ナルベシ、其餘由緒ナキ一並ノ寺院ニオイテハ、本尊ト云モノハ彌陀・觀音・藥師・釋迦ノ類ニテ、我邦上古ニ功勞アルニモアラズ、コトニ數萬箇所ニ祭ル處ナレバ、廢シテモ何方ニテモ香花ヲ享ルコト故ニ、信仰ノ徒サノミ悲シムベキニモアラズ、廢寺ノ佛像法器經卷ノ類ハ、由緣ノ寺院ニ送リテ宜シ、其處ニテ安置セズトモ、勝手ニ任スベシ、カクシテ後天下ニ新ニ佛像ヲ刻ムコトヲ禁ゼラレナバ、回祿ノ寺ヘ互ニ古像ヲ買テ安置スベシ、元來寺院ハ神祠ト異ニシテ、ミナ其開山ノ恩ヒ付テ念ジタル佛ニシテ、其祭ルベキ鬼神ニアラズ、然レドモ畫ニモセヨ木金土石ニモセヨ、佛像ヲ見テハ人々恐レ敬フテ捨モナラズ燒モナラズ、靈驗アラタナル佛像ナリト云テ、イカニシテモ廢シカヌル心アリ、故ニ其寺院ノ廢スルヲ惜ム、ソレヨリシテツヒニハ何クヘナリトモ安置スルヤウニナルモノナリ、今善光寺ヲハジメ、因幡藥師ナド、其外廢佛ヲ引出シテ守リ立ル多キヲ以テシルベシ、故ニ禁無ンバアルベカラズ、寺院改易ノ法立トキハ、無益ノ游民多クハ滅ジテ、國家ノ疲弊却テ全盛トナルベシ、然ルニ寺院ヲ滅ズルコト一時火急ニスレバ、備前ノ覆轍ノ如クツヒニハ昔ニモドリテ却テソノ廢シタル人ヲ罪人ト云ナスハ、佛氏ドモノ常ナリ、故ニ只其新建ヲ禁ジ、古刹ヲ興スコトヲ停止シテ許サズ、サテ上文ノ寺僧改易ノ法ヲ立テ、三五十年モタモチテ後宗旨手形ヲヤメテ度牒ヲ命ゼラレナバ、民心服

スベシ

今此寺院ヲイハバ、アラマシ等持院・高臺寺・龍安寺ハ其大ナルモノカ鎌倉ニ五山アリ、其外國々ニテ豪雄ノ建タル寺々皆今顯然トシテ存シテ、ソノ旦那ノ位牌ヲ祭リ、又古器ヲ弘テ寺ヲ保チ、又有來リノ山林田地其マヽニ所持スル多シトス

十　衣服制ハ上古木葉獸皮ヲ着セシヨシナレドモ知ルベカラズ、神代ニ天照大神神衣ヲ織玉フトアルハイカナルモノニヤ、神武以來ノ衣服傳ハルコトナシ、上古ノ畫ニ多ク漢服ヲ用ユルハイカナラン、日本武尊ノ服ハ漢ニ似タリ、神功皇后竹内宿禰ハ日本風也、是ハ大抵畫工ノ意ニシテ正シキ證ナキユヱナラン、應神ノトキ呉ニ求メテ織姫縫工女來朝ス、此時ヨリ織出シタルヤ、又ハ其以前ヨリアリシヤシルベカラズ、中ニモ布帛麻葛ハ古キ物ナリ、木綿ハ後世種ヲ傳ヘテ植ソメシナリ、木綿アリ草綿アリ、今用ユルハ草綿ニシテ、木綿ト云ハ誤リナルベシ

今用ユルハ木綿ナリ、草綿ハ草ノ穗ノ如キモノナリ

中古ヨリ官服ソレ〲ニ備リテ、官アル人ノ冠セザルハナシ、庶人ニテモ皆烏帽子ヲ用ユルコトハ、職人ヅクシ哥合ニテモミルベシ、中古武家ニ移テ、袍ノ袖ヲキリテ肩衣トシ、袴モ半袴トナル、コレヲ合テ上ミ下モトナヅク、今武家ニテハ大禮ノトキハ束帶ニシテ、其外ハ皆麻上下也、又裏附アリ、單アリ、紗アリ、公家ハ大抵束帶ナレドモ、常服ハ繼上下モ用ヒラルヽナリ、是衣服ノ一變也、近年

驕奢ニナリテ、上下ミナ美服ヲ用ユ、上王公ヨリ下庶人ニ至ルマデ、羽二重ノ小袖ニ縮緬ノ羽織ヲ用ユルトキハ、上下ノ差等ナシ、然ルニ其費ハサマデノコトハナケレドモ、上ハ儉ニシテ下ハ奢也、又僣ト云ベシ、唯奢侈ノ甚シキハ婦人ノ服也、寛政ノ始、素質ノ政行ハレテ一旦ヤムト云ドモ、ツヒニハ又復ス、イヨ〱侈奢トナル、惜ムベキカナ、コノ風俗ヨリ改ザレバ、士民ノ常產立ベカラズ、是則亂ノ基也、愼ズンバアルベカラズ、熊澤先生曰、庶人ハ綿服ヲ用ユベシ、士ハ桑蠶ヲ營ミ、妻妾絹帛ヲ織テ夫ノ衣服ニ備フベシト云々、西國人尙シカリ、況ヤ東北ノ國々ヲヤ、綿ハアタヒ貴トシ、然ドモ士ノ妻婦業ヲ事トセズ、故ニ蠶ヲ飼フコトアタハズ、コレサヘ營ムモノナラバ、士大夫ノ室家絹帛ヲ織テ君子ニキセテ可也、陪臣以下ハ織錦ノルイハ禁ズベキナリ（毛綿ハ尙更也）

十一　冠婚喪祭ハ禮ノ大ナルモノニシテ、今人唯コレ奢テ我一ニ財ヲ費スヲ以テ是ヲ競フ、婚禮ヲ甚トス、今上下オシナベテ女一人アレバ持來リ、身上ヲ破ルモノ多シ、此禁アルベキコトナリ、其內衣服ノ資裝ニアリ、八口ノ家ソノ食アリト云ドモ、女ノ資裝ヲイカニセン、又鼈甲（古ヘ所謂玳瑁ナリ）ト云モノアリテ、是ヲキソヒ求ム、ソノ價貴トシ、官ヨリ制禁アリト云ドモ、唯末ノミニシテ長崎ノ持渡リヲ止メ玉ハザル也、今天下產破ノ害ヒトヘニコヽニアリ、又至テ貧ナル者ハ女ヲウリテ其身ノ助成トス、此所爲風俗ヲ破ルト云ドモ、一統貧者ノ風トナリテイカントモスベカラズ、其本ハ衣服ノ裝飾ヨリ起ルコトナリ、一變ノ新政ナケレバ改ムベカラズ、冠喪祭ノ三ツハ實ヲ失フコト多シト云ドモ、今サシ當

テ害アルコトナシ、故ニ略ス

十二 今諸侯ノ貢獻ニテ其財ヲ費スコト甚シク、又其民ノ苦シミイクバクヲシラズ、廟堂ニ人アルトキハ其制アルベシ、マヅハ米金ノ貢ニカヘテ然ルベシ

十三 王制ニ四誅十有四禁ノコトアリ、外國上古ノコトナレバ、今トリ上テ用ユベキニハアラザレドモ、中ニモアマリニ流レテ甚シキモアレバ爰ニ論ズ、「折レ言破レ律亂レ名執二左道一以亂レ政者殺焉、」ト古人ノ言ヲトリテ、我勝手ノヨキヤウニ云マゲテ、律令法式ノ言ヲ云マゲテ是非ヲ變亂シ、異端邪說ヲハナレテスルコトナク、サマ〳〵ノマイスヲ云テ人ヲ惑ハシ、政ヲ亂ルモノハ殺スト也、「作二淫聲異服奇器一以疑レ衆者殺焉」トイロ〳〵ノ人ヲトラカス音樂ヲナシ、法度ニ背クノ衣服ヲ用ヒ、器物ニ仕カケヲシテ人ヲ欺クモノハ殺ストナリ、「行僞而堅言レ僞、而辨學レ非、而博順レ非、而澤以疑レ衆者殺焉」ト、ヨカラヌコトヲ知ナガラ行ヒテ見カヘルコトナク、又言テムリニ云マゲ、惡キコトヲ弘メタガリ、ムリニオシツケテ唯ミナアシキヲ知ナガラ、我ノ利ヲハカリテスルコトニテ、キヽモセヌ賣藥アルヒハキカザル加持祈禱ノコト、皆我ハ合點シナガラ行ヒナスコトハ、不仁ニアラズヤ、コロスモムベ也、「假二鬼神時日卜筮一以疑レ衆者殺焉」ト、稻荷。不動。觀音。聖天ノ類ヲ祈テ疾ヲ治シ、福ヲ祈ルト云テ人ヲマドハシ、墨色・周易。相性。家相。劍相ノルイ、サマ〳〵ノコトヲ以吉凶禍福ヲトナヘテ、人ヲ欺キ吾ハ合ザルコトヲ知リナガラ、錢ヲトリテ産業トス、コレラノ類ハミナ殺スベシ、此四誅ノコトハ云

出スコトモナクシテ、今ハ公然トシテ巫祝・山伏・僧尼ノ類ハ、皆京師ニ家元アリテ、聖護院・三寶院・白川・吉田・土御門ナドヨリ御免、或ハ支配トナリコレヲ行ヒ、又傾城町・茶屋・風呂屋・旅籠屋ナド、號シテ、淫ヲ賣モノ多ケレド、是ヲ何トモセズ、ミナ其制度アラバ良法ナルベシ、十四ノ禁ハクダ〳〵シク並ベアゲズ、皆古ヘハ市店ニ制アリ、穿鑿瑣細ノ繁ニ失スルニ似タリト云モ、古ヘハ民ノ爲ニ制度有、今ハ運上貢益ノ爲ニ制禁繁多ナレバ、此善惡ヲ考ヘズシテハ、ミダリニ禁止ハカナフベカラズ

十四　足利ノ末ヨリ、我國ノ商船外國ニ渡ルニ、勘合ノ印ヲ以テス、大內家コレヲナス、其後堺・京・伏見ノ船主ヨリ渡スモノ多シ、又外國ヨリ日本ヘ來ルモノ、平戶ヘモ入、琉球・薩摩・堺ヘモ來リシニ、寬永ノ頃ヨリ禁制アリテ、淸國ト紅毛トニ限ルヤウニナリ、長崎ニ役處ヲ設ケ、淸蠻ノ館ヲ建オキテ、其他ハ入ルコトヲ許サズ、我國ハ金銀銅鐵多キニヨリテ、萬國ミナ是ヲ求ム、故ニ藥物・衣服・器玩・珠玉ヲ齎ラシ來テ銅鐵ニ易ユ、二百餘年ニ至テ其數計ルベカラズ、スデニ正德ノ頃、白石先生此數ヲアゲテ外國ヘ渡スコトヲ歎ズ、然ルニ其ノチ今ニ至リテ百餘年惜ゲナクカレヘ渡サルヽコトナルニ、金銀又銅鐵ノ不足ノ事モナシ、白石先生ノ時ハ如レ此外國ヘワタサルヽ時ハ、日本ノ寶貨三五十年ニハ竭果ルヤウニモ聞エシニ、イマダ何ノコトモナケレバ、此上百年二百年過ルトモ亦同ジコトナルベシ、履軒先生曰鐵ハ切要ノ物ナレドモ、澤山ニ出ルモノユヱニ惜ムニ足ラズ、銅ハ全ク絕タリトモ、民用ニカケルコトナシ、有レバツカヒ無ケレバツカハズニスムコトナリ、コレヲ深クヲシムハ、其論

ムカシヨリ多シ、空論ト云ベシ、金銀少ケレバ少キニテスムカクコトナシ、多ケレバ多キニテスムナリ、ソレ故ニヨキコトアルニアラズ、コレヲ惜ムハ心エ違也、淸ヨリ金銀年々舶來ス、何ノ故ヲ知ラズ、御帳面ニ急度シルサルヽコト也、白石ハ此ヲ算ニ入ズ平論ニアラズ、吾國ノ銀錠ハ閩浙・福建ノ間ニヨリ通用スルトナリ、長崎ニテ價ヲヨク買ントイヘバ、商船ハ載來ル也、琉球ノ淸ヘノ交易ノ物ニ銀アリ、薩州ト合セテ年々銀二百貫目江戸ニ達ス、古銀ノ通ニ吹セテ渡スナリ、此時薩州ヨリ文銀四百貫目ホド官ヘ出スト云、公然タルコトナリ、屢往テモ屢還ルハ我國ニアルモ同事也、紅毛ノコトハシラズト云、然ルニ淸蠻交易ノコト、有ヲ以テナキニカヘ、少ヲ以テ多ニカヘ、備ハラザルヲソナヘ、弘カラザルヲ弘ルハ互市ノ利ナリ、故ニ大體ノ法ハ定マリテ、間然ナシト雖、吏人姦商ノ私ヨリオコリテ、ツヒニ外國融通ノ法ヲ失ヒ、萬國ノ爲ニ笑ルヽコトモナキニシモアラズ、殊ニ紅毛人ノ奸智中々當ルベキニアラズ、ヨク〱計テ國權國利ヲ失ナハザルヤウニスベシ、一二ヲ擧テ云トキハ藥品器物ハ皆用アリ、砂糖ハ口ヲ甘ウスルノミ、寡シテヨカルベシ、鮫ハ武用ノモノト雖、吾國ニ生ズルモノニテスムベシ、今ノ如ニ上品ヲ用ヒ金銀ヲ費トモ用ニ立ニハアラズ、鼈甲ハ無用ノ物ナリ、東都ニハアマリ大造ナルハ用ヒザレドモ、京大阪ニ用ユルコト甚シ、コレハ一向禁ジ、少分ノ似タルヲモ用ユベカラズ、此物昔ハ玳瑁ニテ來リシガ、制禁トナリテヨリ名ヲ易テ鼈甲トシ來ルコト也、タトヒ名ヲ變ズトモ、其品ニ違ナクバ禁ゼラルベシ、此故物ニ士庶人女ヲ持タルコトヲナヤマシム、早ク制

禁セラルベシ、書藉ノルイハ其善惡ヲ論ゼズシテ、目ヲカケテ輕重ヲ以テ價ヲ立ルト、ムベナルカナ好書ノ渡ラザルヤ、淸蠻ヘ畫帖ヲ渡シ、屛風襖ノ類ヲ渡ス、皆浪華ニテ是ヲ畫ク、衣冠・束帶・甲冑・刀劍用ユル畫ヲ禁ジテ、唯男女壯少雜居シテ、燕游戲蝶ノ圖ヲ畫クノミ、其外交易中ニハカヽル類多シ、古昔一時ノ法ヲ以テシ、又ハ其時ノ利慾ニヨリテ今ニ變改スルコトナリ、吾國ノ恥辱ヲ外國ニ顯スコト國威ヲ損ズト云ベシ、此等ノコトハ皆執事職ノ知ラザルコトニテ、有司下吏ノスル處ナリ、希クハ長崎ノ牧ニハ大賢無欲ノ人ヲ用ヒラレ、吏人商賈ノ姦刑利欲ヲ吟味アリテ、國體ヲ損ゼザルヤウニ有タシ、外國ニ通ズルニハ信ヲ專ニシ、威ヲ示スニアリ、下吏姦商コノ意ヲシラズシテ、公私トモニ利ヲ爭フコトヲ表トス、故ニ外國人皆長崎ノ風俗ヲ見テ、日本ノ風俗ミナコレ也ト思ヒ、彼國史ニシルスハ口惜キコトニアラズヤ、當時蝦夷ヲ開發アリテ、箱館ニ牧ヲオカル、コレ又大切ノ任ナリ、長崎ニ於テハ我ヲ伺フコトナシ、蝦夷ハ莫斯哥比亞（モスコビヤ）ヨリサマ〴〵計策ヲ以テ我ヲ伺フ、蝦夷地コレマデノ通ナラバ、其害ナシト云ドモ、彼地ノ開クルニ随ヒテ、マス〳〵甚クナリテ、其內牧吏ノ備ヘノスキマヲ見テハ、付込テイカヾノコト仕出サンモハカリ難シ、故ニ大切ノ任也ト云フナリ、カリソメニモ外國ニ通ズルニハ、容易ノ人ヲ用ユルコトナカレ、元來西邊ハ明末ノコロ、南海ヘンニハ日本ノ海賊入コミ寇ヲナシ、朝鮮ハ太閤ノ征伐ニコリテ氣ヅカヒナシ、東南海ハ大洋ニテ患ルコトナシ、只恐ルベキハ北ナリ、昔ノ蝦夷ナルモノダン〳〵ト服シテ、津輕マデモ內服シテ、ツヒニ海ヲコエテ松前ノアナタヲ以テ古名ヲ存

シ、蝦夷ト名ヅク、國ニ君ナクシテ松前侯ニ屬ス、此マヽニアリテ然ルベシ、徒ニ交易利倍、土地開發ヲコトトシテ、後世ノ難ヲ引出スコトナカルベシ、幸ニ不毛嶮隘ニシテ人モマダ〳〵頑愚ノ俗ナリ、ユヱニ耕作ヲシラズ、只山海ニ漁獵スルノミ、故ニ土地アレドモ無ガ如ク、元ヨリ山嶮シク道ナシ、今ハ莫斯哥未亞（モスコビヤ）ヨリ蝦夷ノ西北隅ニ「ラツコ島、」「クナジリ」「エドロウ」等ノ島々ヘ交易シテ是ニ親ム、コノ西「モスコビヤ」ノ屬國「カンサスカ」也、此國遠略ヲ好ム、日本ハ財貨多キヲ以テ、又米穀ノ多キヲバ羨ミ、互市ヲ乞フコト多年、スデニ白子ノ幸太夫ヲ餌トシテコレヲ乞ニ、幸ニシテ公ニ人アリテコレヲウケズ、然ルニ今蝦夷ヲヒラキ、坎嶮ヲ通ジ互市ヲナストキハ、尙サラニ米金多キノ實ヲシリテ涎ヲ流サセテ惡心ヲ萠スベシ、今マデハ嶮ニテ國アレドモナキガ如ク、山海ニ遮ラレテ消シ息レザレバ、手ヲサスベキヤウナキニ、蝦夷地ダン〳〵ニヒラケテ、互市熾ニナリタルトキニハ、日本ノ消息ヲヨク〳〵聞スマシ、其備ヘノスキマヲ見、又ハ姦惡ノ下吏ニ利ヲアタヘテ我ヲ伺フトキニハ、イカナル患ヲカナスベキモシラズ、ソレヨリ付入ニナリテ松前ヘ來ルトキハ、奥邊サワガシクナランモハカリガタシ、カヘス〴〵モ捨オキテ可ナリ

中古御免ノ蠻國通船

京角倉　一艘　茶屋　一艘　伏見屋　一艘　堺伊豫屋　一艘

長崎末次　二艘　船本　一艘　荒木　一艘　糸屋　一艘

蠻ハ南蠻ナリ、古ヘ外國ノ船ミナ南蠻ヨリ入シユヱ、スベテ蠻ト云、今ハ紅毛バカリナレドモ亦蠻ト云

合　九　覆

十五　凡名山及金銀・銅鐵・名木・名石ノ出ル諸山ニハ、必神佛ヲ勸請スベカラズ、本ヨリ寶貨ノ出ル諸山ニハ其德ヲ思ヒ、其神ヲ祭ルベキナレドモ、吾邦ノ風俗鬼神ヲ恐ル、コト甚シク、加ルニ巫僧ノ奸ニオドサレ、ツヒニハ其山ヲ神佛ニ奪ハル、山々ハ奥州金華山・和州金剛山・金峯山・其外ノ山々寶山ノルイハミナ神佛ニ奪トラル、モノナリ、コレラノ元ハ皆寶ノ出ル山ナルユヱニ、鎭守ノ爲ニ勸請シタル神佛ヲ崇敬シスゴシテ、巫僧ドモツヒニ是ニノリサマ〴〵誣僞ノ言ヲ神佛ニ托シテ、愚民ヲバアザムキ、ツヒニハ其山ノ塵一本砂一粒モ神惜マセ玉フト云テ、草履マデモヨク塵ヲ拂ヒテ下山ナスニ至ル、甚シキニアラズヤ、此根元ヲ逆上テヨク尋レバ、此山ヨリ財貨出ルヲ以テ、ソレガ爲ニ諸民産業ヲナシ、天下ノ爲ニナル山ナレバ、萬代ノ利ヲ得テ子孫長久相續センガ爲ニ、神佛ノ類ヲ祭リテ、コレヲ鎭守セシコトニテ、ミナ此寶ヲトランガ爲ニ此神ヲ祠リシニ、諸民崇敬ノアマリニ、イツトナク其神ニ奪レツヒニ天下ノ寶山廢物トナル、コレハ一旦其ノ神ヲ崇敬畏伏セシヨリ、民心皆其神威ヲ怕レテ一人モ手ヲサスモノナク、上ニアル人々モオシナベテ神佛ヲ信ズルコトナレバ、誰有テ此處ニ心付人モナクシテ再ビ起スベカラザルニ至ル、其外神佛ノ有山林ハミナ伐ルコトヲ許サズ、春日・三輪ノ如キハ

朽倒レテ道路ニ横タハルト云ドモ、片寄テ置テ取コトカナハズ、巫僧ノ輩神威ヲマシテ利ヲ貪ルヨリ起ルコトナリ、今是ヲ除ント欲スレドモ、諸人服セズシテ却テ發言ノ人ヲ毀詈スルニ至ルユヱニ、心アル士ト雖遂ルコトアタハザル也、以來ハ財貨ノ出ル山々ニ、小堂小祠ハ勿論、石佛ノ類モ置ベカラザルモノナリ、今ニテモ大木ノ下ニハ、必ズ石佛ニテモ置テ其樹ノ主トシ、ツヒニ其樹ヲ伐ザルコト、スベテノ風俗トナル、禮記曰、虞人致百祀之木可以爲棺槨者斬之、不至者廢其祀刎其人ト、虞人ハ山林ノ役人ナリ、其人トハ巫也、天子崩ズルトキハ諸祠ノ山ノ木ハ常ニ斬コト少キユヱニ、ヨク肥大ニシテ棺槨ニナルベキ材ノアルヲ以テ、神山ノ木ヲ書出サシム、モシ惜テ書出サヾルモノアレバ、其神祠ヲ毀チステ、ソノ巫ヲ刎ト也、然レバコレヲ以テ考フベシ、王者ノ威猛カク有テコソ天下ヲ治ムベシ、コレ其威猛ノミナラズ、義理ニ明ラカニシテ鬼神ニナヅマザルヲ見ルベシ、松平伊豆侯京師ノ大佛ヲ鑄ツブシ錢トセントス、冶工コレヲ毀ツヲ憚カル、伊豆侯先ニタチテ眉間ヲ打碎ク、コレヨリミナ〱ツヾキテ毀チ收ムト云、カヽル人ナラデハ其功ヲナスベカラズ、今神佛ニ奪ハレタル山山、伊豆侯ノ如キ人アラバコレヲトリカヘスベシ

十六　今無賴ニシテ父母ノ手ニ餘ルモノヲ官ニ訴ヘ、久離シテ籍ヲノゾク、是ヲ勘當ト云、コレハ其モノ罪科ヲ犯シテ刑ニ行ハルヽニ、三族ニカヽラザル爲ノ備也、然ルニ官ヨリコレヲ免シ玉ヘバ、自ラ其惡長ジテ盜賊トナラザルハナシ、今無宿ニテ白晝ニ人ノ懷ヲ捜リ、或ハ暗夜ニ穿窬シ、又ハ通路

上ニ辻斬シ、モシ人ヲ殺サヾルモノハ、赦シテ腕ニ黥シテ是ヲ放チ、再犯スルニ至テ命ヲタツ、寛ナルコトニアラズヤ、然ドモ亦國家ノ仁政也、シカルニ久離追放ノコトハ、ミナコレ盜賊ヲウユルノゴトクニテ、マス〳〵無頼ノモノ多クナルベシ、此賊ヲ滅ズルニハ手ノ大指ヲ切ルカ額ニ黥スベシ、マタハ足ノ脛ヲ斷ベシ、盜賊ノルイハ懲スト云トモヤマズ、遂ニハ梟木ニカヽルヲ潔トス、然ドモ手ノ大指ヲタヽルヽ時ハ用ヲ辨ゼズ、足ヲ斷時ハ行歩叶ハズ、額ノ黥ハ人中ニ立ガタシ、カヽルコトヲ以テ困窮サセナバ、實ニ懲テヤムベキナリ、今ノ腕ノ黥ハ却テ常ニハミエズシテ、人家ニ入テ腕ヲマクリ人ヲ怖スノ種トナル、スベテ礫火刑ト云トモ一思ヒノ刑ハウケヤスク、長々苦シムコトハ堪ガタキモノナリ、故ニ死刑ニ及ザルノ罪人黥トスレバシカリ、又永牢或ハ島ニ置ベシ、其法履軒先生ノ恤刑茅議ニ委シ、コレラハミナ盜賊ヲ滅ズベキ要法ナリ

古ヘヨリ天下ノ亂ルヽハ、一揆ノ甚シキヨリシ、又ハ盜賊ノ黨ヨリオコル、然ルニ一揆ハ國主ノ苛政ニ始マリ、盜賊ハ刑ノユルキヨリ始ル、子産刑猛ニシテ鄭國治マリ、子皮刑寛ニシテ盜賊多シ、漢ノ赤眉黄巾晋唐末ノ亂盜賊ヨリオコル、一人天下ニ衡行スルヲ、武王此ヲハヂテ天下治マル、然ルトキハ無頼無病ノ徒ハ改メザルハ殺シ、改ムルハユルシ、分ラザルハ永牢ナルベシ、市中山中ニ横行スル者ハ、ツヒニハ天下邊隅ニ事アルトキハソノ虛ニノリテ縱横スル恐ルベキナリ、ユルガセニスベカラズ、苛政ニ苦ムノ一揆ハソノ苛政ヲユルメ一旦ハユルベシ、ソノ上ニキヽ入ズシテ猖藉ニ及

ブモノハ、無頼ノ子弟盜賊ノ加ハリタルモノナレバ、寛ニスグレバ付上テ富家ヲコボチ、財寶ヲ奪フニ至ル、嚴ニ武威ヲ以テ討平ゲ張本盜賊ヲ召トリ刑スベシ

十七　過料ノ法ハ聖人贖刑ノ遺ナリ、シカルニ國初ノトキハ金銀少ク財貨貴シ、故ニ三貫五貫ノ錢ヲ出サセ贖ヲ以テ大造ノコトトス、今ヤ治世久シクシテ、金銀多ク、一貫ノ錢ハ道路ニ捨ルニモ至ル、シカルニ古ヘヨリ贖法ノ數ハ、三貫五貫十貫ノ過料ヲ收メテ罪ヲ贖フヿカハルヿナシ、纔ノ過料ヲ出スト罪ヲ犯スモノ多シ、殊ニ貧福モアリテ千金ノ贖ヲ出ストモ、ナヤマザル富人アレバ其罰輕ニ似タリ、貧富トモニ罪ノ輕重ニヨリテ、同ジク過料ノ數ヲキハメタキモノ也、然ルトキハ貧人ハ罰輕シテ、貧人ハ罪重キニ似タリ、コレハ其分限ニ應ジテ、過料ヲ出サシムベキコトナラン、然ドモ過料ノ錢ト褒美ノ錢ハツリアヒタルモノニシテ、過料ノ數マセバ褒美ノ錢モマスベキ理ナリ、過料ニ貧富ヲハカレバ、褒美ニモ貧富ヲツケネバアタハズ、ソレニテハ煩シカランカ、ナホ〳〵考テ良法アレカシ

十八　刑ヲ寛クシテ犯スモノ多キモノアリ、刑嚴クテ却テ犯スモノ多キモアリ、一概ナルベカラズ、刑ユルクシテ犯スモノハ博奕ト盜賊賣女捨子ノルイナリ、コレラハ嚴ナルベシ、刑嚴ニシテ犯スモノハ不孝・不忠・謀反・放火ノ類也、コレラハ忽ニ刑セズシテナガク懲スベシ、一人僕アリテ金銀多ク引負タレバ、忽チ死刑トナル故ニ、其主人タル人死刑ニアハセテ、益ナキコト也、又ソノ親類ヨリ訴ルニヨリテ、官ニ獄ルコトナクシテ止コト多シ、爰ヲ以テ因循シテ、ツヒニ訴ヘズシテ止コトトナル、コレラ

ハ刑ユルク長クシテ、ダン〳〵ニ償ハスルニアラン、外ノ三罪モ其内ニハ品々アルベシ、捨子必シモ町人百姓ノ養子トナスベカラズ、穢多乞食ニヤルベシ、今ノ捨子ハ大抵穢多乞食ノ子多シ、百姓町人へ養ハストキハ出身トナル故ニ、多クハ捨ルナリ、定メテ自ラ捨タル子ノ行先ヲキヽテ其行末ヲ見屆クベシ、今捨子ハ二三錢ヲツケテ穢多ニ遣ハスベシ、然ル時ハ捨子ノ數減ズベシ

十九 農ヲスヽメ商ヲ退クベシ、市中豪富ノ者ハ諸侯ヘ舘入シ、或ハ公役ヲツトメ、中分ノ者トテモ平生美食ヲ喰ヒ、美服ヲキテ安逸ニ身ヲ過ス、百姓ハ日々ニ土ヲホリ糞ニ觸レ麁服粗食ニシテ、草鞋ヲハキテ市中ニ來タレバ、自然ト下ニ見ラルヽニヨリテ、ツヒニハ市人ニハイツクバフヤウニナルナリ、夫百姓ハ國ノ本也、生民ノ首タリ、百姓ナクバアルベカラズ、工商ハナクテモスムベシ、常ニ百姓ニ利ヲ付テ上席ニ置、工商ニハ損ヲツケテ下席ニ置ベシ、農ト商トノ爭論アラバ農ニハ二三分ノ勝ヲ付ベシ、工商ハ民ヲ奢ラサントス、必驕奢ノ物ハ禁ズベシ、町人ノ内ナリトモ正業ノ者ヲ上トシ、游民ハ下タルベシ、淫民ハ亦ソノ下タルベシ、農人ハ一人ニテモ增コトヲハカルベシ、商人ハ一人ニテモ減ント欲スベシ、マタ百姓ニ工商ヲ禁ズベシ、コレ國ヲ富スノ要法

二十 人別ハ皆親元ニオキテ主人ノ方ニ加フベカラズ、都テ人別ハ親子・夫婦・九族バカリニシテ、下人下女ハ在コトナク、皆ソレ〳〵ノ親方ニアルベシ、今ノ如クニテハ親元ニ籍除カズシテ、又主人方ニモ加ヘテ、一人二名多シ、又是ヨリシテ身輕クナリテ人ノ出處定マラズ、今年ハ此ニ在テ明年ハ彼ニアリ、

又下人下女ニ通リ名アリテ愈々紛シ、證據ナケレバ愈々姦惡不正ノ事ヲナス、故ニ人別ノ法ハ其生レタルヨリ正シク親元ニアリテ、タトヒ他所他國ヘ奉公ストモ、其主人ニ加ヘズシテ、出生ノ儘ニテ親元ニアルベシ、若其奉公先ニテ、家ヲ持タル時ハ、其根元ヨリ今ノ處ヘ告テ後籍ヲ除クベシ、素姓ヲ改ムルニハ如レ此ナラザレバ實ヲ得ベカラズ、取親或ハ親分ナド、混雜ス可ラズ、是徂徠氏ノ土着ノ法ナリ

廿一 金銀錢貨ノコト、上古漢土ニハ龜貝ヲ以テ幣トス、其內ニ貝ヲ貴ブ故ニ、寶貨・財賄・賣買・貪貧・債償・費價ソノ外、金銀ニカヽハルノ字皆貝ニ从フ、是レ古ヘ字ヲ製スルノ時分ハ貝ヲ寶貨トシタル故ナリ、禹貢ニ金銀鋼鐵ノルイヲ出セドモ、一ト通リノ寶ニテ通用トスルニアラズ、スベテ器用ニ備フルナルベシ、說文ニ曰、「古昔貨レ貝而寶レ龜、周而有レ泉、至レ秦廢レ貝、行レ錢、」史記平準書ニ云、「農工商交易之路通、而龜貝金錢刀布之幣興焉、」註曰、「錢本泉也、」貨ノ流ルヽコト泉ノ如シト云ニ始ル、布ハ流布也、天下ニ布ノ謂也、刀ハ形ヲ以テ云、其形刀ノ如キ也、古ヘ金ニ三等アリ、黃金ヲ上トシ、白金ヲ中トシ、赤金ヲ下トス、白金ハ銀也、赤金ハ銅也、秦半兩錢ヲ鑄ル、漢ニ至テ三銖五銖ノ錢ヲイル、ソレヨリサマ〴〵ノ沿革有ト云ドモ、皆今ノ小判一步丁銀豆板ノルイトカハルコトナシ、中世ノ金錢・銀錢・銅錢ト云モノモ銅十錢ヲ銀一錢トシ、銀十錢ヲ金一錢トスレバミナ同ジコトナリ、今法制異リトイヘドモ、上中下ノ三品ハカハルコトナシ、我國上世ノコトハクハシクシラザレドモ、太古ハ金銀ナクシテ米布ノルイヲ以テ諸色ヲ交易シタリトミユ、天武三年對馬ノ國ヨリ銀ヲ貢ス、

此以前ヨリ已ニ銅錢アリ、顯宗天皇ノ二年ニ五穀豐稔、百姓殷富、稻斛錢一文トアレバ、コノトキスデニ錢アルナリ 持統八年鑄錢司ヲ命ゼラル、元明ノ時武藏ヨリ熟銅ヲ献ズ、元ヲ改テ和銅トス、天平二十一年奥州ヨリ金ヲ貢ス、コレヨリ金ヲ用ルコト始ル、ソレヨリ金銀銅ノ三品ヲ用ユト雖、用ヒ方ハ今ノ金銀ノゴトシ、今ノ錢トハ違ヘリ、大抵ハ金小判ト一歩ト二朱ノ如シ、銀ノ如クニ輕重ヲハカラズ、又錢ノ如クニ賤シカラズ、今ハ金銀ハ大概ニ上下ノ品アリテ、錢ノ位大キニ劣レリ、加ルニ鐚錢ヲ以テス、故ニイヨ〳〵位卑シクナリテ、金銀ニ並ブコトナシ、醍醐・朱雀ノ時鑄錢行ハレテ金銀錢ヲ鑄ラレザルコト五六百年、故ニ金ヲ切ヅカヒニシ、漢土ニ錢ヲ求メシナリ、其後オヒ〳〵ニ大判小判一歩二銖丁銀等出來ルト雖、戰國ノ間ハ國々ニテ私ニ鑄テ通用シタルコト多シ、遂ニ豐臣氏ニ至リテ其法定マル、慶長中佐渡・但馬・石見等ノ國々ヨリ金銀ヲ出シテ、大キニ榮タル故ニ大ニ行ハレテ、大判小判一歩二銖丁銀豆板小粒ノ吹立アリテ天下ニ通用ス、是恐多クモ東照神君ノ天運ニ叶ハセラレシ御德ノイチジルシキ所ナルベシ、ソレヨリ通用金銀多クナリ、上下ノ寶貨滿足ス、コレヲ慶長ノ古金銀ト云、此金銀吹立ラレシヨリノチ今ニ至リテ吹カヘナクバ、萬代不易ノ定法トナリテ、萬民靜謐ナルベキニ、元祿八年金銀吹替ノ命下ル、此時奢侈甚ダシク國用辨ゼズ、故ニ改鑄アリテ、是ヲ補ハセラル、加フルニ執事家及諸吏ノ私モアルニヤ、ソレヨリオコリテ、萬民ノ騷擾トナル、ソレヨリ寶永ニ至テ、永ノ字銀・二ツ寶・三ツ寶・四ツ寶銀等ツヾキ出テ、ダン〳〵ソノ位劣リテ天下ノ萬民ノクルシミ云ベカラズ、コレ本ハ銀ヲ少クシ銅ヲ多ク加ヘテ古銀ト同クナラベ

用ヒテ、其數ヲ増益シ、國用ヲ足スノ謀計也ト雖、民心服セザレバ、ツヒニ其位ニヨリテ引替ノ法定リ、又中古以來金銀ノ通用サカンニナリテ、金銀アレバ家富サカエ、愚モ智トナリ不肖モ賢トナリ、惡人モ善人トナル、金銀ナケレバ、家貧フシテ智モ愚トナリ、賢モ不肖トナリ、善人モ惡人トナル、ツヒニ是ニヨリテ絶タルヲツギ、廢レタルヲ興シ、生死盛衰皆金銀ノ有無ニ預リヌレバ、上公侯ヨリ士農工商ニ至ルマデ、皆是ヲ以テ身命ヲ保ツ第一ノ寶トナル、金銀ヲ動カシ玉ヘバ、天下ノ民心擾亂シテ俄ニ軍旅ノオコル如ク、水火天災ノ出來タル如ク、南北ニハセ東西ニ迷ヒ、萬民安キ心アルベカラズ、シカレバ如レ此ニ天下ヲ騷ガセ玉ヒテ、上ニ利ヲ得サセラルトイヘドモ、終ニハ後々ハ引替ノ法定マレバ、其益モナクナリタリ、然レドモ當時ノ金銀通用アシク、サハリアリテ用ヒガタキトキハ、止コトヲ得ズ吹替アルベキカ、ツラ〱考ルニ、慶長ノ吹替ハ國初ノ改革ニシテ、金銀ノ法ソレマデハ一定セザリシヲ立サセラレシ天下萬民ノ良法ナレバ、此上ノ美事アルベカラズ、然バ則チ萬代此法ヲ用ヒラルベキニ、元祿・寶永ノ間ハ上奢ラセラレ、權家ノ加增、寺社ノ造營ニテ、御藏ノ不足トナリタルユヱニ、此急ヲ救ハンガ爲、惡金銀ヲ吹立テ良金銀ト引カヘ、且ツ其ツイデニ私ヲ營マントス、故ニ金銀ノ位ダン〱オトシテ、寶貨ヲマシテ不足ヲ補ヒ、其間ニ權家及其コトニカヽハル金銀諸座諸職人商賈ノ利ヲ射ルモノナリ、然ルニ天下ノ人情ハ活物ナリ、其位劣リテ其價同ジカルベカラズ、故ニ慶長ノ古銀百目ヲ以テ、永銀銀目ニ替ヘズ、況ヤ三ツ寶四ツ寶ヲヤ、諸物ノ價モ亦シカリ、古銀ニテ二十目ス

レバ、永ニテ三十目、二ッ寳ニテ四十目、三ッ寳ニテ五十目、四ッ寳ニテ八十目トナレバ、ツヒニハ其利何方ニカアル、物ノ價ハカヽル拍子ニ、其割合甚シクナルハ亦勢也、タトヘバ價百目ノモノ、文銀ニテ百六十目トナルハアタリマヘナルニ、其拍子ニ二百目トナル、スベテ此類也、如此ニテ、已ニ享保元文ノトキニハ、引替ノ法ヲ以テソレ〳〵ノ位ヲ立テ引替サセラルレバ、上ニオイテ益ナシト云トモ、其初ハ同ジ掛目ヲ以テ、好銀ヲトリ上テ惡銀ヲ渡セバ、大利ヲ得ルコト目前ニアリ、コレハ初ハ天下ノ目ヲクラマシタルモノ也、然ルニ漢土ニハ蜀ノ國ニ民間ニ手形ヲ用ヒ、交易スルコト始ル、コレハ今京大坂ニテ用フル振手形ノ如キモノナリ、後ニコレヲ交子ト云、ツヒニ公ニナリテ其支配所ヲ交子務ト云、宋ニ錢引ト云役所ヲ錢引務ト云、ソレヨリ會子・關子・關會等ノ名起リ、金ノ世ニ交鈔ト云、元明ニ寳鈔ト云、朝鮮ニハ楮貨ト云、皆金札銀札ナリ、當世國々ニハ、願ニヨリテコレヲ免許セラルト雖、公儀ニオイテ有コトナシ、元祿・寳永・正德ノ間、ダン〳〵其位下リタルハ、公ニオイテハスデニ金銀札ニテモ行ハルナリ、況ヤ正金銀ナレバ、少シ位劣リタリトモ紙札ヨリハ勝レリトノ御心アリテ行ハセラルヽナレドモ、紙上ナレバ却テ行ハルベシ、ナマジヒニ金銀故ニ行ハレズ、ツヒニハ物價貴クナリテ金銀ノ位ニテ平均スレバ、其初テ出サセラルヽトキハ、目前ニ利アリト云ドモ、ツヒニハ融通シテ、物價引上レバ引替ノ時ノ民ノ損トナルノミ、故ニ又モヤ吹替アランカト、民ノ心ヲ安ンズル間ナクテ、只金銀ヲ所持セズ、諸品ヲ買テ持タントス、故ニ米穀ナシト、其外諸品ノ價引上リ、金

銀ハマス／＼下ルハ自然ノ勢ナリ、シカレバ金銀ノ吹替ホド世ノ騒動ハアルマジ、然ルニ正徳ノ頃、禁裏始トシテ諸所造營夥シクアリトイヘドモ、倉廩空虚ニシテ辨ズベカラズ、此時萩原氏ナル勘定奉行アリテ、四ツ寶ヲ吹出ス、折タク柴ノ記ハ萩原ノ私ノヤウニミユレドモ、左ニアラズ、間部氏、新井氏ナドモ同穴ナルベシ、ミナコレ執家ノ意ハ紙鈔ヨリマサルトノ心ユヱニ、只モノ惡銀ヲ吹出テ、好銀ニ換ントシ玉フ、紙札ハ直ニ好金銀ニ引カユベシ、惡銀ハ好銀ニ換ベカラズ、コヽニ百金ヲカシテ、劵ヲ取ト云トモ、三貫目ノ銀ハトルベカラズ、イカントナレバ、劵ハモトノ百金ニカユベシ、三貫目ノ銀ハ百金ニカユベカラズ、是ヲ以テ見ルベシ、故ニ萬民騒動スルナリ、此時ニアタリテ、大賈ノ者ニ利ヲ失フモノ多ク、又ハヤク聞ツケ此機ニ乘ジ、姦利ヲ得ル者モアリシトキク、然ドモ此吹替故ニ、公ニ大利アレバ萬民ハ一面ノ損云ハデモシルベシ、マタ姦計ヲ以テ利ヲ得タルモノハ百人ニ一人ナルベシ、コノトキ金銀座ノ大利云ベカヲズ、故ニ銀座ノ者ドモ奢侈ヲ恣ニストナン、初神君ノ御定アリシ慶長ノ金銀ハ、萬代不易ノ思召ニ有シコトナレバ、萬古其儘ニアルベキヲ、元祿寶永ニコレヲ破テ吹替有シヨリ、四五十年ノ間タビ／＼ノ吹替ニテ、萬民塗炭ニ苦ミシコトナリ、抑元祿八年ニ初テ吹カヘ有シヨリ、十二年ヲ經テ寶永三年ニ至リ、二ツ寶銀出ル、同七年ニ永ノ字ノ銀出ル、又三ツ寶銀出ル、又乾ノ字金出ル、正徳元年ニ四ツ寶銀出ル、コレ其位至リテアシク、銀ノ下品コヽニ極ル、コレニヨリ天下ノ困窮甚シク、米價及諸物ノ價跳躍シテ貴クナル、タトヘバ米一石ノ價五十目ナリシニ、其

銀ヲ新銀五十目ニ引替ラレテ、新銀ヲ以テ米ヲ買トキハ五斗トナル、悲ムベキニアラズヤ、銀直ニテ極リタルモノハ百目ノ定目ユヱ、百目渡サントスレバ取方聞入レズ、强キモノハ利ヲ得、弱キモノハ利ヲ失フ、公ヨリモコノコトヲ制シカネラル、故ニ諸物ノ價躍貴セザルコトヲ得ザルナリ、是ニヨリテ、正德二年ツヒニ吹止ラル、尙其困窮甚シキニヨリテ、正德四年ニ至リテ、慶長ノ古金銀ニ復シ玉フ、享保ニ至テ彌堅ク此法ヲ用ヒラレタリ、是恐ナガラ明君上ニ出サセ玉ヒ、萬民ノ歎キヲ御明察アリテ、斯ノ如ク急ヲ周ヒ玉フモノナリ、シカルニスベテ物ヲ變化スルコト一度變ズルトキハ古ヘニカヘラズ、物價躍貴シタルトキニ銀ノ位古ヘノ四增倍ニ戾ルトモ、物ノ價ハ元祿以前ノ古ニカヘラズ、人心自然ト金銀ヲ賤シミ、澤山ニ思フテ百目ノモノ二十五目トナラズシテ、凡五十目トス、奴僕ノ給ハ八十目ヲ二十目ニモナラズ、三四五十目トナレバ元祿以前ニモドラズシテ、又時ニ合ザルヤウニナリタリ、故ニ民心恟々トシテ治マラズ、是ニヨリテ執事諸有司吹替ノ評論アリト云ドモ、又モヤ民心ヲサワガスコトヲ恐玉ヒテ免許ナシ、再三ノ議ニ及ビテ天下ニ正サセ玉ヒテ、彌以テ吹替ノ法宜キニ極ツテ、後慶長・寶永ノ中ヲトラセラレテ、元文元年ヨリ今ノ新文字ノ金銀出ル、惜カナ此紛紜ノ評論民ノ困弊ノコト、當時ニオイテ左モアルベキナレドモ、今十年モコラヘサセ玉ハヾ、其儘ノ古金銀ニナレテ濟ベシ、スベテ新法ハヨキコトニテモ弊ガアルモノ也、又ナレタルトキハ左モナキモノナレバ惜ムベキカナ、同ジクハ慶長ノ古金銀ニテ押通サレタラバ、萬古不易ノ良制ト雖、今ニテハ詮方ナカ

ルベシ、然ドモ此中法ニテ民心ヲサマリタル也、然ルニ金銀ノコトハ元祿・寶永・正德ノ吹替ナクシテ慶長ノ古金銀ニテアリシナラバ、今日ニ至リテ其マヽナルベキニ、中世ノ萬民ノ苦シミヲ救ハンガタメニ、享保・元文ノ吹替モアリシモノナレバ、ミナコレ元祿・寶永・正德ノ罪ヲ享保・元文年ニアガナハセ玉フモノナリ、元來元祿ハ吹替也、寶永・正德ハ增吹ナリ、享保・元文ハ吹替也、混同スベカラズ、元ヨリ金銀錢吹替ノコトハ、荒政ノ一ニシテ善法トスベカラズ、上ノ國用不足ニ付込テ、金銀座ノ者ドモ虛ニ乘ジテ進ムルニ迷ハサレ、此擧ヲ興シ萬民ヲ苦シメラルヽハ、執政有司ノ罪也、スベテ金銀ノ位動クタビニ諸物ノ價高クナリテ、元ヘ復セザルコトハ勢ノ自然ナリ、寛政五七年ヨリ十年ノコロマデ、吹替ノ沙汰マチ〱ニテアラヌコトマデ云出シ、金銀ニテ所持スルトキハ引替ノトキニ至リテ難レ有ベキカト危ブムモノアリ、又ハコノ虛ニノリテ利ヲ得ントシテ藥種米穀ノ類ヲ買貯ユル者モアリ、故ニ諸物ノ價法外ニ引上テイヨ〱其說ヒロマリ、天下騷々タリシ、コレハ金銀座ノモノドモ、元祿ヨリ元文ニ至リテ、度々ノ吹替吹增ニ大利ヲ得テ、驕奢至ラザル所ナカリシニ、元文ノ後久シキ故ニ、ダンダンニオトロヘ、今ハ甚シキ貧窮ニテ其オヒモノ幾數ヲシラズ、故ニ元祿ヨリ元文マデノ數回ノ吹替吹增ヲ云立テ、金銀ハ三五十年ニハ是非ニ吹替アルベキ古例ナリト云テ、權家ヘ訴ヘ申シスヽムルコトニテ、又借金ノ方ヘハコレヲ云立テ、責ヲ塞ガントス、故ニ世ニ此沙汰マチ〱ニナリテ、コレガ爲メニ醉サレテ人心ヲ危ブメ、又ハ大損ヲセシモノ多シ、惜ムベキ哉、金銀座ト云ウチニモ、金座ハ數度ニ

アラズ、二ツ寶・三ツ寶・四ツ寶等ハ皆銀座ノ惡事ナルヨシキコユ、シカレドモ其後ハ此沙汰止リタル故ニ、諸品ノ價平和ニナリタリ、コレヲ以テミレバ、元祿・寶永・正德ノ擧ハ上ニ利ヲ見テ興シ玉フコトニテ、享保・元文ノ擧ハコノ數回ノ過ヲ償セ玉フコトニテ、上ニオイテ利ナカルベシ、イカニトナレバ初ハダン〳〵ニ位ヲ貶シテ、位ノ好ト引カヘラレタリ、享保ニハ位上リ元文ニハ位下ルト云トモ、皆引替ノ法アレバ損益ナクシテ、金銀座ノ雜用引替ノ賃費ノミ、其コト次ニシルス

享保三年戌閏十月ノ令

新銀一貫目 乃慶長ノ古銀ナリ

元祿銀　一貫二百五十目
永中銀　二貫目
二寶銀　一貫六百目
三寶銀　二貫五百目
四寶銀　四貫目

已上

新金百兩ニ　乾ノ字金二百兩 乃元祿ノ金ナリ

元文元年辰五月令

新銀

灰吹銀一貫目　新文字銀一貫四百目

元祿銀一貫目　同八百九十六文目
二寶銀一貫目　同七百目
永中銀一貫目　同五百六十目
三寶銀一貫目　同四百四十八文目
四寶銀一貫目　同二百八十目
南鐐銀一貫目　同一貫五百五十目
已上此外ニ引替ノ歩アリ
古金百兩ニ　文字金百四十兩
已上
如レ此上下利ヲ同シテ、引替ノ法ヲ立サセラレタリ、今ニテモ古金銀ヲ以テ文字金銀ニ引替レバ一割六分ナリ、コレヲ以テ前ニ利ヲ見テ吹替ラレ、後ハ義ヲ見テ吹替アリシヲシルベシ、金銀座ノ者困窮シテ難儀ナラバ、別ニ御救アルベシ、ナンゾコレガ爲ニ天下ノ難ヲ引出サレンヤ、當世廟堂ニ人アリ、故ニ銀座ノ者ドモ僞飾ヲ受ラレザル也、コノ後吹替ノコトヲ云者ハ天下ノ罪人ニ非ズヤ、ツヽシムベキコトナリ、金銀ノコトハ天下萬民ノ身命ニカヽハルコトナレバ、豈容易ノコトナランヤ、金銀位ノ勝劣如レ左

一　慶長古金一兩目四匁七分六厘内四匁一分八厘ハ上金五分七厘一二上銀　此金十匁ノ内八匁八分金一匁二分銀

一　同　古銀　百目ノ内八十目南鐐二十目銅

一　元祿金一兩目四匁七分六厘内二匁七分五厘二二八金二匁〇四毛銀　此金十匁ノ内五匁七分九厘金四匁二分一厘銀

一　同　銀コレチ元ノ字金銀ト云元ノ字ノ極ノ印二ツ打　百　目五十七匁南鐐四十三匁銅

一　寶永三年銀コレチ二ツ寶ト云永字同位寶ノ字極印二ツ打　百目ノ内四十目南鐐六十目銅

一　同七年銀コレチ三ツ寶ト云寶字極印三ツ打　百目ノ内三十二匁南鐐六十八匁銅

一　同年金一兩目二匁五分内コレチ乾ノ字金ト云

一　正德元年銀コレチ四ツ寶銀ト云寶ノ字極印四ツ打　百目ノ内二十目南鐐八十目銅

一　享保三年金一兩ノ目慶長ノ例也

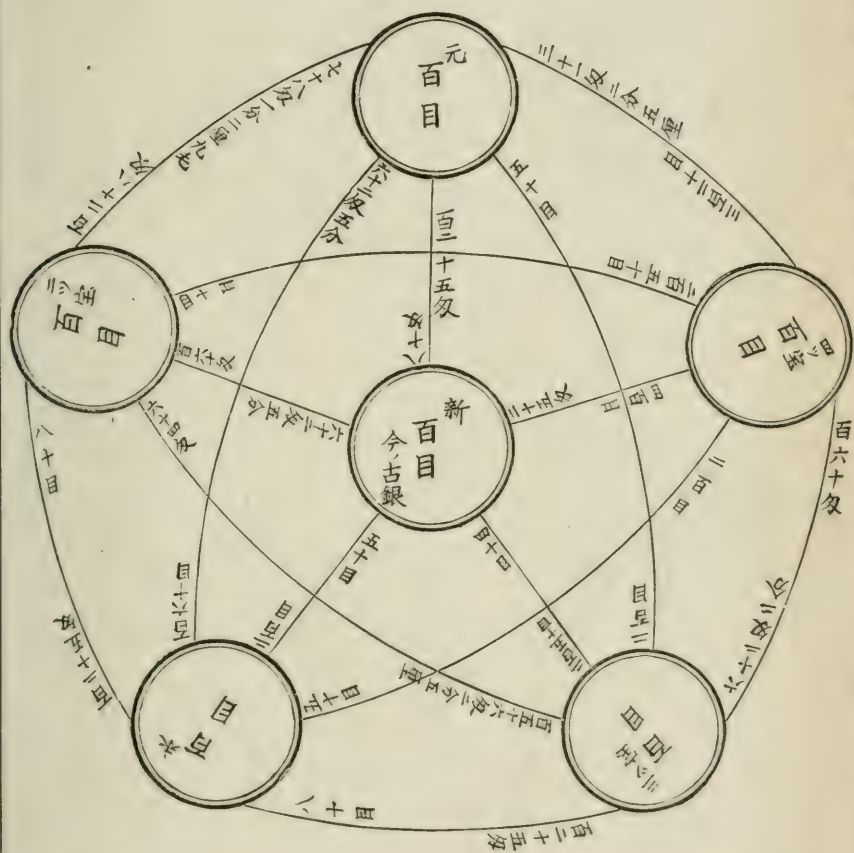
一　同　銀　右ニ同ジ

一　元文元年新金一兩ノ目三匁五分内

一　同新銀コレチ新文ノ字銀ト云、文ノ字極印打

已上

此時ハ此六品ノ銀通用有テ其混雜云ベカラズ、萬民塗炭ニ苦シム、姦商ノミ利ヲ得タリ、海邊山中遠島ニテハ此位ヲシラズ損失スルコト多シ、コレ皆神祖ノ御法ニ悖テ私ヲハカリテセシヨリ出ル處ナリ

六品銀交易一覽

京師ヨリ東國ハ、金ヲ主トシテ用ヒ、銀アルヲシル人マレナリ、江戸ヨリ奥ヘ尚サラニ然リ、西國ハ銀ヲ主トシテ金ヲマジヘ用ユ、コレソノ上風ノシカラシムル處ナリ、又上古ヨリ馴タルユヘナリ、シカルニ銀ヲ用ユルモノハ五厘一分ヲ爭ヒ、ソノ心小ニシテ生産ニ精密ナリ、ユヘニ民家ミナ長久ニシテ貧家少ナシ、金ヲ用ユルモノハ爭ノ處ニ朱一歩ニアリ、ソノ心大粗生産ニ麁略ナリ、故ニ民家ミナ悖戾ニシテ貧富甚シ、此レ金銀ノ粗密ニヨル、ツヽシミテコレニ遣ハルコトナカレ

此頃右六品交易ニアタリテ、ミナ萬民苦シミシ故ニ、此板行ヲコシラヘテ賣弘メシナリ、是ヲ以テミルベシ其紛ラハシキ云ニタヘズ、算勘ノ達人ニテモ又解シ得ベカラズ、況ヤ傭人農家ヲヤ況ヤ婦女子ヲヤ、民苦シミテ利ヲ失フ者多シ、ツヒニハ文ノ字銀出テ六品ノ銀ハ天下ノ通用禁ゼラレ、ソレヽヽノ位ヲ以テ買上ラレシ故ニ、天下一ニ歸スルモノナリ

享保三戌十一月朔日

廿二 錢ノ事ハ前ニ云如ク、金錢・銀錢・銅錢等差別アリテ、總名ヲ錢ト云、本ハ泉ニシテ泉ノワキ出テ天下ニ流ルヽニトルナリ、金銀トモニ丸キヲ錢ト云テ、後ハ金銀ハ偏ニ金ト云、銀ト云テ錢ハ別ニナリタリ、元明ノ時、和銅開珍ヲ鑄ソメラレシヨリ、年號ヲ用ユルモノハ、天平・承和・貞觀・寛平・延喜也、吉字ヲ用ユルモノハ、萬年・開基・神功・富壽・隆平・饒益・乾元等也、拾芥抄云、銀錢ノ文ニ、大平元寶ハ一錢ニテ銅錢十ニアタル、金錢文ニ開基勝寶ハ一ニテ銀錢十ニアタルト、是ヲ以テミレバ金錢銀錢ハ今ノ小判丁銀ノ如クニ用ヒラレタルナリ、銅錢ノ位此時ヨリ大ニ劣リ、今銀ハ掛目ニテ通用ス、金一兩ノ掛目三文目五分ヲ以テ銀六十目トス、故ニ一錢ノ目ヲ一錢目ト云、又一文目ト云、是十七增ニ當テ古ノ十增ニ勝レリ、錢ノ目ヲ以テ古ハ諸物ヲ衡スト云、當世ハ鐚錢多シテ錢ノ位劣レリト云ドモ、大抵文錢等ノ價金一兩ニ四貫文銀十五匁ニ一貫文ヲ以テ見レバ、銅錢ヨリ銀ハ六七十增ナリ、金ハ千增ナリ、錢位劣リタルニアラズヤ、醍醐・朱雀ノ頃ヨリ鑄錢ノ行レザルコト五六百年、其間ニ漢

錢多ク用ヒタルナリ、漢ニハ唐宋元明ノ間、代々鑄ラレタルニヨリ、周ク行ワタリテ日本ヘモ多ク來ルコト故、足利ノトキニ明ヘ錢ヲ求メラレシコトアリ、其內永樂錢尤多シ、明已來天子一代一年號故ニ、錢ヲ鑄テ其年號ヲ用ユルヲ聲譽トス、嘉慶ノ改元六年ナルニ、早ク錢ノワタリタルヲ以テミルベシ、應永十年明船鎌倉ニ漂着ス、永樂錢多ク積タル故ニ、領主北條氏其船ヲ破リ其錢ヲ得テ關八州ニ通用シ、他錢ヲ禁止ス、他錢ヲ鐚ト云、是ハ何レノ錢ヲ云ヤ、今ノ「ヅク」錢ヨリハマサルベシ、京師ニハ永樂錢少シキ故ニ、永錢一文ニ鐚錢四文ヲ換フ、然レバ鐚ノアシキヲシルベシ、今ヲ以テ考フレバ、小判一兩ニ鐚錢四貫文ナラバ永錢一貫文也、故ニ假ニ金算ヲスルニハ一ヲ百文トシ、五ヲ五百文トシ、十ヲ一貫文トス、卽小判一兩ナリ、慶長・元和ノ間ニ、オヒ〳〵鑄錢アリ、慶長・元和ノ文ヲ用ラル、寬永ニ至リテ大ニ鑄出セラレ、ツヒニ京師大佛ヲツブシテ鑄ラレタルハ一盛事ト云ベシ、周ノ世宗銅佛ヲ以テ錢ヲ鑄ルト同日ノ論也、ソレヨリ後改元ハタビ〳〵アレドモ、錢文ハカハラズ、寬永ヲ用ヒラルヽコトコヽニ二百年、イカナルコトカシラズ、故ニ裏面三字ヲ置テコレヲ分ツナリ、年號ニテハ文元ノ類地名ニテハ水(水戶)佐(サド)仙(仙臺)其餘、永・小・十・足・長・千・久ナドノ文一字ヅヽアリ、寶永ノ時大錢出ヅ、十錢ニ換フ、然處ニツヒニ止ム、此文ハ寶永通寳トアリ、其後ヅク錢ダン〳〵出、寬文ノトキノ錢ハ裏ニ文ノ字アリ、世ニ文錢ト云、伊豆侯大佛ヲ毀チテ鑄ラレシ錢文錢ノ如クニシテ、文ノ字ナシ、此二錢ハ至ツテ位ヨロシ、今ノ「ヅク」錢ヲ競フレバ一錢ヲ以二三錢トストモ論ナカルベシ、眞鍮錢ハ四錢ニ換

フ、寛永通寶ニシテ、裏ニ靑海波ヲ畫ク、是ハ新法ノ錢ナルニ、其時明和ヲ用ヒズシテ、寛永トシ玉フハイカナル謂カアラン、今ニテハ錢文ハ寛永ノモノニ極リタル也、又同時ヨリ仙臺侯ノ願ニヨリテ鑄錢ヲ免サル、撫角ニシテ仙臺通寶トス、表文ニ地名ヲシルスコト、コレヲ始トス、此錢國中バカリニ通用シテ他國ニ許サレズ、又前年ヨリ象錢アリ、又馬アリ、コマ引ト云、大黑ヲ勒ス、念佛題目等アリ、今ノ「ヅク」錢ハ、カケ目アルコトナシ、元來一錢ノ目ヲ以テ一錢目ト云、又一文目ト云、後ニ一匁トス、匁ハ俗字也、（匁ハ俗字ニ非ズ此字字彙ニ見ユ）今ノ一錢位アシキ上ニ、目方一匁ナキハイヨ／＼利ニ走ル也、都テ金銀寶鑄錢トモニ、定法ノ命ヲ受テ吹出スト云ドモ、此處ニナリテハ目ヲ減ジ、又位ヲ劣ラセテ利ヲトル也、故ニコヽニ至ル、アヽ錢ハ庶民ノ寶也、又一代ノ規模ナリ、願ハクハ「ヅク」錢ヲヤメテ好キ錢ヲ吹出シタキモノナリ

上古ノ金錢銀錢ハ今ノ金銀也、銅錢ハ今ノ錢ナリ、然ドモ上古ノ銅錢ヨリ位劣レリ、金銀モ銅ヲマジヘラレ、錢ニハ陶器銅粕ヲ加ヘラルレバ、古今大異、金一兩ヲ歩金四ツトス、故ニ算術ニ二五ヲ金一歩トシ、五ヲ二歩トシ、七五ヲ三歩トス、其外ノ奇數ヲ用ユルニ困シミ、錢ニ引直スコト也、然ルニ假算ニ永ヲ用ヒテコレヲ喚ビ、金何十何兩永何百何十文ト云、コレ金ノ分計ナリ、一兩一貫錢ニアタル故也

廿三 官位ノ事ハ我々シキノ云ベキコトニアラズ、又太宰氏云盡サレタレバ何ヲカ云ン、唯武家ノ法

ニ無位ヨリ布衣・大夫・四品・侍從・少將・中將・宰相ト昇ルノミニテ、其小割ナキコソ本意ナシ、又其中ニ從五位下ト云モノアリ、若年寄ノ位ナリ、朝散大夫ハ從五位下ナリ、シカルニ大夫ノ人若年寄ノ位トナリテ、從五位下トナレバ規模ナルコトシルベシ、然レドモ從五位下ハ五位ノ末也、從五位上カ、正五位下ナラバ然ルベシ、元來位階ハ九位ヨリ一位ニ至リ、正從上下ノ四段ヅヽアリテ、スベテ三十六等也

此ニ三十六等ト云ハ誤ナリ、九位ヨリ四位ニ至マデ、正從上下四等ヅヽニテ廿四等ナリ、三位ヨリ一位マデ正從二等ニテナシ、スベテ六等ナリ、九位ヨリ一位マデ凡三十等ナリ

然ルニ今七八九位ナクシテ六位ヲ初トス、コレヲ布衣ト云、コレヨリ從五位下アリテ從上正上下ナシ、朝散大夫ヨリ直ニ四品アリ、品ハ位ノ異名ニシテ本位ニアラズ、其上ニ從四位下アレバ四品五位ノ間ニアルベシ、四品ヨリ侍從ニ昇レバ從四位下トナル、少將モ從四位下トナリ、中將ナラデハ上ニ至ラズ、此處ノ階級少キ故ニ、諸侯ヨリ旗本諸有司ニ至ルマデ、受領ノ人々ハ皆從五位下ニテシ同位階ナリ、コノ處ニ今二三段正五位上下、從五位上ノ位ヲ用ヒ玉ハヾ然ルベシ、又孟子曰、大國ノ卿ハ天子ニ命ゼラル、ソレヨリダン〳〵ノ階アレバ、今御三家加州ノ大夫ハ受領アリテ、五位ナレバ、其次ニ大國ノ大夫ハ布衣タルベキコトナラン、今大國ヨリ交代寄合ニ至ルマデ、大夫家老ト唱ヘテ階級ナケレバ、ミナ同位也、又諸侯ハ國ナリ、大夫ハ家ナリ、諸侯ノ大夫ハ國老トイハヾ可ナリ、家老ト云べ

カラズ、大夫ノ家ヲ家老トスベシ、ヨキカナ仙臺家ニハ大夫ヲ奉行ト稱シテ、大夫ノ家ニ家老用人アリ、コレラノ處混雜ス、新井氏サマ〳〵ノ論アリト云ドモ、コヽニ至ラズ、惜ムベシ、太宰氏ノ論册ニ溢ルト雖、例ノ圭角其醜ヲアラハス、元來我國ノ官名ニ唐名ヲ用ユルコトハアルマジキコト也、彼土スデニ代々ノ官名違テダン〳〵ニ改革アレバ、漢土スラ用ヒザルヲ我國ニ用ルコトアルベカラズ、然ドモ本官ニハ用ヒラル丶コトナシ、唯宰相ノミ、中將ノ上ニアリテ本官ニ用ヒラル何ノ謂ヲシラズ、其餘御史大夫黃門等アレドモ本官ニアラズ

旗本ト諸侯ト同位ナルモ、イカヾナルニ、諸社ノ巫職・樂師・醫師・陰陽師・商賈・職人ニ至ルマデ、受領スルニ至レバ、ミナ從五位下ナリ、又法印ハ四位ニ準ジ、法橋法眼ハ五位ニ準ズレバ、諸侯ノ臣ニ此任アルベカラズ、家中ハサラナリ、其國中百姓ニモ任ゼラル丶是ハ何ノ謂ヲシラズ、四品已下ノ諸侯ハスベテ朝散大夫ナリ、然ルニ左右京ノ大夫・大膳・修理等ノ大夫ノ敍爵ヲユルサズ、反テ四品四位ノ人ハ其國ノ受領ヲステヽ、右等ノ大夫ニ任ゼラル丶ヲ以テ先途トセラル丶ハ、イカナルコトナラン、位階ヨリ以下ノ官名ヲ以テ、規模トシテ官位相當ノ爵ニ敍スルコトアタハザルハ、何ノ謂ヲシラズ、然ルニ又其家例ナレバ、四品以下ニシテモ大夫ニ任ゼラル丶、コレモ亦ヲカシキモノナリ右近將監ト稱シテ官ハ少將ノ人アリ、同ジ近衞ノ府ニテ、本官少將ナル人ニ對シテハ將監ト云、イカナレバ文盲ナルヤ

廿四　律度量衡ヲ均シフスルハ王制ノ一也、然ルニ大抵ハ其制法度ニ合トイヘドモ、唯斤量ノミ一統

セズ、百六十目ヲ唐目一斤トシ、又ハ二百目・二百三十目・二百五十目・三百目ヲ用ヒテ紛ラハシキコト云ベカラズ、一ヲ以テ云トキハ、長崎ニテハミナ唐目也、百六十目ヲ用ユ、故ニ砂糖一斤ハ百六十目ナリ、大阪ニテハ二百五十目ヲ用ヒ、東國ニテハ又百六十目ヲ用ユ、紛々タルコトニアラズヤ、諸物ノ斤目ミナシカリ、是ミテ奸商ノナス所ニシテ其ノ間ニシナ〱アルコトナリ、公ヨリ制シテ均シフセラレバ然ルベシ、其餘此類多カルベシ（藥種ノ内ニテモ川芎ハ二百五十目ヲ用ヒ、當歸ハ百八十目ヲ用ユ、コレヲ以テ諸量ノ均シカラザルヲシルベシ）

夢之代卷之五終

夢之代卷之六

經濟第六

一　大學ニ曰、「生レ之者多、食レ之者寡、爲レ之者疾、用レ之者舒、則財恒足矣、」孟子曰、「聖人治ニ天下一使レ有ニ菽粟如ニ水火一、菽粟如ニ水火一、而民焉有ニ不仁者一乎」古ヘハ民風質朴ニシテ、飲食ウスク宮室卑ク、衣服アシクシテ力ヲ溝洫ニツクス、菽粟スデニ水火ノ如クニ充滿シテ、水火ヲモテアツカフ如クニシ、耕シテ食ヒ掘リテ飲ミ、織リテ衣伐リテ造ル、五母鷄、二母彘、五畝樹レ桑、老者養フベシ、幼者長ズベシ、敎ルニ質朴禮讓ヲ以テシ、孝弟忠信ヲ修ムレバ、民ニ爭訟ナク、金銀錢帛ノ通用ナク、驕奢淫逸ノ風俗ナクシテ、垂拱シテ天下治ル、履軒先生曰、十萬石ノ國ニハ農三萬家アルベシ、ソノ人數ハ十萬人アルベシ、國君ヨリ大夫士ソノ餘工商ニ至ルマデ、浮食スル人二萬人アルベシ、十萬人ノ民五萬ハ耕スベシ、五萬ハ織ルベシ、十萬人ノ稅ヲ以テ二萬人ヲヤシナフ、衣食トモシキコトナカルベシ、コレヲ用ヒテ少ケレバ增シ、多ケレバ減ズ、コレヲヨキホドニスルヲ政事トシ、經濟ト云、故ニ生ズルモノハ多キヤウニシ、食フモノヲ減ジ、爲ルモノヲ增シ、用ユルモノヲ少クス、コレヲ最一トスレバ、國用辨ジ萬民安シ、シカルニ人ト器トハ年々ニ增益スルモノナレバ、時々省察斟酌シテ變

革減節ノ政アルヲ要トス、コレヲシラズシテ一定ノ法ヲ以テセントスレバ、竟ニ破ルヽニ至ル、ツヽシムベシ、國家奢侈ノ風行ハルレバ、後宮ノ侍妾ヨリ始リ、諸吏工商ノ浮食ダン／＼ニ多クナリ、農民ヤウヤクニ減ジ、税ヲ厚クセザレバ稱フベカラズ、イヨ／＼長ズレバイヨ／＼賦税益厚シテ、萬民饑寒トナルナリ、是皆一國ギリヲ以テ算ヲ起ス、後世ノゴトク布帛米穀ヲ他國ト交易スルコトナカリシナリ、今世ハ米穀多キ國アリ、布帛ヲ織出ス國アリ、紙ヲスキ木ヲ伐リスベテ諸產物一種二種ヲ多ク持テ、他ノ諸物ハ國ニテ造ラズ、必都會ヘ出シテ、ツマル處ハ諸物ト交易シテ國用ヲ達スルナリ、ソレニテモ足ラズシテ、外國ニ求メ一萬三千里ノ遠物ヲトリヨセテ、日用ノ物トスルニ至ル、升平ノ譯トハ云ナガラ、アマリ自由スギタルコトナリ、一ヲ以テ云ヘバ、西國（コノ本文、大阪ニテ論ズルユヱニ、西國ト云、江戸ニテイヘバ又東奥ト云フベシ）山中ヨリ木ヲ伐出シ、浪華ニ登スニ、浪花ノ商人買ウケテ工人ヘ賣レバ、ケヅリテ簞笥長持ヲ製シテ、又西國ヘ買テ歸ル、コレヲ以テ諸物シルベキコトナリ、コヽニ於テ西國ヨリ出ル產物ノ利半バ都會ニテ削ラル、都會ハ金錢アマリテ西國ハ足ラズ、シカレバ都會市井ノ民ヲシヘタゲテ、農民ヲ引立テ耕作ヲスヽムル政事ヲスル、コレ第一ノ樞要トス、今ヲ以テミレバ、十萬石ノ國ニ九萬國ノ家中アリ、國初・功臣ハソレ／＼ノ功アリテ大祿ヲウクト雖、治世ノ臣ニハ何ホドノ功アリトモ、大祿ヲアタヘマジキナリ、守成ノ君トシテ創業ノ君ヲ見習ヒ、ウカ／＼ト大祿ヲ與フルコトハアルマジキナリ、ソレユヱニダン／＼ト家中ニ食祿多クナリテ、上下トモ苦シムニ至ルナリ、食祿ノ家多ケレバソノ

奴隷雜役ニ農ノ子ヲ引上テツカヒ、工商モ少クテハ用辨ゼズ、又賣買繁昌ナルユヱニ自然ト多クナルベシ、コレモマタ農ヨリ出ル、サテコレガ爲ニ公ノ雜費足ラズシテ、イヨ〳〵百姓ヲシヘタゲ歛ヲ厚クセザレバアルベカラズ、ソレニ恐レテ農ノ子弟家中市井へ出シテ仕フルカ、ソレモナラザレバ他國ヘ離散ノ外アルベカラズ、ソレヨリ荒廢ノ地多クナリ、税歛日々ニ減ズルガユヱニ、イヨ〳〵厚歛ヲトリテツヒニハ百姓困弊シテ騷亂ノ基トナル、ユヱニ國ヲ治ムルハ百姓ヲス丶メ工商ヲ退ケ、市井ヲ衰微サスニアリ、市井盛ナレバ田舍衰フ、田舍サカンナレバ市井オトロフ、自然ノ符ナリ農家耕シテ公及家中ヲヤシナフ、ソノ公及家中且百姓トシテ、工商ヲヤシナフ、然レバソノ元ハ百姓ヨリシテ、國中上下ヲノコラズヤシナフニアラズヤ、コレヲ以テミレバ百姓ヲ大切ニセズンバアルベカラズ、ユヱニ家中工商ヲツブシテモ、百姓ヲ立ズンバカナハザルナリ、ユヱニ民ハ邦本ト云、必シモ本末ヲトリ失フベカラズユヱニ古ヘハ「夫布里布廛而不レ征、法而不レ廛」ナドノ政令アルハ、ミナコノサシ引也、市井ノ殷富ノミヲ見テ悅ブ者ハ小キ眼ナリ、凡農ノ大體ハ金銀ヲ積蓄スルモノニアラズ、只積モノハ米穀也、米穀ヲ藏一ツニ蓄ヘタルヲ富民ト稱ス、又ソレ程ニハナクトモ、麥米トモニ來秋マデ食盡サレズ、綿服モ大テイノ着ガヘアレバ、富民ノウチナリ、カヽルトキニ鄰里親戚困窮シタルニ、五升一斗ノ米ハ惜ゲモナク惠ムヲ水火ノゴトシトハ云ナリ、民家大テイカクノ如ク富タレバ、人ノ物ヲカスメ盜ム心ナシ、タマ〳〵困窮人アリテモ人々相應ニ惠恤スレバ、盜心ヲ起スニ及バズ、況ヤ人ヲ殺傷シテ財ヲ奪ヒ人ヲ誣告シテ財ヲ貪ノ心アランヤ、ユヱニ民ノ不仁ヲ止サセント思ハヾ、マヅ民ヲ富スコソヨカルベシ、スデニ今茲河内ノ大水ニ浪花ノ富人以下米飯諸物ヲ運漕シテ、饑民ヲ救フコト先ヲ爭フ、

ソノ身分ニ隨テ誰一人其施惠ヲヲシム心ナシ、コヽニ於テカ菽粟水火ノ如キニ近シ、此時他所ノ人ノ評ニハ、アラ夥シノ施行ヤ、京ノ人ハカクハ得セマジ、江戸ニテモ出來マジト云ヘリ、是ヲ以テ見レバ實ニ浪花ニ金多キユヱノミ、コレニテ富ヲ貪ラザルヲシルベシ、コレヲ以テ見レバ今風俗頹弊スト雖、俗ヲ變ズルコトハイトヤスカルベシ、位ニアル人至誠天地ヲ貫キ政ヲスルモノナラバ、三年ヲ出ズシテコレヲ掌上ニメグラスガゴトクスベシト、然ルニ堅白ナラズシテ高キヲ行ヒ、聖語ヲタノミテ琴柱ニ膠シ、瑟ヲ鼓スル人ハ却テ害ヲ招キ、天下ノ騷動ヲ引出スベシ、ユヱニ俗ヲ變ゼント欲スル人ハ、マヅ此身ヲ以テ聖賢ノ行ヲ行ヒ聖人ノ言ヲ誦シ、聖人ノスル處ヲスベシ、是レニ入ルニ必隔アリ、（易曰、納レ約自レ牖）其要門ヨリ入テ行フベシ、易ニ曰「豶家之牙」トコレ政ヲスルノ要領ナリ、マヅハ我身ヲ恭儉ニシテ、後ニ人ヲ恭儉ニス、自ラ奢侈ヲ止ベシ、是ヨリ入テ人々誠實質朴ナラシメバ、漸ヲ以テヒキヰ導キテ、ダン／＼ト遠キニ及ボスベシ、子曰、「齊一變至二於魯一、魯一變至二於道一」ト風俗ヲ變ズルコト斯ノ如シ、一變ニシテ至ラザレバ二變スベシ、三變スベシ、ソレニテモ道ニ至ラザルハ堅白ノ足ラザル也、人ニ求ムベカラズ我ニ求ムベシ、唯コレ己ニアルノミ豈人ニヨランヤ

二　今ノ諸侯米價何程貴シト雖、國用タラズ、故ニ三年五年ノ貢物税ヲ一年ニ得ルトモ補フベカラズ、元此不足ハ國ニ紀律ナクシテ、奢侈ヲ手柄トスルニアリ、萬石ノ侯ハ十萬石ノマネヲシ、十萬石ノ侯ハ百萬石ノマネヲスル故ニ、皆不足也、元ヨリ八九分ハ家中ニ渡シテ藏入米少キヲヤ、然レバイカ程

ノ封ヲ增シタリトモ、足ルコトハナカルベシ（黒田公云治世ノ褒美ハ金銀ニシクハナシト、コレ萬代ノ確言ナリ、治世ニテ諸侯ハジメスベテ家事ノ憂ヘ、眷屬多キニ煩ハサル、軍前ノ功ハ加增スベシ、治世ノ功ハ當坐ノ賞タルベシ、）（有德廟ノ御連枝ヲ封ズルニ、無城ニシテ十萬石ニ留ル、功臣ノ加恩二萬石ニスギズ、ヨク治世ノ賞罰ヲ得玉フモノカ）唯儉約ヲ用ユベキノミ、王制國用ノ通ヲ以テ四ノ一ヲアマシ、凶災臨時ニ備フル時ハイカヤウノ變事アリトモ恐ルベカラズ、今ノ如ク治城ノ造作、寺社ヲハジメ江戸數箇所ノ邸第ノ修理、ソノ外諸雜費參勤交代冠昏喪祭ノ用ニ至ルマデ、一樣ノ風俗ニテ華美ニウツリ、諸物ノ價貴クシテイカントモスベカラズ、故ニ政ヲスルハコヽニアルベシ、捨オク時ハ一日々々ト流レテアシクナルハ勢ナリ、是ヲ長ゼシメザルヤウニ引戻スニアルベシ、コノ處ニ心付ズシテソノ日オクリニ政ヲスル人、路ニアタル時ハ、イカントモスベカラズ、歎ズベキ哉

三 豐ニ喜ビ凶ニ歎キ貴價ニカナシミ賤價ヲ好ム、天下ノ通情ナリ、シカルニ土地ニアル人ハ大豐ニテハ價賤シク、大凶ニテハ米穀ナシ、ユヱニ中豐ニシテ價貴キヲ好ム、藏米ノ士人ハ公ヨリ給フ處ハ、豐凶ニカヽハラザル故ニ、凶年ナレバ價貴クシテ其錢多シ、百姓ハ大豐ヲ好ム、願ハクバ大豐ニシテ貴キコトヲ、公ハ貢米ノ數ハ大中豐トテモカハルコトナシ、凶ナレバ減ズ、農ハ大豐ナリト雖、貢米ハ同ジクシテ作德多シ、工商遊民ハ唯價ノ賤シキヲ好ムノミ、然ニ此市井ノ內ト雖其業ニヨリテ貴ヲ喜ブモアリ、遊民トイヘドモ又シカリ、一概ニ論ズベカラズ、シカルニ當時列國ノ諸侯米穀ヲ賣テ國用ヲ辨ズ、賤キ時ハ用足ラズ、貴キ時ハ用アマリ、陪臣及ビ百姓ニ至ルマデミナシカリ、ユヱニ價貴クシテ利ヲ得ルモノハ、天下六七ニ居リ、賤シクテ喜ブモノハ三四ニ居ルベシ、此三四ノ內ニ工商ト

遊民ト相半スベシ、サテマタ士農利ヲ得テコレヲ遣ヒ出サヾレバ、工商遊民何ヲ用ヒテ業ヲトゲン、是モ亦其益ヲ得ルモノ其二ニ及ブベシ、然レバ實ニ米價貴クシテ苦シムモノハ、天下ノ二分トナル、此内一分ハシノグベシ、實ニ苦ムモノハ一分ノミ、政ヲスル人此心得ナクシテ徒ニ米價サヘ賤シケレバ、太平也トシテ纔ノ躍貴ニオドロキテ政ヲ以テコレヲ引下ントスルトキハ、大キナル害ヲ生ズベシ、アニ微少ノ貴賤ニヨリテ萬民コレヲ苦シマンヤ、近世昇平ノ弊驕奢ニシテ生業ヲトゲ得ズ、萬物ノ價貴クナリテ、却テ米穀ノミ賤シ、ユヱニ人々米穀ノアリガタキコトヲ思ハズ、米價大貴ニシテ初テソノ功ヲシル、凡人情大テイ米價賤ケレバツネニ澤山ニオモヒテ山中海濱ノ人マデモ米ヲ食テカヘリミズ、價タカケレバ初メテ驚キ、俄ニ雜物ヲ交ヘ食スト雖、美食ニナレタル口ノコトユヱ食ラヒ得ズシテイヨ〳〵飢餓ニ及ブコトナリ、然ルニ政ヲスル人徒ラニ米ヲ下ゲレバ、萬民ミナ喜ト心得、來秋マデ食ツヾクヤ否ヤヲ辨ズ、唯價ヲ引下ントスルハ婦人ノ仁姑息ノ愛ナリ、政ノ大體ヲシルニアラズ、米價高貴ニヨリテ苦ムモノハ、工商遊民多クシテ百姓ハ却テ貴ヲヨロコブナリ、年凶ニシテ有米少ナク、カヘツテ其價賤シケレバ、民其凶ヲシラズシテウカ〳〵ト食シテ、春夏ニ至リテ金銀ヲ山ノ如クニ積トイヘドモ、米穀無クシテ天ヲ仰イデ悲シムト雖、ソノ甲斐ナカルベシ、加ルニ其秋モ亦凶ナラバイカヾスベキヤ、ツヒニ生民ノ根ヲ斷ベシ、コヽニ於テカ其備ナクンバアルベカラズ、庶人ノ愚ナル今日ノ食アレバ、明日ノコトヲ辨ヘズ、米價賤シケレバマス〳〵食ツクス、價貴ケレバ食ヲ減ジ、他物

ヲ交ヘ食シテ米穀ヲ食ノバス、史ニ云、貞觀ノ時天下靜謐年豐ニシテ米一石ノ價一錢ト、コノ一錢ハ今ノ一錢ニハ非ズ、大テイ銀一匁トミルベシ、然ルニ此時ノ量衡モ亦同ジカラズ、石ト斗ト凡同ジ、故ニ委シクハ知レザレドモ、天下太平ニシテ米價ノ賤ヲ以テ善治ヲ稱スルコトハ、古今ノ通法ナリ、シカレドモ今ノ世天下奢侈ニシテ、諸物ノ價貴ケレバ米ノミ賤シクシテハ、武家ト百姓ハイカヾスベキ、唯喜ブモノハ工商ノミ、大都廟堂ニ在シテ市井商賈ノ喜ヲ見テ、士農ノコト察セザルハ抑末ノミ、然レバ則コヽニ至リテイカヾスベキ、只常ニ籾ヲカコヒ、米價ノアマリ安カラザルヤウニシテ、民食ヲ麁ニシ二年三年ノ食有ラシムル叱ハ、コノ憂ヘナカルベシ、コレヲ防グハ宰相ノ任ノミ、豐太閤ノ時天下飢饉ス、公忽チ米ヲ買ツノルコト數十萬ニシテ民大ニ苦シム、諸吏コレヲ諫ム、公曰、未也又買ベシトマス〲ツノル、ツヒニ米價大キニマシテ民マス〲クルシミ、諸士ハ粥、庶人ハ稗稷ヲ食シ、粥ダニ食セザルニ至ル、春ニナリテ彌甚ダシクナル、ソノトキニ至リ令シテ藏ヲ開キ、ダン〲ニ賣出サシム、民ヨロコビテ食ヲ得テツヒニ秋マデノ食ヲタヽズ、是ヲ以テ考フベシ、コノ時凶年ニ驚キテ姑息ノ仁心ヲオコシ、米ヲウラシメ價ヲ賤シクセバ、民大ニ悅ブベシ、シカル時ハ冬春ノ間ニ米穀ヲ食ツクシ、夏秋ニ至リテ餓死亦多カルベシ、シカルニ冬ニ糴シテ價ヲ上タルユヱニ初メハ苦シムト雖、粗物ヲ食ヒ馴テ、糶出サレタル米ヲ以テ飢ヲシノギ、秋マデノ食アリテ一人モ餓死セズ、履軒先生曰、豐太閤ノ時飢ヲ救フベキ手當カネテナカリシ故ニ、コノ權道ヲ以テ飢ヲ救ヒタルハサスガ英雄

也、シカルニカネテ其手アテヲナシオカバ、權道モイラザル也、此權道ハ初ニ小苦ヲ嘗サセテ、後ニ大苦ヲ救フナリ、經道ナラバ初ニソノ備アルユヱニ、小苦ヲ嘗シムルニモ及バザルナリト云、明暦大火ノ後、伊豆侯政ヲトリテ米ヲ買上ラレ、價大キニ增益ス、ユヱニ鄰國ヨリ江戸沸騰ヲ聞付、多ク運漕シテ府内ニ食ヲ得タリ、此災御藏米ヲハジメ府中ノ有米多クヤケテ、二三日ノ食ナキニ至ルベキヲ買上ラレシユヱニ、價高キコトヲ聞テ隣國ヨリ積送リタルナリ、元ヨリ災ニヨリテ價引上ゲタル上ニ、又買上玉ヒシユヱ、諸有司是ヲイブカルト雖、ツノリテ買上ラレシナリ（コノ時買上ズトモ、諸國ヨリ米ヲ運漕スベシトアラバシカルベケレドモ、公命ヲ以テ民ウタガヒテ遲々スベシ、スベテ米穀ノヿ、命アリテハ嫌多シ、ユヱニ價ニカヽハラズシテ買上ラレシユヱニ、民心安ンジテ積送ルヤウニナリタルナリ、コレモツネニ民ヲ信服サセオケバ、疑モアルマジ、又ツネニ備アレバコノ買上ニモ及ブマジ、然ルニコノ時災ニアヒ、外ニソナヘナシ、ユヱニカクノゴトキノミ）英雄ノ吃ニ臨ミ變ニ應ジ權ヲ用フルノ術、一轍ニ出テイタヅラニ姑息ノ仁ニヒカレズ、米ノ不足ヲ見テマス〳〵糴スルコトハ、外見ニテハ民ヲ苦シムルヤウナレドモ、カクノ如クナラザレバ府内ノ民餓死スベシ、徒ニ價ヲサゲテ民ヲ救フト思フハ、病人ニ毒ヲアタヘテ死ニ至ラシムルガ如シ、シカシ熱クトモ痛クトモ、針灸ヲツトメテ後患ヲ免ンニハ、價ヲ下レバイヨ〳〵食ツクシ、價ヲ增セバ食ノバシテ、又諸國ヨリ積來ル聲ナクシテ、呼ノ術ハコヽニアルナリ、米價ハ年ノ豐凶其吃ノ有無ニカヽハルモノナレバ、元ヨリナキ米ヲムリニ制シテ下ルト雖、忽チニ食ツクシ、又他ノ貴キ國ヘウリ送リテツヒニハ食無キニ至ルベシ、然ル時ハ價ハ有米ノ多少ニヨルモノナレバ、コレニカカハラズ唯有無ノ多少ヲ考フベシ、タトヘバ凶年ニシテ價貴ク民クルシムコトアラバ、ソノ苦シム民

ヲ點見シテソノ民ヲ救ヒ賑ハシテ、價ヲ論ズベカラズ、實窮ノモノアラバコレヲ糺シ、人別ニ應ジ大テイ平價ノ少シ貴キグラキニシテウリ與フベシ、カクノ如クナレバ餓死ハ有ベカラズ（國ニ餓死アルハ價チ下ル故ナリ、價タカケレバ、諸國ヨリ運送シテ餓死ノ憂ナシ、今ノ政ハミナ其國ノ食ノ有無チワキマヘズシテ、唯價ノミ下ントス、ユヱニ隣國ヨリ運送ノ道チフセギ、餓死ニ及スナリ、コレミナ有司ノ罪ナリ、民チスクハント思ハヾ、價チ上テマツベシ、コレコレチ民ノ父母ト云）然ルニ是ラノ論ハスベテ末ノコトナリ、仁者位ニアレバ、平生ニ食ヲ貯ヘ、コノ地ニ至ラシムルコトナシ、天下ニ三年ノ貯アレバ、一二年ノ凶年アリト雖、民ヲ飢サシムベカラズ、コレヲ上トス、スデニソノ貯ナシ、又前法ヲ用ヒテ民ヲ救ヒ餓死ニ至ラシメズ、是ヲ中トス、スデニ其蓄ナシ、又前法ニモヨラズシテ徒ニ餓死ニ及ボサシム、是ヲ下トス、アヽ民ノ父母トシテカネテ貯モナク、又ソノ周急ノ法モアシクシテ、凍餒ニ至ラシム、カナシムベキカナ、今ノ政ニ從フ人、多クハソノ法ヲ得ズシテ、只イタヅラニ無理ニ價ヲ引下レバ、餒ヲノガレ民ノ苦シミヲ免ルヽトノミ思ヒテ、買持タル米ヲウリ出サセ、他國ヘ積トラルヽヲモカマハズシテ、價ヲ下ゲタレバ得タリトス、アヽ金銀ハ食スベカラズ、多キニ賤シク少キニ貴キハ理ノ當然ナリ、金銀山ノ如クニ積ト雖、米ナキ時ハイカヾセン、徒ニ價ヲ引サゲ他國ヘトラレテ何ノ益ゾヤ、商家ニ多ク買入タルモノアラバ、是ヲ惡ムベカラズ、コレ則チ國ヲ有モノ也、萬一ノトキアラバ其米ヲ買トリテ民ヲ救フベシ、必シモ早クウラシムベカラズ、然レバ則其買上タル米有タルユヱニコソ、國民ヲ救フニアラズヤ、萬人ノ命ノ親ナリ、幸ニコノ米ヲ以テ飢ヲ救フコレヲ得タリトス、スベテ中分以下ノ小人タルヤ、米貴ケレバ儉シ、米賤ケレバ奢ル、スデニ米賤シケ

レバ薪木貴シ、コレ何ノユヱゾヤ、樵人勤ザルナリ、魚物貴シ漁者勤ザル故ナリ、ユヱニ米ヲ澤山ニ思ヒテ奢侈ヲナス、是ノコトヲ論ズル時ハ際限アルベカラズ、唯政ヲスルニハ價ノ貴賤ニ拘ハラズシテ、諸國府内ニ三四年ノ糧ヲ蓄積シ、ソノ上ニテ上下ノ難ニ及バザルヤウニ、糶ハ貴キニシ糴ハ賤ニシ、ソノ價ヲ平準スベシ、コノ備ナクシテ凶年ニ遭フトキハ、豐公・豆公ノ如ク即智ヲ用ヒテ是ヲ禦グベシ、凶年一年ニ止マルベカラズ、二三五年モツヾク時ハ如何スベキ、初メノ間ハ救ヒ賑ハストモ、後々ニ至リテハ繼グベカラズ、然レバ則チ平生ニ心ヲ用ヒテ貯ベキノミ、民ノ生死ハ宰相ノ心ニアリ、恐ルベシ當世政民食ヲ蓄ルノ法ナクシテ、凶年ニアヘバ俄ニ驚キ米價ノ躍騰ヲ押ヘ、糴スルモノヲ罰シテ價ヲ引下ントノミヲ勤ムル、コレ何ノコトゾヤ、利ヲ爭フハ商賈ノ恒ナリ、凶ヲ見カケテ糴スルハソノ業ニ精シキ也、ナンゾコレヲ惡ムベキヤ、然ルニ庶民ノ愚ナル價ノ貴キニクルシミテ、年ヲ罪セズシテ商賈ヲ罪シ、コノ年柄ニ米ヲ糴テ諸人ヲ苦シムトノヽシル、コレハ繩取ヲ恨ムノコトニシテ、徒ニ商賈ノ罪ニアラズ、歲ノ罪ナリ、民ハカクノ如シト云ドモ、政ヲスル人アニコレニ乘ランヤ、商賈ノ糴入ヲスルハ國ノ幸也、萬一事アラバソノ米ニテ防グベシ、若ヤ糴スル人ナケレバ、富家ニ命ジテ糴入サスベシ、幸ニシテ糴スルモノアルハ、コレ國ノ民ノ飢ヲシノグナリト悅ビテ、其商賈ニモ褒美シテ糶出サシメズ、又下民ニハ誰某ノ糴スルハ國ノ幸ヒナリ、萬一ノコトアラバコノ米ヲ以テ救フベシ、コノ上ニモ心アル富家ハマス／＼糴シテ飢饉ニ備フベシト諭シナバ、心得違タル民モ始メテ

サトリ、納得シテ各生業ヲ勵ミ、太平ナルベシ、コノ處ニオイテ政ヲスル人ノ心ノ向タル處ニシテ、民ノ生死患樂コレニ係ル、豈容易ノコトナランヤ、コレヲ以テ見ルベシ、只コノ糴スルモノヲ憎ムニアルノミ、又平生ノ蓄ニアルノミ、シカルニ庶民ノ愚ナル寒ニ暑ヲ忘レ、暑ニ寒ヲ忘ル、然ルヲ況ヤ數十年ノタマ〳〵ニ來ル飢饉ヲヤ、然リト雖コレハ庶人ノコトナリ、廟堂ニ坐シテ政ヲトル人々ソノ備ナクシテ徒ニ今日ノコトノミニカヽハリテ、末々ノ蓄ナキハ如何ナルコトゾヤ、是ヲ備ルハ粟囷ニシクハナカルベシ、年々歳々ニ百分ノ一ヅヽ蓄ヘ行トモナキニ勝レリ、百年ニハ一年ノ食アルベシ、アア心ヲ用ヒザルノミ、能ハザルニハアラザルナリ、然ルニ凶年ニアヒタル後ハ、山モ谷モ植ナラベテ藏ニ積蓄スベシトハ思ヘドモ、二三年大抵ノ作ナレバ、モハヤソノコトハ忘失シテソノ世話ニ怠リ止ムニアリ、ユヱニ凶年來レバ俄ニ七顚八倒シテコレヲ救フノ術ヲ施スト雖モ、コレモ亦平生ニ慮リオカザルハ其術ヲ得ズ、庶人ノ心ニナラヒテ糴ヲ罸シ、國中ニ米ナクシテツヒニハ國民ヲ餓死セシムルニ至ル、サテマタコレニ懲リテソノ蓄ヲスルカト思ヘバ、又今日ノコトニカヽハリツヒニ其備ヘモセザルナリ、アヽ悲ムベシ、凶年ハ三十年ニ一回ハ來ルモノナリ、備ヘズンバアルベカラズ、ツヽシムベシ、スデニ粟囷餘リアリテ凶年ニ驚カズ、隣國ハ窮ストイヘドモ我國中ハ泰然トシテ、國食ノ餘リヲ高價ニシテ糶出スル、豈快々タルコトニアラズヤ、豐ノ下價ニ蓄ヘオキテ、凶ノ上價ニ糶ス時ハ、元ヨリ利ヲ得ルトス、國家ノ備ニオケル利不利ニカヽハルベカラズト云ドモ、コレモ亦當吃借金ノ淵ニア

リテハ、コノ說モ加ヘズンバアルベカラズ、然レバ利ヲ見テ是ヲナストモ、失德トハナルベカラズ、タヾ勤メテ粟ヲ圍フベシ、其利其中ニアラン、履軒先生曰、前年奥州飢饉ノ時、江戶ニ米拂底ナリトテ、大坂ヨリ回米ヲ命ゼラルコトアリ、コノ米ハ大テイ七八月ニ江戶ニ達セシ由ナリ、又高津倉ノ籾字書ニ、籾ノ字ナシ、俗ノモミ也、漢土ニハ粟ヲモミトス、今俗字ヲマジヘ用ヒテヨミヤスカラシムヲ磨玉フ、又加州侯ヘ命ゼラレ二萬石回米アリト雖、ミナトキオクレテ新米出來ノ後ニ達ス、コノ前大坂ニテ商買ノ米多ク買持タルモノアリシヲ、買シメナリトテ捕ヘテ入牢セラル、コレヲ凶ヲ付込テ買タルユヱナリ、ユヱニソノ價躍貴シテ諸民是ヲ恨ミ一揆オコル、シカルニコノ買シメト買持トノ辨ナクシテ、一概ニ罰ヲ行ハルノコト紛ハシキコトナリ、買持ト云ハ同ジク躍貴ヲコヽロガクルトイヘドモ、タトヘバ十萬石ノ內一二萬石買持ヲ云、買シメト云ハ三萬石アルモヲノコラズ買シメテ洩サヾルヲ云、シカルニ上ノ威光ヲ以テスル時ハ、タトヒ買持ニモセヨ、買シメニモセヨ、コノ買持買メ分カラズトイヘドモ、凶年高價ノ年多ク買持モノハ、買メノ部ナリ、シカレバ米ヲオサヘテ、コノ數ヲカゾヘテ、商買ノ氣マヽニ利ヲトラセズシテ、公ヨリ裁シテ貧民ヲ救ヒウルニ用ヒ、價ヲ下ゲテウルベシ、ソノ代金ヲ買人ヘトラスル時ハ、損モ少ク利モ少クシテ、存分ニ利ヲトラザルナリ、シカレバ罰セズシテ、實ハ罰ナリソノ米穀ヲシメ立テコレヲトリ上、買タル元價又ハ其比ノ高價トノ中間價ヲ以テウリ出サシムル時ハ、買シメノ罰ハ利ノ少キニアリテ、其後ノ懲戒トナルベシ、去ル享保中、西國饑饉ノトキ、關東ヨリ救濟ヲ命ゼラル、ソノ比大坂高津新地ニ粟倉ヲ建テ水道ヲ掘玉フ、コレヲ極貧堀ト云、コヽニテ籾ヲ圍ハセラル、又大坂難波ノ藏ニテ百年ノ前ニハ二十萬石ノ米ハ減ゼザリシトキク、又諸國要所ノ城々ニハ、御預米ト云コトヲ命ゼラル、シカルニコレ

ラノ備ヘ近年ハ怠リアリヤ如何ヲシラズ、近年大坂ノ町人ヘ圍米ヲ命ゼラレ、ソノ數モ凡五六萬石アラン、コレモ年々ノ仕替ニ損失多クシテ迷惑ニ及ビ、公ニモ時々ノ裁判ニ退屈ノ色ミエタリ、シカルニコノ籾圍又米圍ノコト善政ナリト雖、サテ又凶年出來タル時ニ臨ンデ、是ヲ出シテ民ヲ救フノ要ヲ得ザレバ徒法ナルベシ、前々モ大テイノ凶年アリシカドモ、コノ米ノ出タルコトヲ聞カズ、有司ノ論ニテハ國家ノ儲蓄トバカリニテ今出スト云期ヲシラズ、ハジメハソノ心ニハアラズトミユ、コレ儲蓄ヲ命ゼラレシ美意ニアタラザルナリ、ソノ凶年ノ中ニマタツヾキタラバト云意モアルベケレドモ、マヅハ中凶ニ出シテ救フベシ、凶年二三年モツヾクコトアルベキカト、折角儲ヘタル物ヲシメオク分別ハアシカルベシ、吝ニシテ不仁ニ陷ルベシ、凡權道ハ常トスベカラズ、法トナシガタシ、萬一大凶年二三年ツヾクコトアラバ、ソノ時コソ權道ハイクラモ有ベシ、株ヲ守ルベカラズ、凡我ニ蓄多クシテ施少ケレバ、施シナガラニ民ニ怨ラルヽモノナリ、蓄ナケレバ施サズトモ民怨ミズ、ソノ吃ニハワヅカノコトニテ愛利ノ恩ハ下ニトヾクベシ、只ソノ人ノ實意ノミニ有ナリ、折角タクハヘタルモノナレバ、マヅソノ意ヲ立テ施スベシ、ナンゾソノ次ヲマタン

四 國中ニ大賈アリテ米ヲ多ク買持タルハ國ノ幸ヒ也、必シモ是ヲ罪スベカラズ、商賈ハ只利ニワシルノミ、コレ常ナリ、米ヲ買込タルモノアレバ國ニ食アリ、買人ナケレバ諸國ヘ買トラルベシ、凶年ニハ米ヲ買込タル人アル故價モ引上ルト雖、萬一ノトキニナリテハ食ヲ得ベシ、コノ吃ニ臨テ價ヲ引下

ルコトノミニ心ヲ用ヒテ、買持ヲ罰シ玉ハヾ、ワヅカノ米ナリト雖買人ナクシテ諸國ヘ積トラレ、諸國ヨリハ聞及ビテ積來ラズシテッヒニハ食盡テ饑死スルニ至ルベシ、此所ニ踏チガヒアリテ買持ヲ咎メ津留ヲ命ズル時ハ大キナル害ヲ引出スベシ、又米ヲ買フモノアルソノ心ハ凶年ニシテ米價ノ上ラントスルヲ見カケテ、利ヲ得ンガ爲ニ糴入ル丶コトニシテ、アナガチニ諸人ヲ飢渇サセテ快ヨシトセザルナリ、シカルニ利ニ心アルガ故ニ貴クナリタルハ糶出スニアリ、元ヨリ多ク買タル米ハ早ク賣ザレバ賣オクレテハ何ントモスベカラズ、ユヱニ米ヲ糴フトキハ價ヲ引上ルトイヘドモ、多ク糴タル上ハソノ米アルガユヱニ價ヲ引上ザルナリ、コレ亦國ノ幸ナリ、然レバ此米ヲ領主ヨリ命ジテウリ出サシムルカ、又ハ取上テ國中ヘ價ヲ減ジテ賣ルベキナリ、シカレバコレヲ惡ムベキニモアラズ、シカルニコレラハミナ權道ナリ、河內凶ナレバ粟ヲ河東ニ移シ、河東凶ナレバ河內ニ移ス、天下一統ノ凶ハマヅハナキモノナリ、王政ノ備ヘアル時ハ、西國凶ナレバ東國ヨリ移シ、東國凶ナレバ西國ヨリ移スベシ、又況ンヤ東西オノ〳〵ソノ蓄アルヲヤ、然レバ則コノ權道ニハ及バザルナリ、王制ニ曰、國ニ三年ノ蓄ナキハ、國ソノ國ニアラザルナリ、今ノ世ニ三年ノ蓄アレバ極豐ノ國ト云ベシ、スデニ三年ノ蓄アリ、何ゾ一年ノ凶ニ畏レン、願ハ豐年ノ時ニ糴ニテモ圍ヒ蓄フベキナリ、カクアル時ハ泰然トシテソノ難ヲノガルベシ、然ルニ竟ニ蓄フコトナク、又權道モ用ヒ得ズシテ、徒ニ買シメ人ヲ捕ヘソノ者ノ罪トス、ア丶何ノコトゾヤ、米價ノ貴キハ歲ノ罪ナリ、歲凶ナル故ニ價貴シ、然レバ歲ノ罪也、買シ

メノ罪ニアラザルナリ、餓死ノ多キハ有司ノ罪ナリ、歳ノ罪ニアラザル也、然ドモ買持ナラバ罪ナシ、買シメナレバ罪アリ、コレハ有司ノ心ニテ分ルベシ、孟子曰「王無レ罪レ歳、則天下之民至焉」（孟子ノ語ハ王ノ民ヲスクハズシテ歳ヲ罪スルヲ戒シム、今ノ世ハ歳ヲ罪セズシテ商賈ヲ罪ス、梁ノ惠王ニ貶ルコト一等）ト、コレハ民ヲ救ハザルヲ戒シムナリ、價ノコトヲ云ニアラザルナリ、餓死ハ政ノ罪ナリ、歳ノ罪ニアラズ、價ノ貴キハ歳ノ罪ナリ、商賈ノ罪ニ非ズ、是ヲヨク辨ヘテ權道ヲ行フベシ、苟モ民ヲ救ノ心アラバ、年々歳々ニ糴ヲ圍フベシ、糴ハ二三十年モ保ツベシ、米價江戸ニテ石ニ三斗大坂ニテ四十目ナレバ糶スベシ、江戸ニテ四五斗大坂ニテ百目セバソノ米ヲウリ出スベシ、然ドモ是ハ其年ノ有米ノ高、又ハ豐凶ノ模様ニモヨルベシ、必大切ニ心ヲ用ユベシ（米ノ有無多キ少キニヨリテ、價ノ高下アルコトヲイハズシテ買シメルユヱ貴トスルハ過チナリ、有司タル人民ノ食ノ有無ニ心ヲ用ヒテ、價ハ後ニスベシ、民食ソナハリテ後價ヲ論ズベシ）

五　近世急ヲ救ノ法其其宜ヲ得ズ、皆惠ンデ費シ、富ヲ繼ノ類ニ陷テ實急ヲ救ヒ得ズ、此良法ヲ得レバ財ヲ費スコト少シテ餓死ナカルベシ、コノ良法ヲ失ヘバ財ヲ費スコト多クシテ餓死モ亦多カルベシ、然ニ當世ニアタリテ財ノ豐ナル侯國ハナシ、故ニ此良法ヲ得ザレバ費多キニ苦シミテ、救ノトヾカザルニ厭ヒ、ツヒニハ止テ爲ザルナリ、然レバイカヾスベキ、徒ニ餓死ヲ見ルベキノミ、故ニ余此良法ヲ圖シテコヽニ示ス

諸士農商、太古ハ民風質朴ニシテソレ〳〵ノ法アリテ、士民ノ貧富其官爵ニ隨ヒ、貴ハ富、賤ハ貧シクアリシユヱニ、富貴ト云貧賤ト云テ平準ナリシ、農ハ一夫百畝ヲ受テコレヲ耕シ、八家井田ヲ同ジク

高キヲ富トシ、低キヲ貧トス、救助シテ民ヲ賑ハス朱ノ横徑ナリ、大窮ハ救助ヲ益シ、小窮ハ減損ス、富ヲ損ズルハ薄墨ナリ、貧ヲ救フハ淡朱ナリ

上策ハ富ヲステヽ貧ヲスクフ、實行ニカナヒテ、實ニ飢ヲスクフベシ、周急ノ良法ナリ

倉廩ヲヒラキ民ヲ救フハ、王政ナリトイヘドモ、今ノ諸侯ニシテコノコトハ叶フマジ、セメテハ中策ヲトリテ富民ヲサトシ、飢民ヲスクハヾソノ揆一也

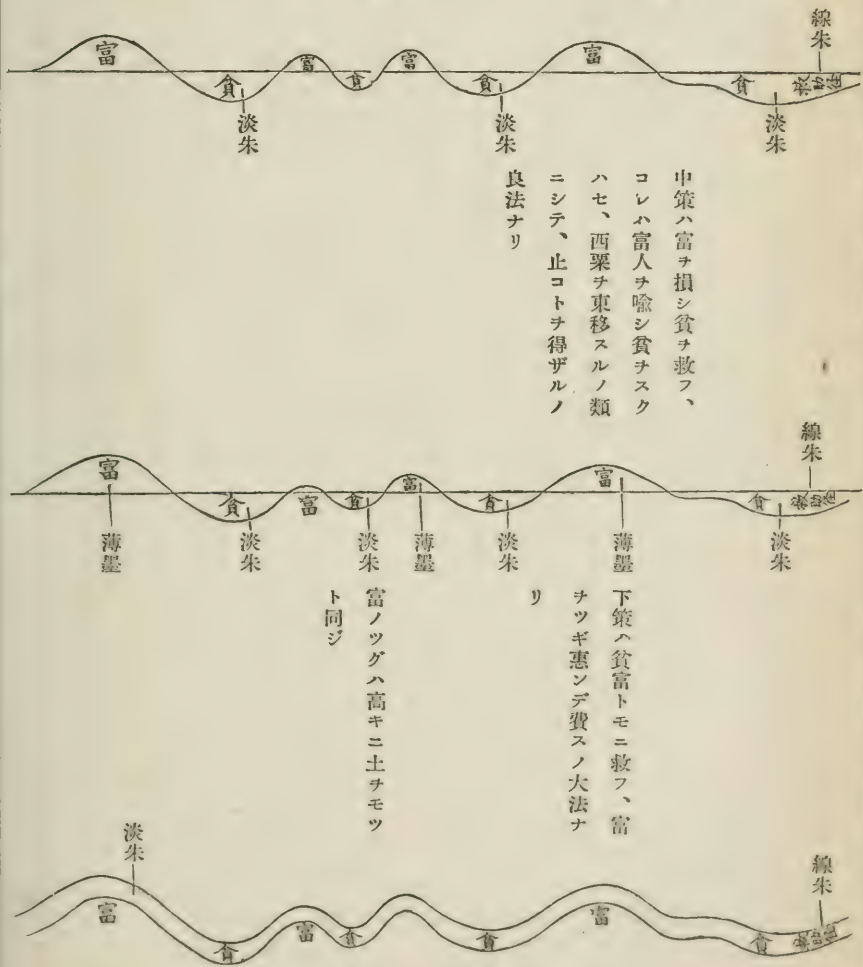
線朱 富 貧 淡朱 富 貧 富 貧 淡朱 富 貧 淡朱

中策ハ富ヲ損シ貧ヲ救フ、コレハ富人ヲ喩シ貧ヲスクハセ、西栗ヲ東移スルノ類ニシテ、止コトヲ得ザルノ良法ナリ

線朱 富 薄墨 貧 淡朱 富 貧 淡朱 富 薄墨 貧 淡朱 富 薄墨 貧 淡朱

下策ハ貧富トモニ救フ、富ヲツギ悪ンデ費スノ大法ナリ

富ノツグハ高キニ土ヲモツト同ジ

淡朱 線朱 富 貧 富 貧 富 貧 富 貧

シ、患難相助ヶ疾病扶助シ、又餘夫ニハ別田ヲ與ル法アリシニ、世衰ヘ吃移リ王道頽廢シ其法行ハレズ、民風輕薄奢侈ニナリテ、强ハ弱ヲシノギ富ハ貧ヲ併セ、吃ノ勢ニノリテ各ソノ家ヲ立テ、貧富其官爵ニ隨ハズ、位貴クシテ貧ナルアリ、賤シクシテ富ルアリ、中ニモ賤シキモノハイヨ〳〵富ミ貴キモノハマス〳〵貧シキニ至ル、コレヲ平準セント欲スト雖得ベカラズ、タヾ富民ヲサトシ貧民ヲ救ハシムルハ爲ベキナリ、コレハ政ヲトル人ノ平生ニ其心アリテ、貧ヲ傷ミ富ヲ削リテ平準ナラシムルノ政ハ年月ヲツミテスベキコトナリ、容易ニハスベカラザルナリ、有司ノ願ヒハ農ヲ益シ商ヲ減ジ、富ヲ削リ貧ヲ均フス、コノ心ヲ恆ニ收メテ急ニセザルニアルベシ、シカルニ有司ソノ心アルコトナク、却テ凶年キヽンノ變ニ至リテハ、唯ソノ要ヲシラズシテ買シメヲ怒リ、罰シテ米價ヲサゲテ貧富トモニ救ハントス、家中ヲ救フニ其官祿ニ隨ヒ、農ヲ救フニ其高ニ應ジ或ハ戶數口數ニヨリテ、貧富ヲ問ハザルノ類ミナコレナリ、是ハ高キニ土ヲ持ト云コトニテ、富ヲ繼デ急ヲスクハザルナリ、飢饉餓死ノトキニ至リテ、其急ヲ救ハント欲スレバ、今日ノ食アルモノハ措テ論ゼズ、百家ノ邑其長ニ命ジテ點檢スル時ハ、極究十家中究二十家、或ハ極窮三十家中究五十家、ミナソレ〳〵ニ錄シテ食ヲ給フカ、又ハ財アリト雖食無キニ於テハ、價ヲ減ジテウリ出スベシ、何レニモ實心アリテ私欲ナキ下吏ニ命ジ、ヨク〳〵吟味シテ施スベシ、必コノ時ニアタリテ威ヲ以テ民ヲオビヤカシ、疑ヲ生ゼシムベカラズ、シカル時ハ却テ民心擾亂シ、疑ヒ惑ヒテ實ヲ以テコレヲ告ズ、邑長ト雖カクシテ云出サズ、私欲ノモ

ノハ實究ト僞リ、奸ハ欺キ愚ハ怖サレ其救助其實ヲ得ザルベシ、上ノ三件上件ヲ救助ノ要トス、中件コレニ次グ並ビ行ハレテ然ルベシ、下件ハ人ノヨクスル處ニシテ、官祿戶口ニ隨ヒ貧富ニ隨フノ法ニシテ、惠ンデ費スノ法也、有司上中ノ法ニ心付ズシテ、唯下法コレヲ行ハントスレドモ、其財ノ繼ザルヲ以テ止ムニアリ、コレハ急ヲ救ヒ富ニ繼デ、貧富トモニ救ハントスル故ナリ（元來救ノ字、貧ニシテ死ニ臨ルモノヲ救フコトナリ、富テ豐ナル人ニ用ユル文字ニアラズ）夫幾億萬人ノ多キ、ナンゾコレヲ善ネク救フベケンヤ、況ヤ救フベカラザル人多キヲヤ、此三件ノ內上下ニ隨ヘバ、ヨク其急ヲ救ヒテ富ニツガス、費少ナクシテ惠行ハレ、實ニ餓死ヲ免ル、コレヲ當世ノ急務トスベシ、民ノ飢渴ヲ憂フルノ心アリト雖、其術ヲ得ズシテ却テ下件ヲ用ユル人ハ、徒善徒法ニシテ勞シテ功ナシトシルベシ、コノ萬民ノ內ニモ農ハ勝劣アルベシ、大テイノ食ヲ蓄ヘタルモアリ、又我田ハ相應ニミノリタルモアルベシ、市井商賈遊民ノ內ニモ米價ノ貴キヲ淩ギオホスルモアリ、又課セザルモアリ、然ル時ハソレ〳〵ニ指ヲ折テ點撿スル時ハ、半ニハ過ベカラス、大テイハ前ニ云ゴトク十ニ二三ナルモノナルベシ、物價ハソノ有米ノ多少ニヨルモノナレバ、決シテ價ノ貴賤ヲ貪着スルコトナカルベシ、民食不足ナラバ他國ヨリ糴（カフ）ベシ、國中ニ有餘アラバソレニモ及バズ、シカル時ハナンゾ躍貴ニ及バン、唯ソノ價ニ目ヲカケズシテ米ヲ蓄ヘ貧窮ヲ救フ時ハ、米價ハ自然ト降ルベシ、救助ハ百姓ヲ先トシテ諸士ヲ次トシ、工商ヲ其次トシ、出家遊民乞食ヲ又ソノ次トスベシ、豪富ノモノニハヨク〳〵喩シ、財ヲ出シテ救ハシメ、或ハ米穀ヲ他國ヨリ糴（カヒイレ）サセテ其洩タルヲ救ハシ

ムベシ、隨ザルモノアラバ其家ヲ沒收シテ、財ヲチラシ民ヲ救フベシ、コレ一人ヲ殺シテ萬人ヲ活ス法ニシテ、變中ノ權道ナリ、夫レ常ニ同ジク庶人ニアリナガラ、財多キガユヱニ貧民ニ腰ヲ屈メサセ趨陪セシム、カヽル變世ニハ平生ノ蓄積ヲ出スベキノミ、カクノゴトクシテヨク國中ヲスクヒタラバ、公ヨリモ擢ンデヽ褒美アルベシ、然ラザルニオイテハ沒收シテ貧民ニチラスベシ、コレ虐政ト云ニアラズ

六 神祖濱松ニ在ス時、郡吏出テ作毛ヲ撿セントス、戒テ曰、百姓ヲ活シスゴスコトナカレ、又殺シ過スコトナカレト、アヽ政ヲスルノ大體ト云ベシ、詩ニ曰、「晝爾于茅、宵爾索綯、亟其乘レ屋、其始播ニ百穀一」ト云々、サテマタ「文王親レ民如レ傷」ト、苛政ハ虎ヨリモハゲシ、民疲レテ離散シ妻子ヲ養フコトヲ得ズ、寬政ナレバ民怠リテ驕佚ス、ツヒニ業ヲ忘失スルニ至ル、子產寬猛ノ論ハ政ヲスルノ要ナリ、ヨク味ヒテ考フベシ、シカルニ神君ノ吃ハ其民亂世ヲ歷テ今ト異ナリ、一概ニ論ズベカラズ、仁アル吏ニオケル大ナル心得トナルベシ、暴慢ノ吏ニキカセタラバコレヲ主張スベシ、又吃處位アリ、今昇平ニシテ驕奢ニスギテ、ソノ稅ヲ重クセザルコトヲ得ズ、シカレバ活シ過ゴセヨ〳〵ト云テヨキ程ナルベシ、子產ノ猛、孔明ノ嚴ソノ可ニアタル、高祖ノ寬モ亦其吃ヲ得タリ、唯吃ニヨリテ行フベシ、嚴猛ノ中ヲスルハ子莫ガ中ナリ、ソノ時ニアタラザレバ中モ亦猛ナリ、嚴モ亦中ナリ、株ヲ守ベカラズ

七 當吃ノ有司神靈奇驗ヲ信ズルコト甚シト雖、政事ニ於テハ神佛ノ靈驗狐狸ノ妖怪ヲ禁ゼラレテ、何ヲ云テモ取上玉ハズ、國初ヨリノ古例ニシテ、一代ノ幸ナリ

八　諸物ヲ摧スルコト（今云運上御益ナリ）國初ヨリダン〱甚シク、寶曆・明和ヨリ安永天明ニ至ル、ツヒニ白銀一枚二枚マデニモ取セラルヽニ至ル、寛政ニ至リテ害アルハ多ク止ミタリ、然ドモ亦ツヒニ止マジ、然ニ明智光秀信長ヲ弑シ、人氣ヲ得ンガ爲ニ洛中ノ地子錢ヲ免ズト云、六月二日弑逆ヲ行ヒシヨリ、十三日山崎敗軍ニ至ルマデ、ワヅカ十日餘リノコトナレドモ、令ヲ下シタルナリ、ソノ後再ビサタナクシテソノマヽニナリタルナラン、コレヲ嚆矢トシテ江戸中ノ地子ヲユルシ玉ヒ、寛永ノコロ大猷大君御上洛ノトキ、伏見大坂堺マデモ免許シ玉フ、不世ノ仁恵ト云ベシ、シカルニ百姓ハ勞シテ貢ニハタラジ、商家勞セズシテ地子錢ヲユルサル、ソノ上人ト爭ヒ金銀稱貸賣買ノ訴訟ヤム間モナク、上ヲ勞シテ恩ヲ報ズルコトヲシラズ、恬然トシテカヽルモノナリト心得テカヘリ見ズ、甚ダシキモノハ上ヲ誹ルニ至ル、商賈ノ地子ハ農家ノ貢ナリ、免スベキコトニアラズ、コレヲ免スハ過タリト云ベシ、シカレバ地子ノ代リニ運上御益ノルイハ有ベキコトカ、孟子曰、「治ㇾ人者食二於人一、食ㇾ人者治二於人一」ト云々、人ニ治ラレテ人ヲ養ハズ、來アリテ往ナシ、受テ報ゼズ道ナランヤ、且三都ハナカンヅク繁華ナルニ、カク地子ヲユルシ玉フハイカナルコトゾヤ、元和亂後大坂ノ城ヲ松平總州侯ニ賜フ、コノトキ三鄕ノ高一萬六千石アリシヨシ云傳フレドモ、ソレヨリハ廣クナルベシ、ソノ後ダン〱ト繁昌ニ及ベバ、地子ヲ倍セラレテモシカルベシ、シカルニ今ニテハ御預地ノ地子銀・濱地冥加銀・濬河課銀ソノ外公役多クシテ、昔ノ地子銀ニ幾倍スベシ、昔與ヘテ今取ニアラズヤ、然カレバ地子銀ヲモトヘ

モドサレ、諸搉ヲ減ジ玉フベキヤ、シカルニソノ搉スル處一萬金ヨリ五千千五百三百五兩十兩、銀五枚三枚ニ至ル、コレヲ出スモノミナ此ノ御益ヲ云立テ株ト號シ、市ノ利ヲ罔ス、洩テ賣買スルモノアレバ、タチマチ官衙ニ訴ヘ威ヲカリテコレヲ防グ、官ト雖モスデニ搉シテ株ヲ免シ玉フ上ハイナムコトアタハズ、幾回モコレヲ正シツヒニ官人ヲ驅仕スルニ至タル歎ズベシ、マタ此ノ株ト云フモノ市中ニ我ガ意ヲ云威ヲ震フコト甚ダシ、願ハクバ大抵ノ搉金ヲ止メラレテ賣買ヲナスコト自然ニ任サルベシ、シカレドモ驕奢淫僣ノルイハ嚴ニアルベシ、寛永ノトキ地子ヲ免シ玉フコトハ惠政ノ一ニシテ、有リガタキコト云ベカラズ、ユヱニ市中大キニ悦ビタルコト鐘銘ニテ知ルベシ、（大坂ツリガネ丁ニアリ、今ナニ時ヲシラセ火災ニソナフ）此厚惠ニ引替テ後世ニナリテハ公役カヽリモノト云モノ段々ニ多クナリテ、昔ノ地子ニ數倍ス、昔ノ仁惠ト今ノコノ刻政トヲナラベ、一吃ノコトヽセバ陽ニ與ヘ陰ニ取ルト云ベシ、サテ又大阪ノ市家賣買スル時ハ、二十分ノ一ヲ上ヘ出セシコトナルニ、是モマタソノ前後ヨリ下ニ下サレタルニヨリテ、今ニ至リテソノ分一ヲ丁內ヘ分テ取ルコトトハナリヌ、コレモ初ノホドハ一貫目二貫目ヨリ十貫目ニ至ルコトナリシユヱニ、二十分一ノコトサマデモナカリシ、中ゴロ家價貴クナリテカリソメニ百貫目二百貫目ノ賣買アレバ、甚ダシキコトニナリタリ、コレラハ古ヘノ如ク上ヘトラセラレテ諸運上ヲ止サセラルベキカ、シカレドモ大阪ハ天下ノ大都ニシテ、金銀財寶コヽニ聚マルユヱニ、官ニモ事多クシテ其手當モ亦少カラズ、コレ豪富ヨリ取ラズンバアルベカラズ、豪富ノモノモ日ゴロノ御恩ニ

テカク靜謐ユヱニ、富ヲ得テ安樂ニ業ヲトグルコトナレバ、官へ訴ヘ吃々ノ御用ハ奉リテ然ルベシ、貧ナルモノハ是非ナカルベシ、富饒ノモノハコノ心得アルベシ、シカルニ官ヨリ少シノコト命アリテモソレヲ奉ラズ、却テ上ヲソシリ財ヲカクシテ埋ムニ至ル、コレモ亦誰ノ罪ゾヤ

九　先年諸ノ高價ヲ正シ玉ヒシコトアリ、ソレヨリマス／＼諸品ノ價貴クナリタルモノアリ、コノ内ニモサマ／＼アリテ一概ニハ云ベカラズ、一ヲ以テ云時ハ薪ヲ以テミルベシ、土佐・日向ヲハジメトシテ諸國ノ山々ヨリ伐出シ送リ來ルヲ、問屋ト號スルモノ買込デダン／″＼ニ小商人ヘウリ出スコトナルニ、此ゴトク吟味ツヨクムリニ價ヲ引下ベシト命ジ玉ヘバ、積來リタル薪ヲ其マヽニ積戻スニ至ルユヱニ、諸國ノ山々伐木ヲ止メテ運送セザレバ、市中ニテ焚ツクシテ薪木ナキニ至ル、諸山ヘ運送ヲ促ストイヘドモ、疑フテ伐送ラズ、ツヒニ其價前日ニ倍ス、官ヨリモ如何トモスベカラズ、コノ一事ニテシルベシ、又油・酒・紙・絹・布・糸・綿ト雖、徒ニ價ニカヽレバ弊アリテ大キナル害ヲ引出スベシ、スベテ物價ノコトハ無理ニ賤キヲ欲スベカラズ、貴トケレバ買ザルニシクハナシ、只價ハ商賈ニ任サルベシ、貴クシテ買人ナケレバ賤クスルノ外ナシ、米穀ノ條ニスデニ論ズルガ如シ、スベテ一理ナリ、商賈トテモ我一人ニアラズ、我貴クウリテ他人賤シクウレバ我物ハウレズシテ他人ノ物ハ頓ニウル、又貴ケレバ買ベカラズ、買ザレバ自然ト下ル、コレ至極ノ言トイヘドモ至理ノ論ナリ、タヾ官ニアリテハ物ノ有無ヲハカリテ價ニカヽハルベカラズ、先年米價貴キ吃ニ搗米家ノ價ヲ減ゼラルベシト命ア

リ、既ニ天下凶歳ニシテ米少キユヱニ價貴キハ前ニ云如ク歳ノ罪ナリ、然ルニ商賈ヲ罪シツヒニツキ米ヤヲ罪セラルヽハ何ノ故ゾヤ、其元價高シ、ユヱニ貴キナリ、末ノツキ米ヤナンゾ是ヲシランヤ、又天下ノ人命ヲツナグ米ナリ、一錢ニテモ賤シキニ求ム、ユヱニ我一ニト賤シクウリテ商賣ヲヒロクセントス、一錢ニテモ貴クウル家ニ買フ人ナカルベシ、然レバ搗米家ヲ呵責シ玉フハソノ元ヲ失フト云ベシ、諸品ミナシカリ、又諸品ノコトハサノミ價ノ論ナクトモスムベシ、貴ケレバ買違フ人少ナシ、ナンゾコレガ爲ニ天下ノ害ニナルコトアラン、只奢侈ヲ禁ジラレナバ價ハ下ルベシ、元ヲ制セズシテ末ヲ制スレバ、元ノ爲ルモノ少クナリテ用ユルモノ減ズベカラズ、スデニ爲ルモノ少クシテ用ユルモノ多シ、豈貴カラザルコトヲ得ンヤ、又爲ルモノ多クシテ用ユルモノ少シ、豈賤シカラザルヲ得ンヤ、然ルニ爲ルモノ用ユルモノ物ノ有無多少ヲ論ゼズシテ、只價ノミヲ賤クセントス、我ハシラザルナリ、物ハ多少ニヨリテミナソレ〳〵ノ價アリ、シヒテ價ヲ減ゼントスベカラズ、スデニ價ヲ下ントスレバ只ソレヲ用ヒシメザル工夫アルベシ、又價ヲ上ントスレバ用ユルノ工夫スベシ、但シハ爲ルモノヲ減ズベキカ、コレヲカラウス拍子ト云、一方ヲ上レバ一方ハ下ルモノナリ、末ヲ止メテ本ヲオサユルアリ、本ヲ塞ギテ末ヲヒラクアリ、凶年ニ酒造ヲ減ズトイヘドモ、酒宴ヲ留メザレバ價貴シ、價已ニ貴ケレバ嚴禁アリトイヘドモ、利ヲ貪リテ陰釀ス、酒造ヲ減ゼント欲スレバ、先無益ノ酒宴娼家ノ宴ヲ禁ズベシ、ヨキカナ元祿ノ頃ニ酒造ヲ減ゼラレテ、ツヾキテコノ禁アリテ曰、酒狂ニヨリテ失アルモノハ

嚴科ニ處スベシ、其飮セタルモノモ同罪タルベシト云々、カク行トヾキテコソ政事ト云ベケレ、只ソノ内ニイロハザルニアルベシ 今天下奢侈ニシテ、諸物買人多シ、ユヱニ價貴シ、儉約ニシテカヒ人少ナケレバ、自カラ價下ルベシ、外物ハ奢リテ多ク用ユルナリ、ユヱニ價タカクナリ、米ハ奢ルト雖、一日ノ食限リアリ、ユヱニ價上ラズ、シカレバ外物ノ諸價ヲ下ルハ、儉約質素ニシクハナシ、買人少ケレバ物ノアタヒ自然ト高キコトヲ得ズ、シカルニ米ノ價ヤスケレバ賤者ミナ米ヲクラヒ、凶年ノトキハマス〳〵クルシム

十 刑ユルクシテ犯ス多キ者アリ、刑嚴ニスギテ犯ス多キモノアリ、一ガイニナルベカラズ、刑ユルクシテ犯スモノハ博奕・盜賊・隱賣女・捨子ノルイナリ、コレラハ嚴ナルベシ、刑嚴ニシテオカスモノハ不孝・不忠・謀判・放火ナリ 不忠不孝ハ大罪也、カロクスベカラザルコトハ勿論ナリトイヘドモ、大不忠・大不孝ニ至ラザルヲ云、謀判・放火モ輕重アルベシ、シカルニ重罪ノモノハ囚獄中ニテ拷梏シ齒ヲヌキソノ外イロ〳〵苦シミナサセテ然ルベシ、大逆ノ罪人ノ磔トイヘドモ一ト思ナリ、引鋸ニテ三四日モ日々ニ疵ツケテ、或ハサカサマニツリテ二三日モステオカバ、懲シメトナルベシ コレラハ寛カナルベシ、刑ヲユルクシテコラスベキナリ、博奕ハ過料カロシ、盜賊ハタビ〳〵犯シテ腕ニ黥セラル、二黥ニシテ死刑トナル、隱賣女ハ五十日ノ閉門ナリ、捨子ハ錢ヲ附テ人ニ遣ハサル、ミナコレ寛ナリ、江戸ニテ薩州ノ門前ヘ捨子セシニ、直チニ大川ノ橋ヨリ川中ヘ投ゼラレケレバ、ソノ後再ビ捨ルコトナシ、仙臺ノ門前ヘ捨子セシニ、直ニ取上テ介抱セラレ錢ヲ添テ百姓ニ養セラレケレバ、有ガタガリテタビ〳〵捨シト云話アリ、コレラハ不仁ニ似タリトイヘドモ、一タビ殺シテ再ビ犯サシメズ、仁愛ニ過ギテ又犯スト同日ノ論ニアラズ、穢多乞食ニヤリテ然ルベシ、今ノ捨子ハ穢多乞食ノ子多シ、出世ニナル故ニミナスツルナリ、或人曰カクアラバ貧人ハ子ヲマビクベシト、コレモ又知ルベカラズ、イヅレカ是ナラン、爰ニ一人ノ僕アリ、金銀ヲ盜ミテ出奔セシヲ捕ヘテ歸ル、官ニ訴フレバ忽死罪トナルユヱ親類ヨリコレ

ヲナゲキ詫ブ、主人モ殺シテ益ナキ故ニツヒニ訴ヲ止ムニ至ル、是等ハユルク償ハセテ後來ヲ戒メタキモノナリ、不孝・謀判・放火ミナコノ類ナリ、一ト思ヒノ死ハ易シ、ユルクコラシタキモノナリ、ソノ外コノ類アルベシ、屹々ニ改正アリタシ、市中ニテ茶店・風呂屋・旅籠屋ナドノ株ヲ免サレ、御益ヲ出シテ隱賣女ヲ業トスルモノアリ、實ニソレ〳〵ノ本業ヲスルナラバ御益ヲトラセラルベシ、是ラノ銘ヲ付テ陰ニ賣女ヲ業トスルコト惡ムベシト雖モ、官ニモ陽ニ禁ジテ陰ニ免シ玉フユヱニ、安ンジテ所業トス、元ヨリ三都ソノ外ニモ御免ノ傾城街アリテ、コノ者ヨリ訴フレバ是非ナク時ニヨリテ糺明アリト雖、マコトノ云譯ノミニテ飯上ノ蠅ヲ追ガゴトシ、シカルニ年々歳々ニ此業ノモノ多クナリテ、又市中ヨリ通フモノモ多クナル故ニ、市街ミナ是ニ染リテ風俗アシク、子女ノ風ミナ娼女ヲマネビテ、ダン〳〵ニウツリ易ルコト早クナルナリ、コレヨリ百年ノ後ハイカヾナルベキヲシラズ、寛政ノコロ一變ノ新政ハジマリシニ、惜イカナ終ニ止ミタリ、今ニ至リテハ大都ハ二分ハミナコノ業ニカタヨリタレバ、今更ニ改メラレガタシ、然レドモ捨オク時ハイヨ〳〵惡風トナルベシ、コヽニ一術アリ、コノ業ノモノニ御益ヲ倍シ玉ヒテ、其金ヲ聚メラレ業ヲ改メ正民トナルモノニハ大抵二三年ノ貯ヘ正業ノ元トナルホドヅツ金ヲ與フベシ、カクノゴトクシテ一人ニテモ減ズルニ隨ヒテ、其戸ヨリ出スベキ出金ヲ殘ルモノヨリ增テ出サシムベシ、ダン〳〵ニカクシテ行時ハ、年々ニ減ジ出金多クナリテ迷惑スベシ、大テイ二三百家マデ滅ジタルトキ、一ケ處新傾城町ヲ御免アリテ、其餘決シテ嚴禁アラバ實ニ

ヤムベシ、然ルニカヽル大造ノコト三都ヲハジメ天下ノ船着宿驛マデ一同ニ命ゼラレ、私ニ免スコトナク、又同法ナルベシ、然ドモコノ術二三十年ノ功ヲ積ザレバナルベカラズ、宰相タル人カハラズシテ怠リナク下知アリテ、有司下吏ニ至ルマデ皆ヨク一致シテ、異議ナクシテ行ヒ遂サセザレバ、叶フマジ、中途ニシテ廢セラレナバ大ナル弊害トナルベシ、却テセザルニ愈ルナリ、王者オコルト雖世三十年ニシテ後仁ト云、善人國ヲ治ルコト百年ト云ヲ以テミルベシ、堅白タラズシテ大權ヲ行ヒ中途ニシテ止ムヨリハ、小補ヲ行ヒテマヅハ止ムベシ、風俗ヲ變易セントスルニハ、先ヅソノ身ヨリ正シソノ器ヲ利シ、ソノ叱所位ヲ得ザレバナルベカラズ

十一　近來菜種且油ノ制禁甚ダシクナリテ、諸國ヨリ大坂ヘ運漕ノ高ヲ改メテ、國々ニテ手作手絞ノ外ハ油ノ賣買ヲ禁ゼラル、油ハ米穀ト異ニシテ多ケレバ多ク用ヒ、少ケレバ少ク用ヒ、タトヒ闇夜ニ臥スト云トモ飢饉ノゴトクニハアラズ、ソレトモ不足ナル時ハ寺社ノ常燈明且夜賣店ヲ禁ゼラルベシ、是ラノコトハ打捨ラレテ然ルベキニ、官ニ御益ヲトラセラルルニヨリテサマ〲ノコトヲ願ヒ出テ、ツヒニハ諸國ニテ菜種ノ賣買油ノ賣方ヲ禁ゼラルヽヤウニナリテ、ソレヨリ手作手絞ノ外ハ賣買ヲ禁ゼラル、故ニ西國ニテ菜種ヲ作リテ大坂ニ登セ、問屋ニ買コミテ油屋ニ賣出スヿニテ、油屋ト雖直買ハナラザル也、サテ西國ニハ又ソノ油ヲ買下シテ小賣スルコトニテ、不自由ナルコト云ベカラズ、ナンゾ天下ノ萬民コレヲ守ランヤ、ユヱニ國々ニ隱匿ノコトアリト雖、一々禁ズルコトアタハズ、ミナ此

御益ニ遣ハル丶ナリ、ワヅカノ御益ニカヽリテ、カヽル天下ノ難トナル歎ズベシ

十二　銅ノ定價ハ無用ノコトナリ、今貴價ノ物ヲ賤價ニウリ出サシテ、商賈ノ貴ク賣買スルモノヲ捕ヘテ刑セラル、ソレ民ノ利ニワシルハ恒ノコトナリ、貴物ヲ賤價ニオサヘウラシメ、貴クウリカヒスルヲ刑シ玉フハ、民ヲ罔スルナリ、コレハ定價ノ賤キヲ止サセラレテ、入札ヲ以テ持前ノ本價ニウリ出サレナバヨカルベシ、官ニモ益アリテ元山ニモ益アルベシ、元ヨリ商賈ニモ罪人ナクシテ正價ニ歸スベシ、コレラノコトハ何ノ謂アリテカ如レ此ヤ、サダメテ其理解アルベシ

十三　漢土女子ノ足ヲ小サクスルコト古書ニ見エズ、イツノコロヨリカ甚シクナリテ、貴女ホドイヨイヨ尙サラ足ヲセメツヽミテ、太トラザルヤウニスト、甚シキニ至リテハ席上トイヘド行歩スルコトアタハザルニ至ルトナリ、古ヘヨリ足ヲツヽミテ顯サヾルコトハ、男女トモニ禮トスルコトニテ、スデニ日本ノ風俗ヲ徒跣ナリト哂ヒタリトナン、然ドモ漢人ニ異ルノミニテ、足ヲアラハスヲ道ニ差フト云ベカラズ、漢人ノゴトクムリニ足ヲセメツヽミテ小サクスルコトイカヾヲシラズ、日本ノ官女寒中ト雖モ足袋ヲハクコトナク、板間ヲ徒跣ニテ步行シヒヾ皹ヲ煩ヒ苦シムコトハ、コレモマタ甚シカラズヤ、夏ハ徒跣シテ冬ハ足袋ヲハキテ然ルベシ、漢土ハ過ギ日本ハ及バズ、中道ヲ得タキモノカ、スベテ女子ノ禮法漢土ハヨク敬戒ヲナシ、敎訓モヨク內則ノヲシヘ列女傳ノ戒アリト雖、三代ノ昔漢晉唐宋ノコトヽ雖、イロ〳〵淫亂ノコトモアリテ今ノヤウニ嚴ナラザルヤウニ覺ユ、淸俗記聞ニシル

セシコト、ソノ餘ノ傳聞ヲ以テ考フルニ、今世ニ至リテハ女子ハ道路ニ出ルコトナク、山河遊觀ナドノコトモナサヾルヤウニキコユレドモ、ソレハ貴族豪姓ノコトニテアルベシ、下民貧賤ノ人ニ至リテカヽル所業ニテハ生活ナルベカラズ、恒代ノ遺風モ今ハイカンヲシラズ、然ドモ婦女子ノ敎戒ハヨク立タルナルベシ、ソレニ引カヘテ日本風俗ハ、山河遊場觀劇物見イツニテモ男子ヨリハ女子多シ、外國人ノ聘禮祭禮開帳ニ至ルマデ、ミナ婦人ノミ出ルコトナリ、外國人ニコレヲシメスハ歎ズベシトス、ソノ外娼家ノアリサマ女商旅舍茶店ノルイ計ルニ暇アラズ、アヽ外國ヨリシテ何トカイハン

十四　經濟ハ民ヲシテ信ゼシムルニアリ、民信ゼズシテ何ヲカナサン、民ヲ信ゼシムルコトハ只ソノ身ノ行ヒニアルノミ、然ドモ其任久シケレバ其行ヒモ通ルベキニ、新タニ任ゼラレテハコレモ亦イカンヲシラズ、商鞅ガ木ヲウツシヽハモツトモヨシトス、シカルニ商鞅ノ心ハ變法苛刻ノコトニシテ、國ヲ富サントス、ユヱニソノ爲ル所民心服セザルナリ、ソレヲ强テ行フコトユヱニカクノゴトク信ヲウリタルモノナリ、スデニ信義ノ人ニシテ又加フルニ聰明ナレバ、ナンゾ一月ヲ待ン、民ヲ治ムルコトハコレヲ掌上ニメグラスゴトクナルベシ、文王民ヲ見ルコト傷ムガゴトシ、此心ヲ以テ民ニ臨ムアニ服セザルコトヲ得ンヤ、其上ニ機ニノゾミ變ニ應ズルノ權智ハミナ此仁心ヨリ涌出ルコトニシテ、ソレヲ以テ行フコトナリ、シカラザレバ文武ノ道方策ニアリト雖、其人ナケレバ止ミ、其人アレバ方策ハ見ズトモ、其人ノ心中皆文武ノ心ナリ、動搖周旋道ニ當リ、衣裳ヲタレテ天下治マルベシ、豈難キコト

アランヤ

十五　宗旨ノコトハ切支丹ヨリ起リテ、ソレマデハ無キコトナリシニ、寛永ノ島原亂ヨリ始リテ今ハ嚴重ニナリタリ、元來戶數口數ヲ正シ、天下ノ總人別ヲ數フルコトハ第一ノ制度ニテ、數家ノ口ヲカゾヘテ一村ニ合セ、數村ヲカゾヘテ一縣ニ合セ、數縣ヲカゾヘテ一國ニ合セ、數國ヲカゾヘテ天下ニ合ス、シカル時ハ年々歲々戶數口數ノ增減クハシキコトニナルナリ、ユヱニ漢土ニテハ漢ノ代ヨリ代々此數ヲ擧ゲテ記シ、地理志一統志ノルイニ必每省ノ戶數口數ヲシルスナリ、コヽニオイテ漢土ニハ歷代ノ口數顯然タリ、シカルニ今切支丹ノコトヨリシテ天下ノ口數ヲ佛寺ニ寓(ヨセ)テ、宗旨請手形ヲ出シ、コレヲ以テ其村其處ニテ合セテ官ヘ上ルコトトナル、シカルニ人別ノコトト宗旨ノコトハ別事ナルヲ、カク兼サセラルヽユヱニ、寺僧モ佛ナクテハ天下ノ籍ニ入ベカラズトノヽシルナリ、サテ又コノ人別モ制度ノ部ニ云ゴトク、奴婢ハミナ親元ノ籍ニ入レテ主人ノ籍ニ入ベカラズ、左ナクテハ人ノ出處タシカナラズシテ、ツヒニハ身輕キニ任セテサマ〴〵ノ姦モオコルモノナリ、又多ク親元ヲ除カズシテ主人ノ籍ニ入ル、故ニ戶數ハ計ルト雖口數ハ計ルベカラズ、一身ニシテ二處三處ニ入ルモノアレバナリ、シカレバソレ〴〵親元ニオキテ主人ニツカヘ、ソレヨリ分家スルモノハソノ時ニ親元ヲ除キテ新戶ニ入ルベキナリ、ユヱニ豪富ニシテ召仕多クアリトイヘドモ、人別ハ父子・夫婦・兄弟ノミニテ、奴婢アルコトナシ、今ニテ豪家ノ人別ハ主人ハ三五人ニシテ、奴婢ヲ合セテ多クナル、コレヲ禁トスル

コト也ト雖、天下一統ソノ制度ナラバナンゾ拘ラン、サテマタ宗旨改ノコトトイヘドモ、天下一統セズシテ大阪・京師ハ嚴重ニ寺ヨリ證劵ヲ出シ、彼等切支丹ナラバ拙僧越度ニナルベシト肯フコトナリト雖、ソノ外ノ國々在々ハソノ證モトラズ、西海ニテハ長崎ヨリ天主ノ銅像ヲ諸侯ヨリ求メカリテコレヲ踏コトナリ、コレヲ畫踏ト云テ老若男女莊官ニ至リ、吏人ノ面前ニテコレヲ蹈ム、然ドモ是ハ九州ニ限ルベシ、ソノ餘アルコトナシ、江戸ハ寺ヨリ證狀モ出サズシテ、名主ニテ人別ヲ齊フルヨシナリ、ソノ外ノ國々イカンヲシラズ、又人別ノ改ト云トモ、京ハ三月ニアリ大阪ハ九月ニアリ、ソノ外ノ國國四季サマ〳〵ニアリテ同ジカラズ、シカレバ死生徙移アリテ此數明ラカナラズ、コレラハ公領私領ノ差別ナクシテ、天下一統ニアリタキモノカ、故ニ戸口ノ數明ラカナルコトヲ得ザルナリ、大テイ百姓ノ口數一萬石ニ一萬人ノ標的トス、ソレヨリ多キハ人多トシ、少キヲ少シトス、コレハ田地餘ルナリ、山中ハコノ類多シ、海濱大都大湊ハ人別多キナリ、願クバ天下ノ戸籍改正シテ、實數ヲ得ルノ政アラマホシキコトナリ

十六　金銀貸借ノコト當時ヨリ甚シキハナシ、史記ニ孟嘗君錢ヲカスコトアリ、ソレヨリ前ニモ子貢范蠡ノルイハ息ヲトリテカシタルナラン、漢ノ代ニハ又多シ、ソレヨリダン〳〵多クナリタルベシ、

貨殖傳ニ曰、君子富好行二其德一、小人富以適二其力一ト范蠡産ヲ治メ、積居テ時ト利ヲ逐テ人ニハタラズ、三タビ千金ヲ致シ、二タビコレヲ散ス、子孫業ヲ治テコレヲ息スト、此ヲ息スト云モノハ、スナハチ錢ヲ貸テ利息ヲトルコトナリ、息ヲトルコト古ヘニアルナリ、「白圭樂觀二時變一、故人棄我取、人取我與」コレヤスキニ買テタカキニウルナリ、貨殖傳ヲ按ズルニ、春秋戰國ノ時ヨリ、大賈豪富ノ家多シ、釋迦トキニモ長者多シ、又日本ニモ古來稱スルコトナリ　日本ニモ古ヘヨリ金錢ヲカ

スコト多クアルナラン、然レドモ當時ノ如クニハアルベカラズ、近年ダン／＼天下ノ金銀多クナリテ、ソノ半ハ大阪ニアリ、ユヱニ天下コレヲ富饒ノ地トス、東西ノ諸侯ミナ大阪ニ借リテ用ヲ辨ズ、北國・西國・中國ノ米コクミナ大サカニ集ル、又紅毛・淸ヨリ渡リ來ル、藥種・砂糖ヲハジメミナ大阪へ買込テ諸國へ賣出スナリ、故ニ大阪ノ地ニ金銀アツマリテ富豪ノモノ多クナリ、諸侯モ大阪ニテ金銀ヲカルコトトナル、ソノ金銀ヲカヘサヾレバ庶人ハ當衙ニ訴ヘ、武家ハ東都ノ寺社奉行ニ訴フ、京師モマタシカリ、官ニモサマ／＼ノ法アリテ償ヲ命ゼラルトイヘドモ、カヘサヾレバツヒニ限金（キリカネ）トナル（年々月々ニカヘスヲ云ナリ）庶人ト雖同ジ、大阪ハ異ナリ、庶人ハ擧籍（シンダイカギリ）債ニワタスユヱニ、再ビ籍ニ入コトヲ得ザルナリ、又大阪ハ證券十年ヲ過レバ官衙ニ聽レズ、江戸・京ハ此コトナクシテ時々棄捐ト云コトアリ、コレヲ徳政ト云、足利時代ニハ三年五年ニアリテ、質物ト雖オキ主へ反サシメラル、甚シト云ベシ、江戸ハ寛延ノコロアリテ又寛政ニアリ、斯ノ如ク天下三都ノ制度ト雖一ナラズ、況ヤ諸國ヲヤ、然ルニ仁心アリテコレヲ裁スルニハ、負方へ荷擔セズンバアルベカラズ、カシ方ハ富民ナリ、カリカタハ貧民ナリ、タヾコヽニ心得アルベシト雖、又コレヲ嚴ニセザレバ姦人アリテ欺ニ至ル、曾子曰モシ其情ヲ得レバ哀矜シテヨロコブコトナカレト、コレ獄ヲ聽ノ要語ナリ、タヾ廳上ニアリテキク時ハソノ訴人ノ言語ノヨカラザルヲ惡ミイカリテ、居丈高（イタケダカ）ニナリテ訴人ト爭フユヱニ、ソノ是非得失ヲ解セズシテ事ヲ過ルコト多シ、只ソノ訴人ノ相手ニナル故ナリ、コノトキニ至リテ重科ノ罪人姦惡ノ情ヲアラハストキハ、上ノ敎戒行

屆カズシテカヽル罪人出來ルコトハ上ノ罪ナリト顧テ、我ヲカナシミ罪人ヲアハレミ、憂フル時ハヨク其仕置行屆クベシ、ヨキカナ板倉公獄ヲ聽クニ、茶ヲ挽テ聽玉ヒシト、アヽ學バズシテ聖賢ノ旨ヲ得タリト云ベシ

十七　金ノ耶律楚材曰「興二一利一不レ如レ除二一害一」ト政ヲスル人心得ベキナリ、熊澤先生モ新田ヲヒラクハ古田ノ害ナリト云、一利ヲ興ス時ハ必其一利ニ凝カタマリテ、外事ニ拘ハラズ、ツヒニソノ利ニクラマサレテ害ノソノ裏ヨリ來ルヲシラズ、新法ノコトハヨク〳〵考ヘザレバ、容易ニ起スベカラザルコト也、古法ノ内ニモ時ニ古今アリ、處ニ善惡アリ、位ニ盛衰アリ、古ヘヨシト雖今日アシク、他ノ害ニナルコトハ早ク除キテ害ヲ避ルベシ、アナガチニ祖先ノ古法ニ泥ムベカラズ、然ドモ古法ヲ改革シ權道ヲ用ユルコトハ、十分ノ善ヲ得ザレバ變ズベカラズ、商鞅新法ヲ行ハントス、甘龍曰、「知者不レ變レ法而治、因レ民而敎不レ勞而成レ功、緣レ法而治者、吏習而民安レ之」ト云々、杜摯曰、「利不レ百不レ變レ法、功不レ十不レ易レ器、法レ古無レ過、循レ禮無レ邪」ト、コレラノ語商鞅用ヒズト雖又知ラズンバアルベカラズ、只コレ其人ニアルノミ、用ユルト用ヒザルト時處位モアルベシ、株ヲ守リテ論ズベカラズ、シカルニコヽニ一言アリ、曰ク、「中人以上可二以變一レ法、又可二以爲一レ權、中人以下不レ可二以變一レ法、又不レ可二以爲一レ權」只コレコヽニアルノミ、必シモカル〴〵シク法ヲ變ジ、權ヲ用ユベカラザル也

十八　履軒先生華胥國物語ヲ著シ、今ノ諸侯ノ國計ノアリサマヲ云、ソノ略ニ云、華胥國ニ郡國アリ、

ソノ中ニ南柯國アリ、前公卒シテ嗣君初テ國ニ就ク、事ノ初ニ庶政ヲキクニ國體大ニ亂レテ、マヅ米倉ハ雨モリ水タマリ、金庫ニハ秣ヤウノモノヲ入タリ、コハイカントテ司々ヲ召テ問玉ヘバ、皆イヘラク年々ノ公務ヲ初メ、先公ノ升リ下リ、都第及ビ國中ノ賄ヒ、有司ノ給イカバカリカハ、此國イト貧シケレバ、倉廩ニ物アリシハ我等ガ祖父ナドノ弱カリシ時見タルコトノアリシト云、ユヱニ民生ノ來年ノ貢マデモ取ハタリテモ猶足ラズ、王都ノ豪富ニカリテ目前ノコトハ過セドモ、難波ノ芦ノカルニマカセテ彌增ニ生ヒ榮フナラヒニテ、今ハタイカントモセンカタナシト云ニ、公キヽモアヘズアマリノコトナレバ、物ヲモ得イハズ泪ヲハラ〱ト流シテ、ソノ取ハタリタル民生ハ何ヲ以テカ命ヲツナグゾト問玉フ、サレバ山ニ入テ芋・薢艸(トコロ)・葛ノ根ヲホリテ日ヲスゴス、牛馬ノヤウニ藁ヲシキテソノ上ニ蹲リ、夜ヲアカスト云、公聞玉ヒテ凡國ノ主タランモノハ、其國民ヲ育ムヨリ外ハナシ、民ノサバカリナルニ余イカデカ溫カナル衾ヲ着、旨キ飯ヲ食フコトアランカ、今夕ヨリシクベキ藁上レ、芋トコロヲホリニツカハセヨトナク〱仰セラレテ、ソレヨリワラノトノヒモノ芋・薢艸ノ臺盤トゾ定メタマヒヌ、人人イロ〱ニナダメテモキヽ玉ハズ、母君ノ諫ニテヤウ〱半ヲ減ゼラル、サテソレヨリ日々ニ山海田野ノコトヲクハシク聞玉ヒテ、曰ク、コノ國ノ定リタル貢ハ十萬俵アリケラシ、今年ヨリ五萬俵ササゲヨ、殘リハミナユルセヨト、司人ラオドロキテ云、コレハ難レ有キ思召ナレドモ、一年計何ヲ以テツグノフベキ、十萬俵ニシテダニ足ラデ民ヲハタリ入ノ貨ヲカリテ賄フ、タレニウキメヲ見セ玉フモ

ノカナト云、公曰ク、憂キ目ハ吾一人ミン、人ニハ見セジト、多クノ人民ニ代リテワレ獨飢エコヾエテ死ナンニ何ゴトカアルト、ソノ法ヲ立ラル、アクル春王都ニマイリテ委ク奏シ、身ヲタテマツリテ乞玉フ、大王歡ビ感ジテソノ請ニ從ヒ玉フ、主ワヅカノ僕ヲツレテ國ニカヘリ、儉ヲ守リ政ヲ治メ、彼五萬俵ヲ以テ有司ノ祿ニ與フ、今マデハ祿ノ半モ取得ザリシヲ、此度定祿ヲ賜ハリ、ワヅカ殘リタル數千俵ヲ都ニノボセ、オヒ物ヲツグノヒ、今ヨリハ年々ニカクスベケレドモ、元數ノ多ケレバコトユクベクモ見エズ、サレバトテ寶藏ヲヒラキテ、玉ニアレ金ニアレ、諸ノ器物畫ニ文ニ數ヲツクシ、別チアタヘテコレヲウリテ、カリモノ、内ニトルベシトノ玉フニゾ、豪富オドロキテ何條サルコトノアルベキ、稀代ノ寶物ヲ人ニウルベキヤハ、今ヨリ利息ハトルマジ、年々ニサルベキホド米賜ヒナン、元金ダニスミナバコノ寶ハカヘシ奉ラントテ取オキヌ、偖カクノ如クニテ民モ有司モ債モソレゾレニ惠ノ露ニ潤ヒタルト雖、公一人ノ眷屬ハイカヾスルト云ニ、山ニ木ヲコリ海ニ網引クモノ、鹽ニ鐵ニワヅカナル租稅ノ物ヲ以テ賄ヒ玉フ、臺盤ハ芋蕷艸ノミ、絹布ハカタハシニ着ヤブリテ新衣ヲ求メズ、板屋ノヤブレテ雨風モレドモ葺モ合セズ、絲竹ノ音ハ聞コトナシ、司人ラモコレヲ見ナラヒテ質素ニシテミナ〳〵富サカエケル、民ノ竈ハ殊サラニ烟イヤマシニ立ノボリテ、相共ニ云、我ラヲ救ハントテ上ノ殿ノ芋蕷艸ヲマイラセル、、コノ御惠ミニテ今カクユタカニナリ、倉ニ米ミタヌ家モナク、フクラカニ溫ナル衾キヌ民モナシ、芋蕷艸食フ人ハタヾ上ノ殿ヒトリニナン、カクテハ天罰オソレア

ラント、其ヨリ各前々ノ如ク貢ヲ奉ラント云ト雖、キヽ入玉ハズ、ダン〳〵ニ數萬人谷ニ林ニミチ、篝ヲタキテヲメキサケブ、村長等驚キナダムレバ、イヨ〳〵事オコラントスル故ニ、ソノ旨ヲ訴フ、主キヽ玉ヒテ曰、前ノゴトクニ取リナバ又モヤ後々ハクルシマン、民願ニ任セテ年ノ豊凶ニ從ヒテ、心ニ思ハンホドサヽゲヨトオホセケレバ、民共ヨロコビサヽグル程ニ、ソノ年ハ十五萬俵サヽゲリ、倉司等モサナサヽゲソ、半ハ持テカヘレトイヘドモ、耳ニモ入レズツミ上ル、アシクイハヾ拳(コブシ)アテナン眼ザシナレバ、シヒテモイハズ自然ノムクイニカ、豊年ツヾキテ七年ト云ニ、天下ナラビナキ富國トハナリヌ、又都ノヲヒモノモ滿テ實物ヲ返シ奉リテ、元ノ藏々ニ納メツヽ、彼米倉金藏モコト〳〵ク充リケリ、主モ都ニノボリテ國中ヨク治リヌ、又前ノゴトク參勤ツカマツラント奏シケレバ、大主モ悅ビ玉ヒテ位二等ヲ賜リテ、烏號ノ弓ヲ手ヅカラサヅケタマフ、是ヨリシテ民ハ多クサヽゲント云フ、司人等ハ少クトラント云テ爭フコト多シ、ソノ外ニ訴訟ハナカリケリ、此主ノナシオカレタル善政多クシテ傳ヘタル中ニ、村々里々ニ道場アリ、人ノ家居ニ交リタルヲ、ソノ住持ノ僧ヲ還俗サセテ、近邊ノ兒ラニ手ヲカキ文ヨムコトヲ敎シメ、其妻ハ女子ヲヲシユ、サテ佛像ヲヤメテ孝弟廉耻ナドノ文ヲカケカヘタリ、又心スナホニシテ耕作ノ業ナドヨク心得タル老人ニハ、コノ還俗ノ男ニサシツドハセテ、若キ男ラニ孝弟ノコトヲ云キカセケレバ、オノヅカラ心マメシクナリテ、爭ヒ訴ルコトハ世ニタエニケリ、彼里ノ中ニ小ザカシキハ、村ヨリ里ニスヽメ、里ヨリ國府ノ學館ニスヽメ、後ニ

ハ司人ニナリテサカニヌ、又還俗ラモ功ツモリテ村ヨリ里ノ數ヲツカサドリ、里ヨリス丶ミテ學館ノ博士トナリ同ジクサカエケル、主ノ世ヲツゲル始メヨリ、民ノ田多ク買コトヲ堅ク禁ジ、今マデ持タルハ其儘ニテ、田モタヌモノニ始メテ買フハ一丁ヲ限リト定メツ、サレバ田モチテウレズシテナゲクモノニハ、公ヨリシテ代ヲアタヘテ買トリテ、田モタヌモノニ貸シテ作ラセ、買モノアレバ賣モシケリ、又多ク持タルモノハ或ハ弟ニ分チ與ヘ、又ハ親屬ニアタヘナドシテ働ラカセケレバ、國中ニ田モタヌ民モナク、多キモノモナク行ワタリテ、ゲニモ富モノアルユエ貧シキモノモ出來ニケリ、富ノスギタルハ奢ノ甚也、奢者アレバ美ムモノアリ、ツヒニハ子ヲウリテモ身ヲカザル類世ニ多カリ、ウラヤム心ノナキコソマコトノ樂ミナレ、國府ノ東ニアタリテ廣キ荒野アリ、ハヾ十町長サ二里バカリモヤアラン、水ノカヽリアシヽトテ、昔ヨリ田作ルモノモナカリシヲ、此ゴロ龍尾車テフモノヲ作リテ、イカナル深キ谷水モ汲上ルコト自由ナリ、抑コノ國ニ軍ノソナヘトテ養ヒオケル兵卒アマタアリケリ、マヅ弓ノ兵卒五百人五組トシテ、頭五人アリ、頭ヲ召テ此野ヲ兵卒ドモニ一丁ヅヽアタヘン、十人ヲ一隊トシテ家居ヲサダメ、田ヲ作ラセヨ、アラ田ナリ出ルマデハ、今マデノ祿トラセント仰セケル、カクテ三年スギヌレバアラ田ヨクナリヌ、今ヨリハ祿給フマジ、公役ナド掟玉ヒナント云出レバ、サラバトテ掟ケル、何ニモアレ作リ出セシモノヽ十ガ一ヲ租稅トサダメ、公役ハ十家ノ内ヨリ二人ヅヽ常ニ勤メヨ、國ニモアレ都ニモアレ、ソノ食物衣類ハノコリノ八家ヨリ出スベシ、サテソノ十

一ノ税ヲ頭五人ノ祿トサダメ、ソノ耕ニ牛ヲ用ヒズ馬ニ犁スカセケリ、常ニ物負セテ山坂ヲハシラセ、叱々ハ鞍ヲ置テトヽノフルニ、カヘリテヨキ馬ナン多ク出來ニケル、ソレヲ都ニヒキ出レバ多ク金ヲ得ケル、元ヨリ牧ノ駒ヲツレ歸リテ飼ソダツルノミニテ、費ナクシテ德ツクコトナレバ、家ゴトニゾ飼ケル、又北ニアタリテ大キナル澤アリ、カノ龍尾車ヲ以テ水ヲクミホセバ、忽チ良田トナル、コレハ鉾ノ兵卒五百人ニ分チアタヘ、西モ南モミナカヤウニナシテ、兵卒合セテ二千人、頭二十人ノ祿ハ外ニ求ムルコトナク、又四叱ノ教練折々ノ犒賞マデモ、ツブサニ掟ケリ云々、此物語ハ寓言トイヘドモ、爲ニスルコトアリテ云ノミ、コノ中ニ君トシテ民ノ父母タル仁義ハ勿論、儉ヲ示シ身ヲコラシ上ニ奉ジテ貨財ヲ節シ、ヲヒモノヲ償ヒ、新田ヲヒラキ、經濟ノコトマデミナ洩ルコトナシ、ユヱニ余コヽニ出シテ諸家ノ有司ニ告ルモノナリ、ナホ委キハ本書ヲ求メテ熟讀スベシ

十九　如來先生（細井甚三郎名德民）ハ紀氏ニテ尾張ノ人ナリ、徵シテ博士トナル、野芹ノ書ヲ著シテ公ニ奉ラル、ソノ略ニ曰、國ノ財用ハ土地ト民力トノ二ツヲ根本トシテ生ズルヨリ外出ルモノナシ、大小民力ノ多少ニ隨ヒテ、財用ノ生ズル高モ限リアルコトユヱニ、財用ヲ用ユル法ハ入ヲ量リ、出ルヲ制スルヨリ外ハナキナリ、入トハ年中ニ收マル處ノ物成ヲ云、出ルトハソレヲ遣ヒ出スコトヲ云、入來ル高ニ合セテ遣ヒ出ス高ヲサダムルナリ、シカルニ家國ノ費用イツモ定マリタル通リハナキモノナリ、不時ニ出ルコト多キモノナレバ、財用不足ト云時ハ、節儉ノ政ヲツトメテ各別ニ費用ヲ減ズルノ外ナシ、

元來定法ヲハヅレテノ上ニ不足ノコトアレバ、定法ノミニテ元ヘ戻スコトハナラザル也、故ニ非常ノ法ヲ以テツカヒ方減ジ、元ヘトリ戻スコト也、非常ノ法トテ、無理ナル制ヲ定メテ下ヲクルシムルニハアラズ、非常ハ不斷ニナキコトヲ云ナリ、君ハ一國ノ臣民ノ天ナレバ、尊キコト云ニ及バズ、シカレバ、上一人ノ奉養ハ一國ニ準ジ獨ユタカニアリテ飮食衣服ヨリ諸物ニ至リ、何一ツコトノ缺タルコトモナク、ソナヘテイツキカシヅカレ玉フハ、コレ人君ノアタリ前ナリ、然レドモ國中ヨリ天ト仰ガレ玉フカラハ、其身ニモ天ノ如キ德ナクテハ、君ノ位ヲ長ク保ツコトハナラヌモノ也、コレハ聖經賢傳ノ上ニテ、古今人君ノ賢愚興亡歷然タルコト也、天ノ如キ德ト云ハ、天ハ萬物ノ父母トシテ凡天地ノ間ニアラユルモノ、天ノ惠ヲウケザルハナシ、ソノ如ク一國萬民ノ天トナレバ、天ノ心ヲ心トシテ臣下民生ノ父母トナリテ、萬民ヲ惠ミソダテザレバカナハザルハ、コレ人君ノ常ナリ、然レバ我ノミ溫ニ着テ、飽マデ食ヒ逸居スルコトハナラズ、我身ノ飢凍ノ苦シミヨリ、萬民ノ飢凍ヲカナシミ、臣民ヲ子ト思フ時ハ一人安樂ヲシテハ居ラレザル也、シカレバ平生無益ノコトヲ省略アリテ、君ノ安樂ヲ止サセラレ、下萬民ト同ジク艱難ヲ分チ玉フベキコト、コレ根元ノ君タル人ノ心得ナリ、君ハ一國ノ天下ナレバ、一人ハイカヤウニ安樂ニアリテモ、士大夫ヨリ下萬民ニ省略セヨトアリテモ、畏リ入ベキコトナレドモ、スベテ政ハ下ノ心ノ上ニ和スルヲ以テ行ハレ、不和ヲ以テヤブル、タトヘバ一軍ノ宰配ヲ司ドル大將ハ一軍ノ頭ニテ、諸軍兵ハ手足ナリ、頭ガ亡ベバ手足モ隨テ亡ブ也、然レバ一人

ノ大將ハ大事ノ一命ナレドモ、大將バカリ楯ノ後ニカクレテ矢玉ヲシノギ、軍兵バカリカヽレ〳〵ト宰配ヲフリテハ、一人モスヽムモノニアラズ、進メカヽレノ下知ニ及バズ、大將必死ニナリテ眞先ニスヽム時ハ、大軍一同ニカヽルコトニテ、先ヲ爭ヒ矢玉ヲオカシテ一命ヲ抛ツヤウニナル也、是人心ノ和ナリ、ユヱニ人君ノ尊キ身ヲ以テ士大夫ト同ジク苦勞ヲ須チ玉フ時ハ、國中ナビキ隨ヒテ制度ヲ守ル也、シカレドモ實心ナクシテ只下民ヲナビカスノミノ心ニテハ、却テ不服ニ至ルナリ、君上ノ心ハ樹木ノ根本ノゴトク堅固ニシテユルガザレバ、枝葉ハ自カラ榮フルナリ、儉約ノ政ヲ立テ財用ノ足ルナリト云ハ人君第一ノ仁德ナリ、民ハ令スル處ニ從ハズ、好ム處ニ從フハ下ハ上ノ心ヲ以テ心トスルユヱナリ、然レバ上一人ノ心ニテ下萬民イカヤウニモ導ビカルヽモノナリ、上一人質素ノ風アレバ士大夫百姓ニ至ルマデミナヨク儉約質素ニナルナリ、シカレバ士大夫百姓自然トトミテ愁苦ナキヤウニナル、コレヲ惠ンデ費サズト云、上カクアレバ下モ亦カクアルベシ、ソノ中ニモ奢侈止ザルモノアラバ、是樹木ニ枯枝ノ出來タルヤウナレバ、早ク切折テ弃ベシ、根本ノカマヒニナラザル也、當世諸家ノ不如意ナルハ、皆入ルヲ量ラズシテ出スユヱナリ、萬石ハ萬石、十萬石ハ十萬石、國中ヨリ出ル財ハ限リアリ、平生ノ費用ハ限ナシ、農工商ハ少ク士ハ多シ、シカレバトテ國初ヨリ家隸減ズルコトアタハズ、然レバコノ儘ニテ儉約ハナリガタシ、有司ノコトハ十人ヲ五人トシ、五人ヲ三人トシテ減ズルコトハ、制度ノ立方ニテ減ズベシ、コレニテ餘分ノ費用ヲ省クベシ、コレトテモ急ニハナリガタ

シ、上ノ思召ニテ減ジ方モアランカ、臣下ハ君ノ惠ナラデハ立チ行ザレバ、徒ラニ減ズルノミニテハ枝葉枯ルベシ、然ドモトカクニ根本ヲヨク養ヒ、文武二道ヲ守リ、孝悌・忠信・仁義・禮讓ノ德ハ文ヨリ起ルトシ、質素・敦朴・篤實・廉直ノ風ハ武ヨリ生ズトシ、サテマタ節儉ノ政ハ君ノ宮中閨門ヨリ出ルモノナリ、女子ト云モノハ尊卑賢愚一統ノ道理分リガタシ、平生ニ定法ヲ立オカザレバ、俄ニハ取シメガタキモノナリ、ユヱニ萬政コレヨリ破ル、近年米澤侯ニテ節儉ノ政ヲハジメラレシニ、最初ニ奥向ヨリシマリヲ定メテ、五十人餘ノ婢妾ヲタヾ九人トシ玉フ、尾州ヨリ付ラレシ女マデモ返シテ綿服一汁一菜ト定メ玉フニヨリテ、家中殘ラズコレヲ學ビタリ、ユヱニ此行ハルヽト行ハレザルハ、上一人ノ德・不德・實・不實ニカヽルコトナレバ愼ムベシ、人情ハ移リヤスキモノニテ、朋友ノ交リニモ、ソノ人人ニヨリテ眞似ル心モナケレドモ、イツトナク其風ノ移ルコト多シ、ユヱニ上ノ好ム處ハ早ク下ニ好ムモノナレバ、平生ノ嗜好モ大切ノモノナリ、華美僭上ハ早クウツルモノナリ、尙サラニ質素タルベシ、神君駿府ニテ小性ノ袴ヲ見玉ヒ、ソレハ何ト云モノゾト尋玉ヘバ、茶宇ト答フ、以ノ外ノ御氣色ニテ、大キニ怒リ玉フ、後世ノ奢靡ヲ憎ミ玉フコト箕子ノ賢ノゴトシ、スベテ根源ヲヨク養ヘバ枝葉シゲリ、花モヨク咲實モミノルナリ、ソノ本ノ培アシケレバ、花少ク實モナラズ、只コレ根本ニアリト云、此二章財用ノコトヲ云コトイヤシムベシトイヘドモ、國家ノ本ハ財用ニアリ、財用足ラズシテハ上下手足ヲオク處ナシ、ユヱニ根本花實ヲ以テコレヲ云ノミ

二十　板倉侯政ヲキク、曰クソノ訴人ニ相手トナルコトナカレト、確言ナリ、スベテ訴ルモノハミナ無理多シ、必ソレヲヨク心得テ聞ザレバ、ソノ無理ヲ恐リ、居タケ高ニナリテ訴人トアラソフ故ニ、ソノ理非分別シガタシ、理モ非ニオチテ大キニ政體ヲ失フ、コヽニ於テ茶ヲヒキテ訴ヲ聽コトアリト、コレソノ心ヲ従容トシテアラ〳〵シクナラズ、ヨク是非ヲ辨ズルユヱナリ、ソノ餘コノ侯ノ政迹マコトニ神ノゴトシ、板倉政要二篇ニノスルハ、大テイ百分ノ一ナリト雖、訟獄ヲ斷ズルハ、此書及ビ大岡忠相記ヲ熟讀スベシ、シカラザレバ心ヲ用ヒザル也、大抵御當代ノ訟ヲキク人ハ、板倉侯父子。大岡石河ノ人々ナルベシ

廿一　スベテ諸侯ノ財用ニオケル、今ノ世ニオイテハソレ〴〵ノ持口ヲ分ツニシクハナシ、古ヘハ亂世ニシテ家中ミナ軍役ヲ蒙ルコトナリシニ、治世ニナリテ軍役ナシ、ソノ代リトシテ公ヨリ寺社ノ造作ヲシ、川々ノ浚ヲ命ゼラレ、常ニハ門監・火消ヲ命ゼラル、コノルイハミナ家中ヘモワリツクベシ、タトヘバ十萬石ノ諸侯ナレバ、家中ノ分領ヲ合セテ公私トモニ知行高ニ賦スベキナリ、本ヨリ始メ命ヲ蒙リシ時、諸侯中ノ高割ニ受ルニアラズヤ、然ルニ此高ヲノコラズ國ヨリ出スハアタラザルナリ、國ハ十萬石ニアラズ、家中ヘ五萬石出ス時ハ國ハ五萬石ナリ、ソノ高ニ賦スル時ハ、公儀ノ割ト同理ナリ、カクアルベキコト也、ソレヲ家中ヘ掛ザルハ廉ニ過ルト云ベシ、コレ卽侯モ有司モ心付ザルナリ、然ルニソレニ引替テ、常ニ國用足ラザレバ家中ニ命ジテ、カリ上トナルコト、是ハ虐ニ過ルト云べ

シ、主命ナレバ是非ナシト雖、國用モ私用モミナソレ〴〵ノ格式アリ、國ニ足ラザレバ私ニモ足ラザルナリ、然ルニソノスデニ足ラザルウヘヲ又カリ上ラルヽハ痛キウヘヲ又打ルヽト云ベシ、是ニテハ法制立ズシテ名正シカラザル也、然ルニ公務ヲ以テ家中ニ賦スルハ前ニ云如クソノ理アリ、ユヱニ是ヲ以テ公私共ニツトメテ平常ノ不足ハ掛ベカラズ、又コノ外ニ飢饉ノソナヘスベテ知行ニカヽリタルコトハミナ賦スベシ、近年領主百姓ト籾圍ヲ命ゼラル、領主五十石百姓五十石トノコトナレバ、コレモ亦家中ニ掛クベシ、然ルニ是モマタ論アリ、ソノ領主百姓トアレバ地方ニハ掛クベシ、藏米ノ家中ハ百姓ナシ、コレヲ以テ分ツベシ、今ノ法ハ薄キニ失スルカ、厚キニ失スルコトニテ、中ヲ得ルコト少シ、然ルニソノ厚キニ失フハ二三ニシテ薄ニ失フモノハ七八ニ居ル也、何レニモ經濟ノ疎ヨリ出ルコトナリ、城内及ビ江戸ヤシキソノ外寺社等ノ造作ハミナ國中ノ山林ヘ任スベシ、平常ニヨク山林ヲ養ヒ繁茂サセテ是ヲ伐出ダシ、ソノ代金ヲ溜オキテ家造ノ用ニソノフベシ、飢饉ノソナヘハ常ニ籾圍ニアリ、コレトテモ百姓ヲヨク〳〵サトシ公ヨリモ半ヅヽ出シ合セテ歳ヲツミテ蓄フル時ハ多クナルベシ、スデニ公務・火災・飢饉ノ三ツノ備アリコノ時ニ主役頭人ニ各別ノ人アラバ、タトヒ公命ナリトモ入ヲハカリテ出サザルコトヲ必トスベシ、公恐レテ命ノマヽニ従フトキハ、コノソナヘナラザルナリ其上ハ入ヲ量リ出ルヲ爲テ儉ヲ守ル時ハ、足ラザルコトナカルベシ、財用ハ只取シマリニアリ、コノ備ヘヨク立トキハ自然ト有司ノ胸中シマリアリテ無用ノ費ヲナサヾルナリ、コノ備ナクシテ三ツノモノヽ内、一ツ或ハ二ツ俄然ト出來ル時ハ計ノ出ベキ處ナクシテ、今日ノ用ダニ辨ズレバ明日ノ費

ニカヽハラズ、俗ニ云死一倍ノ金ニテモカリテマヅハ今日ヲ防グベシ、ナンゾ禮儀ヲ修ムルニ暇アラン、サテ又公務ノ割賦ト雖、ソノ時ニ至リテハイカントモスベカラズ、ユヱニ平常ニ家中ニ少シヅヽ割付出サシメ、國ヨリモ藏入米ノ割賦ヲ出シテ蓄ヘオクベシ、元ヨリ此金ヲ以テ慥ナル質ヲトリテ貸シ付利倍スベシ、大テイ十萬石ニ二萬兩ノ高トナリタラバ割賦ヲ免ズベシ、ソレヨリハコノ利息ヲ以テ備トナルベシ、王制ニ曰、邦ニ三年ノ蓄ナケレバ、邦其邦ニアラズト云ト、セメテハコノ三ツノ備アラバ一年ノ食ヲ以テ足レリトスベシ、今ノ諸侯ノ上首タラン

廿二　數聖人ノ中ニオイテ舜ニ限リテ大智ヲ以テ稱スルモノハ、ソノ私智ヲ用ヒズシテ人ノ智ヲトリテ用ユルヲ以テナリ、夫一人ノ智ハ限リアリ、數萬人ノ智ハ限リナシ、唯我一人ニシテ豈天下ノ限ナキ事々物々ヲ知リツクサンヤ、シカレバ則ミヅカラ足レリトシテ、下問ヲ耻テ諫ヲコバムモノハ、獨學固陋自暴自棄ナリ、芻蕘ニ問ヒ哺ヲ吐クモノハ、博識流通多才多能ナリ、人ニトリテ以テ行フモノハ、耕稼陶漁ヨリ以テ帝トナルニ至ル、人ノ知ヲ拒ミテ用ヒザルモノハ天子タリトモツヒニ放伐セラル（卿カリ木コリ獵師ニモ問ヒテ行フハ舜ナリ、周公知士テマツ、食ニアタリテ人來レバ含タル哺チ吐出シテ遇ヒ、髮ニフトキニ人キタレバソノ髮チニギリナガラ出テ遇フハ、其人チ失フチ恐ルヽナリ、カクノ如ク人知チトルニ急ナリ、舜ハ百姓ヨリ上リテ天子トナリ、桀紂ハ天子ナレドモ無道ユヱニ放伐セラル）　夫人ニトルノ知ノヒロキ、天下十億萬人ノ心知ヲアツメテ大成シタルモノナレバナンゾソレ狹カルベキ、然レバ則人ニ取テ行フモノコレヲ智者ト云、人ニトラザルモノハ其趣ハ知アルニ似テ其實ハ愚者ナリ、人ニトルノ大知ハ仁ソノ中ニアリ、仁ハ人ナリ天下ノ知ヲ大成シタル人情

ヲツクシタルナリ、天下ノ人情ヲアツメツクスコレヲ仁ト云、ユヱニ仁者ハ我身ヲツメリテ人ノ痛ミヲ知リ、己ガ欲セザル處ハ人ニ施サヾルナリ、天下ノ人ヲ見ルコト己ガ一身ノゴトシ、ユヱニ手足掌指ノ末トイヘドモ、其疼痛ヲシリソノ痾癢ヲシル、コヽヲ以テ醫書ニ中風ヲ以テ不仁ノ病トス、己ガ一身ト雖疼痛ヲシラズ、況ヤ他人ヲヤ、人知アリテ學ベバ聖賢トナリ、天下ノ人ヲ仁愍シテ己ガ血液ノ他人ヲ通フガゴトク、困苦ヲ見ルニ忍バザルナリ、カクノゴトキ人政ヲ秉ルトキハ、天下ヨク治マリ萬物各ソノ所ヲ得テ我身モトモニ立ナリ、ユヱニ實知ハ公知ナリ、又知アリテ學バザレバ奸賊トナリ、天下ノ人ノ物ヲトリ己一人驕奢ヲ極メントス、ツヒニ人ト己ト別物トナリテ、血液通フコトナク、妻子眷屬マデモ心々ニナリテ中風病ノゴトク、己ガ身内モ他人ノゴトシ、カクノゴトキ人政ヲトレバ、大ニシテハ天下國家ヲウバヒ、小ニシテハ盜賊トナリ、其身モツヒニ刑セラルベシ、ユヱニ虛知ハ私知ナリ、シカレバ則チ知ミガカズンバアルベカラズ、學バズンバアルベカラズ、又人ヲ取ルベシ、私知ヲ用ユベカラズ、コレヲ仁知兼備ト云、カクノゴトクナル時ハ、天下國家亂サント欲スト雖能ハザルナリ、今日本ヲ以テミルニ、恐ナガラモ上ノ仁智ヨク兼備シ萬物ソノ所ヲ得テ天下ヨク治マリ、其血液四海ニ溢レ、東西南北深山孤島ト雖通ゼザルハナシ、コノ恩澤ニヨクシ腹フクル、マヽニ、一ツ二ツト榮耀ノアマリ、思ヒツヾケ考フルニ、世代ノ奢侈ニナリタルハ昇平ノ弊ニテカクアルベキコトナリ、然ルニ此奢侈僭上甚シクナル時ハ、何クマデモ方量ナカルベシ、ユヱニ萬物ノアタヒ高貴ニナリタル

コト、百年來ニ凡三四倍ニ至ル、コレニヨリテ諸侯及ビ武家百姓ノ困窮イハン方ナシ、コレ米ヲウリテ萬物ヲ買フモノナリ、又商賈ハソノ米代金ヲ目當ニ衣服器物ヲウリ、傜工家作ミナコレヲ以テス、シカルニ近年諸物ノ價高クシテ米穀ノ價賤ケレバ、武家百姓ハ何ヲ以テカ用ヲ辨ゼン、米價高貴ナレバ民困シム、下賤ナレバ民歡ブト云ハ上古ノコトナリ、今世ハ諸物ミナ金銀ヲ以テウリカヒシ用ヲ達シ、奢侈僭上ノ時節ナレバ、米價賤クシテ用度タラザルナリ、古ヘヨリ天下ニ米コクヨリ寶トスルハナシ、シカルニ諸物ノ價貴ク米價賤ケレバ、民ソノ寶タルヲシラズ、ウカ〳〵ト食シ膾炙肉羹ヲ増シテ米ヲイヤシミ肉ヲタツトビ、ツヒニ金帛ノミヲ寶トシテ蓄積スルコトモシラズ、米ノコボレタルヲモ踏ニジリテ行ニ至ル、萬一ニ一年ノ凶作アラバ忽チニ餓死ニ及ブベシ、上ニハ民食四方ニアルベシト安ンジ玉ヒ、下ニハ民食御藏ニ充滿スト上下互ニ頼ニシテ万一ノ時ニイカヾアルベキ、コレ米穀賤クシテソノ寶タルヲシラザルユヱナリ、飢饉ト云ニ至ル時ハ金銀何ニカセン、山ヲナストモ食ベカラズ忽チニ死スベシ、シカレバ平常ニ米ヲ蓄ハヘ萬一ノ用ニ備フ、コレヲ仁者ノ政ト云フ、必シモ價ノ高下ニカヽハルベカラズ、價貴トケレバ米穀ヲ送リ來タリ、價賤ケレバ積カヘル、民食ノ有無唯價ニアルナリ、價サヘ上レバ聲ナクシテ米ヲ呼ブベシ、シカルニ有司ニコノ心ナクシテ只價高ケレバ下民苦シムト心得テ、日夜價ヲ下ルニ心ヲツクシ、米ヲ買テ藏ニ入置モノアレバ、大キニ呵リテ是ヲウリ出サシム（ソノ地ノ米價ヲ下ゲ、ソノ食物ヲ一粒モナキヤウニ拂ヒツクサセ、食ヲ蓄フノ心ナク、明日ニ至リテ民食ナク餓死スルヲマツ）コレ何ノ心ゾヤ、ワヅカニテモ買持モノ

アラバ幸ナラズヤ、萬一ノ用意ニ彌以テ買增サシムベシ、然レバ餓死ヲ救フベシ、此米ヲウリ出サシメテチリ〳〵ニナリタル上ニ、イヨ〳〵買コトヲ禁ズル時ハ、明日ノ食ナカルベシ、價ヒノミ賤キトテモナキ時ハイカヾスベキ、モシヤ金銀多クアル富有ノ國ナラバ、尙サラニ價ニカヽハルベカラズ、スベテ庶民ノ貧富アルハ米ノ高下ニカヽハラザルモノ多シ、今奢侈ノ時ニシテ元ヨリ米ヲモノヽ數トモセザレバ、米ノ高キハ菜肉一種ヲ減ジ、衣類一ツヲセザレバ入合フベシ タトヘバ一ケ年ノ入用百金ヲ以テクラスモノ、五兩ヲ米代トシ九十五兩ヲ諸用トス、コノ米高クシテ十兩ナラバ、五兩ハ儉シテ九十五兩ヨリセリ出スベシ、一ケ年十兩ノモノ二兩ヲ米代トシ、八兩ヲ諸用トス、コノ米高クシテ四兩ニナラバ、二兩ノ不足ハ八兩ノウチヨリ出シカヌベシ、コレヲ實究トス、前ヲ虛究トス 然レバ貧ニシテ價ヒニクルシムモノハ只十人ノ內ニ二三人ノミ コノ二三人ヲ救ハンガ爲ニ價ヲ下ルハ高キニ土ヲ持ガ如シ、一粒ノ食ノ爲ニ一桶ノ水ヲ呑ガゴトシ、ソノ上ニテ食ナクシテツヒニ餓死ス、コレ何ノコトゾヤ、有司ノオロソカナリ 然レバ是レヲ救フテ足ルベシ、殘リ七八人ハスクフニ及バズ、然ルヲコノ二三人ヲ救ハントテ米ヲ賤クシ、國中ニ賣シメズシテ新穀マデノ食ノ有無ヲハカラザルハイカヾアルベキ、徒ニ米價賤キトテコノ二三人ノモノ歡ブニアラズ、又七八人ノモノモ勝手ヨシト云タルマヽナリ、然ルニ迹ニテ食ナクシテ餓死ニ及ブトキハ、是何ノ益ゾヤ、然レドモ秋マデノ食ヲ貯ヘテ、モハヤ餓死ノ心ヅカヒナキ時ハ、其上ハ下ルトモ上ルトモ心任セナルベシ、シカレバ則凶年ニハ米價ヲ上ゲテ入津ヲ待チ、多ク買入テ民ノ餓死セザルヲ以テ大功トスベシ、ユヱニ仁者ハ價ノ高キヲ憂ヘズシテ米ノ足ラザルヲ憂フ也、價高クシテ苦シムモノハ上ニ云通リニ十ノ一二ナレバ、點檢シテ是ヲ救ヒ、米ヲ賤クウリ與フベシ、ソノ外ハ憂ナカルベシ 元來米ノ高下ハ、天下ノ有無ニアヅカリテ人力ニアラズ、シヒテ下ントスレバカナラズ害アリ、貧ヲ救フノ心アラバ價ノコトハステヽ、米ヲ相場ヨリ引下テウル

ベシ、本價ニカヽハルベカラズ、國ニ米少ナケレバ貴ク、多ケレバ賤シ、ヤスケレバ他國ヘ買トリ、タカケレバ他コクヨリ持來ルナリ、自然ニマカセテヨカルベシ、有司米金ヲ出シテ救フコトヲイトヒテ、直段ヲ下ゲテ救ハントス、ソノ害ノ大ナルヲシラズ、凶年ニハ價ハ自然ニマカセテ、食ノ多少ヲハカリ飢死サセマジトスルガ仁政ナリ然ルニコレ又大都小都大湊小湊アリ、又一國アリ一島アリ、サマ〳〵ソノ時宜ニヨルベシ、今大阪ニ六七十萬石ノ遊米アリ、ミナ切手トナリテ諸人買持テリ、江戸ニ遊米アルヲシラズ、諸國ヨリ積送リテ問屋ニアヅカリ一兩日ニ賣ベシト云米ハ一二萬石モアルベシ大阪兵庫ニテ問屋ノアヅカリ米ハ江戸ヨリ多シ、納屋米ト云遊米五六十石ノ外ナリ(コノ言辭多ク俗ニ隨フ、ヨミヤスカランガ爲也)ソノ外ニ備ナケレバ廿日ノ風雨アリテ米入ラザレバ、江戸ノ民菜色スベシ、一年凶トイハヾ三分ハ餓死スベシ、アヽ恐ルベキカナ、前論ノ如ク天下ノ智ヲアツメ血液ヲ通ハシ大成スルモノハ大阪ノ米相場ナリ、大舜ハ心ヲ用ヒテ天下ノ智ヲアツム、コノ相場ハ自然天然トアツマリ、大成シテ天下ノ血液コレヨリ通ジテ知ノ達セザルナク仁ノ及バザルナシ、ソノユヱイカントナレバ、五畿七道ノ米穀大阪ヘ送ラザルハナシ、ソノウチ關東・奧州・東海道ハ江戸ニ入ト雖、元來其不足ヲ大阪ヨリ補フコトユヱ、江戸ニ少ケレバ大阪ヨリ多ク送リ、江戸ニ多ケレバ少ク送ルユヱニ、血液江戸・大阪ヨク通ジヒヾキコトフルコトナク、今西國ニ蝗ス、飛檄ヲ以テ米ヲ買時ハ價躍貴ス、奧州豐ニシテ米ヲウル時ハ崩下ス、四國ニ風アレバ船ヲ飛シテ買ヘバ又上ル、北國順氣トシテ檄ヲ傳フレバ又下ル、關東洪水ニ上リ二百十日ノ天氣ニ下ル御手傳ニ下リ御買米ニ上リ、淺間島原ノ炎上出羽ノ地震中國津浪ニ至ルマデ、コト〳〵クヒヾキテコタヘザルハナシ、神アリテ告グルガ如シ、帥アリテ指揮スルガゴトシ、天ヨリ命ズルニアラズ、人アツマリテ比黨スルニアラズ、西ニ買東ニウ

リ北ニカヒ南ニウル、或ハ上リ或ハ下リ或ハ保チ或ハ飛ブ、朝々暮々入船入檄ノ度ゴトニ高下スルコト響ノ聲ニ應ズルガゴトシ、然リト雖其道二ツ曰賣曰買、ソノ應二ツ、曰貴曰賤、唯コレノミニシテ天ニアラズ神ニアラズ、行ト事ヲ以テ示スモノハ即人氣ノ聚ル處、又コレ天ナリ又コレ神ナリ、千人百人ノ力ノ及ブベキニアラズ冬日ハ中國・四國・西國ノ新米一同ニ入テ、毎年ウリ高百萬餘石、日日ウリダカ多ケレバ上ル、カヒススミテ殘米少キヲ以テナリ、ウリ高少ケレバ下ル、買ス、マズシテ殘米多キヲ以テナリ、又夏ノ日天キノ順不順ニヨリテ高下大キナリ、マヅ土用中ノ旱ヲ順トシテ價下ルハ理ナリ、シカルニ半土用テリテモ下ルコトナシ、コレ治ニ亂ヲ忘レズ、後日ノコトヲ恐ル、ナリ、一日雨フレバ百姓腹ツヅミヲ打テヨロコブ、シカルニ相庭ノ下ラザルニハ長雨ヲオソルナリ、七八月ニイタリテ下ラザルハ、二百十日ノ風ヲ恐ル、ナリ、長雨ニ上ラザルハ晴ヲ疑フナリ、九月ニ至リテ安堵シテ下ル、コノ如ノ萬物ニアマネキコト聖德ニヒトシ、アニソノ知小ナランヤ、神算仙慮コヽニアツマルモノナリ、)(御手傳ハ大阪ノ金銀江戸御藏ニ納ルユヱニ、金カスリテ米ウレズコ、ヲ以テ下ルナリ然ルニ又一人ニシテ動カスコトアリ、唯是ノミニシテ天ニ非ズ天下ノ變化ヲシルコト掌ヲサスガ如シ、天ニ先達テ天違ハズ 天ニ後レテ天ノ時ヲ奉ズ、人ニ先達テ人ニ後レ、事ニ先達テ事ニオクレ、萬物ニアマ子クタシテ通ゼザルコトナシ、ア、恐ルベキカナ、故ニ今天下ニカシコキモノハ米相場ニシクハナシ、昇平ノ時ニシテ戰鬪ノ憂ナク、萬民各其處ヲ得テ爭フモノハ只利ノミ、コレ又其處ナリ、古ヘニアリテモ范蠡ノ三度千金ヲ致シ、子貢ノ貨殖、白圭ノ人與フレバ我取リ、人トレバ我與フルノ術ミナコレ賣買ノ二ツナリ、約シテ云ヘバ賤キニ買ヒ貴キニウルノコトニシテ、范蠡・子貢・白圭ミナ此術ヨリ外ハナシ、賣買ノ道久シイ哉、シカルニ天下ニ血ヲ通ハシ智ヲ聚ルモノ亦ソノ法アリ、タトヘバ人民アリテモ教ヘザレバ禽獸ニ近シ、教法アリテ天下治ル、藥種アレドモ醫アリテ法術ヲ示サヾレバ病ヲ治セズ、只米アリト雖諸國ノ小湊ノ如ク現米ノミニシテハ用ヲナサズ、米買ハントスレドモ運送

ノ費鼠ニクハレ熱ニイタム、コレソノ心アリト雖アタハザルナリ、又賣ラント欲スレドモ初ヨリナキ米ハウルベキニヨシナシ、シカレバ則チ二ツナガラスベカラズ、然ルニ大智ノ大阪ニアツマルモノハ何ユヱゾト云ニ、切手ト帳合米（享保十六年亥十二月、正米相場引立ノ爲ニ帳合米御免、コノ時大阪ニ千三百余人ノ米仲買始マル）トアルヲ以テナリ、切手ニテ買オケバ運送鼠熱ノ費ナシ、火災ニハ懐ニ入レテ走ルベシ、ユヱニソノ術自由ナリ、然ドモ始ヨリ無キ米ハ賣ルベカラズ、ユヱニ切手ニテ買ハ易クシテ賣ハカタシ、帳合米ハ初ヨリ賣買心ノ儘ナリ、ユヱニ天下ノ血ノ通フモノハコノ帳合然リトス、然ルニ切手米ト帳合米トハ晝夜ノ如シ、並ビ行ハレテ相悖ラズ、平常ハ價ノ差ヒアリト雖、四月・十月・十一月・十二月ノ限リニハ正米帳合米相場同價トナル故ニ、血液通ズルナリ。大阪冬中ノ諸家ウリ米百萬石餘滯ルコトナクシテ一夕モ下ラザルハ切手ノ功ニシテ、又帳合米ノ調劑アルヲ以テ也、大津ニモ切手アリテ、小トイヘドモ大阪ニ同ジ、江戸ニ切手ナシ、ユヱニ現米ヲカヘバ忽チニ駄送シテ藏入トシ、費ヲナシテ火ヲ恐レ鼠熱ノ損ニ苦シム、古ヘハコノ中ニモ買入タレドモ、ソノ不可ヲシリテ今ハ買フモノナシ、却テ諸國ヨリ來リテシバラク預リタル米ヲ私ニウルコトアリ、コレ買ニカタクシテウリニヤスキナリ、（買ガタクウリ易キトキハ、米ツネニ下ル、カヒ易クウリ難キトキハ、米ツネニ上ル）切手アレバ大阪ニ同ジク自由ニ買ベシ、費用損傷火災ノ憂ナシ、コヽニオイテ切手ノ能以テミルベシ、ユヱニ今天下ノ知ヲアツメ大成シタル相場ハ大阪ニアリテ外ニアルコトナシ、古ヘハ江戸ヲ二トセシニ今ハ下ノ關ヲ二トスベシ、コノ處ハ北國・西國ヲ受テ上ハ大阪ヲ受ルノ咽喉ナレバナリ、大津ヲ三トシ尾ノ道・兵庫ヲ四

トスベシ、江戸ハ五ナルベシ、古ヘハ關東・奥州ノ米ハミナ江戸ニ入テ不足ナル故ニ、東海道ヨリ送リ又大坂ヨリ送ルユヱニ、大坂ノ相場ツネニ江戸相場ヨリ十匁ヤスシ、然ルニ如何ナルコトニヤ近年江戸ノ相庭大坂ヨリ四五匁ヤスクシテ、又賣買スルモノナシ、故ニ奥州ニ風アリテモヒヾクコトナシ、旱ト雖コタユルコトナシ、只何國ニ大風アリテモ何國ニ旱アリテモ噂ノミニテ、夫ガタメニ米ヲ買ザレバ何ゾヒヾキ應ゼン 江戸ヲ養フ奥州、豐年凶年ヲキヽテモ、米ヲ買フ人ナシ、ユヱニヒヾクコトナシ、況ヤ西國・北國ノ豐凶ヲヤ、ミナソノ冬翌春ニ至リテイヨ〳〵食物ナクナリテ、ヤウ〳〵ヒヾクコトナリ、オソキカナ治世ニ亂ヲ忘レ、亂ニ治ヲ忘ト云ベシ 豐トイヘバ少シヒヾクハ彼問屋ノ預リ米ヲウルユヱナリ、數十艘ノ入津トイヘバ大キニヒヾク、今三萬石ノ米一同ニ入時ハ、一兩ニ一石ノ相場直チニ二石二斗トナル、一萬石ウリノコシテ又ウラントスレバ、又一斗下ルナリ、切手アレバ切手ニテ買フユヱ、五升下レバ忽チ買フユヱニ崩壞ニ至ラザルナリ、切手ナキ故ニ何程下リテモ買人ナケレバヒタモノニ下リテモ止ムル處ナク、又ソノ處ニ入津アレバ又下リテ日々ニソノ日〳〵ノ飯米ダニアレバ上ルト云コトナシ、ユヱニ何レノ國ニ風アリテモ蝗アリテモキヽナガシタルノミニテ、今日ノ米サヘアレバ明日ノ有無ハシラズ 江戸ノ相場ハ大井川ノゴトシ、雨フレバ直チニ水出デ、止メバ渇シ、數十日フラザレバ忽チ河原トナリ、又數日フレバ洪水トナル、大阪ノ相場ヘ、天龍川ノゴトシ、淀川ノゴトシ、源アル故ニ旱ニ竭キズ、大雨ニ漲リ流ルコトナク數日ニシテ水減ズ、源アルモノハカクノ如シ、アニ浮雲ノ如クナランヤ 風雨洪水豐凶ノ天命アリテモ、行ト事トノ示ナキユヱニ血液通ハズ響應ナク、只是不仁ノ病ノゴトク、カキテモツメリテモ知ラザルモノナリ何トカイハン、シカルニ切手アリテコレヲ用ユル時ハ忽チソノ功ヲ以テ血ヲ通ハシ痛ヲシル、コヽニオイテカ始メテ天命ニ應ジ行事ニ示シ、血モ通ヒ不仁ノ病忽チ平

愈シテソノ知明ラカナル時ハ、天下第二ノ知トナリテ米價引上常ニ三四十萬石ノ遊米出來リテ、自然ト凶年ノ御備トナリ、萬民ノ餓死ヲスクヒ價ハ常ニ大坂ト十匁高ニシテ、血液通ズルトキハ天下ノ大幸コノ上ナク、武家ハ米ヲ高價ニウリテ大平トナルベシ、シカレバ天下第一ノ知ハ大坂ニアリト雖、第二ノ知ヲ江戸トシテ三ヲ下ノ關トシ、ソレヨリダン〳〵諸國ノ湊ニ大小ニシタガヒ、小知アリテ遠山孤島ハ愚也トシルベシ、コノ論ヲコガマシク、大舜ノ大知ヲ引出シテ、イヤシキ相場ノコトニ及ブコトイカントト雖、食ハ天下ノ一ニシテコレヨリ上ノ寶ハナシ、アニ外物ニ比センヤ、民命ノ生死コノ物ニアリ、享保ノ西國・天明ノ奥州、凶ニアタリテソノ餓死計フベカラズ、ユヱニ王制三年ノタクハヘナキヲ、邦ソノ邦ニアラズト云、必イヤシムベカラズ、又今世米相場ノ如キ、天下ノ心志ノ聚ル處ハナシ、ユヱニソノ知ヲ大成スルコト舜ノ人ニトルニ似タル故、カク論ズルモノ也、此論覇中ノ覇ニシテ王道ニ非ズト雖、今ノ世ニハカクナラデハ天下治マルベカラズ、世ニツレテ糟ヲ餔ヒ醨ヲ歠リテ共ニ推シ移ルノ心ナランカ

廿三　積蓄ノ法糓ヲ以テ上トス、年々ニカコヒテ凡口數ノ高ニ充ルベケレバ（十萬人十萬石）一ケ年ノ食アリトスベシ（コノ一年ノ食ハ民ノ口數ニヨル、一人ニ一石ノツモリナリ、王制ノ法ハ貢ノ四ノ一チ以テス、コレハ財用ノツモリナリ）二年三年ノ食アラバ富國タルベケレド、今ノ諸侯ニ一年ノ蓄ヲ上トス、コレハソノ國々ノコトナリ、萬一豐作ニシテ粒米狼戻シ、米價ヤスク武家困難ニ及ブ時ハ、富豪ノモノニ仰セテ買米アルベシ、ソノ法大テイ大坂ニテ五十萬石、江戸ニテ廿萬石、

京ニテ十萬石、大津ニテ三萬石、堺・兵庫ソノ外ノ湊々ニテ命ゼラレ、都合七八十萬石ニテ相場引上べシ、然ルニ行トヾカズシテ引上ザレバ、又命ゼラルベシ、大テイ百萬石ニテ届ザルコトナシ、豪富ノ者モソレユヱニ諸家ノ返金滯ラザレバ、安ンジテ命ニ從フベシ、虐政ト云ニアタラズ、コレハ天下ノコトナリ、切手アル地ハ切手ニテ命ゼラルベシ（京ノ買米ハ大阪大津ノ切手ニテ買フベシ）シカルニ張テ放タザレバ無用ノコトナリ、此買米ニテ一旦ハ躍貴ストイヘドモ、又ユルムモノナリ、ソノ時々ニ所置有ベシ、ツマル所江戸ニテ石ヨリ已下ナラズ買方アルベシ、（大阪ニテハ六十目以下ニカヒ、七十目以上ニ賣ベシ）石ヨリ八九斗ノ間ハソノマヽナルベシ、八斗已上ナラバマヅ三分ノ一ヲウラシムベシ（コノ事始メ命ゼラル、トキヨリ八斗以上ナラバ、三分一ウルベシトアリテモヨカルベシ）下ラザル時ハ、又ウラシムベシ、又下ラザル時ハ皆無ニウラシムベシ、シカレバ米ヲ買タルモノモ利ヲ得テ歡ブベシ、現米ニテハ費用ニクラルベシ、ナルベクハ切手ナルベシ、豐年ノソナヘカクノ如シ、凶年トアラバコレ又十月・十一月ノ間ニ買米アルベシ、必シモ價ノ貴キヲ論ズベカラズ、ソレヨリ下ニ命ゼラレテカクノ如ク買米アレバ、萬一ノ時ノ食アリ、此節高直ナルコトナレバ、ミダリニ米ノミヲ食フベカラズ、雜物ヲマジヘテ食フベシト、又郷々ノ貧民ヲ檢點シテ、ソノ面ヲシルシ藏米ヲ出シテ八九斗ノ價ヲ以テウリ出スベシ、八九斗ハ定價ナレバ平常ノ意也、ソノ上ニ困窮スルモノハ、歲ノ罪ニアラザル也、カクノ如クシテ相場ハ天ニマカスベシ、ソノ餘ハ前ニ論ズル如シ、故ニコヽニ略ス、糴ノ法ハ國々ノ心得アルベシ

凶年ニ米ヲ買シメテ價上リタルトキハ、ソノ買タルモノヲ召シテ、ソノ高ヲ吟味シテシバラク御下知アルマデ、コノ米ウルベカラズト封ジオカセラレ、大キニ引立テ米カスルトキニ至リ、ソノ米ヲウラシムベシ、又ハトリ上テ價ヲ減ジテ救米ニ用ヒラルベシ、八十日ニテ買タル米百二三十日トナリタラバ、百日ニテウラシメテモヨカルベシ、必シモ買シメ人ヲ罪スベカラズ、賞セラルベシ

又一方米籾ヲ圍ヒテハ、大豐年ノ時行トヾキガタシ、ユヱニ冬ヨリ春夏ニ至リテモ、月々ホシイヒヲ貯ヘベシ、コノ方奥州・北國・賀・越・河内・道明寺ニテ委クアレバ、別ニアグルニオヨバズ、米籾等ニテハ長ク保タズ、コノ方ニテハ何十年ニテモ保ツベシ、諸國ノ籠城ニハ隨分有コト也、今ニテモ國ニヨリ戰國ノ時ノ餘リ米有ヲキク、決シテヨク保ツモノナリ、必々忽々ニスベカラズ、今日ニテモ圍置タキモノナリ

コノコト行ハルヽ時ハ、諸家ハ勿論家中百姓町人ニ至ル迄、年々ニ增益シテ圍オケバ、豐年打續程多クナリテ、何ケ年不作ニテモ民ニ災ナクシテ饑饉ニ至ルマジキシリ、ヨク／＼コノ方ヲ用ヒタキモノナリ

夢之代巻之六終

夢之代卷之七

經論第七

一　經書ノ論ハ下愚ノ及ブベキニアラズ、殊サラ先哲ノ議論精粹ニシテ、此上ノ説ハアルベカラザルコト也、然レドモ亦オヒ〳〵ニ、發明スル事ナキニシモアラズ、先賢ノ説ヲ楷梯トシテ、ダン〳〵ニ未發ノ論モ出來ルコトナレバ、思々ノ新説僻説ナリトモ云出シテ討論スルトキハ、是モ亦止ムニマサルモノナランカ、スデニ孔聖スラ日食ヲ前知シ玉ハズ、皆是オヒ〳〵ニ發明試測スル所ニシテ未ダ開ケザルヲイカン、余ガ輩商賈ノ家ニ生レテ狹識鈍才ト雖モ、幸ニシテ中井竹山履軒兩先生ノ門ニ遊ビ、平生ノ議論ヲ聞コトアルニ預ルコトヲ得タリ、ユヱニ其新發ノコトヲ三四爰ニシルシテ子弟ニ與フ、ソノ中ニハ大賢タル朱先生ノ註ヲ議シ、其餘ノ諸賢ノ説ヲ論ズルモノハ、實ニ蚊蝿ノ鳳鶴ヲ誹ルガ如シト雖モ、其僻見陋説ナクトモ云テ口ヲ叩キ、睡眠ヲサマシテ止ムニアルモノナリ

二　履軒先生曰、虞書ハ夏書ニ作ルベシ、今文舜典ヲ堯典ニ合スレバ、又明ラカニ夏史ノ作ル處ナリ、又大禹謨ハ取ベキナシトス、先生典謨接ヲツクルニ、帝ノ心志ヲ顯々トシテ見ルガ如シ、アヽ何等ノ筆力ゾヤ

三　歳二月東巡守至ニ于岱宗ニ云々、五月南巡守至ニ于南岳ニ、八月西巡守至ニ于西岳ニ、十有一月朔巡守至ニ北岳ニ云々、」コノ巡守ハ文ニアル通リニテ諸侯ノ國々ノ得失ヲ正シ、時月ヲカナヘ律度量衡ヲ同ジフシ、禮器ヲ修ルノ爲ニシテ、其方角ヘ行タルユヱニソノ方ノ鎮山ヲ祭リ、並ニ遊觀モスルト也、今ノ如ク遊觀スルノミニアラズ、又鬼神ノコト故ニ初ニコレヲ祭ルト雖、祭ルノミニ非ラズ、然ルニ此巡守ノコトハ、コノ法ヲ立オクコトニシテ、實ノ祀事ニ非ザルナリ、一通リニヨミテハ實ニ巡守アリシヤウナリ、是ハ大抵ニ五行配當ニ近シ、先ハ巡守ノ法ヲ定ムルトキハカクノ如クナルベシ、サテ今年巡守セントアルニ至リテハ、五月ハ暑ニ至ル南岳ニハ往ベカラズ、十一月ハ寒ニ至ル北岳ニハ行ベカラズ、五月北ニ行キ、十一月南ニ行クヲ時ヲ得タリトス、然ラバ則チコノ文、實ニ舜ノ巡守アリシトスルハ誤リナラン、管仲ノ封禪ヲ云、始皇武帝ノ巡守ハ實ナルベケレドモ、此巡守ノ文ヲ見アヤマリタルコトモアルベシ

四　易ハ伏羲ノ畫スル處ニテ、イマダ諸翼ノ辭ナキ前ニ卦爻ノ象ヲ觀テ吉凶ヲ決セシコトニテ、卦爻ノ象バカリニテ實ニ無量ノ味ヒアルモノナリ、ソノ後文王象ヲカケテ、周公又爻ノ辭ヲカクルナリ、大象傳ヲ作ル人ハ誰ナルヲシラザレドモ、スグレタル文ニシテ、孔子ヨリ前ノ書ナリ、古ヘハヒトヘニ象ト云、小象傳コレニ次グ、ソノ餘ノ傳ミナ疑フベシ、文言ノ二字據ヲシラズ、繋辭傳ハ博ク易論ヲ設ケテ云ツクスト雖、乾坤二卦ノ説一句モナクシテ、文言傳ハ乾坤二卦ノ説ノミナレバ、疑ラクハ

コレ繫辭傳ノ内ヨリ、乾坤二卦ニカヽリタル說ヲヌキ出シ、別ニ文言傳ト號シタルナルベシ、今ノ繫辭ハ元大傳ト云シナリ、シカルニ此繫辭ノ文ト文言ノ文トハ、文言ノ筆力大キニ劣ルヲミルベシ、繫辭ヨリ分チタリトモ云難ケレド、乾坤二卦ノ說ヲ以テミレバ分チタルナラン、然ルニ文言ノ題號サトルベカラズ、史記ニ曰、「孔子晩好ㇾ易序ニ易象繫辭象說卦文言一」トアルヲ以テ、ツラ〳〵考ルニ此文ノ字ハ爻ノ字ヲ誤リタルニ非ズヤ、然レバ「序ニ易象一繫ㇾ辭象說ニ卦爻言一」トヨメバ其理灼然タリ、シカレバ文言傳ハコノ寫誤リノマヽニテ、跡ヨリコシラヘタルモノカ、然ルニ十翼ノ文ミナ漢代ヨリ古ヘナリ、大史公モ十翼ハミナ聖作ナリトノ、諸儒ノ說ヲトリテ記サレタルナルベシ、後世ノ作ニハアラズ、皆傳ヲ加減分別シタルモノナラン、序卦・雜卦・說卦ノ文ノゴトキハ古ヘナリト雖疑フベキコト多シ、歐陽公スデニコノ論アリ、コレハ前世易ニ長ゼシ人ノ傳ヲツクリタルヲ、聖人ノ彖爻象ノ辭ヲ合セテ十翼ト名ヅケタルモノナラン（正義ニ曰、序易序卦也、夫子作ニ十翼一、謂ニ上彖下彖、上象下象、上繫下繫、文言序卦、說卦雜卦一也）

五　易ノ卦ハ上ニ云如ク、文王ノトキマデハ、卦爻ノ象ヲ觀テ吉凶ヲ決スルナリ、是伏羲ノ易ナリ、ダン〳〵用ヒ來リテマギラハシクナリテ、人ノ勝手ヅクニ吉凶ヲ決シテ、用ヒテ易道ニ違フコト多シ、コヽニ於テ文王彖ヲカケ、周公又爻ノ辭ヲカクルナリ、スベテ疑ハシキコトアリテ進退窮マリタルトキ、トシテ心志ヲ決ス、疑ハシキコトナク進退四步六步ナラバ、六ヲ用ヒ四ヲ捨テ心志ヲ決シトスルニ及バズ、シカレバ勝劣見エタルコトハトスベキニアラズ、後世ニテハ彖象ノ辭ヲハジメ、十翼悉ク

備リテ又程先生ノ傳、朱先生ノ本義アレバ、コレヲ翫ビ唯ツネニ吾身ノ今日ノ有サマヲ考ヘ、何卦何爻ニアタルト定メテ、ソノ爻ノ言ヲトリ用ユベシ、コレ易ヲ學ブノ要ナリ、筮木ヲ以テ實ニ占トスルコトハ、上ニ云ゴトク吉凶相ワカラザルトキノコトナリ、又ソノ身ノ今日ノアリサマ卦爻ニアタラザルトキノコトナリ、カヽルトキハトシテ嫌疑ヲサダメ天命ニ任スベシ、ユヱニ易ハ嫌疑ヲ決スト云、嫌疑ナケレバナンゾトセン、ユヱニ孔子モ常ニ易ノ辭ヲ玩ビ玉ヒテ五十ニナルマデ易ヲ學バヾ、大ナル過ナカルベシトノ玉フコトナリ、是ヲ以テミレバ學者コノ語ヲ、拳々服膺シテ常ニ易ヲ玩ビ、ソノ語ヲ吾身ニ近クタトヘテ諸事一歩ヲ退ケ、中正ヲ用ヒテ亢過ヲ抑ヘルトキハ、實ニ其身ヨク修リテ過科ナカルベシ、今古易斷等ノ書ヲ作リ、ナグサミニ易ヲ立テ吉凶禍福失物走人ナドヲサスコトハ、弘法大師四目錄ト同ジコトニテ、ミナ利ヲ貪リ名ヲウランガ爲ニスルコトニテ、實ハ聖人ノ罪人ナリ、學者タルモノ戒シムベシ

六 天地ハ上下位ヲ得タリ、然ルヲ否トシテ天澤モ亦上下位ヲ得ル、コレヲ否トセズシテ履トシ、禮ヲ履トス、否ニ於テ即曰天上ニアリ上升ノモノナリ、地下ニアリ下降ノモノナリ、天地隔絶ノ象ニシテ上下交泰セズト、☰☷天地否ハ天ハ上ニ位キシ地ハ下ニアリテ、上下隔絶スルノ象ナリ履ニオイテ曰天上ニ在澤下ニアリ、上下位ヲ得テ禮ヲ履ノ象ト、余初メコレヲ疑フ、地澤同物ナリ、天地ヲ否トシ天澤ヲ履トスルコトノ理アランヤ☰☱天澤履ハ天ノ陽爻、水中ニ下リ移ルノ象、訟ノ卦ノ下チ水トスルノ下一爻チ陽トシタルナリ、コレ即上天ノ下リタルテリ交泰ト云ベシ然ルニ舟ニ浮ンデ江ヲ濟ルトキ水面ニ臨ミ蒼天ノ水ニウツリ、又白雲トモニ同ジク映ズルヲ見テ始メテコレヲサトル、天澤ノ卦タルヤ上唯一陰下二爻ハ陽ナリ、天ハ

純陽ナリ、然レバ履ノ卦唯三ノミ、一陰ニシテ五陽ナリ、上ニ天アリ、下ニ澤アリ、蒼天澤中ニ映ジ天澤交泰スルノ象、アリ〳〵ト水中ニアラハル隔絶ト云ベカラズ（☰☵天水訟ハ、上ハノボリ下ハ水ニテ下ルユヱニ爭ヒヲ生ズ、コレ訟ノ象ナリ、コノ下ノ一爻陽ニ變ズルトキハ、上ヨリ下ルユヱニ交泰トシテ禮ヲ履トス）ア丶聖人ノ卦名ヲ下スヤ其意味深長、上ニ云如ク唯卦面ノミヲ味フテ自ラ發明スル處アルベシ、其餘地中ノ山・山下ノ天、損益ノ卦ニアリ、ヨク〳〵考フベシ、其旨ノ深キヲシラン

七 春秋ヲ傳スル人ハ左氏ナリ、ユヱニ題名明ラカニ春秋左氏傳ト云（左傳ニ閻丘嬰其子閻丘明アリ）左丘氏ニアラザルナリ、然ルニ論語ニ出タル左丘明ハ朱註ニ古ヘノ聞人ナリト云テ姓名ヲ分タズ、（字典、丘ノ字・地名・帝丘舊丘商丘楚丘靈丘葵丘咸丘虎丘アリ、又姓ニ左丘龍丘咸丘虞丘梁丘母丘陶丘浮丘葵丘水丘吾丘皆複姓也、スデニ孟子ニ咸丘蒙アリ、コレマデ左丘ヲ以テ姓トスルコト見アタラズ、シカルニ字典ニ姓トスルハ、漢土ニテモコノ説ヲ發明シタルナラン）又春秋ヲ傳スルモノト云ハズ疑ヲカグモノナラン、左丘明ハ孔子ノ尊慕スル處ノ人ニシテ、左傳ノゴトキ浮華妄誕ヲ云人ニアラズ、殊ニシラズ左氏トスルトキハ、丘明ハ名ナリ、又字ナランカ、何レニモ左丘ノ熟字ハアルベシ、丘明ナルノ熟字ハアルベカラズ、左丘ハ左ノ丘ニシテ地名ナラン、柳下惠ノゴトキ、地名ニ諡ヲソヘテ左丘明ト稱スルカ、左氏ナラバ丘明ハ名ナリ、又漢土ノ複姓三字姓ノ人ソノ文ヲ省キテ一字ヲ書シタル例ナシ、ゴトニ丘明ヲ名トスレバ孔子ノ諱ヲ犯ス、弟子ニシテ孔子ノ春秋ヲ授ト云コトアルベカラズ、論語ニ巧言足恭ナキヲ以テ、孔子コレヲ稱シ玉フ所ニシテ又古人ナリ、春秋ヲ傳スル人ハ、孔子ヨリ後ノ人ニシテ、弟子ナラズト雖モ、末派ノ人ナリ、薛氏左丘ノ姓ナキヲ疑フ、何レニモ姓ニテハアルマジ、地名ナラン、左傳ニ左氏トノミ云テ名ヲ云ハズ、コレホドノ文人ニシテ人ヲ失スルモ

アヤシキコトナリ、唯論語ニ左丘明アルヲ以テコノ人トスルコトナリ、左氏ノ文章巧ナリト雖ソノ文ハ浮淫也、一部ヲヨミテ時々目ヲ拚フテ、其文意ヲ考フベシ、自ラ知ルベシ、朱子ハ左傳ヲ信ズト雖、其文章ヲ見テ巧言足恭ノ人タルヲ知ル、ユヱニ孔子ノ稱慕スルコトヲ疑フナリ、シカリト雖左氏ハ歷史ノ最ナリ、ユヱニ是ヲトル、孝經ノ文法左傳ニ似タリ、孝經ハ經ナリ、又教訓ノカヽル所ナリ、ユヱニ是ヲトラズ、藝文志ニ曰、「左丘明恐㆑失㆑眞故作㆑傳」ト、杜預ガ左傳ノ序ニ曰、「左丘明受㆓經於仲尼㆒」又「左氏魯大史左丘明也」ト、コレラノ書ミナ其名ヲ云ト雖、外ニ證アルニアラズ、唯論語ニ左丘明ノ姓名アルヲ以云ノミ、外ニシル人ナキナリ、然ルニ上ニ云如ク何レニモコノ左丘明ト春秋ヲ傳スル者トハ異ナルヲ知ルベシ、實ニ孔子自ラ春秋ヲ授クルホドノ人ナレバ、ナンゾコレヲ弟子傳ニノセザルヤ、七十二子ノ內ニハ、經書ニ出ザル人モ多シ、況ヤカヽル文人ヲヤ、コレ左氏ト左丘明ト別人ノ證ナリ

八　五行ノ說甘誓ニ初リ洪範ニ出ヅ、五常ハ初メテ泰誓ニ出、五常ハ五倫ノ常ニシテ、イハユル親義別序信ナリ、仁義禮智信ヲ五常トスルハ漢已後ノコトナリ、甘誓ニ曰、「威㆓侮五行㆒怠㆓棄三正㆒」ト註曰、「五行者木火土金水也、三正者子丑寅也」ト、五井先生曰、木火土金水ヲ威侮シ、子丑寅ヲ怠棄ストハ殆サトルベカラズト、孔安國曰、「天地人也」ト是ニ近シ、正義曰、「仁義禮智信ヲ威侮スルナリ」ト、然ルニ仁義禮智ヲ並ベ云コト孟子ニハジマリテ、孔子モ仁義ヲ並ベイハズ、又ソノ下ニ信ノ字ヲ加ルハ後世ノコトナリ、シカレバ殷ノ代ハ、仁義禮智信ヲ威侮スルコトノ說アルベカズ、親義別序信ハ古語ニテシカル

ベシ、泰誓曰、「商王受狎ニ侮五常一、」孔安國曰、「輕ニ侮五常之教一、」舜典曰、「愼徽ニ五典一」ト孔安國曰、「五典五常之教、父義母慈兄友弟恭子孝」ト又曰、「五品不レ遜」、孔安國曰、「五品謂ニ五常一、」ト、又曰、「敷ニ五教一在レ寬」孔安國曰、「布ニ五常之教一」ト、武成曰「重ニ民五教一、」左氏曰、「使レ布ニ五教於四方一、父義母慈兄友弟恭子孝」ト、孟子曰、「父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信、」周代ノ語皆カクノ如シ、「孟子教以ニ人倫一」ノ下ニ云々スルモノハ、父子・君臣・夫婦・兄弟・朋友ヲ以テ五倫トシテ、親義別序信ヲ以テ五常トスル也、コレ五倫ノ教ニシテ常ニ行フベキ道也、故ニ常トハ云ナリ、五倫ハ即五品ナリ、シカレバ五教ヲ以テ五常トスベシ、董仲舒ガ曰、「仁義禮智信五常之道所レ當ニ修飾一也、」班固曰、「五常何謂ニ仁義禮智信一也」ト、董班ノ漢儒初テコノ目ヲ立ル、五行ニナヅミテ附會スルモノナリ、古ヘニアラザルナリ、又仁義智信ノ内、智ハ心ノ德ニシテ行ニカヽラズ、仁義禮信ハ身ヲ以テ行フベシ、智ハ行フベカラズ、コトニ此五ノ者ハ常ニ云ニ親切ナラズ、五倫ノ教ハ常ト云テ親切凱當コノ上アルベカラズ、孔子仁智ト云テ仁義ト云ハズ、孟子仁義ヲ始テナラベ云、又タマ〳〵ニ禮智ヲナラベ信樂ヲ加フ、孟子ノトキ仁義禮智信ノ五ヲナラベ云コトナシ、況ヤソノ前ヲヤ、シカレバ則泰誓ノトキ、コノ五ノ者ヲ五常ト云ノ理アランヤ、是ヲ以テ古書ヲ考フベシ、五行ノ説ノ行ハルヽハ戰國以後ノコトナリ、五行ハ民生日用ノ缺ベカラザルモノナリ、五氣運行シテ人物性ヲ稟ト云モノハ後儒ノ妄說也、三皇五帝三王ヲ以テ五行ニ配スルモノモ亦後儒ノ說ナリ、相生相克モ一水ヲ生ズルノルイ、干支・四時・

五色・五味・五辛・五臓配當ノコト五行ヲ以テ災異祥瑞ヲ云ハミナ虛妄ノ說ニシテ取ニ足ズ、五行ノ土、五常ノ仁、四德ノ元ヲ以テ餘ヲ兼ヌルト云、土用ヲ以テ中央トシ、サマ〴〵ノ節ヲナシテ五ツノ數ニ引ツケントス、五行ノ說行ハレテヨク學者ミナ五ノ數ニ病ム、アヤシムベシ

九 月令ノ書ハ呂不韋ノ作ト云說アリ、何ノ爲ニ作リタルヤ怪シムベシ、四季ヲ以テ五行ニ配シテ行ツマリテ、土用ヲ立テ中央ヲ土トシ黃トス、ソノ月令タトヘバ孟春ト雖靑籠ニ騎ザルナリ、古ヘニアラザル也、(鑾輅ニ乘ラザルナリ)靑旂ヲ載(タテ)ザルナリ、蒼玉ヲ服セザルナリ、麥ト羊トヲ食ザルナリ、況ヤ其餘ヲヤ、コレ空論空禮ニシテ云ニ足ラズ、ミナ捧腹スベシ

十 幼子常視ㇾ勿ㇾ誑」コノ語多ク視ズニ誑コトナカレトヨムハアシヽ、誑クコトナキヲ視ストヨムベシ、意親切ナリ、昔大姙ノ文王ヲ敎育スルヤ、胎中ヨリコレヲヲシヘ、食スレバヲシヘ言バヲシヘ步スレバヲシヘ行ヘバ敎ユ、行住坐臥ヲシヘニアラザルハナシ、故ニヨク聖德ヲナス、然ルニ今ノ幼子ヲ養育スルヤ父母ヲ始トシテ、親戚婢妾ツネニ愛ニ溺レテコレヲ弄玩シ、不正淫行ノ事ノミヲヲシヘ、或ハ戲ノ餘有ヲ以テ無ト云ヒ無ヲ以テ有ト云、淫藝妖術ノ域ニ遊行シテ劇場散樂ニ泥ミ、佛ヲ禮シ鬼神ヲ狎侮ス、八九歲ヨリシテ後少シキ心アル父母ハ、學ヲスヽメ禮儀ヲ習ハスト雖、先入主トナリテ淫戲涵養シテソノ垢ヲ去ルコトアタハズ、タトヒ賢ニシテ學ト雖、先入ノ垢ヲ去ルノ功勞ニ、日ヲ經テ大儒トナルコトアタハズ、コレミナ後世ノ子ヲ育スルノ難ニシテ、眞儒ノナラザルヤムベナリ、只文王ノゴト

クスルコトアタハズトモ、幼ヨリ育クムニ先ハ誑事ナキヨリシメスベシ、然レバ傳染ノ垢少クシテ、早ク切瑳琢磨ノ功ニカヽルベシ、只始メヨリ垢付ノ少キヲ希フノミ

十一　前儒云、詩ハ古昔ソノ數多シ、孔子コレヲ削リテ三百トスト云、モシ孔子コレヲ刪リ玉ハヾ、ナンゾ鄭衞ノ淫詩ヲ刪ラザルヤ、コノ詩後世ノ戒禁ノ爲ニ殘シ玉フト、回護ノ論ヲナスハ僻說ナリ、然レバスベテ刪ニ及バザルナリ、コノ二風ノ内ニモ衞ハ半ハ見ルベキナリ、鄭ニハ少シコノ詩ヲ存スルヲミレバ、諸經ハ古ヘノマヽニテ、孔子ノ聖手ヲ入サセ玉ヒタルニハアラザル也、論語中ニ「誦詩三百」「詩三百一言以蔽ㇾ之」ノルイヲ以テ見レバ、詩三百ト云數ハ古語ニシテ、孔子シバ〳〵コレヲノ玉フモノナラン、孔子自ラ刪リテ、我刪リタルノコリノ詩三百トハノ玉フマジキナリ、是ヲ以ミレバ孔子ノ刪リ玉ハザルコト明カナリ

十二　朱子四書ノ序大學中庸ハ作文ニシテ、論語孟子ハ序說トシテ、史記ノ文オヨビ古說ヲノベテ文ヲ作ラス、コレ孔孟ノ書ニ序ヲ作ルコトヲ謙退シテ、アヘテ當ラズトスル處、後世ニアリテ何程博識ナル大儒ト云ヘドモコノ謙讓ニハ及ブベカラズ、此一事ヲ以テモ朱子ノ爲ㇾ人ヲシルベシ、又朱熹章句朱熹集註トアルハ疑フベシ、朱子註ヲ作レルハ朋友門人中ニ行フ書ナリ、奏本ニアラズ、別ニ姓名ヲ題スルニ及バズ、大學章句論語集註トバカリニテ上ニテ書ツヾケ、下ニ朱熹章句集註ト書コトハアルマジキナリ、明ノ初大全ヲ纂ス、コノ書大ニ行ハレテ集註ノ本ハ亡ビタリ、大全ハ勅撰ナレバ撰者ノ

名ヲ題ス、故ニ朱熹集註ト題シテ大全撰者ニ連タルナリ、是モアルベキコトナリ、凡勅撰ノ註書ミナシカリ、三國志世說ノルイ證スベシ、ソノ後大全ヲ厭フテ集註バカリノ本出タリ、此トキ大全ノ本ニ就テ小註ヲ除キタルモノナレバ、本書ノ舊面目ヲ失ヒタルコト多シ、朱熹集註ト下ニアルハ大全ヲ寫シタルモノニシテ舊ニアラズ、註ノ一字下ゲテ、字ノ大サ本文ト同ジコトニテ分註ニアラズ、今分註スルハ舊キニアラズ、又大全ノ通リニモアラズ、コレハ只紙ヲ吝ムニ始マルトミエタリ、論語孟子卷之一二皆舊ニアラズ、大學篇首ニ分註シテ大舊音泰ト云々、中庸ノ分註中者不偏云々、皆大全ノ削リノコリナリ、中庸・大學ノ始メニ子程子曰ハ常ノ註ナリ、古經一章ノ下又右傳幾章ノ下中庸右第幾章ノ下、ミナ朱子ノ常ノ註ニシテ、カハルコトナキヲ、コレラバカリヲ大書シテ常ノ分註ト別ニナシタルコト、大全ヨリ集註ニ寫シタルトキノ削ノコリナリトシルベシ、是等ノルイ五經ニモ多クアリ、今改ルナラバソレ〳〵改メタキカ、後世ニ書改ムルトキハ熹ノ字書ベカラズ子トスベシ、然レドモコレモ大學章句、論語集註ト上ニテ書ツヾケルトキハ、朱子ヲ書ニ及バズ、孟子ノ書ハ趙岐ノ古註アリ、コノトキ章句トス、然ルニ大學中庸ハ一章ヅツ章ヲ分ツユヱニ章句ト云、論語・孟子ハ一篇ノ内數章アレバ章句トハ云ベカラズ、ユヱニ論語章句トイハズ、孟子ニアリテ梁惠王章句上下トス、アヤシムベシ、又此上下ト分ツモイラザルコトナリ、此章句ハ趙岐本ノ削リノコリカ、又ハ大全ノトキノアヤマリナルベシ、古說論語二十篇・孟子七篇トアレバソノマヽナルベシ、論語ニテハ三篇ヅツ合セ孟子ニテハ一篇ヲ二篇ニ

分ツ、大全ニテハ丁數ニトルユヱ分ツコトモアルベシ、スデニ集註ニテハ數篇ヲ合セテ合卷トス、ナンゾ分ツコトアラン

十三　大學一部十章ノ眼目第六章ニアリ、「毋ニ自欺一也、此之謂ニ自慊一愼ニ其獨一也」「閒居爲ニ不善一」ミナ是自ナスコトニシテ、人ニカヽハラザルナリ、カクノ如ク自ラツヽシムトキハ十目十指ナンカ恐レン、心廣ク體胖ニシテ、コノ外ニ勞アルベカラズ、ソノ餘ハミナコヽニ至ルノ小割ナリ

十四　「讀ニ論語一有下讀了後、知ニ好之一者上」ヲ道春點ニ「知レ好レ之者」トス、然ルニ此語「知レ之者、不レ如ニ好レ之者一、好レ之者不レ如ニ樂レ之者一」ヨリ出、「樂レ之者不レ知ニ手舞レ之足踏レ之者也」シカレバ「知レ之者好レ之者」ト分テ云ベキヲ、略シテ「知ニ好之一者」ト云タルナリ、知好ノ間ニ之ノ字アレバ紛ハシキコトナシ、コノ文知・好・樂ノ三ツヲ云ニ知好ニタヽミテ、樂ノ處ヲ手舞足ノ踏ヲ以テ長クノバシテ云コト、文法ニテハ面白キ文ナリ、シカルニ道春點ノ通ニテハ味ヒナシ

十五　中庸ノ書ハ天命ヲ云ヒ、中和ヨリ中庸ヲ解釋シ、智・仁・勇ヲ說出シ三德ヲ以テ言ヲ立、ユヱニソノ對多クハ三ナリ、ミナ智・仁・勇ソノ中ニアリ、次ニ費隱ヨリ大孝ヲ云、ソレヨリ天下國家ヲ治ムルノ道ヲトキ、誠ニ歸シテ至誠ノ道ヲ云、ツヒニ篤恭シテ天下平ナルニ至リテ止ム、初メ天命ヲ受テ生ルルヨリ始終本末通徹シテ、ソノ說ミナ親切著明、天下平ナルノ極切ニ至リテ終ル、至レル哉

十六　中庸ハ知ヲ尙ブ、堯舜スデニ仁アリテ共濟ヒノヒロキヲ欲ス、コレヲ行フモノハ知ナリ、ユヱニ

知ヲ重シトス、論語ニハ仁者ヲ上トシ知者ヲ次トス、コレハ其徳ノ優劣ヲ云ナリ、中庸ニハ聖人ノ身ノ上ニテ元ヨリ仁アレドモ、知ヒロカラザレバ行ヒガタシ、ユヱニ知ヲ貴ブナリ、費隱ハ大小顯微ヲカネツヽミテ云、然ルニ次ニ云如ク鬼神ノ章ヲ二十四章ヘオクルトキハ、朱註ノ如ク費隱ヲクルシミ解クニ及バズ

十七 「武王末受レ命」ニ「朱註末猶老也」ト云、是ハ文王世子篇ニ文王ノ夢バナシヲ云テ、我百ニシテ死セン、女九十ニシテ死セン、今女ニ三ヲ與ヘン、文王九十七ニシテ崩ジ、武王九十三ニシテ崩ズトアルヲ信ジテ、武王九十三ニシテ崩ズレバ成王其時幼トアルユヱ、武王八十有餘ノ時ノ子トミエタリ、ユヱニ末ノ字ヲ老ノゴトシト云、文王何程聖知ト雖人ノ壽ヲシランヤ、又我齡ヲ人ニ與フルコトアランヤ、一日半時モナラザルコトナリ、況ヤ三年ヲヤ、武王ノ孝ニシテ父ノ齡ヲチヾメテ我ニ增ス、天下ノ不孝コレヨリ大ナルハナシ、是ヲ以テ古書ノ妄誕ヲシルベシ、然ルニ朱子モ此コトヲ信ズルニアラネドモ、文王九十七武王九十三ノコトハ實ナルベシトス、ユヱニ此論アルモノナラン、史記モ亦コレニヨルナリ、イヅレニモ武王四五十歲ノ間ニ命ヲ受テ王トナリタルナラン、末ト云ハ在位及年號ニ初。中。末ヲ云ゴトク、武王一生五六十年ノ末ニト云コトナリ、老ニアラザルベシ、何ニモセヨ武王ハ五六十歲ニシテ崩ズルナラン、ユヱニ武王殷ヲ伐テ間モナク崩ズ、ソノ時適子成王幼ナル故ニ周公政ヲ攝ス、コノ時成王ノ弟多クアリ、武王九十三ニシテ崩ズルナラバ、其弟周召ノ二公管蔡ノ二叔モ七十歲八十歲ナルベシ、

成王ヲ十歳バカリトミレバ八十歳ノ子ナリ、把ノ大姫ト云ハ大姫トアルハ適女ナリ、イマダ嫁セザレバコレモ亦二十ニミタザルベシ、然レバ七十ノコロノ子ナリ、武王七十マデ子ナクシテ、ソレヨリ大姫成王ヲハジメ、叔虞ヨリ多クノ子俄ニ出生シタルコトイブカシカラズヤ、然ルニ文王ノ百年ハ孟子ニ證アレバ疑ヒナシト雖、武王ノ九十三ハ疑フベシ、故ニコノ章ノ末ハ武王一生ノ末トシ、武王ハ五六十歳ノ崩トシルベシ

十八　鬼神ノ章十六章ニアルハ錯簡ナリ、此書首尾連續スルコト至リテ正シ、然ルニコノ章上下ニツラナラズ、ユヱニ朱子費隱ヨリシテサマ〴〵ニトキナスト雖穩ナラズ、仁齋先生コノ章ヲ以テ上受ル所ナク下起ス處ナシト、始メテ疑ヲ入ルト雖其說ヲ得ズ、萬年三宅先生ノ卓見ニテ、コノ章ヲ二十四章ニスレバ前後ヨク連續ストアリシヨリ、五井・中井ノ二先生コレヲトナヘテ、今ノ竹山・履軒ノ兩先生ニイタリテソノ說備ハル、右鬼神ノ章ヲノゾケバ十五章ノ「父母其順也乎」ヨリ十七章ノ「舜其大孝也與」ヘヲウツテ、ダン〴〵武王周公ノ孝ニウツル、コレヨリ二十四章ハ二十三章トナル、至誠如神ヨリ十六章ヲコノ處ヘ入テ「鬼神爲ㇾ德其盛也乎」ヘウツリ、末ノ「誠之不ㇾ可ㇾ揜如ㇾ此乎」ヨリ二十五章ノ「誠自成也、道自道也」トウクレバ、始終本末カネソナハリテ又遺憾ナシ、ソノ上コノ書前ニ論ズル如ク天命ヨリ中庸ヨリツヒニ誠ニ成就ス、誠ハ此書ノ總紐ナリ、然ルニ十六章ニ誠ノ字出テ二十五章マデ出ザル故ニ此一篇穩カナラズ、今カクノ如ク入カユル時ハ誠ノ字初テ二十四章ニ出デ、ソレヨリ誠ヲクリカヘ

シ〳〵テツヒニ無色無臭ニ至ルマデ中庸ノ本意脈絡貫通ス、千載ノ一快ト云ベシ、其餘ハ竹山先生ノ定本ニクハシケレバコヽニ略ス

十九 哀公問政ノ章、說者云、家語ヨリ出ヅト、然ルニ家語ノ書疑フベキコト多シ、擬作ナルコト顯然タリ、家語此一章ヲノゾキテ見ル時ハ取ベキコトナシ、ソノ餘ハミナ聖人ヲ奇怪ニ云ナシ妄說・杜撰冊ニアフル、此一章ニカギリテ卓然トシテ家語中ノ善美アツマル、コレヲ以テミレバ中庸ハ元ニシテ家語ヘヌキ出シタルコトシルベシ、コノ書ノ本末備リタルト家語ノ妄作ト、其黑白自ラ分明ナリ

二十 論語ハ賢ノ字重シ、孟子ハ聖ノ字輕シ、論語ハ伊尹・伯夷・柳下惠ヲ賢トシ、孟子ニ聖トス、故ニ孔子ヲ集大成ト云ナリ

廿一 曾點浴沂ノ章、集註堯舜ノ氣象ヲ以テ之ヲ論ズ、過當ト云ベシ、朱子モ晩年ニコレヲ悔ユト雖、スデニ集註世ニ行ハルヽ時ハ如何トモスベカラズ、章首ニ云「子曰居則曰不二吾知一也、如或知レ爾則何以乎哉」ト問カケ玉フ、ユヱニ三子ソノ覺アル處ヲ以テ答ル也、子路ノ言過ルニ非ズ、其覺エアルヲ以テ也、只其言ユヅラザルヲ以テ孔子ノ哂フ處トナル、コレヲ見テ二子謙退シテ對ヲ出スニイヨ〳〵下ル、然レドモ三子ミナソノ對ソノ問ニ合テ、其言トコロミナソノ行フベキ處ナリ、三子ハミナ我ヲ知リテ用ヒラルヽ處ヲ以テ云ナリ、曾點ハ狂者ナリ、タトヘ用ユル人アリトモ出ザル心底ナレバ、三子ノ云處心ニカナハズ、此僻言ヲ出サントスレドモ、元孔子ノ問ニアラザルユヱニ、三子者ノ撰ニ異ナ

リト云、然ルニ孔子何ヲカマツベキ各其志ヲ云ナリ、女モ思ハク次第ニ云ベシトアル故ニ、「浴レ沂風ニ舞雩二」ノ言ヲ出スモノナリ、曾點ハ狂者平生ノ言行カクノゴトシ、然レバ曾點ヲホメテ三子ヲソシルハ非ナリ、只孔子ノ與レ點トノ玉フヲ以テ也、竹山先生ノ俗話アリ、鄙語ト雖譬ヲトルニ切ナリ、故ニコヽニ出ス、易牙ニマサルノ庖人アリ世ニ知レズシテ山中ニヒソム、弟子三人コレニ侍ス、先生曰、女等ツネニ吾ヲシラズト云テ詈シル如シ、知テ用ユル人アラバイカナル調味ヲカナサント、一人卒爾ニ對テ曰山中陋村魚鳥ナシ、加フルニ什器ナシ、又風雨甚シ、然ルニ京師ヨリ百人バカリ客ヲ得ルニ、吾庖ヲトラバ二汁五菜ノ料理忽チニ間ニ合スベシ、先生哂フ、一人曰客三四十人、モシクハ二三十人我コレヲ調味セバ三菜ノ精進料理ヲ出スベシ、魚肉ノ如キハ魚屋ヲマタン、一人曰、之ヲヨクスルト云ニ非ズ願バ稽古ガテラニセント、祭禮ノ客モシクハ會席佛事アランニ願バ手傳ヲセン、一人アリ尺八ヲ吹ク、先生曰、女ハイカン笛ヲ置對シテ曰三子ノ思ハク異ナリ云ベカラズ、先生曰、ナンゾ傷マン又各ソノ志ヲ云ノミト、曰莫春ニハ春暖スデニ至ル、都ノ古人五六人來ラバ、我輩五六人山中ノ桃李ヲミテ溪水ニ浴シ、山麓ニ風フカレ嫁菜タンポヽ筆頭菜ヲツミテ浸シモノトシ、奈良漬ノ香ノ物ヲタヅサヘ折鷹ヲハンナリト、入テ茶漬ヲ供セント、先生喟然トシテ嘆ジテ曰、吾モ一膳相伴スベシト、コノ心ヲ以テ味フベシ、曾點ハ堯舜ノ聖ナラズ、例ノ狂者ニシテ三子ノ對ヲ悦バズ、カヽル僻言ヲ出ス、孔子モ亦スデニ三子ニ用ヒラルヽ時ハト問玉ヘドモ、實ハ用ユル人ナキヲシルユヱニ、點ニユルスモノハ

後ニノリテ海ニ浮ムノ意ナリ、曾點ノ一見識ニ引オコサレテ、ツヒニ點ニユルス外ナキト云モノナリ、堯舜ノ氣象ハ過當也

廿二　管仲之器小也、」孔子管仲ノ王道ヲ行ハザルヲヲシム、管仲ニシテ王道ヲ行ハヾ、即チ行ハルベシ、然ルニ王道ヲ行ハズシテ唯力コレ任ズコレ小ナル所ナリ、然ルニ此語ニヨリテ儒士ミナ管仲ヲイヤシム、加フルニ曾西ノ言ヲ以テス、然レドモ孔子ノ言ハ管仲ヲホムル也、管仲ホドノ人ニシテ今少シ力アラバ王道ヲ行フベキニ殘念ナリトシ玉フハ、管仲ハ王道ノ出來マジキ人ニ非ズ、又別章ニハ管仲ナケレバツヒニ戎夷ニ取レテ、中國ノ人戎服スベシト歎ジ玉フヲ以テミルベシ、ソノ餘管仲ノ論ハ論語ニテヨク味フベシ、自ラ得ル所アラン

廿三　子張・陳文子・令尹子文ヲ以テ仁トシ、孔子ニ問フニ許サレズ、仁ト諸善ト似タルヤウニテ大ニ差別アリ、陳文子タトヘ一杯ノ水ノ如キ仁ナリトモ、仁ニ達ナクバ仁ナリトコタヘ玉フベシ、仁ニ稱ヌ故ニ未知トノ玉フナリ、元來陳文子ノ心ニトカクコヽニ在テハ禍ノ來ルハ必定ナリ、命ハ物ダネナリ先ハイヅカタヘモ往テ命ヲ全フセント云意アリテ、他國ヘ往タル心底ニテスデニ仁ナキ所アルナリ、シカルニ時ハイカホド立派ニシテモ仁トスルコトハナルマジ、孔子ノ語ハコヽラノコトナルベシ、令尹子文モ亦ソノ新令尹ヘ告ル所ハヨケレドモ、又ソノ中ニイロ〳〵アルベシ、スベテホメテ問ニホメソコナヒノ心得違ヒアリ、故ニオサヘテ答ソシリテ問ニソシリゾコナヒノ心得違アリ、ユヱニ揚テ答

フ聖語モト平和ナリ、ワザト裏ヲ打ノ意ナシ、ソモ〳〵仁ハ水ノ如シ、一杯ノ水アリ一壺ノ水アリ、江河ノ水アリ大海ノ水アリ、一杯ト雖水ニアラズト云ベカラズ、淸忠モ亦仁中ノ一善ナリ、一壺ノ水ノ如シ、聖人ノ仁ハ大海ノ水ナリ、一杯ヨリシテ江河ノ水ヲ大成シテ大海トナル、孝弟・忠信・禮儀・淸廉ミナ仁中ノ事仁ニアラザルハナシト雖、一善ヲ以テ仁トシ其餘ヲ求メザルハ孔門ノヲシヘニアラザルナリ、ヨク〳〵味フベキコトナリ

廿四　泰伯ノ至德ハ其身長子ニシテ其德アリ、周ノ正統ヲツグベキ人ナリ、然ルニ國ヲユヅリ蠻國ヘ逃レテ民ノ得テ稱セザル程ニ、アトヲクラマシタル處ニアリ、コノクラマシヤウノ宜キニツキテ、天下ニ大王王季ヲ非トスルヿ無ク、ズル〳〵ト王季ノ世トナリタリ、此德ヲ人是ヲシラズ、六百年ノ後孔子聖眼ヨリキツト見付玉ヒテ初メテコノ語アリシナリ、然レドモ實ハ泰伯ヲ愚ニシテ大王王季ニ難ヲツケズ、孔子ノ至德ノ歎モナキコソ、泰伯ノ本意ナルベシ、然ルニ後儒更ニ始メテ剪商ノ詩ヲ引キ、大王コノ志アリテ泰伯不レ從ユヱニ逃レタリナド、云ハ、大王ヲ非トスルノ甚シキモノナリ、泰伯ノ不レ從ハ道ニ從ハズシテ凶德ナルヲ云ト、ソノ外サマ〳〵ノ論アレドモ、スベテコレラノ穿鑿ハセザルヲ以テ泰伯ノ志ト云ベシ、然レドモコレホドノ至德ヲ埋ムルコトモ亦憾ムベシ、ユヱニ孔子モカクハノ玉フナリ、天下ニ讓リホド大德ハナシ、我一ニト奪ヒ爭フ中ニステ、逃ルヽコトナレバナリ、然レドモ人ニキツカリト見セテ、ナントヨクユヅリタルガト云ホドノコトハナシヨキモノナルニ、泰伯ハ自ラユヅリテヨ

キ人ニナレバ、父母ト弟ニ惡名ヲ付ルユヱ、迹ヲクラマシテ逃レタル處ガシガタキ處ナリ、ユヱニ人コノ泰伯ノユヅリヲシラズシテ、我一人笑ヒモノトナリテ六百年ノ間人ノ知ラザル處ガ、目ノ付所ニテコレヲ讓德ノ最一トスベシ、爰コソ孔子ノ玉フ至德ノ場ナリ、論語ニ至德ト云モノ二ツアリテ、一ハ泰伯一ハ文王ニシテ、伯父ト甥ト至德ヲ以テ稱セラル、周ノ盛ニナルコヽニオイテシルベシ

廿五　論語中ニ弟子ノ仁ヲ問ヒ孝ヲ問フニ、ソレ〳〵ニ答ノ異ナルハ、ミナ其ノ人ノ身分ソノ人ノ病ニアタルヤウニ足ラザルヲ補ヒ、退クモノヲスヽメ過ヲオサヘテ答ヘ玉フユヱニ、ソノ人ノ耳ニ入身ニシミテ敎トナルナリ、當世ノ學者孔門ノ弟子ノゴトクニ師ニ切問セズ、只經旨字義古今ノ事歷先輩ノ賢愚ヲ問ノミ、然ルニ古ヘハ今ノ如クニヨムベキ書ナシ、只詩書易ノミ、ユヱニ孔門ノ弟子ミナ師ニ切問ス、樂正子春ノゴトキハソノ後ノ最ナリ、シカルニ曾子スデニ書ヲヨマザルヲアヤシムヲ見レバ、先敎ユルニ書ヲ以テスルナルベシ、元來ハ古ヘト今トハ敎法ノカハリタル也、程朱ノ時分ハ切問ノ學者多シ、師モマタ各別ナリ、大抵孔門ノ遺餘アリ、ソノ後師タル人ミナ聖人ニアラズ、各ソノ好ミニシタガフテ一概ノ敎ヲ立テ竹皮ニ包ミテ配ルヤウナル敎ヲナスユヱニ活動ナシ、マタ經書ヲ熟讀スルコトモ朱子ノ時ヨリ始ル、講釋ト云フコトオヒ〳〵ハジマリ、己ノ意ヲ發シテ人ヲ誘導ス、ソレヨリ歷史古今ノ議論ニワタリ、ツヒニ師タル人經史ヲ離レテハ訓導ノ言ヲ出サヌヤウニナリタリ、コレ師道ノ劣リタルニアレドモ實ハ後世治國平天下ヨリ齊家修身ノコトハ離レテ、學問ト云モノハ經史ノ講讀

及ビ詩文ノ述作ノコトノミニ落テ、政事齊家ノコトハ師家ナドノ云ヌコトニナリタリ、然ルニ昔ハ書少カリシニ、後世ノ四書五經ヲハジメダン〱ニ後儒ノ發明ノ註解アレバ、心神ヲ勞セズシテ古ヘ知ラザリシコト、モシクハ聞カザルコトモキヽテ、學問モ早ク成熟スルヤウニナリタレバ、詩作文章ナドノコトハ脇ニシテ、何モ角モ捨置キ經書ニ熟シテ、ヨク執行セバ古今ノ大儒トナルベキナリ、ソノ上ニ今日修身ノコトハ切問近思ヲ主トスル時ハ、近世ノ學風ノ弊變ジテ古ヘニカヘラズトモ、弟子ノ爲ニモヨカルベシ、必シモ少シノ學問ヲ鼻ニカケテ經史ハ脇ニシテ詩文ニフケリ、人ニ高ブリテ身ノ行ヒ惡ク、ツヒニハ父兄ニマデモイトヒニクマレテ、コレニ懲リテ學問ヲ禁ズルヤウニナルベカラズ、是ハ必孔子ノ罪人ナリ

廿六　爲レ人謀而不レ忠乎、與レ人忠、忠告而善道レ之」コレミナ友ニ交ハルヲ以テ云、忠ハ中心僞ラザル也、君臣父子夫婦兄弟朋友ミナ通用ス、然ルニ「君使レ臣以レ禮、臣事レ君以レ忠」コレ臣ノ君ヘ事フル中心ヲオシ出シテ僞リ飾ラズ誠ヲツクシテ止ザルヲ云、ソレヨリダン〱ト忠ノ字ヲ臣ノ君ニ事フルコトニカギリテ重トシ、孝ニ對シテ用ユルヤウニナリタリ

廿七　孟子反不レ伐奔而殿、將レ入レ門策二其馬一曰、非二敢後一也、馬不レ進也、」此章殿ト後ト同意ナリ、同ジクシンガリナリ、然ルニオクレタルニアラズト讀時ハ意ヲ失フ、臆病ヲオクレト云ヲ以テミレバ、進ム時ノオクレナリ、退ク時ハ後レテ功トス、シカル時ハコノ讀ニテモスムベケレドモ、俗語ニテオクレ

タルニアラズト云ヘバ、何トヤラ云ワケスルヤウニナルナリ、爰ニテハ殿ガリシタルニハアラズト云コトナリ、迹ニ後テ敵ヲフセギ、諸軍ヲミナ引カセテ我ハ功アリナガラ、遜ル意ヲ人ニシラサントス、ユヱニ車中ニテ御者ノ策ヲマドロシク思ヒテ、自ラ策ヲウチテ曰、我ワザト迹ニノコリテシンガリシタルニハアラズ、馬ス丶マザルニヨリテ是非ナクオクレタルナリト云テ、ソノ功ヲ消シテ功トセザルナリ、コノ謙退ハ人ノ及バザル處ナリ、ユヱニ孔子コレヲ稱ス

廿八 論語多ク鬼ト義ト對ス、「曰非ニ其鬼一而祭レ之諂也、見レ義不レ爲無レ勇也、」「務ニ民之義一敬ニ鬼神一而遠レ之、可レ謂レ知矣、」義ハ實近ニシテ今日ノ爲ベキコトヲ云、鬼ハ虛遠ニシテ今日ノ功用ニアラズ、義ニクハシキ人ハ實ヲフミテ爲ベキコトヲ行ヒテ鬼ニ諂ハズ、鬼ヲ事トスル人ハ虛ヲ行フテ、爲ベカラザルコトヲ行ヒテ義ヲ踏マズ、コレ古今ノ通病ナリ、疾病アリテ加持祈禱ヲ事トスル人ハ醫藥ニ疎ナリ、醫藥ヲ事トスル人ハ祈禱ヲ信ゼズ、ツネニ義ニカナハザルヿヲナシ、我身ノ行ヒノアシキ人ハカナラズ鬼神ニ求テ禍ヲノガレ福ヲ求ム、鬼神ニ求ザル人ハ、我身ヲヨク治シテ義ヲ行ヒ、ツトメテ禍ヲノガレ、福オノヅカラ來、孔子鬼神ヲステ玉ハズト雖、コ丶ニ遠ザケト云テ義ニ對ス、後世ヲ慮ルノ深キヲ見ルベシ

廿九 「加ニ我數年一五十以學レ易、亦可ニ以無ニ大過一矣」朱註曰、此時孔子年已幾ニ七十一矣、五十字誤無レ疑也、」又五十ヲ卒ニ作ル、コレ史記ヲ信ズルノ誤ナリ、六十後ニ此語アル故ニカク云モノカ、史記ノ次第正シキニアラザルナリ、此語四十有餘ノ時ノ語トミレバ、卒ノ字ニ換ルニ及バズ、又疑ヒナカルベシ、

孔子四十四五歳ノ時ニ云、我ニ四五年ノ年ヲ加ヘ五十ニモナリテカラ易ヲ學ブコトナラバ、大過ナカルベシト云コトナリ、履軒先生曰、占筮ハ易ノ本事ナリ、然ルニ彖象辭サスガ聖人ノ作ナレバ、ソノ辭精妙ニシテ意味深長ナリ、故ニ易ヲ學ンデ精妙ヲ窮ムレバ、人ク百行進退疾舒類ニフレテ、鏡ニ物ヲウツスガ如シ、此場ニ至リテハ一々著ヲ分ツニ及バズ、コヽハ此理ソコハ其理ト云ヤウニ自由ニサバキガツク也、但コレハヨク學ビテ、其理ノ精妙ヲノミ込タル人ノ上ナリ、コレヲ喩レトテカケタル辭ニ非ズ、精妙ノ理ヲシラズ、人ニヲシヘテ占筮シテソノ辭ニ從フテ善ニ之キ、吉ヲ得テ悔吝凶災ヲ免レシム、コレヲ易ノ本事ト云ナリ、易ヲ貴ブマヽニ占筮ヲ鄙事トシ、種々ノ説ヲナスハアシヽ、孔子ノ易ヲ學ブノ語ハ、卦爻ノ意味ヲヨク〳〵考ヘテ、文王周公ノ辭ヲ引合セ過ルハ悔、不ㇾ及ハ吝、中正ヲ得ルハ吉、得ザレバ凶トシ、スベテ一事一行易ノ卦爻ニ求メズシテ中リ、凶悔吝ニ至ラズ吉ノミニナルヤウニ、ソノ身ヨク修ルトキハ大過ナカルベシトノ玉フモノナリ、カクノ如クナルトキハ小過モナカルベキニ、大過ナカルベシトノ玉フハ、聖人ノ自然ト謙讓ノ語ナリ、是ヲ以テミレバ假卒ノ説七十ニチカシノ説用ユベカラズ

三十 期月而可、三年有ㇾ成、大國五年小國七年、敎ㇾ民七年、世而後仁、治ㇾ國百年」等ノ數ミナソレ〳〵ノ据アリ、王者ト善人ト勝劣アリテ、ソノ用ユル年數ヲ考フベシ、然ルニ五年七年マデハソノ人ノ力ニカヽル（三十年チ世ト云フ）一及百年ハ大ニ異ナリ、又天下ト一國ノ違アリ、曰期曰三年ハ上文用ㇾ我ヲノ句ヲウケ

テ孔子ノ身上ノコトニシテ、當時ノ諸侯一國ノコトナリ、天下ニカヽルコトニアラズ、魯孔子ヲ用ヒ三月ニシテヨク治ル、期月ト云モノ迫ラザルナリ、曰世ハ上文有二王者一ノ句ヲウケ、他ノ聖賢ヲ汎ク論ズルナリ、孔子ノ身上ニアラズシテ又天下ヲ治ムルコトナリ、曰七年曰百年ハ、善人ノコトナリ、善人ハ學問ナシト雖其行ヒ道ニカナフナリ、曰小國五年大國七年ハ、孟子ソノトキノ諸侯ノ國ノコトヲヒロク云ナリ、期月ハ丸一月ナリ、左傳杜註アヤマリテ一年トス、コノ朱註モソノ誤ヲ傳フルナリ、期ハ其月ト云コトニテ一周年ヲ本義トスベシ、ソレヲ借タルユヱ、月ノ字ヲソヘテ一月ノコトトスルナリ、周年ナラバ期一字ニテスムベシ、月ノ字ヲソフルニ及バズ、且期月ト期年ト同ジト云ハ、文面モスマヌモノナリ、サテ又此三十年ニツキテ說アリ、竹山先生曰、コヽニ王者オコリテ政ヲトルトキハ、三十四十ヨリ五十ノ人ハ三十年ニテ老テ死スベシ、コノ内ニタトヒ惡人アリトモ大抵ハ化セラルベシ、弱壯ノ人ハ敎ヘテ善人トスベシ、幼者ハ仁中ニ育ラレテ惡ハナスベカラズ、爰ニ至ルモノハ三十年ノ數ヲツマザレバ全ク仁トハナラザルナリト、ミナソノ言ニ付テ工夫セバコレモ亦學問ナルベシ

卅一 我不三復夢見二周公一凡夢ハ半寤半寢ノ間ニ見ルモノ也、（疾病アリテ寢ガタケレバ必夢アリ、又多シ、コレモ半寤半寢ノユヱナリ、又患苦心勞ニアルトキモ同ジ）間思雜慮アリテソレガ直ニ夢トナルアリ、又ナクシテモアリ人ヲ思フテ夢トナルアリ、思ハヌ人ヲ見ルコトアリ、必トセザルモノナリ、何レモ半寤半寢ノトキニ、雜慮ノヤウナルモノアリテ夢ニナルナリ、初ノ雜慮ヨリツヾキテ來ルモアリ別ナルモアリ、醉人ノ妄語妄ナレドモ、ソノトキハ夢ノ如クニ

心ニ浮ムコトアルナリ、醉時ノ妄モ亦同ジ、醒ルマデ寢ザレバ、ソノコトハ皆ヨク覺エテ居ルモノナリ、熟睡スレバ悉ク忘ル丶ナリ、夢モ亦然リ、夢中寢語モソノトキフト目サムレバ皆記得ス、後一睡スレバ皆忘ル、又體寢テ心寢ザレバ間思雜慮アリテ夢トナル、心寢テ體寢ザレバ手足ヲ動カスノ說アリト雖モ、心寢テ體ノ寢ザルコトハアルマジ、寤寢ハ心ノ上也、體ニ寤寢ナシ、只半寢ユヱニ視聽收マルナリ、亦半寤ユヱニ鼾睡シナガラ、傍人ノ言耳ニ入コトアリ、聖人ニ間思雜慮ナシト云ベカラズ、只愚人ノ煩惑ニ似ザルノミ、至人無夢トノ語莊子ニ出タレドモ、聖人トハナシ、此語モトヨリ妄說ナリ取ベカラズ、然ルニ此語ニ惑サル丶人モ亦少ナカラズ、シカレドモ孔子夢アルヲ以テ考フベシ、孔子ツネニ周公ヲシタヒ、我ヲ用ユルモノアラバ、周公ノ政迹ヲ擧用セント思召ユヱ、時々周公ヲ夢ミ玉フナリ（孔子ノ周公ノコトヲ思ハセラル丶ハ、間思雜慮ナリト雖人トチガフヲミルベシ）然ルニツヒニ用ユル人ナシ、タトヘアリトモ年老テ仕フベキ年數モナシ、故ニ行レザルヲシリテ思ヒ切玉フ、コ丶ニオイテ周公ノ夢ヲモ見玉ハザルニヨリ、老テ衰ヘタリト歎ジ玉フナリ、前ニ云ゴトクニテ、聖人ニハ常人ノ如ク雜慮ハナケレドモ、ミナソノ雜慮正シキヲ得ル關雎ノ寤寐ニ思フガ如ク、父母ノ喪ニアリテ悲ムガ如ク、其雜慮ト雖正ニ出ルナリ、シカレバ則父兄長者ヲ打罵、錢財ヲ盜ミ、邪淫ヲ犯シ、讒言ヲナシ、人ヲ殺シ其餘ノ惡事ヲナス夢ヲミルハ、聖賢君子ニハナキコトナリ、誰ニテモカ丶ル夢ヲミルナラバ、必々我心ニ耻テ己ヲカヘリミテ愼ムベキコトナリ、世ニ夢程前後ソロハザルモノナシ、コ丶ニアルカトスレバ忽然トシテ彼ニ在リ、甲人ト

話スカトスレバ乙人ト語リ、アルヒハ死タル人ニアヒ、遠人ト談ジテ風ヲトラヘ影ヲツナグガ如シ、平生默然タルトキ、彼ヲ思ヒ此ヲ思ヒ改テ死ヲ思ヒ出シ、他所ヘ往シコトヲ思フガ如シ、起テ寤タルトキ思フト、半寢ニテ思フトノ違ヒニテ同ジコトナリ（殷ノ高宗ノ傳說ヲ夢ニ見シハ謀術ナリ、後醍醐天皇ノ楠ヲユメミシト同ジコトナリ、是ラハ夢ニ託シテ衆ヲ服スルナリ、實ハ前以テ約シタルコトナリ、古來此類多シ）然レバ古人ノ弓馬寶物ヲ夢ニ授リシト云、諸神・諸佛ノ託宣ヲ夢ミルト云テ祠廟ヲ建立シ、方藥ヲ得テ御夢想ト號シ、妖僧地獄ヲ見シト云コト、ミナコノ半寢・半寤・間思・雜慮ノナス處ナリ、然ルヲ覺ラズシテコレヲ信ジテ、建立シタル祠廟佛刹アリ〳〵トシテ存スルハ、其時ノ君臣ノ愚妄ナルコト明ラカニシテ知ベシ、是ミナソノ夢ミタル人ノ妄ニシテ、信ズル人モ亦妄ナリ、シカルニ此夢ヲナノリテコトヲ仕出スモノ、萬々一モ實夢ハナキナリ、ミナ姦計ナリ、コレ則チ君上ノ愚ヲ見カケテ欺クモノニシテ、ソノ罪殺シテ免スコトナカルベシ、智者上ニアリテ政ヲ行フトキハカヽル奸人ハ決シテ出ザルナリ、故ニ歷代ノ夢ヲ云立上ヲ欺キシ姦人ドモヲ、ミナ官ヲ剝ギ、今カヽルコト云出ス者アラバ忽チ罰スベシ、サテ又當時夢想トシルシタル藥店・灸店ノルイ、ソノ餘加持祈禱ノルイハ、ノコラズ破却シテ手初トスベシ、アヽ憎ムベキ哉

卅二　周有二八士一、伯達・伯适・仲突・仲忽・叔夜・叔夏・季隨・季騧」、コレ四乳ニシテ八子ヲ生ムト皆双生ナリ、伯・仲・叔・季ノ次席二人ヅヽ同ジケレバ、双生ニ兄弟ノ分チナキヲシルベシ、然ルニスデニ其別ナシト雖、初ヲ兄トシ次ヲ弟トスルノ序ナクンバアルベカラズ、然レドモ太郎二郎トハスベカラズ、

二人トモ太郎ナルベシ、イカントナレバ論語ニ二人トモニ伯ナレバナリ、然レバ双生ハスベテ同輩タルベシ中川氏資生天機ニ云孿ハ双生ナリ、一舍ニシテ孕ムチ云、ユヱニトモニ男バカリカ女バカリナリ、女夫子ト云ハ兩度ノ孕ナリ、又男バカリニテモアリ、孿ハ胞チ共ニシ、兩度ノ孕ハ胞チ別ニス、又姙シテ月チ經テ孕ミタルハ大小アリト雖モ、先孕ノ生ズルトキ後孕チオシ出スコト有、コレハ育ザルナリ、然レバ胞衣ノコトナルハ、兩度ノ孕ナリ俗ニ密夫トスルハ誤ナリナレドモ强テ兄弟ヲ分タントセバ、先出ヲ兄トシ後出ヲ弟トスベシ、當世多ク後出ヲ兄トス、其故ヲ問ヘバ、曰後出ハ先ニ受胎シテ上ニアリ、先出後ニ受胎シテ下ニアリ、ユヱニ後出ヲ兄トスト、コレハ不當ノコトナリ、凡受胎ノ早キモノ先出ハ順ナリ、然レバ先出ヲ兄トスルコト決然ノ理ニアタレリ、タトヒ妻妾同時ニ妊センカ、臨月ニ至リ今日生レタルヲ兄トスベシ、明日生レタルヲ弟トスベシ、ナンゾ妊娠ノ前後ニカヽハラン、證モナキコトヲウカガタンヨリ、出產ノ前後ヲ證トスベシ、西京雜記ニ霍光ノ子ノ双生ヲ論ズルコトクハシ、サテ又胎中ニテモ六七月ノ後ハ上下ヲ論ズト雖、三四月マデハ一滴ノ水一箇ノ卵、ナンゾ上下ヲ分タン、又七八月ト雖ナラビ居ルトキハイカヾスベキ、何レニモ出ルトキハタトヒ同輩ト雖、一人先ヘ出一人後レザルコトヲ得ズ、然レバ早ク出タルヲ兄トスベシ、此論易フベカラズ

卅三　孟子ノ書ハ剴切痛快人々ノ病ニアタラザルコトナシ、論語ハ聖語ヲ一言二言ヅヽ書トメタルモノ故、語ミジカク意ユルシ、孟子ハ問答ヲ其マヽニシルシ、又文ニツヾリテ書キタルモノ故、語長ク意嚴ナリ、其上孔孟ホドノ德ノ差ヒモアルベシ、然ルニソノ差別ナクシテ孟ニアレバ非トシ、論ニアレバ是トスルコトモ亦無ニシモアラズ、總テ經書ヲヨムニハソノ問ト其人トヲ辨ジテ、後ソノ答辭ヲ味

フベシ、孔子ニ仁孝ヲ問ニ、ミナソノ人ニヨリテ其答辭異ナルガ如シ、豈仁孝ニ差別アランヤ、只ソノ問フ人ノ不足ヲ補ヒ過ルヲオサヘテ、其病ニアテ或ハ力ニアテヽ、早ク行ハルベキ方ヘ導キ玉フナリ、故ニソノ問ヤウ又ハ其人ヲ以テ答辭ヲ玩味スベキナリ、孟子ノ「君視レ臣如二土芥一、則臣視レ君如二寇讎一」トハ君タル人ニ示スナリ、君ヨリ土芥ノ如クニシ玉ハヾ、臣ヨリ寇讎ノ如クニスベキホドニ愼シミ玉ヘト教導スルナリ、臣タル人ニ向ヒテ君ヨリ土芥ノ如クニシ玉ハヾ、寇讎ノ如クセヨト教ユルニアラズ、臣ハタトヘ君ヨリ土芥ノゴトクニシ玉フトモ、必ズ愼ミテ忠ヲツクスベシトノ玉フベシ、孔子ノ「近則不遜、遠則怨矣」ノ語モ又同ジ、近ヅクレバ不遜ナルベシ、遠ザクレバ怨ムモノナリト、教玉フニアラザルナリ、女子・小人ハ養ヒガタキモノナリ、近ヅクレバ不遜ニシテ遠ザクレバ怨ミノヽシル、サテモ〳〵使ヒガタキモノナリ、心得テ使フベキナリトノコトナリ、スベテ經書ニ出タル語ハ今講釋ヲスル如ク、萬人モナラベテ置キテ、諸人ノ耳ヘミナ通ズルヤウニ書タル語ニハアラズ、ソレゾレノ人ニ對シテ君ナレバ君ノ心得ニナルヤウニ、諸臣ヲヨク使ヒ百姓ヲアハレムベシトヲシヘ、臣ナレバヨク君ニ仕フベシト云、父ニハ慈ヲヲシヘ、子ニハ孝ヲ敎ヘ、夫婦・兄弟・長幼ミナソレゾレノ行フベキ道ヲヲシヘ玉ヒシヲ、其マヽ書ツラネタル者ナレバ其章ニヨリテ意味ノ違フコトナルヲ、萬人ニ通ゼズト云テ誹ルハ非ナリ、其上孔ニアレバ是トシ孟ニアレバ非トスルヿハ、尙更アルマジキコトナリ、此誤リアルガ故ニ明ノ大祖ノ如ク、ツヒニ孟子ノ像ヲ射トスルニイタル、地天交泰ノ意ヲシラズシテ、天地隔

否ノ勢ヲトルト云ベシ、タトヘバ國君タル人賢者ヲ請ジテ政ヲ問フニ、君タルノ道ヲイヒ、コヽニオイテ下ハ恐ルベキモノナリ、ヨク〳〵其德ヲツヽシマザレバ、其位ヲ失フベシ、君ノ臣ヲ使フニ、禮ヲ以テスルノ語ヲ忘レマジキコトナリ、不德ナレバ臣民叛キ、簒逆ノ禍ヒ起ルベシト云テ君心ノ非ヲ格スベシ、然ルニ其通リヲ臣民ニ向ヒテ、君不德ナラバ離叛スベシト教ユベケンヤ、譬ヒイカナル非道ノ君ナリトモ勞シテ怨ミズ、敬シテ違フベカラズトヲシヘン、其外父ハ子ノ弱クテ達セザルヲ云テナダメ、子ニハ父母ニ孝タルベキコトヲヲシユベシ、皆是ソレ〴〵ノ一人ニ告ルコトニシテ、君臣・父子・老弱・貴賤上下通徹スルノ教ニハアラザルナリ、其問トソノ人トノ差別ナクシテ、只其答フル人ヲ誹ルハ非ナリ、論孟ノ書ヲヨムニハ、ヨク〳〵此意味ヲ心得テ讀ベキモノナリ

卌四　孟子ノ四端信ヲカク朱註ニ、信ハ是四德ノ元ノ如シ、五行ノ土ノ如シ、信ハ四端ノ中ニミナコモリタリト云ドモ、孟子ノ意アリテ信ヲ除キシニアラズ、易ノ四德ハムリナリ（易ノ四德ト云ハ、文言傳ハ元亨利貞ヲ一字ヅヽニ字義ヲ解キタルヲ見チガヘタルナリ、元ノ一字ヲ以テトキタル例ナシ、元亨ハ大ニ通ルナリ、元吉ハ大吉ナリ、一字ニテトクモノハ亨貞ナリ、シカレバ二德ナリ、利ハ何某スルニヨロシト云、是又一字ノ例ナシ、シカレバ元ノ字三德ヲカネザルナリ）五行ハ後世ノハヤリモノナリ、仁・義・禮・智・信五常ト云コトハ、董仲舒ニ初マルコトハ上ニ云通リニシテ、孟子以前ニ云ハザルコトナリ、孔子仁知トナラベノ玉ヘドモ、仁義トナラベタルコト論語其外ニモ見エズ、老子ニ「大道廢而有二仁義一」ノ語アリ（コノ仁義ノ二字ヲ以テミレバ老子ノ書モウタガフベシ、伊藤蘭嵎子曰、老聃古者實ニ其人ナシ蓋莊周ハジメテ名ヲヨスル處ナリト、クハシキハ第八ニ論ズルヲミテシルベシ、又コノ仁・義・禮・智ノ四字ニ樂ノ字ヲソヘタルモアリ、仁義禮智信ノ五字ヲナラベテ云タルコトナシ、孟子書中ニナシ、サレバ信ノ字ナキヲアヤシムベラカズ）古書ニテハコレヲ始トスベシ、繫辭傳ニ「仁與レ義」コ

レ後儒ノ語ナリ、コノ二書ヲ除ケバ仁義ナラベ云モノハ孟子ナリ、ソレヨリ仁・義・禮・智ト云コトヲ云テ此四字ヲ多ク用ユ、四端コノトキノ語ナリ、信ナキヿアヤシムベカラズ、朱子モ後世ノ説ニナヅミテコヽニアヤシマルヽナラン

卅五 欲レ疾二其君一者」此欲ノ字衍文ナルベシ、天下仕者・耕者・商賈・行旅皆欲ノ字ナシ、皆體也、欲レ立・欲レ耕・欲レ藏・欲レ出・欲二赴愬一ミナ欲ノ字アリ、ミナ用ナリ、「疾二其君一者」ニ限リテ欲ノ字アルベカラズ、コレモ亦體ナリ、コノ欲ノ字アルユヱニ、疾ヲヤマシメントヨミタリ、註者イロイロクルシムコトナリ、其上君タル人ヲ、天下ノ人ヨリ疾マント欲シ、願フコトハナキハヅナリ、君無道ナレバ苛虐ニアヒテ、是非ナク疾ムナリ、惡ミタシトナンゾ願ハン、コノ欲ノ字ハ上下ニアルユヱ、筆拍子ニテ入タルナラン、君無道ニシテ百姓クルシミ惡ミテ、隣國ノ賢君ヘツゲ愬ント欲スルナリ

卅六 泄々猶沓々也」ノ註ニ「沓々者泄々之意一ト云、コレ孟子ノトキノ人、沓々ヲ知テ泄々ヲ知ラズ、故ニ泄々ヲ説テ沓々ナリト云、朱子ノトキノ人ハ、却テ泄々ヲシリテ沓々ヲシラズ、ユヱニ沓々ハ泄泄ノ意ト註ス、カヽルコトモアルモノナリ、伊勢物語ニ云、富士ノ山ハ比叡山ヲ二十バカリ合セテ形チ鹽尻ノ如シト云、此時ハ東ニ下ル人、少ナクシテ富士ヲシラザル人多シ、ユヱニカク云ナリ、古ヘ鹽ヲヤクニ鐵鍋ヲ用ユルコトアリ、鍋ノ底ニ焦飯ノ如キモノ出來ルニ、歳ヲ積テコレヲ起セバ、笠ノコトクニシテ甚堅シ、燈籠ノ蓋トシテヨロシ、今高臺寺ニアリトゾ、之ヲ鹽尻ト云、然ルニ伊勢物語ノ

トキノ人ハ、鹽尻ヲ知テ富士ヲシラザルユヱニ、鹽尻ヲ以テ富士ノコトヲタトヘシナリ、後世ハ東へ行人多シ、又ハ畵ニテモ見ルユヱニ、富士ノ形ヲシラザル人ナシ、ユヱニ發句ニ

　　鹽尻ハ富士ノヤウナル物ナラン

ト云、トキ〲ノ方言カヽルモノナリ

卅七　愼獨ヲ朱註ニ謹獨トス、建極ヲ朱註ニ立極ニ作ル、愼建ノ二字朱子ノイムコトアリテ斯ノ如キカ、前儒ノ文ニ諱字等多クアリテカヘラレタルモノアルベシ

卅八　同姓ヲ娶ラザルハ周ノ法ナリ、周ヨリ前ニハ嚴ニハナカリシ也、然レバ堯ノ女ヲ舜ニ妻（メアハ）スヲ疑ベカラズ、周ノ法同姓ハ百姓トイヘドモ娶ズト云（後世人情ウスクナリテ同姓兄弟ノ家ト雖、從弟再從弟ニ至ルナレバ疎遠トナル、周ノ法ヲ用ユレバカヘツテ同姓ノ王姓ノ末同族ニオトル、從弟以下ニ婚スルニシカジ、イハンヤ同姓ヲ娶ラザルハ天然ノ法ニアラズ周ノ法ナルヲヤ）上古ハ只近キ親ルイハメトラヌニテアルベシ、吾邦ノ上古ハミダリガハシク、中古文化行ハレテ唐禮ニ從フト雖、ワヅカニ親子兄弟ハ相避ルコトニテ其他從弟叔姪ノ夫妻ハ今ノ世ニ禁ナシ、セメテハ忌服ノカヽル程ハ相避ヨカシト思フ也、必シモ周代ノ法ヲマモルニ及バズ、コレモ父ノ屬同姓ニカギリタルコト也、母ノ族及ビ諸ノ異姓ハコノ限リニアラズ

卅九　孝經ノ書疑フベキコト多シ、發端ニ「參先王有二至德要道一、而以順二天下一、民用和睦、上下無レ怨、女知レ之乎」ト問ヲオコシテ、「參不敏何足二以知一レ之乎」トイハセテオキテ、ソレヨリダン〲孝ノ事ヲ說出ス、是ハ左傳ノ文法ニテ孔子ノ文ニアラザルナリ、ソレヨリ以下多ク左傳ノ語ヲ用ヒ、又ハ左傳ノ

本語ニアラザレドモ、同文法多シ、故ニ朱子ノ眼力ニテ左氏ノ作文カ、又ハ後人左傳ノ語ヲトリ交ヘテ、作リタルモノト見ツケラレタルナリ、故ニ刊誤ヲツクリテコレヲ正ス、太宰氏ノ如キ何ヲガナ朱子ニ悖ラントス、孝經ヲ非トスルハ、孝ヲナミスルナリト云心ヲ以テ、此書ヲ貴ビ朱子ヲ以テ戻ルト云ニ至ル、然ルニタトヒ僞作ト雖、其文理宜キ時ハ何ゾコレヲ非トセン、孝經ヲヨク熟讀シテ諸書ニ引合セ味フベシ、孔子ノ語ニ非ズシテ、左氏ノ文法ナルコト昭々タリ、是ハ作者ノ論ナリ孝ヲナミスルニアラズ

四十　徂徠先生ノ論語徵ノゴトキ、仁齋先生ノ大學非ニ孔子遺書ニ辨ノゴトキ、見ルウチニソノ牽强ノ甚シキヲミルベシ、然レドモ諺ニ曰如ク、聲ノ高キモノ勝ヲトリテ、其徒コレヲフルヒ罵ルニツキテ、一旦ハ行ハルベケレドモ、五七十年ニシテ衰ヘテ今ハコノ學ヲトナフル人々ハ至テ少シ、一時激厲ノ語ハ人モ面白ガルト雖、終ニサメテ行ハレズ、從容トシテ義理ヲ談ズルハ人モ奇トセズ、モテハヤスコトナシト雖モ、萬古衰ヘザルヲミルベシ、聖人ハ已甚ヲセザルナリ、明儒スベテ宋儒ニモトル、其嚴正ヲニクムナリ、徂徠氏コレヲ取リ、鄭玄何晏ノ糟粕ヲナメテ徵ヲツクル、一々勉メテ朱子ヲ非ス、其大言不耻ノコトニシテ紛擾云ベカラズ、故ニ五井先生非物篇ヲ作リ、竹山先生非徵ヲ作ル、ア丶兩非ノ書出テ彌以テ徂徠氏ノ謬解顯然タリ、或人梁田先生ニ徂徠氏ノコトヲ問フ、先生コレヲ非ス、其人曰先生カクハノ玉ヘドモ、徂徠氏ト面話シ玉ハヾ云マケ玉フベシト、梁田氏曰、徂徠朱子ヲソシルト雖、朱子ニ面話セバ亦云マクベシト

四十一　爾雅ハ周公ノ作ト云傳フレドモ慥ナルコトヲシラズ、イヅレニモ字書中ノ古書也、元來蒼頡ノ製シタル字ト云モノイカンヲシラズ、科斗・籀・大篆・小篆・八分・隸書・楷・正・行・艸ナド古ヘヨリ次第ニウツリ變リタルコトニテ、今ハ楷正ト行艸トヲ用ヒ、其字ト雖形象ヲ以テ造リタルアリ、義ヲ以テ作ルアリ、母字アリテ、ダン〳〵ニ生出シタルアリ、古ヘハ篇旁少シ、一字數義アルモノハ、各篇旁ヲ加ヘテツカフ、紛レヌ爲ナリ、コレヲ字ノ母字ト云ベシ、易ノ兌夬ノ字ニテ考フベシ、（兌夬ノ音易ニハダクハイト云テ字書ニタイケツシテ易ノ音ナキハイカン、イヅレニモ間違多シ）又一旦人名器物禽獸ノ名トナリテ、定マリタルモノナレバ、篇旁ヲ加ヘザレバ外ノコトニハ用ヒヌヤウニナリタリ、今ハ篇旁ヲ去レバ何トモ義ノツカヌ字アリ、コレ古ヘハソノ義アリシモノヽ、篇旁アルガ常トナリテ本義ヲ失フナリ、山ノ名ナレバ必山ヲソヘ、水ノ名ナレバ水ヲ加フル、後人勝手ニスルコトナリ、字書ノ古キヲ爾雅トス、訓釋字義ヲ說ク也、コレニ繼グ者ハ說文ナリ、又字義ヲ云其數九千三百五十三字、其後字典トナル、書ニヨリ篇旁ニヨル、終ニ字彙アリ、三萬三千百七十九字、說文ニ三倍ス（字彙補一萬二千三百七十一字アリ、廣韵四萬二千三百八十三字、玉篇五萬五千四百二十五字、同增加舊十五萬八千六百四十一字、新五萬千百二十九字、其後ダン〳〵ニ增加スルコト計ベカラズ）次ニ正字通出ル、マス〳〵多シ、ソレヨリシテ玉篇・唐韻・廣韻・集韵・韵會・洪武正韵ヨリ其餘數多ノ字書アリテ、ツヒニ康熙字典ニ極マル、世變リ時移リテ時々俗字アル故ニ、漸々ニ多クナルハ一ニハ漢以降長賦ヲ作ル人ノ罪也、コレハヨシナキ文字ヲ作リテソヘタリ、二ニハ字書ヲ作ル度ゴトニ博合ヲ務テ古字・寄字・訛字・俗字ヲアマサズ載セタルナリ、三ニハ好古ノ人鐘鼎ノ古文ヲ考ヘテソノ古奇ナルモ

ノヲ、我意ニ任セテ楷書ニ引直スナリ、ソレユヱニカクノゴトク多クナルコトナリ、今ニモアレ大賢出テ唐韻ニ本ヅキ、諸書ヲ出入取捨シテ、字數七八千ヨリ一萬ニ定メテ、古書ハ說文ニヨリ其他ノ字書ヲ悉ク燒棄タレバ、古今ノ一大快事ナルベシ、萬世ノ爲ニモヨカルベシ、然ルニ漢土ニカヽル業ヲスベキ人ナカルベシ、字典ノ半ハ無益ノモノナリト雖、コレヲシラズシテ年々歲々ニ字ノ多クナルヲ喜ブノミ、俗字ト云モノハ其時行ハレテモ程ナク止ムモノ也、俗言ノトキ〳〵ニ替リ往ト同ジ、ソレヲ書ニノセテ世ニ傳ヘントス、愚ナル哉、字書ニ限ラズ醫書本艸ヲハジメ、經書ニモ無用ノコト多クアリテ、當世ノ間ニ合ザレドモ、今又新ニ書ヲツクレバ、先第一ニ古書ノ事歷ヨリ書出サヾレバナラザルヤウニナリテ、無益ノコトノミ多シ、コレラヲミナ削リテ、洗濯シテヤキ改メタキコトナリ、（字書作者字ノモレタルヲ以テ後備ニソノ學ノ博カラザルヲ議セラルヽヲ苦ム、ユヱニセンサクシテモレザラシメントス、ユヱニマシテ又マシ又マスモノナリ）日本ニ神代ノ文字アリト云傳フレドモ、全ク虛ナリ、スデニ文字アランニハ傳ラズンバアルベカラズ、應神ノトキ文字ワタリテコレヲ始トス、古事記・萬葉集ノ假名ハミナ漢文ヲカリ用ヒタルナリ、其字音甚ダヨク正シクシテ外字ヲ用ヒズ、神代卷・舊事紀ハ餘程違ヒアルナリ、後世平カナ片カナアリテ國音ヲ以テ書クニハ殊ニ便利ナリ、日本モ漢字ナクシテ、カナバカリナラバ大キニヨカルベシ、天竺ハ梵字三十六字ノヨシ、西洋ハアベセ二十六字ヲ以テス、我國四十七字、梵三十六字、蘭二十六字ニ限ルト雖、寄字・合セ字イロ〳〵アレバ少シハマスベケレドモ、百字ニハ上ルベカラズ（平ガナハ艸書ナリ、片カナハ偏或ハ旁ヲノミハブキテ用ヒタルナリ、シカルニミナ漢字ヲ略シタルモノニシテ、國字ニアラズ、後世ノ作ナルユヱナリ、萬葉集ヲエラ

マレシトキ今ノカナヽシ、ユヱニ漢字ヲ用ユ、コノユヱニ字義ナシ、ミナ音ヲカルノミナリ、中ニモ河國ナドノ字ハ義理アリシナリ
(源氏・伊勢ソノ外艸紙ノ如キ、ミナイロハヲ以テノミカク、一字モ漢字ヲマジヘザレバ、ソレニテスムベシ、只字ノ多キノミ、西洋ノ
書ハミナカナカクノ如シ、故ニ翻譯シヤスシ、)(タトヘバ杯ト云ハ木ノサカヅキ、觴ト云ハ角ノサカヅキ、盃ハヤキモノ、サカヅキナリ、
盃ノ一字ニテ漢人ハスマスモノヲ「ヤキモノ、サカヅキ」ト九字ニナル、サテ又コノ九字カキタル所ニテ通ジカタシ、ヤキモノ灸物サカ
ヅキ逆月トマギラハシ、雲ノ上トカキテ蛛ノ飢モ又シルベカラズ、コノツヒエハアルベキコトナリ、シカルニ盃ノ字バカリ
モ十二三字モアルベシ、コレモ又ムエキノモノカ、イヅレニモ字多ケレバ言少シ言多ケレバ字少シ、コレ自然ノコトナリ

西洋人ノ漢ヲ謂テ曰、漢人ハ一生、ソノ國字ヲシリツクサズシテ死ス、サモアルベシ、然ルニコレモ亦知ラズトモスムベキ字ノ多キヲ知ラザルナリ、ソレニテモ一萬バカリヲ知ラズンバアルベカラズ、扨コノ字數ニモ得失アリ字多ケレバ書ニ臨ンデコト早ク通ジ、少シク書シテ用辨ズ、字少ケレバ書ニ臨ンデオソク通ズ、字多ク書テ用辨ジガタシ、コレハ學ブニ苦シミタル故ニ早ク辨ジ、學ブニ易キユヱニ辨ジガタシ、コレ程ノコトハアルベキコトナリ、元來漢字ト雖上古ヨリ中古ダン〳〵作リタルニテ、字典ニ出ルモノ或ハ詩ノ何篇ニ……………トアリ、書ノ何處ニ……………トアル、老子ニ……………トアリ、莊子ニ……………トアリト云テ、アノ詩書ノ作者老子・莊子ハ何ヲ證トシテコノ字ヲ用ヒタルヤ、コノトキイマダ書ナケレバ定メテ古書ノヨルベキアルナラン、然ドモ又其源ニ遡リユケバ蒼頡ノ造リタルハ僅々ニシテ其後ダン〳〵作リソヘタルナリ、ソノ字ノ内ニ義理分明ナルアリ不分明ナルアリ、スデニ山川地名ニ多ク作字ヲ用ヒ、鳥獸・魚蟲・艸木・日月・星辰亦シカリ、然ルニ父子・兄弟・夫婦・朋友・姑舅・姪甥・曾孫マデノ字アリ、祖父ノ一字ナシ、玄曾孫ノ字ナシ、祖ヲ祖父ノ本字トスレバ、ソレヨリ以上ヲ何トカ云ハン遠祖大祖ト云ベキカ、曾孫ヨリ以下ハ孫ノ一字ヲ用ユベキナラン、遠キニ過テ近キニタ

ラザルナリ（又嫂嬸・伯叔・姉妹ナドノ字アリテ、祖父・祖母ノ字ナシ、アヤシムベシ、祖ノ字ヲヂバヾノ本字ニスレバ、又バヾ字ナシ）（音同ジクシテ義コトナルアリ、音異ニシテ義同ジキアリ、衡音横・碎音倅ナドハ音ヲ云テ義ヲカヌ、ソノ外同音ナルベクシテ異ニ、異音ナルベクシテ同ジキアリ、粗謬ナルベシ）又反切・音聲ト雖ソノ音義紛々タリ、沈約ノ四聲韵鏡ト雖クダ〳〵シキノミニテ、合モノアリ、合ザルモアリ、スベテ漢人ノ心モチニハ字ヨリ先ニ生ジテ迹ヨリ萬物出タルヤウニ覺ユルナラン、人物有テ後事アリ、事アリテ後字アルコトヲ知ラザルナリ、太古結繩シテ治ルト云モノ亦イカンヲシラズ、スデニ字アリテ後繩ニテモ結ブベシ、字ナクンバ繩ヲ取トモイカヾ結バン、然レバ則古ヘハ繩ヲ結ンデ治ムト云モノ、後世文字アルヲ以テ、ソノ代リニ繩ヲ結ビシト云コトニナルナリ、既ニ文字ナケレバ無キマヽナリ、ナンゾ繩ヲ結ブコトアラン、今ノ漢人文字アルニクラマサレテ、字ハハヘヌキノヤウニ思フ人多シ、然リト雖神代ノ篇ニ云ゴトク、文字アレバ國ノヒラクルナリ、文字ナケレバ幾萬年ヲ經ルト雖モヒラケザレバ、文字ハ大切ノモノナリ、シカレドモ文字ハ遣フベシ文字ニ遣ハルヽコトナカレ（假名ヅカヒノ國ニハ字ニ義理出所ナシ、一ヲ以テイヘバ仁ノ字ハヘヌキニアリテ、人其心ナシラズ、孔門ノ弟子ミナシラズシテ、孔子ニ問ソノ義ノ字信ノ字ソノ餘ミナシカルガゴトシ）

夢之代卷之七終

夢之代卷之八

雜書第八

一　楊愼曰、「尙書首㆓堯典舜典㆒、春秋首㆓隱公㆒、世家首㆓泰伯㆒、列傳首㆓伯夷㆒、貴㆑讓也」ト、然ルニ是偶然ノミ讓ヲ貴ンデ斯ノ如キニアラザル也、古書二典ヨリ先ナルハナシ、春秋ノ起リイカンヲシラザレドモ隱公ヨリ始マルモノハ、魯ノ史記コノ時ヨリ委シキナルベシ、史記世家呉ヨリ久シキハナシ、宋杞ト雖ミナ武王ノ封ズル所也、列傳モ亦シカリ、伯夷ヨリ先ナルハナシ、伊尹傅說ノ傳ヲ作ラバ、コレヲ始トスベシ、伯夷ニ始マリ、管・老・司馬・孫呉コレニ次グ、ミナ大テイ年次ヲ以テスルモノ、晏・莊・申・韓・呉ハ同德同國同姓等ノ因ヲ以テ附スルナリ、ソノ外ミナ此ルイ也、然ルニ德ヲ稱シ、不德ヲ貶シ、大史公ノ次序ヲ前後シ、サマ〳〵ノ評ヲナスコトミナ誤ナリ、孔子陳涉ノ世家ヲ始メ、ミナソレソレノ意ノ有處ハ大史公ノ自序ニテシルベシ、遷モマタ大賢ニアテズ大テイニ見ルベシ

二　樂正子春足ヲ破リテ、孝ヲ忘レタルヲ憂フ甚シキニ似タリ、シカルニ君子ハ精白紙ノゴトシ、小人ハ紺紙ノゴトシ、ソノ餘ノ中人ハ黄アリ、白アリ、碧綠アリ、赤紅アルガ如シ、ソノ白紙タルヤ一點ノ墨附タレバ、精紙ニアラズ、自カラ憂フベシ、傍人モ亦コレヲ惜ミ穢タリトス、君子ノ小過ヲ憂

フルコトカクノ如シ、小人ノ紺紙ニ一點ノ白キアレバ、此ヲカザリテ、世ニモ珍ラシク思ヒテ人ニホコル、ソノ滿紙ニ墨ヲコボスト雖モ、ツヒニ憂トセズ、亦是ヲ見分ツコトナシ、或ハ青黄碧赤ノ紙ニ至リテハ、小疵ヲウケテ憂フルコトナク、小白ヲウケテ誇ラズ、少ニテモ濃ニ至レバ、尙サラニ大疵ヲイトハズ、ダン／＼ト薄キ程、イヨ／＼小惡ヲオソル、故ニ君子ハ不正ノ色ヲ視ズ、不正ノ言ヲ聽ズ、不正ノ言ヲ云ハズ、不正ノ地ヲ踏ズシテ、只戰々兢々トシテ、薄氷ヲフムガゴトク、深淵ニ臨ムガゴトクニシテ、汚サレントスルヲ恐ル、小人コレニ反スルヤ、只人ヲ聖賢ト見ル故ニ、一點ノ疵アレバ是ヲ誹リ、人ヨリ惠ヲ懷ヒ、安キヲ懷ヒ、我ニ向ヒテ少シク怨セザレバ、ソノ人ヲ責メ唯モノ人ヲ君子トセントス、サテ又己ヲ愚蒙ノ人トミルユヱニ、大疵アリテモ人ノ正スヲ怒リ、人ヲ惠マズ人ヲ安ンゼズ、人ニ向ヒテ怨スルコトナク、我マヽニシテ己ヲ小人トセントス、水戶黄門君曰、主ハ無理云モノト思フベシ、臣ハ行トヾカヌモノト思フベシ、ユヱニ我曰、人ハ小人ト思フベシ、行トヾカヌモ理ナリ、人ハ盜賊ト思フベシ、盜マザレバ君子ナリ、己ハ君子ト思フベシ、盜ミタラバ賊ナリ、ツヽシムベシ、己ハ君子ト思フベシ、行トヾカザレバ小人ナリ、ツヽシムベシ、是行住坐臥ノ功夫怠ラズシテ、ツヒニ樂正子春ノ域ニ至ラバ、何ヲカハウラミン、何ヲカ恐レン

三　史記八書ノ內、曆書・天官書ナドノ妄誕云ベカラズ、大史公ノ時ノ天學ハカヽルモノナリ、ソノ外五行・陰陽・鬼神・仙術ニ涉ル書類、且醫書ノルイ用ユベカラザルコト多シ、ミナコレ古書ノコト故ニ、

ソノマヽニテ措テ論ゼズシテ然ルベシ、我神代ノ書モ亦シカリ、スベテ大部ノ書ハ煩雜多シ、孟子曰、「盡レ信レ書不レ如レ無レ書」ト、此語拳々服膺シテ書ヲヨムベシ、然リト雖、初學ヨリ疑ヲ抱キテ學ブベキニアラズ、ダン／＼ト熟シテソノ智明ラカニナリタラバ分ルベシ、然リト雖史記ニ限ラズ、班固ノ漢書ヨリシテ、歷代ノ諸書凡五行災異ニカヽリタルコトハ、ミナ杜撰妄說多シ、蓋シ五行災異ト云異端ノ一派アリテ、讖緯ヲトリマゼテ世ヲ惑ハス、漢ノトキ大ニ行ハレ、儒學中ヘマジリ込テ天下公共ノ道トナリテ、此ヲ斷然ト擯斥スルノ人少シ、人ニヨリ好不好ノ淺深アルノミニシテ、一向ニトリ上ザル學者ナシ、程朱ニテモ少シヅツハコノ病アリ、況ヤソノ他ヲヤ、我邦ノ先輩ト雖ミナシカリ、今世ニテモコレヲ信ゼズ破ルモノハ中井ノ門ノミ、世上ミナ淺深ノ惑ヲ免カレズ、ツヒニハ神佛ニ陷リテ救フベカラズ、ユヱニ古書ノミニアラズ、醫術中ニ五行ヲ取ザルハ、後藤・山脇・吉益ノ數流ノミ、ソノ外ハ五行ニ泥マザルハナシ、古聖賢ノ天ト云ハ、多クハ己ヲ愼ムノ方ヨリ出ル、畏レ天ノルイ、天譴ノルイコレナリ、又古來ヨリ論ジタルコトナレバ、何レノ論モ捨ザルガヨシト云ハ、長者溫厚ノ論ニテ、コノ長者ノ惑ヒ牢ウシテ解シガタシ、都テ學者ノ內ニ力行ヲツトメ、實學ノ人ハ五行災異ヲ專トセズ、實ニ疾病ヲ治スル醫ハ亦五行ニ泥マズ、實ニ日月星辰ヲ推步スル天學者ハ、亦五行災異ニ惑ハザル也、皆淺學ニシテソノ實地ヲ知ザル人ノコトナリ、ミナコレ小人儒ノ誤也

四　爲ノ字、タメトヨムハ少シ、タメハ去聲也、爲レ人、爲レ己、爲レ父ノルイナリ、故ニ四書ノ註ニミ

ナタメト云時ハ去聲トス、スル、ナス、ナル、ヲサムル等ノ時ハ、ミナ平聲ニシテ本音ナリ、ユヱニ音註ナシ爲ニ(ナル)ヽヽ所(トコロ)レ爲(スル)ト云時ハ、ミナ平聲ナリ、シカレバ爲ニ(タメニ)ヽヽノ所(ラル)ヒ、セトハヨムベカラズ、然ルニ我國カクヨミ來レリ、此コトニ心附タルハ中井氏ノ門ノミ、コノ始ハ十八史略ノ音註ニ去聲トセシヨリ來ルナラン、大日本史此誤ヲオソヒテ、爲ニヽヽ見レヽト云コト多シ、所見ノ差ヒ大ニ過レリ、爲ヲ平聲ニヨメバ所ハトコロトヨミテ、ラルトヨマズ、（所ノ字ニラルヽノ意ナシ）見ハラルルノ外ヨムベカラズ、孟子ニ盆成括見(ル)レ殺(サ)ハ上ニ爲ノ字ナシ、（史記ニ上ニ爲アリテ下ニ所ナキアリ、コレハ去聲ナリ、ニト云ハタレニ殺サルト云コトナリ）漢文ニ爲ノ字上ニアレバ、下ニ所ノ字アリ見ヲ用ヒタル例ナシ、又上ニ爲ノ字ヲオキテ誰ノ爲ニ殺サルトヨム時ハ、誰ニコロサルト云コトニナル、シカレ共爲ノ字和文ニニトアタルコトナシ、君ガタメ誰ガタメトノミニテ、決シテニノ所ニ用ヒザルナリ、漢ニテハ音ニテヨミ下スユヱニ、日本ノ點ヲツケテカヘリヨミニスルトハ大ニ異ナリ、カヽル處ニテ心得タガヒ多クアリ

五　蒙求ノ鮑靚記レ井、羊祜識レ環」ノ語、及ビソノ外妄說多シ、スベテ蒙求世說ノ類ハ、俗書ニシテ儒書ニアラズ、野乘卑說ヲトルコト多シ、大テイ佛法中國ニ入タル後ノ書ハ、カヽル俗說多シ、堯舜・孔孟ノ道ヲ述タル書コソ儒書ト云ベケレ、然ルニ吾邦ニテハ四角ナル字ノ書册ハ、ミナ儒書ト思ヘリ、中古文學行ハレシ時モ詩文歷史ヲ主トシ、ソノ外俗書ヲヨミテ四書五經ヲ熟讀シタル人少シ、ユヱニ勸學院ノ雀モ論語ヲサヘヅラズシテ蒙求ヲサヘヅル、ヲシムベキカナ、大テイコノ時分ノ學者ハミナ

雀ノ師ナリ（世說蒙求ハミナ出處アリテ歷史及ビ卑說ヲ用ユ）

六　或時宴集ニ對ヲ談ズ、曰、吉凶・善惡・表裏・上下・得失・損益・君子・小人ヨリ、竟ニ利害ニ至ル、先生曰、コレマデノ對ハミナ然リト雖、利害ヲ以テ對トスベカラズ、諸賢此心故ニ常ニ行ヲ汚スコト多シ、利ノ對ハ義也、利ヲ見レバ義ヲ見ルニ暇アラズ、ユヱニ利義ヲ以テ對トスベシ、孔子「見レ得思レ義」ト云、孟子「何必曰レ利、亦有ニ仁義ニ而已」ト云、得ヲミルハ利ナリ、コノ時義ヲ思ハザレバ利ニクラマサルベシ、仁義トイハズシテ利ト云時ハ、亦利ニ泥ムナリ、故ニ利ノ對ハ義ナルベシ、利害ヲ以テ對トスル人ハ、常ニ害ヲサケテ利ニ走ルナリ、スベテ利ノ字己ニ用ユレバ凶ナリ、人ニ用ユレバ吉也、是ヲ味フベシト

七　孟子ハ仁智兼ソナヘ、加ルフニ雄辯卽智其天資ヲナス、天下ヲ救フニ汲々タルモノハ賢者ノ常ナリト雖、知辯ナクシテ行ハルベカラズ、孟子ノ齊梁ノ君ニ答ル、最其ケヤケキモノナリ、梁王何ヲ以テカ吾國ヲ利セント云時先ソノ利ト云一言ヲオトリニシテ付入リ、「何必曰レ利、亦有ニ仁義ニ而已」ト云出シ、利ヲオサヘテ仁義ヲ揚ゲ、ソノ仁義ナラザレバ、國家亂レテ治マルベカラズト、列國ヲ朝セシメ天下ニ王タルベキノ法ヲ云、アヽ雄辯ナルカナ、利ハコレ萬世ノ害ニシテ、仁義ハ萬世ノ利ナリ、又齊王ニ答フルニ、ミナソノ約ヲイルヽコト臑ヨリシテ、ソノ欲ニ付入テ說出ストイヘドモ、蘇張覇術ノ論ハ同日ニ語ルベカラズ、卽坐ノ問答ト雖、尺ヲ枉ズシテ尋ヲ直クス、知辯兼備ト云ベシ、林羅

山子ハ博學宏才、我朝ノ大儒ニシテ神君ニ貴重セラル、ソレヨリ台猷二大君ニ用ラル、陰見錄ニ曰、正保二年正月十九日夜、大君ニ侍講ス、岡田淡州問テ曰、狂言ノ中ニ、「蓬萊ノ島ナル鬼ノ持タルタカラ隱笠・カクレ蓑・打出ノ小槌・ジョ〳〵ムジョジョ」ト云コトアリ、此「ジョ〳〵ムジョ〳〵」ト云コトハイカン、羅山子曰、右ノ品々ハ寶ノ中ニテモ上々ニシテ、又此上ニ上々ナルコトナシト云意ナリ上々無上々ト云ナリト、內田信州問テ曰、鎌倉ニノッケン堂ト云アリ、昔金岡納言コヽニ來リテ、此勝景ヲウツサントスルニ、筆ニツクシガタクシテ、筆ヲステヽノヲケニナリタル故ニ、捨筆松トテ今ニアリト云イカン、羅山子曰、金岡ノ筆ヲ捨テノッケニナリタルニアラズ、カノ堂ハ、金澤ヨリ出ル山ゴエノ坂ノ右ノ高キ處ニアリ、坂ヨリ仰ギ見ル故仰見堂(ノッケン)ト云ト、堀田加州（堀田加賀守此時ノ寵臣、淺草ニ賜レ地居レ之、コヽニ多ク書籍ナ集メテ文庫ナ立、是則淺草文庫ト云、聊擬二金澤文庫一ナラン、三代將軍此所ニ成ラセラル、コト度々アリ、今云堀田原此邸跡ニシテ文庫ノ遺跡ナリトス）問テ曰、小兒ノ遊ビニ、左右ノ手ヲヨセテ鬼ノ皿ト云フコトヲスルニ其詞ニ云、「タイドノ〳〵タイガ孃(ムスメ)、梶原アメウジ、メクラガ杖ヲツハテ通ル處ヲ、サラバヨッテツイノケ」ト云コトアリイカン、羅山子曰、コレハ鎌倉ノ時賴朝ノ意ニカナヒ出頭威勢ノ强カリシ人々ヲカゾヘタテタル也、先タイドノ〳〵トハ御臺殿政子ナリ、一モタイドノ、二モタイドノトツヾキタルハ、ナラベ云ベキ人無ヲ云、タイガ女(ムスメ)ハ賴朝ノ大姬君ニテ、淸水ノ冠者ノ夫人、寵愛ノ女也、次ニ梶原平三景時也、コレマタ出頭ノ人ナリ、アメウジトハ、安明寺トテ時政ノ妻牧ノ方ノ一族ニテ、盲人トナリテツネニ侍シテ威勢アリ、ユヱニ殿中ニ杖ヲツキ步行ス、安明寺ニ

行逢モノハ、カタヨリテ通セシユヱニ、カクハ云ナリト、ソレヨリダン〳〵ノ問答アレ共、滯リナカリケレバ、大君羅山子ノ博識ニ感ジ玉ヒシト云、コレ程ノ人ナルニ、アル時大君先生ニ問テ曰、聖人ノ道イカンセバ行ハレンヤ、羅山子曰、今世ノ人タヤスク行フコトヲ得ベカラズト、大君コレヨリ僧澤庵ニ就テ禪ヲ學ブ、儒者コレヲキヽ、羅山ニ切歯スト閑際筆記ニ出タリ、先生ニシテ孟子ノ辯アリテ大君ヲシテ感發セシメバ、聖人ノ道興ルベキニ惜ムベキカナ、禪ヲ學ビ玉フヤ、元ヨリ天資ノ大君ナレバ、齊梁ノ君ト同日ノ論ニアルベカラズ、又隆盛ノ時ナレバ、羅山ニ學ビテ學ヲ興シ玉ハヾ、天下文明トナルベシ、羅山タイドノヽ俚語ニ得テ此對ニ失フ、其巍々然タルモノヲ見ルナルカ惜ムベシ、履軒先生曰、献立ノデキザル料理人ニ、俄ニ盛饌ヲ命ジテマナ箸ヲアタヘタル時ハ、羅山子迯ラルベシ、コノ料理ハ博識宏辯ニテハ出來ザルベキナリ、ムベナルカナ、只其天下ヲ救フニ汲々タル人ト、シカラザル人トノ虚實ノミ

八　或人程子ニ問テ曰、公モ亦術アリヤ、答曰、吾飢レバ食ヒ、渇スレバ飲、夏ハ葛シ冬ハ裘ス、其外ニ術ナシト、又仙術ヲ問、答曰、養生ヲヨクシテ氣ヲ養ヒ、百年ノ壽ヲ得ルコトハアリ、五百年千年ノ壽ヲ得ルコトハナシ、又白日ニ飛行シ、或ハ隱見スルコトハナシ、タトヘバ爐中ノ火ヲヨク貯テオケバ、一晝夜ハタモツベシ、顯ハシオケバ二三刻ニ消ルガ如シト、コレヲ以テ見ルベシ、人間大テイニ定リタル外ハナキコトヲシルベシ、八九十歳ニ及ブ人ハ、爐中ノ火ヨク貯ヘタルガ如シ、四五十歳

ニテ死スル人ハ露ハシ置ガ如シ、二三十歳ニテ死ル人ハアシキ消炭ノ火ノゴトシ、ソノ外諸書ニ出タル陰陽不思議ノ類ハ、ミナ妄説トシルベシ、第一山海經・列仙傳ヲハジメ、前章ニモ論ズル如ク、聖賢ノ書論ナラデハ、ミナ神者・佛者ノ附會妄說ノ書ナリ、必ズ以テ證トスベカラズ、程子ノ言ヲ以テヨクヨク味ヒ、決シテ怪書ニ泥ムベカラズ

九 都テ學者タルモノ、漢土ノコトノミヲ玩ビテ吾國ノコトヲ疎ニスルユヱニ、地名・官名・姓氏ノルイ、國法ヲ用ヒズシテ漢法ヲ用ユルコト多シ、本ヨリ我國ハ自稱シテ豐蘆原之中國、又千五百秋瑞穂國・浦安國・秋津洲ト云、後改メテ日本國ト云、コレ吾國ノ本名ナリ、ソノ倭ト云モノハ漢土ヨリシテ誤リ名付ル所也、東海姬氏國ハ僧寶誌ノ云所ナリ、扶桑國ノコトハ前篇ニ論ズ、大倭・大和・日本ノ三名、ミナヤマトヽ訓ズ、コレハ代々大和ノ國ニ都アリシユヱ、ソノ國ノ名ヲ天下ノ總名トシタルナリ、ソノ本ハ山迹・山戶・山止ナドノ古說アレドモイカンヲシラズ、野馬臺ノ字ハ萬葉假字ノ如シ、漢土ニテ入タル文字ナリ、大倭ハ漢土ヨリ大倭・小倭ト云、又我國ニテ倭ノ字ニ大ヲ加ヘタル意モアルベシ、大和ハ音同ジキ故ニ易ヘタル也、日本ヲヤマトヽヨムハ我國ニテ訓ジタル也、然ドモ今ニテハ日本ト云、大和ノ國ト云コトハ本名ニナリタリ、其餘外國ヨリ付ラレタル名ヲ用ユルコト、口惜キコトニ非ズヤ、江戶ノ學者多ク吾東方ト稱スルコト、淺ハカナルコトナリ、天下ノ人ミナ我國ヲ中トス、自カラ東方トスルハ何ノ謂ゾヤ、桓武山城ニ都ヲ創メ、平安城ト號ス、佳名ニアラズヤ、後世右京ヲ

長安トシ、左京ヲ洛陽トスルモノハ、漢土ノ長安ヲ西都トシ、洛陽ヲ東都トスルニ比シテ號スルコトニシテ、漢ノ文物ヲ慕ヒ眞似スルトテモ、アマリニ拙キコトナラズヤ、然レバ不當ノ名ナリ、然ルニ近世右京ハ衰ヘ埜トナリテ、左京バカリヲ京トスレバ洛陽ノ名ノミ殘レリ、故ニ今ハ洛陽ハ總名トナリテ、華洛ト云、洛中・洛外・上洛・入洛ト云ナラハスヲ、今サラ咎ムベキニアラズ、諸國ニ州ノ字ヲ添テ漢土ニ似セントス、然ルニ日本ニ元ヨリ州名ナシ、日向ノ國ト云、火ノ國・芦北ノ國・伊與ノ國・筑紫ノ國ナド、二神八洲ヲウミ、四國九州ヲ生ムト云時ニ、ミナ名アリテ一字二字三字モアリ、淡路ナドニ八洲ト云、大八洲ト云、然レドモコレラハミナ文字渡リテノ後ノコトナリ、舊事紀・國造本紀・延喜式神名帳ニ州ノ字ナシ、中古ヨリミナ二字ニ定メラレタリ、然ルニ漢土ニ相當スレバ今ノ日本ノ國名ハ州ニ當ルナリ、（日本紀ノ洲ノ字ハ島ノ字ノ心ナリ、大八洲ト云テ大八國トイハズ、大小ノ差別ナクシテ八洲トス、洲トハ今云洲也、島ノコトナリ、州ニアラズ）然レ共漢土ノ州モ古今ノ違アリ、堯ノ時ニ舜ノ定メラレシハ十二州ナリ、肇ムトアレバ此時ニ始マルナルベシ、舜ノ時ニ禹水ヲ治メテ九州トス、コノ時ハ四岳アリテ四方ヲ掌ドリ、又十二牧ト云ハ一州ヲ掌ルナリ、是ヲ以テ見レバ此時迄ハ郡縣ノヤウナリ、又象ヲ有庳ニ封ジ、堯ハ元ハ唐侯ナリシヲミレバ、諸侯ナキニモアラズ、諸侯ノ有ツ所ノ地、大小ヲ兼テミナ國トイフ、湯ハ七十里ニ興リ、文王ハ百里ヨリ興ルノ類、又八百ノ諸侯ヲ以ツテミルベシ、春秋ノ經ニ出ルモノ百八十國、ミナ諸侯ノ有ツ處ヲ大小ニカギラズ一國ト云、戰國ニナリテ七國トナリタル也、蓋古ヘハ一州ハ大割ニシテ、一州ノ内ニ諸侯ノ國百バカリモア

ルナリ、今ノ漢土ノ十五省ノ如シ、十五州ト同意ナリ、日本モ漢ニ比スレバ六十六州ト云テ、諸侯ノ國ヲ三百餘トシテ見レバ、大國ハ一州ヲ有シ、二州三州ヲ有シ、小國ハ一州ヲ三國五國トス、州ノ下ニ郡今日本ノ郡ハ今ノ漢土ノ縣ノ如シアリテ、郡ノ下ニ郷ト云、莊ト云タレ共、今郷莊ノ名ハ或ハアリ或ハナシ、本ヨリ縣ハ用ザルナリ、漢土ハ十二州、九州ノ後ハ三代ノ末春秋戰國ニ至リテ、諸侯ノ國名ヲ稱スル故、州ハ虚位ノヤウニナリテ用ヒザレ共、名ノ滅タルニモアラズ、秦天下ヲ併セテ國ヲタテズ郡縣トス、天下ヲ三十六郡ニシテ、ソノ下ニ縣アリ、然ルニ州名ヲ此間ニ存ス、漢ハ州古ノ州ハ大ナリ、後世ノ州ハ小ナリ、ツヒニ四百餘州トナル、今ハ省ノ下ニ府アリ、府ノ下ニ州アリ、州ノ下ニ縣アリニ刺史アリ、郡ニ守アリ、世ニヨリテ大ヲソヘテ大守トスレ共本名ニアラズ、後ニハ刺史ヲ重ンジテ牧ト云、コレ舜ノ十二牧ニ比スルナリ、唐宋ハ大抵州ノ名ヲ削リテ、天下郡守縣令ニテスムコトアリテ、ソノ郡ヲ州トスレバ、必守ヲ改メテ刺史ト稱ス、名ハカハリテ事任ハカハルコトナシ、州ニテモ郡ニテモ縣ハソノ下ニアリテ數多シ、州郡ニスベラル丶ナリ、並ブモノニアラズ、漢ニハ州郡ノ間ニ諸侯ヲ封ズレバ、國ト云テ州郡トナラブ、明淸ニ至リテ州ノ數多クナリテ、四百餘州ナド丶云ヤウニナル、當世ハ一省ノ下ニ州アリ、州ノ下ニ縣アリ郡ナシ、我國中世漢土ノ文物ヲシタヒ、諸制度多ク彼土ノ制ヲ用ヒラル丶コト多シ、六十六國ハ古ヘヨリアル所ニシテ、ソノマ丶ニ數ヲ用ヒ、文字ヲ二字ニ定メテ好字ニ改メラル、コノ時ハ郡縣ノ制ナリ、我ノ國トイフハ彼ノ州ノ如シ、古ヘハ諸侯ハ小ナリ、故ニ九州十二州ナド丶云テ、州ハ大ニシテ州ノ下ニ國多クアリテ、後世ニハ諸侯相併呑シテ、國大ニナリテ州ハ小ナリ、國ノ下ニ州アリテ秦天下ヲ三十六郡トセシヨリ、州國郡縣ノ名紛擾ス、郷里村小異アリトイヘドモ大テイ同ジヿナルベシ、今

イフ町ハ坊也　近世封建ニナリテモ、其名改マルナシ、故ニ今ニテハスマヌコト、云也、日本ニ國ノ字、元來封邑ノ意ナクシテ、國ノ和訓ハ、太古ハ天ニ對ス、天常立神・國常立神・天ツ神・國ツ神ニテミレバ、國ハ土也、地也、國ノ和訓ヘ國ノ字ヲ入タル也、土地ノ字ニスレバ天ニ對シテ當ルト雖、又一國ヲモ國トイヘバ、州ノ字ニモ當ル也、凡テ漢字ヲ和訓ニ當タルハ此字ニ限ズ、禽獸艸木ノ名ニテモ、器物言語ノ名ニテモ當ラヌヿ多シ、櫻ト海棠ニテモミルベシ、是ヲ以テミレバ、漢法ニ改ムルモノナレバ國ト云ズシテ州ノ字ヲ當ルナリ、然共今日本國名ハ二字ニテ略シテ云ヘバ其字ヲ取テ州ノ字ヲ付ル也、國制ニ戻テ式正ノ書ニハ用ユベカラザレ共、詩文抔ニハ誤ニ非ズ、又州ノ字ノ處ヘ陽ノ字ヲ用ユルハ大ニ誤也、漢土ノ地名ハ山北ヲ陰トシ、山南ヲ陽トシ、水北ヲ陽トシ水南ヲ陰トシテ、皆其山水ヲ立テ陰陽ニアリテ其名正シキ也、然ルニ學者徒ニ漢人ニ似センガ爲ニ、國名地名ノ首字ニ陽ノ字ヲ加ヘテ得タリトス、太宰氏ノ信陽抔ハ當ラザルヿ也、陰陽ハ山水ニ限ル、國名地名ニ譯モナク陽ヲツクルコトハアルベカラズ、大抵ノ書ニ攝陽・武陽・崎陽抔トスルヿ大キナル僻事也、而テツヒニ陰ノ字ヲ書タルヲ見ザルナリ、竹山先生ノ文集ヲ澱陰集ト云ハ澱ノ南ニ居ルヲ以テナリ、コレコレヲ得タリトスベシ、其他ノ學者唯風雅ニシテ漢ニ擬センガタメニ、鑿シテ求メテ書ト雖、漢風ニモ當ラザレバ、尙サラニ辱ベキコトナラズヤ、人ノ姓名トテモ亦シカリ、シカルニ今我國ノ禮ニ、片名字ト云コトアリテ、二字三字姓ノ一字ヲ書テ敬トスルコトモアレバ、コレハ咎ムベキニアラザレドモ、自カラ一字ヲ以

テ云コトハアルマジキナリ、物茂卿片歓ナドノ類ナリ、式正ノコトニハ尚以テナキコトナリ、藤原氏ノ支流追々ニ地名ニ藤ヲ加ヘテ、加藤・遠藤ト云ノ類ハ、姓ヲ給ハル或ハ別號ヲ立ルノ代リ也、官名ニテハ相國・宰相ナドハ本名ニアラズ、京師ニテ參議ノ任ヲ、武家ニテハ宰相トス、納言ハ舜典ニ出テ雅名ナルヲ、却テ雅ニセンガ爲ニ黄門ト云、口惜キコトナリ、相國・黄門・宰相ノ唐名ハ、京師ニテハ實用ナシ、任官ノ時ノ宣命位記ニナキコトナリ、スベテ學文スルニハ、忠孝・仁義ノ道、身ヲ修メ國天下ヲ治ルノコトニハ、聖人ノ道ヲ學ビテ行フベシ、漢土ノ書ナラデハ、聖賢ノ言行・嘉言ヲ學フコトナシ、ソノ餘ノ制度文物ハ、漢土ノミ宜キニアラズ、日本ハ日本ノ制度風俗アレバ、他國ノ法ヲ用ヒテ我邦ノ法度ヲ犯スコトハアルマジキコト也、只文ニノゾミテ風雅ニセンガ爲、又ハ我國法風俗ヲ鄙トシテ、無理ニ漢土ヘ引ツケントスルコトハ、學者ノ通病ナリ、然レ共古ヘ吾邦文化イマダ開ケザル時ニアタリテハ、風俗野鄙甚シ、故ニ中古唐ヲウツシテコレヲ學ブ、宮室・衣服・官職・郡縣ノ制マデ學バザルコトナシ、サテソノ後ノ風俗ト云モノハ、大抵學ビ得タル風俗ナリ、ソノマナビタルニモ訛謬アリ、又故俗ノ殘リタルモアリ、下ニ在テ心アルモノ、制度ヲ正スコトアタハズ、風俗ヲ革ムルコトカナハズ、セメテ文詞ノ間ニテナリトモ、訛謬ヲ引直シ鄙陋ヲ免レントスルモノ、又惡ムベキニモアラズ、然ドモソノ中ニ、漢ニモ合ズ國法ニモ背クハニクムベキナリ、本ヨリ文華少キ國ナレバ、カヽル文辭ノ事ニ制禁國法モナシ、マシテ武家トナリテヨリ、唐ヲ移シタル風俗モ又一轉シタリ、今ハ今ノ風俗

ナリ、コレマタ吾國ノハヘヌキノ風俗ト思フベカラズ、文雅少ナクトモ、力ノ及ブダケハ矯直シタク思フモ無理ニアラザレドモ、ソノ中ニ是アリ、非アリ、羹ニ懲リテ虀ヲ吹ハ亦學力ノ及バザル處カ

十 常ニ馴ル、言ヲ賤シミ、珍シキ語ヲ貴ブハ、亦古今ノ通情ナリ、雅ハ常ナリ、鴉ハ常ニ見ナレタル鳥ユヱ常ノ義アリ、鴉雅ノ字通用ス、常ニ行フニヨリテ雅ト云コトニテ、雅ハ常行ナリ、ユヱニ平生ノ風俗ノコトヲノベタル詩ヲヨセタルヲ雅ト云風ト云、シカルニコレヨリコノ字位貴クナリテ、却テ常ニアラザル高古・典正・風流ノ義ヲ風雅ト云テ、凡庸・平常・鄙俗ノ反對トナリタリ、後世ニテモ殿樣ノ字、又ハ貴公ノ字、恐惶・安全・安泰・勇健・堅固・無事ノルイ、御意・貴意ノ字、忝・辱・冥加・難有ノルイ、ミナ〳〵用ヒ方違ヒタリ、其外アゲテ計フベカラズ、何レニモナレタルハ賤クナリテ、珍ラシキハ貴クナルコト、世ノアリサマナリ、始メ湯ヨリ上リテ、湯殿ノ板ノ間ヘシキタル布ヲ風呂舖ト云テ、ソノ上ニ居テ身體ヲフクモノナリ、コレヲ無用ノ時ハ手拭カケト一所ニ掛置、又物ヲツヽミテ出入スルニ、幸ニ此風呂敷ヲ用ヒシヨリ、物ヲ包ムモノヲ風呂敷ト云テ、絹帛ヲ用ヒ染色ヲナス、ソノ後ハ風呂場ノ敷物ヲ、湯ノ字ヲソヘテ湯ブロシキト云ヤウニナリタリ、スベテ言語ノ變異スルハコノルイナリ、兵ハ鎗刀ノルイノ名ニテ、ソレヲ用ユル人故ニ、軍卒ヲツヒニ兵ト云コトニナル、物ノ部ハ宇摩志麿治(ウマシマヂ)ノ命ノ末裔ニ玉ハリタル姓ナリ、コノ氏ノ人代々武事ヲ掌ルヨリ官ノ名トナリ、後ハ武士ヲサシテモノヽフト云、丁ハヨボロト訓ズ、人夫ノコトナリ、仕丁・駕輿丁ノルイ也、庖ハクリヤニテ

肉ヲオク處ナリ、ソノ役人ヲ庖丁ト云コト莊子ニ出タレバ古キ事ナリ、後ツヒニ肉ヲサク刀ヲ庖丁トシテ、刀ノ總名トナル、ソノ外カクノ如ク正シユケバ際限アルベカラズ、故ニ略ス、雅ハ俗ノウラ也、古ヘノ正シキ儀モ時ニヨリテウツリカハル、是ヲ俗ト云、雅ハ古ヘノ正シキマヽニテ、時ニツレ世ニツレ、俗ト共ニウツラザルヲ雅ト云也、コレ古ヘノ常也、常ハ常ナレ共、タヾ常トバカリ云テハ雅ノ字義ニアラズ

十一　六國史及ビソノ他古記傳ノルイ、其時ノ人情クハシク見ガタシ、後世假字ノ諸記ハ委シキユヱニ、人情風俗ハヨク見ユレ共、杜撰虛僞多シ、平家物語・東鑑・太平記ノ類ハ古書ナレ共、稗官小說多ク、野史ニテ怪談多シ、宇治大納言ノ今昔物語ハ、陰陽家ノ虛妄、神佛ノ奇驗、鬼怪ノコト多ク、宇治拾遺物語ハ、又ソレヨリモ劣ル、コノ人往來ノ人マデモ、留メテ書シルサレシト、諸人ノモテハヤスコトナリ、コノ書ヲカクモテハヤスニテミレバ、當世學者ナキヲシルベシ、奈良ノ時ヨリ寬平・延喜ノ頃マデハ才物多シ、ソレヨリ以降ニテハコノ書アリ、コノ書ヲ以テソノ人ヲ知ルベシ、鄙ナルカナ中世ニ好書ナシ、室町日記ハ實事多キガ如シ、家忠日記・落穗集・老人雜話ノルイハミナ實ナリ、只コレラハ日記ニテ書アツメタルマヽ也、源ノ順朝臣ノ和名鈔・江家次第ナドハ見ベキ書也、南朝ノ忠臣北畠准后ノ神皇正統記・元々集・職原抄ノルイアリ、コノ人亂世ノ學者ナリ、ソノ後ハ一條禪閤アレドモ、ミナ佛ニマヨヒ神代ノ虛妄ニナヅミテ正学ニアラズ、源義公ノ日本史ヨリ、ソノ他ノ著述ハミナ見ルベシ、新井氏諸記ハ眞僞相半バス心得テヨムベシ、シカレドモ戰國以來ノ記事、諸家ノ興亡ヲシルスハ、新井氏ノ著述モツトモ功アリ、スベテ書ハ正シカラズシテ怪談アル書ハ見テ益ナク捨テ損ナシ、作者モシ出家ナラバ何程ノ書ナリトモ手ニダニフルベカラズ戰國ヨリ織田・豐臣ノ時代、御當家國初ノ君臣ノ美言德行ヨリ、其時代ノ雜書ヲヨミテ、神君ヨリ御三代ノ間ノ御賢德、名臣ノ行迹、時世ノ質朴、諸家諸士ノヨツテ起ル所ヲヨク〱聞見シテ、纔二百年ノ升平ノ間ニ華奢ニウツリ、輕薄ニウツリタルヤウスヲツラ〱考

ヘテ、ソノ身ヲ儉束シ國家ノ治益ヲ得ルモノナラバ、當時ノ風俗ニ泥マザルベシ、國初ヨリ大儒惺窩羅山ノ兩先生ヲハジメ、貝原・熊澤・石川・室ノ諸先生ノ書ハヨミテ益アルベシ、徂徠・春臺ナドノ書ハヨムベカラズ、毒多シ、大テイ學ニ志ザスモノハ四書・五經ヲハジメ、宋ノ諸賢ノ註解ヲ熟讀シ、議論ノ書ヲ會得シタル上ハ、和書ハ讀ミテ善行得失ヲ考ヘ、實行ニオイテハ邦俗ノ目前ニ鑑ミテ、德行ノ君子ニ切問シテ身ニカヘリテ近思スベシ、漢土ノ書ヲ讀テ我國ノ故實ヲシラズ、何事モミナ漢ヘ引付ントスルハ、儒家者流トナリテ一藝ノ士ナリ、邦國ノ罪人トナリテ今日ノ實用ニモトル、又和學ノミヲナシテ漢字ヲシラズ、本居氏ノ如ク聖賢仁義ノ道ヲソシリ、神代ノ奇妙不測ヘ引付ントスルハ神道者流トナリテ異端ノ士ナリ、聖人ノ罪人トナリテ五常ノ道ニモトル、狂ナラザレバ猖ナリ、ヒロク學ンデ禮ニ約ス、中行ノ君子ハ少キモノナリ、小道ト雖ソレ〳〵見ルベキコトハアルモノ也、必泥ムベカラズ

十二 周ノ世ニヨミタル書ハ、今アル處ノ虞夏商ノ書ニテ、ミナ書經ノ內ニアリ、孔子ノ時ニ學問トイヘバ、コレラノ類ニ易詩ナラン、周禮・儀禮アレドモ、今ノ二禮ハ周公ノ作ニアラザルベシ、ソノ餘禮記ノ內ニ少シヅヽ散出スルモアリ、樂書ト云モノアレドモ今ハ亡ブ、其他アリシハシラズ、古ヘ六經ノ名ナシ、易・書・詩・禮・樂・春秋ヲ六經トスルハ、孔子以後ノコトナリ、漢以來論語孝經ヲ加ヘ、樂ヲ除キ七經ト云、諸子ノ書追々ニ出ル、イハユル管子・老子・莊子・申子・韓子・楊子・墨子・列子・荀子・董

子・淮南子等（楚辭孔叢子）アリ、兵書ニモ孫吳・司馬アリト雖、諸子ノ類讀ズトモスムベシ、徂徠氏孟子ヲ誹リテ諸子ノ中ナリト詈ルト雖、ソノ書ヲヨミテソノ諸子ニ類セズシテ卓越ナル處ヲシルベシ、唐ニ九經ト云ハ、禮・詩・易・書・周禮・儀禮・春秋ノ三傳ヲ加フ、宋ニ詩・書・易・周禮・禮記・春秋ヲ六經トシ、孟子ヲ加ヘテ七經トス、又論語・孝經ヲ加ヘテ九經トス、ソレヨリ邢昺疏ヲツクリテ、易・書・詩・周禮・儀禮・禮記・左氏傳・公羊傳・穀梁傳・論語・孟子・孝經・爾雅ヲ十三經トス、朱子易・詩・書・春秋・禮記ヲ五經トス、（五經ノ目宋以前ニ在、朱子ヨリ始ニアラズ）禮記ノ中ヨリ大學・中庸ヲ除キ出シ、論孟ニ幷ベテ四書トス、明ニ五經・四書ノ大全ヲツクリ、性理大全トヲ三大全トス、孟子ハ諸子ノ類ニアラズ、學庸ハ禮記ノ類ニアラズ、ユヱニ朱子論語ニナラベテ四書トシテ學者ニヲシヘ、コレヨリ學問ノ士マヅ四書五經ヲ熟讀スルコトトナル、歷史ハ左傳國語ヲ始メ二十一史アリ、ヨミツクスベカラズ、初學ノ士ハマヅコレヲ修シテ、國家ヲ治ムルノ書ヲ專ラトシ、ソノ上ニコソ諸書ヲヨムベケレ、ユヱニ知レタルコトナガラ、コヽニ丁寧ニ此コトヲ云

十三　老子ノ書ハ古書ナリト貴トビ、又ソノ文中ニ名言多ク、史記ニ孔子禮ヲ老子ニ問トアレバ、孔子ノ師ナリトシ、又漢ノ曹參此道ヲ尊ミ、文帝及後世ノ天子多ク尊敬シ、ツヒニ帝號ヲ諡リテ孔子ヨリ上ニ位セシムルコトナリ、伊藤蘭嵎子曰、「老聃古者實無ニ其人一、蓋莊周所下創寓レ名將上立ニ己一家言一、爲ニ之尸一爲ニ之主一、自爲ニ祝嘏一以告ニ神語一也矣、亦猶下項梁立ニ楚懷王孫心一以收上ニ人心一者、夫以何知レ之

邪、昔者孔子列二序古之聖賢一、視二論語一而當レ見焉、堯舜・禹湯・文武・周公三仁夷齊不レ齒、管仲曰、仁也曰、如二其仁一與、晏平仲善與レ人交曰、功用之臣也、國僑展禽少連臧文仲史魚遽伯玉荷蕢楚狂長阻桀溺摯干繚缺左丘明老彭、皆擧二誦之一、甚哉夫子之欽二慕古昔聖賢君子一、不レ遺二一時閒人畸士一、夫如レ此也、若實有二老聃云者一、不レ列二諸隱居放言內一、必與以レ杖叩レ脛同レ科祛レ之、而無二一言之謂一二老聃一、無三一語之涉二李耳一、此實無二其人一之證也、孟子拒二楊墨一、告子於陵仲子許行夷之亦痛拒レ之、而无二一辭之議二老聃一、無三一言非二李耳一、此亦實無二其人一之證也、荀子所レ非者十二子、老聃不レ與焉、是亦實無二其人一之證也、而其天論曰、愼子有レ見二於後一、無レ見二於前一、老子有レ見二於詘一、無レ見二於信一、老子蓋田子之誤耳、非二十二子一連曰二愼到田駢一、此亦叙二於愼子之後宋子之前一、故知二其老田字相誤一也、史遷輙信二漆園吏之寓言一、爲立二其傳一、爲二姓李名耳一、爲二周柱下史一、爲二孔子問レ禮、凡五千言之書爲三出レ關時授二尹喜一云者、蓋皆妄云爾、予獨何人耶、非二敢好レ奇誇レ異、妄爲二此說一焉、然則今所レ傳老子之書何人之所レ成耶、蓋戰國之末接レ秦、聖猷否塞、故人或襲二莊子之意一、並剽二竊其語一、以作二老列二書一、而播二諸後一也下略蘭嵎子初メテ是ヲ云、才藏氏コレヲ張氏ガ老子是正之序ニ述ル、古今未發ノ言ニアラズヤ、古ハミナカクノ如シ、尚書中ニ議スベキコト多シ、大戴禮尙然リ、並ニ老子・莊子・列子・管子ノルイ同ジ、何トモ心得ザルコト多シ、マヅ老子ニテ一二ヲ擧ルニ、伊藤氏曰、「老子曰、將レ欲レ歙レ之、必固張レ之、將欲レ弱レ之、必固强レ之、將レ欲レ廢レ之、必固與レ之、將レ欲レ奪レ之、必固與レ之」云々、コレ蘇秦・張儀功利ノ術常ニコ

レニヨルナリ、自然自化ノ說ト相反スルコト甚シ、又曰「連二稱仁義一、論語無レ所レ見、始見二於孟子一、及大傳一、而此書屢曰二道德仁義一」仁義ノコト經論ニ述ブ、コノ熟字アレバ孟子以後ノ書ナルコトシルベシ、又曰、「將軍之稱亦古所レ無、而曰二偏將軍上將軍一、又曰、立二天子一置二三公一、以レ正治レ國、以レ奇治レ兵、夫古無二三公之名一曰二三事一也、奇正固非二春秋間之語、而孫吳常言爾」ソノ外名論アレドモ本書ニユヅリテコヽニシルサズ、大抵秦火ニカヽリタル書ハ、多ク後世ノ擬作トナルベシ、シカレバ漢代ノ書也、論孟ノ幸ニシテ存スルハ、天下ノ幸甚コノ上ヤアルベキ、ソノ外ハ疑フベキモノ多シ

履軒先生曰、老子ソノ人ノ有無ハオイテ論ゼズ、或曰、易ノ旨ヲ得タリト、シカルニ易ノ書タル其本字ハナシトイヘドモ、九六ト稱シテコト〲ク陰陽ヲ主トス、天下萬物陰陽ノ外ニアラザルヲ以テナリ、ソノ餘剛柔・中正・吉凶・悔吝ミナ陰陽ノ一ニシテ、ミナソノ時所位ニカナフ事至ラザル處ナシ、シカルニ老子ノ書ハ、ソノ章句ミナ陰柔ニシテ、乾ノ功ナクスベテ坤德ナリ、一ヲ以テ云ヘバ、欲レ奪レ之固ヨリ予レ之、以レ德報レ怨之類ナリ、コレヲ權謀奸智ト云ハ誤リ也、ミナ坤陽ニ柔順ヲ以テ云一部ノ老子ミナシカリ、蓋ソノ人トナリ善柔ニシテ謙讓ニアマリ、天下ノ事過タルヲ抑ヘ、不足ヲ尊ブノ外ナキ事ヲ工夫シテカキタル事ニテ學ガタシトス、漢ノ竇大后コレヲ信ズルハ、婦人ノ柔順坤德ヲ以テ守ルノ道ヲ得タリトイヘ共、コレヲ武帝ニスヽムルハアヤマリナリ、老子ノ大柔大弱ノ德ヲ以テ、アニ至大至剛天下ヲ治ム九五ノ乾德ヲ窺フベケンヤ、莊子ノ書ト大ニ異ナリ、老子ノ

辭ハ確實柔順、莊子ノ辭ハ浮虛放蕩混ズベカラズ

十四 列子ノ書ハ莊周ノ作ル所ト云、列仙傳ニ鄭人名ハ禦寇トスレドモ、列仙傳ノ妄說取ルベカラズ、張堪(張堪晉人)ト云ヘドモ、ソノ出處ヲシラズ、只コノ書ヲ得ルノミニシテ、ソノ傳來ヲシラザル也、列子ノ書佛語ニ似タルコト多シ、和光同塵ハ老子ニ出デ、「死レ此生レ彼」ハ列子ニイヅ、ア、此二書疑ベキカナ、ソノ餘孔子ノ語ヲ引コト多シト雖、ミナ妄誕ナリ、讀ベカラズ、殊ニ風ニ乘ジテ、天ニ昇ルト云人、ナンゾ天下ヲ治ムルノ道アランヤ

十五 莊子ノ書ハ寓言(物ニヨソヘ又ハナキコトヲ作リテ云也)重言(自言ニテハ人信ゼザルユエ聖人賢人ニカリテ言ナリ)巵言(酒ノミバナシノ如ク面白クト説キテ婦婆ノ耳ニモ入ナリ)、サマ〴〵ニ云ナシテ、鄙賤匹夫ノ耳ニモ入ヤスキヤウニ書タルナリ、畢竟ハ佛說ト其意同ジ、スデニ史記曰、「著レ書十萬餘言大抵率寓言也、作二漁父盜跖胠篋一、以詆二此孔子之徒一、以明二老子之術一、畏累虛元桑子之屬、皆空語無二事實一」カクノ如クナレバ、スベテ莊子ノ書ノ文辭ハ取ルトモ、事實ハトルマジキニ、カク云タル司馬遷、スデニ莊子ニ出タル許由老子ヲ信ジテ傳ヲ立ル、自カラ箕山ニ登リテト雖、其上ニ蓋有二許由冢一云トイヘバ、實ニ見ザルコトシルベシ、タトヒ實ニアリト云トモ、莊子ノ寓言ニヨリテ好事ノ者ノツクリタルモ亦シルベカラズ、伊勢・源氏ノ寓言ニナラヒテ、名所古迹ヲ作ルガ如シ、又子虛烏有ノ流ナリ、東坡氏・焦弱侯・程子・朱子ノ諸賢、老列莊ノ三子ヲ評スルクハシケレバ今コヽニ略ス、シカレドモソノ文辭モマタ取ベキコト多キユエニ、人是ニ惑フナリ、正道ハ入ガタシ、詭道ハ入ヤス

シ、古今ノ通弊ナリ、故ニ天下萬世ノ師トシテ、孔子ハ王號ヲ諡ルニ止マリ、老子ハ帝トナル、何ゾソレカクノ如キヤ、然ルニ隱居放言ヲ志ス人ハ、コノ書ヲヨムトモシカラン、苟忠孝仁義ノ道ヲ行ヒ國家ヲ治ムル人ハ經書ニテ事足ルベシ、コノ書ハヨマズトモ可

十六 楊子ノ我爲ニシ、墨子兼愛スル、表裏ノ差ヒニテ、皆道ニ背ク、孟子コレヲ闢キテ廓如タリ、然ルニ此學莊子ニ出ルナレバ、其聖人ト端ヲ異ニスルコトシルベシ、然ルニ莊子ヲ南華眞經ト號シ、列子ヲ冲虛至德眞經ト名ヅクルコト、後世ノ差謬ヲシルベシ、荀子ノ性惡ハ孟子ノ性善ヲ刺ルナリ、シカルニ孟子ノ善トサス性ト、荀子ノ惡トサス性ト、ソノサス處同ジカラズ、ソノ標的同ジカラザル時ハ善ト云トモ惡ト云トモ云次第ナルベシ、スデニ告子ノサス處モ亦荀子ト同ジ、楊子ノ善惡混ズルノ說見識ナキモノナランカ、多ク孟子ノ外ハミナ志情ヲカネテ云時ハ、或ハ惡ト云混ズルト云トモ是害ナカルベシ、荀子ノ書性惡ノ說ヲ除キテ見ル時ハ老莊列ノ諸子ヨリハマサルベシ、說苑・淮南子・孔叢子・楚辭ノ類ハ、ヨムトモ害ナカルベシ、然レドモ孔子ノ言ヲ引テ、論孟・中庸・大學ニ出ルノ外ハミナ妄說ナリ、必シモ信ズベカラズ、漢土ハ上古ノ神聖ヨリ、周公・孔子・顏曾・思孟ノ大賢教ヘヲ施シ玉フニ引カヘテ、戰國ヨリ秦漢六朝唐五代マデノ儒者カハル〳〵著ハス處多シト雖、ミナ妄誕杜撰ノ書ノミ、ソノ學風ノ流弊ツヒニ老莊ニ混濁セラル、コトカナシムベシ、（諸子及雜書ニ、孔子ノ言語トスルモノハ、ミナ莊子ノイハユル重言ナリ）漢魏叢書ノ目ヲ以テソノ人ナキヲシル、經書ヲ註スル人々且歷史ヲ編ム人々ニオイテハ、孔安國・鄭玄・

班固・馬融・蔡邕・何晏・趙岐・王弼・韓愈ヨリシテ、孔穎達ノ註疏ニ備ハル、シカレドモ猶未ダナリシヲ、宋ノ世ニイタリテ、二程・周張・歐蘇ノ大賢並ビ出デ、終ニ朱先生ニ極マリ、六經ノ旨趣燦然トシテ又世ニ明カナリ、又ソノ說四書五經ノ註解ヨリシテ、小學・近思錄・二程全書・語類・語錄ノ書ニ詳ナリ、願ハ我子孫タルモノ、宋ノ諸賢ノ書ヲ習讀シテ、後ニコノ書ヲ見テ足ラザルヲ補フベシ、却テコノ書ヲ前ニヨミテ、後ニ宋賢ノ書ヲ讀ムコトハ失フコト多カルベシ、カヘス〴〵モ案ルコトナカレ

十七　我邦ニテハ、應神天皇ノ時ヨリ論語千字文渡リシヨシナレドモ、中世ニハ徒ニ佛書・詩書・蒙求・世說ノルイノミニテ、忠孝仁義ノ學ハウトカリシナラン、日本紀ニ淮南子ノ語ヲ引カレシヲ以テ見レバコレマタ古ヘヨリアリシナラン、源平ノ後ヨリ文字スタレテ、ツヒニ足利氏御ヲ失フニイタル、士大夫ニ學アル人ナシ、字ヲシルモノハ只僧家ノミ、シカルニ惺窩・羅山ノ二先生出デ、文學ハジメテヒラク、ソレヨリシテコノ道ニ功アル人多シト雖、山崎氏・室氏・熊澤氏・中江氏・荻生氏・太宰氏・新井氏・貝原氏・伊藤氏父子・淺見氏等數輩、相踵デ、コレガ最タリ、中ニテモ室・熊澤・貝原・伊藤ノ諸先生、著述モツトモ多シ、經書ヲ羽翼ス、當世ニアリテハ、我門ノ諸先生ノ書ヲ讀ムコトハ勿論ナリ、カヘスガヘスモ門派ノ學流ニ反スルコト勿レ

十八　貞觀政要・名臣言行錄・牧民忠告・聖諭廣訓・六諭衍義・帝範臣軌等ノ書、ツネニ座右ニオキテコレヲ見ルベシ、自カラ得ルトコロアルベシ、漢魏ヨリ以下六朝ノ叢書ト實ニ霄壤ノ差ヒ、同日ノ論ニア

ラズ、唐宋ノ諸賢漢以來ヲ一新スト云ベシ、ツヾキテ清ニ至リテ夷狄トイヘドモ、康熙ノ徳澤四海ニ及ブ、聖諭ノ旨至ルカナ、アヽ古ヘヨリ儒ヲ以テ自ラ居リ、博學ヲ以テ人ニ稱セラルヽ人ノ著ス所ノ書、多クハ天下後世ヲ惑ハスノコトニシテ、世教トナルコト少シ、戰國ヨリ六朝ニ至リテミナコレナリ、唐ヨリ以後ニ至リテ記誦詩章、多ク王李ノゴトキ僻學アリト雖、ソノ餘ハ大抵忠孝仁義ヲ宗トシ、勸善懲惡ヲ心トスル賢者多シ、コレ天下ノ大幸ナリ、苟クモ學ニ志ス人、コノ處ヲ踏損ズル時ハ天下ノ廢物トナル、ヨク考フベシ

十九　日本ノ書籍多シト雖、世教ニ渉ルハナシ、慶長以降武徳燿ンニシテ、文家モ亦少トセズ、大儒數輩著ス所ノ書スコブル孝弟仁義ヲ説クコト多シ、中ニモ栗山先生ノ保建大記及ビ淺見先生ノ靖献遺言コレガ冠タリ、保建ハ保元・建久也、王家ノ衰ハ保元ヲ元トス、鳥羽帝位ヲ崇徳帝ニ讓リ・ソノ後美福門院近衞帝ヲ生ミ、ツヒニコレヲ太子トシ、崇徳帝ヲシテ位ヲ禪ラシム、時ニ今上三歳、上皇二十三歳、是ヨリ上皇憤リヲオコシ、兄弟ノ爭トナリヌ、時ニ今上崩ジテ、又ソノ兄後白河帝立ツ、上皇ノ爲ニ弟ナリ、關白忠通今上ヲタスケ、弟賴長上皇ヲ輔ク、源平ノ武臣互ニ參リテ、父子兄弟ミナ敵トナル、ツヒニ上皇敗シテ讃岐ニ遷ル、コレヲ保元ノ亂ト云、コレヨリシテ又平治ノ亂オコル、ツヒニ威權平氏ニウツリテ、後白河帝ノ暗愚コレヲイカントモスルコトナシ、ヱヱニ清盛人臣ノ位ヲ究メ、權勢ヲ弄ブ甚シ、諸國ノ源氏兵ヲ興シツヒニ平氏ヲ亡シ、安徳帝入水、ソノ弟後鳥羽帝ヲ立、後白

河法皇ノ孫ナリ、ソレヨリ義仲義經ノ艱難アリテ、ツヒニ威權賴朝ニ歸シ、建久元年賴朝天下ノ總追捕使トナリテ、永ク武家ノ有トナル、ソノ元ハ鳥羽帝ノ德ヲ失フヨリ興リテ、後白河帝ノ柄ヲ失フニナルコトニシテ、二千年ノ天下ツヒニコヽニオイテ變ズルモノ也、保元ノ大變上天子ヨリ文官武官互ニ骨肉ヲ以テ相爭奪ス、忠孝仁義ノ道イヅクニカ在ヤ、日本ノ歷史モトヨリ褒貶ノコトナシ、コヽニオイテカ栗山氏專ラ褒貶議評ヲ立テ、コレヲ與ヘ奪フ、ソノ意春秋ニナラヒテ、亂臣賊子ヲシテ罪ヲ入ルヽ所ナカラシムルモノ、アヽ本朝ニオイテ未發ノ書ナリ、ヨムモノヨク玩索シテ考フル所アラバ、ソレ差ハザルニチカヽラン、靖献ハ尚書ノ「箕子自靖、自献于先王」語ニ取ル、三仁ハ孔子ステニコレヲ稱シ、天下ソノ仁ヲシル、故ニ之ヲ擧ズシテ、屈原以降ノ八忠臣ヲ主トシ、擧テソノ餘コレニ類シタル忠臣ヲ褒シ、又コレニ反シタル賊臣ヲ貶シテ、天下ノ忠ト不忠ヲ正スコト私意ヲ以テセズ、萬世ニワタリテ議論ナカルベシトス、イハユルソノ人々ニハ屈平・諸葛亮・陶潛・顏眞卿・文天祥・謝枋得・劉因・方孝孺ノ八忠臣ナリ、ソノ外引テ推論スル忠臣數十人、反賊モ亦數十人、アヽ淺見氏ノ骨髓コノ書ニアリ、此書ヲヨミテ溺ヲ落サヾル人ハ、ソノ人必ズ不忠ナラン、又此ノ書ヲ以テソノ淺見氏ノ人トナリヲ想像スベシ、コヽニオイテカ予栗山・淺見二先生ノコノ二書ヲツネニ愛玩スルコト久シ、ユヱニ論コヽニオヨブモノ也、我邦ノ述作ニオイテハ、先コノ書ヲ以テ最トシ讀ベシ、自カラ得ル所アラン必ズコレヲ廢スベカラズ、ユヱニ丁寧反復ス

二十・大學衍義ノ書ハ、上六經ヲ祖トシ、歷史ニ正シテ事實ヲ蹈ミ大學八條ノ目ニ序デ、致知格物・正心誠意、脩身ヨリ天下國家ヲ治ムルノ實行ヲ展ブ、其次序節目丁寧云バカリナシ、上天子ヨリ下庶人ニ至ルマデ、コノ書ヲヨミテ拳々服膺シテ、事ニコレニ從フ時ハ、天下ヲ治ムルコト掌ヲ反スヨリ易カルベシ、カヘス〴〵モ捨ルコトナカレ、後世ニ生タル幸ニハカヽル書アリ、及ビ貞觀政要ソノ餘前ニ序列スル書ルイヲヨメバ、コレ己ヲ脩シメテ人ヲ治ムルノ階梯ノ要法ミナ詳密ニシテ、師ナクシテモ天下治マルベシ、タヾコレ學ブト學バザルトニアリ、爲ルト爲ザルトニアルノミ、古ヘノ疎ト今ノ密ト、古ノ實ト今ノ虛ト並ベ行ハル、故ニ、今ノ治法ハ能ハザルナリ、盛饌備ヘテ食ハズ、雅樂奏シテ聽ズ、美色ナラベテ見ズ惜ムベシ

二十一　鹽鐵論ノ書ハ覇術ノ書ナリト雖、事實ニアテヽ行フニハカクアラデハ叶ハザルモノナリ、スデニ漢以後ノ政事ハ王道行フベカラズ、孟子王道ヲ說ク、世人ミナ迂遠ニシテ事情ニ遠シトス、況ヤ後世ヲヤ、後世ニテハ徒ニ王道ヲ說トモ、徒善徒法ニナリテ行フコトアタハズ、儒ヲ學ブモノミナ空論ヲ吐テ事實ニ施スコトアタハズ、ユヱニ人道世道ト仁義ノ道ト別物トナル、今スデニ事ヲ執リテ實行ニ施サントス、今ノ俗ヲ治スベキノミ、徒ラニ王道ヲ用ヒテ人情服スベカラズ、行ハザレバ止ベシ、實ニ行フテ政ヲセントス、今ノ俗ニヨリ今ノ法ヲ主本トシテ過ヲ損ジ、不及ヲ補ヒ絕タルヲ繼ギ廢タルヲ興シ、華美僭上ヲノゾキ、文學武備ヲ脩メテ行フニ年ヲ以テシ、ツヒニ風ヲ移シ俗ヲ易フベシ、

カクアラザレバアタハザル也、俄ニ風俗ヲ變ゼントシテハ人情ニサカヒテ、却テ變害ヲ招クモノナリ、故ニ儒者タルモノ常ニ腕ヲサスリテ、天下掌ノ内ニシテ治ムベシト罵リテ、コレニ政ヲ授ケラルル時ハ、俄ニ風俗ニアハザル新政ヲ行ヒテ、害ヲ招クモノナリ、然レバ則俗ニ隨ヒ、古法ニヨリテヤウヤウニ善政ニ移シ行ニ過ザルナリ、又人ヲ以テ人ヲ治ムルノ法、其人アレバ政擧リ、其人ナケレバ政廢ム、唯コレ治人アリテ治法ナキノミ、無理ニ聖人ノ法制ニ從フニモ及バザルナリ、聖人ノ法ヲ用ヒザレバカナハザルナリ、其正心誠意ハ脩身ノ事ナリ、天下國家ヲ治ムルノ法ハ、時ニ從ヒテ良法イクラモアルベシ、孔子モ顏淵ニ告ルニ、殷輅ニノリテ夏正ヲ行ヒ、周冕ヲ服スベシトノ玉フナラズヤ、一概ニ古制ニ泥ムベカラザルナリ、漢土三代ノ時ト今ノ日本ト、元來土地ノ隔タルコト五百里、年代ノ後ルヽコト三千年、豈ソノ法用ユベケンヤ、ユヱニ史記ノ八書ヨリシテ歷史ノ志書、ミナソノ世代ノ風俗法制ヲ擧グモノミナ然リ、鹽鐵論ノゴトキハ、ソノ時代ノ政法制度ヲ正シタルモノ、故ニ三代ノ風ニハ合ザルナリ、後世ノ儒者オヒ〱時政ノ得失ヲ擧論スルヲ見ルニ、其書ニ臨ミテハ王道ノコトハ一言モナクシテ、只ソノ時政ヲ擧ゲテカク改革アリタキト云ニ過ギズ、大學或問・政談・經濟錄（熊澤・物部・太宰ノ人々、王チバ行ヒタキ事ハヤマ〱ニテ口ニモ論ジ說ニモアゲタレ共、今日ノ實行ニカヽリテセン方ナキナリ）ノルイヲ以テミルベシ、ミナカヽルモノナリ、コレヲ以テソノ人ヲ非ルベカラズ、今王公ニ上疏スルニ、遠ク三代ノ制度ヲ引テ論ヲ立ル時ハ、一モ用ヒラレザル也、今近ク當世ノ俗ニヨラザレバアタハザルナリ、（王道ノ行ハルヽハ王道ノ行ヒカタニアルナリ、行フベキ法ヲ得ズシテ王道ハ行ベカラズト云ハ誤ナリ）コトニ今ノ

有サマノ制度法政ヲノベテ、ソノ弊害ヲ云立ルヲヤ、當世ヲ以テセズンバアルベカラズ、竹山先生ノ越公ニ上ラルヽ草茅危言、履軒先生ノアラマホシ、如來先生ノ野芹ノルイ、ミナコレナリ、コレヲ以テヨク考フル時ハ、三代ノ治ハ三代ノ人ニ施スベシ、六朝ノ治ハ六朝ノ人ニ施スベシ、宋明ノ治ハ宋明ノ人ニ施スベシ、我邦上古ノ治ハ上古ノ人ニ施シ、中古ノ治ハ中古ノ人ニ施シ、鎌倉・室町・織田・豐臣ノ治ハ、鎌倉・室町・織田・豐臣ノ人ニ施シ、當世ノ治ハ當世ノ人ニ施スベシ、只其中ニ善ヲスヽメ惡ヲコラシ、害ヲ除キ利ヲ興シ、沿革損益スルコトハ十世ト云トモ、ミナソノ時處位ニ應ジテ施スベキノミ、然レバ則チ十世ノ後ト雖ドモ、明ラカニ知ベキコトナリ、イヅレニモ六經歷史ニ通ジ仁義刑政ノ法ヲシラズシテ政ヲスルコトハ萬民ヲ推テ溝中ニ陷ルヽモノナリ、ユヱニ必シモ書ヲ讀マザル人ニ政ヲトラシムル勿レ（不レ讀レ書シテ執政ノ人多キチイカン）

二十二　經書ハ己ヲ脩シテ人ヲ治ムルノ敎ニシテ、學者ノ第一ニ學ブベキハ勿論ナリ、コレ人タルノ大道コノ外ニ何ヲカ求メン、コレニ繼モノハ歷史也、歷史ヲ以テ古今ノ興廢ヲ考ヘ、善ハ興リ惡ハ廢シ、ミナコレ經書ノ敎ヲ事實ニ證スルナリ、天文ハ天地ノ原ヲサグリスベテ天下國家ノ由テ來ル所ノ因ヲシリテ、身ヲ保ツノ要ヲ考フベシ、字學文章ハ用辨ノコトニ施スト雖、大テイニテシカルベシ、書筆ハ一藝也、三ツノモノハ用ヲ辨ジテ足レリトスベシ、遠キヲ致サバ泥ムベシ、詩學ハ音樂ト同ジク學者ノ慰弄ナリ、ソノ業ニアラザレバ、泥マザルヲ專トスベシ、歌學モ亦同ジ、我邦古ヘヨリ歌ヲ

以テ搢紳家ノ學トシテ、歌ニナヅミテ事ヲ誤ルコト多シ、ツヒニ權柄武家ニウツルモノハ、歌學ソノ備ヲナスナリ、ソレヨリ下リテ兵學・算學・醫學ニ至リテハ一家ノ學ナレドモ、中ニモ兵學ハ國家ノ廢スベカラザルモノカ、射御ハ六藝ノ內ト雖、兵學ニ屬スルモノナリ、六藝ト云モノ、本ヨリ小道ニシテ儒學ニ對スベキモノニアラズ、文學中ニ屬スルモノト云テシカラン、ソノ餘ノ小道ハ尙サラノコトナリ、學者大道ヲ學ビテ小道ニ泥ムベカラズ、韻鏡家・詩文家・筆道家ハ、ミナ儒中ノ一藝ナリ、經濟家ヲ以テ大トスベシ、古聖人治天下大道ニ、曰禮曰樂、禮ハ古禮ニ非ズト雖、禮ナキノ世ハアラザルナリ、樂ハ俗樂ノミ、風ヲヤブリ俗ヲ易ルコト絶テアルコトナシ、シカルニ詩歌ハ樂章ナリ、今ハ古樂タエタリト雖、セメテハコノ詩ト和歌トノ藝世ニ存スレバ、コレヲナスハ猶古ノ樂敎ノ遺意ニモカナハンカ、今ノ世ニアリテ人心ヲヤハラグルハ、詩歌ニシクモノアルベカラズ、狂歌誹諧ナドハ鄭曲ノ類ヒノミ、玩ブベカラズ、自然ト心ノ移ルモノナリ

二十三 近世大部ノ書、ダン〳〵ニ出テ學者ノ迷亂ヲナス、シカルニ大部ノ書ヲミツクスベカラズ、唯事實句章ヲ穿鑿スルニ備フルノミ、大部ハ殊ニ杜撰粲雜多シ、本ヨリ其所ナリ、今ノ學者何程博識强記ト雖、有ユル書目ダニモツクスベカラズ、況ヤ淺學柔輭ヲヤ

夢之代卷之八終

夢之代卷之九

異端第九

一　論語ニ「攻ニ異端ニ斯害也已」ト朱註異端ハ聖人ノ道ト端ヲ異ニスルナリ、攻ハ専治也、故「治ニ木石金玉ニ之工曰レ攻、」履軒先生曰、「攻是攻撃之攻也、以ニ其害レ道害ニ人心ニ而已」ト、程子曰、「道不レ明也、異端害レ之也」、朱註ハ異端ヲ事トスルハ害也トス、履軒先生ハ異端ヲ攻メ排クルハ道ヲ害スル故也トス、亦通ズルナリ、張呂謝揚ノ諸子ハ異端ヲ攻排スレバ、却テ害ヲ生ズルトスルハ誤也、程子曰、「佛氏之言比ニ之楊墨ニ、尤爲レ近レ理、所ニ以其害爲ニ尤甚ニ、學者當下如ニ淫聲美色ニ以遠上レ之、不レ爾則駸々然入ニ於其中ニ矣」ト、楊墨ノ害ハ近フシテ人信ゼズ、佛氏ノ害ハ深クシテ人コレヲ信ズ、學者タルモノハ淫聲美色ヲ恐ルル如ク、コレニ近ヨルベカラズ、然ラザレバツヒニコレニ泥ミテス丶ミテ其中ニ入ルベシ、戒メズンバアルベカラズ、シカレバ大中至誠ノ聖人ノ道ヲ學バヾ、少シニテモ脇道ノ端緒ヲ異ニシタルヿハ學ブベカラズ、小道ト雖見ルベキヿサマ〲アルモノナレバ、遠ク入レバ泥ムヿ多シ、況ヤ佛氏ノ害ノ高明ニ入モノヲヤ、孔子ノ時ニハ楊墨佛氏ナシ、故ニ異端トサスモノ淺シ、然ルニカクノ如クノ玉ヘバ其害シルベシ、孟子ノトキニハ楊墨アリテ是ヲ排スルコト嚴ナリ、曰、「能言而閑ニ楊墨ニ者、聖人之徒也」ト、楊

墨スラスデニ如レ此、況ヤ佛氏ヲヤ、佛法渡リテ後ニ孔孟復興ラバ、ナンゾコレヲ嚴ニ排擊セザルベケンヤ、ユヱニ余モマタコレヲフセギ、聖人ノ徒タルコトヲ欲ルノミ（此篇ニ佛語ヲ多ク用ユルモノハ、ソノ書ニヨリテコレヲ論ズルユヱナリ、且ハ佛ニ淫スル人々ニ見セテ、コレヲ戒禁セントス、ソノ語ヲ用ヒテヨク通ズルニ取ルノミ、アヤシムベカラズ）

二　宋ノ諸先生ミナヨク聖學ニ精シクシテ嚴格ナルニ、イカナレバ陸象山ノ如ク異端ニ入ル人アルヤ、我邦ノ中世唐ニ來往シテ文學大ニ熾ナルニ、イカナレバミナ異端ニ泥ミテ佛ニ歸スルヤ、吉備公・菅公ヲ始トシテ佛ヲ信ゼザルハナシ、夫耳目・口鼻・五臟・六腑・四支・五體・百骸・百節・血脉貫通シ、晝夜飲食シテ、動キ働ラク人間ダニモ愚アリ、蒙アリ、物色辨ザルモアリ、然ルニ畫キタルハ腹中ナク、面アリテ背ナシ、衣服スレバ肌膚ナシ、何レニ性根アランヤ、木ニテ刻タルニハ亦腹中ナシ、心志ナシ、何ヲ以テカ人ノ願望ヲ叶ヘン、然ルニ其心モツカズシテ、コノ木像・畫像ニムカヒテ現世ヲ祈リ、後世ヲ求ム、愚ナラザレバ蒙、狂ナラザレバ痴ナリ、苟クモ字ヲ知ルモノナンゾソレ此ノ如キヤ、思フニ世上ノ人々ミナ記誦詩章ノ學者ニシテ、仁義・忠孝ノコト及ビ致知格物ノ人ハ學バザルナラン、聊モ義理ニ通ズル時ハ、カヽル文盲ノコトハアルマジキナリ、惜イカナ近世ニモ梁田氏ノ佛ニ歸スル、太宰氏ノ學校ヲ守ルハ僧ヲヨシトスルノ類、ミナコノ惑ヲ解ザルモノカ、一知ヲ致シ一物ヲ格サバコノ惑ハアルマジキナリ、學者ヨク心ヲ潜メテ考フベシ

三　五井先生ノ曰、「百濟聖明王、獻二佛像・梵書一表曰是法於二諸法中一最爲二殊勝一、周公・孔子不レ知也、

此法能生二無量無邊福德果報一祈願依レ情無レ所レ乏、故闔國莫レ不二尊敬一、今果佛所レ說、吾法東漸、附レ使奉
レ獻、聖明事レ佛可レ謂レ勤矣、未レ幾爲二新羅奴卒所一下害、其子餘璋不レ知二不レ戴レ天之義一、爲レ僧而逃、國家衰
亡何其祈願不レ依レ情、又曰佛法入レ漢、楚王英首好レ之、尋以レ罪誅、入二三韓一百濟王首好レ之、爲二新羅所一
レ殺、入二我朝一馬子首好レ之、馬子弑二崇峻帝一、其子孫謀レ逆伏レ誅、儒教入二我國一、菟道王首好レ之、孝友
仁讓靄然可レ觀」、佛法ノ國家ノ爲ニナラザル、其身ノ行ヒヲ顧ザルコノ二言ヲ以テ知ルベシ、宜ナル哉
其佛ヲ信ズル心底、本ヨリ天下ノ爲ニアラズ、國家ノ爲ニアラズ、唯吾身ノ後生安樂ヲ願フコトニシテ、
末年永刧快樂ヲ受ベキ爲ナレバ、其初テ信ズル時ヨリシテ吾利ノ爲ニシテ、國家•君父•百姓ノ爲ナラ
ズ、ユヱニ是ヲ信ズル人ハ君父ヲ弑シ、國家ヲ奪ヒ吾身ヲ興スヿハスレドモ、君父ノ爲ヲハカリテ、仇ヲ
報ズルノコトハセザルナリ、皆是我爲ニ利スルコトノミ、然ルニ其云處釋氏ノ本心ハ、十方衆生ヲ救
ヒ佛法ヲ弘メテ因果輪廻ヲトキ、人ヲシテ善ヲスヽメ惡ヲコラストト云ト雖、其首トシテ好ム人初ヨリ
逆ヲハカリテ、忠孝•仁義ノ道ハ知辨セザルヲ以テミレバ、國家ノ益トナラズシテ道ヲ害シ、人心ヲ害ス
ルコト的實知ルベキ也、見ヨ我邦ノ聖德•馬子ヲ始メ聖武•孝謙•嵯峨•淸和ノ諸帝、行基•弘法•傳敎•
法然其餘ノ高僧•名僧ト稱セラル、人々、ミナ佛法ヲ弘メ堂舍ヲ創業シ、後世ノ福ヲ求メテ現世ノ安樂
ヲ願フノミニテ、國家ヲ騷シ後代ニ害ヲ遺シ、其身ノ行ニオイテハ忠孝•仁義ノ道ニ叶ハズ、唯身ヲ全
フシテ安樂ヲ利スルコトニアリテ、瞿曇ノ本意ノ善ヲスヽメ惡ヲ懲ノ心露ホドモナキハ、本ヨリソ

ノ説所ハコヽニ有ト雖、聖人ノ道ト端ヲ異ニシテ、孟子ノ所謂利ヲ主トシテ教ヘタルモノユヱニ、上下コモ〳〵利ヲ取ルノ底意ニオイテハカハルコトナシ、常ニ後世安樂ノコトヲ手ニトルヤウニ云テ、今日ノ捨身ヲ塵芥ヨリモ輕ンズト雖、マサカノ時ニ至リテハ、マヅハ目ニ見ザルノ後世ヨリ現世ノ利ヲ求ルニシカザル也、馬子崇峻ヲ弑スニ太子コレニアヅカラザルコトヲ得ズ、然ルニ因果ヲ説イテコレヲ宥メ、ツヒニ是ニ阿黨シテ、開國以來例ナキ女帝ヲ立テ、ソノ權勢ニツイテ太子トナル是簒ヘルナリ、コレヲ忍ブベクンバ何レカ忍ブベカラザラン、崇峻ハ君也叔父也、其仇ヲ報イズ却テ逆ニ黨ス、簒弑ノ罪遁ルベカラズ、此時太子ハ諸王子庶孽子ニシテ威權ナケレバ、賊ヲ討コトカナフベカラズ、然バイカンセン馬子ノ罪ヲナラシテ死スベシ、死スルコト能ハザルハ本ヨリ其處也、初ヨリ謀首ナレバナリ、已ニ太子トナリテハ、是ト同ジク朝ニ立テ手ヲ拊テ肩ヲ撫シテ、王法・佛法並ベ行フコトヲハカル、初ヨリ弑逆ニ黨スルヿ知ルベシ、大織冠死セントス、天智帝遺言ヲ乞フ、曰ク生テ軍國ニ益ナク死シテ人ヲ勞スベカラズ、希ハ葬ヲ薄クセンコトヲト、太子死セントス、推古帝遺言ヲ乞フ、曰ク天下ニ多ク寺塔ヲ建、僧尼ヲ供スルコトヲ忘ルベカラズト、大織冠ノ業ハ入鹿ヲ滅シ天智ヲ立テ、社稷ノ大功アリテ、其謙退カクノ如シ、太子ハ君父ノ仇ニ黨シテ國家ヲ汚シテ、一言天下ノ事ニ及バズ、寺塔ヲ立僧ヲ供シ、天下萬世ノ苦ヲ殘サントス、曾子曰、「人之將死其言也善、鳥之將死其鳴也哀」ト、太子ノ如キハ鳥ニダモシカザルナリ、其外佛ヲ好ム人ハミナカクノ如シ、元ヨリ吾身ヲ利スル故也、其後世

ヲ願フ心ヲミルベシ、我一人ヲ利スルニアリテ、天下國家ノ事ニアラズ、ユヱニ行基・傳敎・弘法・親鸞・日蓮ノゴトキミナ人主ヲ昧マシ、衆生濟度ト號シテソレヲ云立テ、自カラ利ヲ得ントス、其昧マサレ欺カル、人々ハ、ミナ己ヲ利スルニ迷フノミ、故ニ佛ニ歸スル人ニオイテ忠孝・仁義ハナキトシルベシ、儒敎ニ入ルヤ菟道ノ太子ト仁德ノ讓リアリ、佛ニ惑フテ自ラ利スル人々ト同日ノ論ニアラズ、ヨク辨考シテ佛ニ惑フベカラズ一部太子傳スベテ妄誕虛飾、佛者コレヲ見テ信ズトイヘドモ、無心ニシテ目ヲフサギテコレヲ按ズルニ、ソノ自カラ前世ヲイヒソノ未然ヲサシ未來ヲ云フ、ミナコレ作者ノ詐僞ナリ、多クハ太子モシラザルコトナリ、ヨクカンガヘテ欺ムカル、コトナカレ、太子ツネニ馬子ヲサシテ聖人不遠ト云、阿諛至ラザル所ナシ、楊雄ガ王莽ヲサシテ、聖人ト云ト一般、ア、耻ベキニアラズヤ

四　阿彌陀經ニ曰、「從レ是西方過ニ十萬億土一、有ニ世界一名曰ニ極樂一、其土有レ佛號ニ阿彌陀一、今現在說法舍利弗彼土何故名爲ニ極樂一、共國衆生但受ニ諸樂一、故名ニ極樂一」ト、ソノ十萬億土ト云モノ何程ヲシラズ、地球ノ圖ヲ閱スルニ、天竺ノ西ハ「ハルシヤ・アラビヤ・ジユデヤ・ナトリヤ」ヨリ歐羅巴諸國ヲ過テ大洋アリテ、ソノ西ニ「アメリカ」ノ大國アリ、ソレヲ過テ又大洋ヲ經テ日本漢土ヲ過テ、元ノ天竺ニ還ル、經ニ所謂極樂ナルモノ無シ、コレ出次第ノ虛妄ノ說ニシテ實說ニ非ルヲ知ルベシ、愚民コレヲ信ジ西方ニ眞ノ極樂アリトス、ソノ國ノ結構花麗ナル安樂ナルコトヲキヽ、ツヒニソノ國ヘ生ゼンガ爲ニ一生只是ヲ信ジ、貨財ヲ擲チ生業ヲ廢シ、甚シキハ家國妻子ヲステヽ出家スルニ至ル、歎ズベキカナ、本ヨリコノ說天竺ノ具多橫行ノ經文ニハ、西方淨土ノ說ナシ、タヾ天ニ生ズルト云テ天上極樂世界天堂アリトス、耶蘇宗ノ說ト相似タリ、之コレハ支那ニテ翻譯スルトキカク引直シタルナリ、ソノワケハ漢土ニ

ハ道家ノ説盛ンニシテ、天帝ノ宮闕アリト云フ、コレ先入ナレバ逆ラフコトアタハズ、ユヱニ避ケテ西方ニ移スモノナリ、是レハ漢土ヨリ天竺ヲ佛國ナリトテ、西ニムカヒテ拜スルコト前日ヨリアルユヱニ、西方ト思ヒツキタルナリ、釋迦ノ思ヒツキハ天ニシテ西ニアラザルナリ、道家ノ言ニ、二儀ノ間ニハ三十三天アリ、コレ天帝ヨリ以下諸仙ノ居ナリ、佛者ノ居ハ第四十二天ニアリ、延眞宮トスト、コレ又後ニ、道家ヨリ佛ヲ抱キ込ミタルナリ、浮屠者ハコレニテ坦應セズシテ、是非ニ外ヘ移スナリ、日本ニテ兩部垂迹ヲ立テ紛ラカスガ如シ、神道ヲ排スレバ日本人ハ合點セザルユヱナリ、姦黠ハ浮屠者ノナラハシナリ、コレヲ方便ト云フ、コレヲ以テ見レバ天ト云トモ、西ト云フトモ東トモ南北トモ云ヒ次第ナルベシ、コレヲシラズシテ、歴々ノ人々佛ニ歸シテ大刹伽藍ヲ建立シ、制度政令コレニヨルコト多シ、悲ムベシ、ソノ元ハ太子ヨリ起ルナリ、釋迦ノ天竺ニテ法ヲ弘メシハ世ヲ救フ爲メナリ、然レドモ阿彌陀・觀音・勢至・藥師・大日・地藏、ソノ外佛菩薩ヲ云ヒナラベタルハアマリナル造リゴトナリ、シカレドモ天竺ハ虚言ヲ云ヒナラブルハ國風ナルベシ、和漢ノ高僧智識ト稱セラル丶輩、釋迦ノ虚僞ノ造リモノヲ實ラシク云ヒナシ、尾鰭ヲ付ケテ、人主及諸大臣ヲ欺妄シ、大刹ヲ建サセ富貴ヲ極メ、天下ノ害ヲナスコト最モ憎ムベキナリ、凡ソ經論ヲ讀デ文義ヲ解スル僧ニ、天道地獄ノナキコトヲ明ニ知ラザルハナシ、然ルニサマ〴〵自ラ勝手ノ儘ニ云ナラベテ、方便ト名ヅケ必有ト云ヲ法旨トシタルモノナリ、太子ハ勿論ニヨク辨ヘテ始ルコトナリ、日本ニテハ推古帝及太子・馬子等其位ニ在テ、

王法・佛法並べ行ヒシ故ニ始マルコトナリ、日本ニテハ始メヨリ政事ニ取コミ、天下ニ行ハレテ早ク弘マリシヨリ、役ノ小角・空海・最澄ナドハ、後生ノコトハ云ハズシテ現世ノ利益ヲ主トシ、小角・空海ハ取分テ方術慱戯ヲナシ、人ヲ惑ハシ驚カセテ、ソレヨリ取イリ法ヲ弘ム、源空（法然ナリ）親鸞・蓮如ハ自力ノ修行ヲ止メテ、阿彌陀一佛ニトリスガリテ助ケタマヘナムアミダ佛ト唱フレバ、忽チ光明ノ中ニ入テ捨ザルナリ、ユヱニ十惡五逆ノ罪人ニテモ、コノ念佛ニテ彌陀ヲ頼メバ、後生安樂ヲ得ト云テ、最初ノ釋迦發端ノ勸善懲惡ノコトハイツノマニカ消失テ、ツヒニ親鸞五戒ヲ破リテ俗ニ同ジク、正法ニ不思議ナシト罵リテ燒栗ヲ生ゼシメ、河越ニ文字ヲ書ク、惡ムベクシテ惛ムベシ（十惡ハ謀反・大逆・謀叛・惡逆・無道・不敬・不睦・不孝・不義・内亂、五逆ハ君・父・母・夫・師ヲ弑スモノ、燒栗ノ生ズル川ヲ隔テ文チカクコト虚僞ナリ、空海小角ノコトミナ同ジ）日蓮ハ釋迦一代ノ諸經ハ方便ニシテ、唯法華經ノミヲ説ン爲ナリ、釋迦ノ臟腑ハ法華經ニアリト罵リ、法華ヲス丶ム、禪宗五山ノ祖師妙恵・解脱・一休・澤庵ナドハ、佛敎ノ眞僞明ラカニ知テ在ナガラ、踊狂シテ富貴ヲ貪ル、是ラハシリテコレヲナスモノニテ不仁ノ人ナリ、遍照・西行・文覺ノ輩ハ世ヲ厭ヒ佛ニ惑ヒ、シラズシテ僧トナルモノナリ、是ミナ愚ナリ、然ルニ後ニ佛學ヲスルニ及ビテミナ明白ナルベシ、不知ノ罪ハ輕シ不仁ノ罪ハ重シ、中ニモ人主ヲ欺キ世ヲ惑ハシ、天下ノ害ヲシナガラ大地ノ開山ト祭ラレ、皇子ヲ法嗣トシテ今ニ至リテ尊貴セラル丶モノ丶、小角・空海・最澄・法然ノ輩也、子孫ニ繼テ繁榮スルハ親鸞ナリ、ミナコレ經文ノ讖ヲ云テ天子ノ害ヲナシナガラカクノ如シ、ア丶悲ムベシ〳〵

五　釋氏天眼通ヲ以テ三千世界ヲ洞視シ、神通力ヲ以テ三世ヲ了達スト云テ、輪回・因緣・因果・果報ヲ示シ、前生ノ報ニヨリ今生生レ來タリ、今生ノ因緣ニヨリテ後生ハ極樂世界ニ生ジ、又ハ人畜及魚鳥介蟲ニ生ヲ受ト云、又須彌山ヲバ營造シテ天頂ヲ北極トシ、日月星辰ヲ横ニ巡ラセ、三十三天・九山・八海・東西南北ノ四洲トシテ、コレヲ一世界トシ、一千須彌ヲ一千小世界トシ、二千須彌ヲ二千中世界トシ、三千須彌ヲ三千大世界トス、ナンゾソレ世界ノ多キヤ、ソレヨリ二千七百年ノ今日ニ至リ、西洋人地球ヲ旋ルトイヘドモ、南極ノ方イマダヒラケズ、シカルニ居ナガラ此大言ヲナス、ナンゾ容易ナル、鄒衍ガ赤縣神州ノ論ト同ジク、論ズルモオトナゲナシトイヘドモ、又後世地球ヲ引合セミレバ、コレラノ說ハミナ破ルヽコトナレドモ、誰モソレヲ辨ズル人ナキハ、ソノ妄誕ハ知レタルコト故也、然ドモマタモヤコヽニ出シテ說破スルモノハ、カノ佛說ニ陷リテ覺ラザル人々ノ目ヲサマサセテ、無益ノ佛ヲ信ゼンコトヲ悔テ、今日ノ世業ニカヘラシメンガ爲ナリ、履軒先生曰、天文ノ明ラカナラザルマヘハ、何國ニテモカヽル說アルベシ、須彌モ釋迦ノ始メタルモノニテハアラザルベシ、然ルヲ直ニ手ニトルヤウニ云テ、人ヲ欺クハ例ノ方便也、彼ハ方便ニテ虛說ヲ出次第ニ云コトナルニ、眞顏ニナリテ辨ズルモオトナゲナキヿ也、凡佛法ト云モノモ釋迦以前ヨリ有來リシ中ニ、釋氏ハ奮起シテソノ一家ヲ言ヲナスノミ、外道ト云モノモ本ハ同體ノ佛者ナリ、後ニミナ歸服スルヲ以テ、佛道ノ本ヨリ既ニ有ヲシルベシ、須彌モ此類ナルベシ、三世因緣等モ釋迦ノ云ソメタルニモ非ザルベシト、アヽ三千年

ノ前ニ三千里ノ外ヲ、洞視了達スルノ言ト云ベシ、今日地球ノコト明白ナレバ、須彌ノ説ハ辨ゼズシテ虚ナルコトシルベシ、然ルニイマダコノ妄誕ヲ辨ヘズシテ佛ヲ信ジ、又ハ虚僞ヲシリナガラ人ヲ欺ムク、佛者ノ所爲ヲバ憎ムベキニアラズヤ。

六　佛氏ノ天地ノ説ハソノ國ニ居ナガラ云コト故ニ、何國ニテモミナカヽルモノナリ、其上方便ト云テ遁免ノ虚僞ハ、云次第ニシテ出ルマヽノウソナレバ、議論スルニ足ラザルコトナレドモ、又是ヲシリナガラ、付ソヘテ欺妄スル僧等ニ實ト思ヒテ信ジ、無益ノ堂塔ヲ建ナラベ、國家ノ害ヲナス人々ヲ教戒センガ爲ニ云ノミ、唯コノ地獄極樂ノ説ハ、自國天竺ノ目先ノ風俗ヲ以テ云コトニシテ、天竺ハ暖國故ニ極樂ハ冷風涼地蓮花上ニ座シ、宮殿樓閣建ナラベテ安樂自在ト云テ、寒冷ヲ好ムニ乘ジテ説出シ、地獄ハソレニ引カヘ焦熱池火車ナドヽ云立テ恐怖ナサシム、佛菩薩トイヒ閻羅魔十王ト云モノ、ミナ天竺ノ王公貴人刑官衞士ノ卒ヲ夜叉羅刹トス、天竺ノ國俗尤殺ヲ好デ慈惠ナシ、豕ノ切ウリハ、生キナガラ擔アルキ一足宛賣テ、流血叫喚ヲカヘリミズ、ソレユヱ佛説ニ禁殺ヲ第一ノ教化トスルナリ、但生キナガラノ切賣ハ暖國故也、北國ハ寒國ニシテミナ此國ニ反ス、シカレドモ佛者吾國ノ暖ナルヲ見テ、萬國ミナ此ノ如シト思フナリ、マシテヤ天竺ノ佛氏ノ目ノトドク程、人ヲ教化シテ善ヲススメ惡ヲコラサントスル志ニテ、他ニ心ハナカルベシ、然ドモ其説處ハ三千大世界ヲ利益シ、十方諸有ノ衆生草木國土マデモ悉皆成佛ト云モノナリ、ソノ他ハ多ク後代ノ佛者ドモノ、付ソヘ云ソヘタル

コトニテ、又ハ經文翻譯ノトキニ云直シタルコト多カルベシ、只是下根愚痴ノ人々ヲ化導スル爲ノオドシニテ、大人君子ノ取上テ論ズルコトニアラザルヲシラズシテ、和漢ノ大テイノ學者マデコノ說ニオボレテカヘリミルコトナク、佛ヲ信ズルハ悲ムベシ

七　釋氏天竺國ノ惡習ヲ憂ヘ、善ヲスヽメ惡ヲコラスノ意ニテ、風俗ヲ易移セントス、孝悌・仁義ノ道ハ蠢愚ノ俗ノ耳ニ入ラザルベケレドモ、和漢ミナ年歷ヲ積リテ敎化行ハルヽ、今ニテハソノ道ヲ以テセバ化セザルコトハアルマジキニ、性急ニハカリ且ハ以前ヨリ云傳ヘ來リシ、佛ヲ以テ化導セント志シタルナラン、ソノミチ極樂・地獄ノ說ヲナシ、前世・今世・後世ノ三世因緣輪回ノ妄說ヲ弘メ、前世惡ヲナシタルモノハ、今世貧賤或ハ禽獸ニ生ルヽカ、又重キハ地獄ヘ墮シテ末代永劫ノ苦患ヲ受ベシ、今世惡ヲナシタルモノハ後世又シカリ、前世善ヲナシタルモノハ、今世富貴ニ生ルヽカ、又多キハ極樂ヘ往生シテ永々ノ歡樂ヲ得ベシ、今世ノ善ヲナシタルモノハ、後世又シカリト云、殊ニシラズ已ニ死タルモノハ、其屍ハ土ニ埋ムトイヘドモ、其時其寒ヲシラズ、火ニ燒トイヘドモソノ熱ヲシラズ、何ノ體ヲ以テカ天堂極樂ニ登リ地獄修羅ヘユカン、孔子モ其生ヲ知レバソノ死ヲ知ラント云玉ハズヤ、生アルモノヽ死スルハ艸木ノ枯ルヽガ如シ、何ゾ魂去テ又他ニ生ズルノ理アランヤ、草木ノ實ヲトリテ土ニ埋メバ、再ビ生ジテ榮ユルモノハ生アルモノヽ漸々ニ子ヲウミテ成長スルト同ジコトナリ、コレ則ソノ生ヲシリテ其死ヲシルモノナリ、佛氏ノ說ノ如クナラバ、善因アリテ富貴ニ生ルト雖、二三歲

ニテ夭死シアルヒハ難ニアヒ、又ハソノ身ノ心ノ儘ナラズシテ困窮スル人モアルハ、是等ノ因縁ハイカヾナルベキ、悪因アリテ貧賤ニ生ルト雖モ、夭死スルカ或ハ安樂ニ終ル、又ハ鳥獸虫魚ニ生ルト雖、一生悠々快々トシテ、山林ニ遊ビ、水中ニ游ブ是モマタソノ因シルベカラズ、蜉蝣ノ如キ糞蟲蚊蠅諸蟲ノゴトキ、ミナ是樂ムトセンヤ苦ムトセンヤ、蛙ノ大王ニ生レタルハヨク〳〵善果ヲエタルト云ベシ、蛙ノ善ヲスル何程ノ功徳アルベキ、カヽル富貴ヲ受ルホドノ大善ヲスベキヤウナシ、檀林皇后ノ前生ノ牛モ、善ヲスルトモ身ヲ吝マズハタラキシノミニテ人ヲ助ル程ノヿモアルマジキニ、コレラハ大王又皇后ト、並ビナキ富貴ヲ得タルニ偏頗ノ刑ナラズヤ、天下父母アリテ後我身アリ、父母ナケレバ我身ナシ、然レバ我身ハ父母ノ物ナリ、私ノ物ニアラザルナリ、ユヱニ身ヲ致シ辛勞シテ孝養シ、父母ノ命唯コレ從フベシ、然ルニ佛家ノ説ニテハ、前世ニ善ヲナシ、ソノ因ニヨリテ此世ニ生レ來ルモノハ、皆自カラ以テ富貴ノ身ト生レタルナリ、父母ノ恩ニハアラザルナリ、スデニ用明ノ后ノ夢ニ觀音來リテ告テ曰、我日本ニ佛法ヲ弘メンガ爲ニ后ノ腹ニヤドルモノナリト、ソレヨリ懷姙シ太子ヲ生トアレバ、父ナクシテ生ルヽガ如シ、コレヲ以テミレバ父母ノ恩ハウスシト云ベシ、然ルニ世ノ誹ヲ免レンガタメニ父母ノ報恩經ヲ作リテコレヲ補フトイヘドモ、大本スデニ前生ノ善因ニテ富貴ノ家ニ生レ來ルモノナレバ實ハ父母ノ恩ハ薄キニ似タリ、世ニ母ハ借モノナリト云サヘモ不義ノ言ナルニ、佛説ノ如クニテハ父モカリモノナリ、或佛者母ヲ笞ウツ、人コレヲ諫ム、佛者ノ曰憂ルコトナカレ、我母ヲ一度

打ゴトニ念佛シテ打ナリト甚シキ哉、佛者ノ弊コヽニ至ルナリ、コレラノ理ヲ辨テヨク聖人ノ道ヲ學ビ、致知格物ノ工夫ヲナシテ、異端小説ニ惑ハサルヽコト勿レ

八　人死シテ牛馬トナリ魚鳥トナル、カクノ如クナラバ、三千世界ノ生物數限リアルベシ、其魂ノ數何億萬ト限リテ其中ヨリ善ヲナシ、又ハ佛ヲ賴ミテ極樂ヘ往生シ、成佛シタル人並ビニ地獄ヘ墮テ未來永永苦患ヲ受ルモノハ、再タビコノ土ヘ歸ルベカラズ、サレバコノ極樂地獄ヘ往ク人々年毎ニ幾千萬人、釋迦以來三千餘年ノ分ヲ引去リ、又天竺ニ釋迦出生以前漢土後漢ノ明帝以前、日本推古以前ソノ外、萬國ノ佛法ヲシラザル輩善ヲナシ惡ヲナシ、極樂地獄ヘ行タル人々ソノ數ヲ減ズレバ、年々ニ魂ノ數減ジテ、千萬年ノ後ニハツヒニハ一人モノコラズ、ミナ極樂ト地獄ヘ吸トラルベシ、然ルニ年々諸ノ生物ノ數ノ增益スルヤウニアルハイカン、又冬ハ生物少クテ夏ハ多シトイヘドモ、コレハ寒國暖國交代スルヤ、何レニモ年々生物增ニ違ナシ、コレヲ以テ見レバ決シテ輪回ノナキヲシルベシ、秦ノ白起趙ノ四十萬ノ兵ヲ坑ニス、周瑜ハ魏ノ數十萬ヲミナ殺ニス、蒙古十萬ノ兵ヲ起シ、對馬ヘ攻入リ難風ニアヒテ死ス、木曾義仲平家十萬ノ兵ヲ礪並唄利伽羅ニ殺ス、江戸明暦ノ燒死、享保天明ノ餓死幾千萬人コノ內ニハ善人モ惡人モアルベシ、阿彌陀如來ナンゾ此處ニテ賞罰ナキカ、又此一同ニ死タル人々一同ニ何方ヘ生ヲ托スヤシルベカラズ、只コレ出次第ノ妄說ニテ今サラニ悔ムベキモノナリ

九　釋氏ノ善人ト稱スル人ハ、念佛日々ニ若干遍又經ヲヨムコト若干遍、又財寶ヲ吝マズ先祖ヨリ持

來リノ家藏ヲ、賣拂ヒテモ人ニカリテモ、タトへ盜ミ來リテモ寺塔ヲ立ツルヲ功德ト思ヒ、寄進シ僧ヲ供養スルコト數ヲ限ラズ、靈佛ノ地へ日夜參詣スルコト數遍、コレニ勞シテ父母ニ事ル事能ハズ、兄弟夫婦不和ニシテ又世事ニウトク、家業ナラズシテ家ヲ亡スニ至リテモ、タヾヒタスラ佛名ヲトナヘ、怠慢ナク佛ヲ信ズレバ、ミナコゾツテコレヲ善人トス、又家ヲステヽ出家シ一所不住ノ道心者トナルモノアリ、ミナ善人ト稱ス、朱子曰、「佛法興而善惡之名差了」ト誠ナルカナ

十　瑯邪代粹ニ曰、「造天地經曰、寶曆菩薩下ニ生世間一、曰ニ伏羲一、摩迦珂葉號曰ニ老子一、儒童菩薩號曰ニ孔子一、又曰眞丹國人難レ化、佛使ニ三弟子者出世其國一、乃從能化」ト孔子・老子ヲ以テ佛弟子トナス、ナンゾソレ牽强ナルヤ、實ニ佛ノ化身ナラバ何ゾ佛ヲ弘メザルヤ、三世輪回ノ說實ナラバ、何ゾコレヲ詢ヘザル、同書又曰、「溧水縣南七十五里有ニ儒童寺一、本孔子祠、唐景福二年立、」ソノ外佛弟ヲ以顏子トシ曾子トス、韓退之曰、「佛者曰、孔子吾師之弟子也、釋氏遂有ニ詆レ韓論一、甚矣其無ニ忌憚一也、」カクノ如ク漢土ニテハ三皇ヨリ孔門ノ人々ヲトリ入テ、佛徒ニ習合ス憎ムベキ哉、日本ニテハ行基・空海ノ徒コレニ慣ヒテ本地垂迹ト云コトヲ云出シ、神代ヨリシテ功德アル神々ヲミナ佛ノ化生トス、天照大神ヲ阿彌陀トシ、春日ヲ釋迦トシ、ソノ餘ノ諸神ミナ本地ヲ立テ兩部トシ、社內或ハ近地ニ本地堂ヲ立テ、ツヒニ神祇ヲ取入テ佛ノ社中トス、又ソノ徒源空ヲ勢至ノ化生トシ、親鸞ヲアミダトシ、其外ノ開山高僧ト云モノ、ミナ其宗派ニオイテ佛ノ化身トシテ、法ヲ弘ンガ爲日本ニ生レ來リヌトス、然バミナ此人々ノ

父母ハ當時ノ借モノニテ、實ノ父母ナラザルヲシルベシ、ソノ外中古ノ諸神八幡宮・天滿宮・東照宮ニモミナ本地ヲ立テ、「和光同塵・結緣之始・八相成道・利物之終」ナド云テ、神ニ習合シテ混雜スルニ至ル、漢土ニテ儒ニ合セ、日本ニテ神ニ合セ其法ヲ成就セントス、佛ノ獨立セザルヲミルベシ、コノ如ク左說右解至ラザルコトナク、時ノ王公權家ニ取入テ大利ヲヒラキ、我法ヲ弘メ得ルヲ患ヘ失フヲ患フ、其志ノ醜キコト惡ムベシ

十一　聖武帝東大寺ヲ創立センコトヲ思フ、行基ニ勅シテ伊勢ニ奉幣シ佛舍利ヲ獻ズ、神宮ニ佛骨ヲ獻ズルコトソノ汚穢ヲイカン、行基持念スルヿ七日七夜ニシテ、神殿ヒラケ唱テ曰、「實相眞如之日輪、照二生死之長夜一、本有常住之月輪、破二煩惱之迷雲一、我今遭二難レ逢之大願一、如二渡得レ船、又受二難レ得之寶珠一、如二暗得レ炬、師藏二其舍利飯高鄉一」ト即チ行基復奏スト、此神託ヲ傍ニテ聞ケル證人ナシ、モシ有バ同類ナラン、ナケレバ行基ノ僞ナリ、大神宮ノ御時イマダ文字ナシ、コノ語奈良ノ朝ノ時代ノ對句ニテ行基ノ惡作也、行基天子ヲ欺キ祖廟ヲ誣ユ、ソノ罪梟首スベシ、又欽明ノトキ肥後國三藏ノ女子ニ託シテ曰、我ハ是人皇十六代譽田八幡丸ナリ、名ヲ護國靈驗威神身大自在王菩薩トナヅクト、コノ時ヨリ八幡宮ヲ菩薩トス、又延曆二年託シテ曰、我無量劫ヨリコノカタ三有ヲ化生シ、善巧方便ヲ修シ、諸ノ衆生ヲ濟度ス、我名ヲ大自在王菩薩ト云、又寬平二年託シテ曰、菩薩ノ服色道具ヲ得ント欲ス、勅シテ瓔珞香爐念珠ヲ獻ズ、コレミナ佛者ノ誣詐ルトコロニシテ、コレニ迷ハサルル天子宰相ハイカ

ナルコトゾヤ、伊勢宇佐八幡ハ本朝ノ祖廟ナレバ、佛者コノ二神ヲ取入ル時ハ外神ハ物ノ數ナラズ、ユヱニカクノゴトキ也、稱德帝道鏡ヲ寵ス、太宰ノ主神阿蘇丸、八幡ノ神託ヲ奏シテ曰、道鏡登極セバ天下太平ナラント、帝和氣ノ淸麿ヲ遣ハシテ宇佐ニ至リテ神託ヲ聽シム、神託ニ曰、我國家開闢以來、天日皇緖繼統ヲ移スコトナシ、比來孽臣妖神淫祠妖言ヲナス、帝ソレ動クコトナカレ、早ク是ヲ除クベシ、淸麿又證ヲ乞フ、玆ニ於テ大神曰、邪神多クシテ我大ニ疲ル、佛力ヲ賴ムノ外ナシト、奏シテ佛像ヲ造リ最勝王經ヲ誦シテ寺塔ヲ建立スベシト、此トキ淸麿國家ノ大節ニ臨ミ、道鏡ヲ恐レズコレヲ奏ス精忠ト云ベシ、然ルニナンゾカヽル神託アラン、ミナ淸麿ノ作也、始阿蘇丸神託ヲ奏スルハ道鏡ニ黨スルナリ、淸麿ノ奏スルハ身ヲ捨テ國家ノ爲ニスル也、又佛力ヲ賴ミ經ヲヨミ寺ヲ建ルコトハ、淸麿ノ佛ニ溺レテ私スルナリ、ミナ眞ノ神託ニアラズ詐僞ナレドモ、一ハ逆臣ニ黨シ、二ハ國ノ爲ニ忠ニシテ、三ハ佛ニ淫ス、スベテ天下ニ眞ノ神託ト云コトハ一ツモアルコトナシ、ナンゾ鬼神ニシテ物言コトアランヤ、古ヘヨリ神託ト云人々ハ、ミナソノ人ノ僞リ云フコトニシテ、實ニアラザルヲシルベシ、淸麿・道鏡ヲ恐レズ神託ヲ僞ルコトハ、忠臣ト雖、佛ニ迷フハ惜ムベキコトナリ、此時代ハイカナルコトニカミナ佛ニ迷フテ欺カル、故ニ佛者ソノ虛ニ乘ジサマ〴〵ノ怪說ヲナシ、ツヒニ神託ヲ詐リ佛ニ習合ス、其後行敎ト云モノ八幡宮ヲ石淸水ニ遷ス、其時ノ神託小兒ヲ欺ガ如シ、コレラノ妖僧ニ欺ルルコトミナ君臣ノ不明ナリ、ソノ不明ニ取リ入リテサマ〴〵ノ計策ヲ以テ私ノ計ヲナシ、神祠佛刹ヲ立テ

自ラ開祖トナリ、萬代盛祭ヲ饗ルモノナリ（阿蘇丸清麻呂二人トモニ神託ヲ詐ルトイヘドモ、後人阿蘇丸ノ僞ヲシリテ清麻呂ノ僞ヲシラズ、コレ佞ト忠トノ別ニシテミナ邪説ニ溺ル、故ナリ）

十二　阿彌陀經ニ極樂ノ壯麗ヲ云、蓮池・樓閣・奇鳥・異樹アゲテ計フベカラズ、然ルニ何程ノ大地ニテモ、數千年ノ間ニ三千世界ヨリ善因ヲナシテ成佛シ來ルモノ、千萬無量ソノ數シルベカラズ、然ルニワヅカニ宮殿・樓閣・蓮池ヲ以テホコル程ノ地ナレバ、文王ノ囿ヨリ濶キコトアルマジキ也、ソノ處ヘカヽル大衆生レ來リテハ、今ニテハ錐ヲ立ル地モアルマジ、蓮花ノ上ニ危坐スルモアヤウシト云ベシ、是ミナ愚人ヲ欺ク也、君子ナンゾ陷ラン、死シテ後又他ヘ生ヲバ易ルモノ佛ノ云如クナラバ、魂アリテ外人ノ腹中ヘ入ベシ、然ラザレバ屍ハ葬リテ有コトナシ、心魂死セズシテ人ノ腹中ニヤドリ、初テ生ルル時ハ小兒ナリ、禽獸魚蟲ミナシカリ、然ルニ極樂ト地獄ヘ行モノモ、初生ノ小兒ナルベキニ地獄・極樂ノ圖ヲ見ルニ皆死シタル時ノ姿也、極樂ヘ往テ佛ニナリタルモノハ樂ヲウケ、地獄ヘ落テ舌ヲヌカレ臼ニテ搗カレ、劍ノ山ヘノボリ火車ニ乘セラルヽモ、皆前生ノ形ナリ、形無ンバ何ゾ此苦樂アランヤ、然ルニ死シテ葬タル屍ハ土中ニ腐リ燒テ灰トナリ形有コトナシ、何レノ形ニテ苦樂ヲ受ルヤ、悟ルベカラザルコトナリ

十三　天慶中東寺ノ日藏死シテ蘇リ、誇言シテ曰、吾地獄ヲ見ル一鐵窟中ニ人アリ、炭火上ニ蹲ル、即云、我ハ是大日本國主金剛覺宇多帝ノ子醍醐帝也、菅相ノ怨ヲ以テ佛寺ヲヤキ有情ヲ害ス、其罪報ヲ皆我是ヲ受苦ムコトハカリナシ、汝本國ニカヘリ國王及宰輔ニ奏シ、一萬ノ卒都婆ヲ立テ吾苦患ヲ抜ベシ

ト奏ス一萬ノ卒都婆チ立テ苦患チヌクト云、相場チ自カラ立タルチカシ、コレチ以テ見レバ、病人自ラ此病ハ何藥チ用テ治スト云ガ如シ、醫ハ無用ナリア丶延喜帝ハ我邦ノ明主ト稱ス、日藏蘇生ヲ幸ニシテコノ妄言ヲナシ罪人トス、又帝ニコノ罪ヲ課スルハ佛ノ偏頗ナラズヤ、君臣サトルコトナク、ソノ言ニ隨ヒ又日藏ヲ賞ス、佛者ノ妄計斯ノ如ク甚シイ哉、ソノ他死シテ蘇生スルモノ佛ヲ信ズルモノハ多クカ丶ル僞言ヲナシテ人ヲ惑ハス、小野篁スラ冥官ニ逢フノ說アリ、當時ハ大テイ云ツクシテ、カ丶ルコトハ古メカシクテ信ズル人ナシ、我友死シテ蘇ルアリ、コレニ問フ曰ク何モシラザル也、唯ソノ蘇ントスル前ニ至リテ、何トナク人々ノ言語耳ニ入リ灸ノアツキヲ覺ユ、ソレヨリダン〳〵トアツクナリテ、心憒ニナリタリト云ノ外ナシ、又漢土ノ明帝以前日本推古以前ノ人、死シテ蘇生スルモノ多ケレドモ、ツヒニ冥途ノコトヲ聞ズ、中古佛法行ハレテヨリカ丶ルコト多シ、ミナ妄語ナリ、殊ニシラズ日藏ハ佛者ナリ、死タル時ハ忽チニ極樂ニ生レテ金箔ヲヌリタル佛ニナリテ、古來ノ佛ニ交リ遊ブベシ、何ガ故ニ地獄ヘ行テ罪人ニ逢ンヤ、然バ日藏ハ地獄ヘ落ホドノ罪アリシナラン、コ丶ニ人アリ禁制ノ地ニ至リ、他人又ソノ處ニ至ルヲ訴フ、官訴ヘラレシ人ヲ收メテ又其訴人ヲセメテ曰、汝何ガ故ニ禁制ノ地ニ至リシヤト又是ヲ收ム、カクノ如クソノ自ラ罪人トナルヲシラズ、又王公モコレヲ悟ラズア丶

十四　釋氏元來人ノ施ヲ受ルト雖、執心アル物ヲトラズトス、故ニ棄タル衣服ヲ拾ヒツギ合セテ衣トス、コ丶ニ於テ五條・七條ノ袈裟ノ起ル處ナリ、然ルニ是ニカマハズ、人ヨリ布帛錦繡ヲ與フレバ亦ウ

ケテ服ス、又米錢ヲウケテ食スルモ常ナリ、然ドモミナ華美ヲ好ムニアラズ、但有バ服シ無クバ服セズ、スベテ嗜好ナクシテ物ニ着セズ、斯ノ如クニテ家ヲ捨世ヲ棄ル、故ニ出家ト云、然ルニ後代ノ僧ハ人ノ物ヲ貪リ取ルベキモノニ定メテ、俗人ニ向ヒテハ僧ニ物ヲ施シ供スル人ハ極樂ニ生ル、人ノ物ヲ取テ惠マザルモノハ地獄ニ落ツルト云ハ、抑自カラ云ナリ、シカレバ則僧ヨリ人ニ與フルコトハ、寺ヨリ里ナリト云テ來リテ往處ナキ物ハ何レノ地ニカ生ズベキ、道ヲ敎ユルモノハ慢ニ壽スルモノトハ異ナリト雖、其敎ル道モ正道ニアラズ、シカルニ庶人ノ子タリト雖、王公ニ同座シ法眼・法印ヨリ僧都・僧正ニ至リ、官服ヲ着シ官職ヲ爭フトキハ、出家トイハズシテ入家ト云ベキカ、庶人ニ在テハ身分ニ應ジ、人ニ物ヲ施シ官位ノ願モナク、所業ヲ勤メ父母ヲ養フベキニ、ナマジヒニ僧トナリ、佛道ニ入ル故ニ、官位ヲ爭ソヒ緋衣・紫衣ヲ着シ、王公ニ位ヲ等フス、釋迦ノ本意トハ天地黑白ノ異ルコトヲ見ルベシ、都テ是ラノミニアラズ、最初ノ旨趣ト差フコトミナシカリ

十五　初ヨリ迷ハザレバ覺ニモ及バズ、「本來無東西迷故三千界」ト云、初生ヨリ佛ト云コトヲ知ラザレバ迷フコトナシ、聖人ハ只人ノ人タル道ヲ敎ヘテ、上下太平ナランコトヲ欲ス、ソノ術ハ仁義忠孝ノ道也、初ヨリ忠孝ヲマナビ、入テハ孝シ出テハ弟シ、孳々トシテ善ヲスルノミ、此外ニ道アルベカラズ、然ルニ今ハ初テ物ヲシルヨリ、佛ヲ敎ヘテ拜セシメ、輪回ノ說ニ迷ハサル、故ニ、禪法ノ如ク覺ルト云コトアリ、先入已ニ主トナリテ此垢トシタルモノ少シ、哀イ哉、然ルニ天台・眞言ハ現世ヲ主ト

シ、淨土ハ來世ヲ主トス、スベテソレ〴〵ニ淫シ返ラザレバ、措テ論ゼズ、余ツラ〳〵禪僧ヲ見ルニ、諸宗ニスグレテ高遠ヲトキ知覺ノ了悟ヲ勤メトス、何ヲ悟ルゾト考見レバ天地人ノ源ヲ探リ、性理ヲ辨ズルコトヲ始トス、又釋迦ノ佛ヲ弘タルソノ本意ヲ悟ルコトナリ、スデニ覺リ課セタレバサトルベキコト無ト罵リテ、其欲ル處ニ從テ規ヲコユルコトノミ、儒家ニイハユル狂者ノ所爲ナリ、舜ハ人ノ知ヲ取リ己ヲステ、人ニ從フ、文王ハ心ヲ小ニシテツヽシム、周公ハ士ヲ見ルニ髮ヲニギリ哺ヲ吐ク、孔子ハ學ンデ厭ハズ、聖人ニシテモ自ラ足レリトセズ、ソノ餘ノ大賢君子ミナ自ラ足ラズトシテ知ヲ求メ、死シテ後止ムコトナルニ（舜ノ人ニトルモノハ已一人ノ知ニテハ足ラズシテ、萬人ノ中ニハ大知ノ人モ多クアルヲ覺リタルナリ、文王ノツヽシミハ怠ルマジキヲ覺リタルナリ、周公ノ哺ヲハキ髮ヲニギルハ、天下ノ知アル人ヲ求メテ、已ノ足ラザルヲ補フコトヲ覺リタルナリ、孔子ノ學ンデ厭ハザルハ、天下ノコト知リツクスベカラザルヲサトリタルナリ）禪家ノ僧スデニ曉リタレバ曉リ了ルト云テ、足レリトシテ顧ルコトナシ、然ルニ尙イマダサトラザルナリ、天地人ノ源ヲ知ルトキハ、極樂・地獄モナク、五倫ノ道ヲ辨ヘテ、天堂ニ生ルヽコトヲ願フコトヲ止テ、君父ニ事ヘ子孫ニ敎ヘ、朋友ニ信義アルベキ也、又釋迦ノ本意ヲ悟リタラバ、善ヲ勸メ惡ヲコラスノ爲ニ、極樂・地獄ノ說ヲハジメヲサトリ得タレバ今マデ辛苦シテ勤メシコトノ無用ナリシヲ知テ、髮ヲ貯ヘ故鄉ニ歸リ產業ヲツトムベキナリ、家督アリテ故鄉ニ歸ルニ及バザルモノハ、還俗シテ新業ヲツトムベシ、モシマタ釋迦ノ代官トナリテイヨ〳〵勸善・懲惡スベシト思フナラバ、今ノ如クニ佛ヲ拜スルニ及バズ、ソノスヽムル處ハ孝悌忠信ノミ、其コラス處ハ不孝・不悌・不忠・不信ノミ、又釋迦ノ本意ヲサトリオホセテ、極樂・地獄無キニ究

マリタラバ、今マデ霊驗アリトシテ、餘念ナク頼ミタル木像・畫像モ無用ノ物ニナルベシ、今マデウカウカ木佛畫佛ノ前ニ坐シテ觀念シ、經ヲヨミタルコソ淺ハカナレト、悔テ還俗シテ可ナリ、左ナクテ其マヽ寺ニアリテ俗ニモカヘラズ、高遠ヲ唱ヘマス〳〵放逸ニシテ身ヲ終ルハ何事ゾヤ、シカレバイマダサトリ得ザルナリ、實ニ悟リ得タル處ハ小兒ノ如シ、イマダ佛法ヲシラザル前ノ凡夫ナリ、還俗ヲ得セザルハ朋友ノ誹ヲ恐ルヽ者カ、今日ノ業ニカラマサルヽモノカ、コレ未ダシルベカラズ、履軒先生ノ曰、凡禪僧ノ了悟ト云モノハ、其禪學中ノ極意ヲノミ込タルナリ、然ルニ天地ノ道理マデヲ知タルヤウニ云ナスハ讆言ナリ、茲ヘツケコミテ悟リタラバ、カクアルベシトハ云ガタシ、禪ハ佛法中ノ異端也、ユヱニ釋迦再出セバ大ニ排斥スベシ、況ンヤ人倫ノ道理ヲヤ、聖人中正ノ事ハ以テセムベキニアラズ、禪僧ノ中ニテコノ心付タルモノモアルベケレド、中年マデ人ノ施ヲ受テ飽暖ヲ得タルモノノ、今忽チニ是ヲ捨テ還俗シタル時、耒耜ハ持得ザル也、枴モ算盤モ持コトアタハズ、醫術モ急ニ稽古ハ出來ズ、先ハコヽニセンカタナシ、故ニ此心止ム也、若饑寒死ヲ患ヘズ、一日ニテモ正道ニ反リテ斃レタシト願フ意ノアラバ、スベキコトアレドモ、ソレ程ニ志ヲ立ル僧ハアルベカラズ、十人並ニサトリタルト云僧ニ決シテナキコトナリ、禪僧ノ悟ト云モノハ、劍術ノ奥義傳授ノ卷ヲ受テ、初テ劍法ノ合點ガ行タリト云ガ如シ、表十本裏十本、コレヲ日々修行シ得タレバ、敵ニ勝ベシト云タルハ皆謊ナリ、太刀サバキ息ヅカヒノ類何ノ用ゾヤト云、然レバソノ修行實ニ無益カト云バ、ソレハ下學ノコト

ニシテ勝ハナシ、然ドモ下學ノ修行功ヲツマザレバ奥儀傳授ハ合點ユカヌモノト答フ、劍術ノ合點ハユキテ勝ハ付タレドモ、鑓弓ハ又別ニ稽古セザレバナラヌモノナリ、今禪ノ悟ヲ開タリト云ニ、ソレナラバ何故ニ人道ノ合點ガ行ザルト責ルハ無理ナリ、元來彼ノ道ト云悟入ト云ハ人道ノ外ノコトナリ、禪ト佛ト人道トハミナ別也、禪家ハ地獄ナシ靈驗ナシト云コトヲヨク〳〵知ラズ、マシテ後コレヲ有モノト立ルガ吾教法也、吾所業也ト定メテ務テ有無ヲ混同シテカタヨラザルヲ是トスルガ彼ノ主意ナリ、常ニカクスル故ニ時ニヨリ事ニフレテハ有無ノ惑ヒ實ニ生ズルコトアリ、コレモソノ中ニ交リ居ル故ニソノ筈也、今儒業ヲ修行セシ人ニモ、コノ惑尙了然ナラザル人多クアレバ、禪僧ニテハ左モアルベシト云ハレケリ、コレ履軒先生ノ確言

十六 佛ノイハユル一刼ト云モノハ、大石アリテソノ石ヲ撫盡スヲ一刼トス、コレヲ五刼ガ間思惟シ、兆載永刼ノ間執行シテ、一切衆生ヲ助ントノ大願成就シテ、スデニ正覺ヲトリタルヲ阿彌陀佛ト云、然ルニコノ阿彌陀ヨリ釋氏ノ出テ、初テ此事ヲ說出スマデノ間幾千萬年ヲシラズ、ユヱニ無量壽佛ト云テ、其間人ハシラネドモ、アミダ如來極樂ニアリテ、宇宙三千世界ヲ掌握シ權柄ヲトリ、過去未來ノ賞罰ヲホシイマヽニシ、彼ノ罪ヲ正シテ此ニ生ゼシメ、此レノ善ヲホメテ彼ニ生ゼシメ、コノ善ヲシリテ極樂ニ遣ハシ、カノ惡ヲ知テ地獄ニ陷ラシム、數千萬年コノ仕置ヲ仕來ルモノハアミダ也、其年代ノ久シキ、天下タレカコレヲシルモノナク、釋迦ハジメテ是ヲ云出セシトキ、阿彌陀ノミニアラ

ズト云テ、觀音•勢至•大日•地藏•藥師•不動ノルイ、其他十方上下ニ佛アリト云出セシハ、皆釋迦ノ僞詐ナリ、アヽ釋氏コレホドノ天下ノ主宰タル阿彌陀佛ト云佛アルコトヲ、數千萬年ニ一人モシル人ナク、唯吾ヒトリ是ヲ知ト云モノ、ミナコレ近松氏ノ作ト同ジコトナルヲサトラズシテ、實ニ此佛アリトシテ偶仰尊信シ、畫木ノ像ニ向ヒテ、頓首稽顙シテ三拜九拜スルコソヲカシケレ、スデニ一國ニ王アリ、一州ニ帝アリト雖、唯ソノ政刑限アリ、然ルニ阿彌陀ハ三千世界ノ大權ヲトリ、過去未來ノ仕置ヲスルヲ見レバ、世界ノアラユル帝王强賊ト雖、ミナ此命令ヲウケテイナムコトアタハズ、然ルニ阿彌陀ノ成佛ヨリ今ニ十刧ヲ經ルトイヘバ、釋氏出世マデイク千萬年ニシテ、コレホドノ世界ノ仕置ヲスル總王アルコトヲ一人モシル人ナシ、釋氏初テ出生シテコレヲシル、アヽ不審ナル哉、シカルニ是ヲサトラヌ後世ノ人々コソ愚ナレ、泰伯ノ至德人シラズシテ、孔子出デコレヲシル、然ドモコレハ五百年前ニ實ニアリシコトナリ、阿彌陀ノコトハ唯一人シル人ナク、十刧ノ間三千世界ノ賞罰ヲ正シ來ルコトヲ、釋氏出テコレヲシル、然ドモコレハ十刧ノ昔實ニ無キコト也、釋迦ノ妄作是ヲ以テシルベシ、履軒先生曰、釋氏ノ阿彌陀ハ日本ノ天照大神ノ如ク、並ニ日輪ニ名ヲ付テヨブナリ、然レバ謊ハツキ次第ナリ、ソレヲ眞顏ニテ實否ヲ正スハオトナゲナシ、筆ノ費ニアラズヤ、亦太宰風ナラザルヤト、然ドモソレハ君子中ノコトナリ、今コノ佛法弘マリテ以來王佛並ビ行ハレ、大刹ヲ建立シ、ツヒニハ天下佛法ヲ信ズルハ、政令ノ一トナリテ、ソレニ乘ジテ緇徒國中ニ肩ヲイカラシ、媚婆ヲオド

シテ晝夜コレヲ業トシ、正業ヲ廢スルニ至ル、陸象山ノ禪ヲ信ズルニ、朱子コレヲ戒ムルコトアレバ、吾モ亦愚民ノ爲ニ筆ヲ費スノミ

十七　浮屠氏ノ曰、釋迦末代ノ衆生ヲ度センガ爲ニ、八千度生ヲカヘテ種々サマ〳〵ノ物ト生ジカハリテ、ツヒニ天竺淨飯王ノ子ト生レ來リ、十九歲ニテ王城ヲ出、山ニ入テ仙人ニ仕フ、明星ヲ見テサトリテ佛法ヲ興スト、然ルニ釋迦諱ハ悉達ト云、母ハ摩耶夫人ナリ、耶須多羅女ヲ妻トシテ子羅睺羅(ラゴラ)ヲ生ム、又叔母憍曇彌ト密通ス、此コトニヨリテ王城ヲ出奔シ、檀特山ニ逃入テ、過ヲ悔テアラヽ仙人ニ仕フ、此時スデニ「棄レ恩入ニ無爲一、眞實報レ恩者」ト云テ、世ヲクロメ謗リヲフサギ、終ニ佛法ヲ說ク（棄恩入ニ無爲、眞實報レ恩者」ハコノ語出家スルトキノ父母ヘノ云ワケナリ、今死者ニオコゾリト云コトヲ戒師ヨリスルトキニ、コレヲ唱フルモヲカシ）シカレバ初ヨリ佛心ナクシテ、亡命ノ後ヨリ說出シタルナリ、八千度生ヲカヘテ、衆生濟度ノ心アラバ、阿彌陀ハ極樂ヨリコレヲヨミシテ、何ゾ早ク佛法ヲ示サザルニヤ、無量ノ靈驗アルアミダナレバ、釋迦ニカヽル辛勞ヲサセテオカレシヤ、早ク夢ニナリトモ告タキモノ也、又天上天下唯我獨尊ト云シモ、後ノ佛者ノ誣ル處カ、シルベカラズ

十八　我日本ニテ佛者ノ輩、祖神ヲ習合スルコト甚シキナラズヤ、漢土ニテ孔子スラ佛ヘトリ入タルヲ見レバ、亦アルベキコトカ、シカルニアマリ怪キコトヲ說話シタルヲ云ナラバ、天照大神天上ニ在シ海底ヲ下シ見ルニ、大日如來ノ印文アリ、又海底ヲサグリ玉フ時、其シタヾリ島トナル、魔王破旬云、コノシタヽリ國トナラバ、佛法弘マルベシ、シカジ此島ヲ破ランニハト、ユヱニ大神後世佛法ヲ

弘メマジキヲ受合玉フ、コヽヲ以テ伊勢ノ神前ヘ僧ヲ禁ズト、又佛語ヲイムモ是ヨリナリト云、大乘院ノ座主慶命山王ノ本地ヲ見ント祈ル、山王託シテ云、我コヽニ在コト無量歳、佛果ヲ期シ群臣ヲ利スト（世ニ諸神ノ本地ヲ視ント祈リ、諸佛ノ夢想ヲ乞フモノ多シ、惑ヘルカナ）天台家ノ説ニ曰、昔人壽二萬歳ノ時、釋尊迦葉佛ノ記ヲ受テ都率天ニ住ス、時ニ大海ヲ見ルニ、波浪ノ梵音アルヲキク、釋尊浪ノ止ル處ニ從ッテ日本國ニ來ル、其浪一芦ノ海上ニ浮ムニ留ル、芦化シテ一島トナル、コレヲ「ハトドノ」ト云、今比叡山ノ下大宮權現垂跡ノ地ナリ、其後人壽百歳ノ時、釋尊又天竺ヨリ豐芦原中津國ニ至ル時、鸕鷀草葺不合ノ尊ノ末世ナリ、釋尊又天竺ヨリ豐芦原中津國サヾ浪ヨスル志賀ノ浦ニ至リ、魚ヲ釣ル翁ニ逢フ、翁ハ是地主也、釋尊曰、我此處ニ佛法ヲ弘メン如何ト、翁答テ曰、我久シク此土ニ主タリ、我人壽六千歳ノ時ヨリ今ニ至リ、湖水ノ變ジテ芦原トナルコトヲ見ル、モシコノ處佛法ノ結界トナラバ、吾釣スル所ナケン、釋尊歸ラントス、タマ〳〵藥師如來東方ヨリ來テ告テ曰、吾人壽二萬歳ノ時ヨリコノ地ニ主タリ、彼老翁未我アルヲシラジ、吾ナンゾ是ヲ惜マン、今釋尊ニ獻ズ、佛法流布ノ山トスベシト、相約シテ東西ニ去ル、翁ハ白髭明神ナリ、當テ曰、吾湖水ノ七度變ジテ桑田トナルヲ見ルト云々、アヽ佛氏人壽ノ説百年ニ一年ニ減ズト云、神武ヨリ今ニ至リテ二千四百年ナレバ、二十四年ヲ減ズベシ、蓮如ノ文章ニ、今ハ八十歳ノ壽ト云、三百年ノ昔ナレバ、當時七十七歳ノ壽ナリ、然レバ神武受命ノ時ヲ以テ百歳ノ壽トスベシ、釋迦ノ來リシハコノ時ナランカ、又太古人壽二萬歳ノトキモ、日本ニ來リテ、比叡山ノ麓「ハト

ドノ」ニ留ルト云、此トキスデニ佛ヲ弘ムルノ心アリ、又天照大神ノ時ニモ、破旬ト佛法ヲ弘ルノ論アリ、釋氏始メテ悟ルニアラザルニ似タリ、又釋氏度々日本ニ來ルモヲカシ、釋迦八十歳ニテ死ス、二萬歳ノトキ來リタルハ誰ゾヤ、百歳ノ時來リタルハ誰ナラン、イハユル幽靈ナルベシ、春日ノ本地ヲ釋迦トス、日吉モ釋迦ナリ、春日龍神ノ謠曲ニハ昔ハ靈鷲山、今ハ春日ト云ヘバ入滅後ノコトナルベシ、是ヨリ遡テ人壽六千歳ハ、神武ヨリ六十萬年前ニシテ、二萬歳ハ二百萬年前ナリ、コノトキヨリスデニ佛法アリト雖、釋迦イマダ天竺ニ出生セズ、八千度ノ輪回ノ間也、コノ事知ラズンバ止ン、佛アルコトヲシラバ、永キ千萬年ノ間弘メ得ズシテ、多クノ人數ヲ極樂ヘ生ゼシメズ、漸ク二千七百年ノムカシ周ノ代ニナリテ、始メテ天竺ニテ法ヲヒロム、遅キ哉、又今七十七歳ノ壽ニシテ七千七百年ヲ經ルトキハ人壽一歳トナル、夭死ハ二三月、長壽ハ二三歳ニテ死スベシ、然バ世界ハ滅スベシ、何ゾ十歳以下ノ人ノミニテ天下ヲ治ムベケンヤ、八千年以後ハ如何ナルベキ、五十六億七千萬年ニシテ彌勒出生ノトキ、世界ニ人アランヤ、又佛ノイハユル三千大世界ノ廣キニ、ミナ佛法ヲ弘ントセバ、ツヒニハ及ブマジ、人畜及草木國土マデモ悉皆成佛トテ、アマサズ佛ニシテシマフ大慈大悲ノ心アリテ、スデニ粟散邊土ト云程ノ小サキ日本ニ、佛法ヲ弘メンガ爲ニ、二千萬年ノ昔ヨリ釋氏二度モ日本ニ來リ、又藥師ハ二千萬年ノ昔ヨリ、湖水ノ七度變ズルノ間、近江ノ國ニ存在スルヤウナルヲモ長キコトニテ、三千大千世界ノ廣キニ法ヲ弘ントハ、蟷螂ガ斧颪ノ昇天ナラズヤ、我ハ日本人ナレバ、吾國

ノコトノミニカクノ如ク苦勞ナサルヽハ辱ケレド、ソレニテハ日モ足ラザルベシ、ムベナル哉漢土日本ノ外、アマリ廣クハ弘マラザルナリ、然レドモ三千大世界ヲステヽ、カヽル小國ニ二千萬年ノ間留住スルト云モ、天魔破旬ノ語モ皆我國ノ佛者ドモノ自國ノコトノミヲ知リテ、口ヨリ出次第ニ云チラス故前後ノ辨ヘハナキナリ、カリソメニモ三千大世界十萬ノ衆生ナド、大言ヲ吐ト雖、唯一世界ニテ見ルベシ、漢土モ佛法アリト雖、聖學明カナル故ニ信ズル人少シ、西洋ハ耶蘇宗ニテ寄ツクコトナシ、他ノ國々漢土ノ屬國五七國ハ佛アルベシ、本源ノ天竺近國ハ衰微也、南蠻ノ島々ミナ西洋人往來シテ、耶蘇ヲ弘ムルナレバ、佛トモ法トモ知リタル國ナシ、今考フルニ、地球ノ内佛ノアル國々ハ、大テイ五十分ノ一ニモアルベカラズ、シカレバソノ餘國ハ極樂ヘ往クコト叶ハズ、皆地獄ニ落ベキカ、又ハ大慈大悲ノ廣德ニヨリテ、タトヒ佛ヲ頼ズトモ、善サヘスレバ極樂ニ救ヒトリ玉フヤイカンヲシラズ、シカレドモ淨土一向宗ノ說ニテハ何ホドノ善ヲナストモ、佛ヲ頼ザレバ救ハズト、アヽ私ナル哉、凡日本ニ神祠佛閣アル處ヘ付コミテ、サマ〳〵ノ說ヲナスハ、ミナ私ノ爲ニスルコトニテ云出ス也、又師練ガ元亨釋書ノ妄作モアルナリ、伊勢ノコトハ行基ノ附會多シ、湖水ノ說ハ最澄叡山ヲ開クヨリノ說ナリ、ミナ一地ヲヒラキ一刹ヲ建ルサマ〳〵ノ妄言ニシテ、人主宰相ヲ欺キ檀那トシテ建立スルモノニシテ、因緣虛妄ヲ以テ方便トシテ、一言ニテモ虛言ノ多ク信ゼラレタルヲ大知識トスルユヱニ、擧ツテ妄語ヲ吐ノミ、佛家ノ大知識ハ、聖人ノ所謂利口ノ邦家ヲ覆スモノナリ、コノ章ノ如キハ、取

上テ論ズルホドノコトニアラズ、サレド佛者ノ虚妄ノ一二ヲアゲテ、淫溺スル人ヲサトスノミ、太宰
風ナゾト誹ルコトナカレ

十九 釋氏ノ本意ハ本ヨリ善ヲセバ極樂ニ生ゼン、惡ヲセバ地獄ニ落ルト云テハ善ヲスヽメ惡ヲ止ル
ノ術ノミ、シカレバ、釋氏ノ徒タルモノ、コノ法ヲヨク守リテ善ヲスヽムベシ、然ルニ天竺ニテ龍樹・
天親・善導、漢土ニテ曇鸞・道綽、日本ニテ源信・源空コノ七人ヲ他力念佛ヲ弘メタル七高僧ト云、コレハ
身ヲコラシテ佛敎ヲ勸メテ修行スルヲ、自力難行ノ行者ト云テ、末代下根ノ衆生ハナシ難シ、タヾ諸
ノ雜行雜修自力ノ心ヲナゲステヽ、一心ニアミダ如來今度ノ後生助ケ玉ヘト信ズル輩ハ、タトヒ十惡
五逆ノ罪人、五障三從ノ女人タリトモ、吾助クベシト大悲願ヲ起シテ、アミダ佛トナリ玉ヘバ、疑ヒ
ナクナムアミダ佛ト唱フベシトスヽムルコトニテ、コレヲ他力易行ノ信心者トス、コレニテ極樂ヘ行
ルヽコトナレバ、イカサマ心易キコトナレドモ、元來釋迦ノ本意ハ善ヲスヽメ惡ヲ止ンガ爲ノ方便ニ、
假リニ設ケタルアミダニテ、モトヨリナキコトナレドモ、右ノ七高僧作リモノヲ實トシテ、善ヲ修ス
ルニモ及バズ、惡人・愚人・穢多ニテモアミダ助ケ玉ヘト歸命スレバ、佛深ク悅ビ玉ヒテ、忽チ八萬四
千ノ光明ヲ照シテ、其人ヲ其中ニヲサメ置玉ヒ、命終レバ即チ極樂淨土ヘ迎ヘ玉フ、コノ心ヲ經ニハ
「光明遍照十方世界、念佛衆生攝取不捨」トノ玉フナリト云、是則チ人ヲ殺シテ代官ヘカケコミ、助
ケ玉ヘト賴ム心ナリ、是ヲ助クル代官アレバ、公心ニアラズ私心ナリ、三千世界ノ仕置ヲ掌リ、一介

ノ私アリテ人化スベケンヤ、十惡五逆ノ罪人ニ賴マレテ、我ヲ賴ミタレバトテ、是ヲ罰スル心ナクシテ、極樂淨土蓮華ノ臺上ニ座セシメテ、萬善萬行ヲ修シタル人ト肩ヲナラベテ、末代ノ樂ヲ同ジクセシムルコトハ、イカナルコトゾヤ、婦人ノ仁姑息ノ愛、賞罰正シカラザルヲ知ルベシ、コノ他力信心ノコト、日本ニテハ源空主張ストイヘドモ、コレマデハ精進潔齋シテ、持戒不犯ノ淸僧也、其弟子親鸞又是ヲ增補シテ、食肉畜妻シテ淨土眞宗ヲヒロム（淨土宗ヨリ眞ノ字ヲ用ユルコトヲ留メ、訴訟シテ公裁ニ及ブトイヘドモ、古來云來リタレバトテ、此論果サズ、故ニ一向一心ニ佛ヲ信ズル義ヲ以テ、一向宗トスレドモ、其本名ニアラズ）本朝ノ僧尼タルモノハ、コレマデハミナ持戒スルニ、親鸞始メテ俗中ニ入リ、ソノ宗徒ノ僧、ミナ今ニ至リテ肉食妻帶シテ顧リミズ、邦俗忌日命日年忌法事等ニ、位牌ヲ立テ饌ヲ供スルコト、天子ヨリ庶人ニ至ル、位牌ハ神主ナリ、コレ往古ヨリノ祭祀ノ遺風ト云ベシ、又在スガ如キノ遺風アリシニ、ツヒニハ位牌ヲ用ヒズ、墓碑モナク、祠堂ニハ阿彌陀一佛ヲ祭リテ、菜菓ノ供物モナク、唯一盂ノモリキリ飯ノミヲ阿彌陀ニ奉ジ、加フルニ小餠ヲ盛ル、コレハ貧者ノ爲ニ設ケタル法ナルベシ、王公貴人ノスルコトニアラズ、中ニモ親鸞ノ始メシコトモアレドモ、七月ノ精靈會モヤメ、イヨ〱マス〱甚ダシクシタルハ、八代蓮如ノ所爲ナリ、大テイ此宗旨ハ王公ハ少シ、庶人多シ、ソレユヱノコトカ、又日蓮ハ親鸞ニ後ル、曰、釋迦ハ八十年ノ說法ハミナ方便ニシテ、其血脈ハ法華經ニ止ルト詈リ、南無妙法蓮華經ト題目ヲ唱ヘテ、「念佛無間、禪天魔」ト云出ス、カクノ如ク各々思ヒ思ヒニ、イロ〱サマ〲ノコトヲ云出シテ、末々ハイカナル法ヲ始ムルモシレザリシニ、當時ハ新

宗ヲヒロムル事停止セラル幸ト云ベシ、コレマデアリ來ルモノ八宗九宗ト云、拾芥抄ニイハユル八宗ハ、律・倶舍・成實・法相・三論・眞言・天台・華嚴ナリ、今ニ存在スルモノハ、律・眞言・天台・法相・禪ト、其餘新作ノ僞佛法・淨土・一向・法華ナリ、耶蘇宗ノ騷動ヨリ、天下ノ戶數ヲ擧テ佛寺ニヨセ、人別ニミナ宗旨ヲ檢ス、ユヱニ每戶コレヲ立ザレバ、天下ノ人籍ニ入ラズ、今ハ八宗互ニ爭ヒ、士庶モ亦シカリ、ミナ妄中ノ妄、虛中ノ虛ニシテ、夢中ニ夢ヲ說ナリ、天下ニオイテ何ノ益ゾヤ、然ドモ耶蘇ノ難ニコリテ、官トイヘドモコノ八宗ヲ信ズルコトハ意ニ任セデ、ソレ〳〵寺僧ニ命ジテ、耶蘇ヲ監禁スルノ吏トス、ユヱニ諸寺ノ僧ドモ佛ノ威光ヲ用テ天下ノ戶籍ニ入ヤウニ思ヒテ、俗中ニ誇ル惡ムベシ、ソノ中ニ一向宗ノコトハ、スデニ三河ニオイテ一揆アリテ、譜代恩顧ノ人々スラ、御敵ニナリタルホドノコトナリ、ソノ外北國ニテモ一揆アリ、大阪ノ本願寺ノコトハ、アマネク諸人知ルコトナリ、ソノ他高野・根來ノ爭戰・叡山・奈良・吉野ノ衆徒ノ驕暴ナド、歷代ニサマ〳〵ノコトアリ、願ハクバソレ〳〵ニ威ヲケヅリ衰ヘサスベシ、是ヲ塞グハ皆王公ノ學文ニアリ、天下文明ニナリテ佛氏ノ欺妄アザヤカナラバ、自然トオヒ〳〵衰フベシ、坐中ミナ君子ナラバ、小人ヲル處ナカルベシ（邦俗七月ニハ、生靈會ト云テ先祖ヲ祭ルハ、冬至ニ始祖ヲ祭ル遺風ナリシニ、親鸞ノ宗ハコレヲモ止メテナサズ、コレヨリ祭祀ノ風又一變セリ）（念佛シテモ、百善ヲ修シテモ、上ルベキ極樂ナシ、惡行ヲナシテモ、佛ヲソシリテモ、落ツベキ地獄ナシ、日蓮ノ念佛無間オツベカラズ、法然ノ一枚起請ニ念佛シテ極樂ヘ往ザレバ、ワレ地獄ニ落ベシトイフモ、念佛シテモ往ベキ極樂ナシ、間チガフテモ落ツベキ地獄ナシ、死シタルノチノコトナレバ、ウケ合テモネダラルヽ氣ヅカヒナシ、室先生コレヲ辨ズ、ミナ妄中ノ妄、虛中ノ虛、カヽル虛妄ヲ云テ王公ノ祭ヲ受ンヨリハ、慢ニ譎キテ素飡スベシ）

二十 釋氏ノ本意ハ善ヲスヽムルコトニアリテ、ツヒニ其ツヒヘ十惡五逆ノ罪人ニテモ、賴メバ助ケ

ント云フトキハ根元ヲ失フ、五逆ハ殊ニ天下ノ罪人ニテ、人々得テ是ヲ誅ス、阿彌陀ニ限リテコレヲ助ク、善ヲスヽムルノ意ハ何クニカアル、然ルニ孔子ノ流ト雖、楊子ノ己ガ爲ニシ、墨子ノ兼愛スルニ至ルユヱニ、術ツヽシマズンバアルベカラズ、アミダノ悲願ヲ釋迦ノ說タル通リニテハ、彌陀ヲ賴マズトモ、善ヲスレバ極樂ニ生レ、惡ヲスレバ地獄ニ落ベシ、ヨキカナ唐ノ李舟妹ニ與フル書ニ云、天堂（天道ハ卽極樂ナリ）ナケレバ則止ン、有ラバ則君子登ラン、地獄無レバ則止ン、有バ則小人入ラント、コノ理ヨク釋迦ノ本意ニ叶フベシ、然ルニ五逆ノ惡人ニテモ、吾ヲ賴マバ極樂ヘヤラントハ私ナラズヤ

廿一　釋氏五戒ヲ以テ五常ニ配ス、ソノ他漢ニテ儒ニ合セ、日本ニテ神ニ合ス、スベテ天下ノ大道ト云モノハ、天下一人モ殘ラズ、敎ヲ信ジテコレヲ守ルトキハ、弊ナキモノヲ最トスベシ、漢ニ儒ト云モノナシ、日本ニ神道ト云モノナシ、聖人ノ道ハ天下國家ヲ治ムルノ道ニシテ、別ニ儒道ト號クルコトナシ、人ハ萬物ノ靈ニシテ禽獸ト異ナリ、今ニテモアレ萬國中ニハ人ノ人タル道モナクシテ、禽獸ニ近キ俗モアルナリ、上古ハ漢土トテモ、カヽルモノナリシニ、三皇五帝三王ノ聖神、カハル〲ニ出テ敎導アリシユヱニ世ハ治リ、忠孝仁義ノ道モ立シナリ、故ニ人々其親ヲ親トシ、其長ヲ長トス、スデニ堯舜ノ世ニハ、比屋封ズルニ至ルナリ、今ニテモ聖人出テ敎ヲ施シ、天下ノ人ミナ五常ヲ守リタラバ、篤恭シテ天下太平ナルベシ、佛氏ノ敎ヘヲ守リテ、天下ノ人ミナ僧トナリ五戒ヲタモツ時ハ、君臣父子夫婦ノ道ナクシテ、其終リ天下ノ人類ナカルベシ、天下ノ人ミナ僧トナラズ、五戒ヲタモタ

ザルハ幸ナランカ、堯舜ノ世佛教ナクシテ一人ノ惡人ナク、成康ノ世佛教ナクシテ刑オイチ用ヒズ、天下帥ルニ仁ヲ以テスレバ、佛ナクトモ惡ハセマジキナリ、然レバ何ノ不足アリテカ佛法ヲ弘メン（タトヒ大善ヲ修シ王公ニ生ルベキ果報アリトモ、王公タル人五戒ヲ持シテ、夫婦ノ道ナケレバ、何ニヨリテ王公ノ家ニ生レン、婚事ヲオカサズシテ人ノ生ズルコトナシ、生ズトセバ父ノ子ニアラズ）聖人ノ道ハ天下ノ人ミナ聖人トナリテ弊ナシ、佛ノ教ハ天下ノ人ミナ佛トナラバ、人種ハ盡ベシ、海中湖水ニ魚介充滿シ、山林ニ禽獸跡ヲマジヘ、父子君臣ナク治法タヽズ、惡人アリテモ殺スコトナク、夫婦ナケレバ子モ生ゼズ、百年ノ間ニハ人類タエテ、天下滅スベシ、然バ人ハミナ五戒ヲ持チ、佛トナリテ極樂ニ生ジ、死ツクシテ生ルコトナク、禽獸魚虫ノミトナルベシ。釋氏ノ法ハ天下ヲ滅スルノ法ナリ、幸ニ天下ノ人不レ殘是ヲ信ゼズ、故ニ滅セザルコトヲ得タリ

廿二 或日、家弟ノ忌日ニ遇テ、僧ヲ請ジ讀經セシム、觀經ヲヨムノ久シキ、後座ニアリテ默然タリ、ツラ〳〵思フニ、此經ト云モノハ、釋氏ノ語ニシテ弟子ノ聞書ナリ、孔門ノ弟子ノ論語ヲ集タルト同ジコトナリ、唯ソノ語ニ虛實眞僞ノ異アルノミ、愚者ノ傍ニテ論孟ヲ轉讀ストモ、ソノ人智者トナルベカラズ、又是マデ作リタル罪ハ滅スベカラズ、佛經ヲバヨムトモ其功德何ゾアラン、スベテ祭リニハ祭文ヲヨミ、樂ヲ張リテ其靈ヲ慰シ、其恩ヲ報ズルノミナルニ、佛法興リテ、此經ヲ以テ祭文ニカヘ樂ニカヘ、唯汗水ニナリテ讀經ス、其靈何ゾ慰スベキ、シカルニ其經ヲヨミテ、其靈ヲ極樂ニ至ラセ、又施主ノ人モ佛果ヲ得ントス、利欲甚ダシト云ベシ、中ニモ念佛宗ニオケル南無阿彌陀佛ト一念

ニタノム時ハ、彌陀忽チ光明ヲ放チテ、其人ヲ攝取シテ捨ズ、然レバコノ賴ム一念ノ時、スデニ其身ハ佛ノ仲間ヘ入テ極樂ノ人別帳ニ入タルナレバ、其上ノ稱名念佛ハ如來吾往生ヲ定メ玉ヒシ報恩報謝ノ爲ニ念佛スベキモノナリト、蓮如ノ勸メニアルナレバ、最早念佛者ハ此世ニ在ナガラ佛トナリタリ、然バ死ルヤ否ヤ忽ニ極樂ヘ往生スベケレバ、其子孫ニテハ佳節忌日ニアハバ供物ニテモ奉ジ、樂ヲスヽムルカ、又ハ其人ノ喜ブベキコトヲナシテ、其靈ヲ慰スベキニ、イツノ程ニカ、曩ニ佛ヲタノミテ、生ナガラ佛ニナリタルヲ忘失シテ、未ダ極樂ヘモ往得ズシテ、中有ニ迷ヒ居ルナラント疑ヒテ、ソノ上ニモ、僧ヲ請ジテ作善追善ヲナシテ讀經サセ、其功德ヲ以テ極樂ヘヤラントス、逆ヲシテ死タルモノハカクモスベシ、平生ニ佛ヲ信ジタル父母ナレバ、極樂ヘ往生シタルコトハ決定也、又疑フナ〳〵ト蓮如モ丁寧反覆シテ勸メタレバ、是ヲ信ズルモノハ、尙サラニモ疑フマジキコトナルニ、カクノ如クニシテ、又其僧モ佛事ヲナシテ追善セヨト云テ、錢ヲ奪フコトナレドモ、其施主モ父母ハ御蔭ニテ成佛セリ、然バ追善ニモ及ブマジト云バ、其僧イカヾ答ヘン、本ヨリ天竺ノ貝多羅ノ文字ニテ書タルモノナルヲ、唐ノ三藏ナル者天竺ニ渡リテ、取リ來リ翻譯スル處ニシテ、初テ漢土ニ弘ム、ソレマデハ佛法ハ後漢ノ時ヨリアリト雖、翻譯シタルハ唐ノ代ナリ、凡譯ニ義解アリ、直解アリ、大テイ地名人名及ソレ〳〵ノ名アルモノハ直解ニシテ、音ニ應ジテ字ヲ入ルル、其餘ハ義解ナリ、コレハ義理ヲ以テ譯スルナリ、タトヘバ梵語ニ摩迦ハ大ナリ、大如車輪諸大弟子ノ大ハ、コレ義解也、摩迦訶葉摩迦倶知

羅ノ摩迦ハ、直音也、音ニテ讀誦スル時ハ、人名地名ノゴトク義理ナキモノ、摩迦目揵連・摩珂迦葉・摩珂仙稔・摩珂倶知羅、皆人名ニテ佛弟子ナレバ、釋氏是ヲ聞テ、我弟子四人ナルヿ分明也、大如車輪諸大弟子ノ如ニ回シムルトキ大ト訓ズル時ハ、釋氏モ何ノヿカシルベカラズ、又此經ヲ漢土ニテ翻譯シタルマヽニ日本ヘ渡リタレバ、之ヲヨムニ、唐音ニテ東京江明清ノルイ和音ニテハ東京江明清ト云、三藏羅什ニキカシムルトモ分ルベカラズ、今又祭ラルル處ノ鬼ハ尚更知ラザレバ、何ノ爲ニ經ヲヨムヤ、其意ヲシラザル也、俗間ニ知レタルコトヲ云人ヲ、釋迦ニ經文トイヘドモ、釋迦ノ前ニ經ヲヨムコトモ、釋迦モ御存ジナカルベシ、古ヘヨリ佛者サマ〳〵佛ノ靈驗不測ヲ稱スト雖、實ニ靈アラバ、カヽル間違ヒタル祭ハ受ベカラズ、況ヤ存在ニシテ後ニ座シテ聞者サヘ分ラザルモノヲヤ、斯ノゴトク作者モシラザルナリ、翻譯者モシラザル也、靈鬼モ祭主モヨム僧モワカラネバ、無用ノ讀經ナラズヤ、神ノ格ハカルベカラズ、靈アレバ受ベカラズ、靈ナケレバ無益ノ讀經ナリ、然ルニ儒者ノ神ヲ祭ルヤ靈前ニオイテ其靈ヲ慰センガ爲ニ、カヤウ〳〵ノコトナルユヱ、今日ノ供物ヲソナヘテ神靈ヲ祭ル、希クハ受玉ヘトノ祭文ヲヨミテ、生者ニ云ト同ジコトニテ、靈モヨク受ベシ、然ルニ有無ノ論ナク、靈前ニテ四書五經ヲ讀ダリトモ、何ノ益カアラン、佛者經ニハモロ〳〵ノ功德アリト言ル、コレヲヨムハ、地獄ニアル處ノモノモ極樂ニ生ルナリト、汗水ヲ流シテ經ヲヨミテ、ソノ靈ノ倦厭フモシラズ、然バ則經ヲ讀デ何ノ益ゾヤ、只今日ノ渡世ノ爲ニ經ヲヨミテ、錢ヲトルコトハ尤ナリト雖、イタマシ

キハセザレバ叶ハズト心得テ、毎朝七ツニオキ讀經スル老僧アリ、釋迦モ祖師モ在世ノ間ダ、多ク誦ヲツキタレバ、今程ハ地獄ニテ舌ヲヌカレテ居ラルヽナラント、ヲボツカナク、且我報恩ノ爲ニ誦經シテ、コレヲ救ハントスルヤ、何レニモ佛ニ向ヒテ經ヲヨムハ、釋奠ノ日ニ孔聖及十哲ノ靈前ニテ、論語ヲ讀ガ如キカ、履軒先生曰ク、弟子各法ヲトク時ハ、開覺タルコトニモ、各ノ異見マジリテ純一ナラズ、人々異ニシテ佛意ヲ失フニ至ルベシ、コレヲ恐レテ衆ヲアツメテ、タヾ聞書ヲ讀デ聞スナリ、貝多ノ文ハ假名文ノ如ニテ、俗人婦女ノ耳ヘモヨク通ズ、故ニ直ニ佛ノ說法ヲ聞ガ如ク涙ヲ流ス、ソノ儀佛像ヲ背ニシテ高座ニ上リ、佛ノ名代ニテ說也、聽衆ニ隨喜ノ信心ヲ發セシムルヲ以テ功德トスル也、南北朝ノ比ヨリ講經ト云フコト始マル、コレハ翻譯ノ經ユヱ、直ニ俗ノ耳ヘ入ラヌユヱ、和訓シテ辯ヲ振フナリ、今ノ講釋ノヤウナルコト也、厩戸太子ノ講經モ、カヽルモノナルベシ、必聽衆ヲ聚メテスルコト也、一人佛像ニムカヒテヨムコトナシ、大般若轉讀ト云ルイハ後ノヿナレドモ、天竺ニテハ右ノ儀ナルベシ、ソレヲコノ邦ニテ學ブハ淺マシキコト也、ワケモナク聲ヲアゲテヨムハ、何ノコトヤランシレヌモノ也、又ソレヨリ後佛像ニ向ヒテヨムヤウニナリタルハ、イツノ比ヨリカシラズ、厭勝ノ印ヲ結ブト同事ニ思ヒケラシ、サナクバ佛像ニ經ヲヨミテ聞スハ、イカナル者ノ始メタルコトゾ、漢土ニハ今ニテモナカルベシ、俗僧ノ錢ヲ貪ルヨリ出タルコトナルベシ、一向論ニ及バザル事ナリ、今毎朝木魚ヲ叩キ讀經スル寺多シ、何故ゾト問ヘバ讀經勤行モ錢ガホシサニスルコト也、木魚ノ

聲アラザレバ、勤行スルヤラセヌヤラ、俗人ガシラヌ故ナリト云リ、一笑スベシ

廿三 五戒ハイハユル殺生・偸盗・邪婬・妄語・飲酒ナリ、殺生ハ天竺暖國ニテ、魚肉獸肉ヲ貯フコトナラザル故ニ、生ナガラ殺シ食ス、今日本ノ鰻・鰌・鯉・鼈ヲ食スルガゴトシ、故ニ手ヅカラ殺スヲ以テ戒ム也、然ルニスベテ五戒ニモ二アリ、僧戒・俗戒也、然ドモ佛敎ニハ先ヅハ僧ノ五戒ヲ立ルナリ、然レバ殺生トバカリ戒ルハ、殺スコトノミニテ、肉食ヲ禁ゼザルヤウニナル也、是ハ俗ニハ殺生ヲ禁ジテ、僧ニハ肉食ヲ戒ムルナリ、偸盗ハ勿論僧俗ノ別ナシ、邪婬ヲ禁ズルハ俗ノコト也、正婬ハ戒ルコトナシ、然ルニ男色ハ邪ナリ、僧ハ邪正ニカヽハラズ、スベテ女犯ヲ戒ム、サテ妄語トサスモノハ、饒舌・誣罔人ノ害ヲナスモノニテ、人家婦女ニハ別シテ多シ、佛者ノ虛言ハ人ヲ曉諭スルノ功用方便ト自ラ許シテ、曾テ妄語トハセズ、儒者モ幼子ハ「常視ㇾ勿ㇾ誑」ト云ト雖、「カモ〳〵」ト云テオドスコトハシヒテ禁ゼズ、又「降水警ㇾ予」、文王在ニ帝左右一」、天之明威」ナドハ方便ノヤウナリ、妄語ノヤウナリ、佛ノ方便ハアマリ僞妄甚シ、天竺ニテ釋迦ノ立タル方便ハ、和漢ノ僧徒ノ如キニハアラジ、唯惡ムベキハ和漢ノ僧ニテ、空海・小角・最澄・法然・親鸞・日蓮・蓮如ノ輩ハ別シテ憎ムベシ、飲酒ノコトハ僧俗共ニ戒ムルコトナレドモ、釋迦ノ時分ニハ無キコトナラン、然ドモ佛弟ノ飲酒戒ヲ破リタルコトアレバ、此時ヨリアルナルベシ、何レニモ亂ニ及ブモノナレバ、戒ムベキ也、斯ノ如ク五戒ヲ立ルト雖、其五戒ノ根元ヨリ釋迦ノ說タル、經々一トシテ妄語ナラザルハナシ、後世ノ佛者タルモノ其師ニ倣、一言ニ

テモ虚妄奇怪ヲ云コトノ多キホド、大知識知識ト稱シテ尊敬ス、師練ガ元亨釋書ヲ作ル一事一傳ミナ妄語也、ソノ妄語ヲ方便ト號シ、又五戒ノ一ツトス、ソノ可ヲシラザル也、自ラ令シ自ラ犯シテ、釋迦ヲ始メ諸宗ノ開山高僧ノ輩ハ、ミナ地獄ニ往テ鐵ノ鋏ヲ以テ舌ヲヌカルベキモノナリ、或人ノ句ニ、「謊(ウソ)ツクト舌ヌカルヽト謊ヲツキ」ト云句アリ、ヨキ作ト云ベシ、五井先生曰、老子ノ五千言奇ナラザルニアラザルナリ、コレヲ要スルニ用ユベカラズ、佛氏ノ五千函妙ナラザルニ非ザル也、コレヲ要スルニ行フベカラズ、唯孝弟ヲ説仁義ヲトク、天地ヲ極メテ易ルコトナシト、萬古ノ確言ト云ベシ、又曰、浮屠氏因果ヲ以テ人ヲ導ク、隱タルヲ索ルニアラズヤ、人倫ヲ去リテ苦行ス、怪シキコトヲ行フニアラザルカト、今世間ニ奉崇スル弘法行者、尤ソノ甚シキニアラズヤ、ソノ餘ノ佛者ミナコノ隱怪ヲバ免レザルナリ、日蓮鎌倉ニオイテ戮ニツク、建長寺ノ和尚ヲ頼ミ、命ヲ乞テコレヲ許サル、其謝禮狀今ニ存ス、用足ラザルトキハ、コノ書ヲ出シテ人ニ弘メントス、(イハユル開帳ナリ)彼徒ヨリ金銀ヲ出シテワブト、然ルニ日蓮宗ノ云ニ、龍ノ口ノ御難ト云、ソノ語ニフリ上タル刀折レタリト書リ、(コレ經ニハ「刀刄段々壞」ト云)今人口ニ膾炙スミナ此類ニシテ、ソレ〳〵佛者ノ奇妙不思議ト云コト推テシルベシ、親鸞ナドハ口ニハ正法ニ不思議ナシト云テコレヲ排スト雖、燒栗芽ヲ出ストイヒ、梅ヲ八ツ束ネテ植テ八房ノ實ノリタリト云、河ヲ隔テ筆ヲ投ジ、名號ヲ書シト云ノルイニテ、妄語妄行至ラザル處ナシ、コレヲ佛家ニテ、方便ト云テユルス

廿四　壬生ノ空也狂言ヨリ引入レテ、佛ニ皈セシメン爲、狂言舞ヲ作リテコレヲナサシム、其曲ヲ見ルニ、淫媟戯慢云ベカラズ、猥ニ佛ニ引入ンガ爲ニ、淫風ヲ興スコトアルベカラザルコト也、セメテ戯ルヽトモ、今ノ能狂言ノゴトク、淫亂ノコト無ンバシカラン、數百年ノ古式ナルユヱ、官ヨリモ捨オカレテ、其樂人ニ帶刀サセオカルヽコト寛ト云ベシ

廿五　馬子佛ヲ信ジ寺ヲ建テ、阿彌陀ヲ安置ス、守屋勝海コレヲ奏シテ寺ヲ毀チ、佛像ヲ難波ノ堀江ニスツ、後世信濃ノ人本田善光ト云モノ江邊ヲ行シニ、江中ヨリ善光々々ト呼デ光明ヲ放ツ、善光コレヲ見レバ佛ナリ、負テ本國ニ皈リ寺ヲ建テ安置ス、善光寺是ナリ、佛曰、晝ハ善光吾ヲ負ヒ夜ハ吾善光ヲ負ト、然ルニ一寸八分ノ身ニテ、善光ヲ負ホドノ神通力アラバ、ナンゾ人ヲ頼マズトモ、江ヨリ獨飛上ラザルヤ、何故ニ善光ヲ頼ミテ上リタルヤ、木佛ニ舌ナシ、何ヲ以テカモノ言ハン、又足アルトモ甲爪ノミ何ヲ以テカ歩セン、手アリテモ動カズ、何ヲ以テカ負ハン、此時カヽル通力アラバ、今モアルベシ、ミナ是佛者ノ虚説ナルコトヲシルベシ、又本田氏ニシテ立葵ノ紋ヲツクルコト不審ナリ、コレハ本田ノ名字ニヨリテ、立葵ヲ紋ニ付來リシヨリ思ヒ付タル也、今ノ本多氏ハ藤原ノ枝族ナリ、混ズベカラズ、奥羽志ニ曰、有也無也ノ關ニ鬼アリテ人ヲトル、地藏コレヲ悲シミ、烏トナリテ梢ニ止マリ居テ、旅人ヲ見テ鬼アレバ有也トナキ、無レバ無也トナク、ユヱニ有也無也ノ關ト云ト、此地藏烏ト化スル通力アラバ、ナンゾ鐘馗ト化シテ鬼ヲ殺サヾルヤ、何ガ故ニ日々ニ梢上ニ來リテナク

ヤ、衆生濟度ノ爲イソガシキ身トシテ、カヽル隙ヲ費シテハ、日モ亦足ラザルベシ、ソノ餘永觀堂ノ佛ハ永觀遲シト見返リ、法然ノ畫像足ヲヒク、又信心者ノ身代リトナリテ斬ラレタル佛所々ニ多シ、信心者ニ化シテ賤賊ニ殺サレンヨリハ、ムシロ朝比奈・辨慶ト化シテ賊ヲ殺サバ、其一人ニ限ラズ、諸人ヲ救フベシ、佛ノ仁ハ一人ニアリテ、衆ニアラズ小ト云ベシ、スベテ諸寺ノ緣起奇妙不思議ヲ云、皆ウソ也

廿六　朱子曰、「佛氏出、而善惡之名差了」ト、守屋ノ穴穗ヲ立ント云フハ、順ニシテ例アリ、馬子ノ推古ヲ立ント云フハ、逆ニシテ例ナシ、盜跖ハ孔子ヲ以テ僞リトシ、蘇黨ハ程子ヲ奸トス、李摧ハ董卓ヲ忠トシ、田承嗣ハ安祿山ヲ聖ト云フ、馬子ヲ善トシ、守屋ヲ惡トシ、釋迦自カラ天上天下唯我獨尊ト云フ、後世ヨリ大聖世尊ト云フ、厩戸ヲ以テ聖德ト謚號シ、（厩戸太子逆臣馬子ニ向ヒテ、聖人ニ遠カラズト云フ、ニ阿諛甚シ、是レヲ以テ太子ノ奸ナシルベシ）ソノ他宗祖ヲ菩薩大師トス、ミナ天下ノ爲メニ害ヲノコスモノニシテ後世尊崇セラルヽコト、イカナルコトゾヤ、コレヲ善惡ノ名差了ト云フ、履軒先生曰、聖人ノ敎ヘニモ方便無キニモアラズ、シカレドモ、佛ノ如ク害ナクシテ利アリ、其ノ天ヲサスモノハ、聖人ノ天モ佛ノ天モ、（佛ノ敎モ善ナスルモノハ天堂ニ生レ惡ナスルモノハ地獄ニ墮スト云、漢土ニテ翻譯ノ時西方極樂ト云カヘタルナリ、釋迦ノ敎ハ西ニアラズ、天ナリ）耶蘇ノ天モ、（コノ敎ノコトハシラザレドモ、善ナスモノハ天ニ生ルヽト云ヨシナリ）皆同ジコトナレドモ、聖人ノ天ハ害ナシ、佛ト耶蘇ノ天ハ害アリ、聖人ノ敎ハ「洚水警レ予」「文王在レ天」「天聰明」「疇天」「天命レ之」、ソノ外天トサスコト多シ、大成スル處ハ、孟子天命ヲサシテ行事トシ、又解シテ謳歌訟獄ノ歸スル處トス、コレ諸善ヲ兼ツクシテ一點ノ私ナキ功驗ナリ、天下ノ人ミナ推テ隨從ス、コレヲ

天ト云也、己ガ心ヲ盡シテスベキカタ無ヲ命ト云、ミナニレ己一人ノ善ヲツクス功也、其外ニ善アルニアラズ、佛氏ノ天モ同ジ天ナリ、阿ミダ・觀音ソノ他ノ佛ハミナ善人ニテ、慈恵ノミ賞罰スルニアラズ、罪人ヲ地獄ヘヤルコトハ天帝ノ命ニシテ、天官コレヲ掌ル、十王モ天帝ノ臣ナリ、道家佛者ノ說ミナコレ也、ソノ罪人ノ中ニカネテ功德ヲナシタルモノアレバ、天官ニコトワリテコレヲ引導ス、コレ佛菩薩ノ役ナリ、故ニ佛ハ慈悲アルノミ、刑罰ナシ、天官ハ刑名ニテカタメタルモノナリ、天帝ノ役所ニ世界中ノ人々ノ善惡ヲシルシタル帳面アリトス、人ノミニアラズ、禽獸魚蟲モ皆シカリ、大テイニ家ノ說亦同ジ、然ルニソノ善ヲナスモノ、鳥獸魚蟲ノ命ヲ救フヲ善トス、父母妻子ニ遠離スルヲ善トス、先祖代々ノ業ヲ捨家ヲ捨、家ヲ捨テ身ヲ捨ルヲ善トス、醜類惡物ニ米錢ヲ施スヲ善トス、建塔飯レ僧ヲ善トス、惡逆罪人ノ死ヲ贖フヲ善トス、又殺生ヲ惡トス、布施ヲ好マザルヲ惡トス、壞レ寺誅レ僧ヲ惡トス、譏レ佛議レ經ヲ惡トス、王命ヲ奉リテ謀反ノ徒ヲ討テ、人ヲ多ク殺シタルヲ惡トス、其反逆人ヲスクフタルヲ善トス不レ肯レ赦二罪人一ヲ惡トス、コレ程子ノイハユル善惡名差了ナリ、後世ノ佛者佛法興立ノ恩ヲ戴キ、吾儕カク安穩榮耀ナルハ太子ノ蔭也ト云テ、無上ニ譬テ太子ヲ尊崇シ、其惡ヲシラズ、當時ノ誤解ヲ立通シテ居ル也、是ヲ實ト思フ人ハ迷ヒ也、佛法興立ニツイテハ、馬子ハ本也、太子ハ末也、後代僧ノ崇尊スベキハ馬子ナレド、彼ハ弑逆ノコトアリ、其子孫モ暴惡ニテ滅ビタリ、佛者モサスガソノ惡ヲシリテヤ、尊敬スルコトナシ、天王寺ノ傍ニ愛染堂アリテ、元ハ馬子ノ祠廟ナリト云、世人馬子ヲニクミテ參詣スルコトナク、賽錢モ

ナケレバ、中古ノ奸僧密ニ本尊ヲ改メ、馬子ノ像ヲ去テ愛染トス、コレヨリ參詣人多ク繁昌ストナリ、シカレバ馬子ノ惡ハ佛者モ世人モ暗ニ知テ居ル也、太子ノ奸惡ハ佞智ヲ以テ陰ニナリテ、陽ニ佛法ヲ弘メケリ、入組タルワケアレバ、世人ハ知ラヌ筈也、佛者中ニハ疑ヲ起スモノモアランナレド、忌テイハズ、ユヱニスベテ崇尊スルコトニナリタリ、元來太子ハ惡逆ノ謀首也、推古馬子ヲ蔭ヨリツカヒタル也、惡ムベシ憎ムベシ、後世數萬ノ寺塔ヲ立ナラベタルハ、ミナ太子ノ遺害也、其元ノ起リハ釋迦ナリト雖、釋迦モ不仁ノ意ハナク、唯慈悲ヲ以テ立タルコトナレドモ、天竺ノ風俗ニテ、虛言方便ハ云次第ト說タルコトニテ、釋迦ノシリタルニモアラズ、釋迦ハ樹下一宿ノ乞食ナリ、ミナ後世ノ和漢ノ佛者、尾鰭ヲ付テ修飾シタル也、又太子ノ時佛法ハ息災延命・國家安穩ヲバイノル也、コレモ釋迦ノシリタルコトニアラズ、コノ國ヘハ最初ハ佛法ノ糟ノ粕ガ渡リタル也、此時ハ現世ノ福ヲ祈ルヲ主トス、百濟王ノ表ニテ知ルベシ、後世往生ノ說ニ欺カレタルニモアラズ、イハユル佛法中ノ異端外道也、眞言・禪ハ佛法中ノ異端ナリ、役ノ行者・日蓮ハ佛ノ所謂外道也、釋迦再來セバ、外道ナリトテ排斥セラルベシ、然ドモ後世カクノ如クナリタルハ、其根本ハ釋迦ノ不仁ナリ、日本ニテハ太子馬子ノ不仁ナリ、ヨク考ヘテ欺ルヽコトナカレ

廿七　東涯ノ幼子死ス、門人數輩棺前ニ侍ス、時ニ天台ノ沙門來リ弔ヒ、禮ヲハリテ門人ニ向ヒテ曰、カヽル哀哭ノ時ハ無常輪回ノ道モ、諸君可トセザルコトヲ得ンヤト、門人ミナ言ナシ、木村源之進答

テ曰、イカサマカヽル時ニハ、魔道ニモ引入ラレソウニ侍ルト、沙門默シテ去ルト、憎ムベシ、釋氏ノ術ヤ、輪回ノ説アルニ違ヒナクバ、ナンゾカヽル哀哭ノトキヲ待ン、無キ時ハカヽル哀哭ノ時タリトモ、只哀哭スルノミ、ナンゾ無用ノ輪回ヲ話セン、シカルニ中人以下學問ノ至ラザル人ハ、コヽニ於テ哀ニ陷リテ、若ヤ有時ハト迷ヲ起ス也、木村ノ所レ謂魔道ヘ引入ラルヽ也、故ニ多クカヽル處ヘ付込デ無常ヲスヽメ、信ナキ人モ迷ハシム、沙門ソノ如ク心得テ、カヽル豪雄ノ中ニ於テ無益ノ言ヲ吐テ辱メラルヽ、コレ所ヲシラズシテ説クモノ也、然ルニ答ヘモ亦面白シ、當時佛ヲ信ズルコトハ公トナリシユヱ、僧タルモノ公然トシテスヽムルユヱ、同ジクハコレヲ爭ヒツノルコトヲセズ、故ニ尙更ニカクノゴトシ、又内藤氏ナル人熱病ニテ死ス、譫語妄見アリ、二人ノ僧病床ニ侍ス、出テ人ニ語リテ曰、痛マシキカナ内藤氏ノ臨終ヤ、ソノ云處ミナ罪狀ニシテ、ソノ見ル處皆惡鬼也ト、キクモノミナ彼ニ隱惡アリトス、シカルニ此人平日正直ニシテ敬信アリ、スベテ發狂ノ病ヲ得ル人ハ、多クハ篤實ノ士ナリ、然ルニカヽル惡名ヲ蒙ル、必病床ヘ僧尼ヲ近ヅクベカラズ、又俗人トイヘドモ、佛信者ハ無用タルベシ、コレ平生ノ心得ナラン、閑際筆記ニ出ス

廿八　佛氏ノ害至ラザル處ナシト雖、耶蘇宗ヨリ見レバ、人氣ヲ奪ハルヽノミニシテ、國ヲ奪ルヽホドニ至ラズ、コレヲ見レバヤソヲ禁ジテ佛ヲ立オカレ、佛ヲ以テヤソヲ防ガセラルヽハ、所謂火ヲ以テ火ヲ消スノ類ナレバ、コレモ又神祖ノ御慮ナリ、然ルニ後世イヨ〳〵サカンニナル時ハ、是モマタ

消ズンバアルベカラズ、平ノ清盛ノ保元平治ノ功ヲミルベシ、此ニ火ハ消ルト雖、又ソノ功ヲ得タル火ノサカンナル時ハ、又外ノ火ヲ以テ消ベキナリ、頼朝スデニ其次ノ火トナリテ、平家ノ火ヲ消ト雖、竟ニ又此火燼トナリテ、イカントモスベカラズ、易ニ曰、「大貞凶、小貞吉」ト、コノ火大貞ニテ消サントセバ凶ヲ招クベシ、シカジ小貞ヲ以テユルガセニ消ンニハ、「ローマ」人曰、（采覽異言）天下ノ敎法三ツ、曰「キリステン」曰「ヘイテン」、曰「マゴメテン」（「マゴメテン」又回回敎トモ云、又「モール」敎ト云）ソノ「キリステン」ハ耶蘇宗是也、「マゴメテン」ハモール宗ニテ、今亞細亞「トルコ」「アブリカ」ノ諸國コレヲ信ズルモノ多シ、今スデニオトロフ、印度ノ浮屠ノ法モ衰フコト同ジ、支那又一種アリ、曰儒敎ナリ、西洋ヨンデ「コンフウヨジフ」ト云、ソノ敎ノヨル所亦スデニ久シ、支那本東南一隅ニ居テ、ソノ化尙イマダ域中ニ行フコトアタハズ、又ナンゾアヘテ異他ニノゾマンヤ、況ヤ今擧國ツヒニ「ダツタン」トナルヲヤ、斯ノ如キ小敎アリト雖、亡ガゴトシ、天下ノ敎トスルニ足ラズト、白石氏コレヲ引テ辨ズルコトアタハズ、學者ヲシテ迷惑セシム、コノ語西洋人ヨリ支那ノ敎ハ俗學也ト云ニ同ジ、又法華宗ヨリ念佛無間ト云ガゴトシ、天下ノ敎法俗ヲ以テ俗ヲ敎ユ、（此コト度々同ジコトヲイヘリ）我コノ庶民ハミナ俗也、ナンゾ高遠ヲ敎ヘン、君々タリ臣々タリ、父々タリ子々タリ、孝弟忠信仁義禮智ミナ俗ヲ治ルノ法也、ソノ外ニ何ヲカ敎ユベキ、コレヲ導クニ德ヲ以テシ、コレヲ齊フルニ禮ヲ以テシ、民治マラザレバ、ヤムコトヲ得ズシテ、政ヲ以テシ刑ヲ以テス、コレ俗ヲ以テ俗ヲ治ルノ敎也、アニ來世・地獄・極樂・天堂・天帝ノ虛無ヲ立テ

教ルノ法アランヤ、天下ノ教法、今世ヲステ、來世ヲ云コトアルベカラズ、然レドモ鬼神ヲ恐ル丶、世上一統ノ人情ナリ、ソノ虚ニ乘ジテ來世輪回ノコトヲイツハリ人ヲ教ヘントス人遠キ慮リナキハ、今日ノ日前ノミヲ行フテ、明日ノ事ヲオモンバカルコトナシ、諺ニ曰、一寸サキハ闇ノ夜ト、イハンヤ來年ノコトヲヤ、然ルニ來世ヲイフモノ何ンゾ迂ナルヤ、今日人ノ人タル道ヲ行ハズンバアルベカラズ、ユヱニ人タル道ヲ行フ、コレ聖人ノ教ナリ、何ゾ來世ノ空論ヲイハンアニアヤマラズヤ、然ルニ實ヲイトヒ虚ヲ信ジ、正ヲステ丶邪ニ入ルハ學バザルノ通弊ニシテイカントモスベカラズ、西洋人ノ俗學ト云、小教ト云ハ、ミナコレ傳聞ノミニテ、我ヲ夸張シタル言ナリト雖、又辨ゼズンバアルベカラズ、漢ノ聖人大中至誠ノ教ヲ立テ、三千世界ニ中立シテ動ザルモノ也、孟子ノトキニ楊墨ヲサシテ異端トス、其害小ナリト雖、オヒ〳〵大ナランコトヲシル、故ニコレヲ拒デ以テ教ヲノコス、然ルニ張子曰、佛氏ノ害ハ楊墨ヨリ甚シト、又「キリステン」「マゴメテン」ノ法、ソノ趣意シラズトイヘドモ、「キリステン」ノ害ハスデニ天正・慶長・元和・寛永ニアラハレテ、島原ニ於テ滅亡シテ、再發スルコトナシ、國家大禁コレヲ最トス、然レバモハヤ拒ニ及バズフセグニ及バズトハ、民ヲ以テ云、外國ヨリ持來リ禁ハ尚サラニ嚴ナルベシ只佛者ヲ驅リ拂フノミ、西洋人ノイハユル我糞ノ臭キヲ知ラザルモノ也、神道・佛法・耶蘇・莫兒爾(モール)ミナ是異端ナリ、聖人ノ道ハ天下ヲ治ムル大中至誠ノ道也、ソノ儒ト名ヅクルモノハ、コレヲ國家ニ施サズシテ、徒ニ學ブノ士ヲサシテ云ノミ、儒道ヲ以テ天下ヲ教フルニアラザルナリ、ヤ丶モスレバ佛者コレヲ取入テ、神・儒・佛神道ヲ以テ此内ニ加ルコトハ、天下ノ政事仕置ニオイテカ丶ハラザルヲ以テ云、政理ノ外ナルユヱナリ、タトヘバ聖人ノ道ヲ學ブトイヘドモ、徒ニ詞章文辭ノミヲ事トシテ、已レヲ治メ人ヲ治ムルコトアタハザルハ、儒ヲ以テ自ラ居ルトイヘドモ亦異端ナリ、孔孟ノ所謂異端ハコノルイナリ、道家・佛法・耶蘇ハ大異端ナリヲナラベ三教トス、コレ誰ノ奸計ゾヤ、佛氏ノ

詐謪奸謀至ラザル所ナシ、コレヲ禦ガントストモアタフマジキ也、シカジ易ノ「大貞凶、小貞吉」ノ語ヲ拳々服膺シテ考ル時ハ、今庶人ノコトハイカントモスベカラズ、唯恐レ多シト雖、士已上ヲ以テ學ヲ起シ、宮門跡貴人ノ御出家ヲ改修アリテ、聖學文教上ニ行ハレ、天下ノ物理ヲヨク辨ズル時ハ、上ニ在ル人々ミナ天下ニオイテ、鬼神怪異ノ無キコトヲシラセラルレバ、自然ト邪說暴行行ナハレズシテ、ミナ己ヲ治メ人ヲ治メ、孝弟仁義ヲ行ヒテ、文ヲ以テ國ヲ治メ、武ヲ以テ外國ヲ禦グ時ハ、座中ミナ君子トナリテ、小人自ラ居ル處ナカルベシ、而後ニ民ハコレニ由ラシムベキナリ、知ラシムルニモ及バザルベシ、然レドモ大抵ハ民モ半バ化セラレテ、忠孝ヲ心掛ルベシ、然レバ半バ知ルナリ、故ニ是ヲ行フニハ、儒宗ヲ一派立タキモノナリ、スデニ寛政中ニコノ下知アリ儒ヲ學ブモノハ佛ニ落入コトハアルベケレド、ヤソニハ陷ルマジ、然レバ三都（學校ノ法ハ三都ヲ大學トシソレヨリダン〳〵國府城下ニ國學ヲオキ、コレヲ大學ニテスベテ、本寺ノ如クアルベシ、コノ法ハ漢土ノ庠序學校ノ法、及第進士ノ法ノゴトクシ、又宗旨ノ事ハ佛家ノ如ク、大學ヲ本山トシテ、ダン〳〵末學ヲ立ベキナリ、コレ文學ヲオコシテ佛ヲオサユル術ナリ、神道モ亦同ジカルベシ、コレハ本山ハ伊勢・八幡・加茂ノゴトキヲ以テシ、ソレ〴〵ノ神徵ヲ分ナ、神明ハミナ伊勢ニ屬シ、八幡ハミナ男山ニ屬シ、天滿宮ハミナ北野ニ屬シ、コノ法ヲ立テ、コノ序ニ淫祠ヲ廢シテ已來新祠ヲ禁ジ、又僧ノ出處ヲ記シ、已後ハ容易ニ剃髮ヲ許スベカラズ）及ビ國府城下ニ、學校ヲ立テ學生ヲ置テ、ソレニ由ルモノハミナ儒宗ヲ立テ、宗旨手形ヲ出シ、佛寺ニカヽハラズ、儒風ヲ以テ葬禮シ、天下ノ庶民ミナ極樂地獄無コトヲシラシムベシ、又伊勢ヲ始メ諸社ノ神職佛寺ニヨリテ葬禮ヲシテ忌日ヲ弔フコトヲ禁ジ（熊澤ノ宇佐問答ニ佛ヲ非トシ退クルコト甚シ、又當世ノ經濟ヲ論ズ、ソノ佛ノ害ノ甚シキ、古今ノタメシナシ）コレモ亦神道宗ヲ立テ宗旨手形ヲ出シ、祭祀ノ法ヲ立ラルベシ、此神儒ノ二宗ヲ立ラレテ、佛寺ノ外ニテ人別戸口ヲ點檢シ、天下ノ民

數ヲ庶人ニシラシムル時ハ、オノヅカラ是ニヨルモノ多カルベシ、マヅハ是ヲ以テ最初トシ、ソノ上ニテ大寺ノ權ヲダン／＼オサユベシ、是ヨリ入ラズバ、今ノ俗ハ變ジガタシ、是小貞吉ノ意ニシテ、又、「世而後仁教レ民百年」ノ語ヲヨク弄ビテ行フ時ハ、自然ニ得ベシ、是則我方寸ノ良計也、必ズシモ大貞ヲ行ヒテ、害ヲ招クコト勿レ、聖學上ニ明ナレバ、自然ト佛法衰フベシ、今此如ク貴人ノ子弟ヲ出家サセ、佛ヲ信ジ法務修行ヲ行ハセラル、ヲ以テ、褒稱スル時節ニテハ風俗ハ變ジ難カルベシ、又皇胤公子ノ出家ヲ止ル術ハ、今此出家ヲカナシマル、時ナレバ、忽チニ事行ハルベシ、コノ法ハ大學或問・草茅危言・アラマホシ等ニクハシキナリ、コレヨリ入テ後風俗ヲ變改アリタキモノ也、佛法既ニ天竺ニ始ルト雖、是ヲ用ユルモノハ南天竺ノミ、ソノ他ミナ「モール」宗トナル、漢土ニハ少シアリト雖、本聖人ノ敎アリテ佛ニ迷フ愚人少シ、今サカンナルハ獨日本ノミ甚トス、然ルニ彼ヤソヲフセグ役人トナリテ、天下ノ戸口ミナコレニ屬スレバ、俄ニイカントモスベカラズ、故ニ漸ヲ以テオトロヘサスベキモノカ

廿九　佛者・神道者多ク儒ヲ混ジテ三敎トシ、漢土ハ儒ヲ以テ天下ヲ治メ、日本ハ神道ヲ以テ天下ヲ治ムト、ミナ誤リナリ、聖人仁義忠孝ヲ以テ天下ヲ治ム、ソレヲ手ヅカラセズシテ、敎授スルモノヲ儒ト云、日本モ神武以來仁義忠孝ノ名ハ立ザレドモ、自然ト天下ヲ治ムル道ハ、仁義ニ叶フナリ、神ヲ祭ルニハ、禍福ヲモトメ吉凶ヲ問也、上古ハ多ク政ニアヅカルコトニモ、神ニ問事アレドモ、聖人モ

亦是アリ、ミナ神ヲ敬スル也、神道者ト云者オヒ〳〵ニ出テ、一派ヲ立シヨリ、別ニ神道ト云モノ佛ト對スルヤウニナリタリ、ツヒニ儒ヲ持コミテ三教トスルナリ、殊ニ當世ノ天下ヲ治スルニ、神佛ノ奇驗一ツモ雜ルコトアレバ、コレヲ排スルコト蛇蝎ノ如シ、ナンゾ神道ヲ以テ天下ヲ治メン、佛者モ又斯ノ如シト雖、決シテ儒ト並ベテ云ベカラズ、儒ハ聖人ノ道ニシテ、天下ヲ治メ身ヲ脩ムルノ道也、神ト佛トハ一也、古ヘハ異域ノ神ト云シ也、後世輪回ノ說オコリテ、佛ヲ信ジ葬埋スルヨリ、死者ヲ葬ルハミナ僧トナリ、我上古聖皇賢臣ヲ祭ルヲ神トス、神佛ノ二ツハ葬埋祭祀ノ事ニシテ、天下ヲ治ルニハ預ラザル也、混ズベカラズ、シカレバ則天下ヲ治ルハ、聖人ノ道ヲ用ヒズシテ何ゾ治マラン、聖人ノ道ヲ以テ天下ヲ治ムルモノハ王也、是ニヨリテ私ヲ立ルモノハ霸也、コレニ據ズト雖、自ラコノ道ニ叶フモノハ善人也、コレニヨラズ、道ニ叶ハズ、天下ヲ奪フモノハ賊ナリ、タトヒ異域外國ト雖ミナシカリ、名ハ異レドモ、國ノ治不治ハ一也

夢之代卷之九終

夢之代巻之十

無鬼上第十

一 晋書四十九列傳ニ曰、「阮瞻字千里、性清虚寡欲、中略 瞻素執ニ無鬼論一物莫ニ能難一、毎自謂、此理足レ可ニ以辨ニ正幽明一、忽有ニ一客一、通レ名詣レ瞻、寒温畢、聊談ニ名理一、客甚有ニ才辨一、瞻與レ之言良久、及ニ鬼神之事一、反覆甚苦、客終屈、實ニコノ客鬼ナラバ、瞻ト問答シテ屈スベキ理ナシ、鬼ノアルコト明白ナラバ、瞻チ伏スベシ、又我已ニ實鬼ナリ、ナンゾ聖賢ヲ引出シテ證トセン 乃作レ色曰、鬼神古今聖賢所ニ共傳一、君何得ニ獨言レ無、卽僕是鬼、於レ是變爲ニ鬼形一 コノ鬼形トハイカナル形ゾヤ、角ハヘ三指ニシテ虎皮ノ褌チナシタルヤ、但シ又黒頭白衣ノ幽靈ナルヤ、シルベカラズ 須臾消滅、瞻默然意色大惡、後歳餘、病卒ニ於倉垣一、時年三十、」云々、又同篇曰、「阮修字宣子、好レ易、老善ニ淸言一、嘗有下論ニ鬼神有無一者上、皆以、人死者有レ鬼、修獨以爲レ無、曰、今見レ鬼者曰、着ニ生時之衣服一、若人死有レ鬼、衣服有レ鬼耶、論者服焉、」下略 唐ノ太宗晋書ヲ修ム、此傳ヲ以テ見レバ、太宗及史臣モ亦ミナ鬼ヲ信ズルモノカ、然ルニ歴史ハモトヨリ古史ヨリシテ、妄談多キモノナレバ、コノ史ノミニアラズ、阮瞻ノ見識年三十ニシテ、已ニ學ナリテ神鬼ナシト云、ソノ見ル處高クシテ、心ヲ動カサヾルコト泰山ノ如シ、ナンゾコノ客ニ迷ハン、コトニ歳餘病デ死スト云ハ、鬼ノ所爲ニモアラズ、然ルニ此鬼ユヱニ、病ヲ得テ死シタルヤウニ書タルハ、作者ノ妄ナリ、又聖賢ノ傳フル所ノ鬼ト云モ

ノハ、聖賢ノ云所ノ鬼ハ貌ナシ、コノ鬼形ト云モノハ、佛以後ノ書ニカキシヨリオコル陰陽不測ヲ以テ云、コヽニ云鬼ハ悪鬼ヲサス、ソノ鬼形トナルト云モノハ、角アル鬼面ナルベシ、コレニ恐ルヽ瞻ニアラズ、況ヤ亦鬼形トナラザルヲヤ、決シテ人ノ鬼形トナルベキ理ナシ、又鬼ノ客トナリテ來ル理モナシ、コノ妄談ヲ傳ヘテ歴史ニシルス、アア愚ナル哉、コレ瞻ノ無鬼論無鬼論ノ書アラバ漢魏叢書ニ出ベシヲ作ルヲ惜ミテ、佛者ナドノ云出シタルヲ、其マヽ書シタル也、アヽ惜ムベシ、アタラ卓識ノ君子ヲ汚スコトヲ、又コノ客ト問答ノ間ニ、傍ニ人アルヲシラザレバ、外ニ見タル人ナカルベシ、何ゾ瞻自ラ此妄言ヲ吐ン、コレ死後ノ誣罔ナルコト以テミルベシ、修ノ云鬼ハ幽靈ヲサス、幽靈ニ實體ナシ、見ル人ノ惱ヒニ應ジテ、死後ノ餘氣カリニ體ナムスブコト、蜃氣ノ如シ、火葬土葬ナ以テ論ズル時ハ、ナホ五十歩ヲ以テ百歩ヲ笑フガ如ン、人死テ何ゾソノ死體ノ再ビ動働センヤ、ナンゾ衣服ノ論ニ及バン、夢中ニ見ル人ノ衣服ハイカン、理學者ノ管見笑ベキニタヘタリ、世ニ幽靈アリト云モ非也、無ト云モ推量ノミ、深山ノ人ハ海ノ話ヲ實トセズ、コレ己ガ見ザル所ヲ以テ無トスルノミ、予ナシテ論ゼシメバ、我イマダ幽靈ヲミズ、故有トハ云ズ、見シト云フ人アレバ、無トモ亦サダメガタシ、又云、名有テカタチナキモノナシ、物有テ後其名定マル此モノ實ニ有ノ理ナシ、實ニアラバ裸形ナルベシ、衣服ヲ着ルベキ理ナシ、故ニ衣服モ鬼カト難ズル也、カノ幽靈ヲ見タリト云モノ、ミナ畫ニ徴シ人ノ説ヲ實トシテ、生時ノ姿ナリト云、白衣ヲ着ルハソノ歛スル以後ノ姿ナリ、其衣服ハ土中ニアリ、又ハ後世佛法渡テ後ハ火葬多シ、然レバ衣服モ五體モミナ火化シテ灰トナリヌ、何ゾ其形アラン、常服官服ヲ着タル幽靈ハ、其衣服ハ簞笥ニアルベシ、何ゾ其衣ヲ持來タリ着ンヤ、ユヱニ衣服モマタ幽靈カト云ナリ、コレヲ以テ實ニ幽靈ノ無キヲシルベシ、實ニ見タリト云モノ、ミナ妄談ナリ、コノ無鬼論ト云モノ、ソノ書アリヤナキヤヲシラズ、傳ハラザル事ヲヲシム、古ヘヨリ鬼神ノコトハ、聖賢モ共ニ傳ヘ

タリト雖、天ト云鬼ト云神ト云モノミナ事ヲ敬シテ私ニセザル處、天下國家ノ事ハ天命ヲ受クト云、私事ハ祖先ノ鬼ニウクト云テ、事ヲツヽシミ苟モセザルヲアラハシテ、子孫百官百姓ヲ戒示スルモノナリ、コレヲ以テ後世ヲ防ゲドモ、民ナホ天ヲ畏レズ、祖先ヲ思ハズ、國家ノコトヲ私セントス、然レドモコレモ亦方便ニ似タル所アリト雖、神家佛家ノ立ル虚談方便トハ、雲泥ノ差アルヲシルベシ、又上古ヨリ聖賢ノ捨玉ハザルハ、ミナソレ／＼ノ據アリ、コレハ此下篇ニテミルベシ、然ルニ此聖賢ノ捨玉ハザルニ泥ミテ、後世ノナマ儒者疑惑シテ信ズルモノ多シ、コレミナ其心裏ノクモリ晴ザルモノナレバ、イカントモスベカラズ、孔孟ノトキイマダ佛法ナクシテ、道家モナク、日本ニ神道モナク、ソノ外ノ異端モ甚シカラズ、故ニ無鬼ノコトニ及バザル也、孔孟今ノ世ニ出玉ハヾ、痛クイマシメ玉フベシ、異端少キ時ダニ、スデニ孟子モヨク云テ楊墨ヲフセグモノハ、是聖人ノ徒ナリト云、吾今コヽニ論ジテ後世子孫ノ異端ニ陷イルモノヲ教ヘ、セメテハ天下國家ノ益ヲナスコトハ思ヒモヨラザレドモ、天下ノ害ハセマジキナリ、又僧トナルコトハアルマジキナリ、始ニ經書ヲ引モノハ、聖賢モ共ニ傳フト云モノヲ教示スルナリ、中ニ我神庸ヲ引モノハ、我國ハ神國ナリ、王法ニ背クベシト云モノヲヲシユルナリ、末ニ佛寺淫祀及妖怪ヲ云モノハ、愚昧ノ婦女ヲオシユルナリ、ヨク／＼會得シテ、必シモ鬼神妖怪ノ說ニ迷フベカラズ

二　史記黄帝本紀ニ云、「萬國和、而鬼神山川封禪與爲」多焉」ト、コレ鬼神ヲ云ノ始也、同顓頊本紀

ニ曰、「依ニ鬼神一以制レ義」、コレミナ山川ノ神ヲ云ナリ、同註ニ海外經ヲ引テ云、「東海中有レ山焉、名曰ニ度索一、上有ニ大桃樹一、屈蟠三千里、東北有レ門、名曰ニ鬼門一、萬鬼所レ聚也、天帝使ニ神人守一レ之、一名鬱壘、主レ閱ニ領萬鬼一、若ニ害レ人之鬼一、以ニ葦索一縛レ之、射以ニ桃弧一、投ニ虎食一也、」コレハ佛家ニ云惡鬼ニ似タリ、桓武帝ノ時最澄ト云僧コノ鬼門ノ說ヲトリテ、王城ノ鬼門ヲ守ルト罵リテ叡山ヲヒラク、コノ鬼門ハ桃樹ノ東北ナリ、コレヲ我國ノ王城ニ用ユベキニアラザル也、ソノ餘山海經・列仙傳・三才圖繪・訓蒙圖彙ノ如キハ、ミナ仙佛道家ノ述ル所ニシテ、怪談妄說册ニアフル、聖賢ノ書ト同日ノ談ニアラズ、日本中世ヨリ云出ス所ノ鬼ト云モノミナコノ惡鬼ヲサスモノナリ、帝嚳本紀ニ曰、「明ニ鬼神一而敬ニ事之一」コレハ鬼神ノコトニ明ラカニシテ、泥マズ侮ドラズヨクツヽシミテコレニ事ルナリ、堯本紀曰、「其仁如レ天、其知如レ神、」天ハ陰陽ノ德ヲ以テ萬物ヲ生ズ、又コレニ應ジテ萬物ヲ生育スルヲ仁ト云、神ハ靈妙不測ヲ云ナリ、コレハ堯ノ仁知ヲ天ト神トニ象ドリテ贊スルノ辭ナリ、「遂類ニ于上帝一、禋ニ于六宗一、望ニ于山川一、辨ニ于群神一、」コレミナ天子ノ祭ルベキコトナリ、天地山川ノ德ヲ以テ萬民ヲ育スルユヱニ、其功德ヲ頌シテ祭ルモノ也、是ハ堯典ノ語ヲ擧ル也、「蒼頡製ニ文字一、天爲レ之雨レ粟、鬼夜哭」云々、又「河出レ圖洛出レ書」ノルイミナ妄語ナリ、論語ニ、孔子ノ云々スルモノハ、古語ニヨリテ譬ヲ引モノ也、實ニ此コトアリト云ニアラザル也、吳蘇原ガ曰、「河圖洛書、不レ過レ曰下河出レ圖洛出上レ書、如レ是而已、未下嘗分ニ其形之方圓、與ニ數之九十一也、亦未下嘗言中圖出ニ伏羲一、書出ニ於禹一、馬負レ圖、龜戴上レ書也、後人何從而知

レ之、」コノ一言和漢古來ノ虛妄ノ說ヲ挫クベシ、タトヒ圖書出テ羲禹コレヲ以テ發明シタリトモ、ソレハ羲禹ノ才ナリ、天羲禹ノ爲メニ圖書ヲ出スト云フハ、コレマタ妄誕ナリ、上古ハ和漢トモニ大抵同ジキナリ

三「堯典類二于上帝一」以下ハ前ニ論ズ、「巡守封二禪五岳四瀆一」モノハ、ミナ天下萬民ノ爲メニ功德アルガ故ニ、巡狩ノ序ニコレヲ祭リテ民心ヲ安撫シ、コレニ由ラシムルモノ也、「格二于文祖一」モノハ卽位ヲ告ゲ命ヲ受テ、敢テ專ラニセザラシムルモノ也、後世ニ社稷宗廟ヲ祭ルモノハ、ミナ自專ニセザルトコロナリ、社ハ土地ノ神ナリ、稷ハ五穀ノ神ナリ、宗廟ハ祖先ヲ祠ル也、スベテ命ヲ社稷宗廟ニ受ルノ敎ハ、神佛ノ方便ニ似タリト雖、其害ナクシテ天下ヲ平ニスル敎法コレニナラブコトナシ、佛法ノ如ク一モ妄誕ナシ、聖人ノ敎ノ功驗コヽニ見ルベキ也、聖人ハ鬼神ヲ用ヒテ天下ヲ治メ服セシム、國事ニハ天命ヲシリテ國治マリ、私事ニハ先祖ニツカヘテ家トトノフ、佛家ノゴトク一身ノ後生安樂ヲネガフゴトキニアラザル也「八音克諧、無下相二奪上倫一、神人以和、」是ハ樂ヲナシテ神ヲ祭レバ神ヨクコレヲウケ、人ヲ享スレバ人ヨク和スルヲ云フ、此神ノヨク受ルト云モノハ、人是ヲ見聞シテ感歎スルトキハ、神モヨクウクルヲシルナリ、天ト云鬼神ト云トモ、ミナコレ人ニ誠ムルナリ、然レバ天モ鬼神モ、ミナ人上ニアルヲシルベシ、後世孟子ノ天命ヲ云コレナリ、履軒先生曰、「尙書言必稱レ天、此其常也」ト、ヨク意ヲ用ヒテヨムベシ（評文）先祖ニ事フト云トキハ、ナホ神ナシトスベカラズ、神ナキトシリテ祀ルトキハ、佛家ノ方便トナンゾ異ナランヤ、ソノ先祖ト云モ、父母祖父祖母ヨリダン〳〵ト遡レバ、其系ヲシルニヨシナシ、竟ニハソノ鬼ニアラズト云ガ如シ、ツマル處ハ陰陽ノ二ツヨリコレヲ表シテ、神トモ佛トモナヅラヘテ說モノハ佛法ナリ、窮理家ト雖、父母ノ名ハナミシガタシ、サスレバ墓前ニ祀ヲナスハ、神道佛法トカハルコトナシ、死タル父母ノ靈アリトスルカ、

無トスルカキカマホシ、靈アラバ祭ルベシ、ナクバ祀ルニモオヨブマジキモノナリ

四　皐陶謨ニ曰、「一日二日萬幾、無曠ニ庶官、天工人其代之」ト、コレハ天下ノコトハ日々ニサマ〴〵ノコトアリ、忽ニスベカラズ、才ヲ擧ゲ賢ヲ擇ミテ治メ、一職ノ微ト雖ミナ天ノ功業ナレバ、ヨク天ヨリ治ムベシ、サレドモ天ノ自ラ治ムルコトアタハザルハ、人ヲシテ代リテ治メシムト云ハ、ミナ天ニ託シテ人ヲ服セシムル也、「天叙ニ有典、天秩ニ有禮、天命ニ有德、天討ニ有罪、天之聰明、自ニ我民ノ聰明、天之明畏、自ニ我民ノ明威」ミナ共ニ天ヲカリテ云ト雖、實ハ人事ニアルコト也、甘誓ニ曰、「惟恭行ニ天之罰」ト、自カラ征テ是ヲ討チ、天ノ罰ヲ行フト云、ミナ天ニ託シテ云ナリ、「用命賞ニ于社、不用命戮ニ于社」ト、コレハ賞罰ヲ專ラニセズシテ、ミナ萬民ニ正スヲ云、湯誓曰、「天命殛之、予畏ニ上帝、致ニ天之罰」」コレミナ天ヲカリテ云ナリ、夏桀暴虐ト雖天子ノコトナレバ、臣民トシテ是ヲ討スベキコトナシ、ユヱニ有德ノ人アレバ、天下中ノ人心ニ正シテ、ソノ人ノ心ノ聚リテ、皆尤ナリト同ズル處ヲ天心トシテ、コレヲ殛罰スト云フコト也、即チ孟子ノイハユル天吏ニシテ天ノ役人ナリ、仲虺之誥ニ曰、「天生民天生ニ聰明、天乃錫ニ王勇智、正ニ萬邦、奉ニ若天命、夏王有罪、矯ニ誣上天、以布ニ命于下、帝用不滅、式商受命、用爽ニ厥師」」コレミナ天ニ託スルモノナリ、「東征西夷怨、南征北狄怨、徯ニ我后、后來其蘇」ト、コレミナ億兆ノ民ニ正シテ、民心服集シ歸スル處ニシテ、聖德ノ功驗ナリ、カクノ如クナラズシテハ天ト云ベカラズ、故ニ人心ノ聚ル處ハ即チ天ナリ、佛氏ノ私スル處ノ天ト同ジカラズ、コヽニ於

テ「欽ニ崇天道一、永保ニ天命一」ニ至ル、湯誥ニ曰、「上帝降ニ衷于下民一、告ニ無レ辜于上下神祇一、天道福レ善而禍レ淫、降ニ災於夏一、以彰ニ厥罪一、肆台子、將ニ天命明威一、不ニ敢赦一、敢用ニ玄牡一、敢照告ニ于上天神后一、請ニ罪有夏一、聿求ニ元聖一、與レ之戮レ力、以與ニ爾有衆一請レ命、上天孚佑ニ下民一、罪人黜伏、天命弗レ僭、惟簡在ニ上帝之心一」ト、湯王天ニ受テ夏ヲ討ツ、ミナ自ラ專ニセズシテ、天ニ從ヒ人心ニ從ツテ誅戮スルモノ也、伊訓ニ曰、「有夏先后、方懋ニ厥德一、罔レ有ニ天災一、山川鬼神、亦莫レ不レ寧、暨鳥獸魚鼈咸若、于ニ其子孫一弗レ率、皇天降レ災、假ニ手于我有命一、上帝不レ常、作レ善降ニ之百祥一、作ニ不善一、降ニ之百殃一、爾惟德罔レ小、萬邦惟慶、爾惟不德罔レ大、墜ニ其宗一」コレ伊尹太甲ヲ教導スル語ナリ、天子德ヲツメバ兆民コレ悅ビ、其后ノ壽福ヲ祈ル、何ゾ殃アラン、民ニ亂ヲヲシユト雖、爲サヾルナリ、天子不德ニシテ暴虐ナレバ、兆民コレヲ疾ミ其滅亡ヲイノルユヱニ、ツヒニ殃ヲイタシ、其國ヲ失フニ至ル、嚴刑ヲ設ケテコレヲ防グトイヘドモ得ベカラザルナリ、仁人天下ニ敵ナシ、ユヱニ萬民ヨク治ル、不仁者家ヲ出レバミナ敵ナリ、ユヱニ災害並ビイタル、天ト云ミナ人事ナリ、山川鬼神ト云モ亦同ジ、コレ天然自然ノ意ナリ、ユヱニ宋儒ニ至リテ、天ハ卽理ナリト云、太甲ニ曰、「顧ニ諟天之明命一、以承ニ上下神祇一、社稷宗廟、罔レ不ニ祇肅一、天監ニ厥德一、用集ニ天命一、撫ニ按萬方一、天作孽猶可レ違、自作孽不レ可レ逭」ト、ミナ天命ヲ以テ云ト雖、天災ハ猶去ベシ、自災ハノガルベカラズト云時ハ、人事ニアルコトシルベシ、「惟天無レ親、克敬惟親、民罔ニ常懷一、懷ニ于有レ仁、鬼神無ニ常享一、享ニ于克誠一」コレ天民鬼神ミナ敬•仁•誠ニ與ルナリ、其

徳克配ニ上帝一、」コレ聖人ハ天ト徳ヲ同ジクスルヲ云、「咸有ニ一徳一、曰天難レ諶命靡レ常、々ニ厥徳一」コレ天命常ナクシテ、徳アル人ニ命ジテ天下ヲ治メシム、其徳ヲ失ヘバ、又別ニ徳アル人ヲ擇ミテ是ニ命ズ、三代ノ間ハ此ノ如クニ聖人ノ教ヲ以テ、上下ミナ徳ナクシテ有ツベカラサルヲシルナリ、ユヱニ王者常ニ天ニ皈シテ民ヲ教ヘ民モ亦天命ニ應ジテコレニ從フ、後世ノ君臣ミナ徳ヲシラズ、天命ニ應ズルコトナク、民モ亦教ヲウケズ、唯勢力ヲ以テ相攻伐ス、コレヨリシテ天ヲ云ハズ、分ニ應ズルヤウニナリタリ、「元ヨリ天卽人ニシテ、聖人ノ徳モ人事ヲ以テスルコトナレドモ、天ニ先ダチテ天タガハズ、天ニオクレテ天ノ時ヲ奉ズルユヱニ、天モタガハズ人モ從フモノナリ、スベテ人ノ善惡ヲ一々天帝ノ帳ニ記シテ、其多少大小ヲ正シテ、刑罰仕置スルヤウニ佛家ニテ云ナセドモ左ニアラズ、只今日ノ人事ニテミルベシ、明テモ暮テモ善ヲナシテ、毫厘ノ惡キコトナキ人ニハ、天下ミナコレヲ稱譽シテ、ソノ人ニ急難ノコトアレバ、萬人ヨリシテ是ヲ救フ、又朝夕惡ミ罵リテ一點ノ善無キ人ハ、天下ミナコレヲ惡ミテ、ソノ人ニ患難有バ、萬人起リテ共ニコレヲ伐チ、其滅亡ヲ悅ブ、故ニ曰、「時日曷喪、予與レ女偕亡」ト、コレヲ以テミルベシ、善惡ノ報ミナ天ニアラズシテ人ニアルナリ、然ルニソノ萬人コレヲ愛シ、萬人コレヲ惡ムモノハ、卽コレ天ナリ、易ニ曰、「積善之家、必有ニ餘慶一、積不善之家、必有ニ餘殃一」ト是卽チ此意ナリ、然ルニ其中ニ萬人ニ惡レテモ壽福ヲ保チ、萬人ニ愛セラレテモ不幸短命ナルコト、顏子盜跖ノ如キアレバ、コレヲ如何ン、サレドモコレ等ハ千萬人中ノ一人ニシテ常ニアラ

ズ、變ナリ、上ニ明君ナク、下ニ暴虐ニシテ只勢力ノミ用ユル時節ナレバナリ、コレラモ天帝ニ帳面アリ、鬼神ニ靈德アルモノナラバ、顏跖ノ賞罰ハ直ニ分ルベシ、コレヲ以テ天モナク、鬼神モナキヲシルベシ、カク云時ハ聖人ノ敎ヘヲヤブリ、善ヲ勸ムルコトナクシテ、惡ヲ懲スコトナキヤウナレド、コレ即チ的面ノ眞論ナリ、古神聖ニ阿ルニ非ズ、又當世ノ穩當ノ人々且ツ俗人ニ逆フニアラズ、只コレ直道ノコトヲ云ノミ、凡俗難苦ニアヘバ、天ニ悲ミ地ニ歎キテ、神モ佛モナキ世カト云ノ際ニ至リテ、聖賢ハ天ナリ命ナリト云テ、逍遙トシテ義ニ就キタル處、コレ天ナク神ナキヲシリテ、實ハ是ヲ天ト云命ト云、人ノ賢愚睿鈍コノ處ニアリテ、決シテ迷フベカラザル處ナリ、ユヱニ宋ノ先賢既ニ天即理ナリト云、孟子ハスデニ訟獄謳歌ノ皈スル處、行ト事トヲ以テ示スト云ベシ、總テ人事ヲ盡シ盡シテ、進退極マリタル處ヲサシテ、天ト云命ト云鬼神ト云、然レバ尙書ニ多ク天ト云上帝ト云、佛氏ニ天ト云西方ト云、其外鬼神・佛菩薩・明王・狐狸ニ至ルマデ、此外ナラザルヲシルベシ、此篇ハ鬼神ノコトヲ論ズルノ始メニ、尙書ノ天ヲ云テ論ヲ立ルモノハ、ミナ其皈スル處同物ナレバ也、然ルニ聖人ノ天ト云鬼神ト云モノハ、ミナ幼主ヲ保護シテ天下ヲ治ムルガ如ク、伊尹・周公ノ太甲・成王ヲ本尊トシテ、仁政ヲ施コスガ如シ、自ラ命ヲ出納スト雖、敢テ專ニセズシテ天下之ニ皈ス、其所以ハ皆義理ニ差ハザルノ政ヲスル故也、苟モ義理ニ差フ時ハ、之天ニアラズシテ伊・周ノ私ナリ、故ニ無鬼ノ論ヲ立ルノハジメ、コレヲ論ズルナリ、宋ニ至ツテ二氣ノ良能、造化ノ迹ト云モノハ、イヨ〳〵天ニカヽリテ、陰陽不測ノ

コトヲ説ク、コレ即チ物ニ體シ遺コトナキ處ナリ、故ニ天ヨリ云始メテ、鬼神佛怪ニ至ルモノ、元ヨリ人心ヲ迷ハスコト同ジケレバ也

五　説命曰、「黷ニ于祭祀一、時謂レ弗レ欽、禮煩則亂、事レ神則難」云々、殷ノ俗鬼神ヲ尙ブユヱニ、傅說祭祀ノ禮ヲ正シテ王ニ致ヘルナリ、「高宗肜日、越有ニ雊雉一」雉ノ鳴ハ變ニアラズ、不祥ニアラズ、ナンゾ災異トセン、今ニテモソレ〳〵ノ鳴ベキ鳥ハミナナクナリ、タトヒ鳴マジキ鳥ノ鳴タリトテ、變事ニテ災アルニアラズ、然ルニ是ヲ災異トシテ愼シムモノハ、コレモ亦敎ノ術ナリ、亦殷ノ俗鬼ヲ尙ブ時ナレバ、尙サラニアルベキナリ、日蝕ヲ畏レテ德ヲ敬シミ、桑穀ノ朝ニ生ズルヲ畏ル、ミナ變災トシテ事イマダ發明セザルノ古ヘナレバ、ミナ天戒トシテ畏敬スル處ハ、是ヲ幸トシテ敎戒スルモノナレバ、タトヒ間違テモ損害ナキ也、災ヲ幸トシテソノ序ニ福ヲ得ルモノナリ、佛家神家ノ如ク變災ノ序ニ禍ヲ以テ福トシ、ツヒニ無益ノ畏怖ヲ生ジ、祈禳ノミヲ專トシテ、損害ヲ招クモノト異也、三代ノ祭ハミナ尸アリ、人ヲシテ潔齋ナサシメ、鬼神ニ代テ祭饗ヲ享シム、コレヲ以テミルベシ、實ニ鬼神アルモノナラバ、鬼ト尸ト二主トナル、尸ヲ饗シテ何ノ益ゾヤ、故ニ古聖人ノ鬼神ヲ貴ブ其心底ハ、喪ニ居テ父母ヲ思慕スルガ如ク、父母ノ死後ニ至リテ、面前ニ孝ヲ盡スコトカナハズ、サルニヨリテ責テモノ心ユカシニ、神ヲ饗シ尸ヲ立テ、在スガ如キノ孝貌ヲツクス、ソレニ斟酌損益シテ禮法ヲ作リタルモノ也、故ニ在スガ如シト云、實ニ鬼神ニ心志アリテコレヲ饗ルモノナラバ、在スト云ベシ、如ノ一字

衍字ナリ、又尸ヲ立ルニ及バザル也、爰ニ於テカ古聖人鬼神ヲ敬スト雖、又泥ミ汚サズシテ遠クルヲ見ルベシ、コヽニ枝葉ノ論ヲナスモノハ、筆ノ拍子ニシテ書スルノミ、此說ヲ以テヨク〳〵鬼神ナキヲシルベシ

周ノ世マデハミナ尸ヲ立ル、コレ鬼神ナキノ證也、鬼神アルモノナレバカタシロニ及バズ、鬼神ナキユヱニ尸ヲ立ル也、鬼神ノ代リトシテコレヲ饗ズ、コレハ實ニ在ガゴトシ、後世ノ儒者ノ尸ノコトヲ思ヒ出シナバ、ツヒニ鬼神ノ說ニ溺ルマジキ也、然ルニ儒ヲ以テ自ラヲルモノ、ミナ尸ノコトヲ忘レテ、鬼神實ニアリトス、ナンゾソレ疎ナルヤ、今ニテモ父母ヲシタヒテ及バザレバ叔父母兄弟ノルイヲ、父母ノ代トシテ尊敬スルガ如シ、セメテハ父母ノ代ニ尸ナリトモ立テ、ソレヲバ饗シテ心ヲ慰スル也、スベテ在ガ如シトハ、是ヲ云也、本文ニ說所、尸ノ事如ノ字在ハ、決シテ鬼神ナキノ證ナリ、書ヲヨムニハ、活眼ヲ以テヨムベキナリ

六 金縢曰、武王有ㇾ疾中略史乃冊祝曰、惟爾元孫某、遘ニ厲瘧疾一、若爾三王、是有ニ丕子之責于天一、以ㇾ旦旦ハ周公ノ名ナリ代ニ某之身一、予仁若ㇾ考、能多材多藝、能事ニ鬼神一、」コレ武王疾アリテ、周公コレニ代リテ死セント、大王・王季・文王ニ祈ルナリ、コレ愚ナルガ如シト雖、臣子ノ誠實迫切ノ情ニシテ、誹ルベキニアラズ、然ルニ此書ノ文後世ノ杜撰ナランカ、大抵ニ見過テ可也、履軒先生曰、「伏生所ㇾ傳二十八篇、唯金縢一篇、爲ㇾ不ㇾ可ㇾ信、豈好事者之附益邪、縱令伏生手授而口傳亦僞書耳、」ト、程子曰、「尙書文顚倒處多、如ニ金縢一尤不ㇾ可ㇾ信、」又曰、「不ㇾ問下有ニ此理一、無中此理上、只是周公人臣之意、其辭則不ㇾ可ㇾ信、只是本有ニ此事一、後人自作ㇾ文」ト、履軒先生曰、「禱祠者、出ニ於臣子之至情一、不ㇾ當三說ニ感動應驗一、若ニ匹夫匹婦之感格一、概不ㇾ足ㇾ論、悉是世俗之妄傳與ニ偶然一」ト、尙書中コノ金縢ノミ鬼神感格ノコト多シ、ユヱニ程子及我履軒先生ノ說ヲアゲテ、後人ノ惑ヲハラサシム、耕シテ食ヒ、オリテ着、日ニ用ヒテシラズ、コレ是ニヨルモノナリ、ユヱニ聖人コレニ由ラシム、アニ萬民ノ多キ、コレヲシラシムルニイトマアランヤ故ニ丁寧ニス、洪範ノ書ハ寓言多シ、ソノ外尙書ニ天ト云、上帝ト云モノハ、スベテ

此書ノ常ニシテ三代ノ風俗ナリ、天モ鬼神モミナ人事ヲ以テコレニ歸ス、コレ聖人天ヲツヽシミ畏ルヽノコトニシテ、民ヲシテコレニ由ラシムルモノ也、コレヲシラシムルニアラザル也、又是ヲ欺クニアラザルナリ、又誣罔スルニモアラズト云

七　文言曰、夫大人者、與天地合其德、與日月合其明、與四時合其序、與鬼神合其吉凶、先天而天弗違、後天而奉天時、天且弗違、而況於人乎、況於鬼神乎」云々、繫辭傳曰、「寂然不動、感而遂通天下之故、非天下之至神、其孰能與於此」云々「始作八卦、以通神明之德」云々「精義入神」云々「極神知化、德之盛也」云々「知幾其神乎、君子上交不諂、下交不瀆、其知幾乎、幾者、動也、動之微、吉凶之先見者也」云々、說卦曰、「神也者、妙萬物而爲言也」云々「成變化而行鬼神」云々「知變化之道者、其知神之所爲乎」云々「河出圖、洛出書、聖人則之」云々、是皆聖人ノ德ヲサシ、其易ノ妙ヲ賛ス、「堯其知如神」云々、孟子所謂「聖而不可知之曰神」是皆知ノ明カニシテ不測ナルヲ云也、易ニ神ト云フモノハ皆聖德ヲイフ、又易ノ卜筮ヲモサス也、コレハ「與鬼神合吉凶」ノルイト雖、コレモ亦大人ノ德ヲ云ナリ、「積善之家有餘慶、積不善之家有餘殃」ト云モノハ、自然ニ德ヲツミテ、終ニ一點ノ惡ナシ、サレバ天下ニ敵ナシ、ナンゾ殃アランヤ、コレ常ニ攝生ヲヨクシテ病ヲ受ザルト同ジ、又常ニ不善ヲノミナシテ、一點ノ善ナケレバ、天下ミナ敵ナリ、是常ニ不養生ニシテ病ヲ受ルゴトシ、吉凶禍福論ヲ待ザルナリ、天モ鬼神モコレニアヅカルコトナシ、然

ルニ善ヲナシテ一點ノ不善ナキ人、災ヲ得ルコトアリ、不善ヲナシテ一點ノ善ナキ人、福ヲ得ルコトアリ、是ヲ以テ天トシ命トス、是コレヲ實ノ天トスルナリ、實ノ命トスルナリ、故ニ孟子曰、「知レ命者、不レ立二巖墻之下一」ト、尚書ノ天ハミナ人事也、易ノ神ハミナ聖知也（易ノ神ハ其智如レ神ト同ジ）ソノ餘ノ吉凶禍福ヲ云、ソノ人ノ積善不積善ヲ以テ云コト多シ、コレニ泥ミスギテ、終ニ陰德陽報ノ論ヲ立、陰隲文ノゴトキ孫叔敖ガ陰德ヲ主張スルニ至ル、ミナ天帝ノ廳ニ記錄アリトスルモノナリ、（孫叔敖ハ仁アリテ智ナシ、兩頭ノ蛇ヲ殺シタルハ、我ヲステテ人ヲ救フノ仁心ナリト雖、コノ兩頭ノ蛇ヲミレバ、死スト思ヒシハ無智ナリ、蝮蛇ハ人ヲ害ス、コレヲ殺サバ仁智ヲカネテ、實ニ陰德ト言ベシ、又母ノコノ陰德故ニ死セズト云ハ、誤リナリト云ドモ、其理ナシト云フヲシリテナラベ可ナリ、陰德ト云ハ、陰隲文ノ趣向ナリ）（積善ノ家ノ餘慶モ、不積善ノ家ノ餘殃モ、亦陰德ヲツンデ陽報ノアリシト云モ、實ハ偶然ナリ、シカウシテタシカニ定マリタルコトニアラズ、惡人ノ幸、善人ノ不幸ヲミテモシルベシ、故ニコレヲ天ト云ナリ）實ニ記錄アルナラバ、顔子ハ不幸短命ナラザルナリ、盜跖ハ壽福ヲ得ザルナリ、孔孟壽福ヲ得テ、曹司・馬安朱天下ヲ得ベカラザル也、コレヲ天ト云命ト云、佛法神道ノ愚説ト同ジカラザルヲシルベシ、常ニ養生ヲヨクシテ疾病ヲ得ザルハ、コレ其常也、然ルニ禀性ノ虛弱ナル、又ハ流行病ノルイニオカサレ、或ハ水火・盜難・雷震ナドノ變死ニアフモ、皆コレ天也、陰德家ノ知ラザルコトナリ、「觀二天之神道一、而四時不レ忒、聖人以二神道一設レ敎、而天下服矣」、コレ神道家流ノヤ、モスレバ引キ以テ誇張スル出處ナリ、シカルニ「聖人以二神道一設レ敎」以下ヲ引モノハ、章ヲ斷チ義ヲ取ルノ心ナルベケレドモ、上ニ「觀二天之神道一、而四時不レ忒」ト云ヲ以テミレバ、コレ天道ノ神妙不測ニシテ四時行ハレ、萬物ヲ化育スル處ヲサス、イハユル二氣ノ良能ニシテ、物ニ體シテ遺サザルヲ云也、ユヱニ聖人コノ天ノ神妙ノ道ヲ以テ敎ヲ設ケテ

天下服スルモノ、天ノ運行云ハズシテ行ハレ、四時差ハズ、此誠實ニヨリテ、聖人是ニ則リ教ヲ設ク、天ノ妙道ハヨク人ノ見ル處、聖人ノ治教モ亦ヨク人ノ觀ル處、ミナ人ニ觀ラルヽヲ以テイフ、觀ノ意ナリ、我邦近世云處ノ神道トハ大ニ異ナリ、（卜部兼延明法要集ニコレヲ引トイヘドモ、神道ノ熟字ノ出處トスルノミ、義理ハ大キニコトナリ）「震驚二百里一、不レ喪二匕鬯一」モノハ、祭ニ臨ンデ誠敬ヲ致シ、「盥而不レ薦」ノ時ハ、マス〳〵内ニ誠アリテ精一ナレバ、物ニ恐怖セザルヲ示スモノナリ、鬼神ノ効驗ニアラザル也、（鬼神害レ盈福レ謙）繫辭曰、「仰以觀二於天文一、俯以察二於地理一、是故知二幽明之故一、原レ始反レ終、故知二死生之説一、精氣爲レ物、遊魂爲レ變、是故知二鬼神之情狀一」コレ易ノ陰陽ヲ以テ云ナリ、天明生氣神ハコレ陽也、幽死魂鬼ハコレ陰也（游魂爲レ變ハ、變ジツクスノ意ナリ、バケルニアラザルナリ）二氣ノ良能造化ノ迹ナリ、生ルヽノ始ニ原ヅキ工夫スレバ、死スルノ終リヲシル、精氣聚リテ物トナリタルハ、ツヒニ游魂散リテ變ズル處ナリ、佛ノ輪回ト大ニ異ナリ、人ノ生ズルハ艸木ノ萠生スルガゴトク、ソノ死スルハ枯ルヽガ如シ、又其子アルハ種實ヲ蒔テ生ズルガ如シ、スベテ一盛一衰ノ道理生レテ、ダン〳〵ト陽氣盛ンニナリテモ、亦ツヒニオトロヘ、命盡テ死シ、消散シテ土ニ歸ス、故ニ鬼ハ歸ナリト云、春ウヱテ夏長ジ秋收マルノコトニシテ、コレ即チ鬼神ノ情狀ナリ、「顯レ道神二德行一」云々「是興二神物一」云々、「是故天生二神物一、幽二贊於神明一而生レ蓍、」コレミナ易ノ奇妙ヲ贊スルノ辭ナリ、易ノ卦タルト筮ノコトニシテ、嫌疑ヲ定メ、吉凶ヲ決スルノミ、彖・象・卦・爻ノ辭ハ、聖人ソノ時所位ニヨリテ、後人ニ教示スルノ語ニシテ、占トニヨリテ善ヲ勸メ惡ヲ懲スノ至仁ナリ、神教言語ニ竭スベカラ

ズ、神ト云テ可ナリ、妙ト云テ可ナリ、イカサマニモ鬼神在ガ如シ、ヨク翫味シテ泥ムベカラズ、然ルニ文言・繫辭・說卦・雜卦ノ辭ハ牽强附會多シ、易ヲ以テ强テ神トシ、妙トシ、蓍木ヲ以テ神物トス、コレラハ必シモナヅムベカラズ、蓍ハ萩ノルイナリ、ユヱニ和名「メドハギ」ト云、幸ニ此艸アルヲ以テ用トスル也、竹ヲ用ヒテモ可ナリ、天ヨリ易ノ爲ニコレヲ生ズルニアラザルナリ、易ノ神ハ多ク靈德ヲ賛シ、又ソノ吉凶ヲ定ムルノ能ヲナス、カナラズシモ泥ムベカラズ、占トハ只嫌疑ヲ定ムルノミ、彖・象・卦・爻ノ辭ハ聖人ノ卦面ニ就テ、其德其位其身ニアテヽ戒ヲナス也、只其戒ノミ吉凶ヲトスルトハ別ノコトナリ、本ハ吉凶ヲトスルノミナリシヲ、卦面ニ就テ教示ヲナスハ聖人ノ深切ナリ、ユヱニ程子ノ傳ハ教示ヲ主トシ、朱子ノ本義ハ占トヲ主トス、諺ニ曰ゴトク、合モ合ザルモ不測也ト、コレソノ實意ナリ、後世コレニ本ヅキテ、サマ〲ノ占トノコトヲ云テ錢ヲトル、ツヒニ弘法大師四目錄ノ如キニ至ル、ソノ外易ノ虛妄至ラザル處ナシ、ミナ捨テ論ズルコトナカレ

八　詩麟之趾・騶虞・鵲巢ノルイ、王者ノ瑞トスルハ之ヲ畢竟贊嘆ノ辭ノミトス、スベテコレヲカリテ比興スルモノ也、麟・鳳・龜・龍ヲ四靈トシテ貴重スルコトハ、上古ノ事也、中ニモ麟・鳳・龍ノ三ツノ物ハ、經書ニ一二アラハルト雖信ズベカラズ、是ヲ以テ證トストイヘドモ、常ニ見ナレザル獸出レバ、シヒテ麟トシ、鳥出レバ、ムリニ鳳トス、蛇出レバ、コレヲ龍トス、誰カコレヲ難ゼン、ソノ證無ヲ以テナリ、スベテ始メヨリナキモノハ人是ヲシラズ、然ルニナンゾ其字ヲ製セン、有トシテ字ヲ作ル、虛妄無稽ノ

コト也、後世ソノ形象ヲ畫クト雖、モトコシラヘ物ナリ、然ドモソノナキモノナル故ニ、ソノ上古ヨリ億兆ノ人ノ中ニ拔萃シタル人ヲタトヘテ、此三ツノ物ニ象リ賛スルモノ也、ソノ中ニ只鳳ノミ世ニ多シ、ユヱニ人モ又甚貴重セザル也、漢土ノ古ヘハ龜甲ヲ灼テトシタルニヨリテ、コレヲ貴ミタレドモ、コレハ別事ナリ、今ハソノ壽ヲ以テ鶴龜ト云テ、祝事ニ用ユル也、孔子ノ時ニ獲麟ノコトニヨリテ、春秋ヲ作ルト云モノモ信用スベカラズ、家語ニサマ〳〵ノ怪異ヲ辨ジ、孔子ヲ博識ニセントスレドモ、ミナ妄說ナリ、孔子ノ補益トナルコトナシ、カヽル怪異ノコト、後世ノ今ニ引合セテ、一々正シ考フベシ、孔子ノ愚ヲシルニ足ルベシ、知ルヲ知ルトシ、不レ知ハ不レ知トスルニテ、孔子ノ聖ヲシルニ足ル也、「鳳鳥不レ至、河不レ出レ圖」ノ歎ハ、俗語ニヨリノ玉フモノ也、スベテソノ外ノ祥瑞妖孽ノコトハ、ミナ類シ推スベシ、一モ聖人ノ賛歎ノ辭アレバ、ソレニ尾鰭ヲ付テサマ〳〵ニ說ナス儒者アリ、又前賢ノ辭ナレバ定メテ見ル處アルベシ、アナガチニ破ルベカラズト穩當風ノ儒者アリ、又無鬼論ヲ定テ、天罰神驗ナシト云ハ、人皀天ヲ恐レズ、惡ヲナスベシ、ソノ儘ニ置テ然ルベシト云儒者アリ、附會虛妄ノ說ヲナスモノハ聖人ノ罪人也、穩當ノ長者ハ鄉愿ノルイ也、鬼神ヲ以テ惡ヲ止ントスルモノハ佛ノ方便ト同ジ、古ヘ天罰ヲ恐レテ服シタル程ノ愚民ハ、今ニテハ佛ヲ信ズルヤウニナリタリ、佛ナキ以前ハ古風ニテ止ベシ、吾邦モ亦神風ニテ止ベシ、此ノ二風モ亦少シヅヽハ、佛ニ似タル處アルガ故ニ、終ニ後世ミナ佛ニ奪ハル、故ニ聖人復起ラバ、必無鬼ヲ執テ風俗ヲ移易スベシ、後世

ノ俗煩雜事、紛亂シテ治ムベカラズ、コヽニ於テ風俗ヲ變易セント欲スル時ハ、有ヲ有トシ、無キヲ無トシテ、知ヲ知トシ、不ㇾ知ヲ不ㇾ知トシテ止ベシ、今サラニ佛ニ混ジ、方便ラシキコトヲ用ヒテ、諸人ヲ欺罔センヤ、至誠天地ヲ貫キテモ化シ難キ民アリ、何ゾ僞詐ノ法ヲ作リテコレヲ化スベキヤ、縱ヒ化ストモ實ニアラズ、況ヤ有モセザル鬼神ヲ僞テ、人ヲ導キ敎ヘンヤ、スベテ古ヘノ天ニ歸シテ云モノハ、天下ノ人ニ正シテ服スベキ天理自然ノコトヲ天トス、佛ノ如キ作リモノニアラズ、又鬼神感格ノコトヲ云モ、同ジク天下ノ人ニ正シテ、一人モ殘ラズ服シ好ム處ノ誠敬ノ至リタル處ヲサシテ鬼神モコレヲ受クトス、未ダ人服セズシテ天服スルコトナク、人受ズシテ神受ルコトナシ、ユヱニ孔子モ鬼ヲ問フトキハ人事ヲ以テ答ヘ、死ヲ問トキハ生ヲ以テ答ヘ、鬼ヲ云ヘバ義ニ對シ、祭リヲ云ヘバ如シト云フヲ以テシルベシ、太古ノ聖人スベテ天ヲ畏レ鬼神ヲ敬スト云フトモ、此トキイマダ後世ノゴトク、佛ノ繁榮スルコトヲシラズ、故ニ少シハ佛ニ似テ法便ラシキコトアリト雖、佛ノ如キニハアラズ、然ルニ聖人ノ言語アルガユヱニ、後人コレヲ破ルコトアタハズ、子路スラスデニ誄ヲ引テ疾ヲ禱ラントス、コレ古書ニ泥ム也、後人ノ泥ムモ亦ムベナル哉、如在トハ中庸又論語ニ出ヅユヱニ略ス

九 禮記ハ漢儒ノ雜記ニシテ無用ノ事多シ、必トスベカラズト雖、又證トスベキコトモアル也、曲禮ニ曰、「天子祭㆓天地㆒、祭㆓四方㆒、祭㆓山川㆒、祭㆓五祀㆒、諸侯方祀、祭㆓山川㆒、祭㆓五祀㆒、大夫祭㆓五祀㆒、士祭㆓其先㆒、非㆓其所㆒祭而祭ㇾ之、名曰㆓淫祀㆒、淫祀無ㇾ福、」コレ漢土三代ノ祭ノ法也、天地ニ非ズシテ天地四方ヲ祭

ルベカラズ、諸侯ニアラズシテ方隅山川ヲ祭ルベカラズ、ソノ祭ルベカラザルモノヲ祭ルハ淫祀ナリ、スデニ「淫祀無レ福」ト云、コレヲ祭リテ何ノ益カアラン、季氏大夫ニシテ泰山ヲ祭リ、又自家ノ祭リニ雍ヲ徹スル、ツヒニ八佾ヲ舞ス、ユヱニ孔子コレヲ誹ル、コレ元ヨリ淫祀ナリ、シカレバ則チ天地日月星辰ヲ祭ルハ、天子ニ限リテ、諸侯ト雖祭ルベカラズ、況ヤ大夫士庶人ニ於テヲヤ、今我邦ニ於テ日月星辰ヲ祭リ、士庶人トシテ天子ノ宗廟ノ神明ヲ祭ル、淫祀ニアラズシテ何ゾヤ星祭ヲナシ、北辰妙見ヲ祭リ、日月ヲ祭ルハ、天地ヲ祭ナリ、伊勢ヤ八幡ヲ祭ルハ、天子ノ宗廟ヲ祭ルナリスベテ祭ハソノ本ヲ忘レズ、ソノ功德ヲ忘レズシテ、其本ヲ報ズルノ意ナリ、故ニソレ〲ノ祭ルベキ所ノ神ヲ祭ルナリ、譬バ吾身アルハ父母之賜也、ユヱニ其身ヲ自ラノモノトセズシテ、父母ノ命ニ從フノミ、ソレヨリシテ孝養怠ルコトナクツトメタルニ、父母スデニ死ス、孝養スベキ處ナシ、コレヲシタヒテ止ザレバ、尸位ナリトモツクリテ是ヲ祭リ、セメテハ存命ニテ在ルガ如クニ、尸前ニシテ孝ヲツクス、コレ祭リノ由テオコル處也、コレヨリシテ其禮備ハリテ、其先ヲ祭リシニ本ヅキテ、天地ヲ祭リ山川ヲ祭リテ、其天下ノ民ノ安穩ナル功德ヲ頌シテ祭ルハ天子ノ任ナリ、其國內ノ山川ヲ祭ハ諸侯ノ任ナリ、土地アルモノハ社ヲ祭リテ地ノ德ヲ報ジ、稷ヲ祭リテ五穀ノ神ニ報ズ、五祀ハ竈井中霤路戶ノ神ヲミナソノ恩ヲ報ズルナリ、天子ヨリ以下庶人ニ至ルマデ、父母祖先ノアラザルハナシ、コレソノ祭ルベキ處ノモノ也、王孫賈ノ意ニヨレバ、竈祭ニシテ五祀ノ一也、竈ハ本神ナリ、奧ハ尸也、奧ニテ饗スコレ本主ト假リモノトヲ云、コノ語ニテ五祀ノ祭マデモ尸ヲ立テタルコトナシルベシ、其外孫ハ王父ノ尸タルベシ、祭祀不レ爲レ尸ト見合スベシ、コノ時マデ尸アルナリ只コレ本ヲ忘レザルナラバ、カクノ如クニ祭リテ可ナリ、其祭ルマ

ジキ神ヲ祭ル皆淫祀ナリ、後世コノ祭ルマジキ神ヲ祭ル人々ノ心底ヲ問ヘバ、ミナコレ福ヲ求ルノミユヱニ無福ト云テ、ソノ淫祀スル人ヲサスモノナリ、論語ニ、奥ニ媚ンヨリハ竈ニ媚ヨト云ヲ以テミレバ、祭リテ福ヲ禱ルコトハ、コノ時スデニアルコトナリ、孔子如在ト云ハ、實ハ在サヾルナリ、スデニ在スナラバ、在ト云ベシ、ナンゾ如ノ字ヲソヘン、コレヲ辨ヘズシテ鬼神ニ泥ム人ハ、コレ只徒ニ信ジテ其幸福ヲ虚空ニモトム、故ニ敬シテ遠ザクル人ハ、コレ智者ナリ、又明器ヲツクル人ヲ喪ノ道ヲシルトス、然レバ生者ノ器ヲ用ヒザルナリ、泥ヲ以車ヲツクリ、草ヲ束ネテ人形ヲ作リテ死者ノ護衞トス、含マスニ玉ヲ用ヒテ米ニカフ、コヽニ於テ虚祀ヲソナヘテ、實ハ神靈ナキヲシルベシ、然ルニ是ヲ辨ヘズシテ、ツヒニ殉死ヲセシメ、人ヲ用ヒテ葬ニ從ハシムルノ禮起ル、陳子禽スデニコレヲ排擊ス、以テ知トスベシ、實ニ神ニ靈アラバ、何ゾ明器ヲ用ヒン、コレ鬼神ナキノ證也、祭義ニ曰、「聞二於無聲一、視二於無形一」云々、「祭不レ欲レ敬、々則煩、煩則不敬也、祭不レ欲レ疏、々則怠、々則忘、」云々、致二齋於內一、散二齋於外一、齋之日思二其居處一、思二其哭語一、思二其志意一、思二其所一レ樂、思二其所一レ嗜、齋三日、乃見二其所一レ爲レ齋者上、祭之日入レ室、僾然必有レ見二乎其位一、周還出レ戶、肅然必有レ聞二乎其容聲一、出レ戶而聽、愾然必有レ聞二其歎息之聲一、是故先王之孝也、色不レ忘二乎目一、聲不レ絕二乎耳一、心志嗜欲不レ忘二乎心一、致レ愛則存、致レ愨則著、存不レ忘二乎心一、夫安得レ不レ敬乎、」云々、此語ヲヨク〳〵味フベシ、コレ鬼神ヲ祭ルノ要ナリ、關雎ノ寤寐ニコレヲ思ヒ、孔子周公ヲ夢ミル、ソノ外孝子喪禮ヲ行フミナ

此意ニシテ、彷彿トシテ間見シ、在スガ如キノ思ヒヲナスコトハ、ミナ其祭ル人ノ誠敬眞實ニアリテ、鬼神ニソノ徵ハナキナリ、コヽヲ以テ鬼神ヲ祭ルノ誠心ヲミルベシ、ミナ我ニアリテ彼ニナキコトヲシルナリ、シカルニ鬼神ニ泥ム人ノ心ハ、ミナ我ニナクシテ彼ニアリトス、始ヨリ主客彼我ノ差謬アル也、コレ卽チ鬼神ニ事フルノ機密ニテ、毫厘ノ差ヒヲ過マルニ千里ヲ以テス、コノ眼中ノクモリ取ザレバ、無益ノ鬼神ニ役セラレテ、一生疑惑ヲ免カルヽコトナク、人ノ人タル道モシラズシテ、晝夜千辛萬苦シテ死シテ後止ニ至ル、悲イ哉、故ニ丁寧反覆シテコノ篇ヲ輯ム、必シモ無益ノ福ヲ求メテ鬼神ヲ信ジ、朝夕ニ媚諂フテ心神ヲ費スコトナカレ、曲禮ノ語ハ愚人ニ對シテ云ツクスベカラズ、無福ノ二字ヲ以テ其無益ノ心ヲ費シ、鬼神ニ泥ム人ヲ戒ムナリ、スデニ無福ナレバ、ナンゾ祭ヲ爲ン、其益ノ無キヲ知ラバ、思ヒ止ルベキノミ

十　中庸ニ曰、鬼神之爲レ德、其盛矣乎、視レ之而弗レ見、聽レ之而弗レ聞、體レ物而不レ可レ遺、」（コノ鬼神ハ陰陽ヲサス、單ヘニ神ト云ベカラズ、コレハ陰陽ノ神ナリ）云々コノ章コレマデハ、程子ノ所謂「天地之功用、而造化之迹也」ト、張子ノイハユル「二氣之良能、」朱子ノイハユル「鬼者陰之靈也、神者陽之靈也、至而伸者爲レ神、反而歸者爲レ鬼、其實者一而已」、云々（コレハ天地山川人鬼、トモニ祭ラルルトキヲサス）ト云トコロナリ、ソレ日輪ハ天地ノ間ノ一大陽ニシテ、衆陰コレニ蒸立ラレテ、和合シ生育シ、其形體ヲ陽トシテ其德ヲ神トス、神變不測ヲ以テ名ヅクル也、天ハ繞リ地靜ニシテ、日月星辰運行シ、春夏秋冬行ハレ、艸木花實時ヲ錯ヘズ、人畜魚蟲壽夭生死ノルイ、一トシ

テ陰陽ノ德ニアラザルハナシ、爰ヲサシテ物々ニ體シテ遺サズト云フコトナリ、「使二天下之人一、齊明盛服、以承二祭祀一、洋々乎如ㇾ在二其上一、如ㇾ在二其左右一」云々、此一節ハ鬼神ヲ祭ルヲサスナリ、履軒先生曰、「誦二得如在二字一、然後始可三與語二鬼神一矣、」ア、如ノ字鬼神ヲ云ノ妙ナリ、鬼神ニ泥ムモノハ、「在二其上一、在二其左右一」ト云、鬼神ヲ破ルモノハ、無ㇾ在ト云ベシ、如ノ字ニテ泥マズ捨ズ、鬼神ノ情ヲツクスベシ、本ヨリ鬼神ハナキモノニ決定スト雖、齊明盛服シ、誠實恭敬ヲ致シテ祭トキハ、上ニ在スガ如ク、左右ニ在ガ如シ、聲ナキニキヽ、形ナキニ見ル、コレ祭人ノ誠敬ノミ、誠敬ヲ以テコレヲ祭レバ在ガ如クナルナリ、誠敬ナクシテコレヲ祭レバ、在スコトナシ、ソノ實ハツヒニ在サヾル也、詩ニ曰、「神之格思、不ㇾ可ㇾ度思、矧可ㇾ射思」ト、コレハ大雅抑篇ノ詩也、衞ノ武公コノ詩ヲツクリ、日夜侍人ニウタハセテ自ラ戒シム、コレハ天地人我ノ四知ニテ、天知ル、地知ル、人知ル、我知ルノ意ニシテ、何時カ鬼神ノコヽニ至リテ、己ノ不敬ヲ見ルモ知ルベカラザレバ、油斷ナラザルナリ、愼可シ〳〵ト云事ニテ鬼神アリト云テ怠ラザル也、中庸ニ此詩ヲカリ來リテ、孔子ノ如在ヲ證スル也、「至誠之道、可三以前知一、國家將ㇾ興、必有二禎祥一、國家將ㇾ亡、必有二妖孽一、見二乎蓍龜一、動二乎四體一、禍福將ㇾ至、善必先知ㇾ之、不善必先知ㇾ之、故至誠如ㇾ神」云々、コノ章ハ前ノ鬼神之章ヲハナレテ後ニアリト雖、三宅氏中井氏ノ門ニオイテ中庸定本ヲ作リテ、此二十四章ノ次ヘ鬼神ノ章ヲ迻リテミレバヨク全備ストス、「至誠如ㇾ神」ヲウケテ、鬼神之爲ㇾ德其盛ナルカトツヾク也、至誠ト云、前知ト云、鬼神ト云、鬼神

ノ告知ラスニアラズ、至誠睿明ノ人ハ胸中ノ鏡ヲヨク磨キテ、一點ノクモリナキユヱ、モロ〱ノ事ミナヨク前知ス、孔子ノ子路ノ死ヲシリ、孟子ノ盆成括死セント云ノルイ、又左傳ニハ某ハ其ノ後ニ亡ンカ某ハ死センカ、某ハ不終カト云ノルイ、ミナコレ四體ニ動クモノ、湯ノ三驅、文王ノ其二ヲタモチテ服事スル、コレ禎祥ナリ、桀ノ時日曷亡、紂ノ酒池肉林、コレ妖孽ナリ、必シモ青龍見、甘露降ヲ禎祥トシ、大廟鳴動シ、彗星見ヲ妖孽トスルニアラザルナリ、ミナ實事ナリ、スベテ聖知ノ人ハカクノ如シ、幾微ヲ以テヨク興亡ヲ前知ス、タトヘバ名醫ノ脈ヲ察シ腹ヲ撫シテ、其病ヲシルガ如シ、コノ所ヲサシテ神ノ如シト云テ、其明睿ヲホムルナリ、決シテ別ニ鬼神アリテ告知ラスニアラザレドモ、ソノ知ノ奇妙ナルハ、神アリテ告シラスガ如キナリ、中庸ニ、鬼神ヲ云コト此ノ如シ、ミナコレ實ニ求ムル也、必シモ虚ニ求ムベカラズ、唯聖知至誠ノ人ハ、其知ヨク事物ヲ早クサトリテ前知スルナリ、コレヲ「哲人知レ幾」ト云々、詐リヲモムカヘズ、信ゼザルヲモ億ラズ、抑亦先サトルノミ、決シテ奇妙不思議アルニアラズ、ヨク〱コレヲ辨ヘテ後鬼神ニ交ハルベシ、上古ノ聖賢民ヲシテコレニ由ラシム、ユヱニ天下ヨク治ルモノナリ

十一　論語「子曰、非二其鬼一而祭レ之、諂也、見レ義不レ爲、無レ勇也、」ト云々、「務二民之義一、敬二鬼神一而遠レ之可レ謂レ知矣、」ト云々ト此二章鬼ト義ト對ス、葛屺瞻曰、「一是不レ當レ爲、而爲レ一、是當レ爲、而不レ爲、胸中各爲二禍福二字所一レ驅、」是義ハ世間ノ爲サズンバ叶ハザル所ノモノ也、鬼神ヲ祭リ禍福ヲ禱ルモノハ、

爲ベカラザル處ナリ、コノ祭ハ我祭ルベキ所ニ非ズシテ祭ルモノナリ、故ニソノ鬼ニアラズト云、我祭ルマジキ鬼神ヲ祭ルハ、皆淫祀ニシテ禍福ヲ祈ルニ心アレバ也、苟モ禍福ニ心ナクンバ、何ヲ以テカ外神ニ媚祭ラン、コレ其義ノナキ處也、故ニ鬼神ニ媚ル者ハ義ヲ務メズ、義ヲ務ムル者ハ鬼神ヲ信ゼズ、醫藥ヲ用ヒテ病ヲ療スルガゴトシ、ヨク其治療ヲ施シテカナハザルハ、天也命也、鬼神ノシル處ニアラザル也、スベテソレ〴〵ノ藥方アリテコレヲ救フ、コレ爲スベキ處ノ義ナリ、コレヲ用ヒズシテ、空々タル譯モシレザル鬼神ニ祈ル、何ノ效驗カアラン、タマ〳〵治スルモノハ偶然ニシテ、藥ヲ用ヒズトモ治スベキ疾ナリ、スベテ鬼神ノシラザル處ナリ、常ニ忠孝仁義ノ爲ベキコトヲナシテ、患難ノアルベキヤウナシ、タマ〳〵アレバコレ天ナリ、然ルニコレニ反シテ、忠孝仁義ノ爲ベキヲセズシテ、患難ノ至ルヲウレヘテ鬼神ニ祈リ、媚諂フテ苟モ免レントスルハ、ソノ實義ヲ務ズシテ、虚不義ヲナシテ患難ヲ免レントス、コレ木ニヨリテ魚ヲ求ルナリ、ユヱニ孔子モ「獲ニ罪於天一、無レ所レ禱也」ト云、又「丘之禱久矣」ト云、コレミナ其鬼ニ非ザレバ祭ラズシテ義ヲツトメ、鬼神ヲ汚サズ近ヨラズ、敬シテ遠クルナリ、是ヲ以テミレバ、タトヒ博識多能ノ士タリトモ、鬼神ヲ信ジテ事トスル人ハ、其知ノ至ラズシテ愚ナル處アルヲ知ルベシ、人トシテ篤敬忠信ナレバ、上ミ天ニハヂズ、下モ人ニ愧ズ、天地ニ耻ベク恐ルベキコトナシ、何ゾ天ニ媚ン、又ナンゾ權勢ニ諂ハン、況ヤ靈驗モナキ奥竈ヲヤ、又況ヤ天神・稻荷・聖天・妙見・不動・觀音、淫祠・狐狸ノ類ヲヤ、決シテ祈ルベカラザルコト必セリ、子常

ニ怪力亂神ヲ語ラザルハ、ミナ非常ノモノニシテ遠ザクベキモノナレバ也、履軒先生曰、「先王之禮不レ禁レ禱、亦從ニ人情一也、其實無下有ニ應驗一之理上、則不レ若ニ弗レ爲之愈一者也、故衆人爲レ之不レ足レ非也、至下於子路欲中爲ニ孔子一禱上、則近ニ乎惑一矣」ト、此說ヲ以テ禱ノ用ナキヲシルベシ、「匡人其如ニ予何一、」「桓魋其如ニ予何一、」「公伯寮如ニ命何一、」「臧氏之子如ニ命何一、」コレラハミナ正ヲ守リテ斃ル、ノ意ニシテ、聖賢ノ世ニ處スル、殆地ニ陷リテ苟モ免ル、コトヲ求メザル也、又鬼神ニ祈リテ應驗ナキヲシルユヱニ、天命ニ皈シテ迷動スルコトナク、コノ言ヲ發シテ苟モ免カレザルヲ示ス、コレヲ以テ聖賢ノ胸中ヲ知ルベシ、「季路問レ事ニ鬼神一、子曰、未レ能レ事レ人、焉能事レ鬼、敢問レ死、曰、未レ知レ生焉知レ死」コレ鬼神ニツカヘ死ノ道ヲ問フ、ミナ有用ノコトナレドモ、サシ當リタル父母ニ事ヘ、兄弟・朋友ニ交ル道ヲサシ置テ、等ヲコエテ鬼神ニ事フルコトヲ問ヒ、又己ノ今日ノ生業行ヒノコトヲサシ置テ、死ルノ後ノコトヲ問フミナ切問ニアラズ、生タル人ニヨク事ヘ誠敬至リ、ソノ情ヲヨクツクシテ、人ヨクコレヲ受タルノ後ニ鬼神ニ事フベシ、生タル人ハヨクソノ受ルヤ受ザルヤヲ知ルト雖、鬼神ノ云ザル、其受ルヤ受ザルヤ知ルベカラズ、生ノ理ヲヨクシリテ人事ヲツクシテ後、死後ノコトヲ云ベシ、「子張問、十世可レ知也」ト、孔子ニ告ルニ三代ノ禮ヲ漸々ウケツギテ、ソレヲ損益シテ行ヒユケバ、百世ト雖知ベシト云ト同意ニシテ、往ヲ告テ來ヲ知ノ意、神佛家及陰陽家ノ未前ヲ察ルガ如キニアラザルナリ、ミナ實ヲ蹈テ虛ヲ察ス、苟モセザル處也、「或問ニ禘之說一、子曰不レ知也、知ニ其說一者之於ニ天下一也、其如レ示ニ諸斯一乎、

指二其掌一」ト、竹山先生曰、禘（禘ハ始祖ヨリ又遡リテソノ大祖ヲサス也）ハ先王ノ本ニ報ズル大祭ナリ、父祖アルユヱニ、己ガ身今日アルナリ、ダン〱遡リテソノ始祖ヲ天ニ配シテ祭ル、コレヲ禘ノ祭ト云、王者ニ限ルノ祭ナリ、カクノ如ク遠キ禘ヲ祭ルニ、散齋致齋誠敬ヲツクシ、笑語嗜欲彷彿ト今見ルガゴトクニ實情ヲツクスコト、豈凡人ノスルコトナランヤ、其顏面ヲシリタル父母サヘモカクアラザルニ、遠キ祖先ヲ祭ルニモカクノ如シ、然ルヲ況ヤ今現在ノ天下ノ百姓ヲヤ、群臣妻子ニ於テヲヤ、ナンゾコレヲ疎ニスベキ、カヽル誠實ノ心アリテ、マタヨク禘ノ説ヲシル、王者ノ天下ヲ治ムルニ於テハ、手ノ内ニテ物ヲトリ廻スヨリモ易シ、コレラノ語ヲ讀テ神ヲ祭ルノ道ヲ考フベシ、「祭如レ在、祭レ神如二神在一、吾不レ與レ祭、如レ不レ祭、」上ノ二句ハ古語ナリ、蓋「祭如レ在」ノ一句古語ニシテ、「祭レ神如二神在一」ノ句ハ記者ノ釋解也、「子曰、吾不レ與レ祭、如レ不レ祭」ノ二句ハ即孔子ノ語ナリ、履軒先生曰、祭祀之説、如在之二字盡矣、莫二以尙一レ之、學者所レ宜二潜レ心熟玩一レ焉」ト、ア、此二字ヲヨク〱覺リテ、鬼神ニ事フベシ、范氏曰、「君子之祭、七日戒、三日齋、必見レ所レ祭者、誠之至也、是故郊則天神格、廟則人鬼享、皆由レ己以致レ之也、有二其誠一則有二其神一、無二其誠一則無二其神一、可レ不レ謹乎、吾不レ與レ祭、如レ不レ祭、誠爲レ實、禮爲レ虛也」ト、卓タルカナ范氏ノ識ヤ、誠ナケレバ其上ニ在ラズ、マタ左右ニアラズ、其神ナケレバ祭ト雖何ノ益ゾヤ、スデニ自カラ祭ラザレバ、祭ラザルガ如シト云、豈人ヲシテ祭ラシムベケンヤ、故ニ誠ヲ實トシテ禮ヲ虛トス、其誠實ナキトキハ、何ホドノ禮ヲ備フト雖皆虛也、況ヤ人ヲシ

テ祭ラシムヲヤ、大抵論語中ノ祭祀ニ及ブモノヲ擧ルニカクノ如シ、後儒サマ〲ノコトヲ論ズト雖、孔子ノ語ニ正シテ考フベシ、ソノ餘家語ニ、神怪ノコトヲ云コト多シト雖、ミナコレハ後人ノ擬作ニテ、孔子ヲシラザルモノヽ記スル處ナリ、孔子ノ神聖ソレカクノ如ク妄ナランヤ、孔子ヲ贊嘆セントシテ、却テ其德ヲ貶スモノ也、他書ニモ孔子ニカリテ論ヲ立ルコト多シ、ヨク〲取捨スベキ也、老・莊・列・淮ソノ餘ノ諸子神怪妄誕ノ冊ニアフル、必用ユベカラズ、然ルニ後人只聖人モ鬼神ヲ敬ストノミ云テ、其遠ザクルヲ云ハズ、思ハザルノミ、故ニ今孔子ノ語ニ詮議ヲトリテコヽニ論ズ、空論ニアラザルナリ

十二　孟子曰、「天不レ言、以ニ行與一レ事、示レ之而已矣、使ニ之主一レ祭、而百神享レ之、」コレ天ト云テミナ人事ニアルナリ、「百神享レ之」ト云モノ、百神ナンゾ是ヲ受ト自ラ云ンヤ、其誠敬ノアリサマ萬人是ニ感動シ、イカサマニモ百神モヨモヤ受ザルコトアルマジト思フ處、則チ神コレヲ受ル也、コレモ亦人ニアルナリ、天ニアラザル也、又神ニモアラザルナリ、然レバ則チ天ト云神ト云モノ、皆人ナルヲシルベシ、「聖而不レ可レ知レ之、之謂レ神、」コレハ聖人ノ德ヲサシ、ソノ知ノ妙ナル所ヲサシテ云、聖則神ナル故ニ、聖人ハ神聖ト云、易ニハ多クコレヲ云也、スベテ孟子ノ語ハ的實正當ニシテ苟モ妄誕ナシ、故ニ鬼神ノコト寡シ、コレカリソメニ云ザルヲ知ルベシ

十三　左氏傳曰、「昭公七年、伯有爲レ厲、子產曰、鬼有レ所レ歸、乃不レ爲レ厲、吾使ニ之飯一也」ト、スベ

テ左傳鬼神ヲ云フ〻多シ、（家語・左傳ハ鬼神ニ惑ハス發端也、此書ナクバ迷フベカラズ、其外公子彭生申生ナド、サマ〴〵ノ怪事チ記ス〻アレドモ、擧テ計フベカラズ、コノ書浮華虚妄、ヨク心得テヨムベシ）ミナ妄誕也、殊ニコノ說ヲ甚シトス、此語ヲ以テ見レバ、滅國ノ鬼ハ皆厲ヲナスベシ、是子産ノ實語ニアラズシテ、左氏ノ妄語ナランカ、又ハ鄭國ニオイテ伯有ノ厲ヲ恐ル、コト甚シキガユヱニ、是ヲ鎭メンガ爲ニ、子産ノ當知ヲ以テ人氣ヲヲサムルモノカ、然ルニ我邦ニテモ菅公ヲ始メ、早良親王・伊豫親王・藤夫人・藤廣嗣・橘逸勢・文屋宮田丸・井上內親王・相馬將門・崇德院・後鳥羽院ノ如キハ、ミナ強死憤死シテ後厲ヲナスト言テコレヲ祭ル、（廣嗣・逸勢・將門ノ祠・ヤケズシテ、伊勢・八幡ノ宗廟ノヤケタルハ何トカ云ハン、孔子ノ言ニハ合ザルナリ）多クハ佛氏陰陽家ノ語ニヨル者也、左氏曰、「鄭人相驚、以伯有有伯有至矣、則皆走不知所往」中略 是伯有ノ厲實ニ出ルニアラズ、伯有ガ至ルト云テ脅ヤカスノミニテ、皆走リ逃ルニ、其伯有ノ往所ヲシラザルモノハ實ハ出ザルヲ云也、「鑄刑書之歲二月、或夢伯有介而行」是ハ夢ニ見タルコトニテ、實ニ甲冑シテ出タルニアラズ、「子産立公孫洩及良止、以撫之、乃止、」良止ハ伯有ガ子也、故ニ伯有ノ靈ヲ祭ラシム、コレ子産國中ノ人氣ヲ靜メンガ爲ニスル處カ、又ハ子産モ鬼神ヲ信ジタルヤ知ベカラズト雖、其心ハ問フニ及バズ、カクノ如ク祭ヲ立タル故ニ、人氣ノ靜ルコトハ一也、「子産曰、鬼有所歸、乃不爲厲、吾使之歸」ト、是子大叔ノ問ニ答ルノ語也、此言子産實ヲ以テ告ルヤ、又ハ當坐ノ答ニ云シヤ知ルベカラズ、「人生始化曰魄、既生魄、陽曰魂、用物精多、則魂魄強、是以有精爽至於神明、匹夫匹婦強死、其魂魄猶能馮依於人以爲淫厲、況良霄、我先君穆公之男、子良之孫、子耳之子、敝邑之卿、

従レ政三世矣、鄭雖レ無レ腆、抑諺曰、蕞爾國、而三世執二其政柄一、其用レ物也弘矣、其取レ精也多矣、其族又大所レ馮厚矣、而强死能爲レ鬼、不二亦宜一乎」ト、此魂魄ノ說ハ、家語祭義ニ出ル物精ヲ用ユルノ論ニ拘ハルト云ベシ、强死ノコトハ楠公ノ最後ノ一念ニヨリテ生ヲ引ト云ト同ジ、ミナ古來コノ說アリ、スデニ楠公大森彥七ノ劍ヲ取ラントスルノ厲ヲ書出サンガ爲ニ、玄惠ノ云コトナランカ、最後ノ一念生ヲ引テ强死ノ厲アルモノナラバ、遠キ四國ニ行テコノ劍ヲ求メンヨリ、早ク京都ニ往テ尊氏ヲトリ殺スベシ、又佛經ノ功力ニヨリテ、厲ノ止ムモノモウスキ一念カナ、足利氏ヲ滅シテ王室ニ復セントノ一念ナラバ、今少シ强ク引タキモノナリ、サテ又杜預ノ註ニ、子產ノ博敏ヲ言ト云モ、我シラザルナリ、子止ヲ立テ厲ヲナサシメザリシハ、即座ノ敏ト云ベケレドモ、博ト云ハ鬼神ノ說ヲ云也、諺ニ曰、ヒイキノ引倒シナルモノカ、此說ヲキヽテ子產ノ妄ヲ知ルニ足レリ、多クハミナ左氏ノ作也、ソノ外鬼神ヲ云、鬼厲ヲ云コト、多ク子產ニ屬スト雖、抑左氏自ラ云ナリ、家語ノ鬼神ノ問答、ソノ餘怪力亂神ヲ云コト、擧テ數フベカラズ、孔子ノ雅ニ云處ハ詩書執禮、マレニ云モノハ利命仁、語ラザルモノハ怪力亂神、ナンゾ木石水土ノ怪ヲ云ンヤ、防風ノ骨何ニヨリテ大ナル、周尺ニシテ三尺ノ人ハ、大テイ今一尺八九寸、三丈ノ人ハ一丈八九寸、カヽル大人小人アランヤ、魯國災アリ、僖・桓ノ廟ニ及ブモノハ、風ニ向テ火ヲ引クモノ也、コレヲ以テ孔子ノ言ヲ稱スル時ハ、毀ツベクシテ毀タザルノ廟ハミナヤクベシ、童謠ニヨリテ萍實ヲ辨ズル、詩ヲ以テ雨ノフルヲ知ル、其外ノコト云ニ暇アラズ、

コレラヲ以テ孔子ヲ多トス、我ハ知ラザル也、家語・禮記其餘ノ諸子多ク孔子ノ語ヲヒクモノハ、ミナソノ作者ノ甲ニ似セテ贋ヲ掘ルモノ、孔子ヲ貴マシメント欲シテ、皆其實ハ賤シムルヲ知ラザル也、孔子ノ語ノ實ニ正スベキモノハ、上論十篇シカリトス（今天下萬國ヲ考フルニ、カカル大人モ小人モアルコトナシ、コレ孔子ノ妄言、シラズシテ云モノ、アニ孔子ナランヤ）、鄕黨ノ篇ハ孔子ノ行狀ヲシルス、下論十篇ハコレニ繼グ、上論ニ比スレバ煩雜ナリ、又大學・中庸・孟子ニ出ルモノ正トスベシ、曾子・子思・孟子ノ引處ナレバナリ、ソノ餘ノ諸書易傳ヲ始トシテ、孝經・左氏・莊・列・荀・戴（戴ハ禮記ヲ云フ）諸子百家、ミナ孔子ニ託シテ己レガ說ヲ博クセントスルモノ多シ、必シモ論・庸・孟ノ外、孔子ノ言語ヲ實トシテ信ズベカラズ、然ルニ之ヲ取捨スルコトハ抑我賢ニアルノミ、惡キ語ハ孔子ト云ドモ執ベカラズ、荀モ善言ナランカ、其人ニカカハルコトナシ、アニ人ヲ以テ言ヲ廢センヤ、ソノ孔子ニ託スル言語アレバ、ヒタモノニ只信ジテコレヲ主張ス、徂徠氏ノ「非₂先王之法言₁不₂敢言₁」トリ分鬼神ノコトヲ云ハントスル、必ズ先蒙ラスニ孔子ノ曰ヲ以テスルモノ、戰國以後ノ風俗ナリ、ソノルイノ如シ、論語一部ミナ見ルベシ、一トシテ先王ノ法言ヲ正シテノ玉ヒシ語ナシ、又先王ノ法服モ服セズ、先王ノ德行モ行ハズ、聖人ハ時ト推移リテ、風俗ヲ正シキニ歸セントス、質ニ過レバ忠、々ニ過レバ文、々ニ過レバ檢、決シテ先王ノ法ニ拘ハラザル也、殊ニシラズヤ、孝經ノコノ文ハ、卿大夫ノ孝ヲ云コトニシテ、其國朝ノ先王先公ノ法言法服ヲ云、弘ク君子ノ行ヲ敎ユルニアラザル也、スベテ後儒ノ書ヲ信ズル、其作者モ其前後ノ文モ、時所位モシラズシテ、ヒタ信ジニ信ジテ、一言古書

ヲ以テ前後ヲテラシ考ヘタル人少シ、山海經ノ黃帝其山ノ神ヲ生ム、帝堯某山ノ神ヲ生ム、人首蛇身、狗首人身、ソノ餘神異經・搜神記・述異記・博物志等ノ說ヲ以テ、今ノ有ユルモノト合セミルベシ、古書ノ妄作コヽニ於テ知ベシ、後世鬼神ヲ云モノ家語禮記ヨリシテ、左傳子產ノ語ヲ本トスルモノ多シ、君子一言ヲ以テ知トナシ不知トナス、愼シマザルベケンヤ、我邦ニテ津輕若木ノ判官・對王丸・安壽姬・隅田川梅若ノルイハ、ソノ物語ノ哀憐ニヒカレテ里人ノ祠ヲ立テ祭ル處カ、スベテミナソノ鬼ノシラザル處ニシテ、後世厲ヲナシ憐ヲウケテ、神ト祭ラルヽモノ也、コノ厲ナナスト云ハ、人ヨリ謂ノ厲トスル也、ジツニ其人厲ナナスニアラズ、死シタル心神ナキ人ナ玩物ニスル也、實ニ神アラバ、憤リ玉フベシ偶然ノ幸ナランカ、關羽ノ後榮ヲ得ルモノハ、是モ亦天ナリ、我邦ノ菅公ノ如キカ、アヽ其人再生セバ、何トカ云ハン

十四　程子・朱子鬼神ノ論ハ、コト〳〵ク善ヲ信ズルモノニシテ、トリ留ル處ナシ、アヽ二公古來ノ大賢ニシテカクノ如シ、宜ナル哉山崎・室・物部・太宰・新井氏ノ如キ鬼神ヲ論ズルノコトニ至リテ、其平生ノ學ニ異ナルコトヲ、コレ如在ノ二字ヲ熟シ得ザル也、漢ヨリ後ノ儒者ミナ鬼神ノコトヲ理會セズ、程・朱ノ二賢ト雖、范氏ノ決斷ニ及バズ、語錄ノ鬼神ノ說煩雜云ベカラズ、先陰陽ヲ以テ云モノアリ、天地山川ヲ云アリ、人鬼ヲ云アリ、邪鬼ヲ云アリ、幽厲ヲ云アリ、語錄ノ論コレヲ混亂ス、ユヱニソノ說分別セザル也、其聚散ヲ云モノ、コレ迷亂ノ始ナリ、ソノ魂魄ト云モノ、生レバ有、死スレバ無、コレ有無ト云テ可也、聚散ト云ユヱニ、生ゼザルノ前ヨリ有テコヽニ聚リ、死シテ後ハ散リテ、處々

ニ依憑スルガゴトシ、コノ聚散ヲヤメテ有無ト云ヘバ、疑ハシキコトナキナリ、往來・屈伸・生死・晝夜ト云フモノハ、二氣ノ良能、造化ノ迹ト云フト同ジコトニテ、只陰陽ト云フコトナリ、張子ノ「一言以蔽レ之、曰誠而已、」張子朱子イハユル誠ハ、鬼神ノ誠ヲサス、ナンゾ鬼神ニ誠アラン、陰陽ト云トキハ誠ナリ、人鬼ヲ云トキハ空虛ナリ、范氏ノ誠ハソノ祭ル人ノ誠ヲサスナリ、ユヱニソノ祭ル人ニ誠アレバ、ソノ神アリ、誠ナケレバ、ソノ神ナシト云 コレモマタソノ可ヲシラズ、文公コレヲ解シテ、「誠是實然之理、鬼神亦是實道理、若無二這實理一、則無二鬼神一、無二萬物一」ト云フモノハ、其ノ物ニ體シテ遺サザルヲ云ナルベシ、サレドモ是レヲ誠ト云フベカラザル也、命ト云ハ、誠實ヲツクシツキテモ、物ゴト叶ハザル所ヲサスモノ也、聖人ノ命ナルカナト云ハ、ミナ氣ヲウクルトキヨリ定リタルト云ハ、佛家ノ言コトニテ、吾聖人ノナシヘニハナキコト也、天命ズルヲ性ト云ノ命ハ、命令ノ命ニテ意カロシ、天ナリ命ナリトノ命ハ、ユキツマリタルトキノ命ニテ、意味尤重シトシルベシ、スベテ天ト云ニ、天ニモ二ツアルベシ、マタソノ命ニモ二ッアリト心得ベキモノナリ 「人氣本騰レ上、去如二火之煙一」ト云フトキハ、陽ノミ有リテ陰ナシ、ナンゾ人トナラン、「死生有レ命、當レ知下稟二得氣一時、便定了上」カク云フトキハ、命ノ字義大ニ異ナリ、凡俗ノ云フ如ク、生ヲ受ルトキヨリ約束ナリ、十月ニハ天下ノ神タチ出雲ニ集リテ、夫婦ノ緣ヲ結ビ玉フナリ、前生ヨリノ因緣ナド云フニ過ギザルナリ、「非レ命而死者、或溺死、或殺死、或暴病卒死、是他氣未レ盡、故依憑如レ此、然終久而亦必消了、又有二是乍死一、氣未二消盡一、是他當下始稟二得氣一盛上、故如レ此、然終久而亦必消了、」コレミナ伯有ノ厲ヨリ出ヅル論也、變死ノモノ氣盛ニシテ盡キザルモノハ、鯉鰻ノゴトク數段ノ截體、ソレ〳〵ニ動クベシ、ナンゾ生キテ働クトキニ出テ人ニ依ラザル氣ノ、死シテ後出テ人ニ依リ働カンヤ、コレ一言以蔽レ之、曰、「知レ生則知レ死也、」カクノゴトキノミ、生中ニ他ニ憑ノ氣ナシ、ナンゾ死後ニ他ニ憑ノ氣アラン

ヤ、「昔有レ人、有ニ淮上一、夜行見ニ無數形象一、似レ人非レ人、旁午充斥、出ニ沒兩水之間一、久レ之業々不レ絶、此人明知ニ其鬼一、不レ得レ止、已跳躍衝レ之而過、足下却無レ礙、然亦無レ他詢レ之、此地乃昔人戰場地也、彼皆死ニ於非命一、御レ寃抱レ恨、固宜レ未レ散、」トア丶是ラノ論ヲ以テ見レバ、語錄ノ書朱子作ニアラズ、ナンゾ朱子斯ノ如ニ愚ナランヤ、阮宣子スデニ曰、衣服モ亦鬼カト、余思フニ衣服ヲ云ノミニアラズ、人死シテ已ニ土中ニアリ、若又外ニアラハル丶トキハ、縱ヒ裸形ナリトモコレ土中ニアル體ト外ニアラハル丶體ト二體ナリ、ナンゾ死シテ二ツトナラン、煙ノゴトシト云ハヾマタ可ナリ、スデニ人ニ似テ人ニアラズト云ヘバ人體ナリ、後世佛氏出デ、火葬モ亦少トセズ、スデニ火化スレバ體ナシ、ナンゾ其體ヲアラハサン、コレ皆其見タリト云人ノ虛僞ナルハシルベシ、皆古今ノ俗人ノ形ヲ見ルト云フラセシヨリシテ、カ丶ルモノト思フ迷ヒ有ガ故ニ、是ヲ難ズルノ人ナシ、土中ニ在所ノ死骸棺ヲ破リテ土ヲ穿チテ出ニアラズ、然レバコレ外ニアラハル丶モノト二體ナリ、コレ氣ニシテ體ナリト云ハヾ「見ニ無數形象似レ人非レ人」ト云モノニ合ズ、スデニ魂ハ形ナシト云ニアラズヤ、然レバコ丶ニ形象人ニ似テ人ニ非ズト云モノハ、以テ云モノ丶過也、左傳ノ伯有ノ厲ハ伯有至ルト云ヒ又アル人伯有介冑シテ行ト夢ミルト云ノミ、實ニ見タリト云ニアラズ、實ニ形チ見タリト云モノ、佛法以後ノコト也、鬼實ニアルモノナラバ、古今ノチガヒナカルベシ、是チ以テミルベシ、タトヒ三代ノトキ此コトアリト記ストモ、コレハ後世ノ人ノ云コト也、又日本ニテモ死シテ蘇ルモノ、地獄チミタリト云モノ、ミナ虛妄ノ談ナリ、佛渡ラザル前ニコノコトナシ、實ニ鬼神アリテ、實ニ地獄極樂アラバ、ナンゾ古今アラン、鬼神ハ決シテナシトシルベシ 宣子モ衣服ニ心ツキテ、イマダ其形ニ及バズ、ミナソノ本ハ左傳ヨリ起ルモノ也、又コレヲ見タリト云人ナキモノ也、佛者ハ自ラ見タリト云ト雖、コレハ自カラ欺クモノナリ、又スデニ上ニ「終久而消了」ト云トキハ、三日五日ノ心ナルベシ、然ルニコ丶ニ昔人ノ戰場トイヘバ、五年ヤ十年ノコトニアルベカラズ、ナンゾ長ク消了

ラザラルヤ、關ガ原及大阪ノ城邊ハ近キ戰也ト雖、ツヒニコレアルヲ聞カズ、ミナコレ自ラ言フ辭ノ齟齬スルヲシラズ、ナンゾ朱子ノ大賢カヽル說アラン、然レドモスベテ博識ノ人々ノ平生ノ才德ニ似合ザルハ、鬼神ノ說ナリ、カク云トキハ大儒ノ人々ヲ誹リテ、予ノミ說ヲ得タリト云ヤウナレドモ、余モ亦受ル處アリ、三宅・中井ノ門ニ於テ、決シテ鬼神ニ泥マザル也、況ヤ竹山・履軒兩先生ノ如キ卓越ノ大儒ニシテ、コレニ親炙シテ聞クコトアルニ與ルニ於テヲヤ、「若レ是誠心感格、彼之魂氣、未ニ便盡散一、豈不ニ來享一」コレモ又「終久而消了」ニ合セズ、イマダコト〴〵ク散ゼズト云モノ、前說ト大ニ異也、「神祇之氣、常伸不レ已、人鬼之氣、則消散而無レ餘矣、其消散亦有ニ久速之異一、人有下不レ伏ニ其死一者上、所ニ以既死而此氣不レ散爲レ妖爲下怪、如ニ人之凶死、（凶ハ强ノ說ナラン）及儒道之人一、既死而不レ散、若ニ聖賢一則安ニ於死一、豈有下不レ散而爲ニ神怪一者上乎、如ニ黃帝堯舜一、不レ聞下其既死、而爲ニ靈怪一者上也、」コレ天地神祇ノ氣伸テ止ズト云モノハ、陰陽造化ヲサスモノカ、（病死ノ者ト强死ノ者ト、大ナルチガヒハナシ、人生大テイ六七十年、强死ト云ヘルト病死トハ、三十年ヲ違フマジキモノ也、シカルニ五六十年ニテ病死スルモノハ、ソレカギリニテ消シ、三十年ニテ强死スルモノハ、百年或ニ百年モ散消セザルハ却テ長生ノゴトシ、又コノ消散セズト云モノ、佛者ノイハユル中有ニ迷フカ、又イマダウカマザルモノカ、四十九日ノ間魂氣ノ家ノ棟ヲ離レヌト云、コレラハミナ佛家ノ云コトオリ、何ヲ以憑ニ證トスルヤ、ツヒニ見タルト云人ナシ、コレミナ以テ妄誕トルニ足ラザルヲシルベシ、コレヲ云モノハ、ミナ〳〵婦女子ノ見ナリ、ア、淺ハカナルカナ）人鬼ノ消散ニ久速ノ異アリトスルモノハ、五年十年乃至百年千年餘モアリト云コトナランカ、ソノ死ニ伏セズト云モノハ、變死ノコトナラン、コノルイミナ妖怪ヲナスト云フ、我シラザルナリ、僧侶ノルイ精神ヲ養テ、凝聚シテ散ゼズト云モノモ、亦異ナル哉朱子ノ說ヤ、浮屠氏ハ常ニ心志溺亂シテ、精神ヲ養フ程

ノ徳ナシ、實ニ養フタラバ、堯舜モ同ジカルベシ、僊ハ精神ヲ養フユヱニ凝聚シテ散ゼズ、堯舜ハ死ニ安ンズ、故ニ散ト云トキハ、コノ次ニ仙人ハ氣ヲ練ルユヱニ終ニ死セズ、神人ハ正直ノ頭ニヤドル故ニ、靈アリテ怪ナシト云ベシ、カクノゴトクソレ〴〵ニワカチ云バ、イカホドモアルベシ、畢竟ミナ空論ナリ、カヽル論ハ佛者ノ云フコトニシテ、儒者ノ云フコトニアラズ、思フニ此書ミナ杜撰ナルベシ、家語スデニ孔子ヲ怪談者トス、二程全書・語類・語錄ノ書モ大抵ニ見ルベシ、亦是家語ノ類ニシテ、程・朱ノ徳ヲ貶スモノナリ、或人程子ニ問テ云、仙術ト云コトアリヤ、程子曰、養生ヲヨクシテ百年ノ壽ヲ保ツコトハアリ、白日ニ飛行シ天ニ上ルコトハナシ、タトヘバ爐中ノ火ノ如シ、密室ニヨクオホヒ置バ、一日モ保ツベシ、アラハシ置バ、一時ヲ保ツベカラズト、コレ程子ノ見識ナリ、朱子モ亦コレヲ稱ス、ナンゾマタ鬼神論ノゴトク、條理モナキ虚妄ノ說ヲナサン、劉元城ノ死スル時雷電スルモノ、コノ人忠誠ナルユヱニコソ、天ノ感動トス、モシ佞奸ノ人ナラバ、天罰トスベシ、烈風・雷・電地震・晦冥ミナ其時ノ變也、人ノ生卒ナンゾコレニアヅカラン、元城ノ死スルトキニ天變アリ、聖人ノトキハイカン然ルニ朱子曰、コレ元城ノ氣自散ズルノミト、カヽル愚蒙ノ朱子ニアラザルナリ、祭義ノ「其氣發二揚于上一爲二昭明一、焄蒿悽愴、此百物之精也」ノ數句ヲ、說得テ盡了ト云モノモ亦シカルベカラズ、魂氣上ニ發揚スルト云コトガ、本ヨリ怪談ナリ、死スレバ其魂氣消スルノミ、ナンゾ上ニ發揚スルコトアラン越鳥巣二南枝一胡馬嘶二北風一ノルイカヽルコト多シ、コレハ感動ノ實ナリ、伯牙以下ノコトミナ〳〵虚ナリ「伯牙鼓レ琴、而六馬仰レ秣、瓠巴鼓レ瑟、而流魚出聽、虞美人艸聞レ歌自動」ノ類、贅辭妍誕ニシテ、君子ノ論ズルコト

ニアラズ、「風火先散、而地水後、散者必善、則不レ能レ爲レ祟、地水先墮、而風火未レ散者、必不善則死後爲レ祟、」コノ語地水火風ノ四大ヲ云者、佛語ナリ、朱子ナンゾ是ヲ云ン、祟ヲナスト云コト猶サラニ虛誕ナリ、スベテ鬼神論ニ及ビテハ、平生ノ見ト差フテ、大儒ノ人々ミナ狂ノ如シ、アヽ悲イ哉、タトヒ實ニ靈氣イマダ消ズト云コトアリトモ、ソノ生アル時四體具足シテダニモ靈ナラズ、マシテ死シテ形體モナキ魂氣ニ靈怪アリト云ハ、コレ生ヲシラズシテ死ヲシルナリ、朱子ノ鬼神論ヲ閱スルニ、古書ノ類ヲ殘ラズ信ジタルモノナリ、孟子スデニ「盡信レ書、不レ如レ無レ書」ト云ヘリ、信ジ過スベカラズ、天地山川本ヨリ鬼ナシ、社稷五祀モ又シカリ、宗廟ハ人鬼也、是トテモ亦然リ、スベテソノ恩ヲ報ジテ祭ル心志アラバ祭ルベシ、祭ラズトモ亦何ゾ拘ハラン、天竺ハ佛法ヲ以テ祭リ、漢土ハ聖人ノ道ヲ以テ祭リ、日本ハ神道ヲ以テ祭リ、中興ハ又佛ヲ混ズ、梵ト日本トハ天地山川社稷ヲ祭ラズト云フトモ、ツヒニ風雨モ時ニシタガモ、祟アルコトモナシ、ヨクソレ〳〵ニ祭ヲナスト雖、興ルベキ國ハ興リ、滅ブベキ國ハ滅ブ、見ルベシ鬼神ノ德ニアラザルナリ、ミナ王者ノ德ニアルコトヲ、又外夷ノ國々ニハ鬼神ヲ祭ルモ、祭ラザルモアルベシ、漢土ニハ鬼神アリテ、外夷ニハ鬼神ナシト云ベケンヤ、ミナソノ國々ニオイテ、鬼神ヲ祭ルノ法サマ〳〵アレドモ、鬼神ノ受ザルモ聞ザル也、又朱子ノ說ノゴトクニ、强死ノモノミナ消ズトイハヾ、大亂ノ後ハ鬼ニテ行アタルベシ、近クトリテ見レバ源平ノ亂後、元弘・建武ヨリシテ天正・慶長ニ至ルマデ二百年ノ間、天下ニ人鬼充滿スベキニ、是モ亦

キヽ得ザルコトナリ、コヽニ人アリ、二三月病テ、日ニ〳〵オトロヘ終ニ死ス、コレ非命ニアラザル也、コノ人モシ病ヲ得ルノ前ニ變死センカ、其氣散ゼズシテ、五年十年モ靈怪ヲナス、ソノ變死セザルトキハ、病死シテ氣消了、是ヲ以テ見ル時ハ、タトヒ變死セズトモ、三月ノ命アル人ナラバ、變死スルノ後三月ノ間ハ、散ゼズト云ハヾ可ナリ、コレラノコトヲ論ジユケバ、佛氏ノ輪回ヲ說破スルガ如シ、際限ナキコトニシテ無益ノ論也、只コレ後世アマリニ辨論支蔓紛雜ニナリテ、トリトヾムベキ術ナキニ至ル、カヽル時ニ至リテハ、無用ノ僻說ノ書ハミナ焚ステヽ、洗盡シタキモノナレドモ、又始皇ノ跡ヲ蹈ト云ベシ、然則イカニセン、唯無鬼ノ論ヲ立ルニシカジ、コヽニ於テカ痛快ト云ベシ、何レニモ大德ノ君子路ニ當ラバ、ソノ爲ルトコロアルベシ、此章宋賢ヲ非ト雖モ、スベテ漢土ニテ聖人ノ學廢スルコト久シ、宋ニ至リテ程子•朱子ヲハジメ、周•張ノ人々聖學ヲ開キテ、屯蒙ト云ベキトキナレバ、コノ筈ノコト也、吾儕コレヲ非スルハ分ヲシラザルナレドモ、亦宋賢ノ賜也、古聖賢ノ天ト云帝ト云、鬼ト云神ト云モノハ、皆ソノ指處アリ、其形體ヲ天ト云、其主宰ヲ帝ト云、ソノ妙用ヲ神ト云其賦予ヲ命ト云、其實ハ一也、鬼神ト云モ天地山川ヲ云アリ、陰陽ヲ云アリ、人鬼ヲ云アルナリ、其陰陽ノ萬種萬物ニ就テ遺スコトナク、周禮ニ曰、天神ト云、地祇ト云、人鬼ト云ニアリ、カクノ如クワカチ云ベキヲナシナベテ鬼神ト云ナリ、陰陽ヲ鬼神ト云ベカラズ、陰陽ノ德妙ナルヲ鬼神ト云、天地ヲ鬼神ト云ベカラズ、天地ノ運行和合シテ四時行ハレ、萬物ヲ化生スル處ノ妙用ヲサシテ鬼神ト云ナリ、山川ヲ鬼神ト云ベカラズ、山川ノ雨ヲ下ラシ水ヲ通ジ、艸木魚鼈ヲ生ジ、人ノ爲ニナル處ノ德ヲ報ゼンガ爲ニ、五岳四瀆ヲ始メ、名山大川ノ神ヲ祭ル、コレヲサシテ鬼神ト云ナリ一ツモ備ハラザルコトナキヲ神ノ妙ト云ト雖、コレモ亦主客ノ差アリ、泥ミテ云トキハ、萬物ノ生育ス

ルハ鬼神ノ妙ニシテ、門戸・井・竈・路・中霤ノルイハ、ミナ人ニ功徳アルモノ也、ユヱニコノ神ヲ祭ヲ五祀ト云、コノ五ノ物ノ徳アルヲサシテ、鬼神ト云ナリ造物者ノナスコトナリト云モ又無理ナラズ、只人畜・蟲魚・艸木・金石・水火ニ至ルマデ、ソレ〳〵ノ生ヲ遂ルヤウニ産付タルハ、イカサマニ主宰アリテコレヲ造リ立ルガ如シ、ユヱニ此論アル也、中ニモ人ハ萬物ノ靈ニシテ、ソノ外禽獸・蟲魚・木石ミナ人ノ用ニ天ヨリ賦予シ玉ヘバ、禽獸モ取リテ食ベシト云人アレドモ、亦是ヲ難ズルトキハ、シカラバ則虱・蚤・蚊ノ爲ニ天ヨリ人ヲ産玉フヤト云ニ至ル也、泥ムベカラズ、只天日ノ陽氣、地濕ノ陰氣ニ和合シテ、サマ〳〵ノ物ヲ生ズ、人死シテソレ限リニ魂魄消失スルコトナレドモ、孝子ノ心ニ父母ヲ思慕シテ忘レズ、ユヱニソノ神主ヲ立テ、セメテハソレナリトモ父母ノ代リナリトシテ、樂ヲハリ飲食ヲソナヘテ是ヲ祭ル、コレ父母ヲ祭ノ始メナリ、ソレヨリダン〳〵ト先祖ヲクリ上テ祭ルコトニナリタリ、又我身モ子孫ニ祭ラルヽコトヽ思フヤウニ自然ト風俗ニナリタレバ、祭ラズンバアルベカラズ、コレニヨリテ天子・諸侯・卿大夫・士庶人ニ至ルマデ、ソレ〳〵ニ宗廟ヲ立テ、士庶ハ寢ニ祭ル、ソノ神靈ヲ鬼神ト云ナリ、シカルニ別テ云ヘバ、聖賢及天子ヲ神ト云、ソノ餘ヲ鬼ト云、邪神・惡鬼・厲鬼ノルイハ、スベテ鬼ト云テ神ト云ハズ、ソノ外山川・木石・諸物ニ神アリト云フハ實ノナキコトナレドモ、人ノ云ナラハスコトナリ、人死シタル後、魂魄氣散ゼズシテ障碍ヲナスモノヲ鬼ト云、今俗ニ云幽靈ナリ、又陰陽師家ニ死靈生靈ト云アリスベテナキコト也、必此説ニ惑ハサルヽコトナカレ、大テイ前儒ノ人々ソレ〳〵鬼神ヲ分チ云ズシテ、スベテ鬼神ヲ混ジ説ユヱニ條理ナシ、陰陽ヲ云カトスレバ、天地山川ヲ云ヒ、又人鬼ヲ云、厲鬼ヲ云テ、ツヒニ分チ辨ズルコトナシ、ユヱニ凡俗ノ人ハヨク〳〵ウタガヒ迷フモノナリ、今此書ニヨリテ明ニセヨ中ニモ口アリテ食スト雖、穴ナクシテ屎セザルモノハ再ビ生ゼズ、萬物ノ中ニ庶用カネ備リテ、生ヲ遂ヤスキモノ殘リテ、ダンダンニ生ミツギ、又ハ濕生シテ育セラルヽモノナリ、其中ニ最秀タルヲ人トス、人ハ萬物ノ靈ニ非ズ、萬物ノ中ニ靈ナルハ人ナリ、故ニ之ヲ主トシテ諸物ヲ司ラシムル也、神代ノ卷ニテ見レバ、君アリテ後ニ臣民ヲ造リタルヤウナレドモ、左ニアラズ、庶民アリテ後ニ君ヲ立タルナリ、一旦君ト立ラレタレバ、萬民ハソノ君ノツカヒモノナリ、故ニ萬物ノ中ニ人ノミ才徳スグレタルユヱ、自然ト萬物ノ頭

トナリタル也、又ソノ人ノ中ニ、聖德アル人萬民ニ主タルナリ、ソノ才德アル人ガ教ヲ立テ萬民ヲ治ムルコトニテ、ソレヨリ夫婦君臣ノ倫立チ、仁義忠孝ノ道モ備リ、天文地理ヲ考テ暦ヲ造リ、食物・宮室・衣服ノ三ノモノ出來リ、文字ヲ製シ鬼神ヲ祭リ、德ニ報フコト起リテ、漸々ニ文華熾ンニ行ハレ、ツヒニ文華ニ過テ、トリ止ルコトナキニ至ル、或ハモシ萬物ノ中ニ人ナカリセバ、虎狼猿狐ノ類充滿シ、互ニ相食ヒテ治ルモノナカルベシ、ソノトキ誰カ鬼神ヲ云ハン、誰カ仙佛ヲ修セン、元ヨリ無キモノナルコトコヽニ知ベシ、今モテハヤス鬼神ノ中ニ、人鬼ノミハ人ヲ生ゼザレバ無ハヅ也ト雖、天地山川其時ニモアルベキナリ、ソノ天地山川ノ神何事ヲカナサン、是ヲ以テ見レバ、ソノ鬼神ト云フ者無キヲシルベシ、然レバ何故ニ古聖人無用ノヿヲ云テ、鬼神ヲ祭ラセラルヽゾト云時ハ、是又上古庶物未ダ開キオホセズシテ天造草昧ナル時ヨリ傳ヘ來ル俗ナレバ、聖人ハ民ニ難ヲ教ヘズ、只ソノ時ノ俗ニヨリテ教法ヲ立、民ヲ安ンジ導ク也、ユヱニソノナリニテ禮ヲ立玉フ、又天ト云、神ト云、先祖ト云テコレニヨラシメ禮ヲ立ル時ハ、民ヨク歸服シテ治ルナレバ、幸ノコトナルヲヤ、ユヱニ山川・社稷・宗廟ノ祭ヲナセバ、人々事ヲ專ラニセズシテ、ミナ社稷・宗廟ノ命ヲ受ルナリ、コヽヲ以テ民ヨク治マル、然ルニコレモ又增長シテ防グベカラザルニ至ル也、我日本古ヘモ亦カクノ如シ、神代ノ卷ノコトハミナ夢中ノ夢ノ如シト雖、都テ鬼神ヲ祭ルノヿハ大抵同ジ、亦天竺ノ佛ヲ云コトモ遠カラズ、是ヲ以テ見ルトキハ、大抵人情鬼怪ヲ信ズルコトハ、ミナ凡俗ノ免レザル所ナランカ、然ルニ周ノ盛

ナル時、及我欽明ノ時マデハ惡鬼厲鬼ノ説ナシ、易ニ云、「聖人以ニ神道一設レ教而天下服矣、」此語神道者多クコレヲ引テ、我神道ハ天下ヲ治ムルノ道ナリトノヽシリ、初ハト部氏ノ明法要集ニモコレヲ引トイヘ共、コノ易ノ神ハ陰陽二儀ノ造化、及ト筮ノ理不可測ノ處ヲサシテ神トス、我邦當世ノ云神道トハ大キニ差フ也、日本ニ神道ト云フナシ、故ニ日本紀ニ神道ナシ、續日本紀ニ神道ノ二字始メテ出ルト云ドモ、サス所異也、今云神道ハト部氏ヨリ始マリテ、二三百年ダン／＼此學流一派立タリシ也、スベテ古ヘ上ニ立タル人ヲ「カミ」ト云、又「ミコト」ト云、後文字ワタリテ、鬼神ノ神ノ字ニアテヽ、神ト云字ヲ入タル也、古ヘハ存生ノ人ヲ上ト云、今モ上ト云ハ、吾モ漢モ今上ヲサスナリ、ソレヨリ上サマト云、媼ヲ「カミサマ」ト云、ミナ同ジコトニテアリシニ、文字ワタルマデハ生レタル人ヲ上ト云シニ文字ワタリテ神ノ字ヲハメタルタリ、此字死タル上古ノ聖賢ヲ云ヤウニ自然トナリタリ春秋及我邦佛法行ハルヽヨリ後、惡鬼厲鬼ノ説熾ンニナリテ、ソノ形體ヲ畫キツノヲハヤシテ、「オニ」ト云コト始マル、陰陽ヲ「オンヤウ」ト訓スレバ、ニノ轉語故ニ、鬼トハ陰ノコトナリ、阮瞻ノ傳ニモ變ジテ鬼形トナルト云ハ、此時スデニ鬼ノ形有也、吾邦ニテ藤原ノ千方鬼ヲ役シ、役ノ小角モ鬼ヲ役使ス、鈴鹿山・戸隱山・其外鬼ト云コト夥シ、今昔物語・宇治拾遺ニ、鬼ノ人ヲトリ食フコト冊ニアフル、此時代ハ鬼ト云コト大キニ流行ス、大江山ノ酒顚童子ヲ始、渡邊ノ綱・都ノ良香ノ説アリ、多ハ盜賊也、其時實ノ鬼アラバ今モアルベシ、元來コレラハ時世ノハヤリモノニテ、此時ノ鬼ヨリ鎌倉時代ニハ、天狗ト云コトハヤリ、近來ハミナ狐ニナリタリ、皆無キコトニテ、時ノ人ノ云ハヤラスヲ聞テ、愚蒙ノ人々是ニ惑フ也、都ノ良香・菅丞相ノ如キ賢者スラ是ニ迷フ、況ヤ凡俗ヲヤ、是ヲ以ミレバ、古今獨立ノ君子ハ少キモノ也、履軒先生曰、餘所ノ國々ノ人ハ、智ノ明カナルニヤ、スベテ怪事ハ云ツタヘタルノミニテ、是ニ道理ヲツケズ、古ヘノコトハ知レザルコト也ト除キ置ナリ、イハユル存シテ論ゼズ、コレ也、只我邦バカリコレニ道理ヲ附會シテ、是ヲ以テ教ヲ立ントスル人多シ、曰コレ神道也ト、上古ヲ以テ云バ、神道トハ上道也、上道ト云テ通ズベキヤ、シカルニ神道者

云、漢土聖人ノ道ヲ以天下ヲ治ム、我邦神道ヲ以テ天下ヲ治ムト、上古存生ノ上タル人々ノ道ヲ以、天下ヲ治ムルコトハアルベシ、今云神道ノ加持祈禱ヲ以テ、豈天下治ルベケンヤ、病人アリテ醫藥ヲ用ユルハ常也、加持祈禱ヲナシテソノ人ヲアヤマツヲシラズ、今ノ神道ト云ハ、神代ノ巻ヲ一字々々ヨク分辨セザルハ、コレ上古ノ神ノ不測ナリ、平生ヲ以云ベカラズト云ニオトスノミ、神代ノ巻其外ノ神書一々ニ會得シテ何ノ益ゾヤ、源氏物語ヲヨク辨ズルト同ジコト也、天下國家ヲ治メ、己ヲヲサメ家ヲ齊フルコトニ一ツモトル所ナシ、一々ニ引アテ、實迹ヲ以テ考フベキ也、易曰、神道ハ一千年以前ノコトナリ、今ノ神道ハ佛ノサカンナルヲウラヤミ、一派ヲ立タルモノニシテ、コレ天地懸隔ノ違ヒ也、混ズベカラザルモノナリ、シカレバ聖人ノ道ハ天下ヲ治ムル大道也、佛ト神トハ葬埋祭祀ノ小道也、必ズ泥ムベカラズ又我邦ハ神國ナリトノヽシル、愚昧ノ至リト云ベシ、凡鬼神ノ事ハ人心ノ推量也、故ニ萬國ミナ鬼神ヲ敬ス、支那ノ聖人教ヲ立ルニ、人情ノ常ニ從ヒテ鬼神ヲ壞ラズ、祭祀ノ禮ヲ大事トシテ人情ヲ通ズル也、先入主トナルニモアラズ、又ワザ／＼教ヲ設タルニモアラズ、只殷尙レ鬼トイヘバ、此時ノ風俗ニ合セタルナリ、シカレドモソレギリニテ、又是ニ淫シ泥ムコトナシ、天竺西洋ニハ鬼神ニ淫シテ邪ニ入也、一樣ニ論ジガタシ、我邦古ヘハ神道ト云教ナシ、只鬼神ノ祭祀ヲ敬奉スルノミ、今世ノ神道ト云モノハ、二三百年ノコトニシテ、ダン／＼ニ甚シクナリタリ、元ハ佛者ノ榮華ヲ羨ミ組立タルモノ也、畢竟巫祝禊祓ノ詞ヲ推ヒロメテ、治國修身ノ道コヽニアリト罵ル也、其附會佛ヨリモ淺シ、コレニ陷ルモノハ愚者ノ長タリト、此語ヲ用ヒテヨク／＼味フベシ、鬼神ノヿハ分明也、必シモ鬼神アリトシテ泥ムベカラザルモノ也、只天地ノ間ニ獨尊ニシテ對ナキモノハ日輪也、然ルニ只上ニ明カナルノミ、衆陰アリテコノ太陽ニ和合スルコトハ、日輪ハシラザル也、元ヨリ日輪ニ耳目・口鼻・心志ナケレバ、視聽・言動・思慮・工夫アルコトナシ、然レバ則何ヲカ見キヽ、何ヲカ思ハン、斯ノゴトクソレ瑣細ナラザルナリ、人何ヲ願フトモナンゾ聽ン、褒ルトモ悅ブベカラズ、ソシレドモ憤ル

ベカラズ、コノ大々徳アリ、故ニ天也、日也、聖人ハ此天心ヲ心トシテ此天徳ヲ祐ケ、萬物ノ生育ヲ導キ遂シメントス、黄帝死シテノチ三百年、民ソノ仁ヲシルニ至リテ仁ヲ稱ス、堯ハ舜ノ至徳ニユヅリ、湯武ハ放伐スル、文王ノソノ小心翼々、周公ノ吐哺、孔子ノ周遊、ミナコレ民ヲスクフニ汲々タルモノニシテ、則チ天心ヲ受テ、一毫モ私心ナキモノナリ、カヽル神聖也ト雖、死シタマヒタル其後ハ、タヘテ神靈マシマサズ、只ソノ存在中ノ積善ノ餘慶、千萬年ト雖ナホ消滅セザルモノ也、カヽルガユヱニ今ニ至リテモ、ソノ仁徳ヲバ蒙リ、萬民等ソノ徳ヲ稱シ、報ヲナスノ心ニテコレヲ祭ル也、コレ誠實ノ自然トアラハル、處ニシテ、人道トモ云ベシ、然レドモ祭ラル、方ニハ、死後ニ心ナケレバ益ハナシ、只祭ル人ノ誠實ニシテ、此餘徳ニ浴スルモノナリ　故ニ小細ニカヽハラズ、小節ヲ勤メズト雖、其形貌ハ人ニカハルコトナク、血脈通ジ、疼痒・寒暖・饑渇・愛惡ミナアルコトナレバ、萬民ノ辛苦ヲカナシミ、安樂ナラシメント欲ルノ仁心ハ、生息アル内ハ少シモタユマズ忘レザルナリ、然レドモスデニ死スルノ後ハ血脈ナク、疼痛・寒暖・饑渇・愛惡アルコトナシ、然バ萬民ノ辛苦ヲ悲シムノ仁心モ止ミタレバ、再ビ復ルコトナシ、コヽニ於テカ彼存生中ニ仁徳ヲ蒙リタル萬民等、天ニ仰ギ地ニ俯シテ歎キ慕フ、其ヨリシテ天トシ神トシ、尊敬スト雖、スデニ死シテ血脈ナク、疼痒モ覺エザレバ、視聽思慮ノアルベキヤウナシ、然レバ存生ニ功徳アル人ハ、死シテノチ天日ト同ジク、コレヲ敬シコレヲ尊ムベシ、決シテ奇妙靈驗ハナキ也、聖人モ亦同ジ人也、息アル内ハ聖徳カネ備フト雖、死シテ後ハ血氣心志ナケレバ、ナンゾ思慮アラン、思慮ナケレバ、ナンゾ靈驗カアラン、漢土ノ孔廟ト雖、諸所ノ聖廟ト雖、ツヒニ神主ニ靈驗ノアリシヲ聞カズ、又ツヒニ此神ニ祈願シタルヲ聞ズ、然レバ吾今諸神ニ靈驗ナシト云モノハ、孔子ノ神主ニ傚フテ云コトナレバ、神ヲ侮ルニアラズ、實ハ尊敬スルナリ、コレヲ輕侮スルニアラザル也、コノ篇ニ神靈ナシ、功驗ナシ、鬼神無ト云モノ、皆吾尊神ヲ尊敬ス

ルトテ云モノ也、必シモ天ヲ畏ズ鬼神ヲ恐レズ、古今ノ國法祭法ヲ破ルト云テ、吾ヲ罪スルコト勿レ、履軒先生曰、古ノ聖人自然ノ理ニ本ヅキ、人情ノ常ニ隨ヒ教ヲ立ルコトニシテ、虛假ノ術數ハ少モナシ、今モシ浮屠天主ノ教ナク、道家モ神道モナク、妖怪人ヲ迷ハスノ言ナキ世ナレバ、詩書ノ文ノ通リ、オトナシク從テヨキコト也、別ニ無鬼論ヲ主張スルニモ及バザル也、然ルニ邪教怪說ノ盛ナル世ニアリテハ、詩書ノ文ヲ實法ニマモリテハ居ラレザル譯アリ、祭祀鬼神ノヿ人情ニ從フテ有トスレバ、邪教ノ鬼神モナシト云ガタシ、又吾イハユル鬼神ハ實ニアリテ、彼レイハユル鬼神ハナシトイハバ、コレ無理也、今ノ世ニテハ人情ヲ捨テ、無鬼論ヲ主張セザレバナラザル也、儒道ニ疵累アルニアラズ、明知ノ人ヨリ書ヲ讀バ、「祭如レ在、敬而遠レ之、自求二多福一、天聽自二我民一聽」等ノ文ニ就テ、眞實ノ理ハ明カニシルヽコト也、此說ヲキク人、祭ハセズトモヨカルベシトハ、アマリナル言ナリト咎ムベシ、シカルニ子曰ク、「吾不レ與レ祭、如レ不レ祭、」コレハ祭ト云モノハ、自ラ誠敬ヲツクシテマツルベシ、人ニ任セテハナンゾソノ人誠敬ヲツクサン、然ルトキハ鬼神モ受ザルベシ、コレ祭ラザルモ同コト也、ユヱニシカ云也、禮ニ曰、「祭過レ時則不レ祭、」スデニ時スグレバ祭ラズシテスムヲミレバ、祭ラザルトモクルシカラザル也、今世ノ人僧ニ託シテ、ソノ祭ヲ鬼神ノ受ヤ受ケザルヤニカヽハラズ、世間ミナコノコトヲシテ、是ニテヨロシトテスマシタルハ、實ニ祭ラザルモ同ジコト也、然レバ此辭激論ニアラズ、其奢ヨリハ寧儉セヨノ意ナランカ、コトニ此語存生ノ孝ヲ本トシテ、死後ノ孝ヲ末トス、ソノ末ヲバ修シテナサンヨリハ、ソノ本ニカヘルベキナリ、今世佛事ヲシテ先祖ヲ祭ルト思フモ誤ナリ、笑フベシ〳〵、笑フニタヘガタシ　モシ予ガ言ヲ誚リテ詩書ノ文ニ合ズト云奴アラバ、詩書ハサテ置、予ガ言ヲダニ聞得ザル愚昧者ナリ、カヽル奴ラハ迷ヒ次第ナルベシ、祭祀ハ孝ノ餘波也、孝ノ主ニアラズ、人ニヨリテ祭祀ハセズトモ濟ベシ、聖人教ヲ立ルニ、ナンゾ本源ヲステヽ、餘波ヲ主張センヤ、存生ニ孝ヲ盡スガ本也、祭祀ニ孝ヲ盡スハ末也、本ヲサヘヨクスレバ、末ハ勤メズトモスムベシ、此祭

ト云モノハ、天地ハヘヌキノ法ニアラズ、畢竟ハ孝子ノ父母ヲシタヒテ、心ユカシニ祭リシヨリ、ソレニ禮節ヲツケテ初メタルコトニテ、聖人コレニシタガフノミ、聖人祭リノ法ヲ始テ製シタルニアラズ、死亡ノ末ノ孝ヲサヘモカクノ如ク尊敬ス、況ヤ存生ノ本ノ孝ヲヤ、或人禘ノ說ヲ問フ、子曰、其說ヲ知レルモノヽ天下ニ於ル、ソレコレヲコヽニ見ルガ如シト、其掌ヲサスモノハ、末ノ末ノ遠キ祭リサヘモカク敬スレバ、今日前存生ノ民ヲ憐ムコトハ、尙サラノコトナレバ、天下ヲ治ムルハ掌ヲカヘスヨリモ易シト云意ナリ、ヨク〱此所ヲ思惟シテ、鬼神ノ說ニ泥ムベカラザルナリ、只是聖人ノ人情ニヨリテ鬼神ヲ敬シ、又ソノ虛談ニ泥ムヲ恐レテコレヲ遠ザク、コノ語如在ノ二字ヲヨク見テ、後鬼神ヲ云ベキナリ

十五 吾邦ニ於テ鬼神ノコトヲ論ズル人々ニハ、山崎氏ノ社語アレドモ取所モナキ書ナリ、コノ人始佛ヨリ出テ儒ヲ學ビ、朱子ヲ信ジテ著ハス書多シ、ソノ中ニハ見ルベキコトモ亦少シトセズ、晩ニ神學ニ入ル、イカナレバソノ虛妄多キヤ、殆ド儒ヲ學ビシトキニ類セズ、老耄セルモノカ、梁田氏ハ佛ニ皈スルモノナレバ、儒ヲ以テ議スベカラズ、林先生ノ神社考ハ、第一ニ伊勢ヲシルスニ、佛者ノ妄說習合ノ論ヲカヽゲテ、一トシテ說破スルコトナシ、ソノ外ノ大社ミナコレナリ、終ニ方便姦僧ノ徒ヲアゲテ並ベ論ジテ、又ソノ說ヲナサズ、讀者ニ惑ヒヲ起シ怪ニ陷ラシム、道ヲ害スルコト甚シト云ベシ、白井宗因ハ神道者ト雖、林氏ノ學ニ類セズ、神社啓蒙ノ書見ルベキニ足ル、又ソノ書頗ル條理

正シ、凡ソ神社ノコトヲ論ズルニハ先コノ二書ニトル、新井白石氏ノ鬼神論ハ、經書ヲトラズシテ家語・左傳・山海經・神異經・搜神記・述異記・博物志・幽明錄・白澤圖・五雜俎・列仙傳・草李・夏鼎志・楚辭・說苑・列子・抱朴子・齊東野語等ノ怪書ニトリテ議論ヲナス、ソノ怪ヲ信ズルコト佛者ノ如シ、已ニ此人ノ著ハス所ノ書少シトセズ、何レモヨク校正シテ苟クモセズ、何ゾ鬼神論ニ至リテ怪誕ヲナスヤサトスベカラズ、朱子ノ大儒ト雖、前ニ云如ク鬼神ニ陷溺ノ意ヲミル、況ヤ白石氏ヲヤ、戰國以來儒學スタレテ發ルベカラザリシヲ、宋ニ至リテ熾ンニ行ハル、周・程・張・朱ノ大儒出テ議論大ニ高シ、然リト雖此時イマダ發明スルコト少シ、元明ニ至テ大成スルコトナレバ、朱子ノ時ハカヽルモノナルベシ、我邦モマタシカリ、戰國ノ間天下ニ文學ヲ知ル人ハ只浮屠ノミ、故ニ一字ヲ辨ズルモミナ僧ニ問テ、僧ノ教ユル所ハミナ佛書ニトル、茲ヲ以テ佛學ノミ行ハレテ、儒ヲ學ブ人ナシ、惺窩及羅山ノ兩先生、漸クニ學ヲ起シタレド未ダ廣カラズ、元和武ヲ偃シヽヨリシテ昇平ニ浴シ、文字大ニ行ハル、是ヨリ追々ニ學士出ルコトナレドモ、マタ佛學ノ臭氣消セズシテ、大テイノ人ミナ佛ニ皈ス、タトヒ全ク信ゼズトモ、マタ免ルヽコトアタハズ、ユヱニ鬼神ヲ論ズル人、ミナイマダ全ク信ゼズトモ、ソノ臭氣ヲハナレザル也、今全クハナレタルハ我中井氏ノ門ノミ、ユヱニ五尺ノ童子ト雖、鬼神ノ誣罔ニ惑ハザルナリ、我新井氏ノ鬼神論ヲミテ卷ヲ掩フテ歎息ス、只此人ノ學流ハ博キヲ勉ムルノミ、ユヱニ鬼神ノ朦朧タル、其約スル處ヲシラズ、只涉獵スルノ書ニ於テハ一モ取捨スル見ナクシテ、唯信ズルノ

ミ、然ルニ新井氏ニ於テモカクノ如シ、況ヤ亦新井氏ナラザルモノヲヤ、アヽ世ノ鬼神ニ溺ルヽ、イカントモスベカラズ、コレヲ破却シテ無鬼ノ論ヲ立レバ、世人ツヒニハコレヲ非トシテ、天年ヲ以テ死スト雖、鬼神コレヲ殺スト云、人ノ身ノ上如何ナル變死アルトモ知ラザレバ、萬一ニモ變死アランカ、ソレ何トカ云ハン、然ル時ハ佛者アリテコレヲ書ニアラハシ、附會牽强シテ書殘ス時ハ、萬世無鬼論ハ止ムベシ、晉阮瞻ニテミルベシ

十六　後世ノ鬼神ニ泥ムモノハ、必家語・左傳ヲ本トシテ、ソレヨリ諸子及ビ神仙ニ渉リ、諸書ヲ引テコレヲ證シ據トス、ナンゾコレヲ證トスルニタラン、家語ノ妄說コレヲ以テ孔子ニ歸スルコト、誣ルニアラズヤ、一々ヨミテヨク後世ニ引合セミルベシ、家語ノ說ヲ以テ實ニ孔子ノ語トスル時ハ、聖人トスルニ足ラズ、後儒コレヲタヾスコトナクシテ、孔子ト云ニ泥ミ信ズルヨリ左氏ヨリソノ外ノ怪說ヲ信ズルニ至ル、山海經一部ヲ以テミルベシ、皆此書ニ出タル中山・東山・南山・西山・北山・海外・海內大荒ノ諸國・諸山、ソノ人首・蛇身・羽民・虎尾・一目・三足ノルイ、皆今此處ニアリヤ無ヤト正シテソノ妄ヲシルベシ、スベテ四方中ノ山々ミナ九州ノ內ニシテ、此書ヲ作リシ時ヨリ、ソノ虛僞ナルコトハ顯然タリ、伊勢・源氏ノ如クソノ時ニナキ人々ノ名ヲ書アツメタル故ニ、人モヨク知リテ、サテヨク作リタリト云ベシ、今ノ淨ルリモ同ジコトナリ、然ルニ數百年ヲ歷テ是ヲトリテ證トシソノ書ヲ信ズ、コレ自然ノ勢カヽルモノナリ、中人ニアリテハカクモアルベシ、苟クモ儒ヲ以テ自カラ居ルモノ、古書ヲ取

捨スルコトヲシラズシテ、自然ノ勢ニナヅムコトアルベキ、コレ淺學ナルユヱナリ、シカルニ宋明ヨリシテ、我邦慶長以來ノ學者多クコレアリ、ミナ弘キヲツトメテ、約スルコトヲシラザル故ナリ、郭璞・抱朴子・王世貞ノ輩ハ後世ヲ疑惑スルノ魁也、是等ヲ信ズル學者コソ愚ナレ、白石氏曰、子孫ノ精神ミナ祖考ノ精神ニテ、彼此共ニ一氣ナレバ相感ズルナリ、丹朱ハ堯ノ子ニシテ、一氣ニアラズ、舜ハ瞽叟ノ子ニシテ、一氣ニ非ズ、禹ハ鯀ノ子ニシテ、一氣ニアラズ、桀紂ハ禹湯ノ子孫ニシテ、一氣ニアラズ、一ツモ相カンゼザルナリ、白石氏アヤマルナリ、一心一德ニ非ズト云ベシ、一氣ニアラズト云ベケンヤ　コレハ種實ノダン／＼生ズルヲ以テ云ヘバ、先祖ノ子孫ヲ思フ心ヲ祭者ヨク會得シテ祭レバ然ルベシ、サレドモ白石氏ノコレヲ云ハ、モト我タメナラズ、コレヲ以テ鬼神アリトスル也、コノ意ヲ以テ祖考ハ祭ルベシ、外神ハ祭ルベカラズ、今我邦ノ如キ養子ヲ以テ他姓ヲ嗣グトキハ、祭リハナラザルナリ、シカルニ幾子孫ト雖ソノ種實ナレバ、ソノ血脈ニ違フコトナシト雖、一氣ノ論ハ聖人ノ云ザル處ニシテ端的ナラズ、物精ノ多キ且宗廟ノ多少ノ說、左傳ニヨリテ拘ハルト云ベシ、然ル時ハ天子王侯ノ幽靈多ク、庶人ノ幽靈ハ少カルベシ、凡人ノ命長クシテ天年ニ終ルカ、病疲テ死スルノ魂氣ハ即チ散ズ、勇壯ノ戰死、暴惡ノ死刑ニ遇、自カラ刎縊テ死シ、頓死或ハ妬死、僧ノツトメテ精神ヲ養フモノ、富貴權勢ノ强死ノルイハ、ソノ氣散ズルコトナクシテ魂魄天地ノ間ニアリテ妖怪ヲナシ、疫厲ヲナスユヱニ、先王ノ禮群姓ノ爲ニ泰厲ヲ祭ル、コノ說ニヨレバ、桀紂武乙ハ尊キコト天子タリ、富四海ヲ有チ、勇壯ニシテ强死シ、子孫ナシ、ナンゾコノ亡魂厲ヲナサヾルヤ、カヽル見識ノ士ニテ今誰某ノ厲鬼タリト云フカ、暗夜ニ墓原ヲ通行シテ、思ヒヨ

ラズ人影ヲ見ルナラバ、恐怖シテ氣ヲ失フベシ、學力定マラザル人ノ證ニシテ、孟子ノイハユル倭ルモノ也、水ハ明ナレドモ、氷ハ明ナラズ、魂ハ明ナレドモ、魄ハ明ナラズ、夢ハ靈ニサムレバ靈ナラズ、死靈ハ久シク、生靈ハミジカシ、家ヲ出入スルガ如シト、誤レルカナ此言ヤ、コヽニ云明不明・靈不靈、ミナソノ所ヲ失フナリ、水ハ生水ニシテ、氷ハ死水ナリ、明不明モ亦ムベナラズヤ、五體・百骸心志・臟腑・具足シテ靈也、夢ヲ靈トスルモノハ、ソノ可ヲシラズ、殷高莊子盧生ヲサスヤ、妙ヤク・針・灸ノ御夢想ヲサスヤコレイマダシルベカラズ、コレヲ靈夢トスルハ妄、死靈ハヒサシク、生靈ハミジカシトハ、蓮如ノイハユル人間ハ不定ノ界ナリ、極樂ハ常住ノ國ナリト云ガゴトシ、コノ説ハミナ佛者ノ語ナリ、白石氏コレヲ云フ、ナンゾソレ見識ナキヤ　死シテ何クニ靈アリヤ、寤テコソ靈ナリ、夢ニハ何ゾ靈アラン、夢ト云モノハ江戸ニアルカトスレバ長崎ニ在リテ、甲人ト語ルカトスレバ忽然トシテ乙人ト語ル、風ヲトラヘ影ヲツナグガ如シ、是ヲ以テ靈トス、我ハシラザル也、彼居ナガラ千里ノ外ヲ知リ、千歳ノ日至ヲ測ル、コレヲ靈ト云、白石氏生ヲシラズ、死ヲシラズ、ナンゾ鬼神ヲ語ルニタラン、雀蛤トナリ、田鼠鴽（ヌカドリ）トナリ、蟬ノ蜣蜋トナリ、孑孑ノ蚊トナル、雀田鼠ハ妄説ナリ、孑孑蟬ハ化生ニアラズ、孑孑ニ羽ナシ、羽生ズレバ飛ブ、元ヨリ其處ナリ、孑孑ハ蚊ノ子ニアラズ、世ニ誰カ蚊ノ交合シテ、子ヲ産ヲ見ル　成長ナリ、蚊ノ初ハ水中ニ生ジテ羽ナシ、ツヒニ羽ヲ生ジテ飛ナリ、シカレバ則孑孑ノ名ハナクシテシカルベシ、蚊ノ兒ナリ、蚊ノ子ヲ産ヲ見ズトイヘドモ、交合スルヲ見ルコトアリ、子ヲ産ムトモ云ベカラズ、眼力ナンゾ蚊ノ子ヲ産ニ及バン、虱モ始ハ濕生ナレド、又子ヲ産ムコトアリトゾ　羽ノ生ゼサル前ヲ云、蠶羽ヲ生ズレバ蝶トナリ、毛虫モ亦蝶トナル、コレミナ蝶ノ兒ナリ、ソノ見ル處ヲ以テ名ヲ異ニス、小兒ノ成童トナリ、齒ヲカヘ鬚ヲ生ジテ壯老トナリテ、頭髮ハゲテ白クナルガ如シ、鷄ノ初生ヲ見ルベシ、後ニ羽生ジテ鷄

トナル、孔子陳蔡ニ厄ス九尺バカリノ鯰魚出テ怪ヲナスコト搜神記ニ見ユ、此ノ出處ハ何ノ書ヨリ見ツケタルヤ、アヽ千寶千寶ハ搜神記ノ作者怪說者カナ、白石氏是ヲトリテ六經ヲトラズ、僻學ト云ベシ、ソノ外白石氏ノ鬼神論一ツモ取ルベキ處ナシ、ナンゾソレ愚ナル、ソノ外著作ヲ多ク見ルト雖カクノ如クニハアラザルナリ、ソノ外諸儒ノ論多シト雖コヽニ略ス

十七　凡聖賢ノコトニツキテ、感應神奇ノコトアルハ、ミナ後儒ノ附會ナレバ、大テイニ見ルベシ、孝子・節婦・忠臣・義士ノ感應ノコト諸書ニアフル、列女傳及二十四孝、ソノ外諸書ニ多ク出ルト雖、ミナ是ヒイキノ引タホシト云モノナリ、必シモ是ノ說ニ泥ムコト勿レ、正書ニモマヽアルコトナリ、カヘスガヘスモヨク眼ヲ開キテヨムベキナリ、左傳・國語・史記・漢書及代々ノ歷史・諸子・百家ミナ是ナリ、大テイ孔・曾・思・孟ノ外ハ奇怪ノコト多シトシルベシ

夢之代卷之十終

夢之代卷之十一

無鬼下第十一

一伊勢大神宮ハ、本朝ノ始祖天照皇大神宮ヲ祭ルナリ、神代ノ卷ニオイテハ、此御神ノコトハ委シク云盡シタレバ、今又擧ゲ論ズルニ及バズ、其女體ト云モノハ、厩戸太子・馬子等ノ誣說ナルコトモスデニ云、本コノ御神ハ日輪ヲ尊ミ、ソノ形ヲ寫シテ鏡ヲ以テ祭ルコトナレドモ、ソレヲ地神ノ始トシ、我朝ノ高祖トス、其神體ト云モノハ、神武天皇長髓彥ヲ滅シ天下ヲ得タルヨリ、天照大神ト大國魂ノ神ヲ併セテ宮中ニ祭ル、天照大神、瓊々杵尊ニ神鏡ヲ授テ曰、コレヲ見ルコト猶吾ヲ視ルガ如クスベシト、コレヨリ宮中ニ祭リ來ラセ玉ヒテ、朝夕ノ御饌オコタルコトナカリシニ、崇神天皇ノ御代ニ至リテ、同殿ニ坐スコトヲ恐レサセ玉ヒテ、天照大神ヲ大和ノ笠縫ノ里ニ（伊勢ノ國度會郡五十鈴川ノ上、宇治ノ里）神廟ヲタテ、祭ラセラル、ソノ時皇女豐鋤入姬ノ命ヲシテ祭主トシ玉フ、コヽニ坐スコト三十四年、ソレヨリ垂仁天皇ノ皇女倭姬ノ命大神ヲ齋奉リテ、丹後ノ國與佐ノ宮ニ四年、ソレヨリ諸國ヲ巡ラセラレテ、垂仁天皇二十五年、今ノ宇治ノ宮ニ鎭坐ナラセ玉フコトハ國史ニ詳ナリ、シカルニ相殿ノ神、左ハ手力雄ノ命、右ハ萬幡豐秋津姬ノ命、合セテ三坐ナリ、本朝隨一ノ神ニシテ、此相殿ノ在スコトコソ不審シケレ、初宮

中ニ祭ラレシ例ヲ以テ、大國魂ノ命ヲ祭ラセラレナバ、據ナキニモアラズ、國史ニモ相殿ノコトヲ云ハズ、此二神ハ大神ニ配スベキノ神ニアラズ、コレ其謂ヲシラザルナリ、垂仁ノ御時鎮坐アリシヨリ今ニ至リテ、王家ノ崇敬大方ナラズ、中古マデハ私ニ幣物ヲ奉ルコトヲユルサレズ、王公尙シカリ、況ヤ士庶人ニ於テオヤ、延喜式「安和二年三月二十九日、太政官符、右大臣宣、奉レ勅、伊勢大神宮司等、最是自レ非ニ公家御祈禱一之外、輙不レ可レ致ニ臣家之祈禱一」ト、此公家ハ王室ヲサスナリ、百練抄ニ云、「長元三年八月五日、召ニ問祭主輔親一、去六月荒祭之宮託宣之趣、申テ云、齋宮頭藤原相通ガ妻、宅内ニ、作ニ大神宮寶殿一、詐假ニ神威一、誑ニ惑愚民一、其罪甚重、早配流者、八日相通、配ニ流伊豆國一、妻比賣古曾流ニ隱岐國一」ト云、是ヲ以テミレバ、此時マデハ親王大臣ト雖、私ニ祈禱シ幣ヲ奉ルコトヲ免サレザルナリ、又神官ノ宅ニテ祭ルコトナク、大神ノ祭祀ハ伊勢一宮ニ限リタルコトナルニ、後世諸國ニ、神明ノ祠ヲ建テテ祭ルコトヲナシ、巫覡民俗私ニ家ニ祭リ、猥リニ士庶ノ祈禱ヲナシ、金銀ヲ貪ル、ミナ配流セラルベキモノナリ、今スベテ神體ヲコシラヘ、諸神ヲ士庶ノ家内ニ祭ル、コレミナ佛家ノ惡風移リタルナリ、長元ノ時ハカクノ如クナルニ、イツノコロヨリカ、乞食居者ノ家内マデモ神ヲ祭リ、酒食ヲ供シ燈ヲテラス、宜ナルカナ三社ノ託ト云テ、人ノ信ズル語ヲミレバ、大神宮ノ神託ハ少シ教喩ノ意アレドモ、コレハ太子ノ語ナリ、八幡宮・春日ノ神託ハ唯是人ニ請招セラレ、人ニ祭ラレ供ヲ受ルノ語ナリ、其鄙劣云ベカラズ、長元ハ後一條ノ年號ナレバソレヨリ後世ノ神道拙學者ノ作ニテ、

神託ト謳テ書タルモノニテ、神ヲ汚スコト是ヨリ甚シキハナシ、又和光同塵結縁ノ始ト云ヒ、塵ニ交ル神心ナド丶云フラシ、佛者ノ心ヲ以テ神ヲ輕侮シ不敬ナリ狎近スル不遜ナリモノミナ孔子ノ言ニ戻リ、我神國ノ禮ニ背ク、アヽ三宮ハ聖德ノ神廟ナリ、神託アラバ天下安民ノコトヲ述玉フベシ、何ゾ人ニ勸請セラレ、祭ラルヽノ神託アラン、今ヲ以テ見ルベシ、日光山・東叡山・增上寺御代々ノ神廟ニ於テ、士庶人ノ拜謁ヲ許サレズ、況ヤ幣物ヲヤ、然ラバ則鬼神ヲ敬シテ近ヅカザルノ本意コヽニ於テカ明也、ソノ誠敬ノ實アレバ、自然ト聖語ニ叶フコトナリ、伊勢ノ神宮モ亦カクノ如クナリシニ、中古ヨリ王威衰ヘサセラレテ、其禮法ノ如ク行ハルヽコトアタハズ、殊ニ天下爭戰ニ及ビテ、王家搢紳ノ給タラズ、神宮ノ御饌モイカヾアリシヤ、況ヤ神官等ノ奉ヲヤ、コレヨリシテ神官等我ヲウリテ食ヘトノ神託ナリト罵リ不敬褻近至ラザル處ナク、士庶ノ參詣甚ダシクナリテ、居者乞食トイヘドモ太々神樂ヲ奉レバ、王公ノ席ニ上リテ貴重セラレ、又諸國海嶋山中ノ民家マデモ、祓大麻ヲ分配シテ錢ヲトル、參詣ノ貴賤立ナガラ一錢ヲ投ズルモノハ、乞食ノアシラヒニ同ジキナラズヤ、アヽ歎ズベシ、タトヒ何程ノ聖德ナリトモ、存命ノ間ノコトナリ、死シテ後ハ心志嗜欲有コトナキハ、目前シレタルコトナリ、コレヲ祭ルハ其祖先ヲ尊敬シ、其功德ニ報ズルナリ、シカルニ我國風トシテ、上古ヨリ神託ト云、神某ニヨリテ託スト云コト、歴史ニアラハシ主張スルコト、何ノ謂ゾヤ、殊ニ此神宮ハ本朝王家ノ始祖トシテ、實ハ日輪ヲ祭ル也、然レバ則其神德ハ萬古不易ニシテ、不動不靜ナレバ、諸人民義ヲ務メテ

コレヲ拜シ、敬シテ遠ザクルコト天日ノ如クシテ、コレコレヲ得タリトスベシ、日輪ニ私照ナシ、只天ニ赫々トシテ諸人是ヲ仰グ、聖人ノ德ハ是ニ則トリスデニ死スレバ天ニ配シテコレヲ祭ル、ソノ德ヲ天日ト同ジクコレヲ視ル、故ニ敬シテ遠クルノ至言コヽニアルナリ、日輪ナンゾ敬セザルベキ、又何ゾ近ヨルベキ、然ルヲ古ヘハ遠ザケラレ、今ハ近ヅケラレ、古ヘハ敬セラレ、今ハ汚サルヽ、神職ドモ賣リテ食フトノヽシリテ、誣罔汚穢至ラザル處ナケレドモ、コレヲモ受テ顧ミ玉ハズ、其大德ココニ見ルベシ、ナンゾ一人ニ私シテ一事ニ動カン、コヽニ於テ其神威靈威無キヲ以テ大德トスベシ、古來神驗靈異ノナキコトハ、神官等スデニ是ヲ知ルユヱニ、サマ〴〵ノ不測神託ヲ云フラシ、奇驗ヲ天下ニ流行サセ、愚民ヲ欺キ妻子ヲ養ヒ、債ヲ償ヒ、其日ヲ過スノ便トス、コレヲ禁ズレバ、神官等口ヲ糊スルコト能ハズシテ歎キ訴フニ至ル、ユヱニ官ヨリモソノママニサシ置ルヽモノナランカ、古ヘヨリ天照大神ヲ日輪ト云テモ或ハ女體ト云テモ、吳ノ泰伯ト云ヒテモ、空海・行基・師錬ノトモガラ色色ノ虛僞ヲナシテモ、汚穢シ輕侮シテモ、ツヒニ神罰モナク（神宮雜事）聖武帝欲レ創二東大寺一、勅二行基一授二佛舍利一粒一、詣二勢州一獻二皇大神宮一、第七之夜、神殿自開、大聲唱曰、實相眞如之日輪、照二却生死之長夜一、本有二常住之月輪一、爍二破煩惱之迷雲一、我今逢二難レ遭大願一、如二渡得レ船、又受レ難得二寶珠一、如二暗得レ炬、師其持二舍利一藏二埋飯高郷一、以賴二邦家基一、反レ都奏レ事皇情大悦、上又勅二橘諸兄公一詣二勢州一、大臣復奏二大神宮告一曰、日輪是盧舍那也、帝得二此意一、爲營與言已現二日輪相一、以レ故營二東大寺之大佛一」コレ行基ノ僞託ニシテ、舍利ノコトモアルコトナシ、師錬ガ筆ノ云處ナリ、ナンゾ舍利ヲ獻ズルノコトアランヤ、橘諸兄公ノ復奏大キニ和氣ノ淸麻呂ノ實言ニ反スルコト遠シ、「師錬曰、天照大神、在二天上一見二海底一、有二大日如來印文一、魔王破旬曰、此地來世、必興二佛法一、我欲レ壞レ之、大神自レ天降曰、此地我之有也、忌二三寶一不二崇敬一、願大夫勿レ慮也、破旬即還、依レ茲神宮内歸二佛乘一、外拒二釋榮一、蓋信二破旬一也」名法要集ニコノコト大神宮ノ形文深釋ノ序文也ト云々、ミナコレ虛妄ノ言ニテ、誰カコレヲ信ゼン、空海曰、大神ハ大日如來ノ化身ナリ、故曰二大日靈女貴一、同名ヲ以テ其化身後身ト云モノハ、佛者ノ常ナリ、コトニ知ラズ大日靈女ハ日靈ト云ベキヲ、尊敬シテ大ノ字ヲ加フルナリ、故ニ大日トハツヾカズ、日靈女トツ

ヾクベシ、大日ハ熟字ナリ、然バ則ヲコノ熟字ハ附會ノ說ナリ、建武ノ時釋ノ圓月ト云者、東海一漚集ヲ作リ、大神ヲ呉ノ太伯トス、(林氏亦泰伯ヲ主張ス) 近世美濃ノ國ノ潮音ナルモノ、舊事本紀ノ本書ト罵リ大部ヲアラハス、亦コレモ大神ヲ呉ノ泰伯ナリトス、ミナ附會ナリ、ソノ外大神ノ本地ヲ大日トシ、阿彌陀トシ、又觀音トス、ミナ是牽强ノ說ナリ 又我ハ其ヤウノ前身ハナシトノ神託モナシ、名實ハ天下ノ大事ナリ、正サズンバアルベカラズ、然ルニ其コトモナク、ウカ〳〵ト祭ヲ受玉フ、コレ小體ヲ養ヒテ大體ヲ養ハザルモノカ、實ニ神靈在バ捨置玉フマジ、鬼神ナキノ證

予カツテキク、女神ノ千木ハ此ノ如シ※男神ノ千木ハ此ノ如シ※ト、然ルニ伊勢內宮ハ※ニシテ、外宮ハ※ナリ、シカレバ內宮ハ陰ニシテ、外宮ハ陽ナルコト、古來ノ說ノトホリナランニ、神主ノ說ニ云、內宮ハ日ノ宮陽德ニマシマセドモ、千木カツヲ木其餘皆カヘリテ陰ヲ用ユルナリ、外宮ハ月ノ宮陰德ニマシマセドモ、風木カツヲ木ソノ餘、ミナカヘリテ陽ヲ用ユルナリト云、カクイハズトモ、大神ハ女體ユヱニ陰ナリ、豐受宮ハ男體ユヱニ陽ナリト云テスムベシ、只ソノ餘神秘ナドト六ツカシク云マギラスハ、巫祝ノ常ナリ、ニクムベシ

是ヨリ手力雄ノ命ハ天ノ岩戸ヲ開キタル神也、萬幡姬命ハ忍穗耳尊ノ妃ニシテ天ノ御中主尊ノ女也、朝熊ノ社三座ハ、櫻大刀自神•苦蒸神•朝熊水神也、此社神鏡ノ事ハ、神鏡沙汰文ニ詳也、然ニ今虛空藏ヲマツルコト、イカナルコトゾヤ、殊ニ佛ヲ忌ムヿハ已ニ明ナリ、我イマダ此山ニ上ラザレバ、ソノ詳ヲシラズトイヘドモ、虛空藏ヲ祭ルノ類謂レアルベカラズ、朝熊社ト虛空藏トハ別ナリ、金峯山金剛證寺ハ弘法ノ開基ト云、ソノ外常明寺ハ尾上山ニアリ、倭姬ノ命石隱ノ所ナリ、寺トセシハイカ

ナルコトゾヤ、餘リナルコトニアラズヤ、ソノ餘山田宇治ノ山中ニモ寺多シ、ミナコレ中古佛ニ淫スルノ過チナリト雖、幸ニ神靈ナケレバ神罰モナシ、ソノ神罰ノナキコトヲ知テ、色々奸ヲナス、浮屠ノ手段コソ惜ムベケレ

二　王代ノサカンナリシ時ニハ、伊勢ノ神職ニハ、ソレ〳〵ノ俸祿アリシユヱ貧ラザルナリ、ユヱニ今ノ日光・上野・增上寺ノゴトク嚴重ナリシニ、王威オトロヘサセラレテ後ハ、神人ノ俸トヾカズ、且ハオヒ〳〵奢侈ツヨク、人多クナリタルユヱ、武家ヨリモ行トヾカズシテ、ツヒニサマ〳〵ノ事書ナシテ、神威ヲ汚ストイヘドモ、禁ジ玉ハザレバカクノ如クナリタルナリ、其オコリハ佛ヲ敬フト同ジクウツリタル也、シカレドモ日光・上野・增上寺ヲ以テ見レバ、敬シテ遠ザクルノ實ナキニシモアラズ、コヽニオイテカ、ソノ敬不敬ノ實不實、ミナ其人ニアルコトニテ、コヽニ一定シガタシ、アヽ大神ハ日本ノ宗廟ナルニ、移リカハルハ世ノナラヒトハ云ナガラ、我國ノ神道モアラズモノニナリタリ、今ノ神道者ハ是ヲシラデ、神ニ近キ汚シ奉ルハ、不敬ノ大ナル者ナリ

神驗靈威ナケレバ、亦神罰モナシ、敬シテモヨロコバザレバ、不敬ニテモイカラズ、コレ本ヨリ鬼神ナキナリ、ソノ無ヲ本トシテ、アラハニ鬼神アリトシテ、コレヲ敬シ、實ハアナドリテ、神ヲ賣リテ利欲ヲホシヒマヽニス、ミナコレ誣祝僧侶ノ所業也

三　伊勢ノ神宮ニハ、僧尼ノ參詣ヲ禁ジテ入レズ、又忌言トイフコトアリ、內ノ七言ニ曰、佛稱中

子ハ、經稱ニ染紙ハ、塔稱ニ阿良々岐ハ、寺稱ニ瓦葺ハ、僧稱ニ髮長ハ、尼稱ニ女長髮ハ、齋稱ニ片膳ハ、外七言ハ死稱ニ奈保留ハ、病稱ニ夜須美ハ、哭稱ニ鹽垂ハ、血稱ニ阿世ハ、打稱レ撫、宍稱レ菌、墓稱レ壤ハ、コレミナ倭姫命ノ神託ナリト雖、後世ノ僞作ナリ、コノ時佛法ワタラズ、ナンゾ佛經・塔寺・僧尼アラン、外ノ七言ハ僧尼ニカカハラズ、後世肉葷ヲ禁ズルハ後ノ俗ナリ、シカルニカクノ如ク云ハズトモ、佛ヲ禁ジテ然ルベシ、共名ヲサヘ云ヲ惡ミテ、聖武帝行基ヲ以テ敕使トシテ佛舍利ヲ獻ズ、何ホド佛ニ溺レ玉フトモ、僧ヲ以テ敕使トスルコトアルベカラズ、然ルニ此コト神宮雜事ニ出デ、正史ニミエザレバ、無キコトシルベシ、コノ時ノ神託ト舍利ノコトノ僞ナルコト、誰ニテモ知ルベケレドモ、行基ヲ使トスルコトハアルコトナルベシト思フベシ、ミナコレ虛ナリ、此コト實ニアルコトナラバ、コノ忌詞ハソレヨリ後ノコトナリ、元來コノコト五部ノ書ニ出タルコトナレバ、近年ノコトナラン、サテカクノ如ク忌言マデアリト雖、今山田宇治ニ佛寺多クアリテ、泰然トシテ是ヲ信ジ、又神宮ノ祭器ニ佛具多ク用ユルコトハ、自然トコノ風移リタルナリ、天ノ岩戸ト罵ルモノハ、似セモノナリ、宮川日記ニ曰、コノ山ニ三十餘ノ墳穴アリ、ミナ古墳ナリ、天正年中ニ長官松本時彥ト云モノ、コノ墳穴ノ內ニテモツトモ大ナル足場ヨク面白キヲ見立テ、コレヲヒラキ神代卷ノ岩戸ナリトナヅク、大抵案ズベシ、伊勢ハ垂仁帝ノトキ始メテ鎭坐スル處、ナンゾ實ノ岩戸コヽニアラン、是ヲ以テ苟モ物ヲワキマヘタル者、信ズルコトニアラズ、只遠國田舍ノ愚民ヲ僞テ、錢ヲ投ゲサスノ計ナリ、桂昌院殿ヨリ燈明料ヲ御寄附アリシヨ

リ、ダン〳〵繁昌トナリタリ、今正員ノ神主等コノ岩戸ニ入コトヲ禁ズ、モシ入タレバ、三日ノ忌アリテ、神宮ヘ出ルコトカナハズ、是ヲ以テソノ古墳ナルヲ知ルベシ、然ルニ是程ニ火ヲ改メ、忌服ヲ屛クルノ神宮ナルニ、諸國ヨリ參詣ノ者、ミナ此岩戸ニ入テ、直ニ內宮ヘ詣スルハ如何ナルコトゾヤ、イカニ金錢ノホシキトテモ、神宮ヲ汚穢シ不敬ノ至リ、アヽ悲ムベシ、公ヨリ是ヲ禁ジ玉ハザルハ、寬仁ノ至リ、神德大德ニ合フモノカ、日本第一ノ神廟ニシテ敬畏崇尊スベキハ、コノ神宮ヨリ上ニ出ルハ無クシテ、神官等ノ金錢ヲ貪リ、神ヲ不敬シ褻近スルコト、亦コノ神宮ヨリ甚シキハナシ、ユヱニ金錢ヲ擲ツトキハ、神官等犬ノ如ク這ツクバヒテ、馳走答拜セザルハナシ、亦近世太々神樂ト云コトヲ始メ、中神樂・小神樂アリテ、其金銀ノ多少ヲキハメ、タトヒ居兒乞食ト雖、コノ定メノ金錢ヲ出ス時ハ、王侯ノ上ルベキ席ニモ至ラセ、神樂ヲ奏シ御膳ヲ獻ズ、何ノコトゾヤ、延喜式ノ禁イヅクニアリヤ、カヽル鄙劣ノ行ヒヲナシ、神德ヲナイガシロニス、コレニテモ神罰モナク、神託モナシ、アヽコノ大德カクノ如ク、ソレ瑣細ナラザル也、コヽヲ以テ愚民ニサトス、此神罰ノナキヲ以テ、又神靈奇特ノ無キヲモ知ルベシ（古ヨリ神前ニ於テ宍ヲ禁ズルコトナシ、肉ヲ禁ズルハ持統已後ナリ、然レドモコレハ佛前ト人民ノコトニテ、神前ニテハ後世トテモ禁ズルコトナシ、皆コレ佛法ヒロマリテ後ノ事ニシテ、又神道ノ一流ヲ立ルナリ）

四　中臣ノ祓ハ、瓊々杵ノ尊降臨ノ段ヨリ、神代ノコトヲトリマジヘ書タルコトニテ、是ヲ大神宮ノ前ニテ唱フル時ニハ、彼諺ニ云釋迦ニ經ノ如ク、ソレハ朕ガ知テ居ルコトナリ、外ニ何ゾ當世ノ面白

キコトアラバ、キカセヨトノ玉フベシ、又六根清淨ノ祓ハ神前ニ於テ唱フベキコトニアラズ、タトヘバ祝詞ノ文ハ祭文ナレバ、神ヲ祭ルノ詞ナリ、神前ニテ唱フベシ、スベテ孝子ノ心自ラ事ヲ專ラニセズシテ、子ヲ産メバ告ゲ、娶レバ告ゲ、事アレバ告ゲ、毎々カヤウ〳〵ノコトアリ、ユヱニ饌ヲソナヘ酒ヲスヽメテ、コレヲ告グト云テ祭ルナリ、ソノ外臨時・四時・年始・佳節・忌日ノゴトキ、ミナ今日カヤウ〳〵ノコトユヱニ、饌ヲソナヘテ祭リ奉ツルトコトワリテ祭ル、是ヲ祭文ト云、又何ナリトモ願望アレバ、ソノ趣意ヲ書ツケテヨミ上ル、コレハ願文ナリ、コレラハミナ神前ニテヨムベシ、神經トテモ同ジコトニテ、四書・五經ノ如キモノナリ、今ニテモ先聖孔子ヲ祭ルニ、祭文ハヨメドモ、論語・家語ヲヨムコトヲキカズ、凡祓ト云モノハ、齋戒沐浴シ、垢離ヲカクト同ジコトニテ、自身ノ不淨ヲ去リ、自身ノ汚穢ヲ祓除クナリ、ソノ後神前ニ出ルコトナリ、ソノ垢離沐浴ヲカハリニ唱フル祓ノ言ヲ、神前ヘ出テ何ノ譯モナク、直チニ祓ヒノ唱ヲナス時ハ、神トテモ何ノコトヤラ分ルベカラズ、然バ則チ神前ニテ中臣ノ祓、及六根清淨ノ祓ヲ唱ヘ、又佛前ニテ阿彌陀經・觀音經ヲヨムコトハ、汗水タラシテヨメドモ、亦何ノ益カアラン、阿彌陀佛ニ向ヒテ南無阿彌陀佛々々々ト數遍唱フルハ、六兵衛ニ向ヒテ、六兵衛殿〳〵ト數遍云ガゴトシ、六兵衛ハ大キニ腹ヲ立ベキナリ、諸神前ヘ向ヒテ唱フルナラバ、其譯ヲ言テ拜スベシ、外ノ唱言ハ何ニカセン、賀茂ノ葵祭ノ時ニ、勅使マヅ帷中ニ坐ス、神官ハ前ニ至リテ、中臣ノ祓ヲ誦シ行事アリ、ヲハリテ拜殿ニ升リ拜シテ宣命ヲノブル、拜殿ニテハ中

臣ノ祓ヲナスナドノコト一モナシ、コレ本法ナリ、今ハ神官等如在ノコトハサテオキテ、神前ニ於テ中臣ノ祓ヲヨミテ得タリトス（我ノ不淨ヲハラヒ清ムルノ祓ノコトヲ、神前ニモチ行テ唱フルトキハ、神ノ不淨ヲ祓ヒ清ムル如クニテ、神ヲ不淨トスルガ如シ、コレヲシラズシテ、神前ニテ誦シテ神ヲ慰スト思ヘドモ、實ハ侮ルナリ、神慮アラバ大ニ憤ラセ玉フベシ、幸ニシテ祟モナケレバ罸モナシ、又何ノ驗モ利益モナシ、シカレバ則チイヨイ　コレヨ無益ノコトナリ、セザルヲ以テ愈ルトス、是ラノコトハ理中ヌコトノ甚シキモノニテ、ヨク〳〵思ヘバ、笑フニ堪ヘザルナリ）ハ佛前ニテ經ヲヨムヲ見習ヒタルナリ、多田義俊云、百萬遍ヲ見テ一萬度ノ祓ヲハジメシカ、一萬度ノ祓ヲ見テ百萬遍ヲ始メシカ、何レニモ其錢ヲ貪ルヲ以テ、ソノ眞似ヲスルナリト、サモアルベシ、神前ニ於テ中臣ノ祓ヲ唱フルハ、馳走ノヤウニ心得テ、却テ神ヲ不淨トシテ祓除スルナリ、此祓ハ施主ノ不淨ヲハラフベキコトニテ、實ハ施主ヘノ馳走ナリ、コレミナ何ナリトモ唱ヘテ見セザレバ、參詣人錢ヲ投ゼザレバ、コヽニオヨブコトニシテ、一モ神ヘノ馳走ハナキコトナリ、ソノ本ハト云ヘバ錢ノホシキユヱナリ、ミナコレ金錢ノ多少ニ隨ヒテ、神樂ヲ奏シ、祓禊ヲナシ、又ハ一萬度ノ禊ナドヲ勤ルナリ、中臣ノ祓ハ瓊々杵ノ尊降臨ノコトヲハジメ、神誨ヲ云コトナレバ、凡人ニヨミキカスベキコトナリ、ソレヲ以テ神前ニテヨミテ、神ノ歡ビ玉フト思フハ誤ナリ、六根清淨ノ祓ノ詞ニ云、「天照皇大神乃宣久、人波則天下乃神物奈利、須レ掌ニ靜謐一、心波則神明乃本主他利、莫レ令レ傷ニ心神一トアルマデハ、寶基本紀ニ出ル處ノ神託ナリ、「是故仁目仁諸乃不淨乎見旦」ヨリ下ハ、法華經ニ「眼根清淨、耳鼻舌身、意根清淨、得是六根清淨」云々、又曰、「內外俱淨」云々、又云、「發大清淨願」云々、又圓覺經ニ曰、「六根清淨、善欲心生」云々、普賢經ニ云、「樂得六根清淨者當學是觀」云々、コレラノ說ヲ以

テ作リタルモノ也、又諸ノ法ヨリ下ハ、大日經ノ金剛界禮懺ノ文ノ語ナリ、一諸法如二影像一、（影字、大日經作レ彩）大日淸淨無假穢、（假、禮懺文作レ瑕）取說不可得、（大日經作二無說離言說一）皆從因業生一トアリ、コノハナヨリゾコノミトハナルト云ヨミクセコソヲカシケレ、此論俗說辨ニ出タリ、此六根淸淨ノ祓ハ、神道者ノ作ニアラズ、佛學習合者ノ妄作ナルベシ、但ハト部ノ兼延・一條禪閤ナドノ作ナランカ、何レニモ神道神學ト唱ヘテ、實ハ神道家ノ賊ナルヲシラズ、カクノ如ク神威ヲ汚シ、蔑如ニシテモ神罰モナシ、コレ鬼神無キノ證ナリ、履軒先生曰、吾邦ヲ神國ト云事ハ、鬼神ヲ甚崇敬スル風習ユヱ云コトナラン、殷人尙鬼ト同義ナリ、別ニ神道ト云テ修身・齊家・治國・平天下ノ道アリト云ニアラズ、シカルニ天下ノ根本大道ハコノ四ノ者ナリ、上古ヨリ神ヲ祭ルヲ見ルニ、ミナ福ヲ求メ禍ヲ除クコトノミニシテ、枝葉小道ナリ、今世イハユル神道ト云モノハ、上古ニハナキコトナリ、白川・吉田二家ノ內ニテ、近代ニコシラヘタルモノナリ、佛ノ繁昌ヲ羨ミテ立テタルモノナレバ、妄濫多キハソノ所ナリ、佛語ヲマジヘタルモ亦ソノハヅナルベシ、人ヲ敎ヘ世ヲ導クベキ才智腹中ニ少シモナキ人ガ、俄ニ一流ノ敎ヲ立ントスルハ、何ニテモ假來リテ附會セネバ、出來ザルコト尤ナリト、憫ムベシ此敎出來リテ、百年アマリニナルベシ、是ニテ神道ト云コトハ無キコトヲシルベシ、蓋不レ知而作ルトハ、此一流ニヨクカナヘリ、唯神道ト云ベキモノハ、神官巫祝ノ心身ヲ淸淨ニシテ、神ニ奉仕スルコソ道ナルベケレ、尙書ニ曰、「直而淸」一トハ、鬼神ニ仕フル官人ニ命ズルノ言ナリ、他ノ官ニハ直淸ヲ敎ヘ玉ハズ、聖人ノ智ハ明カナルコトナリ、然レ

バ巫祝ノ身分ハ直ニシテ淸ナルベキニ、ミナ曲ニシテ濁トナリテ、サマ〴〵ノ神異奇驗ヲ云立テ、ソノ神宮ヲ繁昌サセ、賽錢ヲナゲサセ、燈明料・神樂料ヲ貪リトリテ神德トノノシリ、實ハソノ神德ヲ滅ジ汚スコトヲシラズ、神官ラノ中ニテモ、伊勢ハ最甚ダシク、是ニテモ神罰モナク神託モナシ、又コノ太々神樂一萬度ノ秡ヲナシテ歡ビ玉フ神ナラバ、コレモ亦林放ニモシカザル神ナランカ、ヨク〳〵考フベキモノナリ聖廟ニテ論語ヲヨミタラバ、神モ覺エノアルコトユヱ、其マヽナルベシ、家語ヲヨミタラバ、我ハカカルコトヲ云ザルナリトノ玉フベシ、大神宮ニテ中臣ノ秡ヲヨミタラバ、我ハシラズトノ玉フベシ

五　外宮ハ豐受大神ヲ祭ル、コノ神ノコト神代ノ巻ニ見ユルコトナシ、舊事紀古事記並曰、伊弉冊ノ尊病ニ臥タル時、化生スル處ノ神稚產靈神ノ子豐受比女神神名略記ニ云、屋船豐宇氣姫ノ命ハコレ稻靈ナリ、俗宇賀ノ美多麻ノ神ト云、二十二社註式ニ云、稻倉魂ノ神ハ一名豐宇氣姫ト云、コレヲ合セ考フベシアリテ、大神天上ニ在マセシ時、御饌食ヲ奉リシ神ニシテ、御饌食ノ神又保食ノ神ト云、此外ニ三部日本書紀、舊事紀、古事記ノ書ニ、豐受大神ノコトナシ、然ルニ御鎭座本紀・寶基本紀・倭姫命世紀大同小異アリト雖、大テイニシルスモノナリ並曰、「天地初發之時、大海之中、有一物浮、形如葦牙、其中神人化生、名天御中主尊、故號豐葦原中國、亦因以曰豐受皇大神也、與大神大日靈尊擧此以八坂瓊之曲玉・八咫鏡・及草薙劒三種神財、而賜皇孫爲天璽、中略御間城入彥五十瓊殖天皇崇神天皇三十九年壬戌、天照大神遷幸丹波國吉佐宮、今歲止由氣皇大神豐受大神ナリ結幽契、天降居、于時大御食津臣命・建御倉命・屋根命・宇賀御魂稻女神等相從以戻止、爾時天照皇大神與止由氣皇大神、合明齊德居焉、如天上之儀、一處双焉、和久產巣日神子豐宇珂能賣命外宮ノ神ハ即コノ豐宇賀能賣ノ命ニシテ、五穀ヲ生ジ酒ヲツクリ、日神ノ御食饌ヲ司ルユヱニ、天下ノ物コノ食ヨリ尊ハナシ、ユヱニ漢土ニハ稷ヲマツル、コレ五穀ノ神ナリ、宗廟社稷トツヾキテ、天

下ノ主神トス、豐受姫ノ神・一名御食津ノ神、又宇賀ノ魂ノ神、今世ニイフ稻荷モコレ也、イナリハ稻生、又稻成ト書ク、必々野狐ノ類ニアラズ、誤ルコト勿レ生二五穀一、而善釀レ酒奉二御饗一、御炊神水沼道主率二三十六竈神一、而朝大御氣夕大御氣於炊(チキ)備奉二御饗一中略纏向珠城(マキムクタマキ)宮天皇垂仁天皇二十六年コレヨリ先諸國ヲ巡行シ、宮處ヲ求メ玉フ丁巳冬十月、大神宮奉レ遷二度會宇治五十鈴川上一鎮坐焉、」云々、泊瀨朝倉宮天皇雄略天皇二十一年丁巳冬十月朔、倭姫命夢教覺給、皇大神吾如二天之小宮坐一、天下一所坐、御饌安不レ聞、丹波國吉佐坐御饌都神止由氣皇大神、我坐國欲二誨覺一給、于レ時大若子命差レ使奏レ之、卽天皇祥御夢、則天皇今日夢相二隨神敎一、度會山田原地形廣大、亦麗二於此地一、大田命構二立寶殿一、明年戊午秋七月七日、以二大佐々命一奉二行幸一焉」云々、コレ外宮豐受大神宮ノ由來也、コレヲ以テミレバ、天御中主神ヲ以テ豐受大神トスルナレドモ、三部ノ書ニ見エザレバ、證據アルコトナシ、三部ノ書タル寓言虛言ナリト雖、此書ニダニ無キコトナレバ、イヨ／＼以テ證ナシト知ベシ、古事記・舊事紀ニハ豐宇氣姫ノ命アリテ、コレヨリ外ニアルコトナシ、又同書同書ハ五部ノ書ナリ曰、「蓋聞天地未レ割、陰陽不レ分以前、是名二混沌一、萬物靈、是封爲二虛空一、神亦曰二大元神亦國常立尊一、五部ノ書ニハ、天ノ御中主トシ、又國常立ノ尊トシテ、又豐受皇大神宮トス、コノ三神ミナソノ出所別ナリ、相混ズベカラズ、外宮ノ神主等内宮ヨリモ尊クセンガ爲ニ工夫スレドモ、センスベナシ、豐受大神ノ神名ハ古ヘヨリアレバ、削ルベカラズ、ユヱニ古ク尊キ神ヲ求メテ、コノ二神ヲ得ルナリ、日本紀ニハ、初生ノ神ヲ國常立ノ尊トシ、天神七世ノ初トス、舊事紀ニハ初生ノ神ヲ天讓日國讓日天狹霧國禪日國狹霧ノ神トス、次ヲ天御中主尊トシ、次ヲ可美葦牙彥舅尊トシ、次ヲ國常立ノ尊トス、古事記ニハ、初生神ヲ天御中主ノ神トシ、次ヲ高御巣日神トシ、次ヲ神御産巣日ノ神トシ、次ヲ宇麻志阿志何備比古遲ノ神トシ、次ヲ天ノ常立ノ神、次ヲ國常立ノ神トス、コレラノ内ヨリエリ出シテ天ノ御中主トシ、或ハ國常立トス、シカレドモソノ後ヨリ今ニ至リテハ、天ノ御中主ノ尊ハ左ホドニ俗人モ知ラズシテ、國常立ノ尊ハ日本紀ニ天神七代ノ始トスルユヱ、俗人ヨク知リテモテハヤシ、殊ニ内宮ハ地神ノ始ナリ、外宮ハ天神ノ始ナリトイハセテ、ソノ上ニ立ントスルナリ、ツヒニ寶永十條ト云書ヲツクリテ、陰陽水火ノ德ヲ云立、五部ノ說ヲ主トシテコレヲ誇張ス、ユヱニ又神路ノ記ト云書ヲツクリテ、寶永十條ヲ難破ス、コヽニオイテ本居宣長割竹ノ辨ヲツクル、天ノ御中主ノ神、國常立ノ神ヲ引付タルアヤマリヲ正シ、豐受姫ノ

命ヲ以テ御食津ノ神ニシテ、天下第一ノ食穀ナクンハ有ベカラズアル神ニシテ、天下コゾッテ尊ブベキコトヲ宣フ、ソノ中ニハ何ノ率爾モ少シトセザレドモ、亦ソノ見ル所大ニ高シ、コレヲ以テ正トスベシ、シカレバ則内宮ハ日神ニシテ陽神ナリ、外宮ハ豐受姫ニシテ陰神ナリ、伊勢二宮ハ天下第一ノ尊神ニシテ、ソノ本體ヲトリ失ヒ、ソノ陰陽ヲ辨ヘズ、イカナル事ゾヤ、コノ尊神ニシテカツノオトシ、イハンヤ他ノ神ナヤ、天下コゾッテ此ノ二座ニ於テハ、ソノ神德ノイチジルシキヲ尊トム、シカルニ今ニ於テ、ソノ神體明白ナラズ、ソレニテモ何ノ神託モナシ、ナンゾ倭姫ノ命再ビ出デ、コレヲ分チ玉ハザルヤ、何レニモ外宮ハ豐受大神ヲ祭リ來リテ、天御中主尊、國常立ノ尊トハ遙ニ別ナリ、コレヲヨク／＼考フベシ　亦名ニ倶生神ニ、希夷視聽之外、氣象之中虚、而有レ靈、一而無レ體、故發ニ廣大慈悲於自在神力ニ、現ニ種々形ニ、隨ニ種々心行ニ爲ニ方便ニ利益所レ表名ニ大日靈貴ニ、亦曰ニ天照大神ニ、爲ニ萬物本體ニ、度ニ萬世ニ世間人兒如レ宿ニ母胎ニ也、亦止由氣皇大神・月天尊・天地之間、氣形質未ニ相離ニ、是名ニ渾輪ニ、所レ顯尊形、是名ニ金剛神ニ」下略コレ同書ニシテ、前ニハ天御中主尊トシ、後ニハ國常立尊トシ、皆是ヲ止由氣皇大神トス、コトニ此章佛語ヲマジヘタルコトイカヾ、コレハ後世兩部者ノ作ナルコトシルベシ、然ルニミナ大倭姫命ノ語トシ、跋文ニ、「大佐々命乙乃古命二男飛鳥記レ之」ト云、此人ハ雄略・繼體帝ノ時ノ人ナリ、ナンゾ此時カヽル佛語アランヽコレヲ以テ後世ヲ欺カントス、淺智ナル哉、御鎭坐傳記ニ曰、「二神已生ニ大八洲海神河神風神等ニ以降、雖ニ廻ニ一萬餘歳ニ水德未レ露、天下飢饉、于レ時二柱神天御量事ヲ以テ瑞八坂瓊之曲玉捧ニ九宮ニ所レ化神名、號ニ止由氣皇大神ニ、千變萬化、受ニ一水之德ニ、生ニ續命術ニ、故曰ニ御饌都神ニ也、古語曰、大海中有ニ一物ニ浮形如ニ葦牙ニ、其中神人化生、號ニ天御中主神ニ、故號ニ豐葦原中國ニ、亦因以曰ニ止由氣皇大神ニ」下略コノ書前ニハ二神ノ子ト云、後ニハ開闢ノ神トス、是マタイカンヲシラズ、又云、「雄略天皇二十二年、倭姫命宮坐、冬十一月、新嘗會祭夜深、雜人等退出之後、神主物部忌等ニ宣ハク、吾今夜承ニ皇大神、及

止由氣皇大神勅、所二託宣一汝正明聞給、人乃天下神物也、莫レ傷二心神一、神以垂二祈禱一爲レ先、冥加以二正直一爲レ本、任二其本心一、皆令レ得二大道一、故神人守二渾沌之始一、屛二佛法之息一、崇二神祇一、散齋致齋、內外潔齋之日、不レ得二喪問レ疾食一レ宍、不レ判二刑殺一、不レ決二罰罪人一、不レ作二音樂一、不レ預二穢惡事一、不レ散二失其正一、致二其精明之德一、左物不レ移レ右、兵器無レ用、不レ聞二鞆聲一、口不レ言二穢惡一、目不レ見二不淨一、鎭守謹愼之誠、宜レ致二如在之禮一矣」、コノ神託二宮ノ託ト斷ルト雖、倭姬ノ語ナリ、ナンゾ神自ラ我ヲカヤウ〳〵ニシテ、誠敬シテ祭レトノ玉フベキ、是倭姬ノ自ラ神ヲ祭ルノ法ヲ後世ヘ云遺玉フナリ、是ヲ以テ神託ト云モノハ、倭姬ノ命ノ語ナルコトシルベシ、又倭姬ノ語ニモアラズ、コノ書ヲ作リタル人ノ思ヒ付ノ語ナリ、ソノ外御鎭坐次第記・寶基本紀・倭姬命世紀ニサマ〴〵アレドモ、クダ〳〵シクアゲズ、寶基本紀ニハ、兩宮造營遷幸ノコトヲ云、ミナ外宮トイハズシテ豐受大神宮ト云、倭姬命世紀ニハ、命大神宮ヲ齋奉リテ、諸國ヲ巡リ玉フコトヲクハシク記ス、ミナ虛妄ト佛語ト相半ス、サテ兩宮ノ相殿ノコト左ニシルス　倭姬ノ命世紀ト題スレバ命初世ヨリ一生ノ事ヲ傳フベシ、コノ書ハ大神宮鎭坐ノ事ナリ、題ニアハズ大八洲記寫本ニ云、相殿ニ前坐後坐ノ傳アリ、始ハ內宮五坐ナリシニ、外宮勸請ノ時後坐ノ二神ヲ外宮ヘ遷シ、前坐ノ二神ヲ後坐ヘウツス

御鎭坐本記ニハ、

內宮　天手力雄命乃思兼命ノ子也、萬幡豐秋津姬命乃瓊々杵尊ノ母也

外宮　瓊々杵尊　天兒屋根尊　天太玉尊

御鎭坐傳記ニハ

內宮　天兒屋根命　天太玉ノ命　　御戶開神　天手力雄命　萬幡豐秋津姬命

外宮　瓊々杵尊　天兒屋根命　天太玉命

御鎭坐次第記ニハ　內宮天手力雄ノ命 萬幡豐秋津姬命　外宮瓊々杵尊 天兒屋根命 天太玉ノ命

當時

手力雄命　大神宮　萬幡姬命

內宮古昔

天兒屋根命 手力雄命　大神宮　天太玉命 萬幡姬命

外宮ニ五神四坐ノ傳ト云アリ

玉杵命 天孫尊　止由氣大神　天兒屋命 天太玉命

外宮五坐トシテ玉杵命ヲ加フルハ、何ヨリ出タルヲシラズ、五部ノ書ニモコノ事ナシ、イロイロト新說ヲ出シテ大庸ヲ玩弄ス、三才圖會モノ說ニ從フ、御鎭坐傳記ノ說コレニ似タリ

寶基本紀ニハ神名ナシ、外宮ノ相殿兒屋根命・太玉命ハ內宮ヨリ移シ奉、瓊々杵尊ノ事不ㇾ得ㇾ考

倭姬命世紀ニハ　內宮天兒屋根命 天太玉ノ命　一書ニ曰天手力雄命 萬幡豐秋津姬命　外宮瓊々杵尊 天兒屋根命 天太玉ノ命

カクノゴトク五部ノ書ノ中ニ於テ、內宮外宮ノ相殿ノ神明白ナラズ聖應ガ神道拂惑ニハ、外宮モ內宮ノ時ヨリアリテ兩宮ト稱ス、內宮ノ御饌ヲ朝夕外宮ヨリハコビタルニ、五十丁ノ遠キ路次ナレバ、聖武ノ時死穢ニ遇フコトアリ、ソレヨリ外宮ニ內宮ノ假殿ヲ勸請シ、コヽニテ御饌食ノ神トス、ユヱニ朝夕ノ御饌コノ神ニ奉リテ後ニ外宮ニ奉ルナリト云又內宮ノ本祠ニ於テハ、天照皇大神宮ナルコト疑ヒナシ、外宮ニ於テハ前ニ云如ク天御中主神トシ、國常立神トシ、又御饌津神トシ、止由氣皇大神トス、林氏白井氏ミナ國常立神トス、相殿ノ神モ亦上ニアグルガ如ク一定ナラズ、

何ガ故ニカクノゴトキ混雑ナルヤ、攝社ニ於テハ尙サラノコトナリ、爰ニ家アリ、主人ヲ六兵衞ト云、西家ヨリハ七兵衞ト云、東ヨリハ八兵衞ト云、又外ヨリ十兵衞ト云、アニカクノゴトクニテ、人コレヲ肯ンヤ、紛々タル時ニハ主人自ラ出デ、吾ハ六兵衞ニ相違ナキコトヲ辨ズベシ、此神ニシテ靈アラバ、ナンゾ早ク朕ハ誰某ノ神ナリト辨ジ玉ハザル、コレヲ辨ジ玉ハズ何神ナリト云テモ、カマハセラレザルハ、神靈ナキヲ覺ルベシ 神代ノ卷ヲ按ズルニ、天照大神岩戸ニ入玉フトキ、天兒屋命、太玉ノ命眞坂木ヲカツラトシ、五百箇ノ御統・八咫ノ鏡・青和幣・白和幣ヲカケテ、相共ニ祈禱ス、天ノ鈿女ノ命岩戸ノ前ニテ俳優ス、手力雄ノ命岩戸ヲ開キ、大神ヲ出シ奉ル、コレヲ以テミレバ、萬幡秋津姫ノ命ハ忍穗耳ノ尊ノ妃ニシテ、此相殿トナルベキ理ハアルベカラズ、前後坐ノ四神ハ此時ノ功アル神々ナレバ、相殿トモスベキ理アリ、コトニ御戸開ノ前ノ神トアレバ、手力雄ノ命鈿女ノ命ナルベシ、シカレバ萬幡姫ノ命ト云ハ鈿女ノ命ヲ誤タルナルベシ、古ヨリ神道ヲ談ズルモノ、一人コヽニ察ヲ入レザルハ、疎ソカナルカナ、コレミナ日本紀五部ノ書ヲ信ジテ、カヘリミザルノアヤマリナルベシ、愚ナルカナ、頑ナルカナ ツラ〳〵外宮ノコトヲ考フルニ雄略帝ノ時ニハ御饌都神ヲ祭リ、內宮ノ御旅所トシタルナリ、故ニ豐受姫ノ神ヲ祭ルハ、理實ニ灼然タリ、ソノ後村上天皇ノ時、內宮外宮ノ稱始マルト雖、內宮ハ貴クシテ外宮ハ卑シ、故ニ外宮ノ神主等外宮ヲ貴クセンガタメニ五部ノ秘書ヲ作リテ、ヒソカニ神庫ニ藏メオキ、オヒオヒニ取出シテ古書ト云フラシ、豐氣大神宮ハ天ノ御中主ノ神ナリ、又國常立ノ神ナリト云立テ、皇ノ字ヲ加ヘテ大麻ヲ出ス、又イツノ程ニカソノ本體ヲ失ヒテ、ツヒニ大麻ニハ外宮ニテモ天照皇大神宮トス、近世內宮ノ神主ヨリ、外宮ニ皇ノ字ヲ用ユルコトヲ言立テ、禁ゼラルヽヤウニ官裁ニ及ビケレドモ 永仁四年二月皇ノ字沙汰アリ 古ク用ヒ來リタルコトユヱニソノ儘ニナリタルヨシナリ、アヽ本朝ノ法ノ立ザルヤ斯ノ如ク、スデニ大廟ニ於テ何ノ神ヲ祭ルヤ知ラズシテコレヲ祭リ、定名モ無クシテ五部ノ書ノ作者、

思ヒ〳〵ニ神名ヲ命ジ豐宇氣姫ノ神ノコトハ、本居古事記傳十五卷ノ三十八丁ニクハシク論ズ、コレヲバ得タリトス林氏・白井氏・山崎氏等モ思ヒ〳〵ニ神體ヲ議ス、ナンゾソレ定法ナキカ、カク祭ラルヽ神モ誰タルヲシラズ、祭ル神主等モ又誰ナルヲシラズシテ、是ヲ祭ルハイカナルコトゾヤ、吾輩ノ小人トシテ伊勢ノ神廟ノコトヲ論議シテ、殊ニ神靈ナシト罵ルモノ恐多シト雖、神靈無キコソ道理ナレ、本ヨリ此廟ハ始祖トシ、天照皇大神宮トアガメ尊ム處ノ神ハ即日輪也、ユヱニ其德廣大ニシテ、アニ小細ノコトニカヽハラセ玉ハンヤ、スベテ天地ノ間ニ於テ、萬物ヲ生育シテ萬陰ニ和合シ、大小・厚薄・深淺・輕重ミナコノ一大陽ノ德ニヨルコトニテ、コノ一陽ノ德アレバコソ、天下ノアラユル萬物生々スルヿナレバ、誰カ一人此陽德ヲ蒙ラザルモノアラン、ユヱニ聖人ミナ人事ヲ以テ天ニ歸スルナリ、カヽル大德ノ尊神、ナンゾ神官等ノ口腹ヲ養ヒ、天下愚蒙ノ參詣人ヘ福德ヲ與フルガ如ク小ナランヤ、神ハ正直ノ頭ニヤドルト、今モスデニ云ニアラズヤ、正直トハ靈驗ナキヲ云、コレコソ實ノ正直ナレ、天日ノ如キ大德ナリト雖、天上天下ノ萬物ニソノ德ヲ交合シテ、日夜間斷ナク萬物ヲ生々シ玉フコトナレバ、何ヲ祈リテモ、何ヲ求メテモ、貪着ナキコソ正直ナレ、豈一人二人ノ願望ヲカナヘテ、眼前吾ニ媚ルモノニ私スル日輪ナランヤ、ユヱニ神驗無ト云モノハ實ハ其神ヲ尊敬スルコト、日輪ヲ敬スル心ヲ以テスルナリ、神驗アリト云者ハ、只ソノ神ヲ汚愛シ卑下ニスルコト、母子ノ交ノ如クニ馴汚ス也、其神ヲ敬スルコトノ大小ヲ見ルベシ

前ニ論ズル如ク、外宮止由氣皇大神宮ノコトハ、一ツモ前證ナシ、スベテ神代ノ神名ヲ考フルコト、

三部ノ書ヨリ外ニナシ、外ニアルモノハ、ミナ三部ノ書ヨリ抄出シタルモノ也、神宮五部ノ秘書ハ何ヲ出處トシテ書出シタルヤ、ミナ三部ノ書ナリ、此書ミナ奈良ノ朝ニ出ヅ、コレヲ本トシタルコトナレバ、五部ノ書ハ後世ニ書タルコト灼然タリ、而シテソノ齟齬附會虚妄ノコト、一部ノ書ノ中ニ顯然タリ、ナンゾソレ取シメナキヤ、後世ノ儒士コノ書ヲ信ジテ、カリソメニモ此書ヲ出處トスルハ、淺ハカナルコトニアラズヤ、大テイ此書ヲヨミテ、其是非ヲ辨フベシ、スベテ儒者神道者タルモノ、コノ書ヲ以テ金烏玉條トシテ信ジテ疑ハズ、又此作者ハ倭姫ノ命ヲ大神宮ト同ジク見ル、マヅ初ヨリ考フベシ、六十年ノ間御宮處ヲ求メテ、諸國ヲ巡行シテ處々ニテ不測ノ神託ノコトアリテ日本紀垂仁帝二十五年、伊勢鎮坐ノコトハアレドモ、諸國巡行ノコトナシ、此巡行ノコト及地神三代ニ年數ナワリテ、神武ノ詞ニ合スモノ、ミナ五部ノ書ナリ、元々集ハ後醍醐ノトキノ書ナリ、コノ書ニコノコトアレバ、コノ前後イヅレナシラズツヒニ伊勢ノ五十鈴川ノ上ニ鎮坐スルコト、實ニ大神宮ノ思召ト思フヤ、又ハ倭姫ノ命ノ私心ヨリ出タリト思フヤ、コノ巡行ノコトモ實ナリヤ、伊勢ニ鎮坐ノコトモ實ニ神託ナリヤ、コレ未ダ知ルベカラズ、サテ倭姫ノ命ノコト、垂仁帝ノ皇女ニシテ、齋宮ニ立セ玉フヨリ、天照大神ヲ齋キ玉ヒテ諸國ヲ巡リ、ツヒニ伊勢ニ鎮坐アリ、ソレヨリ後、景行天皇ノ御時、日本武尊東征ノ路、伊勢ヲ過テ逢玉フコト日本紀ニ見ユ、雄略天皇二十一年、神託ヲ宣テ豐受大神宮ヲ外宮ニ鎮坐シ玉フ、其翌年秋行幸アリテ、十一月神託ヲノベ、翌日薨ジ玉フ外宮ノ鎮坐、及ビ命薨去ノコトハ、五部ノ書ニアリテ、本史ニハナシ、ナニヽ據タルヤ、ミナ跡方モナキ虚妄ノ語ナルベシ、此五部ノ書ハ甚シキ愚作ニテ、カヽル拙ナキ趣向ニテ、俗人ト雖欺クベカラズ、況ヤ博識ノ才子ヲヤ崇神天皇三十九年ヨリ垂仁天皇二十六年伊勢ニ鎮坐マデ五十六年ニナル、同二十七年ヨリ雄略

天皇二十二年ニ至ル四百八十一年ナレバ、合テ五百三十七年ナリ、崇神天皇ノ時齋宮トナリ玉フ時二十歳トシテモ、合五百六十歳トナル倭姫命ノコトハ生玉ノ社僧聖應ガ神道辨惑ニモ亦クハシクコノ妄誕ヲ論ズ宰我スデニ黄帝三百年ニ成ルサヘモ人カトアヤシム、日本ニテモ仁徳天皇ノ時ニ薨ゼラレシ武内大臣ヲ以テ、古今ノ長壽トシテ和漢ニコレヲ膾炙ス、此命カヽル大功アリテ、天下擧テ生ナガラノ天照大神ト思ヒ尊敬スルナリ、殊ニ日本紀ハ民間ノ左程ノコトニナキコトマデモ、書テモラスコトナシ、コノ命五百六十歳ニテ薨ジ玉フハ、天下古今ノ長壽ナレバ、タトヒ位ノナキ庶人トテモ書スベシ、況ヤ此命ヲヤ、記ルサズンバアルベカラズ倭迹々日百襲命孝靈女倭迹々稚屋姫命同倭迹々姫命孝元女千々衝倭姫命崇神女倭姫命垂仁女シカルニ日本紀ニ是ヲ書ザルハ、闕文ニアラズヤ、コノ五部ノ秘書ハ後世ノ妄作ナルコトシルベシ、神社考ニ、倭姫ノ命ノ同名異人ヲ辨ズト雖、コレハ五部ノ書ヲ信ジテ後ノ説ナリ、日本紀及ビ其餘ノ國史ニ、外宮ノ遷坐ノコトヲシルサズ、又倭姫ノ命ノコトハ、伊勢内宮ノ遷坐ト、日本武尊ノ逢玉フコトハアレドモ、雄略天皇ノ時、外宮ヲ勸請シ玉フコトハ見ルコトナシ、然レバ倭姫ノ命ハ百歳アマリニテ薨ジ玉ヒ、外宮ノ勸請ハ大造ノコトニテハナカリシナルベシ、ユヱニ日本紀ニシルサヾルナリ景行四十年十月日本武ノ尊伊勢ニ參詣シ玉フトキニ、倭姫ノ命ヨリ艸薙ノ劔ヲサヅカリ玉フコトアリ、此時スデニ垂仁二十六年ノコトニシテ、内宮勸請ノトキヨリシテ此トキニ至リテ年數ハ百十四年ノ間ニナレバ、コレホドノ長壽ハアルベキモノナリ、アニ五百六十歳ニテ薨ジ玉フノコトアラン、其虚實ヲヨク〱考ヘ合スベキナリスベテ外宮ヲ尊信スルコトハ後世ノコトニテ延喜式ニモ二所ノ宮トシテ、内宮ニ次ギタレドモ、内宮ハ大神宮ト稱シ、外宮ハ度會ノ宮ト稱シ、ソノ餘ハ多ク豐受大神宮ト稱ス、今ノ如ク外宮トモニ天照皇大神宮ト稱スルコトナシ、コレ

ハ諸國ノ民家ヘ御祓ヲ賦スルニ、豐受大神宮トシテハ、民家ノ信仰ウスクテ受ザル故ニ、外宮ヨリモ天照皇大神宮ト書シテ諸國ニ賦與シ、內宮ト同ジコトニ思ハセタルナリ、故ニ諸國ノ百姓外宮ノ神主ヨリ御祓ヲ受テ、大神宮ト心得テ足レリトス、ア、神ハ正直ヲ本トシ欺カザルヲ體トス、始ヨリ神ヲ以テ諸民ヲ欺ク、神國ノ敎何國ニアリヤ、コレヲ忍ブベクンバ、孰ヲカ忍ブベカラザラン、ソノ本ヨリスデニ神體立ズ、天ノ御中主ノ尊トシ、又ハ國常立ノ尊トシ、一定ノコトナシ、況ヤ其餘ヲヤ、コレヲ以テ是ヲ見レバ、五部ノ書ノ誣罔ナルコト顯然タリ、其始ハ御饌都ノ神ニシテ豐受大神ナリシヲ、五部ノ書ヲツクリテ天ノ御中主ノ神ト云テ、又コレヲ倭姫ノ命ニ托シタルモノナリ（五部ノ秘書ニ、天ノ御中主ノ神トシ、國常立トシ、表ニハ止由氣大神宮トス、然ルニ上二神ノ事ハ無稽ノ事ニシテ取ルニ足ラズ、五部ノ書中酒殿ノ神體ヲ和久産巢日神ノ子豐宇賀能賣神トシ、コレヲ御饌津ノ神トシ、五穀ヲ生ズルノ神ト云、又豐宇氣大神モ穀ヲ生ズル五神ト云、又豐宇賀能賣ノ神タビ〳〵大神宮ヲ供奉スルノ文アリ、五部書ノ論天ノ御中主トシ、國常立トシ、豐受大神トシ、又ツヒニ豐宇賀能賣ト云新名ヲ引出シ來ル、古事記舊事紀ガ明カニワクムスビノ神ノ子トヨケヒメノ神トス、シカルニトヨウガノメノ神ト名ヲモジリシルス、ミナコレ五部ノ秘書ノ妄言ナリ、惡ミツベクシテ憎ムベキナリ）倭姫ノ命實ニ此時マデ存在ナラバ、武內ヨリ先輩ノ長命ナレバ、仁德帝ノ前後三四百年ノ間ニ此高年ヲ人ノ稱セザルコトナカランヤ、突然ト此命五部ノ書ニ出テ、前ノ如クニ算ヘ見レバ、五百餘歲トナルヲ、天下ニコレヲ稱スルモノナシ、定テ作者モソノ迹ハゲテ、僞詐ノアラハル、モ知ラザルベシ、コトサラニ五部ノ書ミナ佛語ニシテ、佛法ノ息ヲ屛ケ忌言ヲナスコト、何ノ謂ヲシラズ、然ルニ大抵ノ書ヲヨム人コノ書ヲ信ジ、中世ミナコノ書ヲ以テ諸神祭禮ノ出處トス、ア、イカナル眼力ゾヤ、此書伊勢・源氏ノ物語ト同ジク、空言ヲ作ルモノナルコトシルベキナリ、此書ヲ以テ神宮ヲ欺罔

ストト雖、ツヒニ一言ノ神託モ神罰モナシ、是ヲ何トカイハン

六　賀茂ノ祠上宮ハ瓊々杵ノ尊、下宮ハ神武天皇・御祖ノ神ハ玉依姫ニテ神武ノ御母ナリ、山崎氏ノ說カクノ如シ、雍州府志ニ曰、「白鳳年中、大己貴命來ニ現下賀茂一、其後四月酉日、瓊々杵尊自ニ大和國賀茂社一、來ニ現上賀茂別雷山（建角身ノ命・別雷ノ命・武甕槌ノ命、ミナ似タルヲ以テ、附會スルナルベシ）麓一、御生所地號ニ別雷神一」本朝改元考ニ曰、「神武天皇鎮ニ坐下賀茂一」神社啓蒙ニ曰、「廿二社註式云、日向國天降坐、神賀茂建角身命申、神倭磐余彥天皇御前立坐、大和國葛木宿、彼漸山背國岡火賀茂迁幸、」神詠曰、「千早ぶる別雷山に宮居して、天降ること神代より先」トコレヲ以テミレバ、別雷ハ山ノ名ナリ、此山ニ坐スユヱニ別雷皇大神ト云、武甕槌ノ命ト云ハ誤ナリ、又下賀茂ノ社ハ、啓蒙ニ、玉依姫（每神ノ女ニアラズ、別ニ一神ノ名ナリ）大己貴ノ命トス、白井氏上賀茂ヲ以テ神武トスル心アラバ此玉依姫ハ御母ト云ベシ、又大己貴命ト云モ、考ヘザルナリ、スデニ上宮ニオイテ白羽ノ箭ノコトヲ辨ズ、ナンゾ下宮ニオイテ玉依姫ヲ別神トスルヤ、別神トスル時ハ出雲路ノ女ナルベシ、神社考ニ曰、「伊弉諾尊斬ニ軻遇突智一爲ニ三段一、其一爲ニ雷神一」又曰、「伊弉冊尊脹滿（ハレ）大高（ダヽヘリ）、上有ニ八色雷公一」云々、林氏コレヲ引モノハ、雷ノ字ニ惑ヘルナリ、シカルニ雷神ト云、又八雷ハ大雷・火雷・土雷・野雷・黑雷・山雷・稚雷・烈雷ニシテ、別雷ト云モノナシ、ナンゾコレヲ引ンヤ、又出雲路小女鴨ノ羽ノ箭ヲ引モノハミナ附會ナリ（賀茂皇大神宮記ニ曰、千早ブル神代ノムカシ、天ノ八重雲ヲ別ケ、日向ノ國ソノ高千穗ノ峯ニ天下ラセ玉ヒテ、宮柱フトシキ立テ、久シク止リマス、ソレヨリ大和ノ國カツラギノ峯ニヤドリ玉ヒテ、コレヨリ山代ノ岡田ノ賀茂ニウツリマシ〱玉フトアレバ、瓊々杵ノ尊ノコトナリ、コノ書始終ニ神名ヲイハズ、ソレヨリ祭祀ノ儀式ヲ云立テ神驗功績ヲノベ、末ニ嵯峨ノ天皇祈願ノコトヲ云トキハ、[illegible]

武帝ノ事ナリ、シカルニ神名ヲ云ハズ、又上下ノ事ヲイハズ、古書ハミナカヽル不都合ノモノナリ、中世ノ書ミナシカリトス、玉木正英ガ鴨上下社傳ニ云、下ノ社西ハ神武天皇ナリ、東ハ皇后五十鈴媛ナリ、本殿ノ西ノ小社ハ璽ノ社ト云、三種ノ内神璽ノ靈德ヲマツルナリ、天子ニアラザレバ、ナンゾ璽ヲ側ニオカン、コレ神武ノ證ナリ、祠家大己貴ノ命ト云ハアヤマリ也、コノ神ハ社前ニ一言ニ言三言ノ社ニシテ、コノ神ノ七號ナリ、河合ノ社ハ神武ノ母玉依媛ナリ、社家ノ先祖ヲ建角命ト云、ソノ女河合ノ社ノ齋女トナルユヱニ、コレヲ玉依媛ノ齋女ト云アヤマリテ、コレヲ玉ヨリ姫ト云、終ニ龍神ノ女トハ別ナリト云ニ至ル、丹ヌリノ矢ノコトハ、コノ齋女ノコトナリ、コノ祠ノ別ニアルヲ誤テ本社ノコト、スルナリ、大ナル誤リナリ、上賀茂ニ瓊々杵ノ尊ナリト云、伊勢外宮ニハ五部ノ書ヲ僞作シテ誇張セントス、鴨ノ社家ハ神璽ヲ殘シクセントス、何ノ言ヲシラズ、シカルニ實ニ神武ナレバ始ヨリ顯然タルベシ、カク紛ルベカラズ　別雷皇大神宮ハ地名ニシテ、伊勢皇大神宮ト云モ同ジコトナレバ疑ヒナシ、國家ノ奉祀アルベシ、大己貴ノ命・武甕槌ノ命・ソノ女玉依媛ナラバ、外祀ニ比スベシ、白羽ノ箭ナラバ淫祠ナリ、宜クコノ淫祠毀ツベシ、御祖ノ神トハ大祖ヲ云ナリ、カクテハ此御祖ノ神ト云ハ、神武帝ニアラザレバカナハザル也、コノ外ニ據ロナシ、ヨク味ヒ考ベキコトナリ

ア、林氏ノ神社考何タル書ゾヤ、其儒者ノ氣象何クニアリヤ、余コレヲ取ザルナリ、古語拾遺ニ、賀茂ノ縣主ノ遠祖八咫烏ヲ以テ建角身命トス、ソノ女ヲ玉依姫トス、ミナコレヨリノ過ナラン、公事根源ニモ、上宮ヲバ別雷神トシ、下宮ヲ御祖ノ神・玉依姫トス、丹塗ノ箭ノ說ハ妄語ニシテ、取ニ足ラザルナリ、モシ有コトナラバ、密夫ノ子ヲ妊ミテ箭ニ托シタルモノナリ、コレヲ祭リテ伊勢ニ准ジ、皇女ノ齋院ヲ立ラルヽコト何事ゾヤ、シカルニ「延曆三年十一月、遣㆓紀船守㆒授㆓賀茂上下社從二位㆒、依㆓遷都㆒也」ト、凡臣下ヲ祭ル祠ニハ、位階ノコトアリト雖、天子ヲ祭ル宗廟ニ位階ノコトハ在ベカラザルナリ、況ヤ二位（日本後紀大同二年四月、正二位ヲ授ル、弘仁十年三月、中祀ニ准ズ）ニ叙セラルヽヲヤ、又嵯峨帝ノ時平城上皇ノ變アリシニ、神武帝ノ長髓彦ヲ誅罰アリシ例ヲ思シテ、コノ祠ニ祈願アリテ、ソノ亂平ラギシニヨリテ、其時ヨリ皇女ヲ以テ齋院トシ玉フナリ、コノ祈願アリト雖、皇女ヲ齋院トシ玉フコトハ伊勢ノ例ナレバ、コノ上ヤアルベキ、コトニ長髓彦ヲ誅伐アリシヲ引ク時ハ、神武帝ノ外ハナキナリ、抑我朝ノ太古ヲ考フルニ、天照

皇大神宮ヲ始祖トスルハ當ラズ、ソノ後三代ハ日向ノ國ニ在シテ實ノ王迹ナシ、日ノアタリ中原ヲ平治シテ、天下ヲ得玉フハ神武天皇ナレバ、是本朝ノ大祖也、大祖ノ廟ハ百世不遷ノモノ也、然レバ則コノ神武天皇ノ宗廟ナクシテ、何レノ神ヲカ祭ランヤ、無レバ朝家ノ闕典ナリ、然ルニ賀茂ノ社ニオイテ皇ノ字ヲ用ヒ、齋王ヲ立サセラルヽヲ見レバ、大祖ノ廟タルヲシルベシ、我國ノ古風ヲ考ルニ、山陵ヲ廣大ニシテ、宗廟神主ヲ立ルノ禮ナシ、然レバ漢法ヲ以テ、コレヲ議スルハ無理ナリ、然レドモ天照大神ヲ宮中ニ祭ラセラルヽナレバ、神武天皇モアルベキコトナリ、スデニ香椎宮・八幡宮ヲ尊敬アレバ、尚サラノコトナリ、大己貴命・武甕槌命ヲ以テ、伊勢・八幡ニ對スベカラズ、況ヤ出雲路ノ淫女鴨ノ箭ヲヤ、コレラノ神ニ齋主ヲ立テ、伊勢ニ准ジテ祭ラセラレンヤ、シカルニ古ヘヨリ我邦國ノ神達ハ、ミナ人ニヨリテ託シ求メテ祠廟ヲ立、伊勢・八幡・春日・住吉・天滿宮・廣田・大和等ノ神ミナ是ナリ、一々ニ人ニ憑自カラ求メテ（コノ自ラ求ムルト云モノ、ミナ人ニヨリテ求ルナリ、然レバソノ依ラレテ神託ヲ述ルト云人ミナ奸惡ノ詐リナリ、今ヲ以テ證トスベシ、タレカ人ニヨランヤ、カツテ外國ニハ聞モ及バザル事ナリ、）（山川萬里ヲ隔ツレドモ、天地ノ理ハ一ナリ）祭ラルヽヲ考テ、上古ノ神社ノ子孫ヨリ祖ヲ祭リ、又ソノ功徳ヲ稱シテ祭ラルヽコトナキヲ見ルベシ、中世漢土ノ制法ヲ移シ用ヒ玉フ、ソノ後ハミナ詔旨ヲ以テ祠號ヲ立ラル、然リト雖御靈八所ハ、疫癘ニ恐テ立テラレ、天滿宮ハ西ノ京ノ女子ノ託ト、雷死ニ恐レテ立ラレ、賀茂トイヘドモ平安城遷都ノトキ、地主神ヲ以テ崇敬セラル、是ヲ以テ見レバ、大祖・始祖・世祖等ノ論ハアルマジキナリ、然ルニ賀茂ノ社ハ欽明帝ノトキ葵祭ヲ修セラレ、聖武帝ノトキ奉幣使ノコトアリ、桓

武帝ノトキ遷都ニヨリテ、地主ノ神ナルヲ以テ、奉幣シ、從二位ヲ授ラル、嵯峨帝ノ時齋王ヲ立テラレ、宇多帝ノ時走馬ヲ修セラル、堀川帝ノ時日給ヲ始ラル、皇ノ字ヲ用ヒラル丶ハ、何レノ時ト云コトヲシラズ、譬ヘバコノ祠ハ神武帝ナラバ議論ハナシ、實證アラバ、大己貴ノ命ナリトモ、別雷神トモセラレベキコトナリ、只鴨ノ箭ノ事ニオイテハ、虛妄附會ノ說ナレバ、コノ事ヲ書タル書籍ハ燒捨ラレ、賀茂ノ謠曲ヲ禁止アルベシ、元來謠曲ハ作リモノトイヘドモ、已ニ三百年ヲ經ルコトナレバ、今ノ世ニテハ天下ノ人十ノ九マデハ、コレヲ實ト思ヘリ、ソノ外神社佛寺ノカヽル附會ノ說ハ、ソレゾレニ禁止アリテ、一新シタキモノナリ、カクノ如ク其神體定マラズシテ、何トモ託宣無キヲ以テ、其神靈ナキヲ知ルベシ、コレ鬼神無ヲシルノミ、林氏・白井氏トモニ皇朝類苑・楊文公ガ談苑ヲ引テ曰、「國中專奉二神道一、多二祠廟一、伊州有二大神一山州有二賀茂明神一、託二三五歲童子一、降二言禍福之事一」云々、是ラノコトハ僧絕海ガ熊野ノ祠ノコトト同ジク、渡唐ノ僧ドモサマ〲ノ怪說ヲナスヲ、彼ノ書ニカキトメタルモノナリ、スベテ外國ニテ他國ノコトヲ議スルハ、皆訛傳ノミ、コレラハ日本僧ノ云タルコトユヱ、實事トシテ書シタレドモ、ミナ虛僞ナリ、我ノ人ノ言ニテモカクノ如シ、況ヤ彼ノ人ノ言ヲヤ、儒者漢土ノ書トサヘ云ヘバ、我邦ニテ明カニ虛妄ナルヿサヘモ、ウレシガリテ書キアラハス、況ヤ他ノコトヲヤ、異稱日本傳・善隣國寶記ナドハ、始ヨリソノ心ヲ以テ書タル書ナレドモ、松下氏彼國ノ書ヲ信ジテ、彼ノ書ノ我ニ合ザルヲ怪シム、コレ書ヲ信ズルノ過ナリ、只見捨ニスルコトナレバ、

ソノマヽナルベシ、苟モ儒ヲ以テ自ラ居ルモノ書ヲ論ズルトキハ、虚實ヲキハムベシ、コレ張リテ發セザルモノナランカ、松下氏・林氏・新井氏ノゴトキミナ博キヲ勤ムルノミニテ、ソノ取捨虚實ヲ辨知セザルモノナリ、アヽ憐ムベキカナ

七　應神天皇ハ仲哀天皇ノ太子、母ハ神功皇后ナリ、神功皇后天皇ヲ孕ミテ三韓ヲ征シ、還リテ筑紫蚊(カ)田ニ生ム、都ニ返リテ太子トナリ、母后政ヲ攝ス、太子タルコト七十年、母后崩ジテ卽位シ、在位四十一年ニ崩ズ、欽明天皇三十一年、肥後國菱形池邊ノ民家ノ兒、甫三歲、神憑リ託シテ曰、我ハ是人皇十六代譽田八幡麻呂ナリ（筑紫ニ比義ナル者アリ、神變通力、コノモノ神託ヲ云テ、都ヨリ崇敬セラルヽコト、伊勢ノ僕[illegible]ノ如シ、八幡宮ヲ勸請スルコトハ、ミナコノ比義ノ所爲ナリ、スベテコノ託宣ト云モノハミナ比義ノ語ナリ、必信ズベカラズ）諸州神明垂迹ス、今コヽニ顯ハルト云、其後勅使ヲ差シテ、移シテ豐前國宇佐ノ宮ニ鎭座ス、一說ニ曰、欽明天皇ノ時託ニ曰、吾ハ是譽田天皇廣幡八幡丸ナリ、我ヲ護國靈驗威身神大自在王菩薩ト名クト（實ニ大神宮コノ心アラバ、ナンゾ在位ノ間ニ佛法ヲオコシ、衆生ヲ濟度シ玉ハザル、又コノ名ヲ誰カツケシヤ、ナカシキ名ナリ、コレミナ佛者ノ虚妄ナリト雖、アマリニ拙ナク其語佛敎ニ似タリ、ソノ大膽ナル事此ノ如シ、甚ダ憎ムベキコトニアラズヤ、カクモ神名ヲ汚シタテマツルヲ、諸人ノ知覺セザルコソ、是非モナケレ）又桓武天皇ノ時延曆二年五月、大神託シテ曰、我無量劫ヨリ已來、三有ヲ化生シ善巧方便ヲ修シ、諸衆生ヲ濟度ス、我名ヲ大自在王菩薩ト云、又宇多天皇寛平二年十二月託シテ曰、菩薩ノ服色道具ヲ得ントス、勅シテ瓔珞香爐念珠等ヲ献ズト、林氏曰、佛法本朝ニ來ルモノ、欽明十三年ナリ、八幡示現ニ先ツコト十八九年、コノ時イマダ浮屠ノ草昧廣カラズ、コノ神ノ菩薩號アルモノハ延曆ノコトニヤト、ミナコレ後世佛家ノ欺妄ナリ、伊勢・八幡ハ二所ノ宗廟ニシテ、君臣

上下崇敬セザルハナシ、佛氏是ヲ見テ、本地ハ佛ナリ、垂迹ハ神ナリト、遂ニ神明ヲ引テ佛氏ニ引入レ、習合シテ我黨ヲ廣クセントス、時ニ此君コノ說ニ陷リテ悟ラズ、肆ニ横行セラレ、神戸ヲ奪ヒ、有封ヲ掠メ、寺院ヲ增シ、寺塔ヲ建立シテ威ヲ震ハシム、幸ニシテ神是ヲ罰セズ、元ヨリ佛氏ノ徒此神靈ノ無キコトヲシル故ナリ、ムベナリ、ア、惡ムベシ、元正天皇養老四年異國襲來リ、日向大隅大キニ騷亂ス、朝廷宇佐八幡ニ祈リ亂ヲ平グ、大神託シテ曰、コノ戰ニ死傷多シ、朕甚ダ是ヲアハレム、願クハ放生ヲ諸國ニ置ベシト、コレヨリ放生會興ル、實ニ八幡宮コノ心アラバ、四十年在位ノ間ニナンゾ佛法ヲ興サヾル、服色放生佛具ヲ好ミ玉ハバ、何ゾ在位中好マザル、肥後ノ小兒ノ妄語ニ始リテ、此神ノ祭祀不朽ニ垂ル、怪シムベキカナ、林氏曰、「宋六一居士、論二放生之事一、謂佛氏自稱爲二慈悲一、貴二放生一、禁二殺生一、昔庖犧氏始畋獵、以充二庖廚一、萬世稱爲二聖人一、若如二佛說一則庖犧氏者、地下之罪人也、可レ謂二公論一、禮戒レ暴二天物一、聖人釣而不レ綱、弋不レ射レ宿、是有レ義而存焉、彼浮屠氏、豈得レ知レ義乎、見レ牛未レ見レ羊、君子不二自踐一者、是義之所レ存也、世稱應神帝之所レ化、爲二金色鷹一者、若果然則不二放生一、而何爲二搏擊之物一乎、及二母后之征二三韓一、其必戰死レ之者、亦不レ少、何不レ放二生於彼時一、而放二生於此時一哉、神豈二心哉　下略本朝僧史曰、「釋行教居二大安寺一、貞觀元年詣二宇佐一、讀二大乘經一、誦二密呪一、大神曰、久受二法施一、不レ欲レ離レ師、師廻二王城一隨行當レ護二皇祚一、行教著二山崎一、其夜夢二大神一、曰、師見二我所一レ居、俄覺見二東南一、男山鴒峯上現二大光一、凌晨至二光處一、實靈區也、敎便錄二一事一表奏、帝准二

宇佐祠覡ヽ建ニ新宮一、世謂敎所レ見大神、本身是彌陀・觀音・勢至、三尊、」云々、是ヨリシテ差ニ勅使一奉ニ幣帛ニ事トナル一妖僧ノ邪說ニヨリテ、土木ヲオコシ宮廟ヲ建立ス、上下應ニ帝ノ德ヲ稱シテ、コノ祭アレバ可ナリ、小兒妖僧ノ僞託ニヨリテ、祭ラセラル、ハ不可ナリ、況ンヤ彌陀三尊ノ妄說ヲヤ、今世鬼神ノ迷惑サカンナリト雖ヽカヽル僞託ナ云トモ、土木ヲオコスベカラズ、其ユヱイカント云ニ、コノ時文學サカンナリトイヘドモ、記誦詩章ノミニテ實學ナシ、ユヱニ天下ニ王公士庶ナ始メ、儒家トイヘドモミナ鬼神ニ迷ヒ、ツヒニミナ妖僧ニ欺カル、此神ニ迷ハザルモノハ佛者ノミ、今世半バ鬼神ニ惑ハサルト雖、半バ實學アリテ妖說ニ溺レズ、又古メカシク託宣モ信ゼズ、コレ實學ノ効驗ナルモノナリ續日本紀、「稱德天皇神護二年七月、詔授ニ道鏡法皇位一、神護景雲三年九月、初太宰主神阿曾麻呂請レ旨、媚ニ事道鏡一、因矯ニ八幡神敎言一、令ニ道鏡卽ニ帝位一天下太平、道鏡聞レ之、深喜自負、天皇召ニ清麻呂於牀下一、勅曰、昨夜夢ニ八幡宮三神使來一云、大神爲令レ奏レ事、請ニ尼法均一、宜ニ汝清麻呂相代而往聽ニ彼神命一、臨レ發道鏡語ニ清麻呂一曰、大神所ニ以請ニ使者一、蓋爲レ告ニ我卽位之事一、因重募以ニ官爵一、清麻呂行詣ニ神宮一、大神託宣曰、我國家開闢以來、君臣定矣、以レ臣爲レ君、未ニ之有一也、天之日嗣、必立ニ皇緒一、無道之人、宜ニ早掃除一、清麻呂歸奏如ニ神敎一、於レ是道鏡大怒、解ニ清麻呂本官一、出爲ニ因幡員外介一、未レ之ニ任所一、尋有レ詔、除レ名配ニ於大隅一、其姉法均還俗配ニ備後一、詔曰、從五位下因幡國員外介清麻呂、與ニ其姉法均一甚作ニ妄語一、云々、清麻呂改ニ姓別部一、改ニ名穢麻呂一、法均改ニ名廣蟲賣一共配流」云々、或書ニ云、道鏡刺客ヲ膽駒山ニ遣ハシテ清麻呂ヲ殺サントス、雷電晦冥ニアフテ害ヲ加フルコトアタハズ、云々雷電シテ清麿ヲ救フヨリハ、道鏡ノ頭上ニ落テコロスベシ、ナンゾ本ヲステヽ末ヲスクフヤ或ハ又曰、清麻呂神託ヲ聞テ、重テ曰、コレハ國家ノ大事ナリ、願クハ神靈ヲ見ン、大神乃チ形ヲアラハス、長三尺バカリ、色滿月ノゴトシ、大神曰、善神ハ淫祀ヲ惡ミ、邪神ハ邪幣ヲウク、道鏡邪幣ヲ群邪ニ賂リ、權譎ヲ邪黨ニ行フ、百計千祭

シテ天位ヲ貪リ求ム、ユヱニ善惡ノ二神師ヲ牽キテ互ニ戰フニ、邪强クシテ正弱ク惡多ク善少シ、朕已ニ困羸シテホトンド當リガタシ、仰デ佛力ヲタノミテ皇運ヲ保護ス、汝ソレ闕ニ歸テ奏シ、佛像ヲ作リテ大藏經ヲ寫スベシト、又最勝王經一萬部ヲ轉讀シ、一ノ伽藍ヲ建ル時ハ、邪神消沮シ社稷鞏固ナランド、清麻呂闕ニカヘリ具ニ奏ス、道鏡怒リテ大隅ニ流ス、（コノ神託チ以テミレバ、漢土ニテハ尚書ニ何事モ天ト云ヘドモ、人ヨリ是チ云ナリ、コヽニテハ國家ノコト、ミナ正邪ノ神ノ任ナリ、然ルニイマダ佛像モツクラズ、經モヨマズ、伽藍モ立ズシテ、翌年天皇ハ崩ジ、道鏡ハ廢セラル、清麿歎ニアヒテカヘリ、光仁帝ニ奏シテ、高雄山神護寺チ立ルチミレバ、イマダコノコトナクシテ、元兇スデニホロブ、此說ハ高雄チ建立スルノ云タテナルベシ、清麿大丈夫ノ忠臣ナルニ、ニ陷ルノミハ、チシムベクシテチシムベシ）佛道宇佐ヲヨギル、神曰告テ怖ル、ヿナカレト、コレニ綿帛ヲ賜フトアリ、スベテ數箇ノ神託ト云モノ、僞作ナルコトハ言ニ及バズ、余ツラ〳〵考フルニ、八幡宮ハ應神天皇ヲ祀ルコトハ顯然タレバ、異說アルコトナシ、シカルニ漢土ノ古ヲ以テ見レバ、夏禹ヲ大祖トシテ少康ヲ中興トス、後世ニテハ世祖中宗トス、殷ニハ湯ヲ大祖トシ、武丁盤庚ヲ世祖中宗トス、周ニ世祖中宗ノ德アル帝ナシ、一代ニ衰ヘタリ、マヅハ平王ナランカ、漢ハ光武ヲ世祖トス、三國ヨリ隋マデ紛錯タリ、唐ハ太宗アリ、宋・明ニ著シキハナシトイヘドモ、永樂ヲ世祖トス、我天武帝ニ似タリ、逆取ニテ仰グニ足ラズ、抑吾日本ニテハ神武ヨリ仲哀ニ至ルマデ十四世、文獻ノ傳ナクシテ證スベカラズト雖、先ヅ云傳ヘタル處ニテハ、一帝トシテ庸劣ノ君ナシ、周ノ盛ナルトイヘドモ、カクノゴトクナラザルナリ、中ニモ崇神・垂仁・景行ノゴトキハ英主ト云ベシ、ツヾキテ神后三韓ヲ征シ、應神コレヲ受ク、然ルニコレマデニ幼主ナク、又女主ナシ、應神ハ遺腹ノ太子ニシテ神后ノ力ニヨル、コノ時始

テ女主ニシテ、胎中ノ天皇ナレバ古今ノ變革ナリ、七十年太子ニ在リテ母后ニ聽ク、謙讓ト云ベシ、コノ時文籍初テ渡リ、仁義忠孝ノ敎アラハル、仁德ノ謙讓仁政是ヲ學ブモノカ、コノ後允恭・顯宗・仁賢・繼體ヨリ後ニ舒明・孝德・天智アリ、孝極・元正・元明ハ女主ノ賢明ナリ、桓武・宇多・醍醐・後三條後世ノ英主ナリ、然ルニ此中ニ最國家ニ功德アル帝ハ仁德天皇ニシテ、桓武ヲ以テ平安ノ世祖ト云ベキカ、然レドモ遷都奢侈ヲ刺ルコトナキニシモアラズ、神后ノ三韓ヲ征スル功ハ著シト雖、此所ニ亦議スベキアリ、謙讓ノアラハルヽハ、應神・仁德・顯宗・仁賢・天智トス、シカルニ應神ニ限リテ、伊勢ニ並ベテ崇敬シ今ニ衰ヘズ、コレ此帝ノ幸ナランカ、然レドモ此數帝ノ中ニ於テ コノ數帝ノ中ニ於テ、世祖中宗トモ稱スベキハ、何ノ帝ゾヤ、今本朝天子ノ中ニ廟アルコトハ、神武・神后・應神・仁德ノ四帝ノミ、中ニモコノ八幡宮ニ限リテ崇敬甚シ、仲哀ハ神后ノ祭ル所カ 拔萃ノ功アルニアラズ、又後王ヨリ此帝ノ功德ヲ稱シテ、祭ラルヽニモアラズ、唯三歲小兒ノ神託ニヨリテ、神廟ヲ立テ崇敬セラルヽコトニシテ、大祖タル神武創業ノ功德ヲ稱セラルヽコトモナシ、賀茂ヲ以神武トスレバ、ソノ責ハフサグト雖、コレハ成敗ヲ以テ論ズルナリ、コノ祠ヲ祭ラルヽノ盛ナルハ、平安ノ都ニアリテ地主神ナルヲ以テナリ、神武創業ノ德ヲ以テ祭ラルヽニアラズ 平城帝モ亦廟アリ、都ヲ平安ニ建フレザレバ、今世ノ如ニ加茂ヲ崇敬ハアルマジキナリ、コレラハ偶然トイフベシ ソノ上ソノ神體、今ニ於テ分明ナラズ、伊勢・八幡ノ分明ナルニ異ナリ、然レバコノ神廟ノ尊敬セラレ玉フハ、三歲ノ小兒ノ託ヲ始メ、其後數度ノ神託ヲ以テナリ、ア、本朝鬼神ヲ祭ルノ盛ナル、又ソノ愚妄紛錯ナル、爰ニ於テ歎ズベシ 宇佐託宣記ニ擧ル處亦多シ、淸麿神職ノ僞ヲ正ス 諸賢阿蘇丸ノ神託ノ僞リヲシリテ、淸麿呂ノ僞ヲシラズ、二人同ジク僞

リテ、其心ハ雲泥・霄壤・忠佞・公私ニ、ニ分ル、此時ニアタリテ清麻呂ノ一言ハ、天下興廢ノ大機ナリ、シカルニ道鏡ガ權勢ヲサケズシテコノ直言ヲ奏シ、王國ヲ匡シ姦佞ヲ震ハス（再ビ按ズルニ清麿ガ承ル託宣ニ、佛事ノ條ハ後世ノ妄カ）至大至剛ノ意氣天地ニ塞ル、故ニ日本史贊シテ清麿呂ノ心、即チ神ノ心ナリ云、然ドモ又是ニ止マラズ、實ニ神託アリテ奏スルハ易シ、清麻呂神前ニ伏シテ祈ルト雖、何ノ答モナシ、コヽニオイテ清麻呂歸京シテコノ直言ヲ僞ル、清麻呂ノ忠精コノ神託ヲ僞ルニアルナリ、シカルニ後ニ附會シテ、善神邪神ノ戰ヲ云コト、殆ド佛氏ノ云修羅魔界ノ如シ、コレヲ以テミルニ、天下ノコト人事ニアラズシテ鬼神ニアルナリ、是ハ高雄山ヲ艸創スル時ノ云立ナルベシ、清麻呂ノ忠臣國家ノ安危ヲ思ヒテ、神託ヲ僞ルト雖、道鏡ヲ立ザレバ止ムベシ、何ゾ餘事ニ及バンヤ、此説ヲナスモノハ清麻呂ヲ汚スモノ也、又生駒山ニテ刺客雷電ノコトハヨク考ベシ、實ニ雷神コレヲタスクルモノナラバ、ナンゾ今三里東ニテ震ハレ、道鏡ノ頭上ニ落テ撃殺サヾル、コノトキニ道鏡ノ張本ダニ殺ス時ハ、外ニ事無キナリ、又天皇ノ本ヲ防ギ、阿蘇丸ノ奏ヲ止サセラレナバ、コヽニ及ブマジ、本ヲステヽ末ヲスクフ、神ナンゾ本末大小ヲシラザル、神ニシテコレヲシラズ、アニ靈アリト云ハンヤ、スベテ戰ハ大將ノ利鈍ニアリ、何ゾ鬼神コレヲシランヤ、此時一事興レバ神ニ祈ルト雖、ミナ神ノ功驗ニアラズ、大將ノ功ナリ、然ルニコレヲ神驗ニ歸スル時ハ、將ノ實功ニアラズ（中興軍事アレバ、必祈ルトイヘドモ、モシヤソノ時ノ大將惰怠ニシテマケタルトキハ、神驗モナシ、勝タレバ神驗トス、醫ノ病ヲ療スルトキモ亦カクノ如シ、醫モ將モミナ骨ヲ折テ、ソノ功ヲ神ニ奪ハル）然ドモコノ時上下ミナ鬼神ニ寄ル、ユヱニコレヲ知ル人ナシ、日本諸神多シト

雖宇佐ニ限リテ託宣多シ、按ズルニハヤリモノナリ、ユヱニ託宣集ノ番附ヲ板行ス、甚ダシキニアラズヤ、ソノ託宣ト云モノ多クハ浮屠ノ所爲ナリ、兒女ソノ次ニ居ル、近世ニ至リテ託宣ノ沙汰ナシ、神靈ハ萬古不易ナリ、千年五百年ノ前ニ多ク靈アリテ、王家ヲ擁護シ佛ヲ興立ス、近世ニ神驗ナキハイカンゾヤ、神ニモ盛衰アルモノカ、藥ナラバ香氣去功能ヌケシトモ云ベシ、伊勢大神宮ノゴトキ二三十年ニアタリテ、御影參ト云コトヲハヤラセ、牛犬マデモ詣デ御祓ヲ降ラス、コレヲ以テ見レバ、盛衰アルナリ、アヽコレニテモ覺ルコトナシ、愚者ノ多キヲシルベシ

八　春日ノ四社・第一武甕槌ノ命・第二經津主命・第三天兒屋根命・第四姫大神ト雖ドモ、第三殿ヲ主トス、元來藤原氏始祖ノ神ニシテ、藤原氏ヨリ是レヲ建ルナリ、ユヱニ天兒屋根ノ命ヲ本廟トシテ、餘ノ三坐ヲ相殿トス、コノ祠ハ神名ニ於テ明白ナレバ、論ズルニ及バズ、（神名秘書ニ云、第四坐ハ栲幡チヾ姫ノ命内宮相殿ノ神ナリ、爲二天照大神一者非也ト、コレモ分明ナラザル也）

九　稻荷ノ社ハ大山祇ノ神・倉稻魂神・土祖ノ神三座也、元明天皇和銅四年二月十一日ノ鎭座也（和銅四年二月十一日ハ午ノ日ナリ、ユヱニ後世二月午ノ日ヲ用テマツル）空海稻ヲ荷フ老人ニ遇フタルヲ以テ、之ヲ祭ルト云ハ、稻荷ノ二字ニヨリテ附會スルノミ、和銅四年ハ空海生前九年ニアリテ、コレ僞リナルコトシルベシ、然ルニ是ハ土地ノ神ナリ、此神ノ使者ヲ狐トス、八幡ノ鳩・熊野ノ烏・ミナ同義ナリ、其地ニ多キ故ニ、民コレヲ云テ崇敬スル故ニ集ルナリ、或ハ祠前ニ土偶ノ狐ヲ献ジ、ダンダント多クナリタルガ例トナリ、ツヒニ一轉シテ、

凡俗ハ狐ヲ以テ稲荷ノ神體ト思フヤウニナリタリ、コレヨリシテ稲荷ノ社ゴトニ狐ヲ祭ル、又諸所ノ鎮守ニ或ハ狐ノ子生タルヲ見付テ、ホコラヲタテ稲荷ノ神職ニ告レバ、忽チ稲荷大明神ノ神號ヲ贈リ、幟幢ヲ立テ尊敬ス、コレ何タルコトゾヤ、カヽルコトアレバ神官等ヨリ咎メテ禁止スベキコトナルニ、却テ免狀ヲ與フルハ、是金銀ヲ貪ランガ爲ナリ、惡ムベシ、サテ又當時ニアリテハ、諸邸ノ普請成就スレバ多ク鎮守ヲ立ツ、大抵ハ稲荷ノ神ナリ、貴キ神ニテ一邸ノ番ヲ勤ムル、耻ベキコトニアラズヤ、神ヲ汚シ耻シムルコト、カナシムベシ、カヽル賤役ヲ以テ待ト雖、神罰モナシ、然レバ即チ何ノ靈驗カアラン、又陰陽師巫覡ノルイ狐ヲ勸請シテ、吉凶禍福ヲ祈リ、疾病ヲ加持シ、或ハ甚ダシキハ巫人藥味ヲ差圖スルニ至ル、コレニ泥ミ信ジテ一命ヲ失ヒ、顧ザルニ至ルモノ多シ、愚昧ノ至リト雖、コレヲシラザルハカナシムベシ、諸神記ニ云、「和銅四年二月九日、倉稲魂神始メテ伊奈利山ニ現ズ、地主神ハ荷田明神ナリ、其地ニ祭ル、故ニ稲荷大明神ト號ス、」云々、和漢合運ニ云、「和銅四年稲荷ノ神現ズ、」神祇拾遺ニ云、「稲荷ハコノ山ノ地主神荷田ノ神ナリ、コノ處ニ倉稲魂ノ神ヲ祭ル、ユヱニ云ナリ、」云々、豊芦原ト定記ニ云「辰巳ノ方ニアタリテ倉稲魂ノ垂迹アリ、コノ神ハ百穀ヲホドコシ玉フ、故ニ號ス、神代ヨリコノ峯ニ向ヒ玉フモシラズ、和銅四年二月十一日ニ垂迹シ玉フ、愛憐ノ志深ク蒼生ノ作物ハ草ノ一葉マデモ萬ノ災ヲ禳玉フ」ト云々、神祇拾遺ニハ、「宇賀ノ魂中伊弉諾上伊弉冊下專女三狐ノ由緣ニヨリテ木狐ヲ安置ス、」鎮座傳記ニ云、「宇賀美多麻神三狐神同座ノ神也、ユヱニ專女ノ神ト云、」云云、

類聚神祇本源ニ云、「專女三狐神、」云云、新猿樂記ニ云、「伊賀專女、」云云、河海抄ニ云、「伊賀。伊勢ニテハ白狐ヲトウメ御前ト云、今稻荷ノ神前ニ白狐ヲ置ハ此イハレナリ、」云云、日本紀ニ曰、「二神飢玉フトキ兒ヲウム、宇賀美多麻」ト、神名略記ニ曰、「屋船豐宇氣姬ノ命ハコレ稻靈也、俗ニ宇賀乃多麻ノ神ト云、二十二社註式ニ云、「倉稻魂ノ神ハ一名稻ノ靈ナリ、俗ニ宇賀ノ美多麻ノ神ト云、一名豐宇氣姬ノ命ト云」是ラヲ以テ考フベシ、トウメ三狐神ナドノ名ニヨリテ、白狐ノ土偶ヲ置モノナリ、實ハ狐ノコトナシ、然ルニ近年狐ノ妖怪ヲサマ〳〵云ハヤラス故ニ、附會シテ虛妄マチ〳〵ニナリテ、ツヒニ狐ヲ祭リテ稻荷トスルニ至ル、鳩ヲ祭リテ八幡トシ、鹿ヲ祭リテ春日トスルニ似タリ、コレラノコト神靈アラバ正シ玉フベシ、コレヲ正スノコトナケレバ、鬼神ナキコトヲシルベシ、狐ノコトハベツニ論ズベシ

十　吉田ノ社ハ春日ト同體也、貞觀中藤中納言山蔭卿建ツ、初ハ藤家ノ私祠ナリ、後正曆二年官幣ニ預リテ、二十二社ノ列ニ上ラル、神樂岡ノ神ハ裂雷ノ神ナリ、日本六十六州大小ノ神祇三千一百三十二座ノ神ヲ祭ルコト、イツノ世ニ始リシヤ、イマダ考ヘ得ズ、神社考。神社啓蒙。山城志。雍州府志ノルイニ書スコトナシ、スベテ此祠ハ卜部家ノ齋場所ノ私祠ニシテ混雜甚シ、卜部家ハ天ノ兒屋根ノ命ノ裔ニシテ、藤原氏ト同流ナリ、命ヨリ十二世雷大臣ノ命、仲哀帝ノ時卜部ノ姓ヲ賜ヒ、十八世常盤ノ大連改テ中臣トス、二十一世大織冠ニ至リテ藤原ノ姓ヲ賜ヒ、神道ヲ以テ從弟淸丸ニ屬シ大中臣トス、

清丸四世平丸卜部ニ復ス、吉田ニ住シ神祇伯トナル、ユヱニ家號ヲ吉田ト云、清丸ノ七世兼延唯一神道名法要集ヲ作ル（卜部ハ伊豆・壹岐・對島ノ三國ヨリ、卜術ニ宜シキモノヲ召テコレニ任ズ、吉田ハ伊豆ノ卜部ニシテ、藤原・中臣ト同流ニアラズ、平丸ヲ元祖トス、父祖ヲシラズ、兼倶ニ至リテ名法要集ヲ作リテ系圖ヲアラハシ、父祖ヲ僞ルユヱニ、卜部中臣姓氏考、神敵謀計錄・卜部氏不審抄・難卜抄ナド、オヒ〳〵ニ出ルナリ）萬壽（萬壽ハ後一條天皇ノトキノ年號ナリ）元年七月七日ト跋ニシルス、ソノ書ミナ佛ヲ以テ神ヲ説キコレヲ卜部家ノ正統ト云、コレヨリ前ニ神佛習合ノコト、コノ家ニ於テアルベカラズ、余コノ書ヲヨミテ、巻ヲ掩フテ歎息ス、アヽ唯下ハ兩部ニ對スルノ言ナリ、兩部ハ佛家ニ胎藏界金剛界ヲ兩部トスレドモ、コレハ佛法中ニテノ小割ナリ、此コト神道ヨリ何ヲカ拘ラン、神佛習合混一ニスルヲ兩部ト云ベシ、然ルニ唯一神道トノヽシリテ佛ヲ交ヘ説クハ、ナンゾ唯一ナラン、兩部ノ名ナキ以前ニハ唯一ノ名ナシ、神佛兩部アル故ニ、習合セザルヲ以テ唯一トスルナリ、コノゴロ神道ト云モノハ、精進潔齋シテ神ヲ祭リ、祓除シ福ヲ祈ルコトヽスルノミ、全ク巫覡ノ職ナリ、修身治人ノ道理ハナキコトナリ、後世浮屠ノ夸耀ヲ羨ミ、佛ニ並ビテ榮耀ヲセンガ爲ニ、神道ト云コトヲ云出シタルナリ、元來コノ名法要集ハ、跋ニ萬壽元年トアリ、御堂關白ノ證明アリテ、又長元九年（長元ハ後一條帝ノ年號）宇治ノ關白、永長（永長ハ堀河帝ノ年號）元年京極師道公ノ御判アリト雖疑シキナリ、清丸二十五世ヲ兼倶ト云、禁中ニテ神書ヲ講ジ、暇日ニハ僧ヲ聚メテ大和姫ノ命ノ神託ヲ引テ、佛道神道無二ノ證トス、三輪明神ヲ金毘羅トシ、弘法・傳敎・慈覺・智證ヲ尊信ス、スベテ附會習合ヲナシ、神佛混雜シテ我朝家祭祀ノ法ヲ亂ルモノ、コレヲ甚シトス、名法要集ヲ作リテ、先祖兼延ノ撰トスルモノ、コノ人ニアリト思ハル、卜部ハ天兒屋

根命ノ裔ニシテ神祇伯ノ家ナリ、名法要集開卷ニ、一ハ本迹緣起ノ神道、二ハ兩部習合ノ神道、三ハ元本宗源ノ神道ト云テ、ソレヨリ上下二卷、ミナ佛ナラザルハナシ、神明コレヲモ罰シ玉ハザルハ、其靈驗イヅクニアリヤ、唯コレ人ノスル處ノ儘ノミ、鬼神ナキヲシルベキナリ

十一　日吉山王ハ古祠ナリト雖（日吉ノ祠ハ古祠ナリトイヘドモ、傳敎ノ時ニ改メツクリタルコトナレバ、ソノ時ニ神名クハシカルベキニ、後世カク思ヒ〳〵ニ神體ヲ命ズ、何ノ謂ゾヤ、一祠々々ノ記錄クハシカルベキナリ、シカルニスベテ我邦ノ風俗思ヒ〳〵ニ其時々、巫僧ノ意ニマカセテ神名ヲツケテ、ソレヨリサマ〴〵ノ說ヲ云立、錢ヲトルノ工夫ヲスルユヱニ、カクノゴトクマギラサル、ナリ、コノトキニ靈アラバ、ナンゾ自ラ名ノラザルヤ）傳敎叡山ヲ建ルトキ、再建シテ二十一社トス、佛氏ノ造立ノコトナレバソノ筈ナリト雖、神社考ト神社啓蒙ヲコヽニ擧テ、其混亂ノ神體ノ明白ナラザルヲ示ス

啓蒙	神社考	蒙啓	神社考
大宮 大己貴命	天照大神　本地釋迦	二ノ宮 國常立尊 神皇産尊	又法術菩薩 本地藥師
聖眞子 天忍穗耳ノ尊	八幡宮　本地阿彌陀	八王子 國狹立尊	本地千手觀音
客人 伊弉册尊	白山禪定靈神 本地十一面觀音	十禪師 瓊々杵尊	本地地藏
三ノ宮 惶根尊	本地普賢		

右本宮七社ハ本社也

啓蒙	神社考	蒙啓	神社考
下八王子 天御中主尊	本地虛空藏	王子宮 建御名方尊	本地文殊
早（サウ）尾（イ） 素盞烏尊 一說猿田彥	本地不動	大行事 高御産靈尊	本地毘沙門

聖　女下照姫　本地如意輪　新行事瀛津姫　本地吉祥天女

中　尊　本地大威徳　小禪師彦火々出見尊　本　地彌勒龍樹

惡王子　本地愛染　岩　瀧踏鞴姫命　本地辨才天

劔ノ宮素盞烏神　本地不動　氣　比仲哀天皇　本地聖觀音

大竈瀛津彦命　本地大日　竈　殿瀛津姫　本地日光月光

以上十四社八攝社白井氏ハ神名ヲ云テ、本地ヲ習合スルヲ耻ヅ、林氏ハ本地ヲ云テ、垂迹ヲイハズ、本地ノミヲ云トキハ佛寺ナリ、神社トスベカラズ、林氏ナンゾ愚妄ナル

山王ノ神名啓蒙ニテカクノゴトシ、然ルニ傳教ハ佛者ナリ、天神地神ヲコヽニ祭ル、カヽル汚穢者ノ爲ニ祭ラレテモ、ウカ〳〵トソノ饌供ヲ受玉フハ、八幡ノ神託ニモ異リ、サテ叉傳敎ノ妄言第一ニ桓武天皇ヲ欺キ、鬼門ヲ守ルノ說ヲ以テ叡山ヲ開キ、カヽル神祠ヲツクリテ、上古ノ神祇ヲ弄玩ス、ソノ上ニ釋迦天竺ヨリコヽニ來リ、白髭明神ト藥師等ノ問答、ソノ外妄說云ベカラズ、クダ〳〵シクコヽニアゲズ、此山王モ亦ソノ神體ヲ取失フコト外宮ノ如シ、是モ亦鬼神ナキノ證ナリ

十二　天滿宮ハ菅原右大臣道眞公ヲ祠ル、此神ノ傳ニオイテハ、明白ニシテ人ノ知ル處ナレバ擧ルニ及バズ、コノトキ藤原時平公左大臣トシテ年弱シ、菅公ソノ家ニアラズシテ右大臣ニイタル、源ノ光・

藤原定國・菅根等時平ト密ニ議リテ菅公ヲ讒シ、ツヒニ筑紫ニ左遷セラル、延喜三年二月配所ニ薨ズ、ソノ後六年ニシテ藤原ノ菅根卒ス、七年ニシテ時平薨ズ、十二年ニシテ京師災アリ、二十一年ニシテ太子保明薨ズ、人々ミナ云、菅公ノ靈災ヲナスト、京師大ニ懼ル、依テ菅公左遷ノ宣旨ヲヤキ、本官ニ復シ正二位ヲ贈リ、年號ヲ改メ延長トス、二十八年ニシテ淸涼殿ニ震シ、藤原淸貫・平ノ希世震死ス、天子不豫、三十三年ニシテ延曆寺災アリ、ミナ菅公ノ厲ナリト云テ大ニ恐ル、三十八年ニシテ菅靈右京七條ノ婢文子ニ託シテ、右近ノ馬場ニ棲ント云、四十五年ニシテ祠ヲ北野ニ立、五十三年ニシテ比良ノ社ノ禰宜良種ニ憑リ託シテ、一夜ニ松千本ヲ生ズ、一夜松ノ生ズル事アランヤ植タル也五十八年ニシテ禁裏炎上ス、其後改造ル、天井ニ文字ヲナシテ曰、「ツクルトモ又モヤケナン菅原ヤ、ムネノ板間ノアハンカギリハ」コヽニ於テ神怒猶アリトシ、北野ノ宮ヲ營改シ天滿天神トス、九十一年ニシテ正曆四年五月、敕使ヲ安樂寺ニ遣ハシ、太政大臣正一位ヲ贈ラル、時ニ神詩ヲ以テ託シテ曰、「昔爲二北闕被レ悲士一、今作二西都雪レ耻屍一、生恨死歡其我奈、從レ今望足護二皇基一」コノ歌コノ詩モ菅公ニシテハ甚拙シ、イカナル人ノシワザゾヤ、コレヲ以テ菅公ノ人ト爲リ野卑ナルヲシル又ソノ外菅公厲ヲナスコトコレニ止マラズ、叡山ニテハ尊意尊意ハ法性房ヲ怒リ、柘榴ヲクハヘテ火焔ヲ吐キ、僧道賢ノ吉野ニテ菅公ノ靈ニアヒ、又日藏ノ地獄ニテ延喜帝ニ遇フテ蘇リタル、ソノ外多シト雖コレヲ略ス、コノ太子保明・藤ノ時平公・菅根ノ朝臣ノ病死、淸貫・希世ノ震死、內裏炎上ノコトミナ時也、雷ハ陰雲陽雲磨激シテ發スルモノナリ、菅公何ゾアヅカラン、七條ノ婢子ニ憑リ託セズトモ、今少シ貴キ人ニ

憑リタキ者カ、天井ノ歌、贈官ノ詩、野鄙ナル哉。何奴ノ戯ナルヤ、一夜ノ松ハ後世ノ誣罔也、何ゾ一夜ニ千本ノ松生ゼン、是等ヲ以テ其妄說ヲ知ルベシ、シカルニ天滿宮ノ當時ノ祭祀、千歲ノ血食、ソノ功德ヲ稱シテマツラル、ナラバ、榮ト云ベシ、自カラ厲ヲナシ人ヲコロシ、內裏叡山ヲヤキテ、後贈官祭祀ニ遇フテ歡ヲナスコトハ、菅公ニ似合ザルモノカ、成敗ヲ以テ事ヲ論ジ、當今ノ榮ヲ見テ菅公ノ德トスルコト、我コレヲシラズ、コノ神保明・時平公ノ短命、禁裏・叡山ノ炎上、七條婢子・比良ノ禰宜ノ妄託ナカリセバ、贈官モナク、祭祀モセラレマジキナレバ、コヽニ於テカ、菅公ノ德モ微ニシテ顯ハルヽコトナク、賢臣ニテアリシト云ノミニテ過べシ、然ルニコレヲ深ク考ヘズシテ、諸人喝仰シテ疾病ヲ除クコトヲ乞ヒ福ヲ祈ル、アヽソレ何ノコトゾヤ、又イノルトモ靈驗モナシ、神靈モナシ、只一時ノハヤリモノナランカ、ソノ外御靈八所ノ半ハ、是亂臣賊子皆厲ヲ恐レテ祭ルモノ也。惟秋齋云、菅公自畫ノ像法性房ニ贈ラル、處ノモノ、今梶井門跡ノ什物トナル、眞物ナリトス、ソノ外諸所ニ自畫トイフモノアリテ、多クハ黒キ袍ナリ、四位已上黒裝束ヲスルハ、延曆以後ナリ怪ムベシ、道明寺ニモ自作ノ木像アリ、菅公存生ニ畫ガカセラレシト、小細工モシ玉ヒシヤ、二ツノモノ各別修行ナクテハナラザルモノナリ、菅公ハカラザルニ天滿宮ト仰ガレ玉ヒシユヱニ、其像ヲ尊信スレドモ、存生ニ其意ナシ、今流行シ玉フユヱニ自作ノ像多シ、法性房覺壽ナドコノ像ヲモラヒタリトモ、後世天滿宮トナリ玉ハザレバ、藏ノ隅ニアルベシ、誰カコレヲ拜セン、佛者ニテハ弘法ノ自作ト云モノ、四國八十八ケ所ハ大カタ自作ナリ、試ニ今名高キ僧ニ像ヲキザマセミルベシ、何ゾヨクセン、佛學ニイソガシクシテ、畫ヲナラヒ小細工スル隙ハアルマジ、弘法モ亦自カラ後世カクノ如クモテハヤスコトハシラザルナリ、ナンゾ後世ヲハカリテ自ラ像ヲ多クキザマンヤ、ミナ僞物ナリ、天滿宮ノ渡唐ノ像ハ林和靖ナリト云、イカンヲシラズ、日本ノ大臣トシテ唐服ヲ着スルハ、コレ國家ノ罪人、ナンゾコレアラン

十三　垂仁天皇六年、倭大神大水口ノ宿禰ニカヽリテ誨テ曰、先皇ノ神祇ヲ祭祀スルハ、ソノ源根ヲトラズシテ、枝葉ヲ取ユヱニ短命ナリ、今汝御孫尊コレヲ悔テ、祭ヲツヽシムユヱニ、壽命延長。天下

太平ナリト、天皇長尾市ノ宿禰ニ命ジテコレヲ祭ラシム

十四　伊弉諾ノ尊橘ノ檍ガ原ニ祓除ス、コノ時ニ底筒男・中筒男・上筒男ノ神ヲ生ム、此神神功皇后ヲ教ヘテ三韓ヲ伐シム、ツヒニ捷テ歸ル、三神又誨テ曰、祠ヲ穴門ノ山田邑ニ立ヨト、又曰、和魂ハ大津渟中倉ノ長峽ニ居テ往來ノ船ヲミルベシ、コヽニ鎭坐ス、又宣言シテ曰、コノ處住吉ト、ユヱニ名ク、天照大神悔テ曰、我ノ荒魂ハ皇后ニ近ヅクベカラズ、御心廣田ノ國ニ居ベシ、即山背根子ノ女葉山媛ニ祭ラシム、コレヲ廣田ノ明神トス、又稚日女ノ尊ヲシヘテ曰、吾活田ノ長峽ノ國ニヲルベシ、依テ海上ノ五十狹茅ニ祭ラシム、コレヲ生田明神トス、又事代主ノ尊ヲシヘテ曰、吾ヲ御心長田ノ國ニ祭レ、即長媛ニ祭ラシム、長田明神コレナリ（コノ諸神ミナ人ニヨリテ自ラ祭ナウク、スベテ日本紀ニイヅ、上古ノ風俗ナリ、今ナ以テ考フベシ、ナンゾカヽルコトアラン）日本尊崩ズ、白鳥トナリテ飛ブ、ユヱニ大鳥明神トス、コレラノコトヲ一々ニ擧ル時ハイトマアラズ、ミナ上古草昧愚蒙ノ說ニシテ取ニ足ラズ、其外カヽル類ヲ推シテ、必シモ惑フコトナカレ、秋葉・愛宕ノ神ヲ以テ火防ノ神トシテ、諸人コゾリテコレヲ信ズト雖モ、享和元年ノ春愛宕ノ祠火災アリテ、ノコラズ灰燼トナル、或曰、巫僧ノ不律ニヨリテ、神怒リテコレヲ燒キ、懲戒トスルモノナリト、又神體ヲヤウ〳〵ニ取退ケテ、ツヒニ自カラ杉ノ梢ニ飛移リ玉フナドヽ怪說ヲ云出スニ至ル、巫僧ノ不律ヲ怒リテ社壇ヲ燒ホドノ御心アラバ、其巫僧ヲ罰スルカ、又ハカク〳〵ト神託アルベシ、ソレガ爲ニ晴ニ謎ヲカケテ堂社ヲ燒トモ、ナンゾ巫僧ラコレニ懲ン、コノ神輕重ヲシラズ、又大都ノ人秋葉火除ノ

札ヲ受テ家内ニ張ト雖、大火中ニハ此札ヲハリタルモノ幾萬人、又此神ヲ祭ルモノ幾萬人ト雖、ツヒニ一人モマヌカルヽモノナシ、スデニ大坂天明ノ災ニ、竿ノ先ニ秋葉ノ札ヲサシハサミテ門前ニ立テ、家ニテ神ヲ祭リ咒スル内ニ、ソノ札ニ火附テ、最初ニヤケテ居宅灰燼トナル、ソレニモ懲ズシテ、災後造作落成シテ、又秋葉ノ札ヲ張ル、コヽニ病人アリテ、醫ノ藥ヲ受テコレヲ飲シムルニ、驗アラザレバ外醫ヲ招キ、又驗ナケレバ外ヘ轉ジテ、前醫ノ非ヲ揚ルコトナルニ、神々ニ祈リテ効ナシトテ、ツヒニ其神ヲ非トセズシテ、又外人ノ病ヲ祈ル、カヽルコトニシテ鬼神ノコトニ於テハ、イカナル人モ神ヲ疑ハズ、ヨク〱惑フタルモノナリ、神ハ非禮ヲ受ズト雖、今神社ノ祭禮ト云モノハ、神ヲイサムルヲ名トシテ、壯弱ノ者淫戲不正ノコトヲナシテ、自己ノ歡ヲナシテ、神前ニ造リ物、ネリ物ナリト號シテ、其無禮至ラザル處ナシ、神輿ヲ舁ニ裸躰ヲ以テシ、或ハ願望アル者裸參ト云コトアリテ、寒夜赤裸ニナリテ禮拜ヲナス、古ヨリ神ヲ祭ルニ散齋致齋シ、垢離沐浴シ、祓禊シテ之ヲ祭ルヲ法トス、然ルニカクノ如キノ無禮ヲナシテ神ヲ待スルコトハイカナルコトゾヤ、佛氏ノ寢タラバ寢ナガラ、起タラバ起ナガラ、寢テモ寤テモ行住坐臥只心ノ浮ミ次第ニ念佛セヨト云ニ至リ、神道ハ塵ニ交ル神心ト云、熊野權現ノ月ノサハリモ何カ苦シキノ語ニ至ル、不敬ノ罪コレヨリ大ナルハナシ、范文正公ノ其誠アレバ其神アリ、其誠ナケレバ其神ナシト云ヲ以テミレバ、斯ノ如クシテ神ヲ祭リテ、其神ナケレバ何ノ益カアラン、實ニ鬼神ナシ、ユヱニコノ罰モナキナリ、實ニ鬼神アラバ神罰ヲ蒙ル

ベシ、コレ鬼神ナキノ證ヲミルベシ、今ノ巫祝タル者伊勢ヲ始トシテ、大社小社ノ神ミナサマ〳〵ノ虚說奇談ヲ云出シ、其神ヲ奇異ナリトシテ愚民ヲアザムキ、神ヲ蔑如ニシテ堂社ヲ建立シ、己ガ私欲ヲ逞フシ、アルヒハ開帳ト號シテ、神像ヲ人ニサラシテ錢ヲ投ウタシタメ、宛モ神ヲシテ乞兒ノ如クナラシムルハ、イカナルコトゾヤ、コレ巫祝ノ心ニ於テ實ニ神災アリトセバ、カク神ヲ汚スコトハアルマジキナリ、本ヨリ其神無ヲ知ルユヱニ、カヽル不敬ヲナシテ神ヲ汚シ、サラシモノニシテ神ヲウリテ、私欲ヲホシイマヽニスル者ナリ、前ニ云如キノ神託佛告ノルイハ、ミナ巫祝ノ作リゴトナリ、一人モノコラズ、無鬼ノコトヲシリテスルコトナリ、シラズシテ豈コレヲセンヤ、役ノ小角・空海・行基・最澄ヲ始メ、其外ノ高僧貴僧ト稱セラルヽモノ、（波羅門僧正及ビ小角・空海ノ徒、幻術ヲツカヒ奇妙ヲミセテ、人ヲマドハシ人ニ信ゼラルヽトイヘドモ、幻術トテ外ニナシ、皆放下品玉ノルイ、又ハ奇薬妙薬ノルイナリ）ミナ無鬼ノコトヲヨク辨ヘテ、後人主ヲ欺キ權家ヲ僞リ、堂社ヲ建テサセ、本地垂迹、其外サマ〳〵ノ僞飾ヲノベテ己ガ私欲ヲナシ、開山祖師ト尊ンデ、千歳ノ下ニ及ビテ祭祀セラレ、中ニモ皇子ヲ以テ法嗣トシテ、元祖ト仰ガルヽニ至ル、ヨク辨ヘテ思フベシ、聊モ神佛ニ實ニ靈アラバ、コレラノ賣主（マイス）ヲ以テ、後世マデ尊敬サセテオカルベキヤ、元ヨリ神靈ナキユヱニ、カクノ如キノ邪人ヲシテ專ラ恣ニシテモ、誰カコレヲ罰スル神ナキナリ、中世ヲ以テ見レバ、コノ數祝數十僧ノ如キ邪智深キ人ハナカルベシ、然レバソノ本ヲ云ヘバミナ愚ナリ、實智ニ於テセンカ、少ナリトモ天下國家ノ補益ニナルコトヲシテ、己ガ子孫モ繁榮シテ、父祖ノ名モアラハスベシ、是ミナ忠孝兩ナガラ全キ

ニアラズヤ、然ルニ上ハ君ヲ欺キ、父祖ノ血脉ヲ斷チ、下ハ天下ノ萬民ヲ欺妄シ、後世ノ難ヲノコシテ、タトヒ其身ノ一生ヲ快クシ、萬世ニハ尊敬セラルヽトモ、何ノ益ゾヤ、コレラヲ以テヨク考アベシ、鬼神ニ泥ミ溺ルヽモノハ、牛ヲ見テ羊ヲ見ズ、ヒタモノスヽミテ返ルコトヲ知ラザレドモ、コノ處ニ三タビ心付テヨク思ヒカヘストキハ、四十九年ノ非モコト〳〵クシリテ迷惑シタル雲霧ヲヒラキテ、實ノ人間トナルベシ、深ク考辨スベキナリ

十五　杵築ノ大社舊事紀國造本紀ニ曰、「瑞籬朝以天穗日命十一世孫宇迦都久慈定賜國造」トアリ、穗日命ハ素盞鳴尊ノ子ナリ、右十一世ノ孫トアレバ、神代ヨリハ遙カ後ノコトナリ、シカレバコノ大社ハ子孫ニ出雲ノ國ヲタマハリシユヱ、祖先ヲ勸請シタルモノナルベシ、天下ノ諸神十月ニハ出雲ノ大社ヘ迯散テ、諸國ニテハ神無月ト云、出雲ニカギリ神有月ト云傳ヘタリ、初メヨリ大ナル大俗説ニシテトルニタラズ、甚シキハ神主ニヨリ神社ヲ戶ザシテオクニイタル、其外出雲ノコトニツキテハ、サマ〴〵説アレドモ、コノ後ニアゲズ

我日本上古ヨリ神ニ祈リ、吉凶禍福ヲ問ヒ、祈禱シテ太平ヲ求ルコト其風習ナリ、日本紀ヲ讀テ辨フベシ、然ルニ佛法渡リテ以來皆佛者ニ混ゼラレ、習合セラレテ、伊勢•加茂ト雖モシラズシテ、終ニ是ガ爲ニ半バ誤ラルヽ、八幡•春日ノ如キハ僧徒ヲ以テ社務ニ預ルヽ、ツヒニミナ混合セラルヽナリ、ソノ本ハミナ鬼神アリトシテ畏ルヽ心ヨリ、カクナリユクモノニテ、邪僧ソノ處ヘツケコミテ、僞妄ヲ恣ニ

シテ、邪說ニ溺ラスモノナリ、漢士代々ノ儒ト雖、聖人ノ鬼神ヲ尊敬シ玉フヲ以テ、無鬼ト云コトヲ云出ス人ナシ、只是ソノ目ノサヤノヨク拔ケテ、智ヲヨク切瑳琢磨シテ滯ルコトナク、一點ノ曇リナク、明鏡ノ如キ心志ナラデハ、叶ハザルコトナリ、古ヘハ異端害少ク、人ノ心モ素朴ナル故ニ、聖人モ鬼神ノ說ヲ取玉フベシ、今ノ如ク鬼神ニ溺惑スルヲ見玉ハヾ、聖人復興ルトモ必無鬼ヲトリ玉フベシ、元來人及ビ禽獸魚蟲草木ト雖、少シヅヽノソレ〴〵ノ差違ハアルベキナレドモ、天地陰陽ノ和合ムシタテニヨリテ、生死熟枯スルモノ、ミナ理ヲ同ジクシテ、天地自然ノモノナリ、山川水火トイヘドモ、ミナ陰陽ノ外ナラズ、別ニ神ナシ、又生熟スルモノハ、年數ノ短長ハアレドモ、大テイソレゾレノ持前有テ死枯セザルハナシ、生ズレハ智アリ、神アリ、血氣アリ、四支心臟腑皆働キ、死スレバ智ナシ、神ナシ、血氣ナク、四支心志臟腑ミナ働クコトナシ、然レバイカンゾ鬼アラン、又神アラン、生テ働ク所コレヲ神トスベキナリ、人ハ是ガ長ニシテ智多シ、獸コレニ次ギ禽ソノ次ナリ、魚蟲ヲ下トス、是ヲ有情トスルナリ、山川草木ハ自カラ働クコト能ハズ、ミナ天然ニマカス、コレヲ非情トスルナリ、然ルニ前ニ云如ク、只天下ノ人敎モナク、禮モナクシテ、禽獸ト相遠カラザルガ故ニ、上三皇ヨリ五帝ニ至ルマデ、ミナ物ヲヒラキ務ヲナシテ、天下ヲ治ルモノハ、スベテ是人民ヲ安全ナラシメンガ爲ナリ（人敎ナケレバ禽獸ニ同ジ、ユヱニ聖人敎法ヲ立テ治法ヲナス、鬼神祭祀ソノ中ニアリ、シカレドモ歳月ヲ經レバミナ弊アリ、後世鬼神祭祀ノ弊ヲ甚シトス、蝦夷人ノ如キ今ニ至リテ頑愚ナリ、敎法治法ナキユヱナリ、古ヨリ中ニハ智アル人モ生レ出ベケレドモ、始テ敎ヲ立ルホドノ聖人出デザレバナルベシ、今ニシテ全ク禽獸ニ近シ）其己ヲ治メ人ヲ治ルノ道ハ、孝ヨリ先ナルハナシ、父母ノ子

ヲ思フハ天下ノ通情ニシテ、禽獸魚蟲皆然リ、コレ自然ノコトニシテ、作爲シタルコトニアラザルナリ、故ニ聖人コレヨリ推シテ禮ヲ立ツ、禮ハ冠婚ヲ主トシ、死禮ハ喪祭ヲ主トス、夫スデニ生ル、ヨリシテ六日ト云ニハ、髮ヲ剃リテ膳ヲスユル、夫ヨリシテ國風家風ニモヨルベキナレドモ、大抵ハ祝日ノ度毎ニ、食セザル小兒ニモ膳ヲ饗シ、成長ノ後他國ノ迹トイヘドモ、影ノ膳ト稱シテ家内一同ノ膳ヲスユルコト、ミナ其親子・夫婦・兄弟ノ至情ナラズヤ、然レバ則チ始メテ死スルトキニ三日食セズ、ソノ後蔬食シテ、死者ニ盛饌ヲ供スルコト存生ノ日ノ如キハ、孝子ノ心ニソノ親ヲ死タリトスルニ忍ビザルナリ、ソレヨリ三年喪ヲツトメ、終身コレヲ祭ルコトナリ、祭義曰、「霜露既降、君子履レ之、必有二悽愴之心一、非二其寒之謂一也、雨露既濡、君子履レ之、必有二怵惕之心一、如レ將レ見レ之、樂以迎レ來、哀以送レ往」云々、ソレカクノ如シ、君子ノ孝アルモノ、四時出入ツネニ父母ヲ憶フ、何角ニ就テ思ヒ出スト云ベシ、故ニ思ヒ出セバ、忽チニ酒食ソノ外ツネニ嗜好ノ物ヲソナヘテコレヲ祭ル、又吉凶アレバコレヲ告グ、コレ孝子ノ實情ニシテ自然ノ意ナリ、コヽヲ以テ聖人此情ニヨリテ喪祭ノ禮ヲ制シ、鬼神ヲ敬スルコト起ル、然ルニ後世泥ムコトヲオソル、ユヱニ敬スト雖亦遠クノ教アリ、コレヨリ興リテ天地・山川・社稷・宗廟・祭祀ノ法モ始マル者也、之ヲ以テミルベシ、只其孝子ノ至情心ユカシニ祭ルノミ、本ヨリ鬼神ノ有無ヲ問ハザル也、シカレドモ聖人如在ノ禮、敬誠ノ禮ヲ以テ、ソノ及バザルモノヲ企テ及バサシムルハ、後世ヲ慮ルノ深キナリ、コレヲシラズシテ、只聖人モ鬼神ヲ敬ストノミ思フハ、民ノコレニ

由ルモノナリ、釋迦如來ノ本意モシラズシテ、實ニ地獄極樂アリトスルモノト同日ノ論ナリ、アニ聖人ノ道ヲ學ビ、儒ヲ以テ居ルモノニシテコレヲ信ゼンヤ、コレコレヲ小道ニ泥ムト云也、人已ニ耳目口鼻アリテ、身體手足五臟六腑備ハルト雖、猶愚ナルモノ多シ、死シタレバ一ツモ働クコトナシ、況ヤ木ニテ刻、金ニテ鑄、石ニテ彫、畫ニ畫タル者ヲヤ、五臟六腑モナケレバ心志モナシ、何ノ知カアラン何ノ靈驗カアラン、盛饌ヲ供テモ食フコトアタハズ、然ルニコレヲ賴ミテ我身ノ進退身命ヲ委ネ、只コノ木石畫像ノ命ニ從フモノハ愚ト云ハザレバ妄、アヽ馬鹿ナル哉、淺ハカナル哉、吾此篇ニオイテ、天命ヲ破リ鬼神ヲ無トス、我神代ヨリノ尊神朝家ノ重禮ヲ非スルコトヲ恐懼スルノミニアラズ、天下萬世ノ罪人トモ云ベシ、スデニ無鬼論ヲ造リタル阮千里サヘモ、晉書ニコレヲ非トス、アヽ恐ルベキカナ、然レドモ此書外人ニ知ラシムルニアラズ、只書窠ノ代リニ書テ子孫ニ遺シ、吾曾孫ヲシテ異端ニ陷ラシメザルノ警戒トスルノミ、必シモ後世我ヲ罪スルコト勿レ（今愛兒アリテ死ス、母ソレヲカナシミ其靈ヲマツリ、日ゴロニ嗜好シタル食物ヲ供シ、或ハ兒ノ玩物ヲ靈前ニオキテ、日夜コレヲ奉ズルコト在スガゴトシ、コレ僞リカザリヲナス事ニアラズ、眞情ヨリシカラシムル所ナリ、シカレバトテソノ兒ノヨロコブニモアラズ、又靈アリテ受ルニモアラズ、タヾソノ實情シカラザルヲ得ズ、聖人ソノ人情ノ實ヲ見テ、ソレヲ元トシテ古ヨリ俗ノ仕來ル禮ヲトリテ、祭祀ノ法ヲ立ルナリ、コノトキハ人情厚クシテ質朴ノコトユヱニ導クナリ、今ヤ鬼神ニ迷フテ、人情ウスク文華ノトキユヱニ、コノ鬼神ノ蔽ヲハブキテ破ルノ外ナシ、聖人マタ起ラバ、必ズ余ガ言ヲカヘジ）

十六　妙見ニ七晝夜參籠スルモノアリ、余ソノ人ニ問テ曰、汝見妙ニコモラバ賴ムベキコトアリ、持用ノ烟管ツマリテ通ゼズ、一七日籠ラセテ通ジ玉ハルベシト、其人云、コレ何ゾ能セン、余云、コノ烟管ハ小兒ト雖通徹スルコトヲヨクスベシ、然ルニコレヲサヘ通シ得ザルノ妙見ナラバ、アニ人ノ病ヲ

治センヤト、又或醫朋友ノ病ヲ療ス、主人云、コノゴロ兄弟ドモヨリ稻荷ノ加持ヲスヽム、ソノ巫者ヨク驗アリト云、コノ病ハ醫藥ヲ変ヘ用ユルトキハ効ナシ、必用ユルコトナカレト、醫ノ曰今コノ病人ニ藥ヲ用ヒズシテ治スベキノ理ナシ、ナンゾ藥ヲ禁ジテ加持ヲ用ヒン、余ソノ巫ニ遇フテ說破スベシト、暫アリテ巫至ル、醫曰、汝此病人ヲ加持ヲ以テ治スト云、元來大切ノ病者ナリ迹ニテ論ズトモ何ノ益カアラン、今ソノ加持ノ効ヲタメサン、汝加持シテ我ヲ殺スベシ、然ラバ其妙アルナリ、以テ此病ヲ加持スベシ、我モ亦一服ノ毒藥ヲ飲セテ汝ガ命ヲ斷ベシ、是ヲ以テ其術ヲ試ムベシ、勝タルモノ病人ヲ受トルベシ、巫答ルコトアタハズ、ツヒニ辭シテ歸ルト、又アル人家內ノ無事ヲ祈リテ大般若ヲ轉讀セシム、其席ニテ中風發シテ死ス、然リト雖懲リズシテコレヲ行フ、愚ナルカナ、佛經ヲ誦シテ福アルモノナラバ、儒經ヲ誦シテ身修ルベシ、アルヒハ鬼符ヲ用ヒ、痘瘡ヲ始メ安產海難ヲ祈、福壽ヲ求ム、是ヲモナシ得ベクンバ、何ヿヲカナシ得ベカラザラン、飢人ノ傍ニテ食物ノ名ヲトナヘタラバ腹充ベシ、病者ノ傍ニテ藥方ヲトナヘタラバ、病治スベシ、コレヲ以テミルベシ、實物ニアラザレバアタハズ、空物ヲ以テシルシアルコトヲキカズ、中ニモ効驗アリト云モノハ、皆偶然ナリ

十七　秋齋閑話ニ曰、駿河國吉原ニ渡邊源藏ト云モノアリ、曰、余サキニ富士山ニ上ル、朝日ノ出ルヲ御來迎トテ拜スルコトナリ、彌陀•觀音•勢至ノ三尊日ノ中ニ現ハルヽト云ヲミレバ、山ノ姿ニ隨ヒ旭日スハマノ如クニ分レ、イカニモ其內ニ三尊ト云ベキ形ミエテ、日ノ內ニカヾヤキ、譬ンカタナク

ミヤビヤカニ光ヲナセリ、ミナ〳〵アヽラ有難ヤト拜スルヲミレバ、三尊モ拜スルヤウナリ、イブカシク思ヒテ、手招スレバ三尊モマネク、頭ヲフレバ三尊モフル、扨コソ我影ノウツルニゾアリケレ、スベテ世間ノ俗說カヽルモノナラント云ヘリ、今二十六夜待ト云コトアリ、月ノ姿三尊ニミユルト云、コレハ二十六夜ニ限ルコトハナキコトナレドモ、山ノ姿ニモアラズ、奧州邊ニテハ三ツニ分レテ、日ノ出ルコトアルナリ、其朝ノ海山蒙氣水氣ノスル處ナリ、三ツ有モノハ佛家スベテ三尊ト云、何ゾ阿彌陀觀音勢至ナラン、彼岸ノ中日ノ日沒ニハ花フルト云テ、西ニ向ヒテ拜スルモノアリ、日ヲ見ツメテ居レバ、カヾヤキテ花フルヤウナリ、ナンゾ中日ニ限ラン、天王寺ノ引導鐘百錢ヲ出シテコレヲ撞クトキハ、極樂ニ往生ス、善光寺ノ極樂ノ通リ札モ百錢ナリ、賤ト云ベシ、然レドモ何ホドヤスクトモ、無用ナラバ止ムベシ、一向宗ノ本尊ヲ百御長。二百御長ト云モ、亦錢ホド光ルト云意ナラン（評文）秋齋閑話ヲ見テ後ニ富士ニノボル人アリ、シカルニ三尊ノ影ハ言ニ及バズ、吾影モウツルコトナシ、中々手招、頭ヲフルノ形一ツモウツラズ、退テ考フルニ、渡邊源藏ガ推量ノ說ヲ秋齋愚ニシテ迷フモノナリ、又コノ書ノ作者ノゴトキ、天文ノ道ヲ少シバカリ聞ハツリテ居ナガラ、此說ヲコヽニ擧ルハ何事ゾヤ、日輪ノ力ナルモノト思フヤ、人ノ影ノウツルモノカウツラヌモノカ、ヨク思案スベシ、萬一ウツレバトテ、眼力ノ及ブ所ニアラズ、眼力及バザレバウツルコトナシ、此文ノ體ニテハ、コトサラニ皆々アヽラ有難ヤト稱ストアリ、大勢ノ影日輪ニウツル上ニ、手招キ頭ヲブルナドノコト、ナンゾ見ユルコトアラン、カクテハ西洋ニ天文ヲハカル器ノ「ゾンガラス」（遠目ガネノ事ナリ）ニモ及バザルナリ

十八 秋齋又曰、尾州ニテ百姓夜道シテ浪人ニコロサル、コノ人二月堂ノ九重ノ符ヲハジメ、神佛ノ守札ヲアクマデアツメテ、錦ノ袋ニ入テ首ニ掛タルヲ、金トコヽロエテ殺シタルナリ、コノ百姓守札無クバ殺サレマジキニ、守札ユヱニコロサレタリ、二世安樂ノ爲ニ順禮廻國・四國遍路・秩父・坂東・伊

勢參宮・峯入禪定スル人々、途中ニテ賊ニアヒ路用ヲトラレ、或ハ難死ス、コレラ參詣セザレバ、カヽルコトアルマジキニ、出テ難ニアフ、コレ神佛ノ奇特ナキヲシルベシ

十九　又曰、少カリシトキ東近江ニ行キ、湖水ノ舟ニノル、俄ニ逆風大キニツノリ、已ニ覆ラントス、シカルニ神道者出テコノ風ヲ鎭ントテ、中臣ノ秡ヲクリカヘシ唱ヘケレドモ、風ヤマズシテ岸ニツクコト能ズ、老僧出デ曰、此風神力ニテ止ムベカラズ、佛陀ノ冥感ヲ備ルベシトテ、光明眞言ヲクレドモ、風イヨ〳〵勝リテ船中皆膽ヲ失フ處ニ、一人ノ山伏起上リテ曰、我役ノ行者ノ呪ヲ以テ人ヲ助ケント罵リテ、イラ高數珠ヲ押モンデスリカケル内ニ大浪ドツト打込ミケレバ、山伏モ尻居ニマロブ、船頭腹ヲ立テ曰、神佛ノ力ニヨリテ、コノ難ヲ心易クノガレント思ヒシコトノ悔シサヨ、イデ〳〵我等ガ行力ヲミセ申サント、眞帆片帆ニスリ直シ取梶ニ直セバ、何ノコトモナク船ハ堅田ニ着テ、ミナ〳〵カラキ命ヲ拾ヒタリ、サレバ船中ノコトハ禰宜山伏ノ祈リヨリモ、船頭ノ業ハルカニマサレリ、是ニツキテモ危キ病人ニ藥ヲヤメサセテ、香水ニ腹中ヲ損ジ古ヨリ名醫ノ論ニ論ヲカサネテ組立シ方藥ヲサシオキ、神託夢想ノ妙藥ヲ信ズル徒ハ、愚ナリト云ベシ、神佛ヨリモ病メコトハ、功アル醫師コソマサルベケレ、道成寺ノ能ニ、鐘ノ落タル所ヘ住僧出デ、一祈シテ本ノ鐘樓ヘ上ント云、故ニ祈ノ力ニテ上ルカトミレバ、引ヤテンンデニ千手ノ陀羅尼トアレバ、祈リ上タルニアラズ、引上タルナリ、コレヲ以テ見ルベシト云、誠ニコノ船中ヲ禰宜山伏ニマカセ置バ忽ニ覆ルベシ、船ノコトハ船頭ナラ

デハ知ルベカラズ、病ノ事ハ醫ナラデハ知ルベカラズ、富貴利達ヲ求ルハ智力勤行ニアリ、災禍ヲ除クハ戒愼ニアリ、本道ヲ行ズシテ怠リテ無理ニ神佛ヲ祈ルモノハ愚ニアラズシテ何ゾヤ、禰宜山伏ノ祈リハ鬼神ニ諂フ也、帆ト楫ヲ直シ、醫藥ヲ服シ智力戒愼ヲ勤ルハ民ノ義ヲ務ムル也、神佛ニ心魂ナシ、死物也、譬ヒ生アル修驗者ナランカ何ゾ咒文數珠先ニテ功ヲ立ン、ミナ共本道ノ外ハナキノミ、本道ニ託シテ功驗ヲ得ザルハ天命ナリ、外ニ求ムベカラズ、誠ニ腹ヘリタル人ヲ祈リ腹フクレ、ツマリタル烟管ヲ祈リテ通リタルヤイナヤヲタメシテ後、腹フクレ烟管通リタラバ祈禱ヲスベシ、又試ニ三黃湯ヲノミテ腹瀉スルヤ、麻黃湯ヲノミテ熱發スルヤ否ヲタメシテ藥ヲ用ユベシ、腹ハフクルベカラズ、烟管ハ通ルベカラズ、カヽル効ナキ祈禱者ニ大切ノ命ヲ任サンヤ、服瀉スベシ、熱發スベシ、コレコノ實行ナリ、ソノ上ヘハ醫ノ巧拙ト、病ノ輕重ニアリ、コレヲ以テ鬼神ノ無ヲシルベシ

二十　諸人七福神ト號シ、本朝異國ヨリ取集テ尊敬シ福ヲ求ム、其中ニ大黑・布袋ハ袋ノ中ニ財アレバ、福神トモ云ベシ、然ルニ一袋ノ寶・二俵ノ米少キカナ、戎ハ鯛一枚ヲ一生離タズ、毘沙門・辨財天何ノ寶カアル、福祿壽・壽老人ハ名ヲ寶トスルカ、然レバ辨財天モ財ノ字ヲ書ケバ、又名ニヨルモノカ、何レニモ妄誕ナリ、取ニタラザレドモ、コヽニ戎ヲ蛭子（七福神傳ニハ、吉祥・辨才・多聞・大黑・布袋・南極・蛭子チ以テ七福神トス、ソノ傳ミナ怪傳妄說トルニタラズ）ト云コト、ソノ實ヲシラズ、一說ニ曰、廣田ノ神主ニ戎三郎ト云者アリテ、時々西ノ宮ノ濱邊ニ出テ魚ヲ釣ル、其像ナリト、是モ亦據ナキニアラズ、ソノ形容上古ノ服ニアラズ、廣田神主ノ服トシテ然ルベシ、

今戎ノ祠ノ近キニハ多ク廣田明神アリ元來廣田ハ本社ニシテ、戎ハ末社ナリ、神代卷ニ蛭子ニ歲足立ザルユヱニ、石樟船ニノセテ放ヤルトノミ云フ、ソノ後ノコトナイハズ、蛭子イツノマニ戎ト改名アリシヤ、又西宮ニ祭ルコト正史ニミルコトナシ、廣田ノ神ノコトハ日本紀ニ見ユ、延喜式ニ大國モ西ノ神社アリ、コレ今ノ西ノ宮ノ戎ノ祠ナリ、大國主トアレバ、蛭子ニハアラザルナリ、今廣田ノ祠山麓ニアリテ、神職ノ家ハスベテ西ノ宮ニアリ、廣田ヲ本宮ト云テ日勤ス、コレヲ以テ考フベシ、戎ノ社ハ神官ノ先ナル事ヲ、蛭子ハ日靈子(ヒルコ)則日子(ヒルコ)ニテ、日子日子(ヒコホシ)ニテ、同ジ星ノ神ナリ、彥(ヒコ)ト云ハ日子(ヒコ)ナリ、姫ハ日女ナリ、鋼ヲ脇バサムノ像ハ、彥火々出見ノ尊ナリ、神代ノ卷ヲ考フベシ、神代ニ彥ト云モノミナ日子ナリ、日ノ神月ノ神ニ次デ日子(ホシ)ノ神ナリ、且貴人ノ稱ナリ、故ニ蛭子ハ日子彥ミナ同ジコトニテ、文字ノ違フバカリナリ、然レバ蛭子ト云トモ、一人ノ名ニアラズトシルベシ、此七神ノ說ハ、先ノ內宮ヤ加茂ノ說トハ大ニ違ヒテ甚ダ疎ナリ、少シ食タラヌ處アリ、辨才天比沙門ノコトハ、佛教ヲシラデハ論ジガタシ、大黑モ天部ナリ、大己貴ノ命トスルハ、大國主ノ命ト云コトニテ附會スルモノナルベシ、戎ノ神ト云ハ諾册二神第三ノ御子蛭子ノ尊ナリ、三年ニシテ足立タズト云、是ハ北辰ニ當タルモノナリ、萬葉集ニ、「たらちねはあはれとみずやひるの子は、三とせになりて足たゝずして」云々、人丸ノ歌ナリ、ナンゾ廣田ノ神主ナランヤコレモ又謂アルベシ、今宮ノ戎ノ祠破損シテ寄進ヲスヽムルコト數年、其後造作ニカヽリテ、四五年ニシテヤウヤク屋根ノミヲ替タリ、社壇ト云ドモ三社ノ內、戎バカリ彩色ヲシテ相殿ニ及バズ、自カラ居ル處ノ屋根サヘモフサギ得ザル神ニシテ、人ニ與フル福アランヤ、此處ヘ心付ズシテ、屋根ノ寄進シテ福ヲ求ムル者アリ、吾ノ福ヲ戎ニ與ヘテ又福ヲ祈ル、一金出シテ百金ヲ得ルノ術カモシラネド、ソノ一金ノ損タルヲシラザルナリ、愚ナル哉、山崎ニ寶寺有テ、打出ノ小槌ノ器アリ、コレヲ以テ寶ヲ打出スト云、コノ寺近年大ニ衰微シテ破壞甚シ、何ゾ寶ヲ打出サヾル、近年開運ノ守ヲ出ス寺アリテ大ニ流行シ、富ヲ得タリ、コレハ受ル人ノ財ヲトリテ、自ラノ運ヲ開キタルナリ、コレヲ以テ神靈ノナキ福ヲ祈ル益ナキヲシルベシ

廿一　貝原氏曰、欽明天皇十三年十月、百濟聖明王使ヲ遣シテ、釋迦佛ノ金銅像經論若干卷ヲ献リテ云、コノ法諸法ノ中ニオイテ、モツトモ殊ニ勝レタリ、コノ法ヨク無量無邊ノコトヲトク、果報ヲ生

ズ、祈願情ニヨリテカナハズト云コトナシト云々、コノヨシ天皇聽ヲハリテ歡喜ス、則アマタク群臣ニ問テノタマハク、西蕃國ヨリ献ル佛禮スベキヤ否、蘇我大臣稻目ノ宿禰奏シテ申サク、西蕃國モツバラ皆コレヲ禮ス、豐秋日本豈獨ソムカンヤ、物部大連尾輿・中臣連鎌子同ジク奏シテ曰、帝ノ天下ニ王トシマシマス、ツネニ天地社稷百八神ヲ以テ春夏秋冬ニ祭拜ヲコトヽス、今ニ方リテアラタメテ蕃神ヲ拜セバ、恐クハ國神ノ怒ヲイタサン、天皇ノ曰、シカラバ情ニ願フ人ニサヅクベシ、稻目ノ宿禰ヲシテ試ニ禮拜セシム、大臣跪ウケテ忻悅シ、小墾田家ニ安置シ、向原家ヲキヨメ祓ヒテ、寺ヲウシロニ造ル、ヤガテ國ニ疫癘アリテ、民ワカジニヲ致スモノ愈多クシテ、治療スルコトアタハズ、物部尾輿・中臣連鎌子同ジク奏シテ曰、昔日臣ガ諫ヲ用タマハズ、コノ病死ヲイタセリ、今遠カラズシテモトニカヘラバ、當ニ慶アルベシ、天皇コレヲ尤ナリトシテ、有司ニ命ジテ佛像ヲ以テ難波ノ堀江ニ流シ棄、又火ヲ伽藍ニ放チテ、是ヲ燒ツクシテ餘リナシ、敏達天皇十三年ノ紀ニ云、馬子ナホ佛法ニ歸依シ、三尼ヲアガメタツトビ、マタ石川ノ宅ニオイテ佛殿ヲ修治ス、佛法ノ初メコレヨリシテオコル、十四年ノ紀ニ云、コノトキ國ニ疫疾ハヤリテ、民死スルモノ多シ、守屋大連・中臣大夫等奏シテ申サク、何故ゾ肯テ臣ガ言ヲ用ヒタマハズシテ、先天皇ヨリ陛下ニ及マデ、疫疾流行シテ國マサニ絕ントス、コレ專ラ蘇我臣ノ佛法ヲ興行スル故ニアラズヤ、詔シテ曰、宜シク佛法ヲタツベシ、コヽニオイテ守屋ノ大連自ラ寺ニ詣テ、胡床ニ踞坐シテ其塔ヲ斫タホシ、火ヲハナチテ是ヲ燒キ、ナラビニ佛

像ト佛殿トヲ燒キテ、燒餘ストコロノ佛像ヲ取テ、難波ノ堀江ニ棄シム損軒翁云、中華ハジメテ浮屠ヲ好ムモノハ楚王英ナリ、我邦ハジメテ佛法ヲ信ズルモノハ蘇我馬子ナリ、楚王英ハ叛ヲハカルノ賊子ニシテ、馬子ハ是君ヲ弑スルノ亂臣ナリ、シカレバ則佛教ノ世道ニ益ナクシテ人倫ニ害アルコト又知ルベシ、世俗ミダリニ佛氏ノ誣枉ヲ信ジ、ツヒニ守屋ヲシテ逆臣トス、守屋ハコレ君ノ非ヲタダスノ忠臣ニシテ正ヲ崇ブノ端士ナルコトヲシラズ、厩戸皇子ノ馬子ニオケルガ如キ、トモニ天ヲ戴カザルノ讎ナリ、然レドモ佛ヲコノムノ故ヲ以テ、始終馬子ト志ヲ同シ事ヲトモニシ、ツヒニ君父ノ仇ニ黨シ、罪ナキ守屋ヲコロシテ其私ヲナセリ、然ルニ世俗是ヲタツトブコト神明ノ如シ、夫馬子ガ亂賊ノゴトキハ、元ヨリ凶惡ノ人ナレバ、是非ヲ論ズルニタラズ、太子ノ聰明ナル、其不仁不義ニシテ、惡人ニクミスルコトカクノ如ナルハナンゾ、孔子曰「衆惡之必察焉、」我守屋ニオイテテカ之ヲ信ズ、又曰「衆好レ之、必察焉、」我厩戸ニオイテ是ヲ信ズ、夫善惡ノコトナルコト、黑白ノ明ラメヤスキガ如キヅモナホ人ノ僞リシユルニヨリテ、其實ヲ亂ルコトカクノ如シ、然ルヲイハンヤ相似テ非ナルモノヘ、察セズンバアルベカラズ、好古案ズルニ、佛法ノ天道ニソムキ正理ニアラザルコトハ、古ヘノ諸賢ソノ辨論甚明カニシテ、掌ヲサスガ如クナレバ、今更愚カナル身ノ口舌ヲ以テ爭フベキニアラズ、然レバ道理ハ論ズルニ及バズ、只佛ヲ崇ミテ其身ト天下國家ニ利有リヤ害ナキヤ、古書ニ記セル古ノタメシヲ引テ、佛ヲ好ム人ノ利害ヲ述ブベシ、ツラ〳〵漢倭ノ古キアトヲ考フルニ、佛法ヲフカク尊信セシ人、其報ヲウク甚惡クシテ、天下國家ニワザハイ有リテ、其身ト子孫トヲ保タザリシコト、和漢古來歷代ノ書ニ詳ナリ、和漢ソノ僞ノ同ジキコト、割符ヲ合タルガ如シ、唐土ノ人甚佛ヲ信ジテワザハイ有シコトハ、中華事始ニ記シツレバ、コヽニハモラシ侍ル、サテ日本ニ佛法ヲ渡セシ百濟聖明王ハ新羅ニ囚トナリテ、ツヒニ新羅ニテ死セリ、又日ノ本ニシテ始メテ佛法ヲ尊信セシ蘇我馬子ハ、其子入鹿トトモニ暴惡長ジテ、一族ノコラズ滅亡ス、又厩戸皇子ハ、其子山シロノ王ノトキニ至リテ、入鹿ガタメニ亡サレテ、妻子一族二十五人皆死失セ給ヒキ、コノ兩人ハ日本ニシテ、佛法ヲ始メテ興リウセシ人ナルニ、三代ナラズシテ、其子孫ノコラズ忽ニ亡ビテ、其末長ク絕スルコト、不思議ナルコトナラズヤ、又敏達天皇ハサノミニ佛ニハ迷ヒタマハズトイヘドモ、カタク禁ジテ是ヲ絕サレザリシ故ニヤ、十四年ニ疫疾國ニ行ハレヌ、是ヲウラナヒシニ、國神ノ祟ナルヨシキコエケレバ、始メテ佛ヲ禁ゼラレシカドモ、ホドナク其年ノ八月帝崩ジタマヘリ、用明天皇モ佛法ニ心ヲヨセタマヒシガ、位ニ即キタマヒテ二年ニアタル其四月二日、磐余川ノ上ニ新嘗キコシメス、コノ日天皇病ヲ得テ遷入タマフ、群臣侍坐セリ、天皇群臣ニ詔シテ曰、朕三寶ニ歸セント欲ス、卿等コレヲ議セ、群臣センギシケルニ、物部守屋大連ト中臣勝海連ニ詔ニチガヒテ議リテ曰、何ゾ國神ニソムキテ他神ヲ敬シ、由來カクノゴトキ事ナシラズ、蘇我馬子宿禰大臣曰、詔ニ隨ヒテタスケ奉ルベシ、タレカ異ナル計ヲナサン、同九日天皇大殿ニ崩ジタマフ、コヽヲ以テ見レバ、コノ帝モ終リヲハヤクシタマフ、天武帝・聖武帝甚佛ヲコノミ、國ニ弘メタマヒシニ、皇胤マシマサズ、稱德帝ニテ絕ニタマヒヌ

廿二 西ノ東ハ東ノ西ナリ、北ノ南ハ南ノ北ナリ、上ノ下ハ下ノ上ナリ、天下國家人失ヘバ我得ル、我得レバ人失フ、先祖ノ草創スルハ吉也、子孫ノ失フハ凶ナリ、又其失フタルヲ得ルハ吉ナリ、吉凶悔吝ミナ其人ノ德不德・幸不幸ニアリテ、干支・方隅・鬼神・妖怪ノシル處ニアラズ、鴟梟ノ處ヲ替ルガ

ゴトク、其凶ミナ吾ニアリテ、他ニアラズ、然ルニ陰陽家色々サマ〲ノ吉凶ヲ云テ、人ヲ惑ハシ金錢ヲ貪ラントス、カヘス〲モ惑フコトナカルベシ、堺向泉寺ノ方違ノ札ヲミルニ、一本來無二東西一、迷故三千世界一ノ文也（東西ナケレバ讀ニ及バズ）ヨク云ヌケタリト云ベシ、然ルニ始ヨリ迷ハザレバ札ニ及バズ、コノ札ヲ以テソノ惑ヲトクト雖、覺ラズシテコレヲ受テ、安心スルコト愚ナル哉、其外モロ〲ノ鬼神符・御札ト云モノミナシカリ、マドフベカラズ

廿三　堯舜禹湯文武ハ、仁ヲ以テ天下ヲ得ルハ吉也、桀紂幽厲不仁ヲ以テ天下ヲ失フハ凶ナリ、漢唐宋明ニ至ルマデ、天下ヲ得ルモノハ吉ナリ、其子孫コレヲ失フモノハ凶ナリ、得ルモノハ吉、失フモノハ凶ニシテ、皆ソノ人ニアリ、ナンゾ天下ニアランヤ（伊尹桀ニ仕ヘテ用ラレズ、湯ニ仕ヘテ天下ヲ治ム、百里奚虞ニ仕ヘテ虞亡ビ、秦ニ仕ヘテ秦覇タリ、韓信楚ニ仕ヘテ用ラレズ、漢ニ仕ヘテ功ヲ立ツ、ソノ餘ハカルベカラズ、ミナコレソノ仕フル人ニ吉凶アルニアラズ、用ユル人ニ善惡アルナリ、スベテモノミナ我ニアリテ物ニアラズ、唯己ヲ正シクシテ物自ラ正キナリ、善人ヲ用ユルモノハミナ吉ナリ、惡人ヲ用ユルモノハミナ凶ナリ、シカレバ則物ニアラズ、己ニアルヲシルベシ）然ルニ此人ハ誰ニ仕ヘシ時ニ凶ナリ、コノ家ハ誰ガ住シ時凶ナリトイナム時ハ、コノ國ハ誰ノ持テ滅ビタルユヱニ凶ナリ、取ベカラズ、コノ天下ハ先代誰ガ失ヒタル天下ナレバ、取ベカラズトイハンヤ、人ノ失ヒシ金錢ハ凶也ト云テ取ラザルカヤ、此人ハ誰ニ仕ヘシ時用ヒザルノ故ニ凶ナリ、今ハ用ユル故ニ吉ナリ、コノ家ハ先主不仁驕奢ナリシユヱニ凶ナリ、今仁義ヲ以テシ節儉ナレバ吉ナリ、然レバ則チ只ソノ人々ニヨルノミ、人ト家ニアリテハ是ヲキラヒ、國家天下金錢ニアリテハコレヲトル、ナンゾソレ自由ナルヤ、今トル所ノ天下ハ、古ヨリダン〲人ノ失ヒ來リタル忌ハ

シキ天下ナリトテ、捨ル人ノアリシヲキカズ、當時諸侯ニ國替ヲ命ゼラレ、大夫ニ屋鋪替ヲ命ゼラルルニアタリテ、方角吉凶ヲ云コトヲ得ンヤ、却テ庶人ハ自由勝手ナル故ニ、方角吉凶ヲ云コトナリ、シカルニ寒濕風邪飲食ヨリ疾病ヲ受テモ、方角ノスルコトナリト云ハ、イカントモスベカラズ、年々歳々所ヲカヘテ然ルベシ、婚ヲ求ルニハ四惡十惡・男女相性又ハ三月七月ヲ忌テ、ツヒニ好仇ヲ失ヒアヤマルコト多シ、然ルニタマ〳〵病ヲ得テ陰陽家ニ問ヘバ、必其吉凶ヲ以テコレヲ答フ、ソノ病ノ由テ來ル處ノ因アルヲシラザルナリ、口ヲシキコトニアラズヤ、近來家相ト云テ、家宅ノ建カタ、間ドリヲ吟味シテ年々歳々ニ住居ヲカヘル人アリ、スベテ干支・方隅・日時ハ人アリテノチニ名ヅケタル目件ナリ（コノ數件ノ吉凶ニ惑ハサルヽ人ハ、天下ノ愚人ナリトスルニタラズ）年徳八將神ノ說ナドハ、媼婆ノ云コトニシテ、字ヲシル人ノ云コトニアラズ、マタ劒相トイフコトアリ、近年流行ス、ツヒニ先祖傳來ノ刀ヲウリ、性ニ合ヒタル刀ヲ求ムル人アリ、ミナコレ愚者ノスルコトナリ、義理ヲ辨ヘタル人ノスルコトニアラズ、人相ハ古キコトナリト雖古今ノ差アリ、ミナ同ジコトナリ、大テイ其人ヲシルハ人相ナリ、孔子ノ少正卯ヲ誅シ、孟子ノ盆正括ノコロサルヽヲシル、又孟子眸子ヲミルノ說アリ、孔子モスデニ澹臺滅明ニ失スルコトアリ、文覺カノ呂公ハ高祖ヲ相シテ、女呂后ヲ相スルコトアタハズ（呂后高祖貴グナルベキヲシリテ、女ヲアタヘ婚ヲナス、シカルニ吾女ノ後世宗ヲクツガヘスヲシラズ）文覺頼朝ヲ相シテ、六代ヲ相スルコト能ハズ、頼朝ノ起ルヲシリテ院宣ヲ取テアタヘシハ當レリ、六代ノ成ザルヲシラズシテ謀反ヲスヽメ、ツヒニ自ラ辱シメラル、前ニ失フモノハ未熟トモ云ベシ、後ニ失

フモノハイヨ〳〵實ニ失フモノナリ、コレ人相ト云モノニアラズ、高祖・賴朝ノ寬仁大度ナル、一度見テモソノ人ノ容貌、ソノ興ラントスルヲシルモノハ易シ、中人以上ノ人ハ大抵シル、モノナリ、又其中ニシラザルモノアリ、コレハ聖賢ナラデハ能ハザルナリ、ナンゾ五行・干支・眼鼻・顏面ノアヅカル處ニアランヤ、古ヘヨリ云フ三十二相ナンゾシラン、孔子ノ至聖ニシテ陽貨(虎カ)ニ似タリ、孔子スデニ禹ニルイス、陽貨コノ二聖ニ似テ不仁ノ人ナリ、コレヲ以テヨク〳〵辨ズベシ、得ル處アラン

廿四　天狗ノ說ヨツテ來ルコト久シ、天竺ノ日良、漢土ノ善界、日本ノ太郎坊ノルイナリ、大魔王ニシテ天下ノ亂ルヽヲ歡ビ、治ルヲ厭ト云、ミナ怪談者ノ言ニシテ取ニ足ラズ、鎌倉ノ時ハ天狗ハヤリ、高時滅ブマヘニ田樂法師ヲ招キ舞セシニ、ミナ天狗トナリテ、高時モ共ニ踊リシト云コトアリ、天狗ノコトハスベテナキコトナリ、今畫ク姿ハ古法眼元信ノカキ初シト云說アリ、然レバ新シキコトナリ、又鬼ト云コトアリ、コレハ中世藤家繁昌ノ時大ニハヤル、藤原ノ千方鬼ヲツカヒ、坂上將軍鈴鹿山ノ鬼ヲ征シ、平ノ惟茂戶隱山ノ鬼ヲ伐シ類ハ、ミナ正史ニアルコトナシ、虛誕ナリ、源ノ賴光大江山ノ鬼ヲ伐シハ盜賊ナリ、今昔物語・宇治拾遺ソノ外コノ比ノ書ニ多ク出テ、ミナハヤリモノナリ、鬼ト云コト人ノ云フラスニツキテ、人恐ルヽヲ幸ニシテ、盜賊ドモ鬼ト云テ、財ヲ貪リ婦女ヲ掠メシナリ、日本ノ中興ヨリ鬼ノ妄說アリ、次ニ天狗ノ說アリ、狐アリ、ミナ時代ノハヤリモノナリ、人ノ恐ルヽニヨリテ、愚者是ニ迷フ也、世界ナンゾカヽル怪異ノコトアラン

廿五　今世怪異ヲ言事、鬼ノコトハハヤクヤミテ、天狗ノツカムト云コトハマヽアレドモ少シ、其外ハ狐狸ナリ、狐ヲ以テ最モ甚シトス、此獸物ヲ疑フ性ナルユヱニ、常ニソノ風怪シ、ソノ上闇夜ニ光アリテ、遠キヨリミレバ火ノ如シ、ヨク人ノ爲スコトヲ眞似ビテ、トキ〴〵コレヲナス、墓地ノ狐ハ葬禮ヲマネビ、寺社ノ狐ハ祭祀ヲマネブノ類ナリ、今ハ狐ノ怪ヲ云ンガ爲ニ、ヨク物言ヒ、文字ヲカキ、書ヲヨミ、醫療ヲナシ、吉凶ヲ示シ、ヨク人ニ化シテ人ヲ蠱惑スト云、殊ニシラズ手習セザレバ、文字書ベカラズ、讀ベカラズ、醫ヲ學バズ、易ヲ學バズ、アニ獸トシテ人ノ姿トナランヤ、ミナ虛說空談ナリ、猩々鸚鵡秦吉了（キウクワン）ノルイミナヨク言ト雖、自カラ言コトアタハズ、イツニテモ人ノ迹ニテ、ソノコトヲマネルナリ、又人ニ憑ルコトナシ、狐ツキト云モノハ、皆狂病也、又似セモノナリ、狐ハ樹上屋上ニ登リ、鼠ヲトリ小石ヲ打チ、又ヨク物ヲ疑ヒ、人眞似ヲス、コノ外ニ藝ナシ、ツネニ狐ノ妖怪ヲ云ハ、ミナ虛誕ナリ、鳥羽ノ院ノ上ワラハ玉藻前ノコト、元ヨリ虛怪ナリ、ナキコトナリ、土御門家譜ニ泰成ト云人無シ、殺生石ハ砒石ノルイナラン、狐ノ石トナルコトハ、猶サラナシ、サスレバ玄應（因幡ノ國ニ玄應ノ寺アリ）ト云僧モツクリモノ也、盛長實記ト云虛書ニ、賴朝犬追物ヲ興行セントス、三浦ノ二郞ヲ召テ故實ヲ問フ、ソノ父三浦ノ大助長壽ノ人ナリ、那須野ニ向フ時、供シタル老黨一二人、今ニ存命セリトテ召テ問フ、鳥羽帝ヨリ此時マデ七十年故ニカク云ナリ、狐ヲ狩ル稽古ニ犬ヲ射タリトテ、故實モイラズ、ミナ妄誕ナリ、狐ノ人ヲバカスモノナラバ、何ゾ犬ヲモバカサヾル、人ヨリ犬ハ

愚ナリ、シカレバ猶ヨク惑フベキニ、犬ノ中間ニ狐ノ妖怪ヲ云モノナキユヱニ、バカサレザルナリ、人間ハ色々妖怪ノ說ヲ云フラシテ、今ノ人ハミナ狐ハヨクバカスモノト心得居ル故、狂病ハミナ狐ツキトスルナリ、本艸ニ時珍ノ曰、「狐性疑、許愼云妖怪所レ乘也、」云々、或云、「狐至ニ百歲一、禮ニ北斗一而變化、爲ニ男女淫婦一以惑レ人」云々、山海經曰、「靑丘之山有レ獸、其形如レ狐而九尾、其聲如ニ嬰兒一、能食レ人」云々、殷ノ妲己ノ說モコノ論ニ出、皆妄說也、禮記云、狐死ニ首丘一仁也、」コレ正說ナリ、和漢トモニ古ヘ狐ノ妖怪ヲ云ハズ、本草ノコトソノ外ノ引書、ミナ怪誕ノ書ナリ、證トスベカラズ、擧世妖怪ヲ云ハ近世ノコトナリ、後世妖怪アラバ、古ヘモ有ベシ、狐ニカハルコトナシ、古今盛衰アランヤ、世人ノ狐ヲ議ス、ソノ神怪至ラザル處ナシ、ナンゾ狐ノ獸タル、カヽルコトアランヤ、人ト雖生レナガラノ聾ハ必啞ナリ、コレ舌ノ廻ラザルニアラズ、耳聞エザル故ニ、言ベキスベヲシラザル也、耳聞ユレバ父ト云母ト云フ、ソレヨリダン〳〵云ナラヒ、東西南北一二三四ニ至ル、耳聞エザレバ、其父母タルコトハシレドモ、チヽハヽト云名ヲシラザレバ云コトアタハズ、只アヽ〳〵ト云ノミ、耳ダニキコユレバ、サトキ小兒ホド早ク覺エテ早クモノ云、鈍キ小兒ハオソクオボエテオソク云、譬ヘバ手習セザレバ物書クコトヲシラズ、文字ヲヨムコトヲシラザルガゴトシ、是舌ノ廻ラザルニアラズ、耳ニ聞カザル故ニ名ヲシラザルナリ、人ニハ智アリテ、名ヲ覺ユレバ口ニテ云覺エザレバ云コトヲ得ズ、初生ヨリキコエザレバ、智アリトモ耳ニ聞カザレバ、知ルコトアタハズ、聖賢ノ智ト雖初見ノ人ニア

ヒテソノ名ヲシランヤ、遠國ノ器ヲ見、遠界ノ禽獸珍怪ヲ見テモ、名ヲ知ラザレバ、何タルト云コトアタハズ、コレヲ以テ見ベシ、中年ノ聾ハ啞ニアラズ、ヨク言コトハ、コレ迄前ニ聞覺エタルユヱナリ、然レドモ耳シヒテノチノコトハシルコトアタハズ、サレドモ是モ亦書ヲミレバ、聾ノ後ニ人ノ名モ呼ベシ、書ヲシラザレバ、聾ノ後ニ見タル物ノ名ハ知ルコトアタハザル也、又中年初生ト雖啞ハ聾ニアラズ、コレハ舌ノ廻ラザルナリ、鸚鵡・秦吾了ハ鳥ノ中ノ智アルモノニテ、舌ノマハルモノナリ、ユヱニ聞バ直ニ云也、シカレドモ卽智ノミニテ、覺エルコトナシ、ユヱニ度々聞ト云ドモ、時ヲ經テハ云コトアタハズ、只ソノ時ノ口眞似ニ限ル、狐猿ハ獸中ノ智アルモノナリ、然ドモ猿ノ智ハ卽智ニシテ迹ナシ、ユヱニ猿智惠ト云、狐ハ疑フ故ニ狐疑ト云、狸モ又少ク智アリテ戯ヲナスノミ、獺ハ水獸ニシテ陸ニ上リタル時、人ヲ見レバ驚キテ水ニ飛入テ、人却テ是ヲ怪トス、封（カハタロ）（又河童山童アリ）ノルイアレドモ、皆怪ナルコトナシ、只食ヲ求ルト、自カラ人ヲ恐レテアワタヾシキヨリシテ、怪シク人ニ思ハルルナリ、鼠ノ食ヲヌスミ、箱ヲカヂリ飯櫃ニ疵ヲ付ルコトハ常ナリ、故ニ人是ヲ怪シマズ、狸ノ食ヲ求メ、飯櫃ヲアケルコトハ怪ナレバ、人怪トスルナリ、狐ノコトハ上ニモ云如ク、人ノ眞似ヲシ石ヲ打チ屋ニ登ルユヱニ、ツヒニ人ニ變化スト云出シ、又近世ハハカラズモサマ〳〵ノ怪說ヲ云テ、人常ニコレヲ怪シムユヱニ、シヒテソレトスルナリ、狐ノ人ニツキヨルコトハ無シ、是アリト思フハ却テ人ノ疑惑ナリ、人ハ萬物ノ靈ナレドモ、學バザレバシルコトアタハズ、聞ザレバ云コトアタハズ、習

ザレバ、書クコトアタハズ、醫ヲ學バズシテ病ヲ治スルコトアタハズ、取ラズシテ與フルコト能ハズ、禍福ナンゾシラン、吉凶ナンゾ辨ヘン、隣家ノコトシルベカラズ、筐中ノ物サスベカラズ、昨日ノコトハスデニシル、明日ノコトハシラザルナリ、去年ノコトハスデニシル來年ノコトハシルベカラズ、人ノ智ニテカクノゴトシ、狐狸ナンゾ知ラン、云コトアタハズ、カクコトアタハズ、ヨムコトアタハズ、病ヲ治スルコトアタハズ、取捨・與奪・吉凶・禍福・狐狸ナンゾコレヲシラン（由井正雪ガ作レル平家物語評判ニ、狐狸ノ妖怪ノナキコトナクハシク辨ズルハ、實ニアタレリ、新井氏ニ勝ルコト遠シ、シカレドモコレヲ辨ゼズシテ、佛ヲタツトブコトハ、五十歩ヲ以テ百歩ヲ笑フナリ）尾ヲ以テ戶ヲ叩クハ人眞似ナリ、人ヲオドスノ心ナシトイヘドモ、人愚ニシテ恐ル、ナリ、カクノゴトクナレドモ、人タヾコレヲアヤシミテ自ラ恐ル、狐狸ノシラザルコトナリ、カヘス〲モ萬物ノ靈トシテ、禽獸ノ爲ニアヤマラル、コトナカレ、スベテ萬物ニ名ヲツケテヨブモノハ人ナリ、シカレドモ萬國各々其名ヲ異ニス、ソノ外禽獸ハ物ノ名モシラズ、知モナケレバ、此物ハ何ナリト云コトアタハズ、ユヱニ鳥ハカア〲、鳶ハヒイヒヨロヨロ、犬ハワン〲、鼠ハチウ〲、雀ハチウ〲、狐ハコン〲、猿ハキツキ、猫ハニヤン〲ノミ（萬國管見ニ云、狐ハ「チランダ」ヨンデ「ホス」ト云、狐ヲトラヘ、狐ナイルノコト諸書ニ詳ナリト雖モ、一言人ヲタブラカシ、妖怪ヲナスコトヲイハズ、彼狐ハ他獸ニコトナラズ、今日本ヘ來ルノ紅夷ハ狐ノ怪ヲイハズ、狐アラザルノ國ナシ、アニ日本ノ狐ノミ怪ヲナサンヤ）

廿六　或人程子ニ問テ云、公モ又術アリヤ、答テ曰、吾飢レバ食ヒ、渴スレバ飲ミ、夏ハ葛シ、寒ハ裘ス、其外ニ術ナシト、又仙術ヲ問フ、答テ曰、養生ヲヨクシテ氣ヲ養ハヾ、百歳ノ壽ハウルコトアラン、五百年千年ノ壽ヲウルコトハナシ、又白日ニ飛行シ、或ハ隱見スルコトナシ、タトヘバ爐中ノ火

ノ如シ、ヨク貯レバ一晝夜タモツベシ、顯ハシオケバ二三刻ニ消ルガ如シト云、コレヲ以テシルベシ、大抵人間ニ定マリタル外ハナキ也、八九十百歳ニ及ブ人ハ、爐中ノ火ヲヨク貯ヘタルガゴトシ、四五十歳ニテ死スル人ハ、アラハシ置ガ如シ、幼少ニテ死シ、二三十歳ニテ死スル人ハ、惡炭ケシ炭ノ火ノ如シ、然レバ古ヘヨリ傳ル處ノ仙術ト云コトアルコトナキヲシルベシ、我邦ノ人主空海・行基・最澄ナドノ佛毒ニ中ラル丶、君ハ多ケレドモ、仙術沙汰ナキハ幸ナリ、漢土ニテハ秦始・漢武ヲ始メ仙術ヲ求ムル君多クシテ、徐福・新垣平等ノ仙毒ニアテラル、凡天下ニ君タル人、一言ニテ邦ヲ興ス德アル人ノ外ハ自ラ給シテ、天下國家ノコトハ忘レテ、我ニ違フ人ノナキヲ幸トシテ、驕奢淫亂ヲ恣ニシテ、足ザルコトナキノ上ハ失ンコトヲ憂ヘテ、ツヒニ仙術ノ怪說ニ陷リ、一日ニテモ長生シテ此ノ樂ヲ失ハジトス、此仙術ニ惑ノノ本ナリ、齊ノ景公ノ長生シテ、長ク齊ニ君タルヲ欲スト云ヲ、晏子ノ答ニ、君長壽シテ居タラバ、子孫ハイカヾアラント云ガ如シ、イカサマ君二百歳ノ壽ヲタモツ時ハ、ソノ太子百七八十歳ニシテ、孫百四五十歳、曾孫玄孫並ニ百歳餘、四五六七世ノ子孫ガダン〳〵ニ並ビテ存スル時ハ、イカラントモスベカラズ、大テイ七八十歳ヲ限リナルコトコソ、天下ノ中ヲ得ルト云ベシ、サテマタ仙ヲ學ビタリトモ、長壽ナラザルコトハシレタルコトナレドモ、是亦佛ヲ學ビテ後世安樂ヲ得ント欲スルモノト一般也、此世ニテ長ク樂ムコト叶ハザレバ、アノ世ニテ樂ミタキト思フモ、又失フコトヲ愁フルノ類ニテ、ソノ本ハ智ノアル人ハ理內ニ求メ、愚ナル人ハ理外ニ求ム、理ノ外ニ得ント欲ストモ、

得べキノ理ナシ、天地ハ陰陽ノ不測ヲ以テ萬物ヲ生ズ、其中ニ人ヲ第一トス、故ニ人萬物ノ中ノ主トシテ、萬物ヲコレガ用トス、人ノ爲ニ萬物ヲ生ズルニアラズ、萬物ヲ帥ルナリ、シカレバシヒテ是ヲ我用ナリトテ貪ボルベカラズ、皆同類ナリ、只コレガ主宰タルノミ、只是陰陽ノ氣ヲ以テ、カク五體ヲ受タルナリ、何トモ思ハズニスゴセバ、スムベキナレドモ、天地ノ道理ヲ以テ萬物ヲ生ジ、ソノ萬物中ニ父母アリテ我ヲ生ム、我モ亦子ヲ生ムコトナルニ、胎ヲ受テヨリ十月ノ間、五體ソナハリテ人トナルコト、イカサマニモ思ヘバ妙ナルモノニアラズヤ、然ルニ人ノミニアラズ、禽獸魚蟲ミナシカリ、生ル、ヨリシテ口ニ食ヒテ、體中ニテ循環シテ、ツヒニソノ糟兩便トナリテ去ル、コレヲ以テソレソレノ一生ヲ遂グルコト、奇ト云ベシ妙ト云ベシ、シカルニ此コト神アリテスルニアラズ、人ノ命ニテスルニアラズ、天地自然ノ理ナルノミ、考テミレバ異類異形ノ物モ生ルベキニ、人ハ人ヲ生ミ、犬ハ犬ヲ生ミ、馬ハ馬ヲ生ミテ、狐ガ狸ヲ生マズ、鳩ガ雀モ生マズ、梅ノ木ニ牡丹モ咲カネバ、瓜ノ蔓ニ茄子モ出來ズ、奇妙ナルヤウナレドモ、ミナ一定理アリテ、ソノ中ニ存スルコト亦奇ナラズヤ、シカレバ則此アラユル道理ノ外ニ、アニ神アランヤ、アニ佛アランヤ、只コノ陰陽ノ德ヲ以テ萬物ヲ生ジ、奇々妙々ナルヤウニシテ、又奇々妙々ナラズ、亦不思議ナルヤウニテ不思議ニアラズ、自然ノ道理ソナハリテ、生ヲ遂ル處ヲサシテ、聖人コレヲ神ト名ヅク、コノ神ノ外ニ神ナシ、人ノ死シタルヲ鬼トナヅク、是又死シタル後ハ性根ナシ、心志ナシ、コノ鬼ノ外ニ鬼ナシ、ミナコレコノ理ナリ、コ

ノ外ニ何ヲカ求ム、何ヲカ穿タン、凡ソ人ハコレヲシラズシテ神仙佛ノ説ニ惑ヒ、聖賢ハコレヲ知リテ惑フコトナク、釋迦耶蘇ハコノ理ヲシリテマタコレヲ用ヒ、人ヲ善ニ導ビカントス、ソレヨリ後ノ和漢ニ佛ヲ興隆スル、ソノ徒ノ名僧智識ト稱シ、又菩薩大師ノ號ヲ受ルモノハミナコノ理ヲヨクシリナガラ、時主ノ昏暗ニ付入テ、コレヲ以テ我ノ利ヲ貪ラントス、後世ノ巫祝寺僧ハミナヨクコレヲシリナガラ、我ノ口ニ糊センガタメニ、ツマラヌ業トハシリナガラ、止レバ飢ルガ悲シサニ、ウシナフコトヲ愁ヘテ、ソノマヽニ勤ムルモノナリ、中ニモ慳貪ニシテ利欲ヲ恣ニシ、又愚民ヲ煽惑シテ寺社ヲ建立セントスルモノハ、憎ムベキ哉、コレヲ以テヨク〱ワキマヘテ、神ノ理ヲシリテノチ、我ガ先祖ノ鬼ハ我ノ此ノ後ヲ念フ心ト同理ナレバ、セメテハコレヲ追ヒ、祭リテ在ガゴトクスベキコトナリト、ヨク〱辨知シテマツル時ハ崇敬シ、常ハ遠ケテ日業ヲ勤ルコト肝要ナラン、我子孫タルモノコレヲヨク守ルベシ、コレ吾輩ノ祭ル鬼ナリ、ソノ外ニ祭ルベキ鬼神ト云モノ一ツモナシ、決シテ祭ルコトナカレ

廿七 漢土上古ノ鬼神ヲ祭祀スルハ、ミナ尸ヲ立テコレヲ饗ス、天子ハ三牲ヲ用ヒ、諸侯ハ牛、大夫ハ羊、ソノ外サマ〲ノ盛饌酒肉ヲ供フコトニシテ、王公ハミナ樂ヲ奏ス、コレラノコトハ四書・五經ニ委シク求ムベシ、禮記ニハ、尚更ニ精シクシルスナリ、秦・漢以后ハ尸ノコトヲキカズ、神主ヲ用ユ、カノ冬至ニハ初祖ヲ祭リ、春ハ禘シ、夏ハ礿シ、秋ハ郊シ、冬ハ嘗ス、ソノ外元日佳節ヨリ忌日ニ

至ルマデ、ソレ〲ノ祭祀アリ、我邦ハ神代ノ遺風ヨリシテ、神ヲ祭ルコト甚ダ勤ム（昔ヨリ王命ヲ以テ祭ル、大嘗・新嘗・相嘗・臨時・四時・月並等アリ）シカルニ佛法渡リテ後ハ、樂ヲ奏スルコト少シ、神樂催馬樂ノルイノミ、天王寺・住吉ニ限リテ、古樂ヲツタヘテコレヲ奏ス（天王寺・住吉ノ樂ハ和風ニアラズ、漢ヨリツタヘテ、マヅハ佛ニ屬シタルモノナリ）ソノ外ハミナ古風古禮アルコトナクシテ、只神佛ノ前殿ニオイテ佛經ヲヨムコトナリ、今經ヲヨマズシテ神樂祝詞ノミナル神社ハ天下ニ鮮シ、又肉饌ヲ用ユル神社モ亦稀ナリ、且王公大夫トイヘドモ、祖先ヲ祭ルハミナ佛經ノミ、而シテミナ葷肉ヲ供セズ、又忌日ノ祭祀ノミニシテ、吉祭アルコトナシ、忌日ハ祭ニアラズ、四時臨時ノ祭ハ吉祭ニシテ、我身モ又齋戒ハスレドモ、憂悲ノコトナシ、忌日ハ終身ノ喪ニシテ、我ヲ愼ムノ日ナリ、シカルニ近世神社ニハ吉祭アレドモ、王侯始メ先祖ヲ祭ルハ忌日ノミニシテ、葷肉ヲ用ヒズ、樂ヲ奏セズ、只佛經ヲヨムノミ、古今祭法ノ變化シタルコト、言語ニモノベガタシ、シカルニ祭ヲウクル鬼神ノ性情ニオケル、ナンゾ古今ノカハリアラン、今ソレ祭ル〲ト心得テ祭リヲスルハ、古ノ忌日ノミニテ、コレハ祭ニアラズ、然レバ則チ祭ラザルガ如シト云ベシ、ヨク思ヒ辨フベシ、スデニ祭ルコト在ガ如シト云、生タル人ノ前ニテ數多ノ僧ドモ汗水ニナリテ經ヲヨムトモ、ヲカシクモ面白クモ有マジキナリ、打ハヤシ舞ヒテ神ヲ慰シテコソ祭ト云ベケレ、サテ經終レバ、盛饌ヲソナヘ賓客ヲ饗シテ、鬼神ヲカヘリミテ敬スルノ心ナシ、忌日ノ祭ト號シテ數日催シ、馳走シテ賓客ヲ饗スコトニテ、鬼神ヲ饗スニハ非ザルナリ、カクノ如クシテ主人ハ祭リヲヨク致シタリト思ヒ、他人モ致シタリト思

フ、他人ヨリモ孝子ナリトスレドモ、鬼神ニオイテイカニ受ンヤ、古ヘハ葷肉盛饌ヲソナヘテ、樂ヲ奏シテ祭ヲイタシ、今ハ佛經ヲヨミ、野菜一飯ヲソナヘテ祭ル、カク古今變ジテモ、祭ラザル如クナレドモ、鬼ノ厲モナシ、歸スル處ナケレドモ、何ゴトモナシ、コレ天下古今鬼神無キヲ見ル、ヨク〳〵思唯工夫シテ、鬼神妖怪ノ説ニ惑フコトナカレ漢上古ヘノ忌日ト云ハ、六十日ニ巡ルナリ、今日本ノ忌日ト云ハ、肉ヲ食セザルノミニテ、三年七年十三年十七年二十五年三十三年、五十年ヨリ、百年々々ニ遠回トシテ忌日ニ祭ルトイヘドモ、神ニハ疏膳ヲソナヘテ、僧ヲシテ經ヲヨマシムルノミ、ソノ次ハ賓客ヲマネキ、盛饌ヲソナヘテモテナスコトニテ、神ヲ祭ルニハアラズ、僧ヲ祭ルナリ、賓客ヲ祭ルナリ、甚シキハ一向宗ノゴトキ、阿彌陀佛ニ唯一飯ヲ供スルノミ、カクノ如キコトヲシテ祖先ヲ祭リタリト安心スルコト、何ノイヒゾヤ、コレハ祭リタルニハアラザルナリ、今ノ祭ハ祭ラザルガ如シ、コレヲ以テ考フベシ、賓客ニ盛饌ヲ設ク、鬼神ニオイテ何ノ益ゾヤ、祭禮ヲスル人ノヤウスヲミルニ、何日ニハ佛事アリト云テ、鬼神ニソナフルモノハワヅカノ事ニテ、両五日イトナミテ、ソノスル所ハミナ賓客ノソナヘノミ、衆人ヲ饗應シテ神ヲマツリタリトシテ、孝道タレリトス、アヽ何ヲスルヤ、コレ鬼神ナキヲシルベシ、アラバナンゾコレヲ受ケン、古人祭ヲナス散齋七日、致齋三日、精進潔齋淨衣シテ神ヲ祭ル、孔子曰、「吾不レ與レ祭、如レ不レ祭」ト、シカルニ今ノ神ヲ祭ルニ精進スルノミ、齋戒沐浴ノコトモシラズ、祭ニノゾムマデ平生ノ如シ、何ゾ神コレヲウケン、イハンヤ人ヲシテ祭ラシムルヲヤ

廿八　或人云、女鬼神アルコトナシト云、然ルニ聖賢鬼神ヲ敬シテ教ヲ立、又本朝ノ風俗、古ヘヨリ神ヲ祭ルコトニ於テハ、怠懈アルコトナシ、然ルニ今鬼神無シト言ハ、我國家ノ法ヲヤブリ、聖賢ノ教ヲ立ルノ仁ニ背キテ、民ヲシテ恐ル處ナクシテ忠孝ヲ廢シ、亂臣賊子ヲシテ神罰佛罰無シトシ、不義ヲ恣ニセシメン如何ト、予答曰、二程全書、「或曰釋氏地獄之類、皆是爲二下根人一、設二此教一令レ爲レ善、明道先生曰、至誠貫二天地一人尚有レ不レ化、豈有二僞教而人可レ化乎」ト、コレヲ以テミルベシ、コノ語佛ノ爲ニ答フトイヘドモ、鬼神ニオケルモ、又同ジキナリ、無鬼ト言バ眞ナリ、有鬼ト云バ僞ナリ、豈人化センヤ、儒ヲ學ブモノ佛經ヲ排シテ鬼神ト云時ハ、イハユル五十歩ヲ以テ百歩ヲ笑フモノナリ、

本コレ鬼神アリトシタル俗ユヱニ、佛ノ云鬼神モ有トシテ惑フナリ、然バ則チ鬼神アリトスルモノハ五十歩ナリ、スデニ五十歩ヲ行キテ、ツヒニ百歩ニ至リテ佛ヲ信ズルモノナリ、日本ノ神モ同ジコトナリ、スデニ此俗アルユヱニ、神ト云佛ト云テ、名ヲ差ヒテ同ジク歸スルモノナリ、其處ヘ附込テ佛神習合混淆セシムルモノニシテ、ソレヨリ今ニ至リ、天下騷々然トシテ一ニ歸スルコトナシ、只コレ神モ佛モナク祠モ寺モナクバ、上下ソノ長ヲ長トシ、其親ヲ親トシテ、天下平カニナリ、恥有テ且格ルベシ、今ノ如ク混亂皈スベキ處ナキ故ニ、民免レテ恥ルコトナキニ至ルナリ、況ヤ孔孟ツヒニ鬼神アリト云ハザルヲヤ、ソレヲ以テ思ヒ合スベシ、家語ノ文ハ後世ノ僞作、必ズ迷フコトナカレ、眞文忠公曰、「天道至仁、必無二慘刻之刑一、神理至公、必無二賄賂之獄一」云云、鬼神ニ迷フ人、此語ヲ以テ考フベシ（百濟ヨリ佛ノ渡リシトキニ地獄極樂ノ沙汰ナシ、唯ソノ願望情ニヨルトイヘドモ、現世ノ利徳ノミ、然バ則チ日本ノ神ニイノルトカハルコトナシ、ユヱニ守屋ノ云、異域ノ神ヲ祭ラバ、我ハ百萬ノ神コレヲ怒ラント、佛ト云ハズシテ神ト云、然レバ日本ノ神トカハリタルコトナキナリ、空海・小角・傳教ト云ドモ現世ノ事ナリ、後世ノヿヲ云ハ、源信・源空・親鸞ヲ最トス、現世トモニ非ナリ、一ツトシテ世ノ爲人ノ爲ニナルコトナシ、只世ノ爲人ノ爲ニヨキモノハ、我聖賢ノ教ノミナリ）

廿九　又云、僞詐ヲ以テ敎ユベカラザルハ汝ノ言ノ如シ、然ドモ其身モ又此言ヲ發スレバ、吾皇祖ヲ輕侮シ、先祖ヲ疎ニスルニハアラズヤ、カヽル時ハ忠孝ノ道立ズシテ、不敬是ヨリ大キナルハナカルベシ、答曰、予ガ神靈無シト云モノハ、不敬ニ似テ實ハ敬スルナリ、只コノ鬼神アリト云人ヲ見ルニ、ミナ求ムルコトアリテ阿諛スルニテ、敬ニ似テ實ハ不敬ナリ、大抵思フベシ、本朝古ヘヨリ祭リ來ル處ノ諸神ハ皇祖或大臣、ミナ存生ニテマシ〳〵ナバ、卑賤ノ庶人トシテ近ヅクベキコトニアラズ、一

二ヲ以テ云ハゞ八幡宮ハ天子ナリ、天滿宮ハ三公ナリ、然ルヲタトヒ神靈ナク性根ナキ木像畫像ナリトモ疾病ヲ加持シ福壽ヲ祈リ、サマ〴〵ノ願望ヲアツラヘ、ツヒニハ淫亂ノ媒マデモ願ヒ望ミ、灯ヲカヽゲ膳ヲスヱ、祠ヲ修シ諸器ヲ獻ジ、利ヲ以テ己ガ情欲ヲカナヘントス、不敬コレヨリ大ナルハナシ、天子三公ノ御方存生ノウチハ、拜謁スルコトモ叶フマジキニ、ツヒニハ汚穢シタル我茅屋ニ請ジ、我先祖ト同ジクコレヲ祭ル、アヽコレ何ノ心ゾヤ、今庶人ノ茅屋ニ、豈鎗一本ノ主人タル人ニテモ臨ムベケンヤ、（經ニ云、死ニ事フル生ニ事フルガ如シ、イマダ生ニ事フルコトアタハズ、イヅクンゾヨク鬼ニ事ヘン、今貴人ヲ拜謁ス、カナラズ衣冠ヲ正シテ、ツヽシミテコレヲ見ル、ソノ心戰慄鞠躬ス、シカルニ王公ヲ祭ル廟前ニ詣スルニ、略衣ニシテ一錢ヲ投ジコレヲ拜ス、ソノ心驕奢惰慢ニシテ美人傍ニ至レバ止メテコレヲ見ル、甚シキハ願望アリトシテ、裸體ニシテ詣スルモノアリ、コレヲ以テソノ敬不敬、實不實ヲ見ルベシ）天子三公タル御方、何ゾ存生ニコレニノゾミ玉ハンヤ、始ヨリ神慮ニ合ハザルコトハ顯然タルコトナリ、又コノ顯貴ノ御方ニ存生ニテ在ス時、疾病・災難・富貴・利達・男女ノ媒マデヲ願ヒナバ、何トカ怒リ玉フベシ、然レバ則チ始ヨリシテ不敬ノ至リ、吾身ノ程ヲシラザルコト、又顯然タラズヤ、又吾無鬼ト云所ノ者ハ、實ハ正直アリテイノ言ニシテ、ソノ神靈ノナキコトハ、コノ上下ノ說ニテシルベキナリ、然バ則チソノ神ヲシテ存生ノ時ノ如ク、天子ハ天子、三公ハ三公、北辰ハ北辰、釋迦ハ釋迦トシテ祭ルベキ神々ニアラザレバ、敬シテ遠ザクノミ、諺ニ曰、サハラヌ神ニタヽリナシト、天子三公ニ何ホドノ大事アリトモ、我々式ノ者心ハ矢猛ニハヤレドモ、其位ニ非ザレバ是ヲイカントカスベキ、又是ヲ歡ニアラズ、只御氣ノ毒ト云ノミナリ、コレヲ不敬トセンヤ、實ハ敬シテ遠ザクルニアラズヤ、然ルヲシヒテ闕ニ至リ病

ヲ問ヒ、宮殿ニ入ラントセバ、不敬ナリトテ罪セラルベシ、シカル時ハ敬スルニ似テ、實ハ不敬ニオツベキナリ、天照大神ヲ日輪トシテコレヲ敬ス、天上天下アニ日輪ヨリ貴キモノアランヤ、コレ尊敬ノ至リナリ、女體トシ泰伯トス、コレ賤シムニアラズシテ何ゾヤ、カノ日輪トスルモノト同日ノ論ニ非ザルナリ、然バ則カノ有鬼ト云、鬼神ヲ輕侮スルヲ見ル、其ノ無鬼ト云鬼神ヲ崇敬スルヲ見ル、天下ノ民タルモノ、何ゾ天日ヲ敬セザルベキ、又何ゾコレニ近ヅキナレンヤ、富貴ナンゾ求ムベキ、災害ナンゾハラフベキ、北辰ハ星中ノ最タリ、然ルニ今是ヲ妙見宮ト云テ、目ニ見ルホドノ小星ト思フヤ、此星ノ大キナル、地球ニクラブレバ幾百双倍、アニ此地ニ下ルコトノアランヤ、諺ニ云、鐘ニ提灯カ、楊枝ニ大佛柱、蟷螂ノ龍車、灯心ノ藪ノ根ト雖、カクノ如ク懸隔セザルナリ、ソノ大ナルソノ德アル、ナンゾ日本ニ來リテ、一人二人ノ願望ヲカナヘンヤ、シカレバ則チ日ヲ日トシ、星ヲ星トシ、神ヲ神トシ、佛ヲ佛トシ、君ヲ君トシ、父ヲ父トシ、母ヲ母トシ、兄弟・夫婦・長幼・朋友・皆是ヲ兄弟・夫婦・長幼・朋友トシ、遠ザクベキハ遠ザケ、近ヅクベキハ近ヅクベシ、敬スベクハ敬シ、愛スベクハ愛ス、コノ外ニ何ノ祭祀ノ道カアラン、父母・先祖ノ恩ハ報ジ盡スベカラズ、故ニ存スレバ孝養シ、死スレバ哀惜シ、祭レバ尊敬スル、ソノ外恩アル鬼神ミナシカリ、只コレソノ恩ヲ思慕シテ祭ルノミ、鬼神ノ有無ニカヽハラザルナリ、富貴祈ラザルナリ、災害ハラハザルナリ、又何ヲカ求ムベキ、コレコレヲ無鬼ノ理ヲ知リテ、鬼神ヲヨク敬スルト云ナリ、タトヘバ君ニ事フルニ難ヲ責メ非ヲ格シ、堯舜ノ道

ニアラザレバ、君前ニ說ズ、コレ君ヲ敬スルノ實ナリ、惡ヲ逢カヘ祥瑞ヲ稱シ、痔ヲネブリ癰ヲ吸フコレ君ヲ侮ルノ實ナリ、君ニ爭フハソノ敬ヲ見ル、君ニ阿ルハソノ不敬ヲミル、君ニ仕フル臣アリ、心ニ思フハ、吾君ハ堯舜文武ノゴトキ聖君ナリ、ユヱニ賢臣ノ聖君ニ事フル如ク道ヲ行フ、吾君ヲアシロフニ堯舜文武ヲ以テス、アニ敬スルニアラズヤ、又君ニ仕フル臣アリ心ニ思フハ、吾君ハ桀紂幽厲ノゴトキ君ナリト、ユヱニ佞臣ノ暗君ニ事フルゴトク不道ヲ行フ、吾君ヲアシロフニ桀紂幽厲ヲ以テス、アニ君ヲアナドルニアラズヤ、神ニ事フル亦カクノゴトシ、齊明盛服シ、敬ミテ其祭ルベキ神ヲ祭リ、其餘ヲ遠クヲ敬トスベシ、祖裼裸裎シテ、ミダリニ其祭ルマジキ神ヲ祭リテ、無量ノ願望ヲ遂ントス、不敬トスベシ神ヲ遠ザクヲ敬トスベシ、神ヲ近ヅクヲ不敬トスベシ、コレヲ以テ是ヲ見レバ、有鬼ト云ハ不敬ナリ、無鬼ト云ハ敬ナリ、コレ鬼神ニ事ルノ大要トス、今鬼神ヲ信ズル人ヲ見ルニ、ソノ敬スルコト父母ノ如シ、ソノ侮ルコト朋友ノ如シ、不敬コレヨリ大イナルコトナシ、故ニ思フニ鬼神ヲ遠ザケ神靈ナシト云フモノハ、實ハ鬼神ヲ敬スルナリ、シカモ甚シキモノナリ、何レニシテモ神靈無ト云ニ歸スベシ、今有ト云フ人ノ神ヲ祭ルヲ見ルニ願望アレバ其時ニ限リ、百味飲食ヲソナフ、ソノ餘ハ祠中ニ立コメテ、寒暖・飢渇ヲ問コトナシ、實ニ靈アリテ飲食ヲ欲スルモノナラバ、存命ノ通リニ日ニ三哺ノ食ヲ饌フベシ、或ハ饌シ或ハ饌セズ、或ハ祭リ或ハ祭ラズ、常ハ捨置テ見向モセザレバ、靈アラバ神情憤怨アルベシ、コレ無キノ證ナラズヤ、ユヱニ聖人ノ鬼神ニオケルヤ、神靈ナシトシテコレヲ祭リ、在スガゴトク敬ヲ施コス、其ノ祭ルヤ在スガ如シ、コレ存生ノ心ヲ表シテ至情ヲ盡スモノ也、其祭ラザルヤ鬼ナシトシテ遠ザクルコト、亡シテ無ヲ表ス、コレソノ鬼神ニナヅマザルナリ、コレヲヨク死生ノ道ヲシリ、鬼神ノ情ヲ知ルト云

三十 漢土聖賢ノ鬼神ヲ祭ル法ハ諸書ニ溢レテ、悉ク是ヲ考フルニ、上代中古當今ノ祭法漸々ニ變レ

リ、又歐羅巴・亞弗利加ハ大抵耶蘇莫臥兒ノ法、（漢土古ヨリ神ヲ祭ルノ法ハ、ミナ神ヲ慰スルナリ、ニヱニ珍饌ヲナス、又雅樂ヲ奏シ、ソノ祭ルベキ神ヲ祭ルナリ、佛家ノ祭リハソノ神ノ實體トイノリテ、彌陀・觀音・釋迦ノルイヲ本尊トシコレヲ饗シ、經ヲヨミテ追善ヲナストス、ユヱニ佛ナキ前ト、佛アリテ後ト、祭法大キニカハレリ、シカレドモ何クヨリソノ咎メモナシ、コレヲ以テミレバ神靈ナキヲシルベシ）亞墨利加ノ國ニ狗ノ頭ヲ祭ルアリ、シナ〱ニカハレリ、我日本ト雖古ヘハ神代ヨリノ古法アリ、中古漢法ヲ移シタルアリ、佛ヲ以テ祭ルアリ、當今ハ十ノ八九ハミナ佛法ヲ以テ祭ラル、ナリ、然ルニ漢法ヲ以テ祭ラントスルモノハ、儒者ノ識ナリ、梵法ヲ以テ祭ラントスルハ、佛者ノ弊ナリ、我國ノ鬼神ヲ祭ルニアニ外國ノ法ヲ用ヒンヤ、我國ノ法ヲ以テスベシ、然ルニ今我國ノ法ト云モノハミナ梵漢ノ法ナリ、故ニ俗ニ違ハズ、法ニソムカズ、カレコレヲ取合セテ、前後先祖ノ心志ヲ酌ミ、我ノ決斷ヲ以テ神ヲ祭リテ可也、（我先祖ミナ佛者ナレバ、ソノ神意ニ叶フガタメニ佛ヲ以スルナリ、然ルニ佛ノ法式ハ私意ニ叶ハズトテ又別法ヲ用ユルナリ、儒家ノ法ハ又我俗ニアハズトイヘドモ、是非トモ祭法ノ意ハコレヲトルベシ、ソノ至誠鬼神ノ情ニ叶フヲ以テナリ）ユヱニ我家法ハ先祖佛者ノ法ヲ以テシ、ソノ中ニ實ニ鬼神ヲ尊敬スルノ意ヲアラハシテ祭ルモノナリ、師門中井氏ノ喪祭私說アリト雖モ、コレハ儒家ノ法也、民間ノ俗ニ合ハズ、只喪ハ代々ノ家法ノ佛ニヨリテコレヲ行ヒ、儒家ノ製ヲ折衷シテ心喪トス、祭モマタオナジ、佛法ノ式ハソノ法ヲ以テ親戚朋友ノ中ニ行ヒ、年忌ノゴトキハミナ僧ヲ請ジ、平生ノ年始・中元・佳節ノ祭リハ、ミナソノ時ノ景物ヲ献ジ、魚鳥ヲ以テセズ、俗ニ異ルヲ惡ムナリ、（（評）以上溫順ノ言ニテ、前々ノ惡口ニ似ズ、著述中ニ中井氏ニ罵サレタルモノカ）忌日ハ終身ノ喪ヲ表シテ、ミナ神主ノ意ヲ以テ位牌ヲ造リコレニ奉ジ、朔望ハ茶菓ヲ供シテ、牌前ニ至リ今日云々ニヨリテ、何々ヲ供ス希クハ受玉フベシト告ゲ、拜禮シテ退ク、諸祭ミナカクノ如シ、香ヲ焚ト云ヘドモ經ハヨマズ、ミナ吾

心ニ折衷シテ、佛法ニヨラズ、神道ニカヽハラズ、儒法ニソムカズ一家ノ祭法ヲ立ルモノハ、只ソノ志ス處神情ニカナフコトヲ希フナリ、コレマタ履軒先生ノイハユル存生ノ愛敬ハ孝ノ本ナリ、死後ノ祭祀ノ孝ノ末ナリノ意ヲ拳々服膺スルノミ、鬼神ノ有無ハイハザルナリ、ソノ先祖ヲ思慕シ、有恩ヲ報ジタキ志情ヲ以テ祭ルモノナラバ、儒ニヨラズ、神ニヨラズ、アナカチニ佛ニヨルコトナクシテ、只ソノ鬼神ノ心ニ叶フヲ願ヒ、己ガ心ヲツクシテ神モ受玉ハント思フホドニアリナバコソ、神ヲ祭ルノガ誠ナラメ、アナガチニ古法ヲ以テ責ムベカラズ、ソレカクノ如シ、凡鬼神アルモノナラバ、亞細亞・歐羅巴・亞弗利加・亞墨利加・墨瓦羅泥加、スベテ佛ノイハユル三千世界ミナ有テ、ソノ情性ハ同ジカルベキニ、太古ハ何レノ國トテモ行ドヽカズシテ、無鬼ノ方多カルベシ、中古ダン〳〵ニ説ヲヒロメテ、有鬼ノ方ニカタヨレドモ無ト云テモソノ貪着アルコトナシ、有ト云テ祭リテモ、ソレニ乘リテ驗モナシ、シカレバ則無ニ決スルナリ、ソノ無ヲヨク決斷シテ、釋迦モ耶蘇モ「マゴメテンモ聖人モ、有ト云テ、幸ニ人ヲ治ムルノ道具トシタルナリ、シカルニ釋迦耶蘇ハ無理ニ有ニシテ、オサヘツケテ説ヲツケタル故ニソノ弊多シ、釋迦ノ如クニ詐謀・方便・輪廻・地獄・極樂ノ説ヲ手ニ取ルヤウニアリ〳〵ト云テ、萬一ニ鬼神アリタルトキハソノ元ハ地獄極樂アリトイハレタレドモ、無リシト云テ釋迦ニネダルベシ、法然モ一枚起請ハ出スマジ、コレ欺キテモ尻ノ來ル氣ヅカヒナキユヱニスルコトナレバ、鬼神輪廻ノナキコトハ、初ヨリ合點ノコトナリ、耶蘇「マコメツテ」ソノ餘ノ説、コレヲ以テシルベシ、萬古末代欺妄ヲ用ヒザルモノハ、ソレ唯聖人カ、如ノ一字ニテ眞僞明ラカナリ聖人ハ如ノ字ヲ下シテ實ニアリトセザレバ、コレヲ學ブモノヨク決斷シテ用ユベキニ、後儒サマ〴〵ノ論説ヲ付タルユヱニ、ツヒニハ紛ラハシクナリタリ、シカレバ喪祭ノコトニオイテハ、佛家ト儒家ハソノ世

業ナレバ、僧ハ梵法ヲ用ヒ、儒ハ漢ヲ用ヒテ可ナリ、王家ハ王家ノ法アリ、武家ハ武家ノ法アリ、民庶ハ前ニ云如ク、俗ニ差ハズ、家法ニ背カズ、先祖ノ心志ヲヨク考ヘ、己ノ決斷ヲ用ヒ、無鬼トシ置テ如在ノ禮ヲ施スベシ、(評)神在サズトモ、在スト思バコソ、至誠ノ祭祀モ行ハルレ、無ト決定シナバソノ至誠イヅクニカアラン、甚首尾調ノハザル論ニアラズヤ　本ヨリ存生ノ孝ヲ盡スニ、梵漢ノ法ヲ用ヒンヤ、唯今目前ノ心志ニ合フヲ以テ途トスベシ、シカレバ則死後ノ祭祀コレニ準ジテ行フベシ、コレコレヲヨク生ニ事ヘテ、又ヨク鬼ニ事フト云、又ヨク生ヲ知リテ死ヲシルト云、死生ノ理明ナリ、コレヲ智者ト云ベシ、鬼神ノ説コヽニツクス　葬埋ノコトハ、太古禽獸ニ近キトキハ、コレヲ山ニステ、蠅蚋蛄コレヲ食フヲ見ルニ忍ビズ土中ニ葬ルノ制オコル、孟子ニ之ヲ論ズルコト悉クス、禮義忠孝ノ道行ハルヽニナリテミレバ、土中ニ埋ムルノ事、孝子ノ心ニ忍ビガタシ、イツマデモ寢床ノ上ニ安ジタクハ思フベケレドモ、腐爛臭氣ニセンカタナクシテ斂棺シ、ツヒニ土中ニ葬ルハ止ヲ得ザルナリ、シカルニ佛法ノ行ハレテヨリ、火化ノ法多クナリ、ツヒニ我一向宗ノゴトキハ、火化ヲ以テ宗法トス、ユヱニ祖先ミナコレニ安ンジ來タレバ、今サラニアラタムベカラズ、スデニ祖先ヲ火化シ來ル、我ニ於テナンゾコレヲ改メン、ユヱニソノマヽ火葬ニ用ユルモノナリ、土葬ハ止ヲ得ザルノ術ニオコリ、火葬ハ梵法不仁ニ似タリトイヘドモ、シヒテ當世ノ儒者ニ安ンジテ火ヲ惡ムハ、コレ亦妬ニ似タルモノカ、生存ノ人ヲ以テヤクハイカント云トキハ、アニ生存ノ人ヲ土中ニ埋メンヤ、五十歩ヲ以テ百歩ヲ笑フニチカシ、ユヱニ宗法家法ニ隨テ止ムモノナリ、鬼神ノ事ハ實ニアルニ違ヒナクバ、太古無鬼トシテマツラザルトキハサダメテ商厲ダラケニテウザ〳〵トセシナルベシ

三十一　初死三日不レ食、漢土ノ制ナリ、然ルニ我國三國ハオロカ、一日モ不レ食ノモノナシ、ユヱニ此制ニ隨ヒガタシ、ユヱニワレ一日不レ食、然ルニ家人ソノ外大キニ呵テ、生ヲ亡ストス、然レドモツヒニ一日ハ如レ此、子孫絶ザルモノハ、セメテ不レ食ハツトメタキモノナリ

三十二　麁食水飲、此事ハ成タケ勤ムベシ、汪信民曰、人ツネニ菜根ヲカミナバ百事ナスベシ、然ルトキハ麁食隨分ナルモノナリ、勤ムベキコトナリ、魚物幷珍菓ノ類ハ不レ食シテモ濟コトナリ、酒ノコ

トハ予下戸ナレバ、一生ニテモ保ツベシ、子孫酒ヲタシム者アラバ、其時ノ模樣ニヨルベシ、然レドモ手島氏曰、「世ノ中ニ成堪忍ガ堪忍カ、ナラヌ堪忍スルガ堪忍」、コノウタヲヨク〲味ヒテ、成タケ愼ムベキコトカ、其餘ノコトナニ程書オキタリトモ、其人ノ心ニ有コトナレバ、強テ論ズベカラズ、唯マモルトマモラヌ人トノ厚薄ニヨルモノカ　鬼神ノ事有無ヲトハズ、コヽニ云阿彌陀如來ハ、釋迦出世ノ後世ニ出ル、ナキコトヲモフケテ云タルモノナリ、夫ヨリシテ觀音・勢至・大日・藥師等アリテ、サマ〲論ヲ立ルニイタル、釋迦出世ヨリ今ニイタリテ三千年、コノ間ニ和漢サマ〲ノ事アリトイヘドモ、畢竟ハミナ釋迦以後ノコトナリ、十萬諸佛天上地下ノ諸佛、サマ〲ノ論ハ立トイヘドモ、ミナ拵ヘゴトナリ、又其要文ヲミルニ、諸行無常(モロ〲ノ行ヒツネナシ)是生滅法(コレシヨウメツノ法ナリ)生滅々已(ウマレタリシタリ死ニヲハル)寂滅已樂(死シテ何モノコラズ、空々寂々ニナルヲタノシミトス)願以此功德(ネガハクハコノ功德ヲ以テ)平等施一切(ビヨウドウニイツサイニホドコス)同發菩提心オナジクボダイ心ヲオコシ)往生安樂國(カナラズ安樂國ニ往生ス)大テイツマルトコロハコノ四句ノ偈二首ヲ以テクヽリトス、其外ニ何モナキナリ、諸宗イロ〲有トイヘドモ、マヅコノ二首ヲトナフルモノナリ、シカレバ鬼神ノコトハ、釋氏以來ノ佛者イロ〲サマ〲ニ云ナセドモ、コノ二首ニ止リテホカノ事ナシ、是ヲ以テ佛者ノ說ヲ考フベシ　或ハ淨土ト云、又極樂ト云、安樂國ト云、コレ常名ナクシテ、極リタルコトナシ、是ヲ以テ實ニナキヲシルベシ　元來佛法ノコトハ釋迦始テ南天竺ニテ出シタルコトニテ、其外ノ國々ニ知ルコトナシ、ダン〲ニ弘ルトイヘドモ、凡天竺ハ六大洲ノ圖ニテハ中程ニアリ、コトニ南天竺ハ南ナリ、夫ヲ以テミレバ、漢土ノ西蔵日本等マデ、凡亞細亞洲ノ內六七歩アルベシ、佛法ヲ知タルハコノ間計ナリ、サスレバ六大洲ノ內五大洲ハシラズシテ、漸一大洲計地獄極樂ノコトヲ知リタレバ、天下通法ニアラズ、其餘歐羅巴ヨリ天竺マデノ國々ハ多ク切支丹ヲ信ズ、其外ハイロ〲有ベケレドモ、マヅハ如レ此、手狹キ法ニテ佛法立ベカラズ、ダンダン知識長老ト稱スル人々死生ノコトヲ手ニトルヤウニ云モ、ヲカシキコトナリ　サテマタ南北アメリカノ「メガラニカ」ノ三大洲ハ、クハシキコトハワカラザレドモ、今亞細亞洲ノ如ク地獄極樂ハ有マジキナリ、是ヲ以テミレバ、佛ヲ以テ天下ノ通法トスルコトアルベカラザルナリ

三十三　曾子曰、啓ニ予足一、啓ニ予手一、戰々兢々、如レ臨ニ深淵一、如レ履ニ薄氷一、而今而後、吾知免夫小子、」右曾子ノ語也、凡意ハ違ヘドモ大抵同シ、寂滅已樂、願ハ生ニ安樂國一ト何モ變リタルヿナシ、オツルトコロハ此心ナリ、能々思惟アルベキヿ也、此儒家ノ一語、佛家ノ三語、コレニテ相別ルヿナレ共、コレニテモ合點セザル人ハ致シ方モナシ、然ドモ阿彌陀如來一佛ニテ、天下三千世界ノ權ヲトリ、助ケ

トラセント誓願彌陀ニテ直々ノ託ニモ有ズ、皆々釋迦ヲ始メ其外高僧達ノ言葉ニテ、皆々方便ニアタリテ、是ゾトイフ據ロモナシ、扨又三千世界ノヿヲ按ズルニ、當時六大洲トイフウチ、亞細亞其外少シヅヽノ國ヲサトシテ彌陀ノ悲願ノ內ヘ入ルヽト雖モ、六大洲ノ內僅カ此分彌陀ニ助ケラレテ、其餘ハ論モナシ、殊ニ歐羅巴ハ切支丹ニテカタマリタレバ、他ヲ見ルコトナシ、其外諸國色々宗法アリ內「マゴメモール」其外亞弗利加・南北亞墨里加・墨瓦羅泥加ノ五大洲ハ決シテ彌陀ヲ信ゼズ、然レバ六大洲ノ內ニテ、彌陀ノ悲願如何樣ニ行度リテモ六分ノ一也、佛法者ドモ萬國總テ阿彌陀ノ悲願ニ救ヒ取ラレテ成佛スト雖モ、此五大洲ハナカ〳〵彌陀ノ手ニハアラザルナリ、是ヲ以テ之ヲミレバ、阿彌陀如來天下ノ大勢ニカハリテ此大願ヲ起シ、スベテ三千世界ノ人畜草木マデモ成佛サレルト云ハ大言ニアラズヤ、我スデニ之ヲ信ゼザルナリ、誰カ天下ニ之ヲ行ハンヤ、ユメ〳〵アヤマルコト勿レ、只コレ草木蟲ケラノ或ハ枯レ或ハ死シタル如ク、其ナリニテクチルニタガヒナシ、何ゾ其因有テイツマデモ生ヲヒカンヤ、天地ノ生死其マヽカケナガシト知ベシ、何ゾクダ〳〵シクコヽニ死シ、カシコニ生ルルノ世話ヲイタサンヤ、コレ其見識ノアキラカナル所モトヨリ彌陀ノ悲願ト云ハ決シテ佛ノ通法ニアラズ、カヘス〳〵モアヤマラルヽコトナカレ、アナカシコ〳〵

夢之代卷十一終

夢之代巻之十二

雜論第十二

一 人ハ萬物ノ靈ニシテ、其本ハ夫婦ニ始マリ、姙胎ヨリ生育ニ成、末ハ聖賢トモナリ、奸賊トモナル、ア丶愼マザルベケンヤ、然ルニマヅハ姙中保護養生ノコトヲ第一トスベシ、古ヘヨリ五月ニ至リテ腹帶ヲスルヲ岩手帶ト云、コレヲシメテ、其胎ヲシテ太ラザラシムト云、論ニ曰神功皇后三韓征伐ノ時、（仲哀天皇九年庚辰二月崩ズ、翌辛巳十二月皇后三韓ヨリ歸リテ、應神天皇ヲ筑紫ニ產ム、天皇ノ崩ヲコユルコト二十三月ナリ）應神帝ヲハラミ玉フ、帶ヲナシテ臨月ヲノバシ玉フノ說アルト雖、此皇后ノコトハ怪說多シ、信ズベカラズ、豈臨月ヲ自カラ遲々スルコトアランヤ、何レニモ帶ヲスルハ大ナル過ナルベシ、禽獸ノ胎ハ帶ナクシテツヒニ難產ナシ、獸ノ胎ヲ受ルヤ、ソレヨリシテ交ルコトナシ、コノ養生ダニ嚴ナラバ、難產ノ患ハアルマジキ也、漢土醫書多クシテ、扁鵲・蒼公ヨリ下孫陶ニ至ルマデ、其議論ハ甚高ク、漸々發明スルコト多シト雖、產科ニ於テハ賀川玄悅ヲ以テ和漢ノ妙手トスベシ、著ス所ノ產論アリ、コノ人無學ニシテ、書ヲアラハスノ才ナシ、其艸稿ヲ以テ皆川氏ノ書ク處ト云、近世西洋ノ書ダン／＼ニ渡リテ、翻譯シテ胎ノ逆ナルコトモシルル、賀川氏ノ說コ丶ニ於テ其妄ナラザルヲシルナリ、然ルニ是モ亦一說アリ、中川氏ノ次ノ說ニ審ナリ、凡婦人ノ

胎ヲ受ルヨリシテ分娩ニ至ルマデ、十月ノ間ト雖、其保護容易ノコトニアラズ、アニユルガセニスベケンヤ、中川氏ノ資生天機ニ曰、夫懐妊ハ私ノコトニアラズ、何故ナレバ天ヨリ人種ヲ生ジ玉フナリ、天ノ悪ハ有ガタキモノニテ、不義不道ノ腹ニモ人種ヲ生ジ玉フ、然ルヲ我儘ニ墮胎ナドスルハ、天理ニ叶ハザルナリ、愼シミ護シテ生育スベキナリ○懐胎シテヨリハ産后七十五日マデハ、夫婦ノ交合ノコトハ、打タヱテ禁ズベシ、皆コレニヨリテ傷産シ難産シテ、母子トモ命ヲ失フ也○孿生ハ一會ニシテ孕ミタルニテ、同膜同胞ナリ、純男純女ニシテ、今俗別胞ノモノチ見テ、異夫ノ子トシテ其母チイマシムハ、アハレムベシ顔面似テ兄弟ノ分チナシ双生ハ別會ノ娠ニテ、別膜別胞ナリ、女夫子モアリテ、顔面似ルコトナシ、世ノ人オシナベテ孿ナリト思ヘドモ、外ニ重孕トモ云テ、孿ニアラズ重孕ナリ、コレハ先ノ月スデニ孕ミシ上ニ又孕ミテ、腹中ニ兄弟ノアルコトヲ云也、其兄ノ方ニ月滿テ催生スル時、イマダ月ノ滿ザル弟ヲセリ出スニヨリテ、弟先ヘ出デ、兄アトヨリ出ルナリ、コノ時見ルベシ膜二胞二ニシテ、兄ハ大ナリ、弟ハ小ナリ、月滿ザルガ故ニ、大カタハ育タヌモノ也、孿ニハ難産少シ、重孕ハ難多シ、スベテ一度ハラミタレバ、經門トヂテ男精ヲ納ル、コト無キ故ニ、後ニ孕ムベキ理ナシト雖、時ニヨリテハアルコトナリ○孕ミタル初ハブドフ程ノ物ニテ、柔々弱々トシタルモノニテ、コノ時愼マザレバ、ツキ亂シテ玉子ノミダレタルヤウニナリテ墮ルナリ、ソノマヽ墮ザルモノハ、四五月ニシテ血塊トナルコトモアリ、サマザマニ病トナル、無事ナルモノハ四五月ヨリ腹中ニ動クヲ覺フ、タン〳〵ニ五體ソナハリテ、小兒ノ頭ハ別

ニ大ナルモノニテ、自然ト八月九月ニナリテ逆ニナルモノ也、ユヱニ産スルトキハ頭ヨリ先ヘ出ルモノ也、○腹帯ハセズトモヨカルベシ、帯ヲツヨクシムレバ、胎ノ中究屈ニシテ、サカサマニナリガタシ、ユヱニ横逆ノ産アリ、又アマリツヨクシメテ傷産シタルモ少カラズ○臍帯ノ端ニ胞衣アリ、コノ胞衣ト云モノハ、子宮ノ内ニツキテ母ノ血ヲスヒ、子胎ノ臓腑ニ入テ子ヲ養フ爲ニシタルモノナリ、ユヱニ月満足レバ自然ト生ルヽ也、不養生ナレバ難産ス○分娩シテ後母ノ乳出ルニマカセテ呑スベシ、兒此乳ヲ呑メバヨク腹中ヲ通シ、胎毒ヲ下スユヱニ無病ナリ、俗ニアラ乳ハ毒ナリトテ呑マズシテ、他兒ニ呑スハ過リナリ、スベテ瀉藥ヲ與フルニアラズヤ、アラ乳ヲ與フルニシカジ、母ノ乳ヲ與フレバ、自然ト毒下リテ、病ヒナクナルナリ○マレニ子宮ノ外ニ孕ムモノアリ、コレハ決シテ本道ヨリ産スベカラズ、和漢ノ醫書ニ此論ナシ、臨月ニ至リ其期ニ及ビテ七顚八倒シ、衆醫聚ツテ評論ストモ、如何トモスベカラズ、賀川氏モイマダコヽニ及バザルナリ、西洋ノ人此子宮外ノ娠ヲミレバ、藥ヲアタヘテ氣絶セシメ、腹ヲ割テ兒ヲ出シ、（腹ヲサキテ兒ヲ出スヲ、「ケイツルレイキスネー」ト云、コノ術至テ緻」精密ナラザレバ、カナハザルナリ）又藥ヲ貼シテ其迹ヲ愈シテ、後婦ヲ蘇生セシム、和漢ニ此コトアレバ、コノ宮外ノ胎ヲシラズシテ、難産トシテツヒニ死ニ至ラシム、惜ムベキカナ、コレラノコトヲヨク辨フベシ、コノ一事ニテ萬端カクノ如キヲシルベシ、世間只コノ産婦ノコトニオイテハ、温婆ノ風習ノミ行フテ、アラタムルコトアタハズ、ツヒニ人命ヲアヤマル、コレ一人ノコトニアラズ、ソノ過チ二人ニ及ブ、ヨク愼ムベシ

三　今年享和三年癸亥ノ春二三月ノ比ヨリ痲疹流行ス、内科撰要注蒲剛カ日、痲疹ノ歐羅巴ニ來ルコト大約痘瘡ト同ジ、ソノ病タル甚遠カラザルナリ、ソノ行ルヽコト春ニ先ダチ、或ハ春ニアタリテ滋盛延蔓シテ、大テイ夏ニ至リテ減少スコレヨリ以前ハ二十八年ニアリ、實ニ安永五年丙申ナリ、其前ハ二十四年ニシテ、寳暦三年癸酉ナリ、又ソノ前ハ十七年ニシテ、元文二年丁巳ナリ、ソレヨリ以前ハ考ヘ得ズ、スベテ西南ニ始マリ東北寒地ニ終ル、然ルニ盛夏ニ至レバ止ミテ發セズ、故ニ寒地ノ人ハ過半免ルヽコトヲ得ルナリ、其病タル痘ニ似テ輕ク、痕ヲナサズ、甚ダシキハ二三四五日ノ間食ヲ絶シ、苦惱甚ダシク、毒多クシテ發シカネル時ハ、發藥ヲ用ヒズ、却テ石膏ノ類ヲ以テ熱ヲ解下スレバ表發ス、必シモ發表溫補ノ劑ヲ施スヲ許サズ、寳暦ノ時戸田齋宮ト云人御柳ヲ用ヒテ効ヲアラハス、御柳一名檉又西河柳ト云一角・底利亞加最ヨク功アリ、ミナ用ヒ處ニヨル也、先年ハ多ク升麻・葛根湯ヲ用ヒシユヱ、毒ヲ解シ得ズシテ大切ニ至リシトナリ、此病ハ痘瘡ト大テイ同理ニシテ再發セズ、一度煩ヒタルモノハ又アヅカラザルナリ、然ルニ初發ヨリ五七日・八九日ニシテ小愈ニ至レバ、氣冷シク快然タリト雖モ、病後ニ少シク毒ヲ食テモ、忽チニ激スルコト速ナリ、産後ヨリモ甚シトス、痘瘡ノコトハ國史ニミエテ、久シクアルコトナルニ、痲疹ノコトハ古ヘニアルコトヲキカズ、思フニ疫癘ニシテ人多ク死スルニヨリテ、御靈ノ八所ヲ勸請シ、或ハ藤ノ森ノ神ヲ祭ルナド歴史ニ見ユ、コノ内ニ痲疹モアルベケレド、疫トノミ云タルナラン、疫熱ニ似テ發表シ、小瘡ヲ出ス類多キ故ニ、古ヘハ分別セザルナリ、痘ハ日數モ究マリテシカト顯ハル、痲疹ハマギラハシクシテ、其治術一ナラズ、又年數ヲ歷テ流行スル

モノ故ニ、醫師モ常ニ馴レザレバ、治ヲ得ルコト少クシテ、死スルモノ多キナラン、コレ歴史ニ時々シルス處ノ疫癘ノ流行シテ、人多死スト云モノナリ、今茲ノ痲疹死ニ至ルモノハ十人ニ一人ノミ、ソレモ多ク他病ト混ジ、或ハ疹後ノ不保養ニアリ、大テイハ疹ノミニテハ死セザル也、只初生ノ小兒ハ免カルヽコトアタハズ、ソノ病ニ堪ザルナリ、姙婦ハ疹熱ノユヱニ墮胎スルモノ十ニ八九、タトヒ臨月ニテモ無事ニ分娩スト雖、日數ヲ經ズシテ兒ハ死スルナリ、今年疹ニヨリテ子ヲ擧ザルモノ幾千萬人、哀ムベキカナ、疹ヲ煩ヒタル人夏ニ至リテ再發シ、死スルモノ多シ、又秋ニ至リテ痢ヲ發スル時ハ大切ニ至ル、小兒ハ多ク死ス、夏ヨリ秋ニ至リ、小兒ヲ葬ルノコト夥シク、ミナ疹後ノ諸症ナリ、今年疹ニヨリテ兒ノ死スルト、傷産スルモノ幾千萬人、シカレバ則民ノ父母タル人々、カヽル時節ニアタリテハ、其治療ヲ明カニシ、民間ノ藪醫買藥ヲ改正シ、郡邑ヲ巡察セシメ、少シニテモ口數ノヘラザルヲ以テ心トスベシ、善哉アル國君ヨリソノ治術ヲヒロク浪華ニ召ス、コレニヨリテ醫家ニ求メテコレヲ獻ズ、ユヱニコヽニ書シテ後世ニ貽ス○中原氏ノ曰、痲疹トテ別ニカハリタルコトナシ、只長沙氏ノ傷寒病例ニナラヒ、始ヨリ大陽病ト見テ、ダン〳〵傳施シ、其症ニシタガヒソレ〳〵ニ劑ヲ處ス、其方劑ニハ葛根湯・葛根加半夏湯・葛根加桔梗湯・大青龍湯・小青龍湯・麻杏甘石湯・白虎湯・黄連白虎湯・越婢湯・竹葉石膏湯・黄連解毒湯・麥門冬湯・葛根芩連湯・黄芩湯・甘艸桔梗湯・加犀角涼膈散等ヲ用ヒテ功ヲトル、其他解毒神丹ナド、ソノ症ニヨリテ兼用ノコトモアリ、又ハ翁中・仁繆・仲淳ナドノ麻

疹論、及ビ立方モアレドモ、艸醫シカト覺悟ナシ、娠婦ハ胎ニカヽハラズ、先ハ前方ヲ症ニシタガヒテ用ユルヲヨシトス、滋血安胎ノコトヲスルウチニハ、墮胎スルコト却テ速ナリ、一時モ早ク熱ヲトリ收ムルノ方、却テ安胎トナルベシ、疹後ノ諸症差後外來ノ邪、及ビ未症雜病ニ至リテモ、其毒ノ有無ニ隨ヒ、種々品々アリテ定マラズ、症ニヨリテ藥ヲ投ズ、必一定ナラズトシルベシ○並川氏曰、今年ノ麻疹其初起頭痛・發熱・惡寒・咽喉痛ムニハ、葛根湯加桔梗ヲ用ユ、惡寒ナク熱甚シク嘔アルハ舌必乾ク、葛根芩連湯ヲ主トス、始ヨリ下痢ヲカネタルハ葛根加半夏湯、五七日ニシテ發セザルハ、熱甚ダシキ故也、桂枝越婢湯熱毒深キニハ、越婢湯或ハ葛根芩連湯ニ、加石膏又ハ桱石散カネ用ユルモアル也、十四五日二十日ニ及ビテ、依然トシテ發セザルハ、別ニ時氣感冒ニシテ、葛根湯加味ニテ日ヲ逐フ、已ニ發スルノ後必嘔ヲソヘ、或ハ咳甚シク不食スルハ、黃連解毒湯加石膏ナリ、此症渴セズシテ多クハ下痢ス、石膏不當ニ似テ實ニ石膏功ヲトル、モシ虛咳ニテ解毒ヨロシカラザレバ、竹葉石膏湯ヲ用ヒ、竹節蔘加黃連カ、モシ咳甚シク或ハ嘔甚シク、湯藥下ラザルニハ、別煎犀角ヲ用ユ、甚功アリ、解毒方中加犀角モ亦可ナリ、差後只石劑ヲ過用スルコト害ナシ、一男子年十九歲、他醫療スルノ後、諸症悉ク治シテ、只下痢止マズ、日ニ十餘行、ソノ醫四苓劑ヲ用ヒテ尙止ズ、脈沈遲熱ナクシテ、不食不渴石劑ノ用ユベキナシ、タヾソノ腹攣急ス四逆散加黃連石膏ヲ與ヘ八日ニシテ治ス、其他石劑ヲ用ヒテ奇功ヲ得ルコト少カラズ、將軍劑ノ如キハ、小子未アタハザル處ナリ、故ニ用ヒ

ズ、差後食傷ノモノハ、其毒イマダ盡ザルナリ、解毒ニテ可也、差後陰陽易ノモノハ二人ヲ療ス、黃連解毒地黃ヲ用ユ、差後痨ニ變ズルモノ、京醫コレヲ目シテ疹毒痨ト云、一男子差後十餘日寒熱往來、セキ出逆上シ、盜汗不食、脈沈數、小子前醫ノ石膏ヲ用ヒザルヲ聞テ、竹葉石膏湯ヲ用ユ、病勢半ヲ減ズ、後七日ニシテ更ニ下痢ヲ加ヘ、諸症前ニ同ジク、只熱少キノミ、轉ジテ半夏鼈甲湯ヲ用ヒ別ニ小子家製痨ヲ治スル秘丸ヲ用ヒ、一月ニシテ効ヲ收ム、其他始ヨリ痨ヲ帶ルハ皆死ス、タマ〱疹後ニ發スルモノハ、前治ニシテ三人ヲ治スルノミ、婦人小兒ミナ前治ノ如シ、只婦人孕中ノモノ、マヅ疹ヲ療シテ後補血ス、差後痢ヲ病ムハ、餘毒イマダツキザル也、更ニ濕邪ヲ得テ然ラシム、葛根芩連解毒劑症ニヨリテ用ユ、通論麻疹ハ一種ノ熱毒、故ニ寒涼劑功ヲ收ム、今流行ノ疫ハ大陰ト云ベシ、附劑功ヲ收ム、疹後四支厥冷吐下甚シキモノ兩三人ヲ治ス、ミナ附子粳米湯ヲ用ユ、コレハ疹後痨症、或ハ更ニ流行ノ陰氣ニ感ジタルナラント覺ユ〇中川氏曰、麻疹ハ天行一種ノ疫ニシテ、其血液ニ混淆シテ外發スル也、完爾爾瘡ノ症ト相遠カラズ、但ソノ膿靨スルト、セザルトノ別ノミ、古人有漿麻疹論アレドモ、愚爾來麻疹隆盛ナリシ間、日ニ診視スル處百五十ニ下ラズ、更番相療ホトンド數百人ナラントス、其間數人痘瘡水痘ノ症ニ逢フ、イマダ一人麻疹有漿ノ者ヲ視ズ、古人欺カザルベシ、愚ガ視ル處ノ廣カラザルナラン、但漿化スベカラザルモノニテ漿化ス、愚ヤ疑ナキコトアタハズ、故ニ棄テ論セズ、古人治方諸家小異アレドモ、大抵清熱透發ノ一轍也、痘瘡ノ諸症多端治方ノ審悉ニ

似ズ、ソノ著書モ痘瘡方論後、多ク一門ヲ揚ゲ併セ說キ、其痲疹ノ成書タルヤ僅々、シカレドモ其論ズル處輕視スルニモアラザレバ、察スル處常ニアラザル病ユヱ、豈ソノ周匝ヲ缺ナランカ、亦シルベカラズ、明醫間、用於西河柳獨聖散、治痲疹、聖藥ナリト、痲疹發、不出喘咳、煩悶躁亂ノモノヲ治ス、復石羔等分ヲ合シ、桱石散トテ痲疹險惡ノ諸症ヲ治ス、愚モ多用ヒテ奇驗ヲ得タリ、愚ノ痲疹通症ノ治療ハ別ノ手段ナシ、古人諸家淸涼透發ノ諸劑ヲ選用シ、自然ノ運化ニ任セ、必別ニ技功ヲ求メザルナリ、其險惡ノ疹、愚ノ大窘急ノ諸症左ノ如シ、疹子之運大過ノ者瀉セザルハ必破血ス、衄血・下血・經血ノルイコレナリ、少壯人疹中衄血滾々注グガ如シ、三度ソノ器ヲ易フ、凡三升、疹子陷沒、面貌藍變、急ニ裂帛、ソノ兩肘ヲキビシククリ、冷水浸巾天庭ヲ掩ヒ、麒麟血末鼻中ニ吹入、桂枝湯方中加阿片分許コレヲ飲シム、衄ヤウヤクニヤミ疹復出ル、姙娠出疹胎多ク墮ス、只熱強壯ナラザルモノ淸解諸藥保ベシ、壯熱ノモノ瀉血度ヲ得、下痢宜ニカナフ、墮セザルコトヲ得ベシ、分娩或ハ崩血ノモノ、疹子內陷、顏色青慘、調護藥中阿片必缺ベカラズ、兒暴下痢ノモノ、咳嗽強甚ナルモノ必阿片ヲ用ベシ、頻ニ奇驗アリ、小兒ハ五六厘ニ至ル、大人ハ一分四五厘、疹發熱大過、胸中懊憹、呼吸不利、譫言妄語ノモノ、自然ノ破血ヲ待ハ甚ダ迂ナリ、刺絡セズンバアルベカラズ、攻下セズンバ有ベカラズ、嘔吐強盛ノ者、溫湯ヲ以テソノ躁ヲヒタスヲ妙トス、蛔逆嘔吐モ亦許多鳥藥丸理中安蛔湯經過多ク驗アリ、疹後痢一應踈滌ニヨロシ、甚シキモノハ夜間阿片ヲ用ユルコト少バカリ

元運ニ疲勞セシメザルヲ以テ要トス、繆仲淳西河柳葉末調ニ砂糖ニ服シテ疹後痢ヲ治ス、愚モコレヲ用ヒテ効アリ、疹後咳嗽聲啞ノモノ、鄭重ニ診視セズンバアルベカラズ、卒然馬脾風狀ヲ發シ、救フベカラザルニ至ル、輕キモノ砂糖劑・蜂蜜劑・防虞セズンバアルベカラザル症ニハ、阿片・蕃紅花選用スベシ、疹子始終看法唇舌ニシクハナシ、其攻ズンバアルベカラズ、舌苔乾燥其發達鬆化ノモノ、唇舌滋潤必懇察シテ悉ス、阿蘭陀人治ニ痲疹ノ說アリ、内科撰要ニ云、痲疹ヲ治スルノ法、但ソノ運動ノ大過ト不及トヲ見テ、强ナラシムルコトナク、弱ナラシムルコトナク、二ノ者ヲ節ニシテ以テ將息スレバ則能事終ル、從テ其飲食ヲ戒愼シ、腐敗ヲイタスモノヲ禁ジ、ソノ起居ヲ保護シ、事宜ニカナハシムルコト痘瘡ノ如クスベシ、蒲剛曰、痘疹ノ治共ニ刺絡ヲ缺ベカラス、痘疹ノゴトキ發熱强壯、呼吸不利ニシテ、胸中懊憹スルモノ殊ニコレヲ施スベシ、シカレドモ其善症ニ至リテハ、コレヲ用ヒズシテ可ナリ、温湯ヲ以テ頻リニ患人ノ脚ヲヒタサシムベシ、コノ法ヨク其熱ヲ減ジ、ソノ發起ヲ助ケ、又嘔吐ヲ治スベシ、シカレドモ吐スベキモノハ吐カシムベシ、モシ咳嗽ハナハダシクシテ、咽喉燥呼吸不利ナルモノハ、患人ヲシテ頭熱湯上ニ在テ、其氣ヲ吸入セシムルヲ良トス、モシ疹子忽チ陷沒内攻スルモノハ、宜シク痘瘡内陷ヲ救フト同ジクスベシ、コレニ與フルニ其他精銳多力ノ壯心益氣ノ品ヲ以テスベシ、手臂及足脚ニホドコスニハ發疱術ヲ以テシ、箇ノ氈㡇巾ヲ灸リ熱セシメテ、其腹背ヲ摩シ、又藥鑄ヲ取テソノ足心及ビ手掌ニ熱罨ス、催睡藥亦コレ時有テ必需ナリ、シカレドモ攪擾甚ダ睡ルコトアタハザルモノ、及ビ兒暴下利、及ビ咳嗽强甚ノモノニ非ザルヨリハ必シモ用ヒズ、小兒ノゴトキハ其催睡藥須ク白罌粟ノ舍利別ヲ用ユルヲ良トス、ソノ服量ニ小茶匙ヲ與フベシ、年齒ノ長幼ト證ノ微甚トニ從フテコレヲ増減ス、痲疹スデニ差テノ後ハ、須ク瀉利降泄ヲ事トスベシ、コレ缺クベカラザルノ大要務ナリ、シカレドモ痲疹ノ後續テ下利ヲ得テ、久シク差エザルモノハコレヲ治スルニ朝ニ大黃劑ヲ服シ、夕ベニ催睡劑ヲ用フルコト、日々カクノゴトクスベシ、凡ソ疹後ノ飲食、心ヲ用ヒテ子細ニ戒愼スベシ、食ハ淡薄ニシテ消化シヤスキヲ用ユルコト、長クカハラザルヲ妙トス、且多食スベカラズ、必ツネニ減食スベシ、飲ハ清凉宜シ、熱氣ヲ煽動スル諸汁ニ宜シカラズ、且ソノ體ヲ裸露スルコト長キヲ禁ズ、風寒ニ感ジヤスキヲ以テナリ、コレニ感ジテ胸中懊憹モシクハ肺癆ヲ發スルトキハ救ハザルニ至ルナリ 愚感銘シテ法トス、ツトメテ元運ヲ保護シ、ソノ大過不及ヲ齊シクス、至言ナルカナ、右數件ハ倉卒詳ナラズ、悉皆實驗ノモノノミヲ呈ス○堤氏曰、痲疹ノ病症惡寒發熱シ、咽喉イタミ咳嗽アリ、眼目シブリ飲食ヲコノマズ、二三日ニ至リテ、一身コト〳〵ク痲疹出テ、五六日ニ至リ、肌肉浮腫錦紋ノゴトク、七八日ニ至リテ、下痢スルコト日ニ

五六行、嘔吐衂血出テ、九日十日下痢止ミ小便利シ、十一二日熱退キ食漸ス丶ム、コレ輕症也、重キハコレニ反ス、憎寒壯熱前ノ諸症アリテ、面部斑疹ヲ發ス、少シバカリ皮下隱々出ントシテイデズ、煩躁譫言七八日ニ至リテ、疹多ク出テ兩便秘結シ、ツヒニ衂血ヲナシ、嘔吐ヲナシ、ヤウヤク浮腫ニ至ル、時ニ喘滿テ氣セハシク、斑疹ミナ伏シテ、壞症狀ノ如キナリ、治法ハ荊防敗毒散、方回春 金銀花ヲ去リ芩連ヲ加フ、惡寒・發熱・譫語・咽喉イタムモノヲ治ス、小柴胡湯方傷寒 桔芎連薄殼ヲ加フ、乾嘔發熱飲食ス丶マザルモノヲ治ス、加減凉膈散方回春 咽喉イタミ甚シク、舌上黄白胎潮熱ナルモノヲ治ス、竹葉石膏湯方傷寒 七八日兩便不利、喘滿氣急、譫言嘔吐壞症狀ノ如キモノヲ治ス、右ハアル國君ヘ呈ズル處ノ醫論ナリ、何レニモ痘瘡・麻疹・水痘ノ三ツノモノハ大抵同ジモノニテ、又疫疾傷寒ニ近シ、返ス〲モ恐ルベキモノナリ、中ニモ麻疹ノ症タル二三十年ニ一タビ流行シテ、醫家トイヘドモ前年ノ治術ヲ存シタルモノ、千ニ二三人ユヱニ、ソノ治ヲ得ルコト難シ、コトニ書シテ後世ニ貽ス○履軒先生曰、右諸說何レモ的當ノ論ナルベシ、シカルニ石膏ヲ用ユルコト尚イマダ專ナラズ、醫コノ規矩ヲ脫セザルニ似タリ、予嘗テ古醫ノ名言ヲキク、曰、初熱症ニヨリ各主劑アリ、但石膏ハ麻疹ノ妙藥ナリト心得タルガヨシ、姑クソノ能毒ヲ忘レテ、二三錢ソノ主劑ニ和シテ用ユベシ、ソノ性主劑ト反シテモ苦シカラズ、妙藥ユヱニ必功アリ、後來惡症ヲ發セズ、萬一石膏ニテ小害アルモノハ、五六服ノ後劑ヲ轉ジテ、ソノ害ヲ救フベシ、妙藥ユヱニ大害ヲナスコト決シテナキコトナリ、亦後ニ

惡症ヲ發セズ、初醫妙藥ヲ用ヒズシテ、後ニ惡症ヲ發スルモノアリ、妙藥ニテ救ヘバ、大抵ハ治スレドモ保ツベカラズト、此說モマタ後世ニ傳フベキモノカ

四 痘瘡ハ上古日本ニ有コトナシ、中世ヨリ發ス、今世ニテモナキ國アルヲ以テ見レバ、實ニ古ヘ無キナルベシ、藤原ノ武智麻呂五十八歲痘ヲ患フ、竟ニ薨ズ、房前公五十七歲、宇合公四十七歲、疫ヲ患ヘテ薨ズ、コレラハ貴顯ノ人々ナリ、民間ニハ前ヨリ有ルベシ、ソノ疫ト云モノモ、亦實ノ疫病傷寒ノ類ナルヤ、痲疹瘧病ノ類ナルヤ、コレイマダシルベカラズ、（寛政ノ頃池田瑞仙ナルモノ、痘瘡専門ニシテ五畿ニ鳴リテ、ツヒニ江戸ニ召サル、痘瘡戒草ヲ著ス）大テイ通ジテ疫ト云モノナラン、痘ハヨリテ來ルコト久シ、何レニモコノルイ奇病ニシテ、スベテ胎毒ヨリノ因ト云、痘疹ノ一生ニ一回ニ限ルコトモ亦イブカシ、發スルヤ氣候ヲ以テ（內科選要ニ云痘瘡ノ由來スル所ヲ考フルニ一因アリ、其一ハ天行ノ氣アリテ、衆人一般ニコレヲ受テ發ス、ソノ二ハ已ニ痘ヲ患フル人ニ觸レ近クニヨリテ傳染シテ發ス、其三ハ種痘ノ法ヲ施シテ發ス）ソレヨリハ傳染ヲ以テス、大テイ日數ニ定マリアリテ、輕キハ早ク、重キハ遲シ、蠻術ニ種痘ノ法アリ、輕痘ノ血ヲトリテ、小兒ノ腕ヲ疵シテ入ルヽナリ、又痘痂ヲ粉ニシテ小兒ノ鼻ニ入ルヽアリ、忽チ傳發シテ輕ト云、シカレドモ好ンデナスベキコトニアラズ、萬一過ツトキハ、何ヲ以テカ償ハン、肥ノ大村・防ノ岩國ノゴトキハ痘瘡ナシ、（三浦剛ガ內科法ニ云、凡諸病中ソノ公行スルモノハ、痘瘡ヨリ大ナルハナシ、生涯ノ中必ズ早晩之ニ罹ルヿナキヿアタハズ、ソノ疾タル天疫傳染ノ氣ニオイテソノ最タリ、地方風氣ノ係屬帯直スル所復遺漏ナシ、歐羅巴ノ如キ古昔イマダ有ラズ、後世コレヲ傳ヘテヨリ已往ハ恒例トナリタリ、ソノ初テ和蘭ニ入ル、コレヲ治スルノ法ヲ得ズ、當今ニ至リテハ經驗試歷ノ積功ニヨリテ、消散スルノ術ヨクスルニ至ルヲ得タリ）タマ〳〵アレバ、ソノ傳染ヲ恐レテ、山中ニ小室ヲ設ケ捨ルナリ、少分ノ錢ヲ受テ是ヲ介抱スルモノアリ、大切ニ臨ムトイヘドモ、死

ストイヘドモ、親戚弔フコトナシ、コレソノ國ノ制度也、一人ヲステヽ萬人ヲスクフ、仁者ノ心ナランカ、シカレドモ公ニアリテハ可ナリ、親戚ニアリテハ不可也、然レドモ幼者ヲ捨テ老者ヲ活スルナラバ、孝ト云ベシ、ユヱニ今ニ至リテ、コノ國々ニハ痘瘡ノ痕アル人少シ、又痕アル人コノ國ヲ過レバ人ヲシテ城外ニ送リ出サシムルト、シカルニ近世ニ至リテハ、公ヲ始トシテ士夫カハル〳〵江戸大阪ニ往來シ住居スルコト故、痘ヲ患フル人多クナリ、始三五人ノ間ハ小ヲコロシテ大ヲ活スコトナリシニ、今ニシテハ十人百人ノ多キニ至レバ、悉ク山中ニ捨ベカラズ、ユヱニ國々ニヨリテ在邊或ハ山中ニ小室ヲカマヘ、醫官ヲ付テ療治セラルヽコトノヨシナリ、右ノ二國ニ限ラズ、中國・西海ニハ多クアルヨシナリ、サテ又痘ヲ患フル家ニハ痘神ヲ祭リテ、酒食ヲ供シテ三拜渴仰ス、又ソレヲ呵シテ曰、神ヲ祭ルユヱニ邪神來リテ害ヲナスナリ、祭ラザレバ害ナシト謂ルハ、ソノ祭ラザルハ得タリトイヘドモ、邪神至ルト云モノハ、コレモ亦得タリトセズ、ナンゾ病ニ神アラン、又邪神ト云モノナキモノナレバ、祭ルトテモ至ルベキ神ナキナリ、然レバ則チ呵スル人モ、亦一ヲシリテ二ヲシラザル也、只ソノ輕重ニヨリテ治療ヲ施スノミ、外ニ術ナカルベシ、治療ノコトハ諸醫ノ論說アレバ、コヽニ略ス

五　西洋ニ灸治ナシ、瀉血アリ、大テイ此代リナリ、瀉血ハ實人少壯ニ行フベシ、虛人老者ニ行フベカラズ、春夏ニ行フベシ、秋冬ニ行フベカラズ、スベテ疾病ノ發スルヤ、不及ノ病アリ、過ノ病アリ相半スベシ、シカルニ人心ハ只欲アルノミ、ユヱニ補ニ過ギテ瀉ニ不足ス、補藥トイヘバ貪リテ飲ミ

瀉藥トイヘバ畏レテ飲ムコト少シ、平食トイヘドモ、美味ヲ嗜ミテ淡白ヲコノマズ、ユヱニ血餘リ氣逆上シテ、病ヲ生ズルコト多シ、コンラハ瀉血瀉藥ノルイナラバ治スベカラズ、吐血ノ症ハ尚サラニ瀉血シテ、他ヘ氣ヲ洩スベシ、コレラハミナ變法ナリトイヘドモコヽニ出ス、シカルニ後藤氏・吉益氏ノゴトキ、アナガチニ瀉下攻擊ヲ專ラトシテ、虛弱老耄ノ辨ヘナキハ、又必トスベカラズ、只ソノ老弱虛實補瀉溫涼病因發出ノヨリテ來ル處ヲ明ニシテ、治療ヲ施スベキノミ

六 當世醫家ノ藥ヲ投ズル、大抵病人ノ脈ヲ伺察シ、腹サグリテ疾病ヲ知リ、方劑ヲ立ルコトナリ、マヅハコレニテ病根ノ見ドコロ差ハズ、方劑モ當ルベシ、シカルニ一日ニ小服二貼ヲアタヘ淡シク煎ジテ用ユルトキハ、寬病久藥ハ當ルベケレド、大病武藥ニ至リテハ、一杯ノ水ヲ以テ一車薪ノ火ヲ救フガゴトクナラン、（西洋藥制多ク「ランビキ」ヲ以テ、膏油ヲトリ精ヲトル、或ハ薫ヲトルソノ功烈シキアニ草根木皮ノソノマヽニ煎ジタルニ比スベケンヤ、ユヱニソノ方劑當ヲ得レバ、ソノ病タチマチニ治ス、其他サフラン、バルサモコツパイ等ノ如キ、單方ノ妙藥ソレ〳〵功ヲ得ルコト、和漢ノ藥味ノゴトキニアラザルナリ）又其方劑藥味ハ同ジトイヘドモ、藥品ニ上中下アリ、贗物モアルコトナレバ、ヨク〳〵辨考スベキコトナリ、田舍ナドハコノ處ニ疎ク麁品ヲ用ヒ、掛目二三錢目ヲ過ズシテ、一杯半ノ水ヲ以テ一杯ニ煎用ス、大テイ同ジコトナリ、大病ニ至リテハ何ゾ治スベキ、宜シク上品ヲ用ヒ、五六錢七八錢ノ調劑ヲ濃ク煎ジテ、日ニ三四貼ヅヽモ服セザレバ、治スベキコトカタカラン、然ラザレバタトヒ其見立ハ得タリ、調劑モ得ルトモ、病ノ治セザルコト多カルベシ、實ニ病根ヲ見得スルモノナラバ、煎湯ニ限ラズ、サマ〳〵工夫アルベシ、蠻術ニ藥ヲ用ユル間ハ、他食ヲ斷テ

一切ノモノ食セシメズシテ、薬ノミ用ヒテ治スルノ方アリトキク、カクノ如クシテ治セザルコトヲ得ンヤ、余サキニ眼疾アリ、洗薬ヲ用ユトイヘドモ功ナシ、ツク〴〵思フニ、腫物類ニオイテセンカ、外科ニ任シテ膏薬ヲ貼スルニ、イユルマデハ時々トリカヘテ止ル間ナシ、ユヱニ大テイニ仕損ズルコトナシ、全快ヲ得テ止ムナリ、眼ヲ洗フ一日ニ四五度、ナンゾ治スベキ、コレ一日温メテ、十日寒スモノナリ、洗ヒ通スニシカザルナリ、ソレヨリ晝夜アラヒツクシテ、早ク功ヲ得タリ、一杯ノ水一日ノ煖ナンゾ功アラン、シカレバ則薬験ヲ得ザルハミナ爲ザルナリ、能ハザルニアラザルナリ、人ノ誠實ヲ行フモ亦カクノ如シ、日月ニ至ルモノ功ヲ得ルコト能ハザル也、三月違ハザルニ至リテ、初メテ功験アルベシ、スベテ病ノ治セザルハ、ミナ怠リナリトシルベシ

七　西洋ノ醫書ハ皆ソノ病因ヲ求ムルコトヲ主トス、我一人ニテ試ムルトイヘドモ、心ニ滿ザレバ他ニ談ジ、ツヒニ其因ヲ得テ本城ヲ攻ル時ハ、枝葉ナンゾ持ツベキ、近頃蠻學ダン〴〵開ケ、醫學コレガ魁トナル、江都宇田川氏西洋荷蘭國ノ醫王函涅斯埵我爾徳兒（ヨハンネステコマルテ）ノ著ス書ヲ譯シテ、内科選要ヲ著ス、ミナ病因ノ起ル處ヨリ、ダン〴〵ニクバリメグリテ發スルモノヲ論ジ、寒熱ヲ始トス、（橋本氏著ス所ノ三方典アリ、西洋ノ本草ヨリシテ、諸薬製法病論治方擧テモラスコトナシ、醫ニ志スモノ見ズンバアルベカラズ）ヤウヤク二十二冊ヲ板行ス、オヒ〳〵ニ木ニノボスベシ、大阪ニテハ橋本宗吉蠻學ヲトナフ、俗中ニ施シテ奇ヲアラハス、スベテ西洋ノ術ハメノコ算多シ、天文醫術細工ニハ、ソノ工夫和漢ノ及ブベキニアラズ、「タルムワツセン」ハ腸ヲ洗フナリ、羅甸語「キリステル」

ト云、肛門ヨリ藥汁ヲ入ル也、口ヨリ通ゼザレバ、乳汁モコレヨリ入ル、ヨク養フ也

八　藥品ノ內朝鮮人參ヲ以テ最上トス、シカレドモ人參附子ノルイ、平生ノ人ニ三四錢用ユル時ハ眩暈甚シク、忽チ命モタユルガ如クニ至ル、今日々ニ酒ヲ多ク飮ミ、本性ヲ失ヒ身ヲ蕩カシ、心志ヲ迷ス人多シ、カクノ如クニシテ病ヲ生ゼザルコトヤアルベキ、元來古ヘハ濁酒ヲ始メ薄キ酒ニテ、大害ニモナカリシニ、近年ダン〳〵ニ醇酒ヲ造リ出シ、ソノ美キ酒古今ニ絕越ス、其害モ又甚シカラン、日本ニ淸酒ヲ用ユルコト三百年計ノ由ナリ、今ニテモ諸國ノ酒ハ薄シ奧羽越信ノ國々ハ今ニ濁酒ヲ用ユルコト多シ、伊丹・池田ノ醇キ、言語ニモノベガタシ、桀紂ノ耽湎シタル酒ハ、イカナル酒ゾヤ、魏ノ時ヨリ酒ノ淸濁ヲ聖賢ト云ヨシ、淸酒澄酒ト云コトハ、禮記ニモ見エタレバ、古キコトナリ、今昔物語ニ、酒ニ牽牛子ヲスリテ入タレバ、酒少シニゴリタリトアレバ、コレモ亦濁酒ナルベシ、百四五十年以前攝州伊丹ノ北ニ鴻池ト云處アリ、山中氏ナルモノ淸酒ヲ造リ、初メテ江戶へ下シタリト云、コレマデハ米ノ半バヨク精ゲタリシユヱ、半ハ平米ヲ以テ造リタリシヲ、ソノ時分ヨリスベテヨクシラゲタリシユヱ、諸白ノ名アリ、ソレマデハミナ片白ナルベシ、ソノ又前ハ諸黑ナルベシ、漢ハ麥酒多キヨシ、西洋ハ米少シ、黍稷葡萄ヲ以テ造ルヨシ、スベテ大テイノモノハミナ製スレバ酒ニナルナラン、米ハ日本ヲ以テ宇宙第一トスルヨシ、コレヲ以テヨク精ゲ名水ヲ以テ製シタル酒ナレバ、伊丹・池田ノ酒ヲ平生ニ呑モノハ、古今ノ幸ナラズヤ、シカレバ則過スコトナクシテ、藥水トナスベキナリ

九　「底利亞加」ハ宇宙第一ノ能藥ナリ、萬病ニ通ジテ用ユ也、精品少シ、「ヘネチヤ」國ヨリ出ルモノヲ最品トス、毒ヲ解スルヲ以テ主治トス、「ハルサムコツバイハ」ハ西洋ノ奇藥ナリ、疵ヲイヤスコト妙ナリ、スベテ西洋人不具人ヲ療スルニ、ソノ處ヲ斬テ療治ヲホドコシ、ソノ上ヘコノ藥ヲ貼レバ、忽チニ治シテ迹ナシ、骨肉ヲシムルコト神ノゴトシト、ソノ餘「サフラン」ノ血症ニオケルモ亦妙ナリ、一角ハ古ヘ犀角ノ種類ト云シガ、今ハ魚ノ鮨ナリ、同異ノ論ハ木村氏ノ一角纂考ニクハシケレバコヽニ略ス

十　黑豆ハ人參ノ毒ヲ消スルコト諸人ノ知ル處ナリ、アル人附子ヲ用ヒテ冥眩ス、黑豆ヲ用ヒテ又免ルヽコトヲ得タリ、參附ハ藥種中ノ魁也、此能毒ヲ消スルカラハ、何ノ能毒ヲカ消滅セザラン、シカル時ハ服藥スル人、ユメ〱黑豆ヲ食スコトナカレ、醫家ト雖コヽニ及バズ、黑豆ハ平ナルモノトテ、座禪豆ト云モノヲ病人ニユルスハ、イカナル心ゾヤ、怠ルト云ベシ

十一　天下ノ治亂サマ〲アリト雖、大抵亂日少ク治日多シ・然ルニ元弘・建武ノ亂ヨリ一日治日ナク亂世トナリテ、取ワケ應仁ヨリ尚更ニ甚シクナリタリ、天子・將軍・攝關トイヘドモ、安臥スルコトアタハズ、ツヒニハ流浪逃亡スルニ至ル、織田氏・豐臣氏コレヲ平ラゲ治ニカヘストイヘドモ、慶長ニ至リテ復鹿ヲ逐フ、シカルニ我神祖コレヲ治メテ、天下再亂ルヽコトナシ、刀ハ鞘、弓ハ袋ニヲサマリテ、武ヲ忘ルルニ至ル、是誰ノ賜物ゾヤ、シカリシヨリ以來昇平ノ弊ニテ、驕奢・怠慢・華美・借上キソ

ヒオコリテ至ラザル處ナシ、然ドモミナコレ泰平治世ノ致ス所ニテ、アリガタキコトニアラズヤ、只今ノ世ニアタリテ、恐ルベキハ火災ナリ、故ニ日々火防ノソナヘアリト雖、只スヱノコトノミ多クシテ、本ノ防ギ少シ、今三都ヲ始メ城市驛宿ナド繁華ノ街ハ、尺寸ヲ爭ヒ建ナラベテ二三重ノ樓ヲカマヘ、陌上ハ兩馬行違フニカタシ、ユヱニソノ大火ニ至ルヤスミヤカ也、タトヘ東都ノ廣キ一日ニ二三四五六度ノ火ヲ失ザルコトナシ、火ノ恐ルヽハ風ナリ、風ナケレバ火ヲ失スルコト、數十回トイヘドモ小ニシテ止ム苟モ大風ナランカ、小火ヲ失フトイヘドモ忽チ大火トナル、ソノ時ニオヨンデ建列ネタルカナシサハ、防禦ノ術ナク、延テ廣大トナルモノナレバ、上下利心ヲ離レテ、繁華ノ市街ホド二重ヲ禁ジ街路ヲ濶クシ、所々ニ火除地ヲヒラキ、防禦ノ術ヲナスベキ也、コトニ三都ノゴトキハ堀ヲ廣クシ、又アラタニ新堀ヲカマヘ、又ハ市中ニ十文字ノ堤ヲ築キ、松ヲ植並ベタラバ、ホリヨリモ勝ルベシ、竹山先生曰、淀川ヲサラヘテ、ソノ土沙ヲスツルニナヤミ玉ハヾ、市中ニ山ヲキヅキ、河村瑞軒ノ古智ヲオソヒ玉フベシ、川ヲサラヘテ火ヲ防グ、一擧ニシテ二功アリト、ヨキカナ此言ヤ、シカリト雖ソノ心ハ雲泥ノ違ヒ也、市中ニ空地ヲ備ルコト、今ノ世ニナンゾ云ベキ、堀々ノ濱地河岸ノ地ヲ與ヘテ地子ヲ出サセ、濱納屋ヲ立並ベサセ玉ヘバ、イヨ〳〵以テ焚附トナル、何ゾ火除ノコトニ及バン、今江戸ニテ大南風ニ品川ニ失火アラバ、古ヘハ何ノ恐モナカリシニ、今ニテハ三田・芝・高輪ノ間建ツヾケタルユヱニ、城市トモ周章スベシ、コレミナ利ニ走リテコヽニ至ルモノ也、近歳西ノ久

保ヲ始メ所々ニ除花ノ地ヲ開キ玉フハ最モ稱スベキナリ、今ニテモタトヘバ大阪ニテ淀屋橋通リヨリ、心齋橋通リマデノ間ノ一街ヲ北濱ヨリ道頓堀マデ取ノケテ廣クナシ、本町通ヨリ南本町マデノ一街ヲ、城畔ヨリ西横堀マデ取ノケテ、十文字ニ坡ヲツキ松ヲ植タラバ、四ケノ一ツハ燒亾ストモ、三ハ無事ナルベシ、京師江戸モ亦シカルベシ、古ヘノ京師ハ延喜式ニ云朱雀大路二十八丈、(今ノ四十ソ間ナリ)小路ノ餘ノ大路十二丈、(十七八間ナリ)次ハ十丈、(十五六間ナリ)小路四丈、(六間)ト今ハ大路トイヘドモ二丈ニ足ラズ、小路ハ一丈バカリナリ、東都ノ大路ト云ハ凡五六丈アルベシ、ソノ餘ハ一二丈ナリ、大阪ハトリ分セバシ、コレ故ニ火ノ移ルコト早クシテ、火ヲ失フゴトニ風アレバ大火トナルナリ、然レバコノ制度カクノ如クニシテ、外ニ防火ノ法ヲ立玉フトモ、ソモ〳〵末ナリ、タトヘバ政治寛惰ニシテ罪人多ク、刑ヲ嚴ニスルガ如シ、殺戮多キ程又生ズ、イカントモスベカラズ、初ヨリ政治嚴猛ニシテ、罪人ヲコシラヘザルニシカザルナリ。然ドモ利ニ走リテハコノ備ナラザル也、往古ヨリ所持シ來ル處ノ書籍器物ノ類、ミナ灰燼トナリテ、世界ヲ一新スルコトナレバ、豈容易ノコトナランヤ、我國初以來大火ト稱スルモノハ、東都明暦・明和、京都ノ天明、大阪ノ享保、コレソノ最ナリ、ソノ餘コレニ繼モノ多シ、コノ故ニ明暦・享保・天明ノ三大火ノコトニツキテ、聞タルコトヲ一ニ爰ニ擧グ、然ルニ明暦ノ事ハソノ實事ヲ擧ゲ、享保ハソノトキノ美德アルモノヲ擧ゲ、天明ハ又事實ヲアグ、ソノ條理ナキヲシルト雖モ、ミナソノ古書ニヨリテシルスモノ、天明ハ目ノアタリニ見聞スルモノナレバ、(寛明事迹錄)共儘ニ書殘スノミ

十二　明暦三年丁酉正月十八日戊亥、風強ク土烟ヲ吹立、五六間ノ外ハ辨ズルコトナシ、巳ノ刻ノコロ本郷本妙寺ヨリ出火、御弓町・湯島・ハタゴ町・カマクラ河岸・淺草へ出、ソレヨリ御門內へ入、コトゴトクヤケ廣ガリタレドモ、風下ハ火ノ子燒板チリ來リテ、コレヲ知トイヘドモ、風上ヨリハ二三丁ノ外ハシル人ナシ、迯サマヨフ人々ノ泣カナシム聲ニテ、火災アリト云ウチ、二三疊ジキノ火ノモエタル屋根ヲ吹飛シ來ル、大手御番小笠原信州公ソレヨリ南へヤケヌケ、柳原・內神田ヨリ東ハ大川ヲ限リ、西ノ丸下馬場先阿部播磨公、紅葉山青山大膳公右ハソレ〳〵功アリ日本橋・京橋・鐵炮洲・八丁堀・靈岸島・佃島迄ヤケテ、夜半後ニ鎭マル、翌十九日大風ヤマズ、午ノ刻小石川ヨリ出デ、火早ク・牛込・小石川御門內へヤケ入ソレヨリ大名屋舖殘ラズ、田安・淸水・雉子橋・一ッ橋ノ御門內へ燒テ御本丸ニウツリ、百人御番所橫田三郎兵衞右西ノ丸へ御成ノ警固ツヒニ天守燒落テ、御殿殘ラズ燒亾ス、ソレヨリ大手ニ出デ、神田橋・常盤橋ヨリ吳服橋・數寄屋橋等ノ御門ヲヤキ、細川越州公西ノ丸下チカタム八重洲河岸ヲ限ル處ニ、又未ノ刻六番町ヨリ出火、淺野內州公登城麴町・半藏御門外四ッ谷御門迄、霞ケ關・外櫻田・山王邊・虎ノ御門ヲ出テ、愛宕町・增上寺門前ヨリ芝ノ札ノ辻マデ、海手ヲ限リ燒スケタリ、江戶中ニテハ西ノ御丸・和田倉・馬場先ノ間、西ノ丸下バカリ殘リタルヤウナリ、又コノ時モ又御城ニ火移ラントスルユヱ、嚴有大君御弱冠タリト雖聰明ニシテ、西ノ御丸へ御動座アル、井伊公ヲ始メ松平肥後侯・豆州公・阿部豐州公・酒井讃州公ミナ守護シ奉ラル、此所モ危キニヨリテ、他所へ移セラル、ノ評論マチ〳〵ナリト雖、ツヒニ御出城無シテ、御無難ニ渡ラセ玉フ、コノ時ノ燒亾萬石以上二百家

燒ノコリタルハ百家ニミタズ、旗本衆數シラズ、燒死三萬七千人、コレヲ集メテ本所ニ葬リ寺ヲ建ル回向院コレナリ、二月四日臨時ニ御暇ヲ玉ハルハ、越州公・仙臺公・秋田公・米澤公・對州公・京極公ミナミナ歸國アル、ソノ外オヒ〳〵御暇ヲ賜フ、又在國ノ諸大名ハ參府サシ止ラル丶ハ、津山公・薩州公・備前公・雲州公・阿波公・藝州公・中川公・森公・有馬公・伊東公・秋月公、ソノ外小家トモニ在國セラル、コレラハ邸第燒亡シテ居處無故ナリ、其粮米ヤケテ民食繼ガズ、工商モ少キユヱニ此下知アリ、御本丸ノ御造營ヲ急ニセズシテ、諸家ノ家作ヲ急ニシ、スベテ領國ヨリ材木ヲ運送シテ、市材ヲ買ハシメズ、ユヱニ市中材木高貴ナラズシテ、商賈早ク家作シテ復居スルニ至ル、諸侯旗本及ビ商賈ニモ金銀ヲ賜ル、ソノ割賦ニハ拜借銀百貫目、一萬石ヨリ一萬五千石 百三十貫目、一萬六千石ヨリ二萬五千石、 百五十貫目、二萬六千石ヨリ三萬五千石、 百七十貫目、三萬六千石ヨリ四萬五千石、 二百貫目、四萬六千石ヨリ五萬五千石、 二百五十貫目、五萬六千石ヨリ八萬五千石、 三百貫目、八萬六千石ヨリ九萬五千石、 右何レモ戊ノ冬ヨリ十ケ年ニ返納ナリ、 御旗本御配分金百石ニ金十五兩、但シ九百石マデ五十石ニ付五兩マシ、 千石ニ金百兩、但シ千四百五十石迄同增、 千五百石ニ金百五十兩、但千九百九十石迄、同增二千石ヨリ五千九百石迄、百石ニ九兩マシ、 六千石ニ金五百五十兩、但六千五百石マデ、百石ニ五兩マシ、同六千六百石ヨリ九千石マデ、 百石已下ハ增多シ、扶持方ハ切米ノ高ニ入、幼少病人ハ石高ニ入、扶持方一人分米五俵ヅヽ、右江戸ノ御金燒失ニヨリ、大阪・駿河ノ御金ヲ宛行ハル、金十六萬兩江戸中類火ノ町人ニ賜フ、間口一間ニ付金一兩二歩、銀六匁八分ヅヽ、ニ當ル 右之金銀ヲ賜ハリテ上下安堵ニ至ル、ソノ餘豆州公ノ善政多シ

十三 享保九年甲辰三月廿二日午ノ刻、大阪南堀江ヨリ出火東北ヘヤケ行ク、北堀江新町島之内ヨリ

船場不レ殘、上町ノ北中之島ノ東ヨリ天滿長柄ニ至ル、ソノハゲシキコト云バカリモナシ、一刻ノ内ニ長柄ニ火見ユル、ダン〳〵ニ飛火スルガユヱニ、中途ニアルモノ如何トモスベカラズ、只東ヘ〳〵トサシツドヘバ、人數上ガ上ニナリ火ニ焦サレ、踏シカレテ死スルモノ數ヲシラズ、辛フジテ逃ル丶モノモ、子ハ親ヲシタヒ、夫ハ婦ヲ見ハナシ、大方ナラザル災也○此日堺ノ政所觸ヲ出シ、大阪ヨリノガレ來ルモノアラバ、盜ハ逐ベシ、其外ハ力ノ限リ救フベシトアレバ、寺々ヲハジメ商賈ミナ食物ヲ調ヘ、コレヲ與ヘ飢ヲタスケテ、老少ヲ留メハゴクミテ、コヽニ來ルモノハ飢タルハナシ○コノ日イカナルコトニヤ、上町ノ木戸〳〵ヲサシフサギテ、逃ルモノ谷町ノ邊ニサマヨヒ、逃亡人上ガ上ニナル火モ亦セマリ來ル、百間長屋ノ預リ人何某下知シテ、壁ヲコボチ聲ヲ立テ呼ニ、逃ル人々ヒシ〳〵トコミ合ホドニ、道ヒラケテノガレ出ルトナン○婦姑ヲ負ヒテ兒ヲ懷ニシテ逃迷フ、火セマリテ衣ニツク片手ニテ背ヲカヽヘ、片手ニテ兒ヲナゲステ、姑ヲタスケ逃ル、倉卒ノ中ニ輕重ヲ決斷ス、誰人ノ婦ナリケン○天下茶屋ノ側ニ茶店ヲ出シ酒ヲ賣ルニ、一盃ヲ限リテ二盃ヲ不レ賣○安倍街道ニ草鞋ヲウル者アリ、逃ル人ノ徒跣ナルガ、買ントイヘドモ一足五十錢ト云、異家ニテ又問ヘバ、其主打見テ、今コノ災ハ左コソ苦シカルベシトテ一足ヲアタヘテ、尚行先モカヽルベシトテ、又一足ヲ備ントス、價ヲシユレドモトラズ、初ノ家トワヅカ隔リテ、人心ノカハルコトカクノゴトシ○鶴ガ橋ノ餅屋ノ主、コノ日餅ヲ造ルコト常ヨリモ大ナリ、買人ノ曰、コレハスギタリ、常ヨリ小クストモウレヤスシト、主人曰、

汝モ男ナリ、人ノ禍ヲ以テ利トスベケンヤ○母ヲ救フテ七貫ノ錢ヲ擔フテ逃ル男アリ、火セマリテ人塞リ逃ベキヤウナシ、錢ヲ捨テ母ヲイダキ、軒ノ庇ヘナゲ上テ、ソノ身モツヾキテハ子登リ、ヒサシツタヒニ逃ルアリ○平野ノ盲人城市ト云モノ、此日艸鞋ヲ賣ニ價五錢ト云、人キヽテ十足ヲカハント云ヘバ百五十文ト云、アヤシク思ヒテトヘバ、曰、今日一足ヲ限リテ、ヤスク賣モノハ人ヲスクフナリ、十足ヲツラネテ買フ人ハ、利ヲ求ムルナリト○天滿ニ居宅カシヤト共ニ燒ウセル人マヅ住宅ヲサシオキ貸家ヲツクル、人ソノ故ヲトヘバ、曰、我ハ藏殘リテ、當座ハ雨ニウタレマジ、家無キ人ハ仕方ナカルベシト云○母ヲ負テ逃ルヽ夫アリ、其妻夫ノ帶ニトリツク、火セマリテ道ニ溝アリ、飛越ントスレドモ妻ハナタズ、夫カヘリミテ刀ヲ以テ手ヲ斬ハナチテ、母ヲ全フシ逃ル、谷町邊ノコトナルヨシ○伊豫ノ松山ヨリ來ル板アキ人アリ、板五千束ヲ舟ニノセテ川口ヘ入、問屋ナルモノ曰、ヨキ節也、一部ノ價廿匁スベシ、時ヲ失フベカラズト云、此人歡バズシテ、問屋ヲ始トシテ相シル人々燒タル方ヘ、ソノ家ノ廣サニ合セテ板ヲ與フ、猶殘ル、コレヲ問屋ヘ持來リテ曰、コノ程ダン〳〵貴キニウレト進メ玉ヘドモ、年比板ヲ升セテ利ヲ得テ富ヲ致スニ、コノ災アリテ利ヲハカル心ナシ、サレドモ皆スクフコトモ及ブマジ、常價ヲ以テウラント思ヘドモ、其許ニマカセバ又我タメヲハカリ玉ハントテ、彼板ヲツミオキテ、一歩ヲ四匁七分五厘ニナンウリケル、二三日ニ賣リツクシテ歸ル、コノ人福田ヤ清六トカ云○老人ノオモタゲニ、物ヲ荷ヒテ火避ルアリ、ツヨゲナル男立ヨリテ、イカニ苦シカラン、

代ラント云、翁オモヘラク盜ナラント、然ドモ持トグベカラズ、與ヘテ身ヲ安クセントコノ男ニワタス、男此翁ノ名ト處ヲ問フ、ソコ〳〵ニ答テ去、火鎭テ後男タヅネ來リテ、燒迹ニテ返シアタヘ、マタ翁ノ身ノ故ナキヲヨロコビ、丁寧ニトムラヒテ歸ル、翁ソノ男ノ名ヲ問ドモ云ハズ〇ソノ外サマザマ有ドモコヽニ略ス、御城內ニハ大番頭衆評議アリテカク大火ニ及ブコト尋常ニアラズ、反逆ノ者アルモシルベカラズ、石火矢ヲ打カケ、府中西海ノ衆ヲシテ御城ノ備トスベシト、鎭將酒井讃州公曰、ユメユメカヽルコトアルベカラズ、數十萬人ヲ鏖センヨリハ止ルニシカジ、モシ後日御咎アラバ、予腹切テ申譯スベシトアリテ、コノコト止ヌト、スベテ先ノ明曆ノ大火ニモ、反逆人ノ所爲ナルベシトノ異見アリト雖、亂世ナラバ有コトモアラン、只々大風ノ時火ヲ失シタルノミ、コノ火ニ乘ジテ惡事ヲナスコトモ又アルベケレドモ、工ミテナスベキコトニアラズ、タトヒ所々ニ火ヲ放ツト雖、風ヤミヌレバ大火ニナルマジ、カヽル大變ニ及ブコトハ人力ニアラズ天ナリ、サレドモ亦油斷スベキニアラズ、又是ヲ以テ恐怖疑惑シテコトヲ過ツニモアラズ、酒井公ノ一言誠ニアタレリ、カヽル時ハ別ノ言ナシ、只一命ヲスツルニアルノミ

十四 天明八年戊申二月朔日曉、京四條𡌛ヨリ出火、河原町ヘ飛テ木ヤ町・寺町ヨリ東本願寺・佛光寺本圀寺・壬生ノ地藏堂ニ至ル、三條・四條・五條・六條通リヲ一面ニ燒ツクシ、西本願寺ハ辛フジテ殘ル、ツヒニ風西南ニカハリテ東北ヘヤケ入、二條御城ヨリ聚樂西陣ヲ東ヘ、二條・一條・立ウリ通リ等ヲ東

へ燒立ル、北ハ妙顯寺・妙覺寺・相國寺ヨリツヒニ禁裏ヘウツリ、仙洞・女院御所・公家衆一所モ殘ラズ燒失ス、寺町ヨリ河原ヲ東ヘ渡リ、野ニ至リテ鎭マル、二日午ノ刻ナリ、主上加茂ニ御幸アリテ、ソレヨリ聖護院ヲ行宮トシ玉フ、仙洞御所ハ青蓮院ヘ、女院御所ハ妙法院ニ遷幸アル、ソノ外親王家公卿百官ミナ／＼チリ／＼ニ移住セラル、此時諸司代參府ノ留主ニテ、ソノ迹松平泉州公ニキハマルト雖、イマダ上洛ナシ、火消當番松平紀州公一人ニテ、禁裏御城ノ火ニカヽリ、又行幸ノ供奉セラレ、ソノ辛苦云ベカラズ、其外コレヲ略ス、コレヲ三都ノ大火トス、ソノ外ニモ東都ニオイテハ、幾回ノ大火アリト雖、明暦ヲ最大トス、明和コレニ次グ、京都ニテモ禁裏炎上ノコトタビ／＼有レドモ、天明ノ如ク大ナルハ有コトナシ、大阪ニテハ享保ニ繼グモノナシ、是ヲ以テミレバ、今昇平ニアリテ恐ルベキハ火災ナリ、饑饉山燒モ亦恐ルベシ、アラカジメコレヲ防グ時ハ、大害ハナカルベシ、愼デ政ヲスル人、コヽニ心ヲ用ヒ玉フベシ、我聞神君大雷ノ時ニ群居ヲ制シ玉フト、コレ仁者ノ心ナリ、スベテ難アル時皆無ニ免ルヽコトカタシ、ソノ大ナランヨリハ、寧其小ナルヲ願フベシ、一人ニテモソノ難ノ少キヲ是トスルハ、變ニ處スルノ要ナラントナリ

十五　享和二年七月朔、ソレヨリ前四五日大雨シテ、ソノ日淀川大キニ溢ル、晦夜東近江諸國洪水草津守山等ノ驛多ク流レ失ヌ、宇治淀ニ溢レ、高槻・伏見・鳥羽ノ邊オヒ／＼ニ坡ヲ押切テ、田畑ニコミ入、左田・占野・仁和寺ノ堤ヲキリテ、北河內一面ニ洪水トナル、大坂城東南北凡六七里、東西二三里

水ノ涸レザルコト八十日、ホトンド湖水ノゴトクニシテ、森林村落ノ中ニ漂フ、玉造・稲荷ノ祠ヨリ臨メバ、奥ノ松島ニ異ラズ、初メ水ノ至ルヤ急ニシテ、村民驚キ周章テ、親ヲ背ニシ子ヲ懐ニシテ迯迷フ内ニ、水イヨ〳〵滔リテ、棟ヲ浸シ軒ヲ沈ムニ至ツテ決スル所ナシ、已ニ網島ノ堤ヲ斫コト百間バカリソレヨリシテ又大阪ヘ流レ入、本河ノ水シメノヨリ河内ヘ流ルヽユヱニソレヨリ下ハ水減ジテ平水トナル、又網島ヨリ本河ヘ流レ入テソレヨリ上ハ逆流スルコト一里許、宜ナル哉此河豊臣氏ノ時大湊アリテ、八幡・山崎ノ間ハ掘ツメテ、底ノ石アラハレシト云コト俗傳アレドモ、シカト正書ニ見ルコトナシ、ソレヨリ二百年來土砂流レテ、田地ヨリ高キコト數尺ユヱ、コノ水ミナ河州ヘ流ルヽコトナリ、水邊ノ古老ノ曰、古ヘ城下ノ家ヨリ立テ通船ノ帆檣ヲ見ル、今ハ座シテ見ル、家ノ地ヲ築上タルニアラザルナリ、堤上ヲ削リタルニアラザルナリ、水底ノ埋レテ高クナリタルナリト、是ヲ以テ見ルベシ、元來此川山城・近江・大和・伊賀・丹波ノ川々アツマリ流ルヽコトニシテ、殊ニ琵琶ノ大水只コノ一河ニ決ルコトナレバ、大抵天下第一トスベシ、又大和川ハ河内ノ國分ヨリ、大阪城東ヲ通ジテ淀川ニ入ルユヱニ、雨水ノ内ナルヲ以テ河内ト云、水ノハケ處ナクシテ沼トナリ、東ノ山麓ニ瀦トナル、コレヲ茨田池ト云、後深野池ト云フ、貝原氏曰、周回三里中ニ三島アリテ、漁家住ス、池ノ繞リ四十村アリト、コノ地東ハ高山ニシテ、二水ニツヽマレタル故沼トナルナリ、大阪役ニモ城東ハ寄ガタク、松原ヨリ若江・深江ノ地戰場トナル、京街道モヤウヤク片町鴫野ヘ出タルナリ、ソノ後元祿ノコロ川村瑞軒ト云

モノ、大和川ヲ泉州へ決リテ、河内ノ水ヲ引タル故ニ、沼カレテミナ新田トナル、深野池ノ迹ハ今ハ深野新田・鴻池新田ト云、島中ノ三村モ平地トナリテ、上下ノ三箇及住ノ道ト云、貝原氏ヨリ瑞軒ノ畢ニ至ル二三十年、瑞軒ヨリ今ニ至リテ百年餘、池ノ水變ジテ桑田トナル、此ヲ以テミレバ後世イカヾ變ズベキ、然ルニ百年ノ間兩回ノ洪水アレバ、ソノ餘年ノ收納夥シキヲシルベシ、又コノ川伏見ヨリ大阪ノ間、豐臣氏以來川浚アルヲキカズ、シカルニ湖水ハ兎道川ヨリ至リ、丹ノ水ハ桂川ヨリ入リ、京師ノ水ハ鴨川ヨリ道ビク、コノ三水土砂流ルヽコト少シ、只木津ノ一水土砂夥ク流レ入テ、淀ノ大橋ヨリ本水ニ合シ、南ハ濁北ハ清ニシテ、二三里流レテ混濁ス、ユヱニ川ノ底埋レ高クナリテ、加フルニ川中ノ流作ヲ以テシ、イヨ〳〵マス〳〵洪水ニ窘ムヤウニナリタリ、平生ハ無事ナリトイヘドモ、滿水ニ至リテハイカントモスベカラズ、又坡ノ柔輭ヲ以ススレバ、コノ難ノヨリテ起ル處ヲシルベシ、スデニ坡切レタル上ハ、水底ヨリ田地ハ二三尺モ低キコト故、擧水決口へ流入テ、イカニ防トモ築止ムベカラズ、ヤウ〳〵ニ九月二十日ニ至リテ、築止メ得テ本水ニ流レ、百姓居村ニ歸ルコトヲ得タリ、水ノ治ラザルコト、八十餘日、村家過半ハ崩壞シテ歸住スルコト能ハズ、アヽ悲シムベキ哉、今大阪市中ニテ川浚冥加金ト云モノアリテ、コレヲ以テ浚へ玉へバ、市中ノ水ハヨク道ビクベケレドモ、大阪ヨリ伏見ニ遡ル十里ノ間ハ、二百年來川浚ノコトヲ聞カズ、官ヨリ大役ヲ起シテ、二三十年ニ一度ノ大造ナクテハカナフベカラズ、日本紀仁德天皇十一年、茨田ノ堤ヲキヅク、衣手絕間ノ古迹ハ今ノ

シメ野ノ切所ナリ、今訛リテ太間村ト云、難波舊地考ニコノ地ノコトクハシクシルス皇極天皇長柄川ノ洋溢、土佐日記ノ渴水、
慶長ノ役ノセキトメ等史册ニアフル、久シク流レタル川ナルヲシルベシ、シカレドモ神武天皇舟軍ヲオ
コシ、白肩ノ津ニ至ルト云ハ、今ノ枚方ニシテ、ソノ時ハ海濱ナリ、ソレヨリダン〳〵ニツキ出シタ
レドモ、長柄川ノ橋ヲ掛ルハ板橋多ク有テ、今ノ中津川神崎川ハツヾキタリト聞及ブ、ソノ廣大シル
ベシ、今ハ三派ニ分流ストイヘドモ、コレ又濶キ處ニテ百四五十間ニスキズ、狹キハ七八十間ナレバ、溢
ル丶モコトワリナルベシ、サテコノ水難七月朔日ノ夕ヨリ、大阪市中ヨリ少シヅ丶志アルモノ施行ヲナ
ス、上下ノ志情一致ス、故ニ其コト大ナリ、二同ニ人手野二」ノ時ヲ得タリ其餘ハ志アリト雖果サヾル人多キ處へ、官ヨリ下知アリテ、施行ノコト
ヲ道キ玉フ、コレニ同ジテ、ソノ夜ヨリ市中コゾリ立テ、米穀金錢酒飯ノルイ我一ニト持行テ、與フ
ルコト櫛ノ齒ヲ引ガゴトシ、又米ニテ官へサシ出シタルヲ、豪家へ下知アリテコノトキ一人モ流失ナシ焚出シテコ
レヲ與フ、ツヒニ道頓堀ノ劇場ヲアケサセ、逃亡ノ民ヲコ丶ニ入レテ養ヒ玉フ、ア丶上下善ニクミス
ルノスミヤカナルヲシルベシ、或人曰、淀川土砂ハ木津川ヨリ出ル、土沙ノ多キハ木津ヨリ淀ニ至ル十里ノ間ノ砂山ヨリ流レ出ルニアルナリ、シカルニ木津ヨリ歌姫山ヲ斫キテ郡山ヲ疏シ、大和川へ落ストキハ、名張笠置加茂ノ水ハ皆泉堺へ出デ、七八里ニシテ海ニ入、コノ水ヲ道ビクトキハ木津ヨリ淀マデ山々ノ土砂流ルトイヘドモ、本水ノ大流アラザレバ土砂ノ出ルコト少シト、コ丶ニシルシテ後ノ君子ヲ俟ノミ九月ニ至リテミナ〳〵
ソノ居村ニカヘル、ソノ後市中ヨリ施行セシ高ヲシルシテ、江都ニ奏セラレシニ、文化元年甲子九月
ニ至リテ、ミナソノ輕重ニヨリテ物ヲ賜ヒ金銀ヲ賜フ、善政ト云ベシ、然ルニソノ施行ノ品金ニアツ
メテ凡二萬兩余ト云、他國ニアラバカクハアルマジ、ミナ餓死スベシ、大都ノ近國ニ住居スルノ幸ニ

シテ饑ヲ免ル丶コト、又偶然ナランカ

十六　普請ハアマネクコフト書ケバ、人ヲタノミテ手傳ヲ受ルナリ、家根ガヘヲ仕ル、村中ノ人々來テ玉ハレトタノム、多人數來リテ働ク、コレ村中相互ノコトナリ、寺ノ造作ニ信者多衆ヲタノミテ働キテ、木石ヲ運ビ土砂ヲニナヒ築クノ類ミナ同意ナリ、然レバカクノ如ク人ヲタノミテ、他力ニヨリテ造作スルヲ普請ト云ベシ、今ニテハ寺社ノ旦那氏子ヘ賴ミテ造作スルハ、コノ普請ナリ、自カラ木石土瓦ヲ買アツメ、大工日傭ヲ雇ヒテ造作スルハ、コレ建立ナリ、普請ニアラズ、寺社ハ普ネク請テ建立トシ、自作ハ建立ニテ普請トス、ミナソノ義ヲ失フ、官ニ普請奉行アリ、コレ何ノ義ゾヤ、佛家自カラ給スルコトアタハズ、人ノ施ヲ乞テ、ソノ施主ヲ旦那ト云梵語ナリ、ソレヨリ轉ジテ仕フル主人ヲ旦那ト云ハ、事フルコトハイハズシテモノヲモラフ義ヲトルナリ、戰國ノ時ハ士大夫ミナ不學ナリ、文字ヲシル人少シ、只文字ヲシルモノハ僧ノミ、ユヱニミナ佛語ニ引付ラル丶モノナラン

十七　古語ニ、飯ノ味ヲ助ルモノヲ「ナ」ト云、今文字ヲ入レテ訓シテ菜ト云、蕪菁菜・大根菜ハ民間ノ常ニ菜トスルモノユヱニ、「ナ」ト云ヨリ、「菊ナ」「嫁ナ」ノルイモ、本名ノ下ニ「ナ」ヲツケタルナリ、ユヱニ魚肉ヲ眞菜ト云、實ノ菜ナル故ナリ、又ソノ用ユル道具ヲ「マナ板」「マナ箸」ト云ナリ、又酒ノ菜ヲ酒菜ト云、酒ヲ助クルモノ也、殽ノ字ヲハメテ「サカナ」トヨミテ、終ニ魚肉ニ限ルノ名トナル、精進魚類ニ限ラズ、酒ヲタスクルモノハミナ「サカナ」也、獸肉ヲ「シ丶」ト云也、昔ハ猪鹿ヲ以テ常ノ食物ト

ス、ユヱニ猪ノ「シヽ」鹿ノ「シヽ」ト云テ、イキテハシルモノヽ猪也鹿也、コロシテ截(キリ)タルモノハ、ヰノシヽナリ、カノシヽナリ、然レバ「シヽ」ハ肉ノコトニテ、今ノ「シヽ」ニハアラズ、コレマタ蕪菜大根ノ菜ト同ジ、(「シヽ」ハ獅子ナカリシニハアラヌカ)古ヘ猪鹿ヲ常ニ食セシヲシルベシ、中世佛法流行シテヨリ、奈良ノ時ニ獸肉ヲ食フコトヲ禁ゼラル、コレハ牛・馬・猿ノ三物ナリ、ソノ他ハ禁ナシ、世俗神家佛家ノ訛ヲウケテ、イツトモナク獸ト云ヘバ、食ハヌ物トナリタル也、古ヘハ神前ヘハミナ獸肉ヲ獻ジタルニ、イツトナクヒカヘルヤウニナリテ、今ハ獸肉ヲ食ヘバ穢ヲウケテ、神前ヘ出ルコト叶ハザルト心得タリ、ミナ佛者ヨリ出ルコトニシテ、佛者ハ殺ヲイミ慈ヲシユ、故ニ肉ヲ禁ズ、神ハ穢忌ヲ禁ジテ肉ヲ禁ズ、ソノ本ハ異ニシテ末ハ同ジクナリタルモノ也、竟ニ獸ヲアツカフモノヲ賤シメテ穢多トシ、(今ニテモ大社ノ古禮ヲ存スル祠ニハ、獸牲ヲ用ユルナリ)居ヲ異ニシテ、火マデモトリカハサヾルヤウニナリタリ

十八　俚俗ニモテハヤス歌ニ

にくまれて世にすむかひはなけれども
かわゆがられて死ぬよりはまし

ト、此歌大キニ人ニ不仁ヲ敎ヘタル種トナル、必ズ口ニモ誦スベカラズ、庶人ノ愚ナル、コレヲヨシトシテ、惡マレテモ死ヨリハマシト云テ苟モ免レントスルニ至ルベシ、ユヱニ余此歌ヲ直シテ曰

にくまれて世にすむ甲斐はなきものぞ

かわゆがられて死ぬるのがまし

ト、サテ此歌ニアヒタルハ、富天ノ句ニ

にくまれて永くふる人冬の蠅

ヨク云タリ、ア丶此蠅ノ多サヨ

十九 早野辨之、字ハ子譽、永輔ト稱ス篤行ノ人ナリ、父藤太郎命ジテ竹山先生ニ就テ學バシム、二三年ノ後藤太郎來リテ先生ニ謁シ、永輔ノ業ノナルベキヤト問、先生曰、子必憂フルコトナカレ、永輔ヨク學ブ一生貧ナルコトウケ合ベシト、藤太郎頓首シテ曰、先生ノ恩忘ルベカラズト、ア丶コノ父アリテ此師アリ、業ノナルヤ宜ナリ、ソノ子義三亦宏才ナリ

二十 但馬城ノ崎湯島ノ人黑崎氏、治勞篇ヲ作テ曰、罹ニ此病ニ而死者四焉、醫殺レ之也、醫書殺レ之也、親戚殺レ之也、自求死也、醫云、脉數咳嗽、所レ謂癆瘵、不レ可レ治之症也、是醫殺レ之也、古今醫書皆謂、虛損癆瘵、因レ名謬レ治也、是書殺レ之也、痰咳不レ愈、則親戚怖レ之曰、嗚呼癆瘵也、是親戚殺レ之也、愚人聽ニ醫師親戚之言一、自分以爲ニ終不レ可レ起也、是自求死也」云々、夫癆症ノ病タル、治スベカラザルニ斷ズベカラズ、ミナソレ〳〵ニ治ヲ得ルノ術アル也、只醫ノ是ヲ思ハザル也、能ハザルニアラザル也、治勞篇ニ治方ヲ出ダスト雖、我コレヲ辨ズルコト能ハザレバ必トスベカラズ、只コノ四死ノ言ヲ愛スユヱニコ丶ニ錄シテ君子ヲ俟ノミ

廿一　杉田先生ノ七不可ニ云、昨日非不レ可ニ恨悔一、少シノアヤマチクヨクヨト思ヒテ忘レザレバ、氣欝結シテ病ヲ生ズ、大テイニ放下セヨ　明日是不レ可ニ慮念一　サキノコトヲアラカジメシテ、成ザルコトヲシヒテナサント、無益ニ思ヒテ労シテ欝滞スルナリ、此二ツノモノハ天壽ヲ損ス　飲與レ食不レ可ニ過度一、飲食ハ體ヲ養フガ爲ナリ、飢ベカラズ、又飽ベカラズ、毒物ヲ食ベカラズ、スベテ其飲食五體ヲ環リテ、下シテ其盡ニ下ルモノナシ、多ク食スレバ草木ニ屎ノ過タルガ如シ、ユヱニ悪物ヲ食スレバ其氣欝結ス、善物ヲ食バ其氣循環ス　非ニ正物一不レ可ニ苟食一　不潔ノ物、饐餲ノ物、ミナ五體ヲメグリテ毒トナルモノナリ　無レ事時不レ可ニ服薬一　薬トイヘバ、能アルヤウニ人ハ思ヘドモ、ソノ病ヲ防ギ退クルノ兵劍ノゴトシ、病アレバ其病ヲ相手トス、ユヱニカマヒナシ、病ナケレバ腹中ニ入テ仇ヲナスコト、狂者ニ劍ヲ持セタルガ如シ近ヅカザルヲ愈トス　頼ニ壯實一不レ可ニ過房一　人ノ精水ハ其量アルモノナリ、ミダリニツヒヤセバ命ヲ損ズベシ　勤ニ動作一不レ可レ好レ安、體ヲヨクコナシ、飲食ヲ程ヨクスレバ、化シテ血液トナル、安樂ニシテ體ヲ動スコトナク、徒ニ飲食ヲ恣ニスル時ハ欝滞シテ悪血トナルモノナリ、故ニ自ラ働カセテ後ニ食スベシ、而シテ程ヨクバ何ノ病カアラン、　人ノ病ヲ生ズルハミナコノ氣ノ欝結ト、飲食ノ節ヲ得ザルト、過房ト安逸ニ出ルモノナレバ、ヨクコレヲ慎ムベシ、杉田先生コレヲ印シテ施トス、大槻先生亦コレニソヘテ三不治ヲノブ、曰、賤者病不ニ盡治一、貧賤ノ人ハヨキ醫ヲモトメテコレヲ恃ムコトアタハズ、今日ノ業ニヨリテ存分ノ保養モナラズ、朋友ノ言ヲ信ジテ、此ニ託シ彼ニヨリテ、良醫ノ見立ヲ受ルコトナケレバ、治ヲツクシ保養ヲスルコトナラズシテ、ツヒニハ死ニ至ル、哀ムベシ　豪家病不レ順レ治　富豪ノ人ハ常ニ身ヲ我マヽニ持テ、保養モ怠リ、飯食ヲ過シテ、房ニフケル、タマ〳〵病ヲ得レバ、衆醫ヲ招キ朝夕ニ薬ヲ轉ジ、カリソメニ人參犀角ノ貴重ノ薬ヲ用ヒ、又ハ阿諛ノ人々ニ迷ハサレテ、日々ニサマ〴〵ノ薬ヲ與ヘザルハナク、不食スレバ忽チ名薬珍肴ヲ贈リテ食シム、巫祝卜者ニ託シテ、取トヾムベキ方ナキニ至ル、ユヱニツヒニソノ治ヲ順ニスルコトナクシテ死ニイタル　尊貴病不レ決レ治、貴人ハ天ノ寵靈ニヨリテ生レ玉フ御身ナレバ、羨ムベキノ第一ナリ、シカレドモ壽夭死生ノコトハ天ニアリテ貴人ト雖免カレザルナリ、ソノ病アルニ至リテハ、自然ノ治ヲ施スコトアタハズ、先胎内ヨリシテマサニ大切ニスギテ、平人ノ如クナスコトアタハズ、乳母多ク抱ヘテ乳ヲ過ス、其産母ノ乳ヲ飲コトカナハズ、寒ニナレバ暖ヲスゴス、又菓肴ノアルトアラユルヲ備ヘザルコトナク、起居運動少シ、常ニ持薬ヲ用ヒテ、萬一ノトキ薬ノ功ナシ、其病ヲ得玉ハヾ只大事々々ト主張シテ、衆醫ヲ集メテ論ヲカサヌル中ニハ、的當ノ薬ヲ言出ストイヘドモ衆議マチ〳〵ニシテコレヲ奉ラズ、又古人ノ書ニナキクスリハ、タトヒ的當ノ薬トイヘドモ、決シテ用ユルコトナク、鄭重ニ過テツヒニ死ニ至リ玉フナリ

コノ論大キニ略ス、本書ニヨリテコレヲ得ベシ、中ニモ大槻先生ノ三不治ヨク當時ノアリサマヲ摸シ出ス、是ヲミテ思ヒ考フベシ

廿二　大槻氏ノ六物新志ニ載ル處一角(ウニコール)・泊夫藍(サフラン)・肉豆蔲・木乃伊・噎蒲里・哥人魚ノ六物ナリ、ミナソノ出ル處ヲ詳ニシ功能ヲ述ブ、シカルニ一角ノ古ヘト（百年バカリ前ニ渡リタルヲ通天犀角ト云花紋犀角ト云、然レバ其時ハ犀ノ種類ナリ）反スル大ニシテ、百年ノ前ハ其効甚ダシクシテ、今ハ其効微ナリ、是信ジテ用ユルト、信ゼズシテ用ヒザルニアルカ、古ヘハ獸ノ角ニシテ、今ハ魚ノ觜ナリ、今齎來ルコト何ゾソレ多キヤ、物多ケレバ寶トセズ、少ケレバ寶トス、シカレドモ是ヲ病人ニ施ス、ナンゾソノ多寡ヲ辨ゼン、ミナコレ人情ニアルカ、又ハ古ヘノ物ハ獸角ニシテ、今ノ物ハ實ニ魚觜ナルヤ、木村蒹葭堂子一角纂考ヲアラハシ、六物新志ノ缺ヲ補フ、ソノ辨コノ書ニ詳ナリ、泊夫藍ト云モノモ、本草ニハ蕃紅花トス、コレモ又後世ト品カハリヌ、其外ノ四物モイロ〳〵説アリ、本書ニ讓テコヽニ略ス

廿三　鍼療灸治ハ西洋ニ用ヒズ、內科ハ麁ニシテ、外科ニクハシト云傳フレドモ、左ニアラズ、內科撰要ヲ以テ見ルベシ、內ヲ療スルニ外ヨリスルコト多シ、ユヱニ外科ヲ以テ名ヲ得ルナリ、又イマダソノ治効ヲ見ズシテ、外療ノミヲ信ズルモノナリ、外科ノ術ニ、藥物ニ糸ヲツケ物ヲ入、胃中ヲマゼテ惡物ヲ吐ス法アリ、コレヲ「マトガヘーブル」ト云、肛門ヨリ藥ヲ入ルヲ「キリステール」ト云、（「キリステール」ハ「タルムワツセン」ト云、「スボイト」ニテハジクトキハ乳汁及飯ノトリ湯、ソノ餘ユルキモノハミナコレヨリ入ベシ、浣腸ノ法ナリ、五七年前マデハ產後陰所ハレテ小便通ゼズ、滿身腫トナリタルナイカントモスルコトナクシテ、空シク見ゴロシニセシニ、近年「カテイテル」ワタリテヨリ、コノ死ヲ免ルトイヘドモ、江戸・大坂ニ流布シテ、イマダ諸國ヘ行トヾカザレバ、ソノ功全カラズ、早クコノ器ヲ諸國ヘヤリテ、死ヲ救タキ事ナリ）蟻ノトワタリノ邊ヲ切テ、石痳ヲ治スルヲ「ステーンスネイテイン」ト云、壯夫ノ手筋ヲ切リ、又病人ノ筋ヲ切テ、管ヲ通シテ正血ヲトル

ヲ「プルータツセンキ」ト云、腹ヲヒラキ胎ヲ出スヲ「ケイヅルレイキスネーテ」ト云、痘ヲウユルヲ「インエンテ」ト云、小便閉ヲ患フルニ小便ヲ通ゼシムル器ヲ「カテイテル」ト云

二十四　漢人ハ様サズシテ妄ニ杜撰ノコトヲ云、天竺・日本コレヲ倣フ、マヅハ醫書ニテコレヲ知ルベシ、素問難經ヨリシテ下數百部ノ醫書妄説多シ、ソノ五臟六腑ヲ五行ニ配シ傳ヘ來ル説、五行ノ説ニヨリテ病ヲ療スルトキハ、ナンゾソレ實功アラン、西洋人ニテ論ズルトキハ四大ヲ以テ療スベシ、天竺人ハ地水火風空ヲ以テ療スベシ、豈何レノ國トシテカ臟腑ニカハリアランヤ　大本スデニ失フ、心ノ臟ハ一心ノ主宰ニシテ、思慮知覺ミナコレヨリ出テ、視聽言動ミナコノ心ノ臟ノ命ニ從フト云モノハ、大ナル誤ナリ、心意ハ今云コヽロ也、心ノ臟トハ別ナリ、漢醫コレヲ一トス、腎ノ臟ハ飲食胃ニ入テ腸ニ至リ、其滓渣ハ屎トナリ、其液汁ハ動脈血脉ヨリダン〳〵上ヘ升リテ、血管ニ入テ一身ヲ周流シ、終ニ腎ノ臟中ニ入テ鹹汁ト淡汁等ヲ漉シ分テ、膀胱ニ送リテ小便トナル、腎ハ小便ヲ製スル場也、精汁ハ心ノ臟ヨリ送リ出シテ、睾丸ニ至リテ醸シ製シテ又升リ、横骨ノ上ヲ通リテ精嚢ニ貯フ、ソレヨリ交感シテ精汁ヲモラスナリ、スデニ此二臟ニシテ其實ヲ失フ、體ヲ解キテ實見セザレバナリ、シカレバ則チ心志ノ發スルモノト、心ノ臟ヲ一トシ、精汁ト腎ノ臟ヲ一トス、同字ヲ以テコレヲ號テ、四千年ノ長キ、數千百萬億人ノ多キ、ミナコレニ委任シテ疑ハズ、アヤマリト云ベシ、豈カナシマザランヤ、ソノ外五行ノ説ニ引付惑ハサレテ、歴々ノ大醫ノ著ハシタル書ニ、皆五行ヲ以テ説ザルハナシ、和漢ノ醫タル古書ニナヅミテ、西洋ノ實見實功ヲ得タルヲシラズ、幸ナルカナ當時ニ至リテ、西洋ノ書ヲ翻譯シ、其

術ヲ弘ムルコトサカンニナリヌ、喜ブベシ、コレヲ以テ西洋ハ醫學實ニ外治ノミ精密ナルニアラザルヲシルベシ、和漢ノ醫學ソノ道ニクハシト云輩ト云ドモ、ミナ實見ニツトメズ、徒ニ空談ノミヲ以テ活人ノ病ヲ治療セントス、生ヲ得タル人々ハ幸ニシテ免タルモノカ、萬町琴坂ト云儒醫和蘭陀醫治ヲアラハシテ、和漢ノ誤リヲ正シ、始メテ千古傳來ノ固泥ヲヤブル、一快ナラズヤ、スベテ西洋ノ人事實由來ヲ求ムルコト淵源ヲキハメザレバオカズ、和漢ノ人ノ及ブベキコトニアラズ、ユヱニソノ固滯妬心ヲヤメテ、事々ミナ西洋ニ伏從シテ、一藥一能ニテモ發明スルコトアリテ人ヲ療スルトキハ、天下ノ幸ナリ

二十五　古ヘヨリヨク勤ル人ハ功ヲトゲ、怠ルモノハソノ國家ヲ失フニ至ル、機ヲ見テ動キ、時ヲシリテ行フ人ハ、何事ヲカナシ得ザラン、ユヱニ身ヲ起スハ勤ニアリ知行ニアリ、カクノゴトクシテ成就セザルハ天ナリ命ナリ、此天命ハ論ズベカラズ、只勤愼知行ニアヅケテ死シテ後ヤムベキナリ、ヨクツトメテ遂得ル人ハ、堯・舜・禹・湯・高・盤・文・武・益・稷・伊・傅・周・召ノ類ナリ、孔・顔・曾・孟遂得ズト雖、教ヲノコシテ萬代ノ師トナル、亦遂ルナリ、ソレヨリ後巨細ニ論ズルニ暇アラズ、タトヒ遂得ズトモ、仁ヲ以テ己ガ任トシ、一寸ノ間斷ナクツトメタル（人學バザレバ道ヲ知ラズ、又禮ヲシラズ雖コレ是ニヨルノミ、アニ丈夫ニ生レテカクノゴトクナランヤ）人々ハ、人ノ人タルベキ任ヲツトメタルナリ、ツトメズシテオコタリテ、一生人ノ人タル道モナシ得ズ、愚痴蒙昧ニシテ木石ト共ニ朽チハツル人ハ、口ヲシキコトニアラズヤ、然ドモ不仁不道ニシテ天

下國家ヲサワガシ、萬民ヲ塗炭ニ苦シメタル賊ニハマサレリ、孟子曰、「挾二泰山一踰二北海一」云々、コレ實ニアタハザルコトナリ、「爲二長者一折レ條」云々コレ實ニセザルナリ、アタハザルニハアラザルナリ、今ノ人ノ怠ルハ、ミナ北海ヲコユルニアラズシテ、條ヲ折ザルナリ、シカレバ則チセラルベキコトヲセザルナリ、夙起テ夜寐孳々トシテ善ヲスル、何ゾ外ニ恐ルベキコトアランヤ、酒ニスサミ色ニスサミ、盜賊亂行・不仁不孝ニシテ善ヲスヽメズ、人ヲシヘタグル時ハ、天ニセグヽマリ地ニ抜足シテ、薄ノ穗ニモ恐ルベシ、只是鷄鳴テ起、善ヲスルニシカザルナリ、縱横者ノ論ト雖コヽニ擧グ、蒯通韓信ニ說テ曰、「猛虎之猶豫、不レ若二蜂蠆之致一レ螫、騏驥之跼躅、不レ如二駑馬之安步一、孟賁之狐疑、不レ如二庸夫之必至一也、雖二舜禹之知一、吟而不レ言、不レ如二瘖聾之指麾一也、此言能行レ之、夫功者難レ成而易レ敗、時者難レ得而易レ失」云々、コレミナ爲ベキコトニオイテ早クスベキヲ云ナリ、猶豫シテセザレバ、ツヒニ遂エザル也、今ノ人ハ皆怠リテナシエズシテ、果報ハ寢テマテトノ惰語ヲアテニシテ、手ヲ出シテスルコトナシ、故ニツヒニナシエザルモノナリ、己ガ任トシテツトメウレバ、三人ニテ事ナルベシ、ナサヾレバ、百人アリトモ、千人アリトモ、何ゴトヲカナシ得ベキ、アヽ勤メヨヤ、兒輩ツトメズンバアルベカラズ、善ニスヽムベシ、惡ニ心ザスコト勿レ、君父先祖ノ恩ヲ忘却スルコトナカレ、親類家屬ムツマシカルベシ、節儉行フベシ、驕奢長ズベカラズ、ツトムベシ、仁義忠孝ノ道學ブベシ〱、記誦詩章ノ藝長ズベカラズ、學文ヲシテ却而天下ノ輕薄ノ子トナルコトナカレ、ミナコレ實行ノ學ヲセ

ズシテ、虛名ヲ希フノ罪ナリ、カヘス〴〵モ過ツコトナカレ、竹山先生曰、詩ハ學者ノナグサミナリト、實學ナツトメテ間々ニ、ナグサミニ詩ヲツクルベシ、詩文ニテ身ヲサマルベカラズ、又人ヲ治ムベカラズ、中古王家ノサカンナル、歌學ノミニフケリテ終ニ天下ミダル、殷鑑トスベシ

二十六　王代ノ時ハ祿秩何町何反何畝トス、鎌倉ヨリ以來モ何町トス、ソノ後代錢ニ直シテ何貫文トス、ソノ次ハ今ノ石トナリ、反畝ヲ以テスルモノハ古法ニシテ見安シ、貫定ノ法ハ、地ナラズ、米ナラズ、諸士ノ知行ヲ錢ニテトナヘタルハ如何ニト云ニ、諸國騷亂ニテ、米穀ノ交易モ自由ナラズ、一國々々ニテ價モ違ヒ、又今日アレドモ明日ハナクナリタル時ナレバ、大抵地面ミナ極ムトイヘドモ、公ヨリ渡ス所ハ代錢ナラン、コヽニオイテ其代錢ヲ以テ、ツヒニソノ士ノ身體トトナヘタルナリ、太平ニ及ンデ代ヲ止メテ地ニテ渡シタルナリ、シカレバ貫定ハソノ國國ノ相延ニテ云タルモノナレバ、通法ニアラズ　貫ヲ以テスルモノハ大ニ異ナリ、皆國々ノ違アルヲシラズシテ一概ニ論ズベカラズ、ユヱニ分別シガタシ、地理根源記ニ云、關東ハ二石五年替ヲ以テス、知行百石ヲ永錢二十貫文トスルハ、百石ノモノナリ、五十石代永錢二十貫文トナルヲ以テ也、仙臺南部ハ五石替ヲ以テス、知行百石ヲ永錢十貫文トスルハ、百石ノモノナリ、五十石ノ代永錢十貫文トナルヲ以テナリ、豐臣ヨリ以後スベテ高石トナルト雖、仙臺ニテハ今ニ貫代ヲ用ヒテ、家中ノ知行ヲシルシ、朱印モミナ貫代ナリ、ユヱニ十貫文ヲ百石トシ、百貫文ヲ千石トス、シカルニ毛利元就三千貫ノ知行ヨリシテ中國十州ノ大守トナルト、珍ラシキヤウニ云モノハ、三萬石ヨリシテハメヅラシカラズ、此時匹夫ヨリシテ天下ヲ取テ、太閤ノ官ニ至ル人アリ、又我神君モ三河一國ヨリ起リテ關八州ヲ領セラレ、利家ハ陪臣ヨリシテ加能越ノ太守トナルヲ以テ見レバ、元就ノ元知三萬石ニハアラザルニ似タリ、土佐國畑郡中村ノ鄉不破村ノ八幡宮ニ、一條家ヨリノ古文書アリ　コノ錢ヲ金ニアテ、ミレバ、仙臺ノ百石ノ物成五十石代金拾兩、關東ノ百石物成五十石代金二十兩、西國ノ百石物成五

十石代金二十五兩ニテ、同ジク百石ノ高ニシテソノ直段不同アルユヱ、
代金ニテイヘバ、ミナ不同アルナリ、シカレドモ高ニテイヘバ不同ナシ

於ニ本郷中村ニ　八幡ヘ新御寄進田之事

中ノ前田　一所　一貫　有間ノ内　光任小作 彌五郎
ハシラ松　一所　一貫分　目黒ノ内　泉忠□□
大ホトケ　一所　七百五十分　歳橋分
ミワノ下　一所　二百五十分　立石方

合而參貫文歟

永祿二年己未三月吉日

康政印

俗說贅辨ニ云、田千歩ヲ一貫トス、今ノ三段三畝十歩ナリ、然レバ田十萬歩、今ノ法三十三丁三段三畝十歩ニシテ、知行三百三十三石三斗三升三合也ト、シカルニコノ說何ノ据ヲシラズ、又コノ石數ハ五ツノ物成ナルベシ、知行ニアラザルナリ、知行百石ノ物成五ツナレバ五十石、四ツナレバ四十石ナリ、大テイ一反ノ高下ヲ一石二三斗トシテ、上ヲ二石二三斗トス、凡平均二石ナリ、シカレバ三十三町ノ高ハ六百六十石ニシテ五ツナリ、三百卅石ナリ、上下ノ品ニヨリ、五百石・七百石トモナルベシ、スベテ段ニテアツル時ハ、ソノ經界顯然タリ、貫ハ物成ノ直段ナリ、實ノ取箇ヲ云、知行ハ田地ノトリ

高ニシテ、百姓ノ持高ナリ、コレヲ五公五民・四公六民ナド、物ナリヲ分ルナリ、ユヱニ三ケ條ノ稱ト實入トミナ差異アリ、シカルニ又論アリ、北條家關八州ヲ領セシ時ニ明船一艘漂着ス、ソノ船ニ永樂錢ヲ多ク積タリ、ソノ時金錢拂底ノ時ナレバ、幸ニシテ其船ヲ破リ錢ヲ奪ヒ、他錢ヲ禁ジ鐚錢ト云、ソレヨリ永錢一文ニ鐚四文ニ換フ、ユヱニ金一兩ヲ永一貫文ト易ヘ、鐚四貫文ト易フ、金一歩ハ鐚一貫文ナリ、コノ一貫文ヲ百疋トシ、百文ヲ十疋トス、ユヱニ古法料足百疋・二百疋ト云、今ハ一歩ヲ百疋ニ限ルヤウニウツリタルナリ、サテ此永一貫文ニ金一兩ヲカヘ、又仙臺ニテハソノ時米五石ヲ易フ、關東ニテハ米二石五斗ヲ易フ、ユヱニ關東ハ百石ノ知行ヲ二十貫文トシ、仙臺ニテハ十貫文トス、コレ物成ノ代錢ヲ以テ云ナリ、西國ニハ永一貫文ト鐚四貫文ト交易ノ法アルコトヲキカズ、シカレバミナ鐚錢ノミナル時ハ永ノ法ナシ、又米價モ東國ヨリハ高直ナルベケレバ、百貫文ハ百石ニシテ、三貫文ハ三石ナラン、コレヲ以テミレバ、土佐ノ小作一石分・七斗五升分・二斗五升分ナルベシ、小作ニシテカカルモノナラン、シカル時ハ毛利元就ノ初三千貫文モ西國ノ法百石百貫ナラザレバ、關東ニナラヒテ百石八十貫ナルベシ、多キチアラソハザルナリ、コノ法ヲ以テスレバ、元就ノ元地モ三千七百五十石ナリ三千石ニシテ、三千石ヨリシテ十州ノ大守トナレバ、珍ラシキコトナリ、シカレバミナ鐚錢ニナホシテ見レバ、西國ノ百石百貫文ニシテ、一石ノ價銀三十匁ニ當ル、關東ノ百石ハ八十貫文ニシテ、一石ノ價二十四匁ニ當ル、仙臺ノ百石ハ四十貫文ニシテ、一石ノ價十二匁ニ當ル、當時大テイ江戶相場兩ニ一石ナレバ、仙臺ハ二石ナリ、西國ハ一石二三斗トナル、コレハ今ノ江戶ノ繁昌ニテ、

高價ニナリタルナリ、コレヲ以テ考フベシ、貫定ノ法ハ通法ニアラザルナリ、武家系圖相模入道高時ノ下ニ曰、領地二十八萬七千貫ニアタル當代知行百四十三萬五千石ト、コレ五段ヲ一貫文トシタルモノ也ト、俗說辨ニイヘドモ、百石二十貫ノ錢ハ永樂錢ナリ、高時滅亡ヨリ明ノ永樂三年迄七十年ナレバ、永樂錢イマダ出ズ、又此時ノ金銀米穀ノ互市ノ價シルベカラズ、貫定ノコトハ論ジガタシ、ソノ上高時名ハ執權ナリト雖、率土ノ濱ミナソノ有ナレバ知行ノコトハ是ニ限ルベカラズ、百四十三萬石多シトスベカラズ、又少シトスベカラズ、コノ時マデ天下ニ諸侯ナシ、一人ニテ一國二國ヲ領シタルハ、足利以後ノコトナレバ、亦據トスベキナシ、然ルニ知行ノコト、上ニハ段歩ヲ以テスル時ハ、經界正シト云ヘドモ、上中下田畠ノ差別アリ、中ハ貫定ナレバ、ソノ價ノ貴賤ヲ以テシテ分別シガタシ、下ハスベテ田畠物成高ヲ以テシ、ソノ內ニテ公民二ツニ分ツコトナレバ、後世夸張ノ風ニ相應ト云べシ、陽ハ一萬石ニシテ、陰ニハ四千石ナレバナリ、太古國々ニ國造アリシヨリシテ、中世ニ至ルマデハ、大テイニ稻何束、穀何斛、絹何疋、綿布屯、何反ヲ給スルコト多シ、（荒木村重屬托シテ曰、和田伊賀守ヲ討トルモノニハ、呉服臺五百貫ノ地ヲ與ヘント、クレハダイハ今ノ池田ナリ、コレ五百石ナルベシ）ソノ後本田何町位田職田等ノコトアリ、今世ニ至リテハミナ石數ナリ、奧州貫定ト云モ、今一貫ノ税四石五石トスレバ、コレ亦一貫ハ十石ノ異名ノ如クニナリタル也、徂徠「可成談」ノ論說ハ大杜撰論ニタラズ

二十七 足利十代公方義植公（初義材 後義尹）ニ阿波ニ蟄居ス、京都ニハ義澄公ヲトリ立テ公方トス、コレヨリ

義植公ハ阿波平島ニアリテ、島ノ公方ト云、隣邑二三千石ノ地コレニ給ス、天正十三年蜂須賀家入國アリト云ドモ、公方家ノ子孫ナルヲ以テ、ヨクコレヲ尊敬接待ス、代々シカリシニ、明和・安永ノコロ太守不敬ニシテ臣僕トセントス、當公方稱ハ又太郎、諱ハ義根、公大ニ怒リ確執スルコト數十年、文化元年ツヒニ阿波ヲ去リテ、畿內ニ至リ流浪ス、哀シムベキ哉、コノ公人トナリ、文雅溫厚ニシテヨク人ニ待ス、嘗テ寛政二年戌九月京都ニ入ラントス、浪華ヲ過リ竹山先生ノ講堂ニ謁ス、ソノ日會スルモノ赤島源助・尾崎良佐・及ソノ餘門弟皆至ル、余モ亦ソノ席ニ侍ス、ユヱニ賦シテ呈ズ、ソノ詩

竹山先生席上恭賦奉呈平島館主源公執事

公孫文物豈虛名、一夕偶然臨二府城一、坐列樞レ衣三碩老、（中井・赤崎・尾藤三先生）趨陪執レ飮一狂生、舊新郁々芝蘭契、出處紛々水石盟、劒佩從容難二得侍一、龍門風雨李家情」コノ詩ヲ奉リケレバ和歌ヲ賜フ

誰道南山豹隱名、思レ人千里傍二金城一、含レ盃坐上春還動、掃レ紙毫端花欲レ生、聚レ首時忘塵世苦、披レ襟且喜藝林盟、新知休レ笑無二賓禮一、酣醉放歌白野情

右竹山先生席上用二原韵一和二長谷川子厚見一レ贈　栖龍義根

カヽルコトモアリシニ、當事ノアリサマ思察シテ憐ヲ催スコトナリ、何ントカ身ヲ寄ラルヽ術モガナト思ハベリヌ

予嚮に夢の代を述て小兒輩にあたふ、夫より二十年の間打捨置しが、內十年餘は塵事打つゞいて空しく止ぬ、殊に文化の比より眼病にかゝりて、遂に明を失ふことゝに八年ゆゑに、無事終に果さず、然るに去年來病におかされ、春來は命も絕なんとす、然るに此書の旨やむにちかし、誰にか託して世に行はん、ゆゑに病をおかして附錄を作る

天地之間は唯これ天、地は唯これ地にして交るものにあらず、然れども其交る所大きに齟齬す、地は一塊りのものにあらず、所々散在するものなり、昔は天の圖せまく、大星を外にしたるゆゑなり、今は天の圖濶し、大星を皆取入れたるゆゑなり、天地の圖解には一の卷に委しくしるす、ゆゑにここに略しぬ、大學序に、朱子曰、伏羲・神農・黃帝・堯・舜天につぎ極をたてし所にして、後世のよくおよぶ所にあらざるなり、天地の間丸きものは丸し、長きものはながし、四角にても、六角にても、出來しだいなるべし、ゆゑに大體の間所々充滿して、或は有り或はなし、つまりたる事なきものなり、國々の法度有りて、神祇釋敎戀無常さまざまありといへども、天罸天賞はけつしてなきことなり、書經。詩經にも共ほか諸書に所謂天の見る、わが民によつて見る、天の聞、わが民によつてきく等なり、この類左傳に多し、その外皆々聖人民を敎ゆる方便にて、天に歸したるものなり、是等の事は佛の方便とは大いに違ふなり、唯これ天下公のいたす所にて私にあらざるを知べし、然れば天地の間に賞も罸もなきことにて、天地の間ゆきながれ、川ながれのやうなるものと思ふべし、さすれば一向に賞罸正

しからざるなり、これこそ天心のうごかざる所、何ぞ夫神佛は知る所ならん天下の教法、西洋切支丹、天竺佛法は釋氏の法にて、今知る所佛なり、此法は大抵人の見聞する所、幷に日本の神道同事なり、其外國々にさま〳〵法有りて、勝て論ずべからず、元來天下に一定の法なきことなり、何ぞ法を以て約することあらん、天のこう〳〵たる、あに人の法をたつるをまたんや、如レ此夫れくだ〳〵しからざるなり

采覽異言曰、支那亦一種の法有り、こうふうししよと云、此法如レ存如レ亡、すでに其國中に不レ行してすべて韃靼の有となる、其不レ行を知べし、是は未だ唐土の教法を知ずして云なり、吾思ふに、天下教法さま〳〵ありといへども、儒にしくはなし、君々たり臣々たり、父々たり、子々たり、是をのぞきて何をか求めん

芳秀記

歌に死したる跡にて

地獄なし極樂もなし我もなし

たゞ有物は人と萬物

又

神佛化物もなし世の中に

奇妙不思議の事はなをなし

文政三中秋

播陽山片芳秀輯

男山片芳達

山本義道稿

近藤秀實

夢之代巻之十二 大尾

宮崎幸麿
小西武治
校

大正五年六月二十四日印刷
大正五年六月二十七日發行

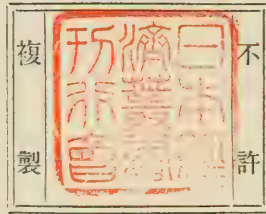
日本經濟叢書
卷二十五
非賣品

不許複製

編者　瀧本誠一

發行者　佐藤卯兵衛
東京市神田區駿河臺鈴木町拾六番地

印刷者　中田福三郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發行所　東京神田區駿河臺鈴木町拾六番地
日本經濟叢書刊行會
電話本局三一八五番
振替口座東京二六八一〇番

理事　高木範之丞
佐藤卯兵衛

CONTENTS

of the twenty-fifth volume

BIBLIOTHECA
JAPONICA
ŒCONOMIÆ POLITICÆ

VOL. XXV

TŌKIŌ
NIHON KEIZAI SŌSHO
KANKŌKWAI

1916.